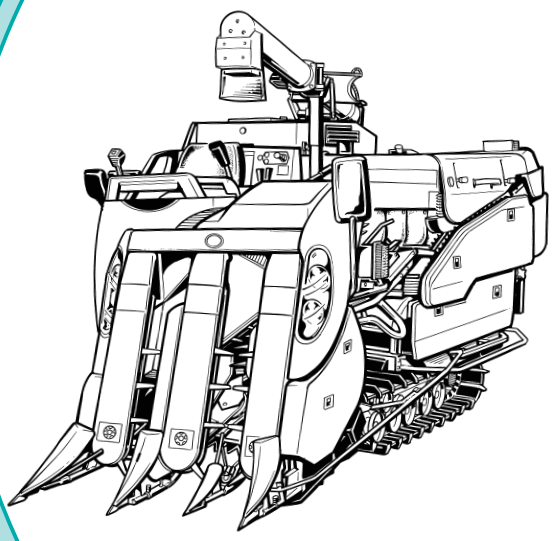
クボタコンバイン

取扱説明書

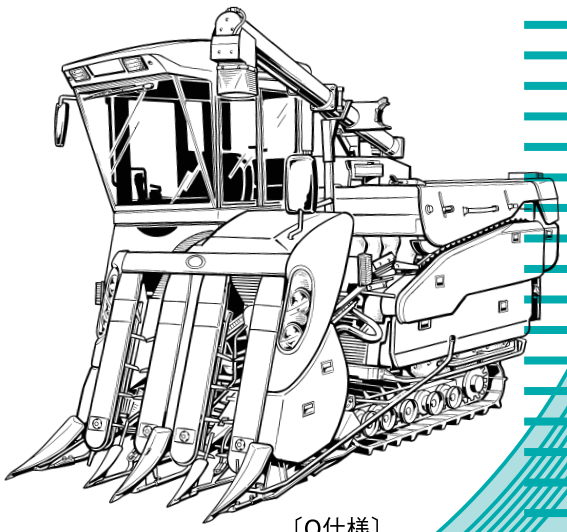
エアロスター

ARN 327・331・338



1ARADBEAP0010

ARN 433・438・445



〔Q仕様〕

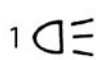
1ARADBEAP0020

Operator's Manual

ご使用前に必ずお読みください
いつまでも大切に保管してください

操作装置のシンボルマーク

運転操作及び保守管理のために，操作装置のシンボルマークが使用されています。シンボルマークの意味は下記のとおりですので良く理解して戴き誤操作のないようご注意ください。

	ホーン
	エンジン回転数**［低回転］**
	エンジン回転数**［高回転］**
	ウインカランプ
	ヘッドランプ
	ヘッドランプと作業灯

	エンジン停止
	駐車ブレーキ
	燃料
	水温
	エンジン油圧
	バッテリ充電

専門用語の説明

• **予熱**	エンジンの始動を容易にするためにエンジンをあたためること
• **SF ワンレバー**	機体の操向操作と刈取部の昇降を行なうレバー
• **ブレーキターン**	左右どちらかのクローラを停止させて方向を変える旋回
• **ソフトターン**	左右のクローラの回転差で方向を変える旋回
• **超音波センサ**	非接触で刈取部の高さを検出するセンサ
• **デバイダ**	こくかんを分けすくい上げる部分
• **ドレーン（プラグ）**	エンジンオイル・トランスミッションオイルの排油栓，ラジエータの水を抜く栓
• **刈取一方クラッチ**	前進のときに刈取部を駆動し，後進のとき刈取部の駆動を断つ部品
• **HST**	油圧式の無段変速装置
• **アジャスト**	調節を意味する
• **主変速レバー**	**[前進]**[**後進**]の切換え及びそのスピードをコントロールするレバー
• **１番スクリュ**	精選されたこく粒を横搬送するスクリュコンベア
• **２番スクリュ**	粗選されたこく粒やわらくずを横搬送するスクリュコンベア
• **チャフシーブ**	こく粒を粗選する桟状の板
• **トウミ**	選別風を発生させるファン
• **グレンシーブ**	こく粒を精選するあみ体
• **送じん調節レバー**	こぎ胴内の作物移動速度を調節するレバー
• **排じん調節**	選別されたわらくずの排出に抵抗をかける板
• **こぎ胴**	脱こくするドラム
• **フィードチェーン**	稲を挟持搬送するチェーンコンベア
• **縦スクリュ**	精選されたこく粒を縦搬送するスクリュコンベア
• **こぎ胴オープン**	こぎ胴を上に上げる機構
• **揺動板（シーブケース）**	揺動運動してこく粒を選別する装置
• **アンローダ**	グレンタンクからもみを排出する筒

はじめに

このたびはクボタ製品をお買上げいただきありがとうございました。
この取扱説明書は本製品の正しい取扱い方法，簡単な点検及び手入れについて説明しています。ご使用前によくお読みいただいてじゅうぶん理解され，お買上げの製品がすぐれた性能を発揮し，かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。また，お読みになったあとも製品に近接して保存し，わからないことがあったときには取出してお読みください。なお，品質・性能向上あるいは安全上，使用部品の変更を行なうことがあります。その際には，お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので，あらかじめご了承ください。

⚠ 安全第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた⚠の表示があるラベルは，人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお，⚠表示ラベルが汚損したり，はがれた場合はお買上げの購入先に注文し，必ず所定の位置に貼ってください。

注意表示について

本取扱説明書では，特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について，次のように表示しています。

⚠ 危険	注意事項を守らないと，死亡又は重傷を負うことになるものを示します。
⚠ 警告	注意事項を守らないと，死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠ 注意	注意事項を守らないと，ケガを負うおそれのあるものを示します。
重要	注意事項を守らないと，機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。
補足	その他，使用上役立つ補足説明を示します。

本製品の使用目的について

本製品は，稲・麦の刈取り･収穫用の作業機としてご使用ください。
使用目的以外の作業や改造はしないでください。
使用目的以外の作業や改造をした場合は，保証の対象になりませんのでご注意ください。（詳細は保証書をご覧ください。）

仕様について

この取扱説明書では，仕様の異なる製品を下記のように表示していますので，お買上げの製品の仕様をお確かめのうえ，お間違いのないようお願いいたします。
なお，説明は［ARN445SD 仕様］を基本とし，［ARN445SD 仕様］と取扱いが異なる場合はそのつど追加説明してあります。従って，機種及び仕様区分によっては付いていない装置の説明もあります。

【例】　ARN445 SD 4W Q W2
①　②　③　④　⑤

①刈取り条数・
エンジン出力によって...
- [327]（３条）刈り・27PS
- [331]（３条）刈り・31PS
- [338]（３条）刈り・38PS
- [433]（４条）刈り・33PS
- [438]（４条）刈り・38PS
- [445]（４条）刈り・45PS

②諸装置の仕様によって...（別表参照）
- [DX 仕様]（デラックス）
- [SD 仕様]（スーパーデラックス）

③自動車体水平制御装置によって.....
- [M 仕様]（ニューマジカルモンロー）
- [4M 仕様]（4PC モンロー）

④キャビン付き..... [Q 仕様]

⑤クローラによって
- ･430 幅ワイドロングクローラ ..... [W 仕様]
- ･470 幅ワイドロングクローラ ..... [W2 仕様]

諸装置		DX	SD	備考
自動化装置	自動車速制御	ー	○	
	自動こぎ深さ制御	○	○	
	刈取オートクラッチ［刈取部上昇時搬送駆動停止機能］	ー	○	
	自動脱こく制御	ー	○	
	アンローダ自動旋回制御	○	○	
	エンジン逆流ファン制御	○	○	[338･438･445]
刈取オープン		○	○	
方向・刈高微調整スイッチ		ー	○	
バイブロシャッタ		ー	○	手動
パワークラッチ［刈取］		ー	○	電動
集中注油		○［刈取部のみ］	○	電動
刈取防じんカバー		△	○	[Q仕様除く]
キャビン		○	○	[338･438･445]

○:標準装備　ー:非装備(後付け不可)　△:オプション(後付け可)

目　次

⚠ 安全に作業するために

1. 安全作業をするため次のことがらを必ず守ってください 1
2. 安全作業するための表示ラベル 25
表示ラベルの内容・貼付位置 25
3. 表示ラベルの手入れ 38
表示ラベルをよく読み理解して，安全注意事項を守る 38

サービスと保証について

小型特殊自動車について

装置の名称と取扱い

機体方向説明 5
装置の名称と各部のはたらき 6
メインスイッチ 11
アクセルレバー 11
主変速レバー・副変速レバー 12
車体旋回モード切換えスイッチ 12
ブレーキペダル（駐車ブレーキ） 13
SF ワンレバー 13
方向微調整スイッチ・刈高微調整スイッチ 14
運転席（シート） 15
刈取下降ロック装置 16
脱こくクラッチレバー 17
刈取クラッチレバー 17
脱こく・刈取クラッチレバー 17
引起し変速レバー 17
刈取りかき込みペダル 18
エンジン停止スイッチ 18
トウミ調節レバー 19
チャフ調節レバー 19
もみ排出クラッチレバー 20
もみ排出スイッチ 20
バイブロレバー 21
メータユニット 21
エアロナビ 23
コンビネーションスイッチ・ホーンスイッチ 27

自動化装置の名称と取扱い

装置の名称と各部のはたらき 29
自動車速制御装置 31
自動車体水平制御装置（モンロー） 31
自動車体水平制御装置（4PC モンロー） 33
水平操作レバー 36
自動こぎ深さ制御装置 36
手動こぎ深さスイッチ 37
刈取オートクラッチ 39
自動脱こく制御装置 39
アンローダ自動旋回制御装置 41
アンローダレバー 42

キャビン装置の名称と取扱い［Q 仕様］

装置の名称 43
各装置の取扱い 44
ドアの開閉・ロックのしかた 44
各ウインドの開閉のしかた 45
ワイパの使いかた 46
作業灯スイッチ 46
ルームランプの使いかた 46
ドリンクホルダの使いかた 47
エアコンの取扱い 47
コントロールパネル 47
内外気切換えツマミ 49
エアコン冷暖房のしかた 49
AM/FM ラジオ付きカセットプレーヤの取扱い 50
共通部の操作のしかた 50
ラジオの操作のしかた 51
カセットの操作のしかた 53
外部入力端子について 54
故障・修理問い合わせ 54
取扱い上の注意 55

運転前の点検

日常点検項目 58

移動走行と輸送

新車時の扱いかた 60
ならし運転について 60
エンジンの始動と停止のしかた 60
始動のしかた 60
停止のしかた 64
移動走行について 65
走行前の準備 65
発進のしかた 69
旋回のしかた 72
停車･駐車のしかた 72
道路走行について 73
輸送について 74
トラックとあゆみ板の準備 74
コンバインの準備 74
コンバインの積込み･積降しのしかた 75
トラック上での処置 76

収穫作業のしかた

作物とほ場の条件 78

目　次

作物の条件 78
ほ場の条件 78
ほ場の準備 79
ほ場の準備 79
コンバインの準備 79
準備のしかた 79
アンローダの折りたたみ・伸ばしかた 86
刈取作業のしかた 89
ほ場の出入りのしかた 89
刈取作業の手順 90
ほ場の刈りかたと旋回のしかた 95
湿田作業のしかた 99
作物に合わせた変速の選びかた 99
もみの排出のしかた 100
手刈り（枕刈り）脱こくのしかた 107
作業に合わせた各部の調整･調節のしかた 109
デバイダの調整 109
引起し爪高さの調整 111
刈刃の高さ調節 112
右穂先チェーン爪ガイドの調整 113
短かん調節 113
脱こく状態に合わせた調節・調整 116
メータユニットによる異常と処置 119
エアロナビによる異常と処置 122
エアロナビによる故障と処置 126

メンテナンス

各部のオープン（開閉）と脱着のしかた 130
エンジンルームオープン 130
防じんカバーオープン 131
運転席下カバーの脱着 132
こぎ胴オープン 132
刈取オープン 134
カッタオープン 140
シーブケースの脱着 141
受あみの脱着 148
引起しサイドカバー右・左の脱着 148
引起しカバーの脱着 148
カッタ左サイドカバー前及びカッタ左サイドカバー後の脱着 149
排わら切換えカバーのオープン 150
グレンタンクオープン 150
各部の掃除と注油のしかた 152
各部の掃除 152
各部の注油 156
定期点検 168
オイル･フィルタ類の交換とチェーン･ベルト･クローラの張り調整 169
廃棄物の処理について 169
洗車時の注意 170
使用者が行なってはいけない修理 170
定期点検一覧表 171
給･注油（水）点検一覧表 175
燃料･オイル･グリースの点検･補給･交換 . 177
燃料 177
エンジンオイル 178
トランスミッションケースオイル 180
油圧オイルタンクオイル 181
フィードチェーン駆動ケースオイル 182
こぎ胴駆動ケースオイル 182
各部のグリース 183
ラジエータ冷却水の点検・交換 185
エアクリーナの点検･掃除･交換 187
パイプ･ホース類の点検･交換 189
防じんあみ，ラジエータフィンの掃除・オイルクーラフィンの掃除・コンデンサフィンの掃除 190
フューエルフィルタエレメントの掃除，フューエルフィルタカートリッジ・フィルタエレメントの交換 191
エンジンオイルフィルタカートリッジの交換 193
HST オイルフィルタカートリッジの交換・油圧オイルフィルタの洗浄・交換 194
各部ワイヤの点検・調整 195
駐車ブレーキワイヤ 195
リリーフワイヤ 196
排わら切換えワイヤ 196
排わらレール 198
各部ベルトの点検･調整 200
ファン駆動ベルト 204
ミッション駆動ベルト 204
刈取駆動ベルト 205
脱こく駆動ベルト 206
コンプレッサ駆動ベルト 206
補助搬送（突起付）ベルト 207
こぎ胴ケース駆動ベルト 208
こぎ胴駆動ベルト 208
2 番・チェーン駆動ベルト 209
揺動・1 番駆動ベルト 209
カッタ駆動ベルト 209
タンク駆動ケース駆動ベルト 210
スクリュ駆動ベルト 210
各部チェーンの点検･調整 211
引起しチェーン 212
右穂先チェーン・左穂先チェーン 213
左株元チェーン・右株元チェーン 214
株元供給チェーン 216
供給サポートチェーン 217
供給サポートチェーン駆動チェーン 217
こぎ深さチェーン 218
フィードチェーン 218
排わら穂先チェーン 218
排わら入力チェーン 219
刈刃の点検・調整 219
こぎ歯の点検･交換 222
わら切刃の点検･交換 223
カッタ部の点検･増締め 226
カッタ刃の交換 228
キャビン内気・外気フィルタの掃除・交換 233

冷媒（ガス）量の点検 234
吐出口ブーツの点検･交換 234
バッテリの点検･交換 235
電気の各配線コード･各ヒューズの点検･交換 239
ランプ（電球）の点検･交換・ホーンスイッチの点検 244
反射器の点検・交換 245
車幅灯ラベルの点検･交換 245
クローラの点検･調整 246
トラッククローラ（転輪）の点検 247
刈取作業後の手入れ 248
毎日の作業後 248
長期格納時 248

コンバインの不調と処置

わらが詰まる 250
自動エンジン停止装置がはたらいたとき . 250
わら詰まりの取除きかた（左，右株元チェーン合流部） 253
もみが詰まる 253
アンローダからもみが排出されないとき . 253

付表

主要諸元 254
付属部品 262
オプション（別売品）（純正品を使いましょう） 262
自動集中注油装置 262
湿田用泥玉防止スクレーパ 262
自動方向制御装置 262
自動刈高さ制御装置 262
前分草ガイド 262
刈取スタンド 263
刈取り防じんカバー 263
スイスイデバイダ 263
アンローダリモコン 263
作業灯ランプ 263
アンローダリモコン・パワークラッチ . . . 263
グレンタンク中間モミセンサ 263
延長アンローダ 263
キャノピ 263
種子用交換部品 263
カッタ後部標準結束機 264
カッタ後部ストンパ結束機 264
カッタ後部ドロッパ 264
シュータ式拡散装置 264
50/150mm 切断長切換えカッタ 264
消耗部品（純正部品を使いましょう） . . . 265
クボタ純オイル 281
オイルはクボタ純オイルをお使いください。 281
クボタスペアグリース 281

⚠ 安全に作業するために　　必ず読んでください

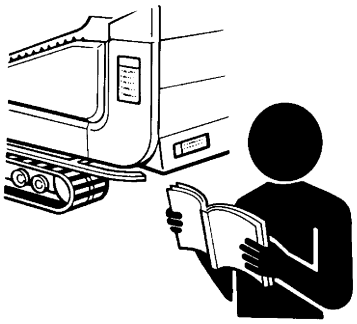
本機をご使用になる前に，必ずこの『取扱説明書』をよく読み理解した上で，安全な作業をしてください。安全に作業をしていただくため，ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが，これ以外にも，本文の中で⚠危険・⚠警告・⚠注意・重要・補足としてそのつど取上げています。

1. 安全作業をするため次のことがらを必ず守ってください

◆ 一般的な注意事項

⚠取扱説明書及び機械に貼付けている⚠表示ラベルをよく読み，正しい運転，作業方法を覚える。

- 本書記載事項以外についても，安全には細心の注意を払ってください。警告ラベルはいつもきれいにしておいてください。



1BBAAAAAP0280

[守らないと]
死亡又は傷害を負うおそれがあります。

⚠体の状態が悪いときには運転操作をしない。

- 運転操作には的確な判断が必要です。下記状態の方は，機械の運転操作を行なわないでください。
  ・お酒を飲んでる方　・睡眠不足の方
  ・妊娠中のご婦人　　・過労，病気の方
  ・16 歳未満の方



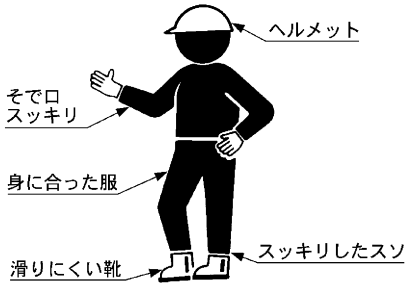
1ARAEABAP0420

[守らないと]
思わぬ事故の原因になります。

⚠運転者，補助者とも作業に適した服を着用する。

- だぶついた服は着用しない。
- そで口はきっちりと止める。
- はち巻き，首巻き，腰タオルは着用しない。
- サンダル，スリッパなどの履物は着用しない。

[守らないと]
レバーや作動部に引っかかったり，滑ったりして，傷害を負うおそれがあります。



1ARAEABAP0450

⚠取扱説明書及び⚠表示ラベルの内容が理解できない人や子供には絶対運転させない。

- 機械を他人に貸すとき，運転させるときは，取扱説明書を読ませるとともに，取扱方法や安全な使いかたを説明して，安全な作業ができるよう指導する。

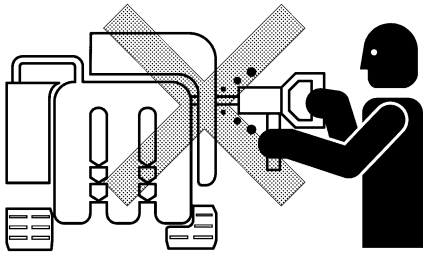
[守らないと]
死亡又は傷害をまねくおそれがあります。



1AAACAAAP008A

⚠機械を改造しない。

[守らないと]
安全性をそこない，思わぬ事故の原因になります。


1ARABAHAP0040

⚠運転者以外は機械に乗らない。

- 動いている機械に飛び乗ったり，飛び降りたりしない。

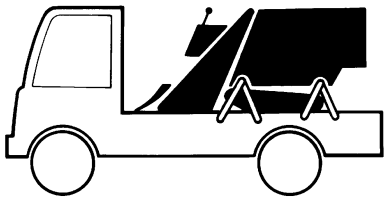
[守らないと]
振り落とされたり，ひかれたりして，死亡又は傷害を負うおそれがあります。


1ASABAAAP3730

⚠公道を走行するときは交通法規や安全ルールを守る。

- 公道を走行する場合は, 所定の手続きと運転免許証が必要です。
- 公道を走行できない機械は，トラックで運搬する。

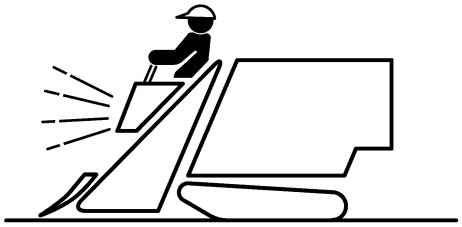
[守らないと]
交通事故をまねき，死亡又は傷害を負うおそれがあります。


1ARAEABAP0440

⚠夜間の作業や移動走行は避ける。

- やむをえず夜間作業を行なうときは, ヘッドランプや作業灯を必ず点灯する。
- やむをえず夜間に移動走行するときは, 必ずヘッドランプを点灯し，作業灯は消灯させる。

[守らないと]
交通事故や転倒・転落をまねき，死亡又は傷害を負うおそれがあります。


1ARAEAAAP1260

◆ 作業前の注意事項

⚠屋内で運転するときは，排気ガスに注意して適切な換気をする。

- 排気管を屋外に延長するか，ドアや窓を開け外気がじゅうぶん入るようにする。

[守らないと]
エンジンの排気ガスは有毒です。中毒を起こし死亡事故にいたるおそれがあります。


1ARAEAAAP0560

⚠燃料補給中は火気厳禁。くわえタバコや裸火照明は近づけない。

- 燃料補給するときはエンジンを必ず止めて，キーを抜く。
- 燃料やオイルをこぼしたときは，きれいにふきとる。

[守らないと]
火災の原因になります。

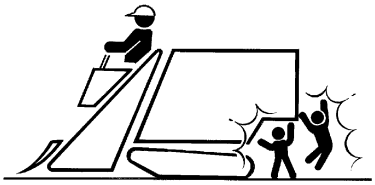


1AAACAAAP001A

⚠機械を動かすときは周囲の安全に気をつける。

- **エンジンを始動するときは，運転席に座って，主変速レバーを［停止］位置，副変速レバーを［N］（中立）位置にし，脱こく・刈取クラッチレバーを［切］位置にして，ホーンを鳴らすなどの合図をする。**
- **機械を発進するときや脱こく・刈取クラッチレバーを入れるときは，ホーンを鳴らすなど合図してから行なう。**

[守らないと]
回転物に巻込まれたり，挟まれて重大な傷害を負うおそれがあります。


1ARAEAAAP0780

- **初めて運転する人は，操作になれるまで低速で運転する。**

[守らないと]
思わぬ事故の原因となります。


1ARAEABAP0580

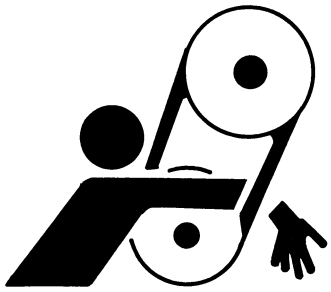
⚠作業前点検（日常点検）を実施する。

■ 運転の前には点検項目（58 ページ参照）の点検を行なう。異常があれば整備してから運転する。


1ARAEABAP0460

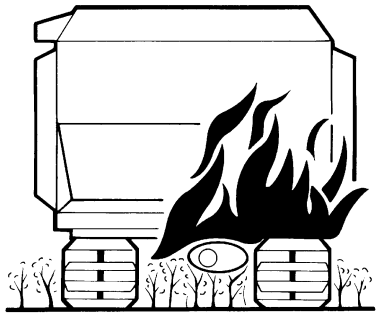
[守らないと]
整備不良による事故で傷害を負うおそれがあります。

■ 点検・整備・掃除・給油するときは，エンジンを必ず止めて，キーを抜く。
■ 取外した安全カバー，保護カバーは必ずもとどおりに取付けて作業する。


1AAAAABAP0180

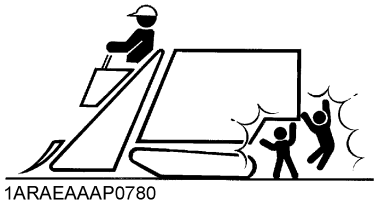
[守らないと]
回動部に巻込まれて傷害を負うおそれがあります。

■ マフラ周辺部，ベルトカバー内，バッテリ周辺にたまっているわらくずはきれいに取除く。


1ARAEABAP0600

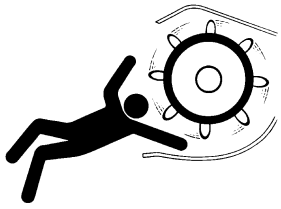
[守らないと]
火災の原因になります。

■ 点検整備中及び作業中は機械に子供を近づけない。


1ARAEAAAP0780

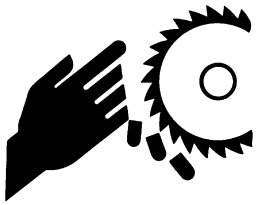
[守らないと]
回転物に巻込まれたり，挟まれて重大な傷害を負うおそれがあります。

⚠こぎ胴，カッタ，結束機，防じんカバー，グレンタンクをオープンするときは，エンジンを必ず止めて，キーを抜く。



1ASAAAAAP4430

- 各部のオープンは平たんな場所で行なう。
- こぎ胴，カッタ，結束機をオープンしたときは，ストッパを掛ける。
- オープンしたままエンジンを始動しない。

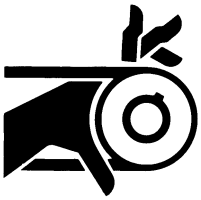


1ARAEABAP0550

[守らないと]
内部の回転物に接触したり，巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。



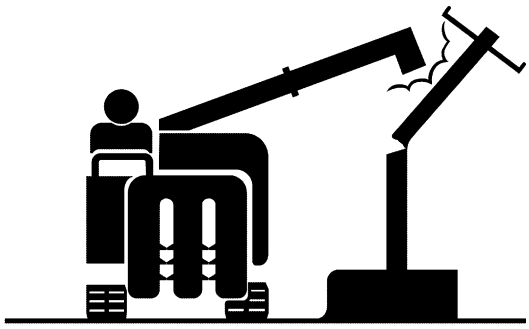
1ASAAAAAP4280



1ARAEAAAP0460

◆ 移動走行・ほ場の出入り・駐車時の注意事項

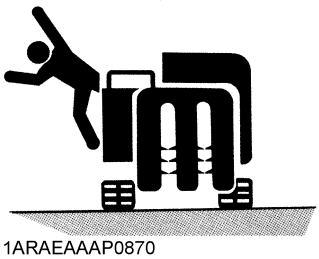
⚠移動走行するときは，次の事項を守る。


1ARADAFAP3120

- 各作業クラッチを**［切］**（脱こく，刈取クラッチ，もみ排出）位置にし，運転者以外に人を乗せない。
- もみはすべて排出する。
- 副変速レバーを切換えるときは，平坦な場所で主変速レバーを**［停止］**位置にし，走行をいったん止めてから行なう。
- 刈取部のデバイダ先端にはデバイダカバーを取付ける。
- 左補助デッキ，左分草かん前・後を収納して，機体幅を狭くする。
- アンローダを下げ，アンローダを折りたたんでアンローダ支えに収納してバンドを掛ける。
- 自動車体水平制御は，機体を一番下げた状態にする。
- 車体旋回モード切換えスイッチを，**［ソフトターン］**位置に入れる。

［守らないと］
人や物を傷つけたり，機体のバランスをくずして転倒するおそれがあります。

⚠高速走行時は急旋回をしない。


1ARAEAAAP0870

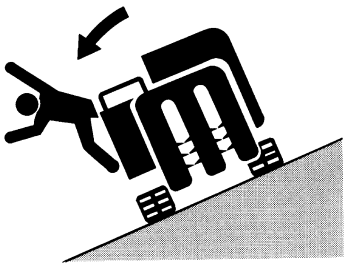
- 方向を変えるときは，走行速度を落として（低速にして），SF ワンレバーをゆっくり倒して旋回する。

［守らないと］
機械から振り落とされたり，転倒するおそれがあります。

⚠坂道（傾斜地）では走行速度を落とす。

- 坂道（傾斜地）では，SF ワンレバー，副変速レバー，ブレーキペダル，かき込みペダルを操作しない。
- 坂道（傾斜地）では，斜め走行や旋回はしない。

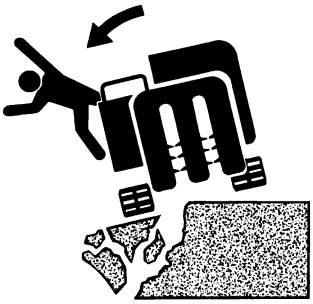
[守らないと]
暴走したり，転倒するおそれがあります。


1ARAEAAAP0860

⚠道幅に余裕がなく高所にある道路（土手）は，走行しない。

- 溝のある農道や，両側が傾斜している農道は路肩に注意する。
- 溝，穴，土手の近くは走行しない。
- 水溜まりや草のおい茂ったところなど，地面のよく見えないときは，事前に降車してよく確かめる。

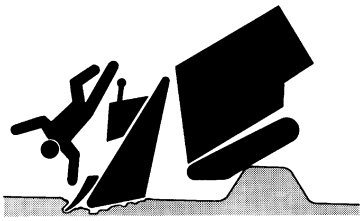
[守らないと]
機体のバランスをくずして転倒・転落するおそれがあります。


1ARAEABAP0500

⚠ほ場の出入りで，段差のあるところではあゆみ板を使う。

- 10cm以上の段差のあるところでは，段差の４倍以上の長さで基準に合ったあゆみ板を使う。
- あゆみ板は段差に直角に置く。
- もみはすべて排出する。

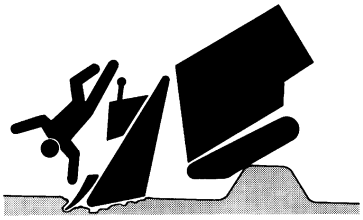
[守らないと]
機体のバランスをくずして転倒するおそれがあります。


1ASABAAAP3710

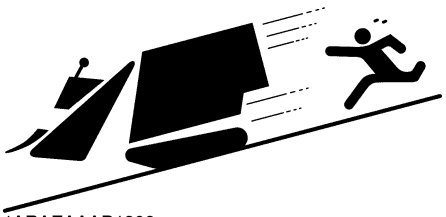
⚠あぜの乗り越えは低速で直角に進入する。

- 10cm 以上のあぜ，又はコンクリートのあぜは，段差の４倍以上の長さで基準に合ったあゆみ板を使う。
- もみはすべて排出する。

[守らないと]
機体のバランスをくずして転倒するおそれがあります。


1ASABAAAP3710

⚠駐車するときや運転席を離れるときは，平たんな場所に止め，副変速レバーを［標準］又は，［倒伏・ぬれ］位置にし，駐車ブレーキを掛け，刈取部を地面に当たるまで降ろして，エンジンを必ず止めて，キーを抜く。


1ARAEAAAP1290

- やむをえず坂道（傾斜地）で駐車するときは，さらに木片などで確実に車止めをする。

［守らないと］
機械が暴走し，思わぬ事故のおそれがあります。

◆ 作業時の注意事項

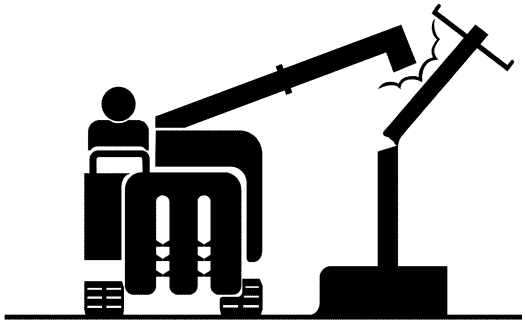
⚠共同作業するときは，ホーンなどで合図を行なう。


1ARAEABAP0580

- エンジン始動時, 及び各作業のクラッチやスイッチを入れるときは, ホーンなどで合図し, 必ず補助者の OK をもらう。
- 補助者が機械に近づくときは, 運転者に知らせることを徹底させる。

[守らないと]
補助者は運転席からみえにくい位置にいることがあり，思わぬ事故を起こすおそれがあります。

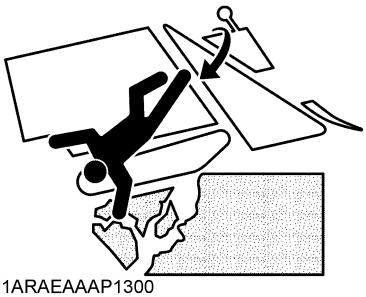
⚠アンローダを動かすときは, 旋回範囲に人や障害物がないことを確認する。


1ARADAFAP3120

- 旋回範囲に人がいたり，障害物があるときは，アンローダを動かさない。
- 折りたたみ式のアンローダを伸ばして作業するときは，周囲に人や障害物がないことを確認する。
- アンローダは, アンローダ支えに収納した状態で作業を行なう。

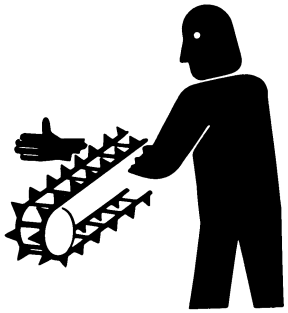
[守らないと]
人や物を傷つけたり，機体のバランスをくずして転倒するおそれがあります。

⚠すみ刈りを行なうときは後方をじゅうぶん確認する。


1ARAEAAAP1300

[守らないと]
後退し過ぎると，転倒・転落するおそれがあります。

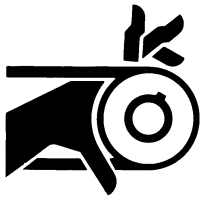
⚠手こぎ作業するときは，手や腕の位置を必ずチェーンの外側にして，少量ずつ供給する。


1ARAEABAP0570

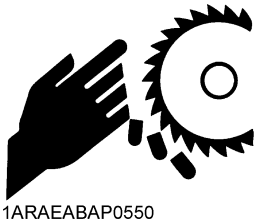
- 機械は平たんな場所に止めて，刈取部を止め，駐車ブレーキを掛ける。
- そで口はきっちり止めて，手袋・はち巻き・首巻き・腰タオルは着用しない。
- 自動車体水平制御は，機体を一番下げた状態にする。
- 刈取防じんカバー付きの機械は，刈取防じんカバーを開ける。
- 刈取クラッチを**[切]**にして，枕こぎプレートを上げた状態で，プレートの上にわらを乗せて手刈り脱こくを行なう。
- 脱こく部入り口にたまった，わらやもみなどを脱こく部に押込むときは，チェーンに手や腕が巻込まれないように，少量ずつ押し込む。

[守らないと]
チェーンに巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。

⚠異常に気づいたら，すぐエンジンを必ず止めて，キーを抜く。


1ARAEAAAP0460

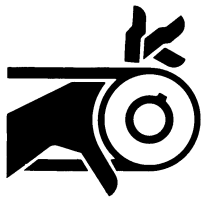
- わらの巻付きや詰まりを取除くときや，もみの点検・掃除をするときは，各作業クラッチ（脱こく，刈取，もみ排出）を**[切]**位置にし，エンジンを必ず止めて処置する。
- カッタに詰まったわらなどを取除くときは，厚手の手袋を着用して少しずつ取除く。
- 素手で刃先には触らない。


1ARAEABAP0550

[守らないと]
カッタ刃やチェーンなどの作動部に接触したり，巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。

⚠点検や掃除で外したカバーは，必ず取付けること。

- ベルトやチェーンのカバー, 及び掃除口や点検窓のカバーなどを外したままで運転しない。

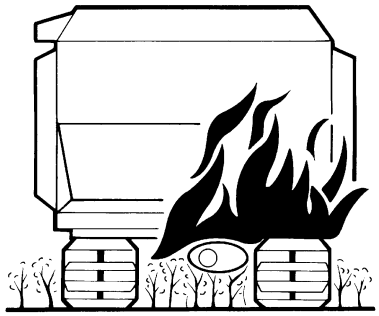

1ARAEAAAP0460

[守らないと]
内部の回転物に接触したり，巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。

◆ 作業後・格納時の注意事項

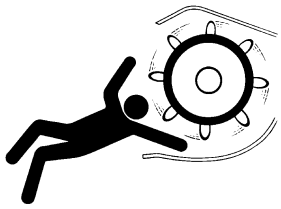
⚠わらくずや枯れた雑草の上に機械を止めない。

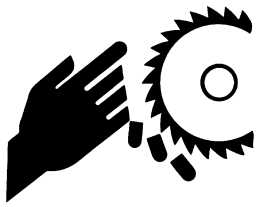
[守らないと]
わらくずや枯れた雑草は燃えやすく，火災が発生するおそれがあります。


1ARAEABAP0600

⚠点検・掃除する前に，エンジンを必ず止めて，キーを抜く。

[守らないと]
機械に巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。


1ASAAAAAP4430


1ARAEABAP0550


1ASAAAAAP4280


1ARAEAAAP0460

⚠点検・掃除は，エンジン停止後，各部が冷えてから行なう。

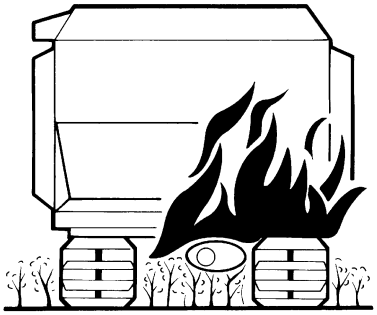
- エンジン本体，マフラ，排気管は，エンジン停止直後は触れない。

[守らないと]
やけどを負うおそれがあります。


1AKADACAP1390

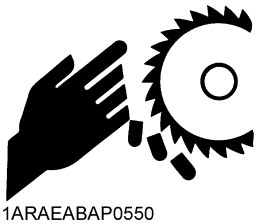
⚠エンジン本体，マフラ周辺，ベルトカバー内配線部，バッテリ周辺のわらくずを点検し，きれいに取除く。

[守らないと]
火災が発生するおそれがあります。


1ARAEABAP0600

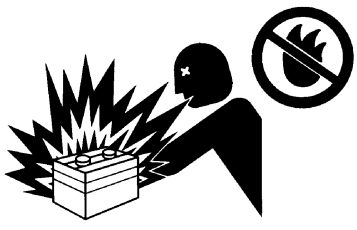
⚠掃除するときは，刈刃やカッタの刃先に触らない。

[守らないと]
刃先で傷害を負うおそれがあります。


1ARAEABAP0550

⚠バッテリの近くに裸火（マッチ，ライタ，タバコの火など）を近づけたり，バッテリケーブルをショートさせない。

[守らないと]
バッテリからは水素ガスの発生があり，引火爆発のおそれがあります。


1ARAEABAP0110

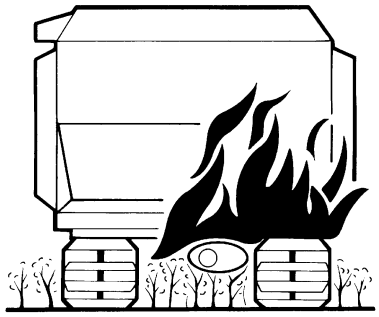
⚠ワイヤハーネスやバッテリコードなど電気配線に被覆の破れや，挟み込みがないか点検する。

[守らないと]
ショートによる火災発生のおそれがあります。


1ARAEAAAP0410

⚠機体にカバー（おおい）をかけるときは，エンジン，マフラが冷えてから掛ける。

[守らないと]
火災が発生するおそれがあります。


1ARAEABAP0600

◆ 点検整備時の注意事項

⚠定期点検整備を行ない，各部の保守をする。

[守らないと]
整備不良による事故で傷害を負うおそれがあります。


1ARAEABAP0460

⚠廃棄物をみだりに捨てたり，焼却しない。

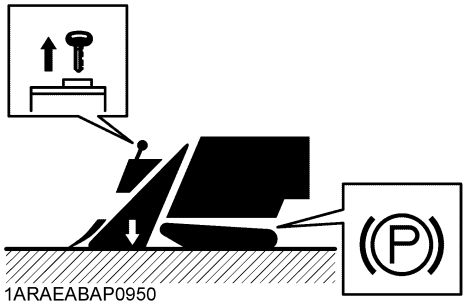
- 機械から廃液を抜く場合は，容器に受ける。
- 地面へのたれ流しや河川，湖沼，海洋への投棄はしない。
- 廃油，燃料，冷却水（不凍液），冷媒，溶剤，フィルタ，バッテリ，ゴム類，その他の有害物を廃棄，又は焼却するときは，購入先，又は産業廃棄物処理業者などに相談して，所定の規則に従って処理する。

[守らないと]
環境汚染につながり，法令により処罰されることがあります。


1BJABAAAP0180

⚠各部の点検・整備・交換・掃除を行なうときは，平たんな場所で，エンジンを必ず止めて，キーを抜き，各クラッチレバーを[切]位置にして,駐車ブレーキを掛ける。

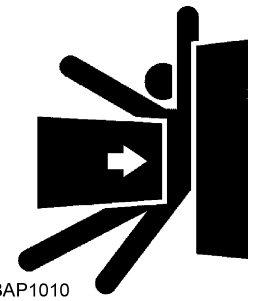
[守らないと]
機械に挟まれたり，巻込まれて傷害を負うおそれがあります。



1ARAEABAP0950

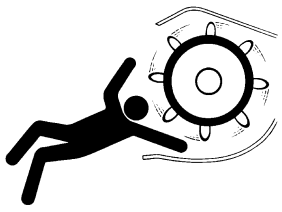
⚠こぎ胴，カッタ，結束機，グレンタンクをオープンしたときは，ストッパで固定する。

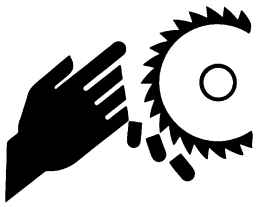
[守らないと]
機械に挟まれて傷害を負うおそれがあります。


1ARAEABAP1010

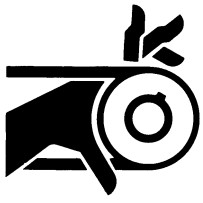
⚠こぎ胴，カッタ，結束機，グレンタンクをオープンしたままエンジンを回さない。

[守らないと]
内部の回転物に接触したり，巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。


1ASAAAAAP4430

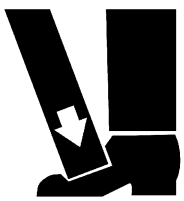

1ARAEABAP0550


1ASAAAAAP4280


1ARAEAAAP0460

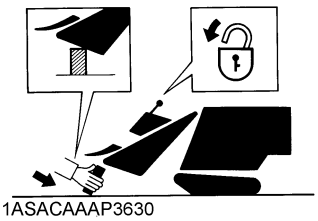
⚠シーブケースやカッタ，結束機など重量物の脱着作業は，２人以上で行なう。

[守らないと]
不意の落下により，傷害を負うおそれがあります。

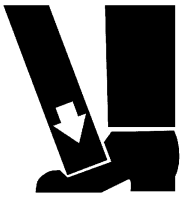

1ARAEABAP0910

⚠刈取部を上げる又は，オープンして点検・整備・掃除するときは，刈取部をロックするとともに，落下防止の歯止めをする。

- 作業前に，エンジンを必ず止めて，駐車ブレーキを掛ける。
- 刈取部の下へもぐったり，足や手をつっこんだりしない。
- 刈取部をオープンするときは，平たんな場所で自動車体水平制御は，機体を一番下げた状態にする。

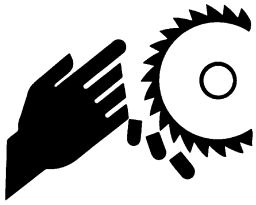

1ASACAAAP3630

[守らないと]
機械にはさまれて，傷害を負うおそれがあります。


1ARAEABAP0910

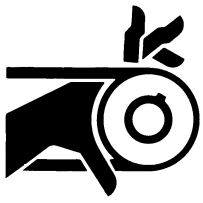
⚠刈刃，カッタ刃，わら切刃を調整・交換するときは，手袋を着用し，直接刃先に触らない。

[守らないと]
刃先で傷害を負うおそれがあります。


1ARAEABAP0550

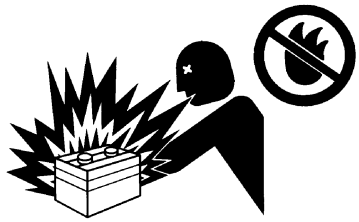
⚠取外したカバー類は，必ず取付ける。

[守らないと]
内部の回転物に接触したり，巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。


1ARAEAAAP0460

⚠バッテリを取外すときは，最初にマイナス（−）側のケーブルを取外す。

- バッテリの近くに裸火（マッチ，ライタ，タバコの火など）を近づけたり，バッテリケーブルのショートによるスパークをせない。
- バッテリを取付けるときは，最初にプラス（＋）側のケーブルをプラス（＋）側の端子に取付ける。


1ARAEABAP0110

[守らないと]
ヤケドや発火爆発のおそれがあります。

⚠バッテリは液面が LOWER（最低液面線）以下になったままで使用や充電をしない．[補水タイプ]

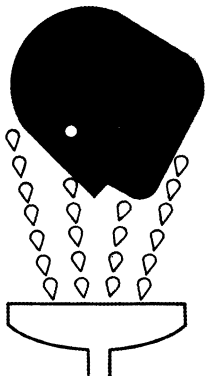
- バッテリ液が不足していれば，すぐに **UPPER LEVEL(上限)** と **LOWER LEVEL（下限）** の間に補水する。
- 充電は機械から取外して行なう。
- 充電は風通しのよい所で行なう。
- 放電したバッテリにブースタケーブルなどを接続して始動するときは，取扱方法をよく読みそれに従う。


1ARAEABAP0130

[守らないと]
LOWER（下限）以下で使用や充電を続けると，バッテリの寿命を縮めるばかりでなく，爆発の原因となることがあります。

⚠バッテリ液（希硫酸）を体に付着させない。

- 目に入ったときや飲込んだときは，すぐ水でよく洗った後，医師の治療を受ける。
- 皮ふ，衣服についたときは，すぐ水でよく洗う。

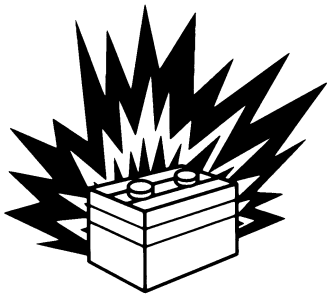


[守らないと]
失明やヤケドのおそれがあります。

⚠指定外のバッテリは使わない。

- 取扱説明書で指定しているバッテリを使用する。

[守らないと]
思わぬ事故が発生するおそれがあります。



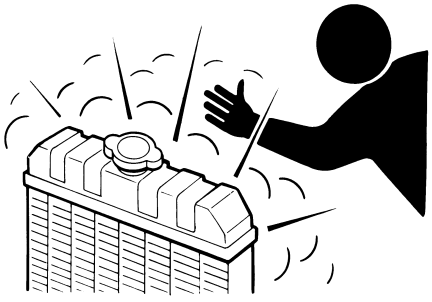
1ARAEABAP0120



1ARAEABAP0620

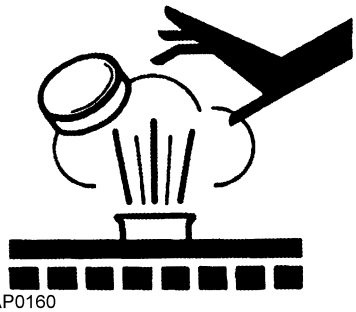
⚠ラジエータの圧力キャップやリザーブタンクは，エンジンが冷えてから開ける。

- エンジン停止後，３０分以上経過してからラジエータの圧力キャップを徐々にゆるめて蒸気の圧力を抜いてから開ける。



1ARAEABAP0050

[守らないと]
熱湯や蒸気が吹き出して，ヤケドや傷害を負うおそれがあります。



1ARAEABAP0160

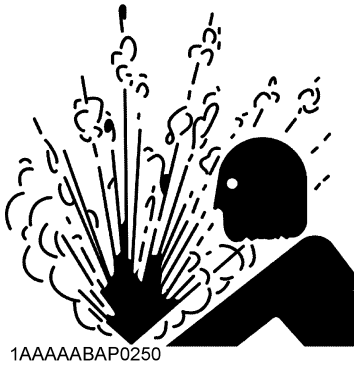
⚠フューエルパイプ，ラジエータホース，オイルドレーンホースは，２年ごとに交換する。

- ゴム類は時間がたつと劣化するので，定期的に交換する。

[守らないと]
燃料や熱湯がもれて，火災やヤケドを負うおそれがあります。



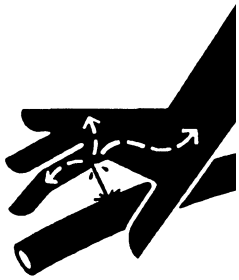
1AAAAABAP0240



1AAAAABAP0250

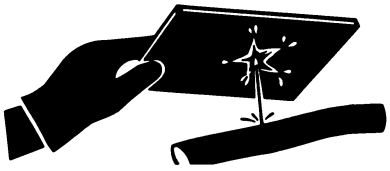
⚠燃料噴射管や油圧パイプなどからの高圧油のもれは，厚紙や板などを使って点検する。

- 高圧噴油に直接手を触れない。もし，触れた場合は，直ちに医者の診断を受ける。



1BAACAAAP0100

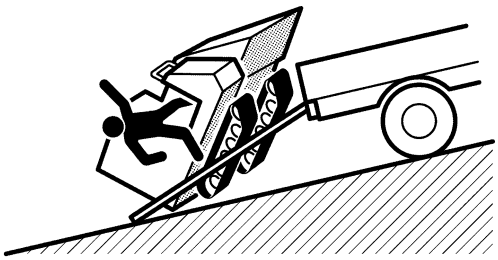
[守らないと]
油が皮ふに侵入して，えそにかかるおそれがあります。



1ARAEABAP0060

◆ 運搬時の注意事項

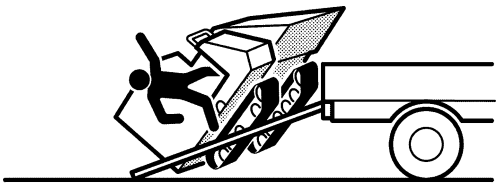
⚠トラックへの積込み・積降しは平たん地で行なう。


1ARAAAAAP1010

- 機械の重量であゆみ板が傾いたりしない場所を選ぶ。
- トラックの駐車ブレーキをしっかり掛ける。
- できるだけ助手の立ち会い誘導のもとに行なう。
- 周囲に人を近づけない。

[守らないと]
あゆみ板がずれたり，トラックが動いたりして機械が落下するおそれがあります。

⚠積込み・積降しには基準に合ったあゆみ板を使う。


1ARAAAAAP1020

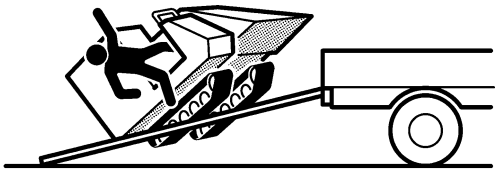
- あゆみ板の基準

長　　さ	トラックの荷台の高さの４倍以上
幅	55cm 以上
数　　量	２枚
強　　度	１枚が 2400kg 以上に耐えうる

- あゆみ板はフック，すべり止めがついているものを使う。
- あゆみ板はトラックの荷台に平行に確実に掛ける。

[守らないと]
あゆみ板がずれたり，外れたりして機械が落下するおそれがあります。

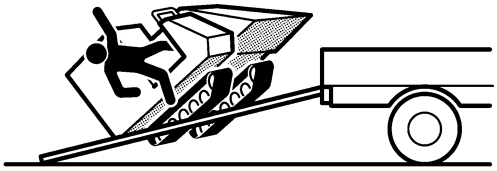
⚠積込み・積降し前に，もみはすべて排出する。


1ARAAAAAP1030

- アンローダを下げ，アンローダ支えに収納してバンドを掛ける。
- アンローダは，折りたたんで収納する。
- 自動車体水平制御は，機体を一番下げた状態にする。

[守らないと]
バランスがくずれて，転倒・転落するおそれがあります。

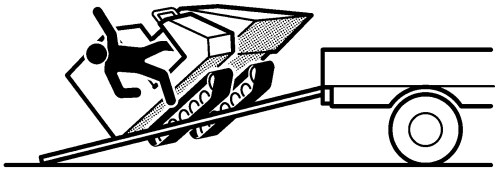
⚠トラックへの積込み・積降しは最低速で行なう。


1ARAAAAAP1030

- 積込みは前進で，積降しは後進で行なう。
- 結束機を装着している機械は後進で積込み，前進で積降しを行なう。

[守らないと]
バランスがくずれて，転倒・転落するおそれがあります。

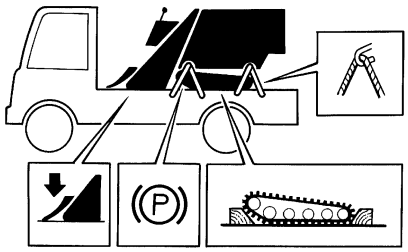
⚠あゆみ板の上では方向修正しない。


1ARAAAAAP1030

- あゆみ板の上では，SF ワンレバー，副変速レバー，ブレーキペダル，かき込みペダルは操作しない。
- 方向を変えるときは，いったん地上又は，荷台にもどって方向を修正し，再度やり直す。

[守らないと]
急旋回したり，暴走して落下するおそれがあります。

⚠トラックの上では，刈取部を床に当たるまで降ろして，駐車ブレーキを掛ける。



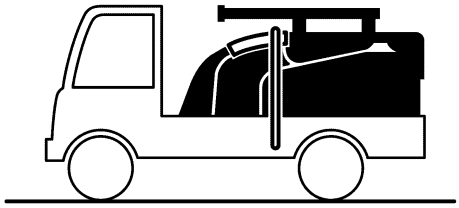
1AVAAAAAP2220

- 自動車体水平制御は，機体を一番下げた状態にする。
- 副変速レバーを**［標準］**位置又は，**［倒伏・ぬれ］**位置にし，駐車ブレーキを掛ける。
- 所定の**［ロープ掛けフック（４カ所）］**にロープを掛けてしっかり床に固定する。
- 車止めをする。

[守らないと]
機械が動き，思わぬ事故のおそれがあります。

⚠トラックに積んだときは，機体の各カバーを固定する。

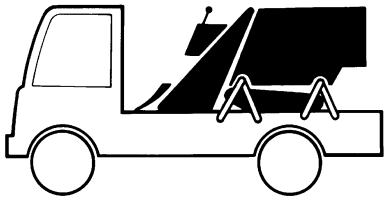
- 樹脂カバー，着脱の簡単なカバー，折りたたみ部品などは，ロープで確実に固定するか，外して荷台に置く。
- 刈取防じんカバーは閉じる。**［刈取防じんカバー付］**


1ARAEABAP1000

［守らないと］
輸送中に風圧で破損，脱落のおそれがあります。

⚠輸送中の急発進，急ブレーキ，急旋回は避ける。

［守らないと］
輸送中に機械が動き，思わぬ事故のおそれがあります。


1ARAEABAP0440

2. 安全作業するための表示ラベル

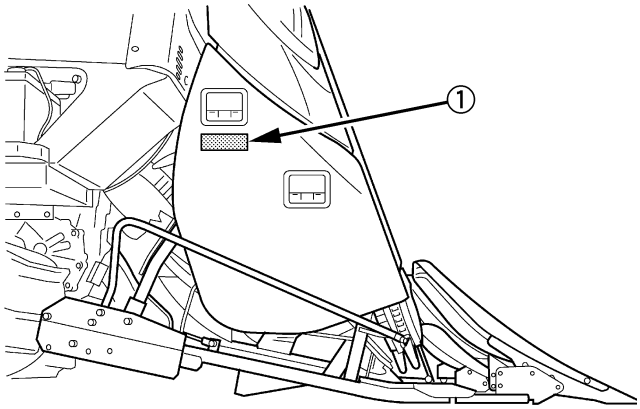
■表示ラベルの内容・貼付位置

①品番　5K190-6432-1

⚠ 注　　意

中に回転物がありケガをするので、
点検・調整時はエンジンを必ず止めること。
点検・調整後はカバーを必ず取付けること。

1ARADBEAP341J



1ARADBEAP003A

②品番　5H601-4344-1

⚠注意 人に当たりケガをさせるおそれがあるので、移動するときは必ず収納すること。

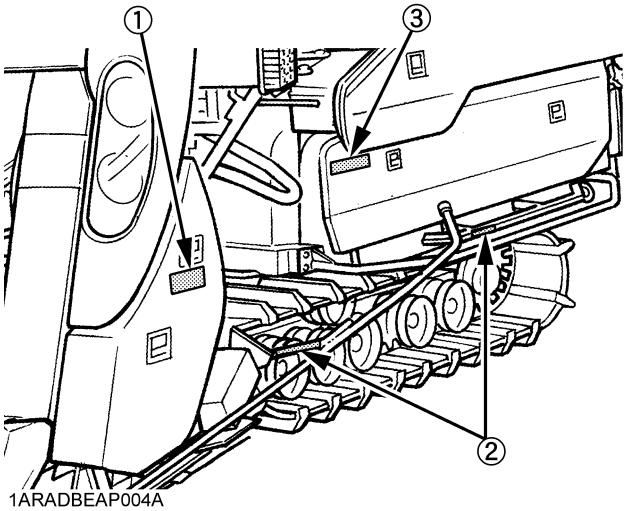
1ARADBEAP342J

③品番　5H700-4367-1

⚠警告

1．刈取オープン作業は平たんで安全な場所で，刈取部の昇降以外はエンジンを必ず止めて行って下さい。
2．刈取部をオープンしたまま，走行しないで下さい。
3．枕木などで刈取部の落下防止の歯止めをして下さい。

1ARADBEAP343J



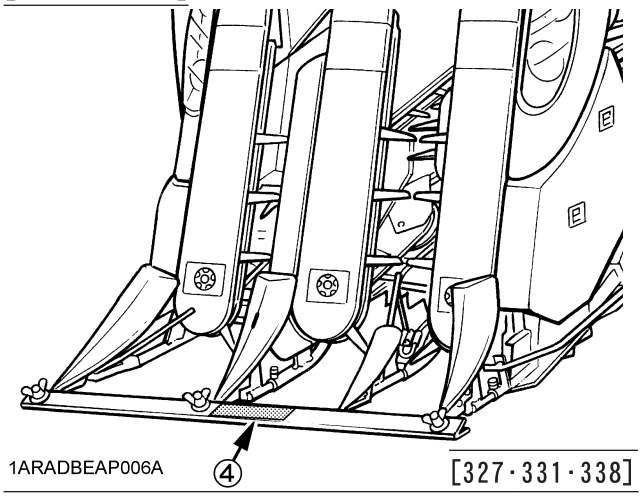
1ARADBEAP004A

④品番　59700-4332-2

⚠注意 デバイダ先端に当たるとけがをするおそれがあるので、移動するときは必ず本品を取り付けること。

1ARADBEAP344J

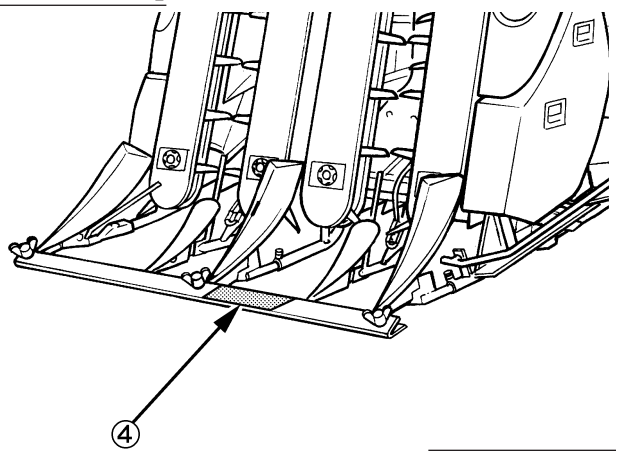
[327・331・338]



1ARADBEAP006A

[327・331・338]

[433・438・445]



1ARADBEAP005A

[433・438・445]

①品番　5H706-4328-1

⚠ 注　意

作業前
1.安全に作業するために，取扱説明書を読んで，機械の使い方を覚えること。
2.エンジンを始動するときは，各クラッチを切り，主変速レバーを「停止」にすること。
3.屋内は排気ガスが溜まり易く，ガス中毒の危険があるので換気すること。
4.ケガをするおそれがあるので，掃除・点検・調整のときは，各クラッチを切りエンジンを必ず停止すること。

移動・作業中
1.発進するときや脱こく部・刈取部を作動するときは，周囲の安全を確かめ合図して，機械に人を近付けないこと。
2.転落・転倒事故の危険があるので，傾斜地・路肩の軟弱な道路・ガケ際などは走行しないこと。
3.走行を停止するときは，主変速レバーを操作して「停止」の位置にすること。
※主変速レバーのノブを握ると「停止」の位置がわかりにくくなるので，ノブを握らないこと。
4.道路交通法規定により，トラック運搬時（特にキャビン付）は，地上高３.８ ｍ以下で運行すること。
5.刈取作業時以外(あぜ乗越時，移動走行時，運搬時，格納時)は,「もみ」をすべて排出または降ろして，各作業クラッチを“切”にし，M仕様(車体水平制御)は，機体を一番下げた状態にすること。

積込 ・積降ろし
1.転倒・転落事故の危険があるので，車への積み込みおよびあぜ越えは以下を守ること。
1 積み込むときは前進で，降ろすときは後進にすること。
2 副変速を倒伏にし，エンジンの回転を落として(2000rpm 以上)，低速にすること。
3 あゆみの上ではパワーステアリングレバーを操作しないこと。方向を変えるときは，いったん地上または荷台に戻って向きを正し，再度やり直すこと。
4 あゆみ板は段差の 4 倍以上の長さで，すべり止めがあり，基準に合ったものを使用すること。

駐・停車
1.火災の危険があるので，機械を停止するときは，切りワラや雑草の上に止めないこと。
2.急発進・暴走の危険があるので，副変速レバーを切り換えるときは，平坦な場所で主変速レバーを「停止」の位置にし，駐車ブレーキペダルをいっぱい踏むこと。
3.機械から離れるときは，エンジンを止めて始動キーを抜き，駐車ブレーキを必ずロックすること。また，坂道で駐車するときは車止めをして暴走を防ぐこと。

1ARADBEAP345J

②品番　5H706-4324-1

⚠ 注　意

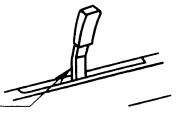
エンジンを始動するときは，主変速レバーを「停止」にし，駐車ブレーキを「入」にし，各作業クラッチを「切」にすること。

1ARADBEAP346J

④品番　5H601-4354-1

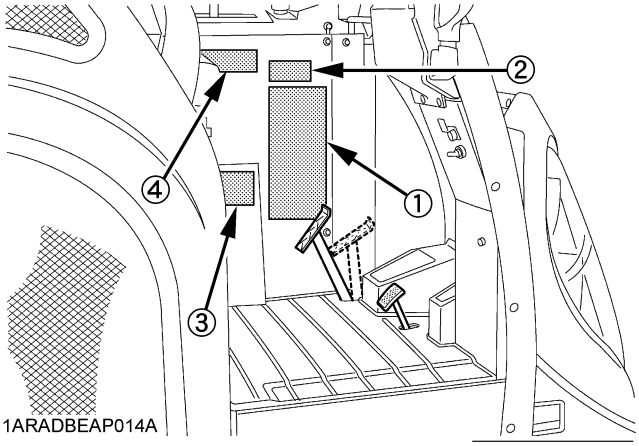
⚠ 注　意

坂道で副変速レバーを操作すると機械が、暴走するおそれがあるので、絶対に操作しないこと



1ARADBEAP348J

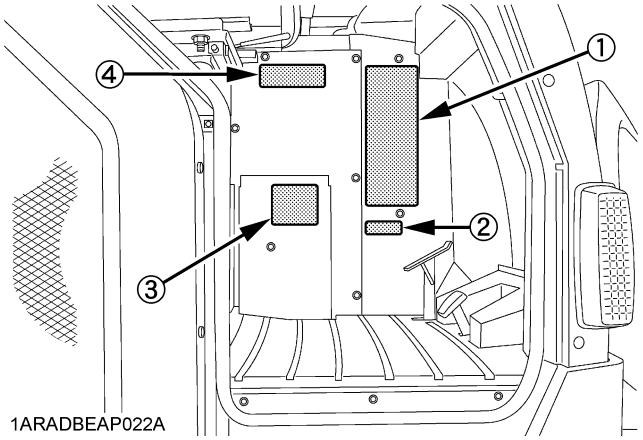
[Q仕様除く]



1ARADBEAP014A

[Q仕様除く]

[Q仕様]



1ARADBEAP022A

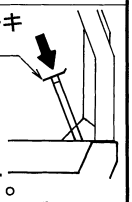
[Q仕様]

③品番　5H700-4322-1

⚠ 注　意

傾斜地での暴走を防ぐため必ず下記を守ること。
1．駐車するときは、車止めをすること。
2．駐車ブレーキを解除するときは、副変速を「倒伏」又は「標準」にし、主変速を「停止」にすること。

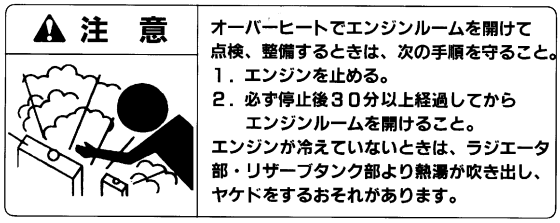
駐車ブレーキの操作方法



①主変速レバーを「停止」位置にし停止を確認すること。
②駐車ブレーキペダルをいっぱい踏み込むと自動的にロックされます。
③ロックを解除する時は、もう一度ペダルを踏み込んで下さい。

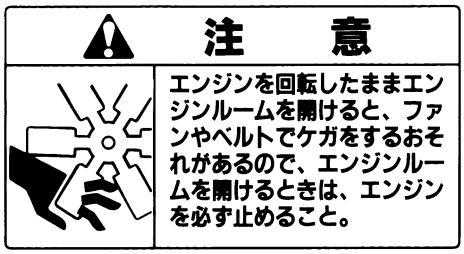
1ARADBEAP347J

①品番　5H601-4343-1



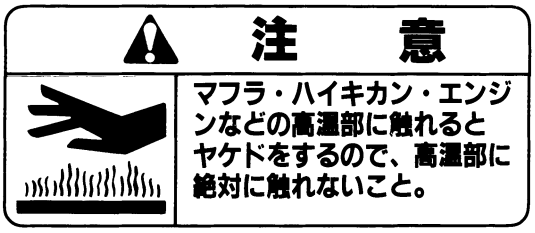
1ARADBEAP349J

②品番　5H601-4342-1



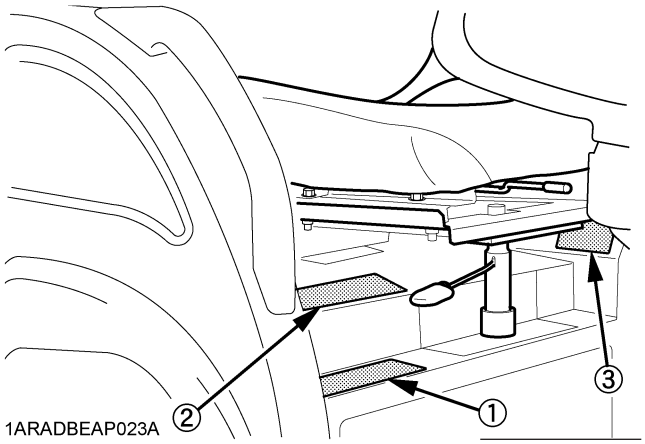
1ARADBEAP350J

③品番　52320-3159-1



1ARADBEAP351J

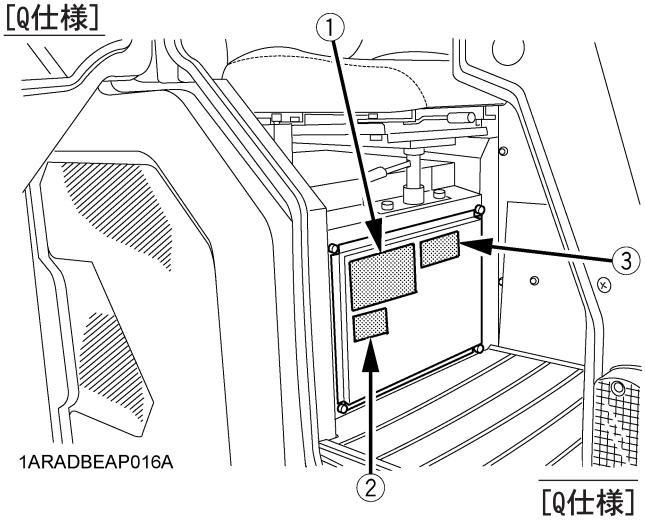
[Q仕様除く]



1ARADBEAP023A

[Q仕様除く]

[Q仕様]



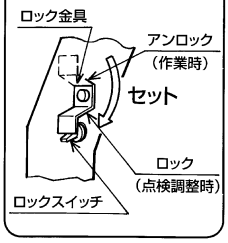
1ARADBEAP016A

[Q仕様]

①品番　5H730-4322-1［Q仕様除く］
5H690-4322-1［Q仕様］

⚠ 注　意

刈取部を上昇して、点検調整を行うときには、必ずロックスイッチを下げてロック金具をセットすること。



1ARADBEAP352J

②品番　5H730-4317-1［Q仕様除く］
5H736-4317-1［Q仕様］

⚠ 注　意

1．刈取り掻き込みペダルを傾斜地や、あゆみ板の上で踏むと、暴走する恐れがあるので踏まないこと。
2．機体が動いている時は、刈取り掻き込みペダルを踏んでも機体が止まらない場合があるので、主変速レバーが「停止」以外にあるときは、刈取り掻き込みペダルを踏まないこと。

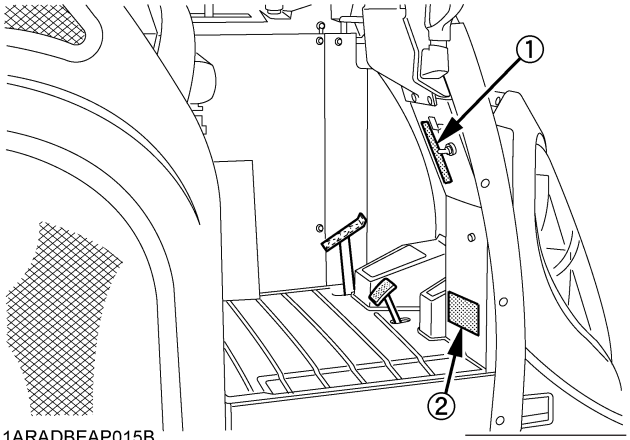
刈取り掻き込みペダルの操作方法



① 主変速レバーを「停止」位置にし機体の停止を確認して下さい。
② 刈取り掻き込みペダルを踏みます。
③ ペダルを踏んだまま、主変速レバーをゆっくりと前進方向へ動かして掻き込み作業を行います。
④ 掻き込み作業終了後は主変速レバーを「停止」にした後掻き込みペダルから足を離して下さい。
⑤ 上記手順を守らないと機械が故障する場合がありますので、必ず手順を守って下さい。

1ARADBEAP589A

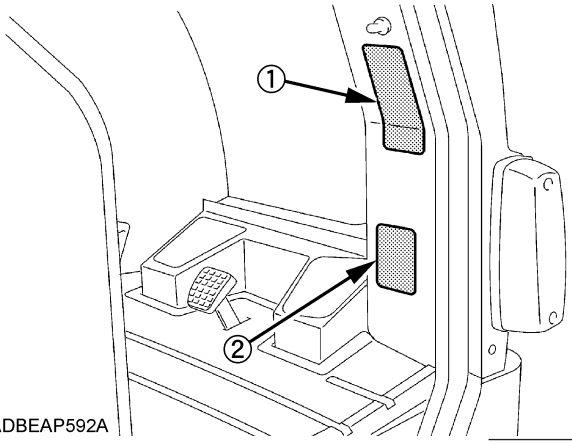
［Q仕様除く］



1ARADBEAP015B

［Q仕様除く］

［Q仕様］



1ARADBEAP592A

［Q仕様］

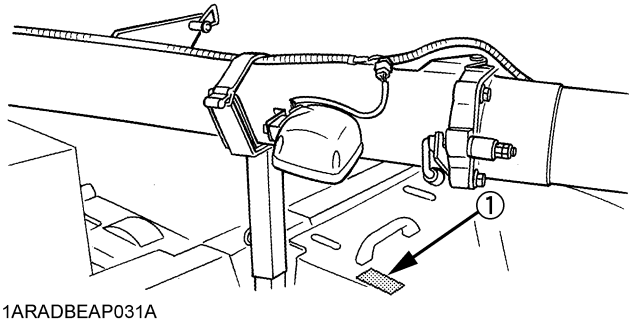
［SD仕様］

①品番　52000-7917-2

⚠ 注　意

トラックで輸送するときは、風圧でカバーが浮き破損・脱落し、ケガをさせるおそれがあるので、刈取部を下げて、ボウジンカバーを閉じ、ロープ等で浮き上がりを防ぐこと。

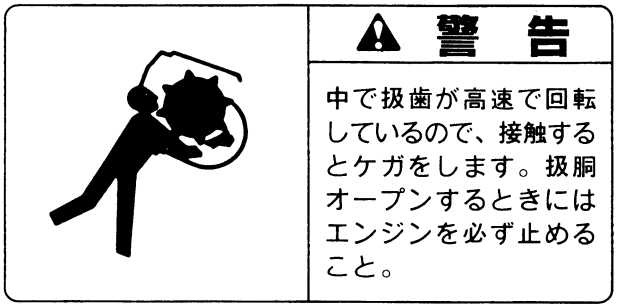
1ARADBEAP353J



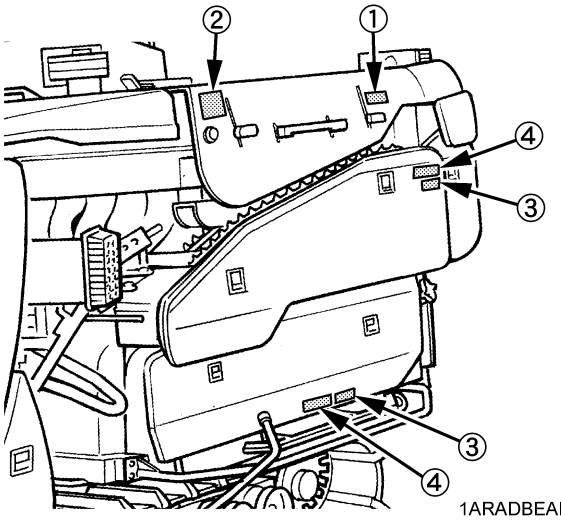
1ARADBEAP031A

［SD仕様］

①品番　53982-6431-1

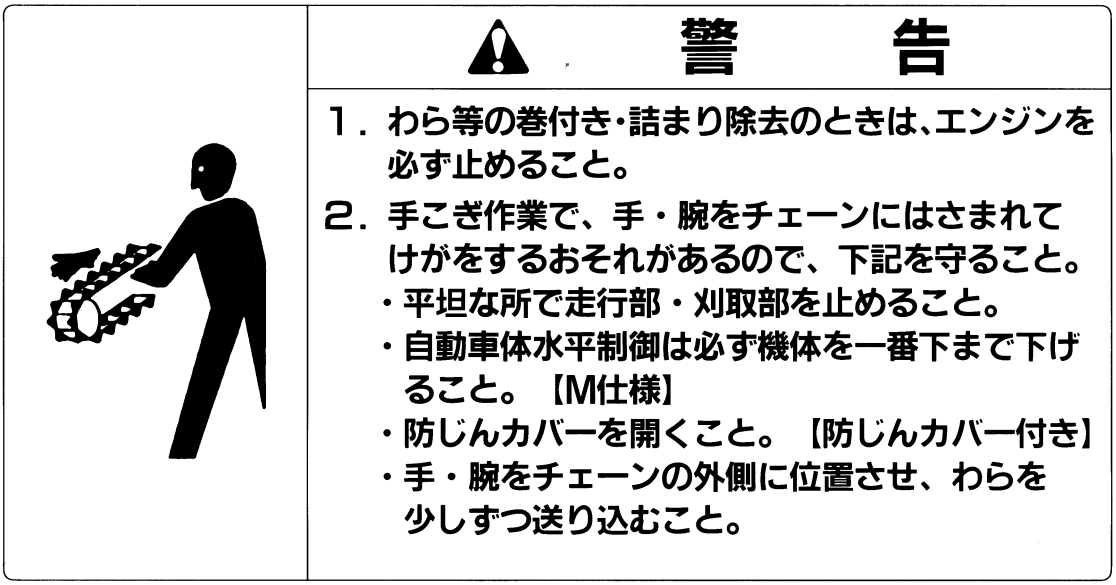


1ARADBEAP354J



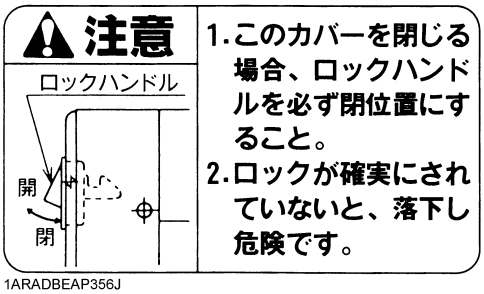
1ARADBEAP004B

②品番　53649-6435-1



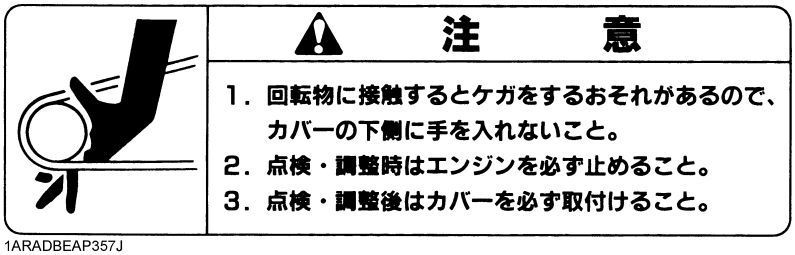
1ARADBEAP355J

③品番　5K190-6433-1



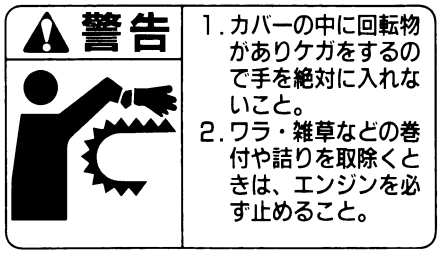
1ARADBEAP356J

④品番　5K200-6436-1

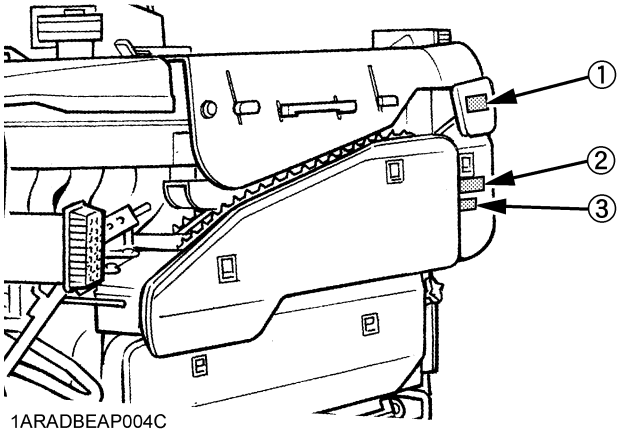


1ARADBEAP357J

①品番　5K200-6188-1

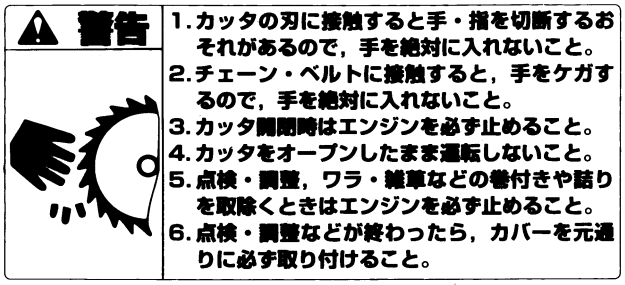


1ARADBEAP358J

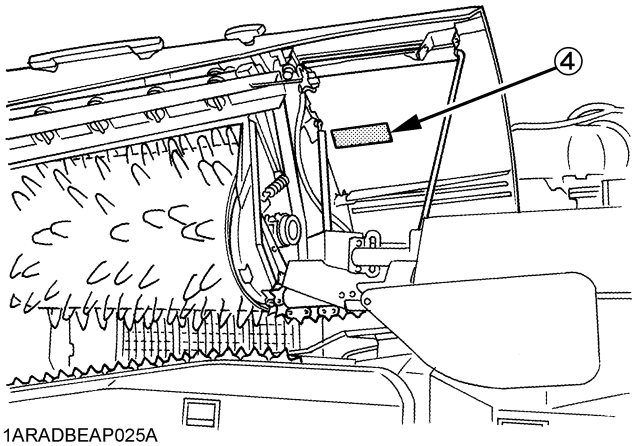


1ARADBEAP004C

②品番　5K190-6442-1

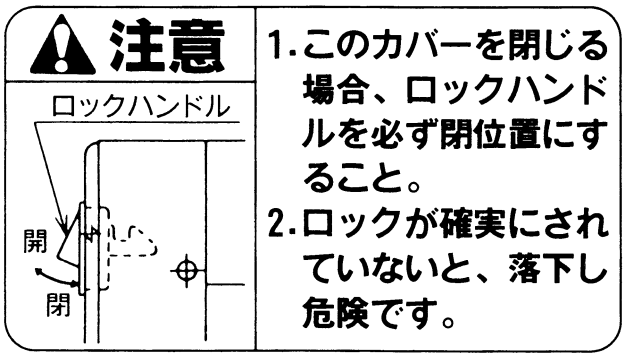


1ARADBEAP359J



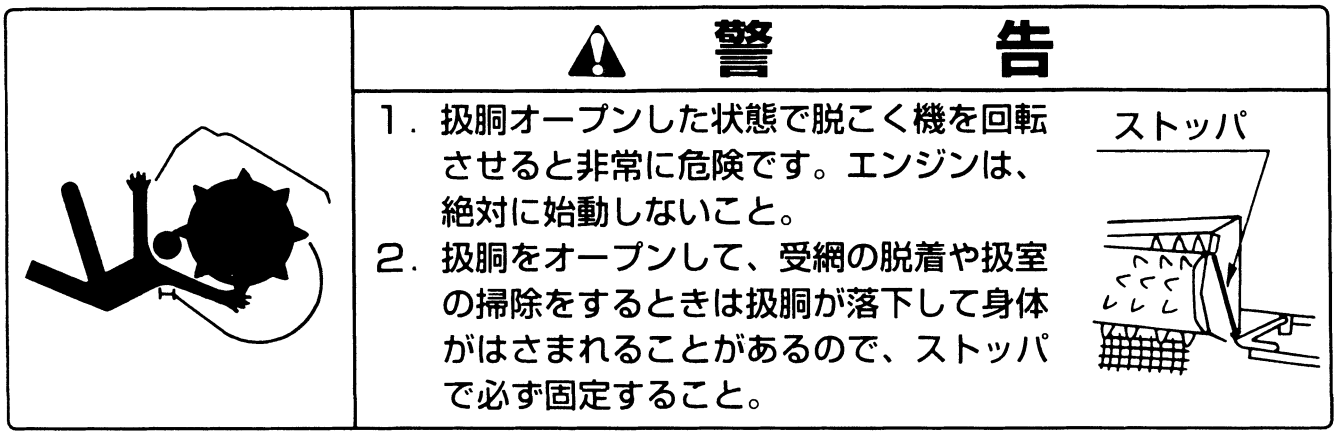
1ARADBEAP025A

③品番　5K190-6433-1



1ARADBEAP360J

④品番　53981-6416-2



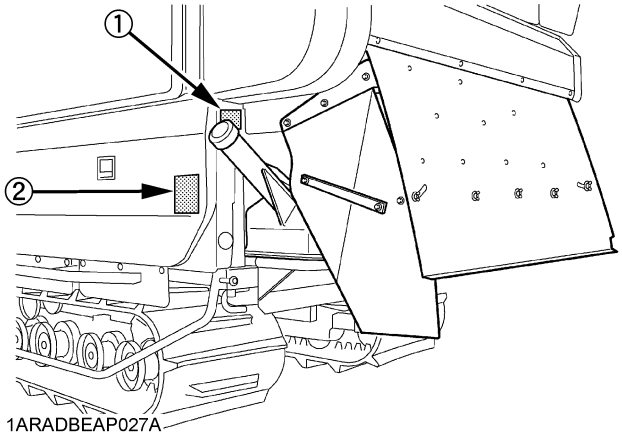
1ARADBEAP362J

①品番　5K200-6416-2

⚠ 注　意

中に回転物がありケガをするおそれがあるので、運転中は絶対に開けないこと。

1ARADBEAP367J



1ARADBEAP027A

②品番　5K200-6212-1

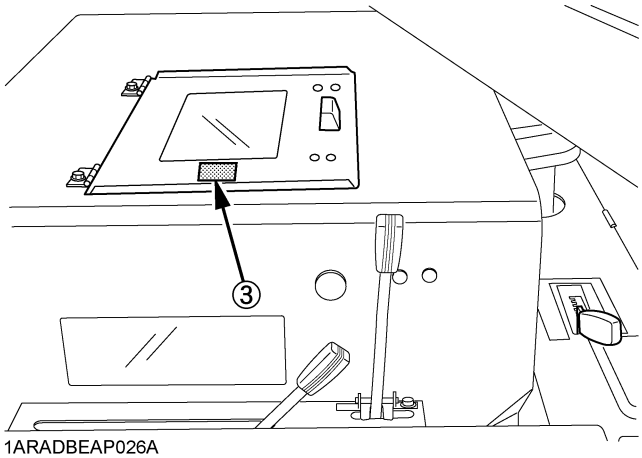
⚠ 注　意

火気厳禁

・火災のおそれがあるので給油するときはエンジンを止めること。

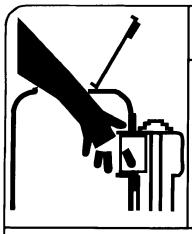
ディーゼル軽油

1ARADBEAP361J



1ARADBEAP026A

③品番　5H250-5338-1



⚠ 警　告

1. タンクの中に回転物がありケガをするおそれがあるので、運転中は絶対に手を入れないこと。
2. 手を入れるときは必ずエンジンを停止すること。

変形や落下のおそれがあるので、タンクの上に物を載せないこと。

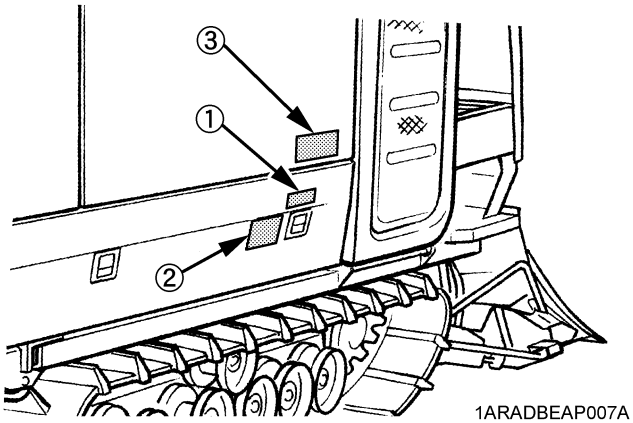
1ARADBEAP363J

①品番　5K190-6432-1

⚠ 注　　意

中に回転物がありケガをするので、
点検・調整時はエンジンを必ず止めること。
点検・調整後はカバーを必ず取付けること。

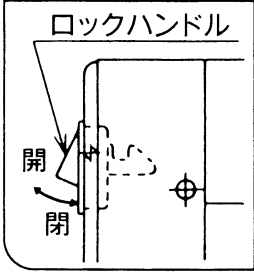
1ARADBEAP341J



1ARADBEAP007A

②品番　5K190-6433-1

⚠ 注意



1.このカバーを閉じる場合、ロックハンドルを必ず閉位置にすること。
2.ロックが確実にされていないと、落下し危険です。

1ARADBEAP360J

③品番　58056-8114-1

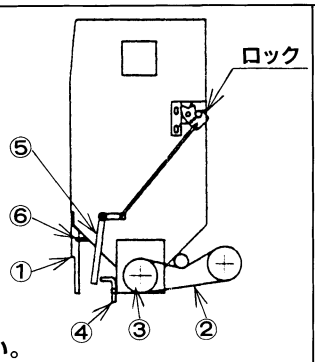
⚠ 注　　意

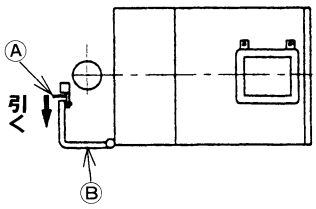
グレンタンクをオープンするときは、ベルトに手をはさまれたりタンクに身体がはさまれるおそれがあるので、平坦な場所で、内部の「もみ」を排出し、エンジンを停止してからオープンすること。

◆タンクオープンのしかた

1) タンク内を空にしてエンジンを停止してください。
2) カバー ① を外し、ベルト ② をプーリ ③ から外してタンク固定ピン ④ を抜いてください。
3) タンクオープンレバー ⑤ を持って手前に引きロックを解除し、さらに取っ手 ⑥ を持ってタンクを開いてください。
4) タンクを閉じる時は上記の逆の順番で確実にタンクを固定しベルトをかけてください。

◆タンクをオープンする時は、カッタを閉じてください。





◆カバーⒷを開く時は、カバーⒶの取っ手を引いてください。閉じるときはカバーⒷを押し込んでください。

1ARADBEAP364J

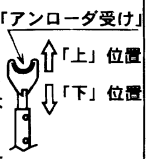
①品番　5G021-1713-2

⚠ 注　意			
		アンローダが自然に動きケガをするおそれがあるので、アンローダを伸ばしたり、折りたたんだりするときはアンローダを水平の状態にしエンジンを止めること。	あぜ越え・移動時およびトラックで輸送する場合、アンローダが人・物にぶつかる危険があるので下記を守ること。 1. 「アンローダ受け」を「下」位置にする。 2. アンローダを収納する。 3. アンローダを折りたたむ。 4. アンローダを浮き上がらないようにバンドで固定する。
手をはさみ、ケガをするおそれがあるので、「アンローダ受け」に手を置かないこと。	アンローダ先端が大きく動き、ケガをするおそれがあるので、アンローダの作用範囲に人がいるときはアンローダを動かさないこと。		

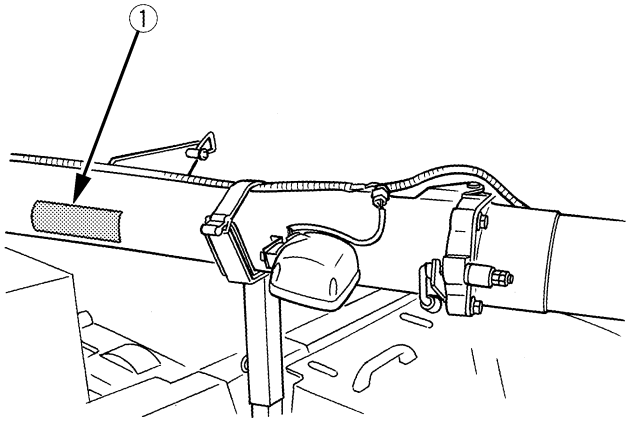
「アンローダ受け」の取扱い

アンローダからの「もみ」こぼれをなくすために下記を守ってください。

1. 作業時は「アンローダ受け」を「上」位置にしてください。
2. 「もみ」の排出を途中で止めて、アンローダを「アンローダ受け」に戻さないでください。
3. アンローダを折りたたむときは、アンローダをいったん最上位まで上昇させた後、「アンローダ受け」に戻してか折りたたんでください。

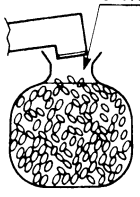


1ARADBEAP365J

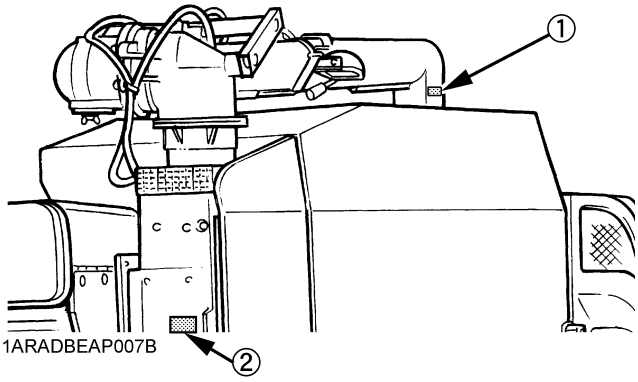


1ARADBEAP031B

①品番　5G200-6425-2

⚠ 注　意	余裕
中に回転物がありケガをするおそれがあるので、運転中は絶対に手を入れないこと。	 袋詰め時、余裕を持って排出クラッチを切ること。 アンローダが詰まると、駆動系統の故障の原因になります。

1ARADBEAP366J



1ARADBEAP007B

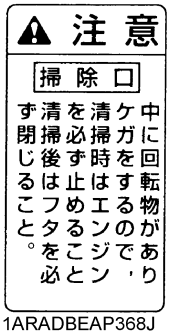
②品番　5H700-4329-1

⚠ 注　意

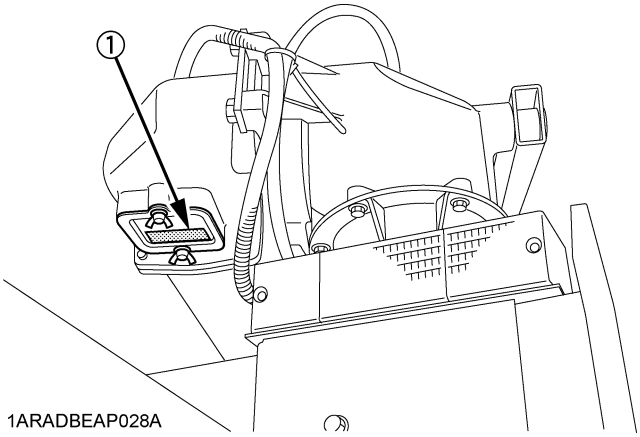
中に回転物がありケガをするおそれがあるので、運転中は絶対に開けないこと。

1ARADBEAP367J

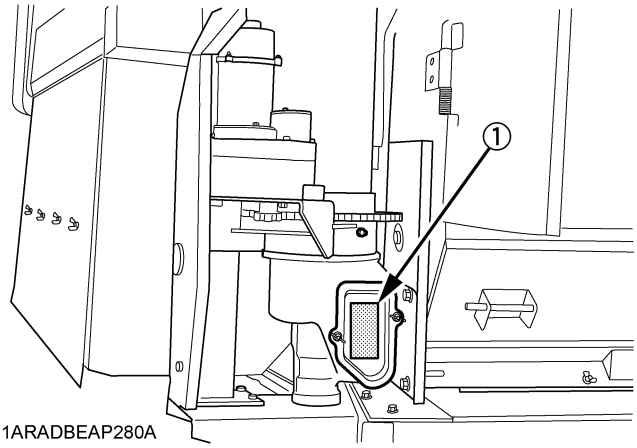
①品番　58071-8174-1



1ARADBEAP368J

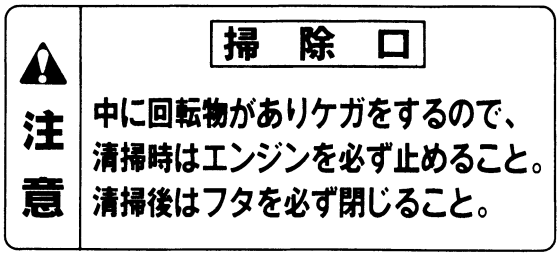


1ARADBEAP028A

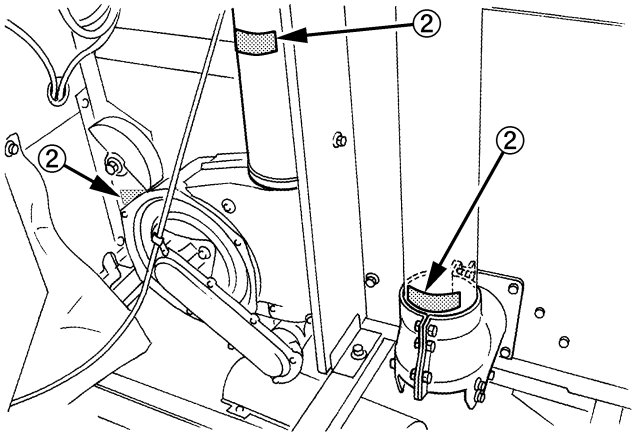


1ARADBEAP280A

②品番　5K190-6461-1

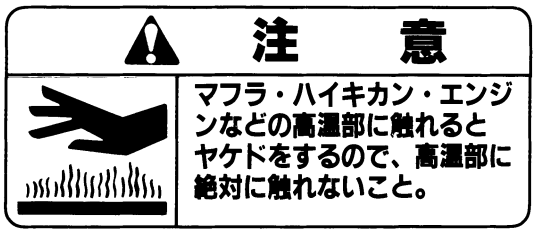


1ARADBEAP369J

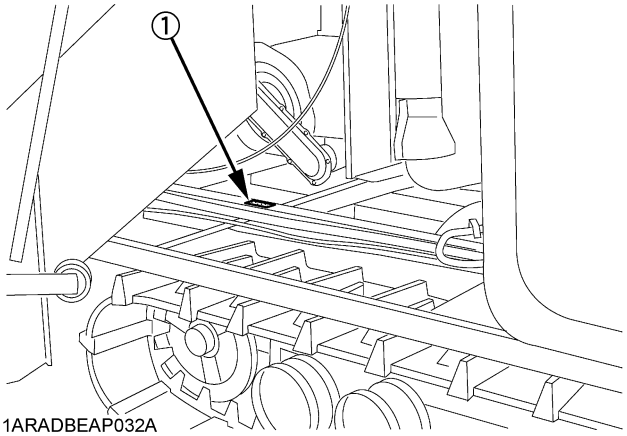


1ARADBEAP030A

②品番　52320-3159-1

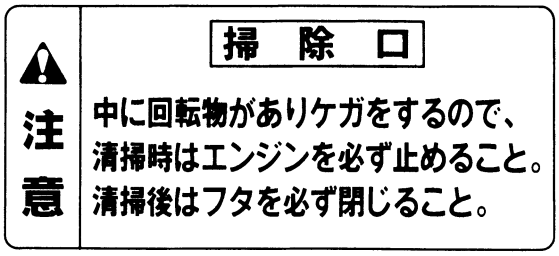


1ARADBEAP351J



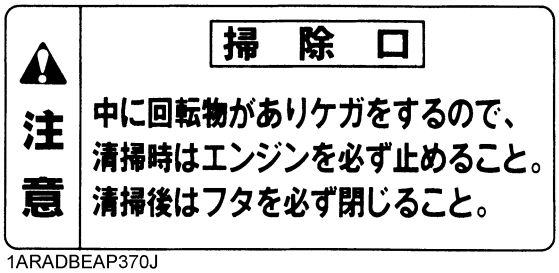
1ARADBEAP032A

①品番　5K190-6461-1



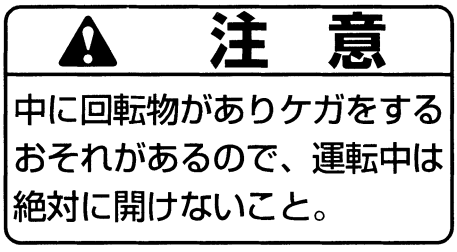
1ARADBEAP369J

②品番　58071-8175-2

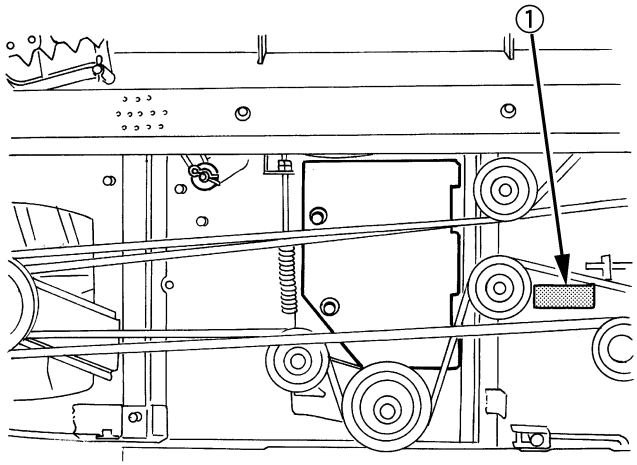


1ARADBEAP370J

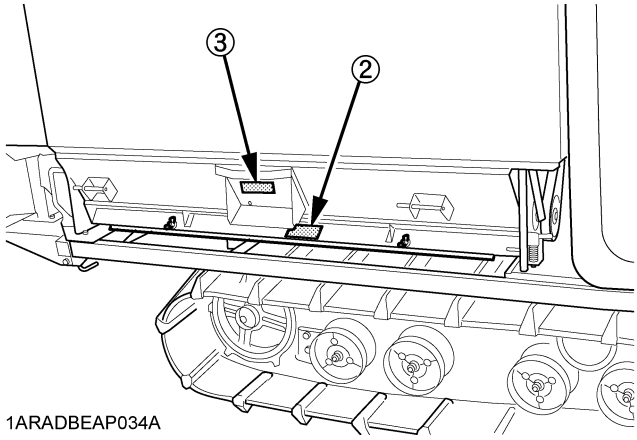
③品番　5G046-4329-1



1ARADBEAP367J

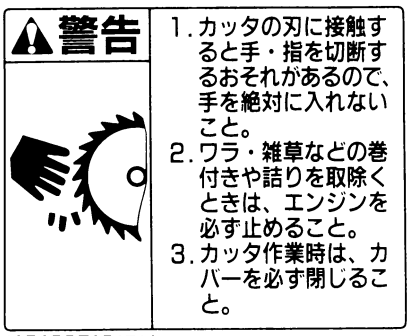


1ARADBEAP033A

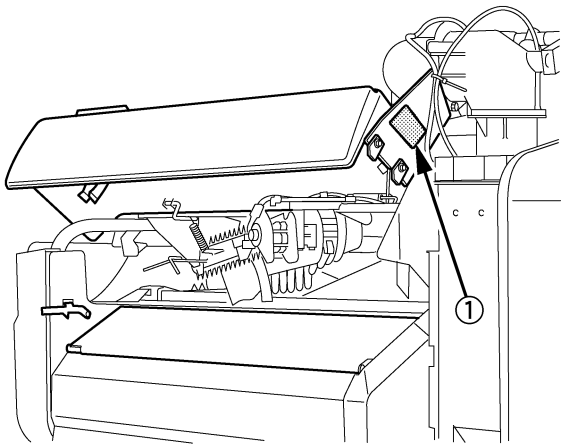


1ARADBEAP034A

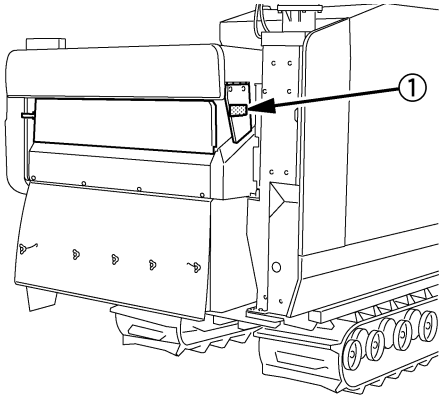
①品番　53981-6191-1



1ARADBEAP371J

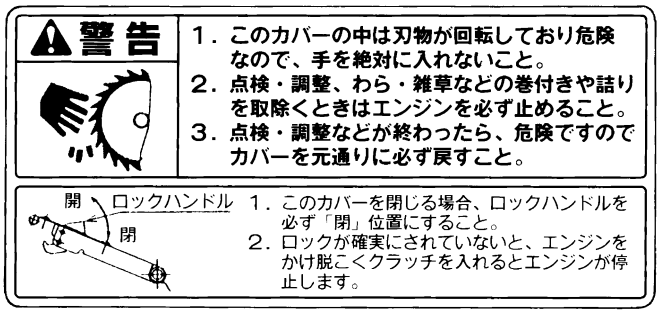


1ARADBEAP059A

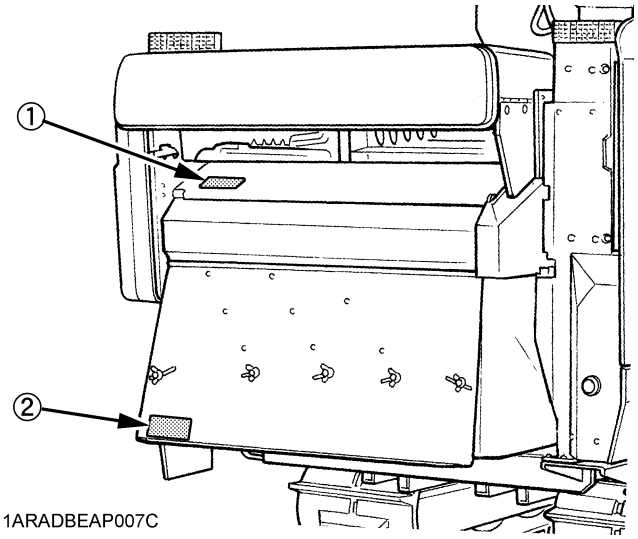


1ARADBEAP058A

①品番　57691-5166-1

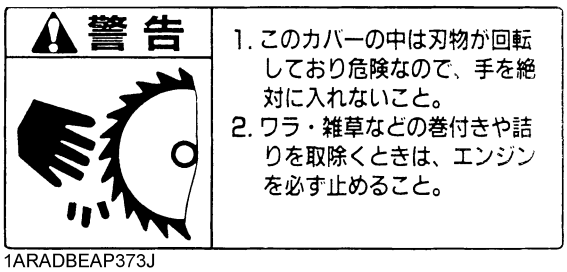


1ARADBEAP372J



1ARADBEAP007C

③品番　57691-5315-1

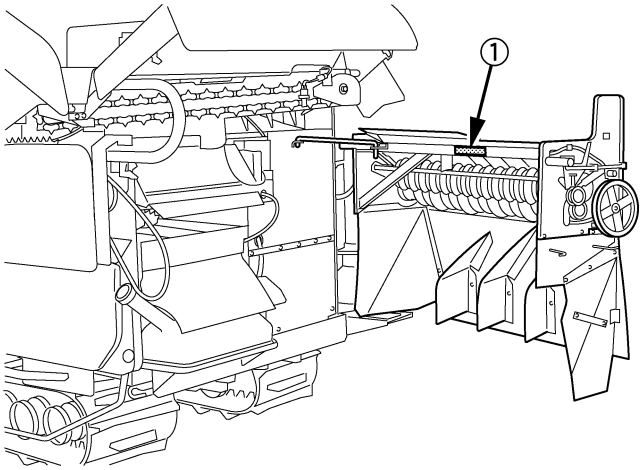


1ARADBEAP373J

①品番　57745-5124-1

注意	1．カッタをオープンしたら、不用意な動きを防ぐため規制金具で確実にロックすること。 2．カッタの刃に触れると手・指を切るので、巻付きや詰りを取除くとき刃に絶対触れないこと。

1ARADBEAP374J

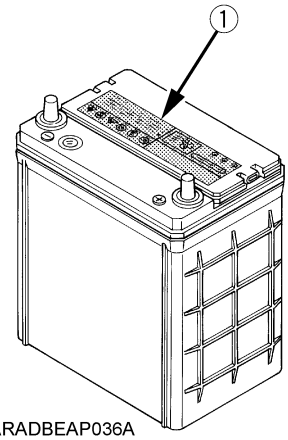


1ARADBEAP035A

①品番　5H522-4112-1



1ARADBEAP375J



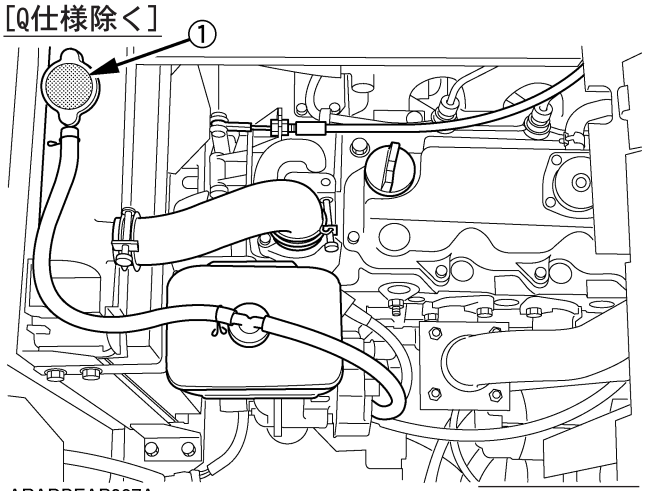
1ARADBEAP036A

①品番　16667-8724-1



1ARADBEAP376J

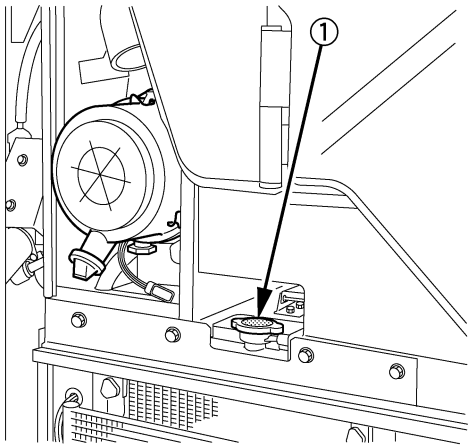
[Q仕様除く]



ARADBEAP037A

[Q仕様除く]

[Q仕様]



1ARADBEAP038A

[Q仕様]

3. 表示ラベルの手入れ

■表示ラベルをよく読み理解して，安全注意事項を守る

- ラベルは，いつもきれいにして傷つけないようにする。
- ⚠表示ラベルがよごれた場合は，石鹸水で洗い，やわらかい布でふく。
  シンナーやアセトンなどの溶剤を使うと，文字や絵が消えることがあります。
- 高圧洗浄機で洗車すると，高圧水によりラベルが剥がれるおそれがあるので，高圧水を直接ラベルにかけない。
- 破損や紛失したラベルは，製品購入先に注文し，新しいラベルに張り替える。
- 新しいラベルを貼る場合は，貼付面の汚れを完全にふき取り，乾いた後，もとの位置に貼る。
- ラベルが貼付けされている部品を新部品と交換するときは，ラベルも同時に交換する。

サービスと保証について

この製品には，保証書が添付してありますのでご使用前によくご覧ください。

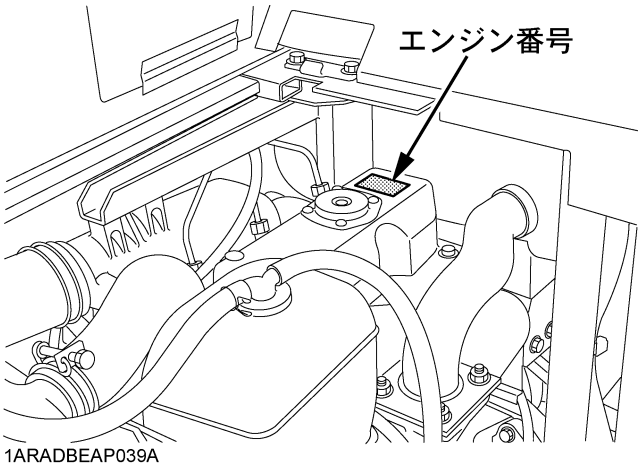
◆ ご相談窓口

ご使用中の故障やご不審な点及びサービスについてのご用命は，お買上げいただいた購入先にそれぞれ**［ご相談窓口］**を設けておりますのでお気軽にご相談ください。
その際販売型式名（商品名）・区分と車台番号をあわせてご連絡ください。
なお，部品ご注文の際は，購入先に純正部品表を準備しておりますので，そちらでご相談ください。

警 告

＊ 機械の改造は危険ですので，改造しないでください。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は，メーカ保証の対象外になるのでご注意ください。

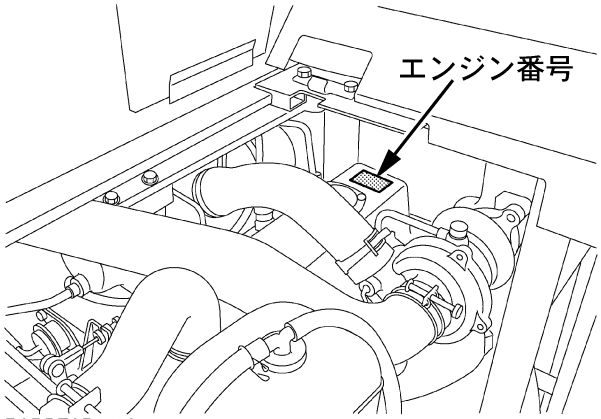
［327・331・338・433・438］



1ARADBEAP039A

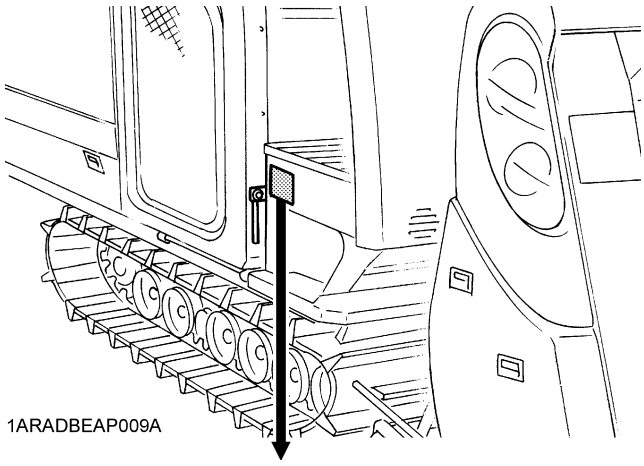
［327・331・338・433・438］

［445］

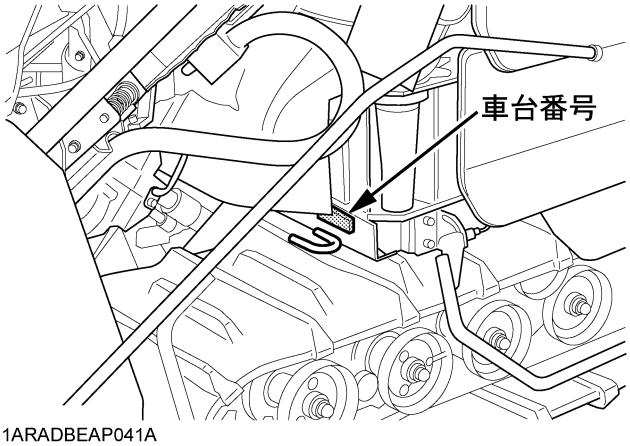


1ARADBEAP040A

［445］


1ARADBEAP009A

農業機械の種類	コンバイン（自脱型）	
型式名	クボタ	
販売型式名		
区分		
車両型式名	クボタ	
車台（製造）番号		
製造会社	株式会社クボタ	



1ARADBEAP041A

サービスと保証について

◆ 認定番号

安全鑑定・型式検査（国検）の農機型式名及び認定番号が必要な場合は，下記の型式名及び番号をご使用ください。

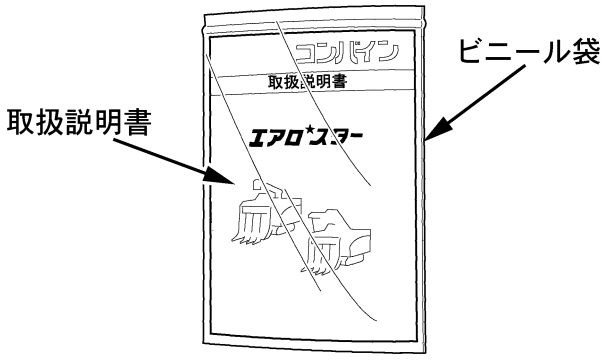
商品名	農機型式名	安全鑑定番号	小型特殊自動車	
			車両型式名	型式認定番号
ARN327	クボタ R0407	申請中	クボタ SA-C318	申請中
ARN331	クボタ R0406	申請中	クボタ SA-C318	申請中
ARN338［Q 仕様除く］	クボタ R0404	申請中	クボタ SA-C317	申請中
ARN338［Q 仕様］	クボタ R0404	申請中	クボタ SA-C317	申請中
ARN433	クボタ R0405	申請中	クボタ SA-C419	申請中
ARN438［Q 仕様除く］	クボタ R0403	申請中	クボタ SA-C418	申請中
ARN438［Q 仕様］	クボタ R0403	申請中	クボタ SA-C418	申請中
ARN445［Q 仕様除く］	クボタ R0402	申請中	クボタ SA-C417	申請中
ARN445［Q 仕様］	クボタ R0402	申請中	クボタ SA-C417	申請中

◆ 補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期限）は製造打ち切り後９年といたします。
ただし，供給年限内であっても特殊部品につきましては，納期などについてご相談させていただく場合もあります。
補修用部品の供給は原則的に上記の供給年限で終了いたしますが，供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には，納期及び価格についてご相談させていただきます。

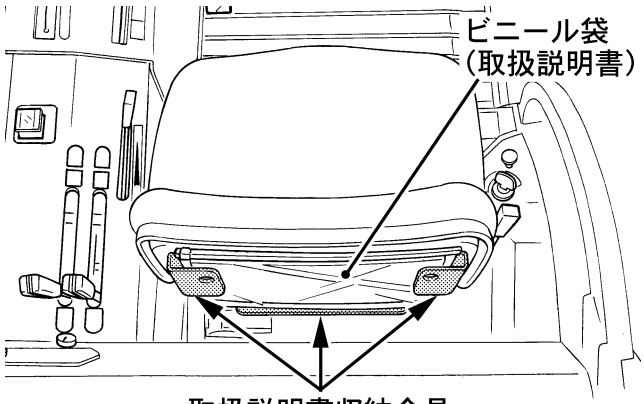
◆ 取扱説明書の収納場所について

本冊子を付属部品のビニール袋にいれたあと，運転席（シート）裏側にある収納袋及び収納金具に本冊子を収納して，常時携帯してください。（出荷時は取扱説明書がビニール袋に入っています。）



1ARADBEAP042A

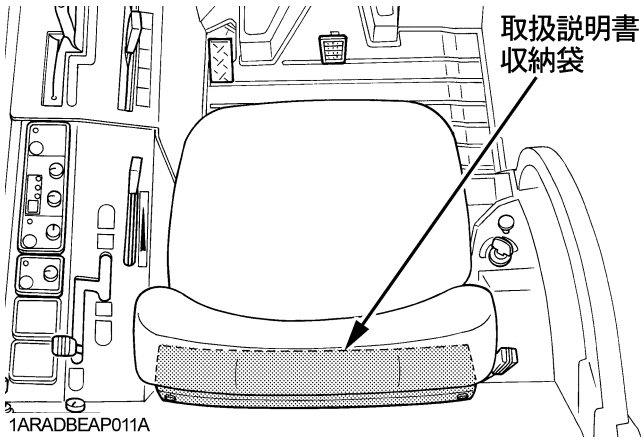
[DX 仕様]



1ARADBEAP010A

[DX 仕様]

[SD 仕様]



1ARADBEAP011A

[SD 仕様]

小型特殊自動車について

このコンバインは，道路運送車両法の農耕作業用小型特殊自動車に該当します。

警　告

＊ 道路を走行するときは，小型特殊自動車の法規を守り安全運転をしてください。

注　意

＊ 作業灯は［道路運送車両の保安基準］第 42 条（灯火の色等の制限）において，［走行中に使用しない灯火］とされ，点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから道路走行中の点灯は禁止されております。

＊ このコンバインは，小型特殊自動車で道路運送車両の保安基準が適用されます。下記のうち一つでも条件を満足しないと保安基準に適合しませんので特にご留意してください。

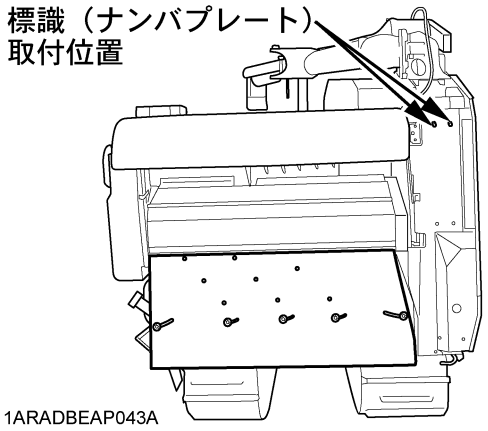
1. 認定を受けたエンジン以外は搭載して走行することはできません。
2. エンジン及び本機で封印されているところはさわらないでください。封印が外されたと認められる場合は，一切の保証はいたしません。
3. 認定時の構造を変更した状態では，道路走行することはできません。
4. オプション部品の結束機などを装着した場合は公道を走ることができません。装着した状態で移動するときは，トラック輸送（74 ページ参照 ）してください。（ カッタは，装着したままで走行できます。）

◆ 小型特殊自動車取得の届出と標識（ナンバプレート）の取付け

新たに小型特殊自動車の所有者となった者は，市町村条例により，その取得を市町村役所に届け，標識（ナンバプレート）の交付を受けなければなりません。

手続きは市町村により多少異なりますので詳細は，購入先にご相談ください。

1. 小型特殊自動車取得の証明書など（購入先で発行）に，軽自動車税を添えて市町村役所に届出ます。
2. 届出が済むと標識（ナンバプレート）が交付されます。
3. 標識（ナンバプレート）を車体の取付け位置に取付けてください。



◆ 損害賠償保険について

万一の交通事故補償に備え，任意保険に加入されることをお勧めします。

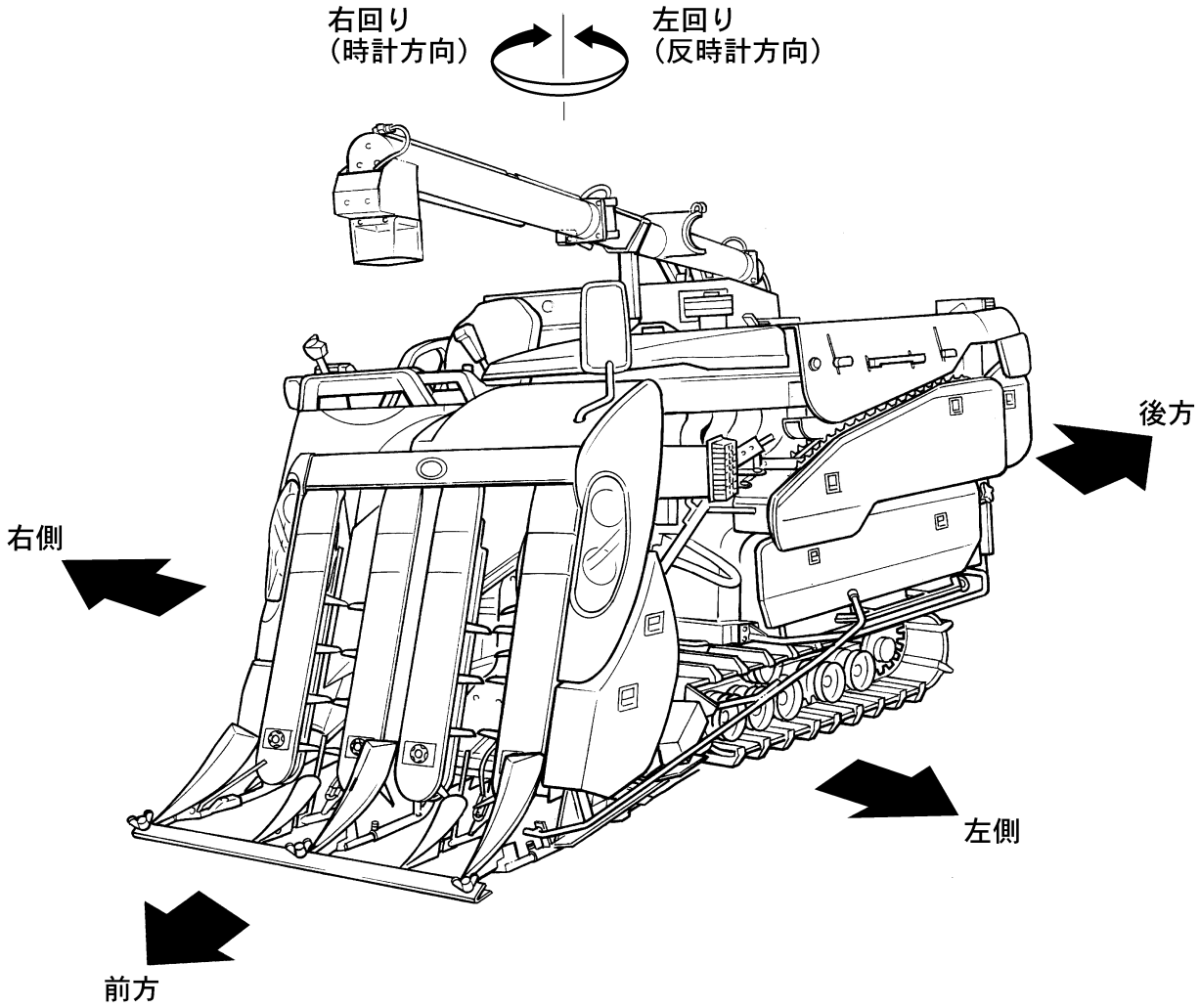
◆ 運転免許証の携帯

公道走行時は，小型特殊自動車の運転可能な運転免許証が必要です。必ず所持してください。

装置の名称と取扱い

機体方向説明

この取扱説明書で使用している**前後・左右・左回り・右回り**などの方向は，図示の通りです。

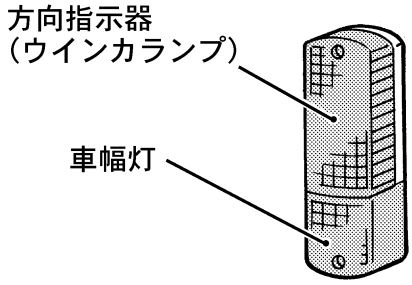


1ARADBEAP005B

※イラストは 445

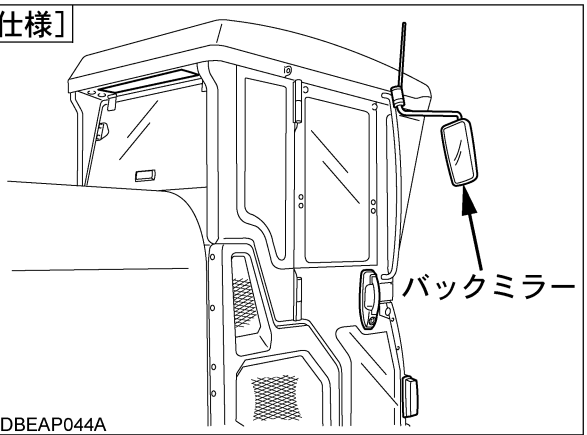
装置の名称と各部のはたらき

［方向指示器・車幅灯］［前側］

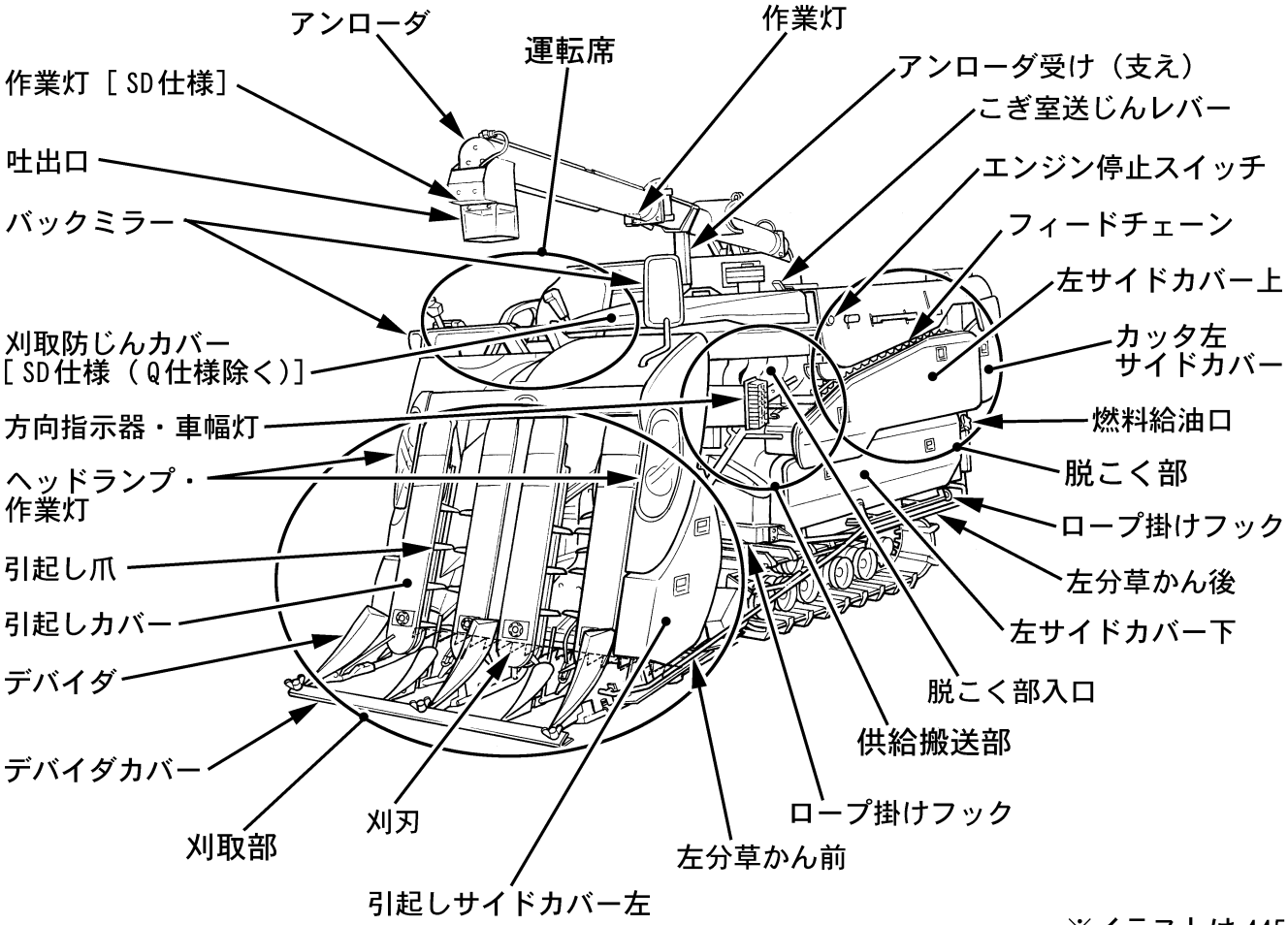


1ARADBEAP045A

［Q仕様］



1ARADBEAP044A

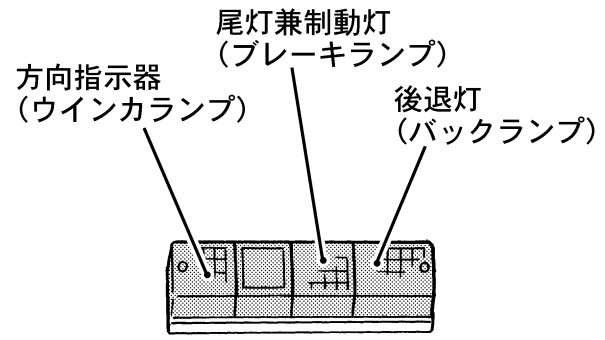


1ARADBEAP005C

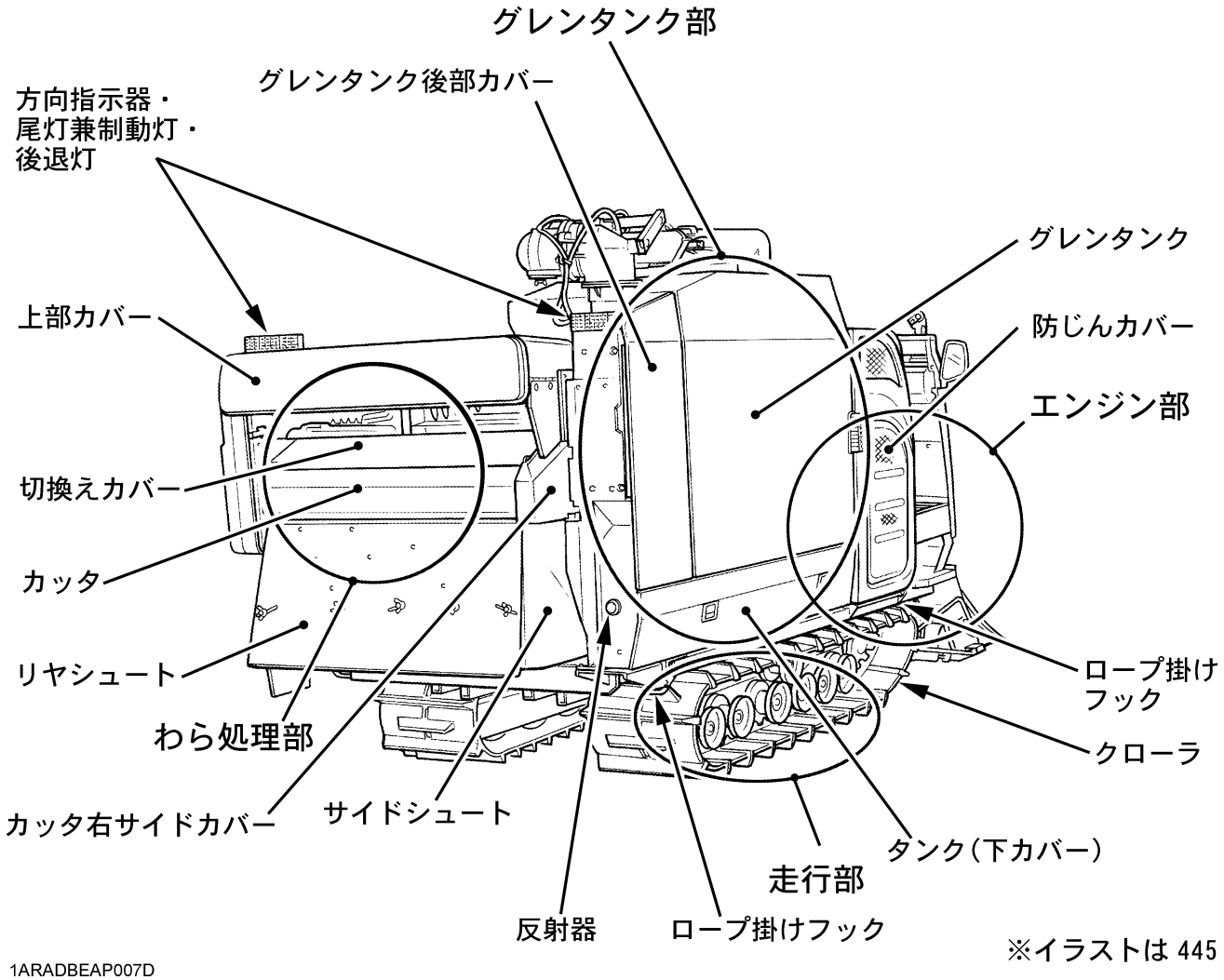
※イラストは 445

- **運転操作部**……エンジンの始動・停止や移動走行・刈取作業の運転操作を行なうところ
- **刈取部**……作物の引起しと刈取りを行なうところ
- **供給搬送部**……刈取った作物を脱こく部へ搬送するところ
- **脱こく部**……作物の脱こくを行なうところ
- **アンローダ**……グレンタンクからもみを排出する筒

［方向指示器・尾灯兼制動灯・後退灯］［後退］



1ARADBEAP046A

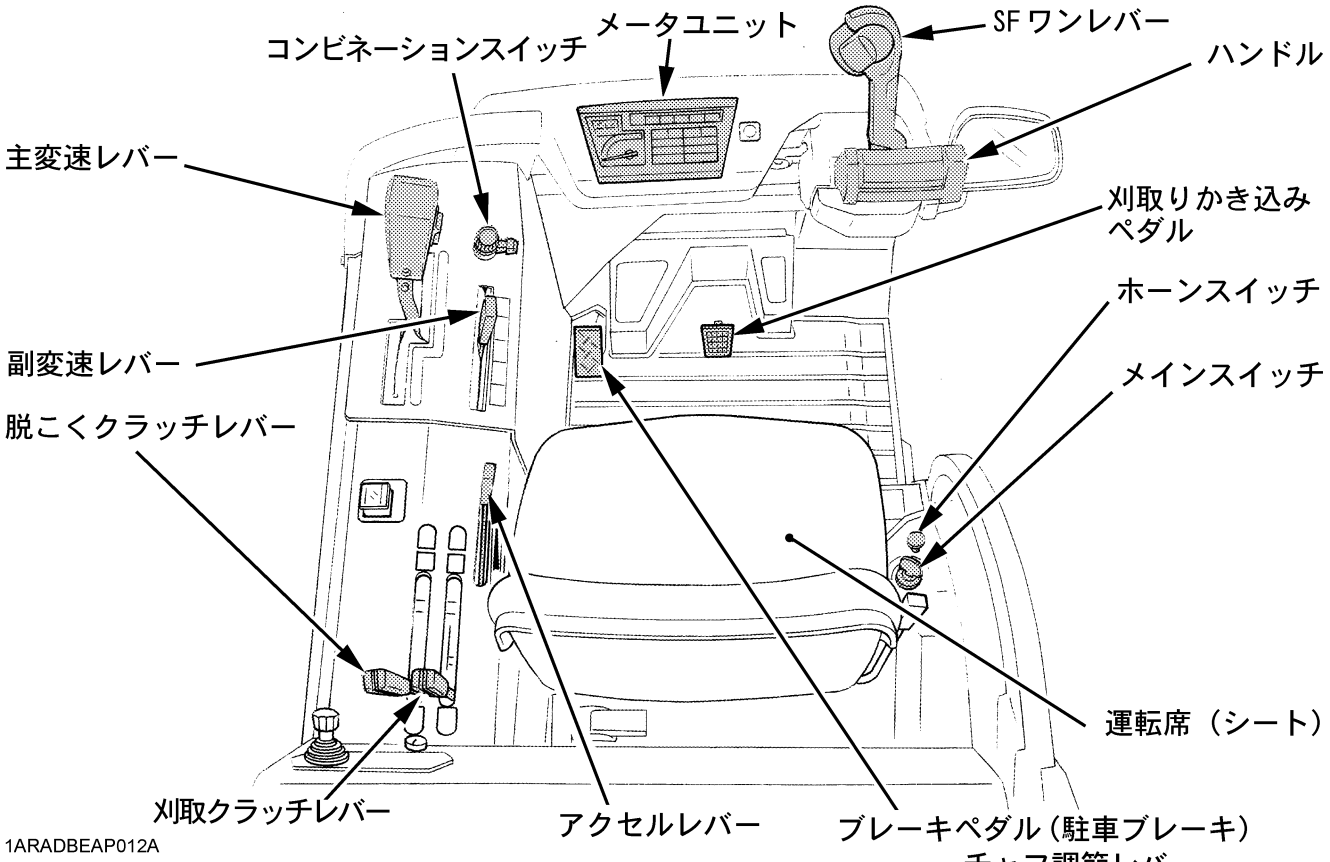


※イラストは 445

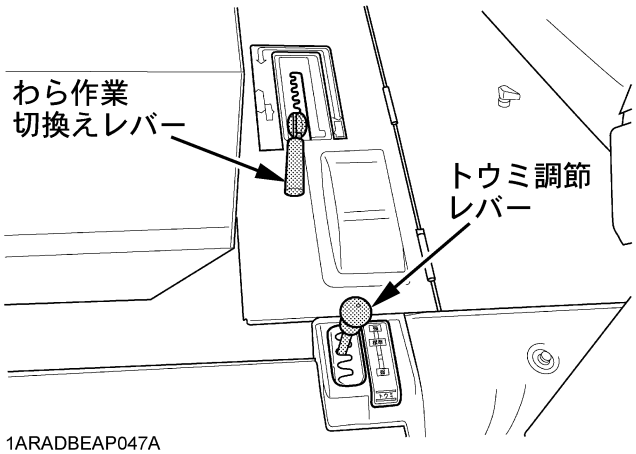
1ARADBEAP007D

- **エンジン部**……運転席下部にある動力装置
- **走行部**……クローラにより走行を行なうところ
- **グレンタンク部**……脱こくで精選されたもみを一時貯蔵したあとアンローダで排出を行なうところ
- **わら処理部**……わらの切断やばら落しなどわらの処理を行なうところ

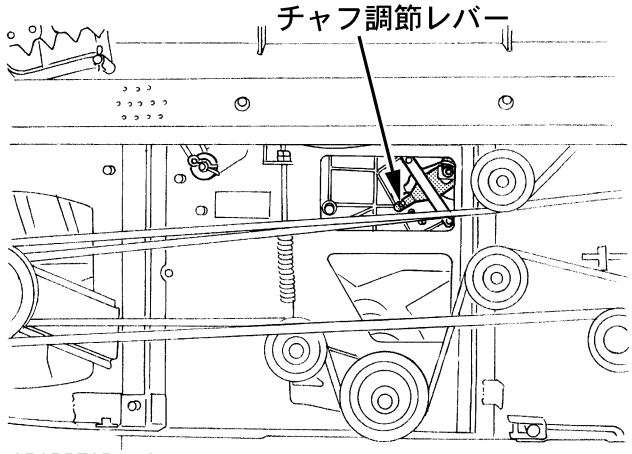
[DX 仕様]



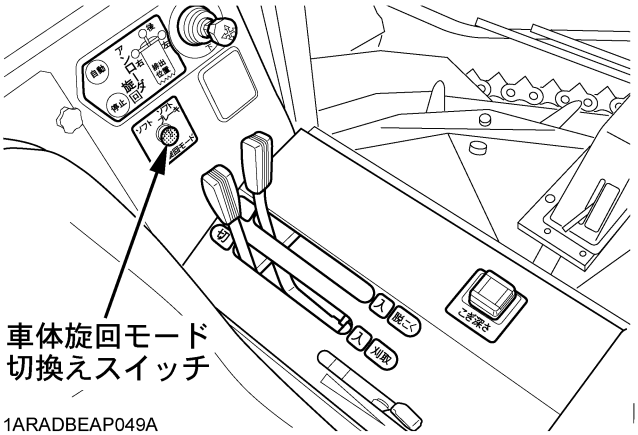
1ARADBEAP012A



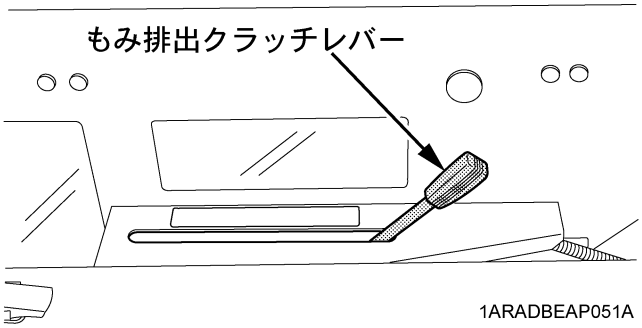
1ARADBEAP047A



1ARADBEAP048A

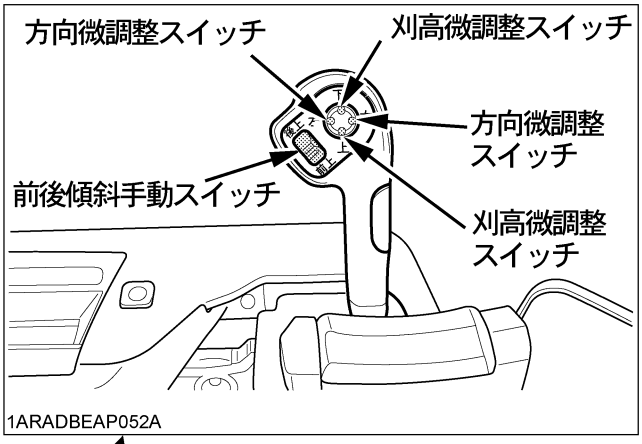


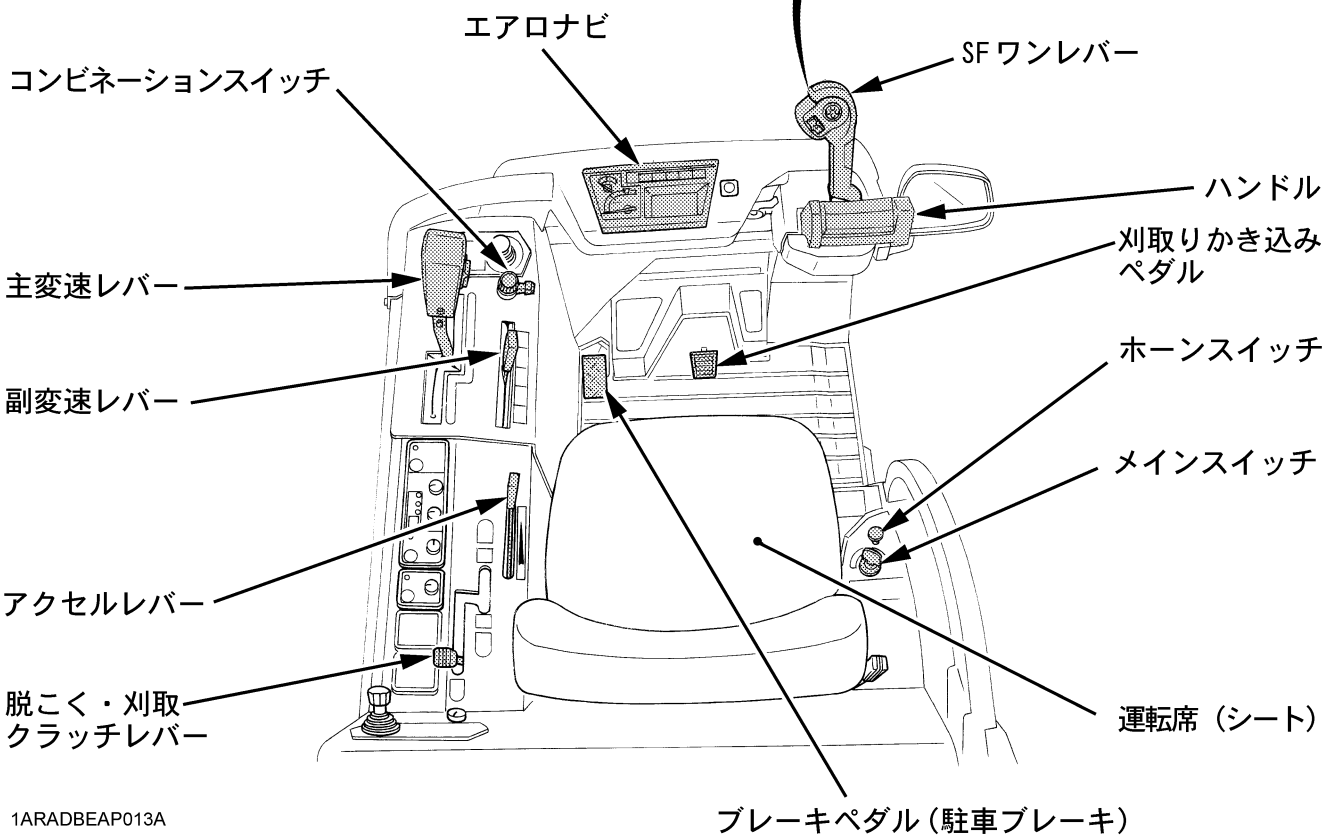
1ARADBEAP049A



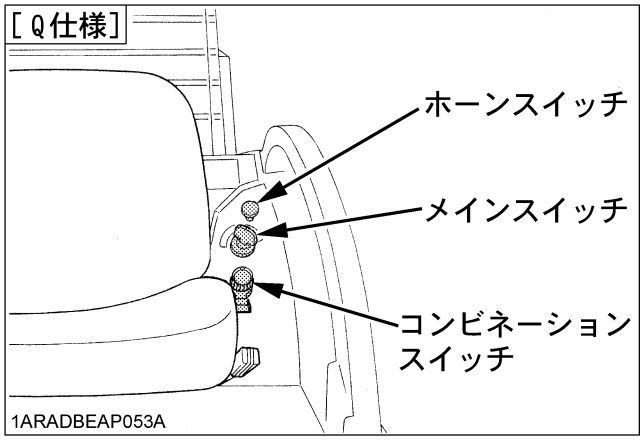
1ARADBEAP051A

[SD 仕様]

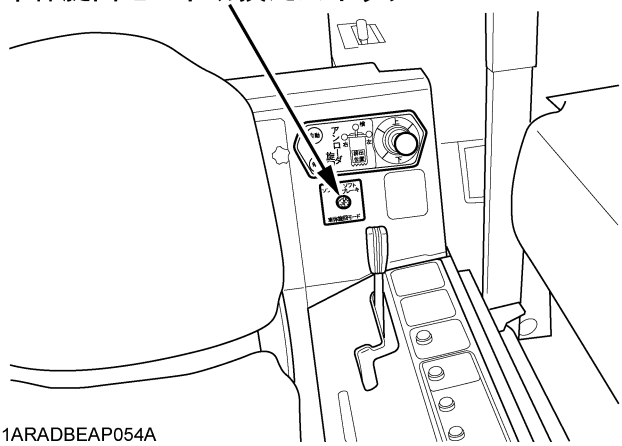




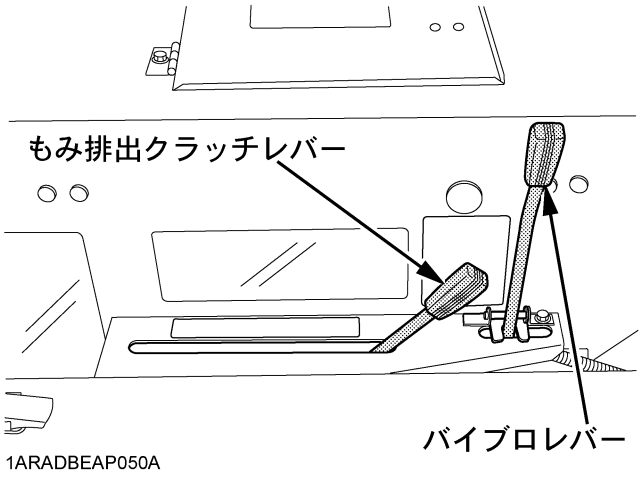
※イラストは 4M 仕様



車体旋回モード切換えスイッチ

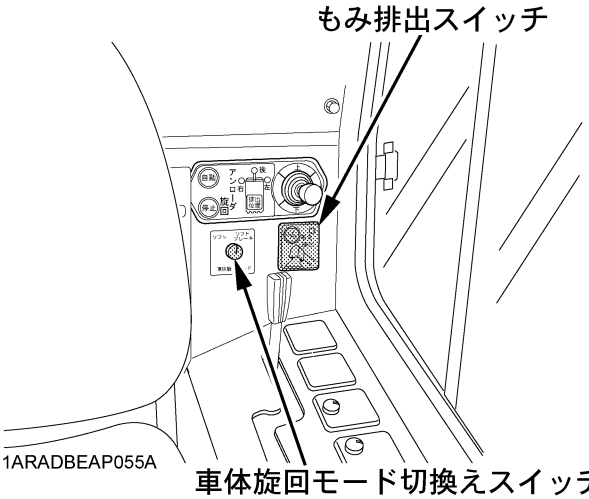


1ARADBEAP054A



1ARADBEAP050A

［Q仕様］

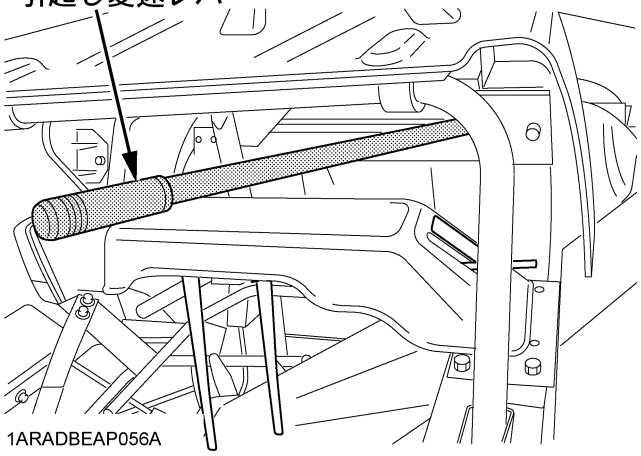


1ARADBEAP055A

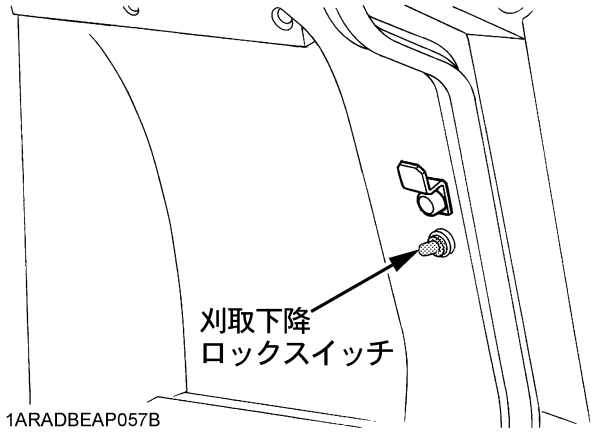
［Q仕様］

［SD 仕様］

引起し変速レバー



1ARADBEAP056A



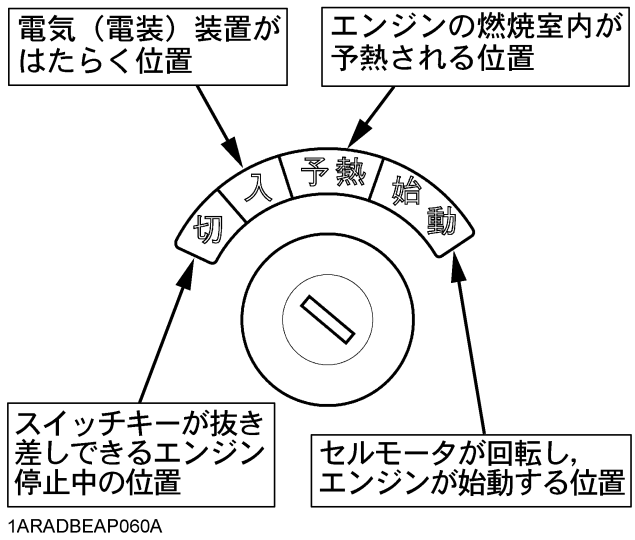
1ARADBEAP057B

◆ エンジン操作関係

■メインスイッチ

コンバインの電源の**入・切**，及びエンジンの**始動・停止**を行なうスイッチです。

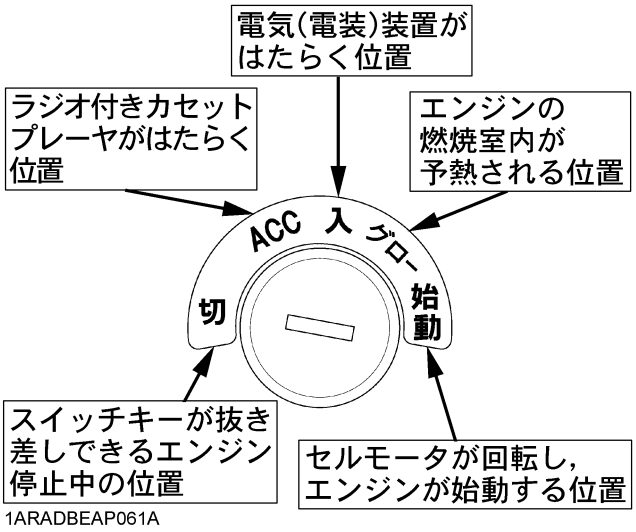
[Q 仕様除く]



1ARADBEAP060A

[Q 仕様除く]

[Q 仕様]



1ARADBEAP061A

[Q 仕様]

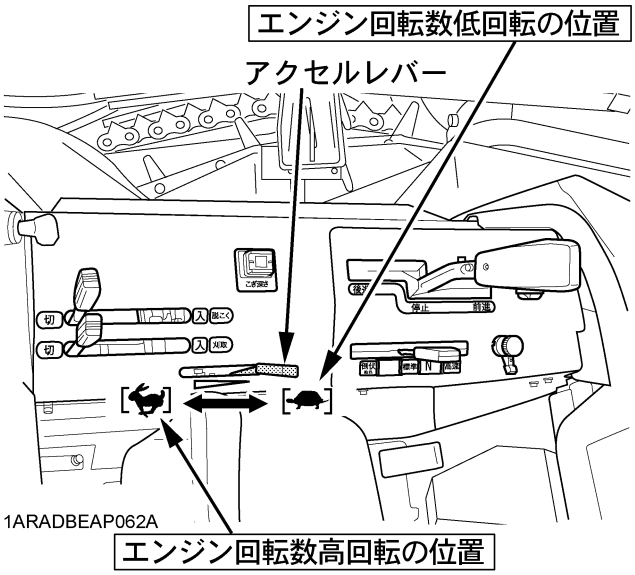
補　足

＊ エンジン始動後，スイッチキーから手を離すとスイッチキーは，**［入］**の位置に戻ります。

■アクセルレバー

エンジン回転をコントロールするレバーです。レバーを後方に引くと回転数が上がります。

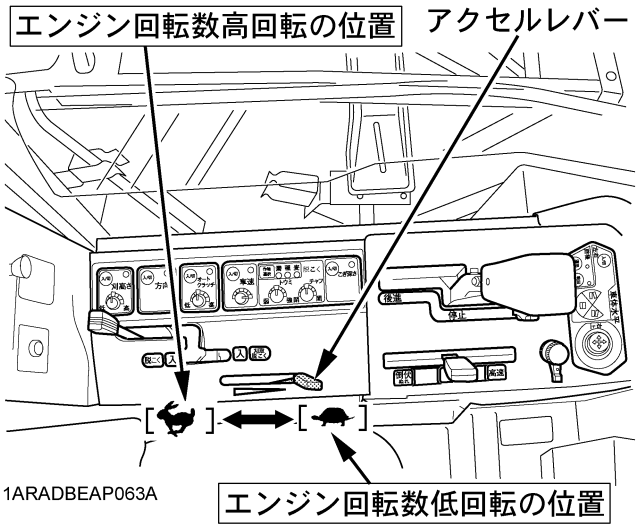
[DX 仕様]



1ARADBEAP062A

[DX 仕様]

[SD 仕様]



1ARADBEAP063A

[SD 仕様]

補　足

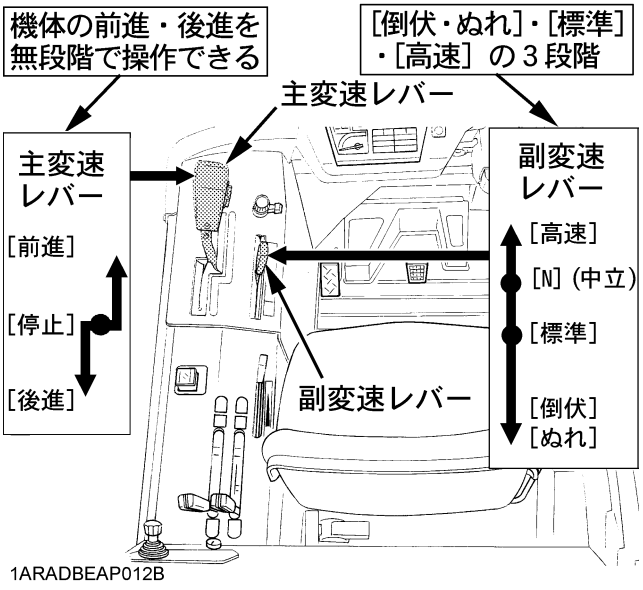
＊ エンジン回転計は，21，23 ページを参照してください。

◆ 走行操作関係

■主変速レバー・副変速レバー

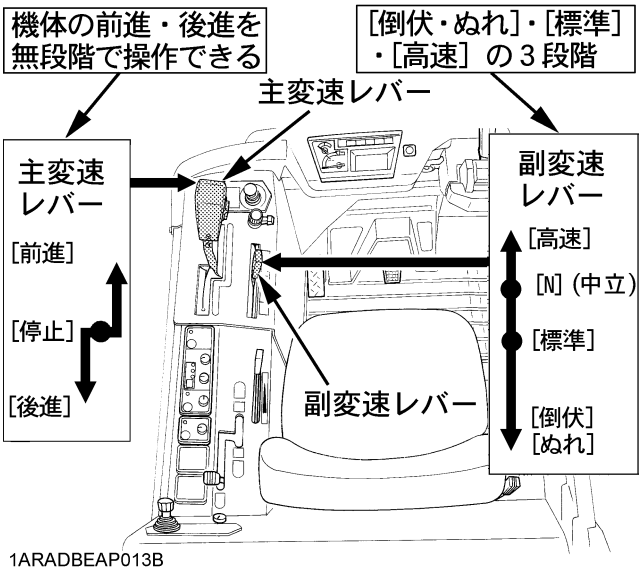
移動走行時や刈取作業時に変速をするレバーです。

[DX 仕様]



[DX 仕様]

[SD 仕様]



[SD 仕様]

重　要

＊ 駐車ブレーキが掛かっているときは，主変速レバーを動かさないでください。無理に動かすと故障の原因となります。また，駐車ブレーキが掛かっている状態で主変速レバーを動かして警報が鳴ったときは，主変速レバーを**【停止】**位置にして駐車ブレーキを解除してください。

補　足

＊ 駐車ブレーキを掛けると主変速レバーは，**【停止】**位置に固定され，主変速レバーを操作しても動きません。

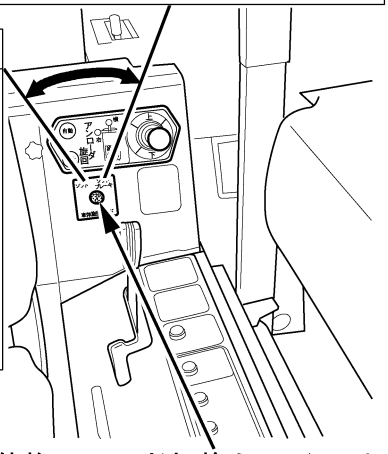
＊ **【後進】**位置にするとバックブザーが鳴り，後退灯（バックランプ）が点灯します。

■車体旋回モード切換えスイッチ

旋回方式を選択するスイッチです。作業条件に応じて切換えてください。

ソフト・ブレーキターン
SF ワンレバーを左又は右に倒すとソフトターンで旋回し，一定角度以上倒すとブレーキターンに切換わる。通常の刈取作業時に使用。

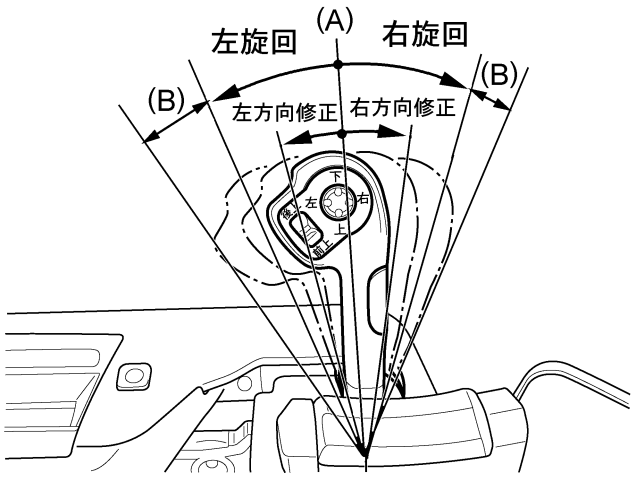
ソフトターン
左右のクローラに回転差をつけ両輪で前進駆動しながら旋回。旋回半径はやや大きくなるが湿田やほ場の荒れを少なく作業する場合，また移動走行時に使用。



1ARADBEAP054B　車体旋回モード切換えスイッチ

補　足

＊ 車体旋回モード切換えスイッチを**［ソフト・ブレーキ］**位置に選択すると**（A）**から**（B）**の範囲に切換るとブレーキターンとなります。



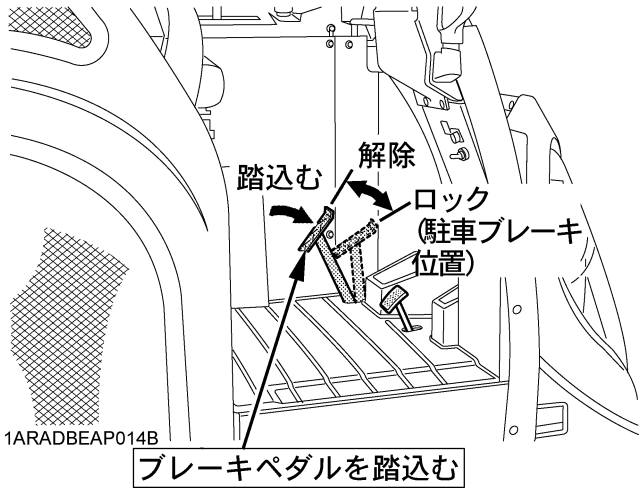
(A): ソフトターン範囲
(B): ブレーキターン範囲

［運転席にすわって操作する方向］

1ARADBEAP064A

■ブレーキペダル（駐車ブレーキ）

ブレーキペダルを踏込むとブレーキペダルはロック位置で固定され駐車ブレーキが掛かります。駐車ブレーキを解除するときは，ブレーキペダルを強く踏込んでロックを解除してください。



1ARADBEAP014B

補　足

＊ 駐車ブレーキを掛けると主変速レバーは，**［停止］**位置に固定され，主変速レバーを操作しても動きません。
＊ 移動（路上を含む）走行時は，駐車ブレーキペダルを**［解除］**位置にしてください。
＊ 駐車ブレーキペダルを踏込まないと，エンジンは始動しません。

［SD 仕様］

補　足

＊ 駐車ブレーキペダルが**［解除］**位置でエンジンを始動しようとすると，液晶ディスプレイに下記内容を表示します。



1ARADBEAP5960

［SD 仕様］

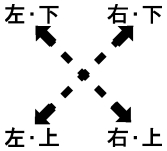
■ SF ワンレバー

SF ワンレバーは，機体走行時の進路変更と刈取部の昇降の操作を行なうレバーです。

● SF ワンレバー

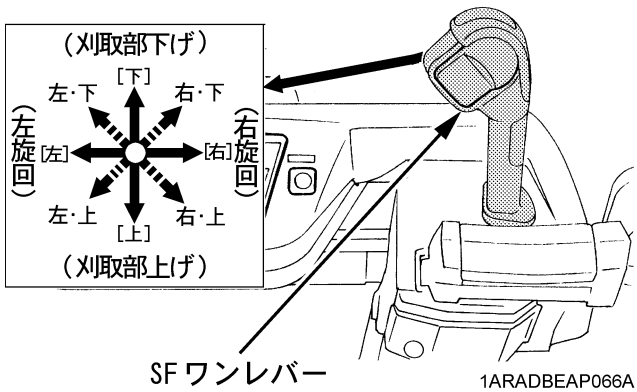
［左］⟷［右］ …… レバーを倒した方向に機体の進路が変わります。倒す角度に応じて進路の方向修正から旋回を行ないます。

［下げ］
↕
［上げ］ …… レバーを倒した方向に刈取部が上下に動きます。



…… レバーを倒した方向に機体の進路が変わると同時に，刈取部が上下に動きます。

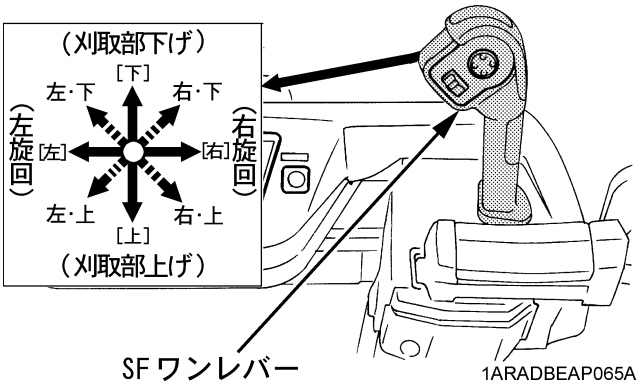
［DX 仕様］



1ARADBEAP066A

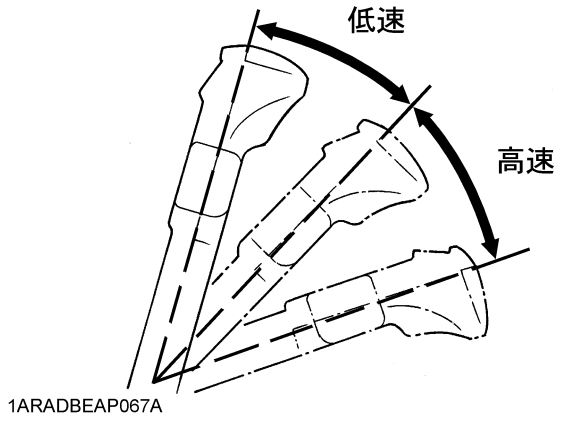
［DX 仕様］

[SD 仕様]



補　足

＊ 昇降速度は，レバーを前側に倒す量により低速範囲から高速範囲へと切換わります。



[SD 仕様]

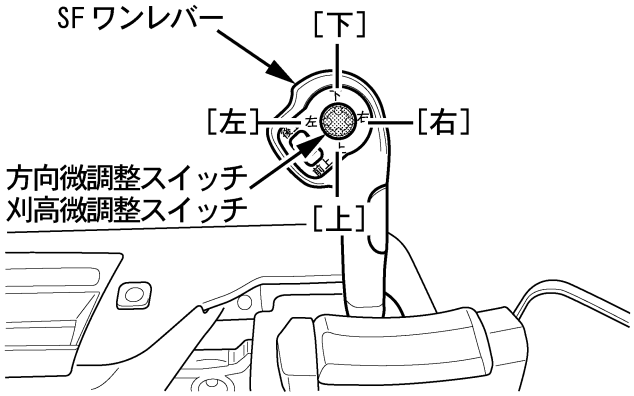
補　足

＊ エンジンが停止中で，刈取部が上がっているときに SF ワンレバーを前方（**[下]** 方向）に倒しても刈取部は下がりません。

■方向微調整スイッチ・刈高微調整スイッチ

[SD 仕様]

方向微調整スイッチは，刈取作業時に機体進路の方向修正を行なうスイッチです。また，刈高微調整スイッチは，刈取作業時に刈取部の高さ修正を行なうスイッチです。



● **方向微調整スイッチ**

[左]⟷[右] …… スイッチを押した方向に機体の進路が変わります。

補　足

＊ 方向修正を行なうときは，SF ワンレバーと方向微調整スイッチを同時に操作することはできません。操作するときは，レバー又は，スイッチのどちらかを操作してください。
＊ 方向微調整スイッチは，方向修正を行なうスイッチです。旋回など機体を大きく方向転回するときは，SF ワンレバーを操作してください。

● **刈高微調整スイッチ**

[上]⟷[下] …… スイッチを押した方向に刈取部が動きます。

補　足

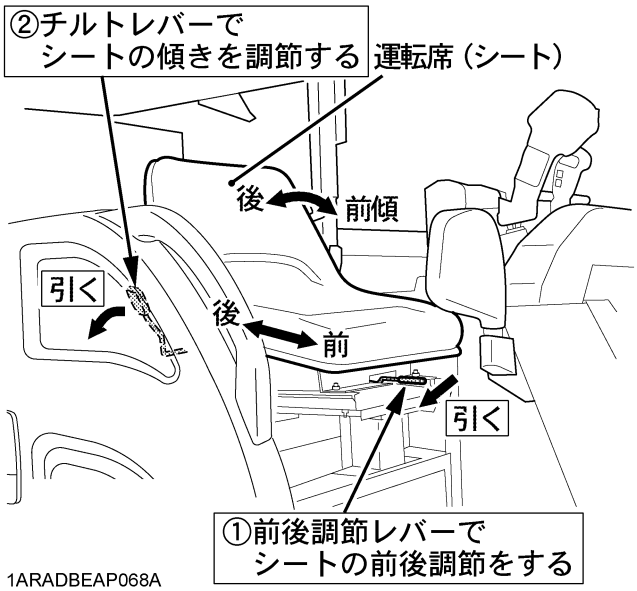
＊ 刈取部を最上昇又は，最下降するときなど大きく動かすときはSF ワンレバーを操作してください。

[SD 仕様]

■運転席（シート）

[DX 仕様]

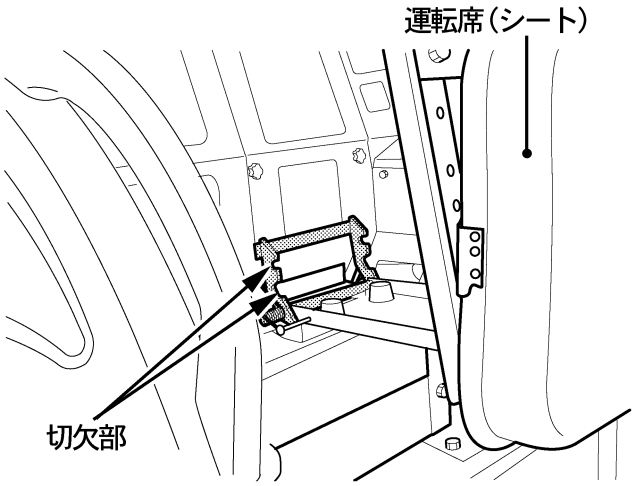
運転席は，**前，後**方向と**前傾斜**方向に調節が行なえます。調節は，前後調節レバー（**前，後**方向），チルトレバー（**前傾斜**方向）をそれぞれ引いて行なってください。



1ARADBEAP068A

補　足

＊ 前傾斜方向は 2 段階の調節が行なえますが，運転席後下の切欠部にロッドを必ず掛けてフックしてください。

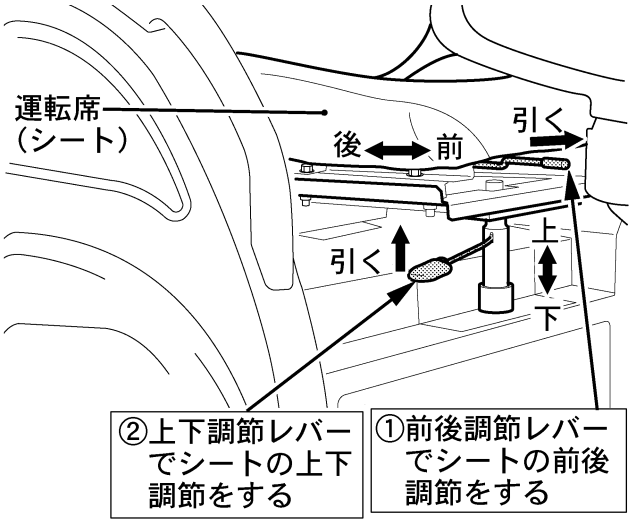


1ARADBEAP069A

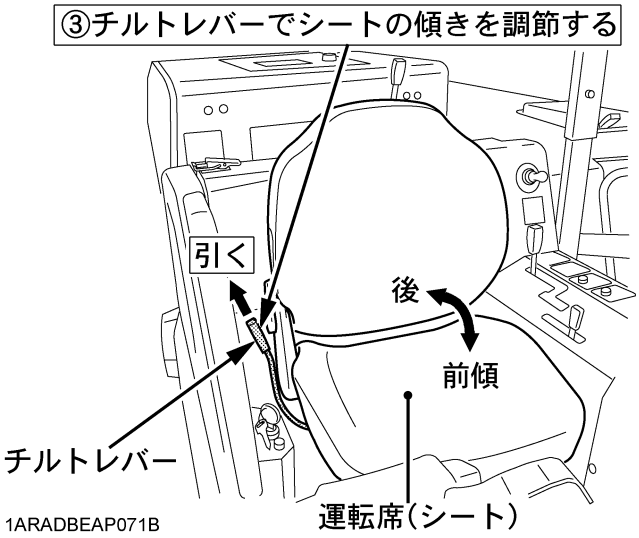
[DX 仕様]

[SD 仕様]

運転席は，**前，後**方向と**上，下**方向及び**前傾斜**方向に調節が行なえます。調節は，前後調節レバー（**前，後**方向），上下調節レバー（**上，下**方向），チルトレバー（**前傾斜**方向）をそれぞれ引いて行なってください。



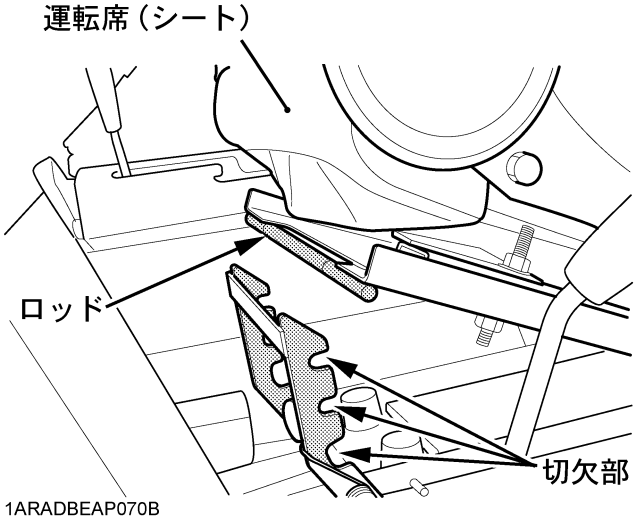
1ARADBEAP023B



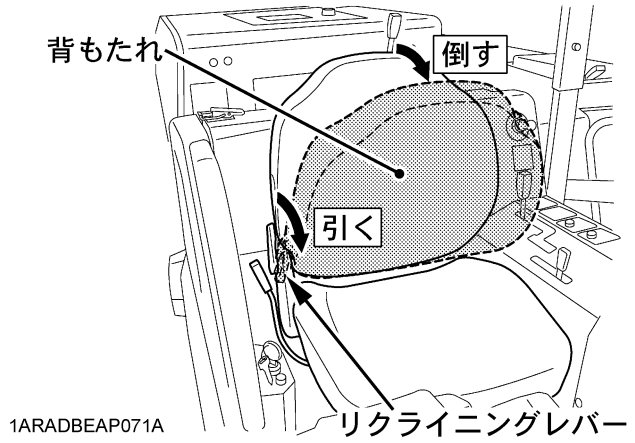
1ARADBEAP071B

補　足

＊ 前傾斜方向は３段階の調節が行なえますが，運転席後下の切欠部にロッドを必ず掛けてフックしてください。



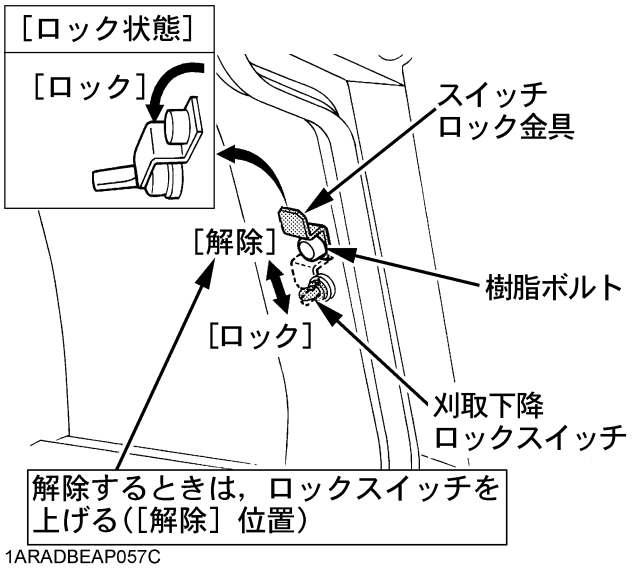
＊ 運転席の背もたれは，リクライニングレバーを引いて前方へ倒すことができます。元に戻るときは，背もたれをロックするまで後方に倒してください。



［SD 仕様］

■刈取下降ロック装置

刈取部の下降防止を行なうロックスイッチです。ロックスイッチを下げる（**［ロック］**位置）と SF ワンレバーを操作しても刈取部は下降しません。



補　足

＊ ロックスイッチを下げたときは，必ずスイッチロック金具でロックスイッチを固定し解除防止を行なってください。スイッチロック金具は樹脂ボルトをゆるめて動かしてください。

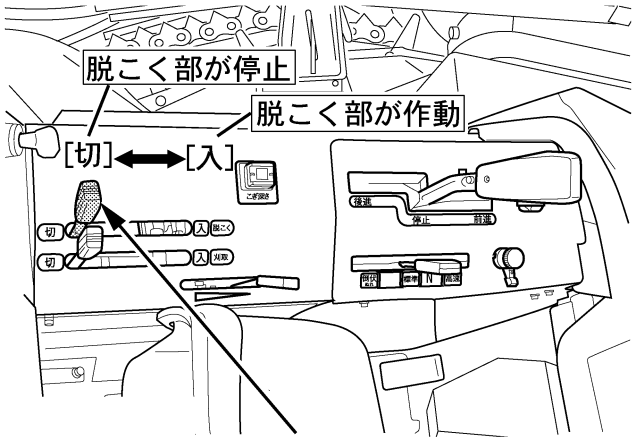
＊ エンジンを始動しないと刈取部は上昇，下降しません。

◆刈取・脱こく関係

■脱こくクラッチレバー

[DX 仕様]

脱こく部の動力を**入・切**するクラッチレバーです。



1ARADBEAP062B

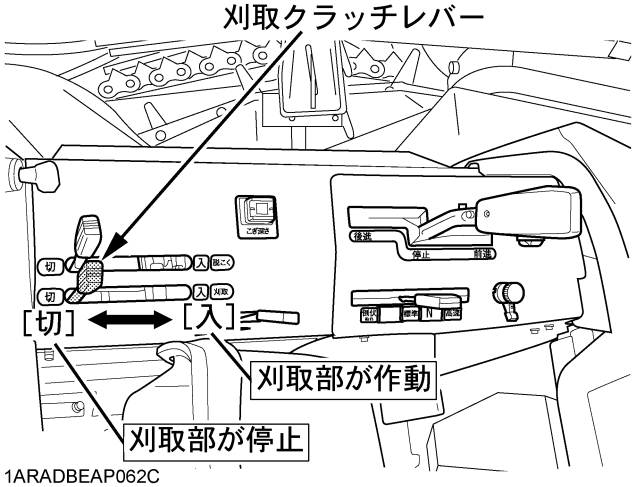
脱こくクラッチレバー

[DX 仕様]

■刈取クラッチレバー

[DX 仕様]

刈取部の動力を**入・切**するクラッチレバーです。



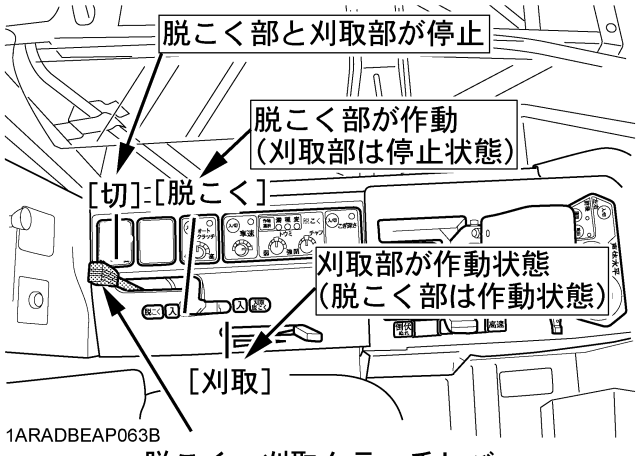
1ARADBEAP062C

[DX 仕様]

■脱こく・刈取クラッチレバー

[SD 仕様]

脱こく部と刈取部の動力を**入・切**するクラッチレバーです。



1ARADBEAP063B

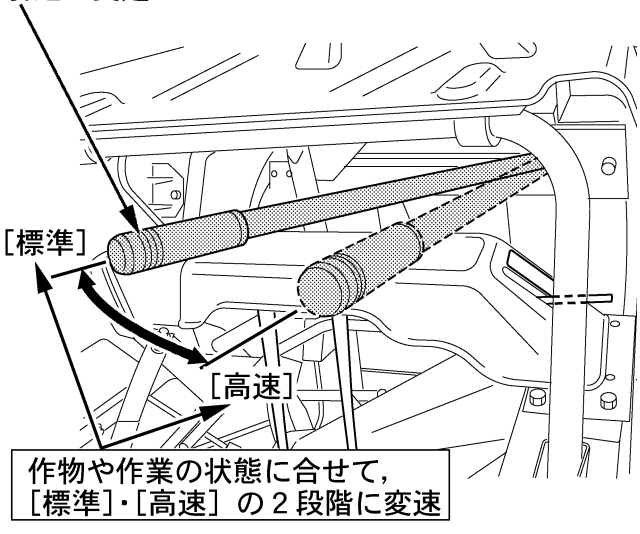
脱こく・刈取クラッチレバー

[SD 仕様]

■引起し変速レバー

刈取部の速度を変えるレバーです。

引起し変速レバー

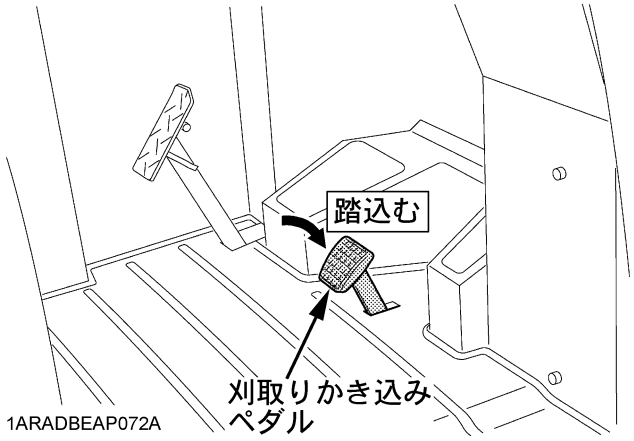


1ARADBEAP056B

■刈取りかき込みペダル

あぜぎわなどで前進しながら刈取作業が行なえないとき，機体の走行を停止した状態で作物の刈取りを行なうときに使用するペダルです。脱こく機が作動中，かき込みペダルを踏込み，主変速レバーを**【前進】**側に操作すると刈取部及び搬送部が動き，作物の刈取り（かき込み）を行ないます。

かき込み作業を行なうときは，主変速レバーをいったん**【停止】**位置に戻したあと，かき込みペダルを踏込んだまま，主変速レバーを再度**【前進】**側に操作してください。また，かき込み作業を終了するときは，主変速レバーをいったん**【停止】**位置に戻したあと，かき込みペダルから足を離してください。



1ARADBEAP072A

重　要

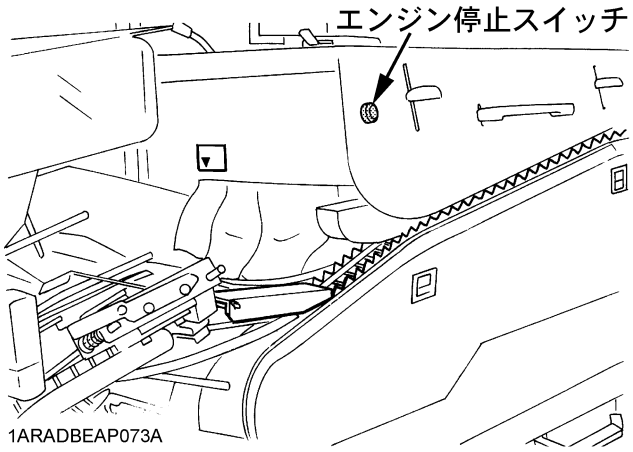
＊ 駐車ブレーキが掛かっているときや機体が走行中にペダルを強く踏込まないでください。故障の原因となるおそれがあります。

補　足

＊ 誤操作による急発進を防ぐため，主変速レバーをいったん**【停止】**位置近くまで戻さないとペダルを離しても発進しません。
＊ かき込み作業中にペダルから足を離してもかき込みは行ないますが，ペダルから足を離した状態で主変速レバーを**【停止】**位置近くまで戻す途中にかき込みをしながら走行することがありますので，必ずかき込み作業中はペダルから足を離さないでください。
＊ 駐車ブレーキが掛かっているときや機体が走行中は，ペダルを踏込めません。

■エンジン停止スイッチ

エンジンを停止するスイッチです。エンジンが停止すると同時にブザーが鳴ります。



1ARADBEAP073A

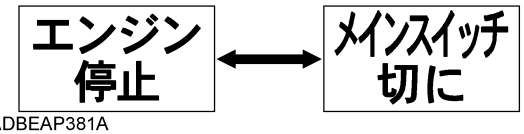
補　足

＊ スイッチキーを**【切】**位置にするとブザーは止まります。
＊ スイッチキーを**【切】**位置に戻してからエンジンを再始動してください。

[SD 仕様]

補　足

＊ エンジン停止スイッチを押すと，液晶ディスプレイに下記の内容を一定時間交互に表示します。



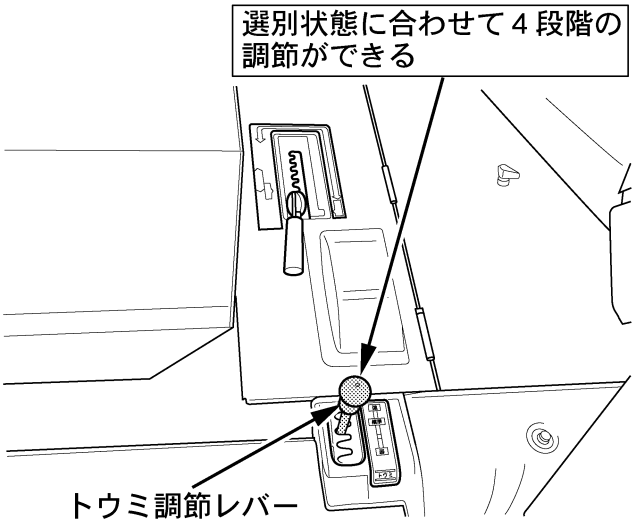
1ARADBEAP381A

[SD 仕様]

■トウミ調節レバー

[DX 仕様]

トウミの風力調節を行なうレバーです。



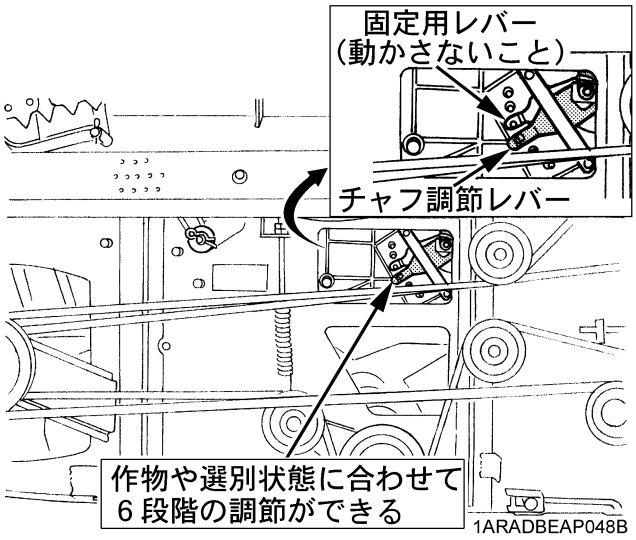
1ARADBEAP074A

[DX 仕様]

■チャフ調節レバー

[DX 仕様]

シーブケースにある選別板のすき間（開度）の調節を行なうレバーです。



1ARADBEAP048B

補　足

* 調節は，チャフ調節レバーで行なってください。また，固定用レバーは動かさないでください。
* チャフ調節レバーは，左サイドカバーを取外し，脱こく部左の掃除口カバーを取外すとあります。

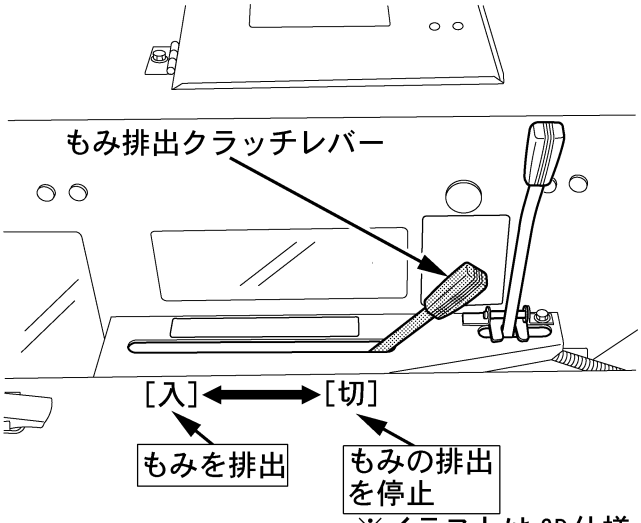
[DX 仕様]

◆ グレンタンク関係

■もみ排出クラッチレバー

[Q 仕様除く]

グレンタンク内のもみ排出操作を行なうレバーです。



1ARADBEAP050B

※イラストは SD 仕様

補　足

＊ もみ排出クラッチレバーを **[切]** 位置にしないと，エンジンは始動しません。

[SD 仕様]

補　足

＊ もみ排出クラッチレバーが **[入]** 位置でエンジンを始動しようとすると，液晶ディスプレイに下記内容を表示します。



1ARADBEAP382A

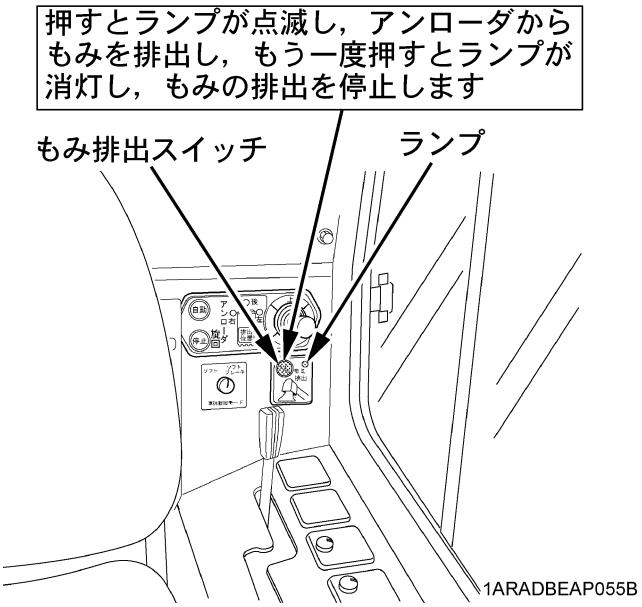
[SD 仕様]

[Q 仕様除く]

■もみ排出スイッチ

[Q 仕様]

グレンタンク内のもみの排出操作を行なうスイッチです。



1ARADBEAP055B

補　足

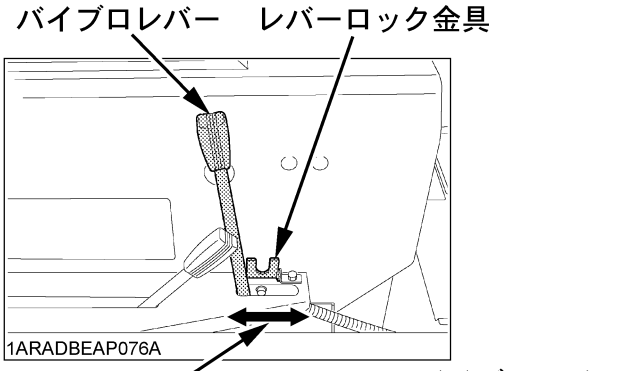
＊ エンジン始動後にアンローダが収納状態では，もみ排出スイッチを操作しても，もみは排出しません。

[Q 仕様]

■バイブロレバー

[SD 仕様]

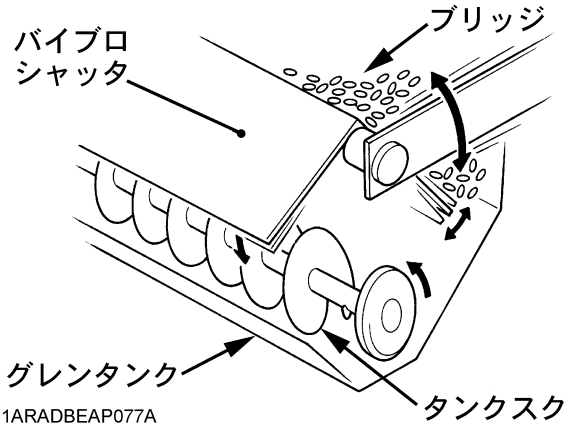
もみ排出を行なうとき，グレンタンク底部のバイブロシャッタに濡れたもみがブリッジを作ったとき，バイブロレバーのロック金具を上げてロックを解除し，レバーを左，右に動かしてバイブロシャッタを振動させブリッジを取除くレバーです。



1ARADBEAP076A

1ARADBEAP075A

※イラストは Q 仕様除く



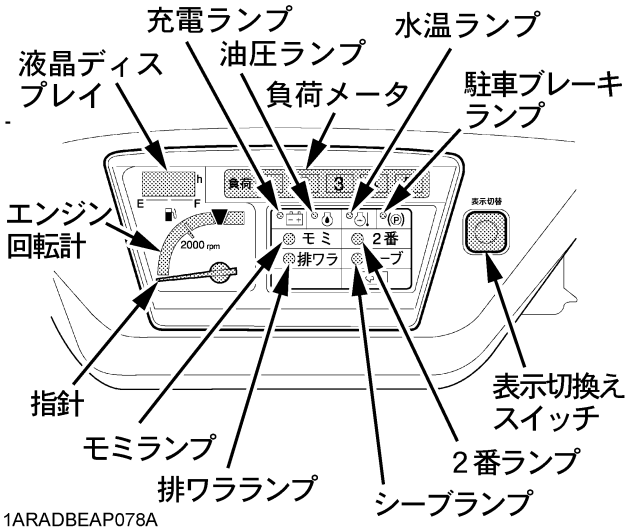
1ARADBEAP077A

[SD 仕様]

◆ 電装関係

■メータユニット

[DX 仕様]



1ARADBEAP078A

◆ 各メータ

● エンジン回転計（単位：rpm）

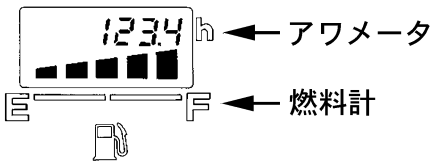
１分間のエンジン回転数を指針で表示します。

● 燃料表示

燃料の残量を液晶の目盛り（５段階）で表示します。

● アワメータ表示**（単位：h［時間］）**

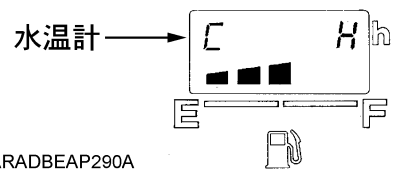
エンジン運転時間の積算使用時間を表示します。



1ARADBEAP289A

● 水温表示

エンジンの冷却水温を液晶の目盛り（５段階）で表示します。



1ARADBEAP290A

補　足

＊ 表示切換えスイッチを押すと，燃料計・アワメータと水温計を交互に表示します。
＊ 機械に異常が発生すると，アワメータ表示部にエラーメッセージ（例：E-012）を表示します。エラーメッセージが表示されたときは，購入先に連絡してください。また，エラーメッセージが表示されているとき表示切換えスイッチを押すと燃料・アワメータ又は，水温表示に換わります

● 負荷メータ
刈取作業中にエンジンにかかる負荷の大きさに応じて順番にランプが点灯します。

◆ 各ランプ

補　足

＊ 処置については，119 ページを参照してください。

● 充電ランプ
充電系統に異常が発生すると点灯します。

● 油圧ランプ
エンジンオイルの圧力が，異常に低下すると点灯します。

● 水温ランプ
エンジン冷却水温が高温になると点灯します。

● 駐車ブレーキランプ
駐車ブレーキを掛けると点灯します。

● モミランプ
グレンタンク内のもみが満杯になると点灯します。

● ２番ランプ
２番処理ケース内又は，２番縦スクリュケース内が詰まると点灯します。

● シーブランプ
脱こく機の選別板上のもみの量が異常に多くなったとき点灯します。

● 排ワラランプ
フィードチェーン終端部及びわら処理（カッタ）部にわらが詰まり，エンジンが自動停止**（エンジン自動停止装置）**すると表示します。

[結束機付き仕様]

補　足

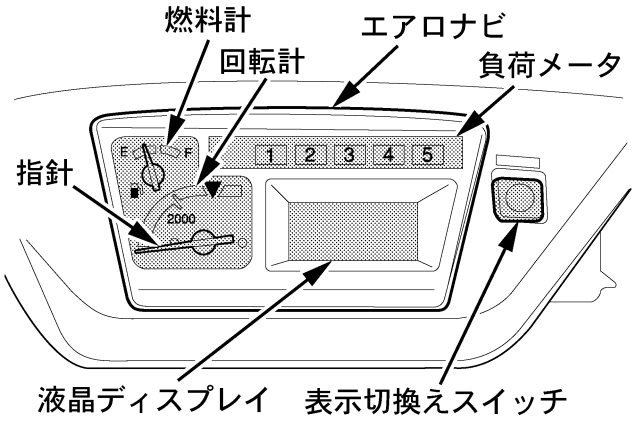
＊ 排ワラランプ表示は，わら詰まり・ひも切れ・ひも詰まりでも点灯します。

[結束機付き仕様]

[DX 仕様]

■エアロナビ

[SD 仕様]



1ARADBEAP079A

◆各メータ

● エンジン回転計（単位：rpm）

１分間のエンジン回転数を指針で表示します。

● 燃料計

燃料の残量を表示（**[E]**〔空〕⟷**[F]**〔満タン〕）します。

● 負荷メータ

刈取作業中にエンジンにかかる負荷の大きさに応じて順番にランプが点灯します。

◆液晶ディスプレイ・表示切換えスイッチ

液晶ディスプレイは機械の状態や状況（通常作業時，異常発生時，誤操作時など）に応じて，必要な情報を表示します。また，表示切換えスイッチを押すと液晶ディスプレイの表示内容が切換わります。

1. 移動走行・通常作業時

(1)［アワーメータ・オイル・充電］表示

駐車ブレーキが掛かっていない状態でスイッチキーを**［切］**位置から**［入］**位置にすると表示します。（エンジンは停止状態）

補　足

＊ 駐車ブレーキペダルを踏込んでいるときは，**［駐車ブレーキ（P)］**を優先的に表示します。

● アワメータ表示**（単位：h［時間］）**

エンジンの運転時間の積算使用時間を表示します。

● オイル・充電表示

オイルの圧力と充電状態に異常が発生したとき，警報を出す準備状態にあることを表示します。



1ARADBEAP329A

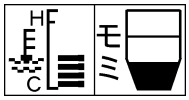
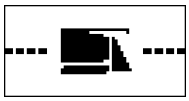
重　要

＊ エンジンは停止状態で，オイル又は，充電の表示が消えているときは，オイルの油圧異常又は，充電異常が発生しても警報が出ないため，購入先に連絡してください。

(2) マルチ表示

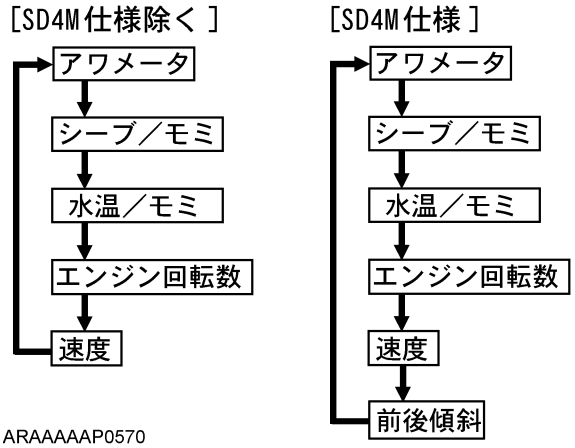
エンジンを始動すると下記の基本表示のいずれかを表示しますので，必要に応じて表示切換えスイッチを押して切換えてください。

● **表示**

アワメータ		エンジン運転時間の積算使用時間を表示します。
シーブ／モミ		脱こく機の選別板（シーブ）上のもみ量とグレンタンク内のもみ量を表示します。
水温／モミ		エンジンの水温とグレンタンク内のもみ量を表示します。
エンジン回転		１分間のエンジン回転数をデジタル表示します。
速　度		１秒間に進む距離をデジタル表示します。
前後傾斜 **[SD4M 仕様]**		前後傾斜を表示します。

補　足

＊ 通常表示は表示切換えスイッチを１回押すごとに下記➡ の順で表示が切換わります。

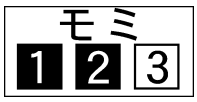


1ARAAAAAP0570

＊ エンジン始動中は，オイル・充電表示はされません。

＊ シーブ／モミ表示と水温／モミ表示は，単体（シングル）表示をすることができますので，必要な場合は，購入先に連絡してください。

● **もみシングル表示**



● **シーブシングル表示**



● **水温シングル表示**



＊ エンジンを停止したときの表示内容が，次にエンジンを始動したときに最初に表示されます。

＊ **[速度]** 表示は，ほ場条件により実際の速度と異なる場合があります。

2. 異常発生時

補　足

＊ 処置については 122 ページを参照してください。

● **表示**

燃料を給油		燃料の残量が少なくなると表示します。
充電系異常		充電系統に異常が発生すると表示します。
エンジン油圧異常		エンジンオイルの圧力が，異常に低下すると表示します。
オーバーヒート		エンジンの冷却水温が高温になると表示します。
負　　荷		刈取作業中にエンジンに大きな負荷がかかると表示します。
モミ満杯		グレンタンク内のもみが満杯になると表示します。
2　　番		２番処理ケース内又は，２番縦スクリュケース内が詰まると，表示します。
こぎ深さ		自動こぎ深さ制御がはたらいている状態で，穂先センサにわらの引掛かりなどの異常が発生すると表示します。
シーブ		脱こく機の選別板上のもみの量が異常に多くなったとき表示します。
排ワラ		フィードチェーン終端部にわらが詰まり，エンジンが自動停止（エンジン自動停止装置）すると表示します。
カッタ		わら処理（カッタ）部にわらが詰まり，エンジンが自動停止（エンジン自動停止装置）すると表示します。

[結束機付き仕様]

補　足

- カッタ表示は，わら詰まり・ひも切れ・ひも詰まりでも表示します。

[結束機付き仕様]

3. 誤操作時

- **表示**

アンローダを上げる	アンローダを上げる	アンローダ**下降不可範囲**内で，誤まったアンローダレバー操作をすると表示します。

補　足

＊ **下降不可範囲**については，100 ページを参照してください。

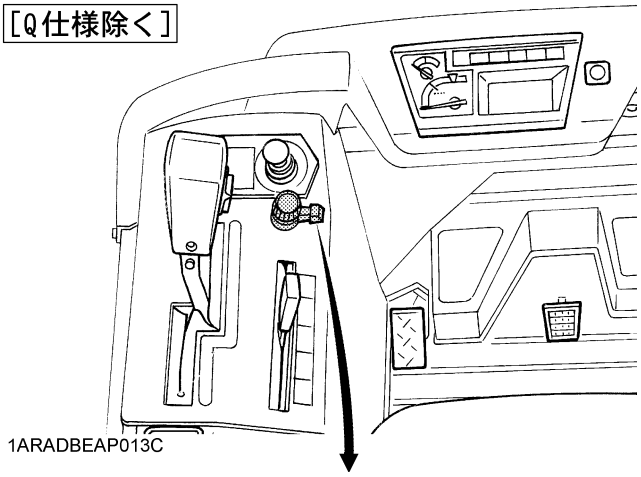
エンジン始動時にスイッチキーを**【始動】**位置にしたとき，各レバー，ペダル類が始動条件に合っていない場合，その内容を表示します。

脱こくクラッチ切に	脱こくクラッチ切に	脱こく・刈取クラッチレバーが**【脱こく】**又は，**【刈取】**位置のときに表示します。
主変速を中立に	主変速中立に	主変速レバーが**【停止】**（中立）位置以外のときに表示します。
もみ排出クラッチ切に	モミ排出クラッチ切に	もみ排出クラッチレバーが**【入】**位置のときに表示します。
ブレーキペダルを踏む	ブレーキペダルを踏む	駐車ブレーキペダルを踏んでいないときに表示します。

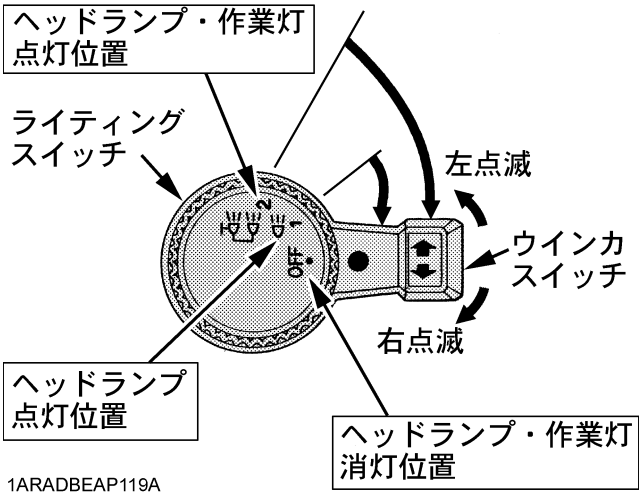
[SD 仕様]

■コンビネーションスイッチ・ホーンスイッチ

[Q仕様除く]

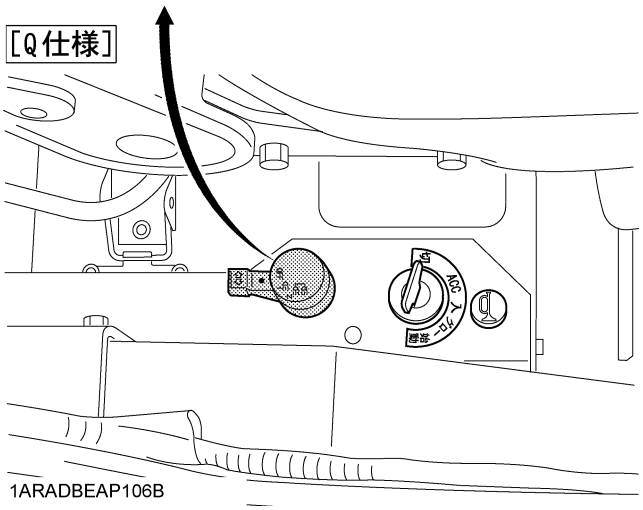


1ARADBEAP013C

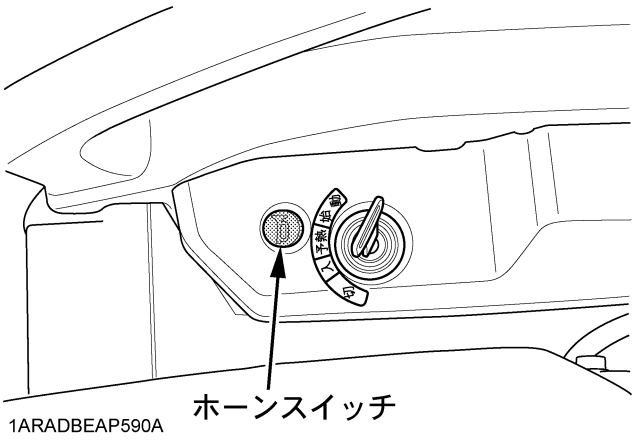


1ARADBEAP119A

[Q仕様]



1ARADBEAP106B



1ARADBEAP590A

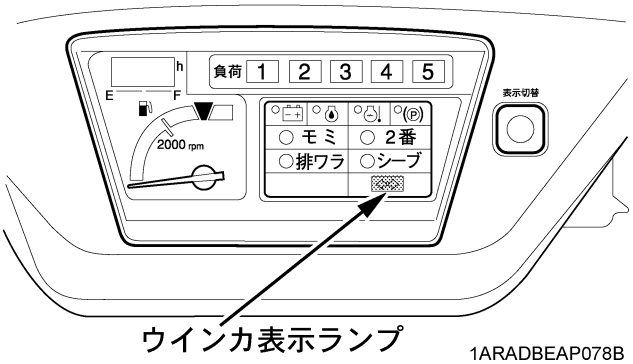
● **ライティングスイッチ**
スイッチを操作するとランプが点灯します。

● **ホーンスイッチ**
ホーンスイッチを押すとホーンが鳴ります。

● **ウインカスイッチ**

[DX 仕様]

旋回方向に操作すると, ウインカランプが点滅すると同時にメータユニットのウインカ表示ランプが点滅します。

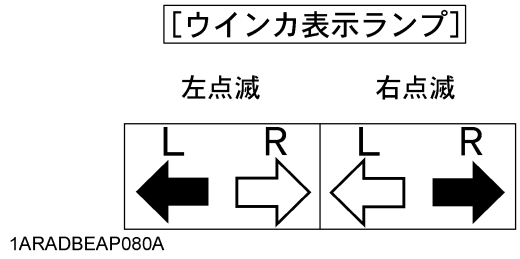


1ARADBEAP078B

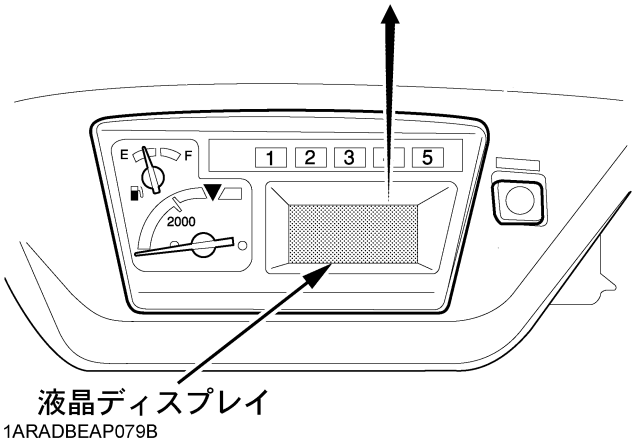
[DX 仕様]

[SD 仕様]

旋回方向に操作すると, ウインカランプが点滅すると同時にエアロナビの液晶ディスプレイにウインカ表示が点滅します。



1ARADBEAP080A



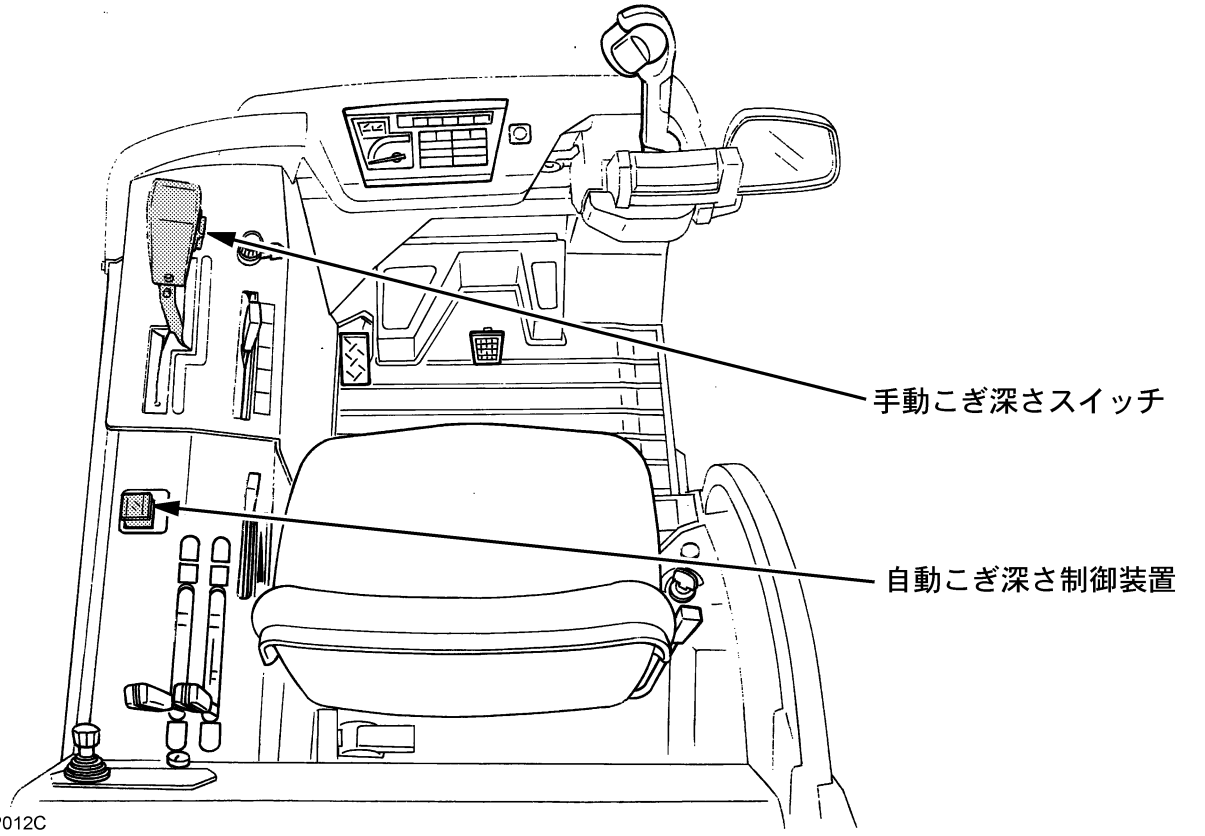
1ARADBEAP079B

[SD 仕様]

自動化装置の名称と取扱い

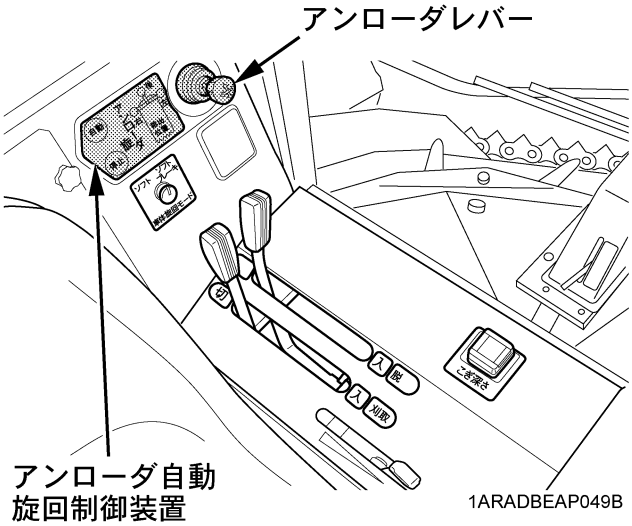
装置の名称と各部のはたらき

[DX 仕様]

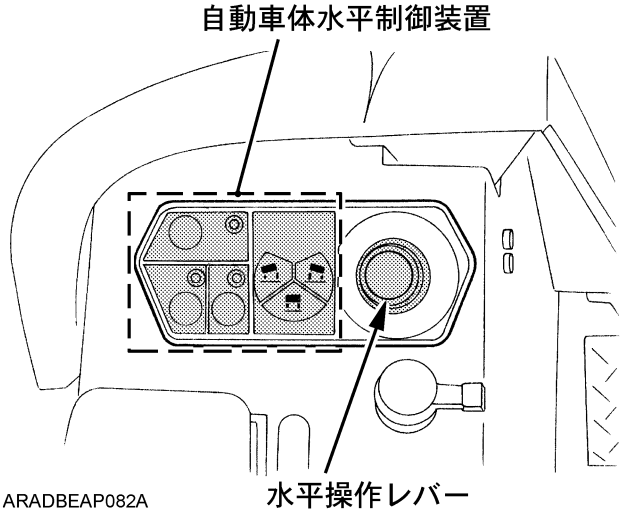


1ARADBEAP012C

[M仕様]



1ARADBEAP049B

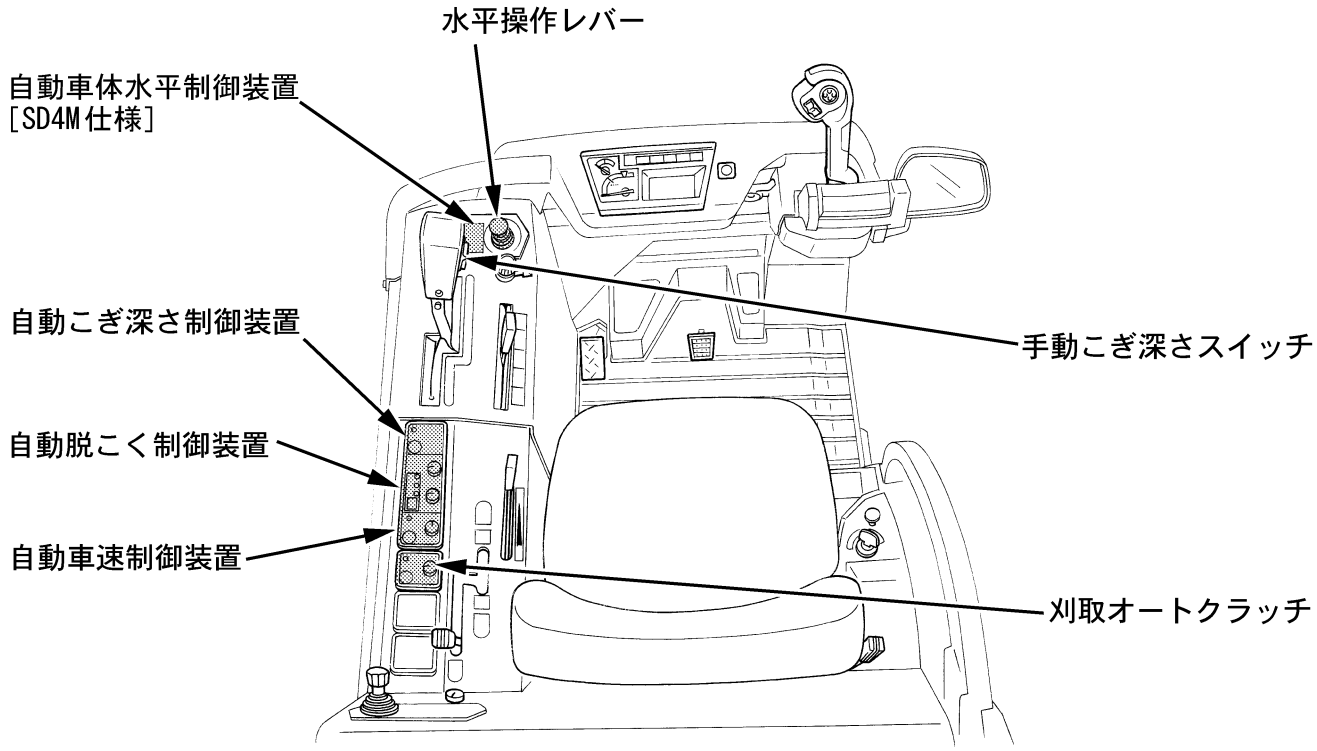


1ARADBEAP082A

[M仕様]

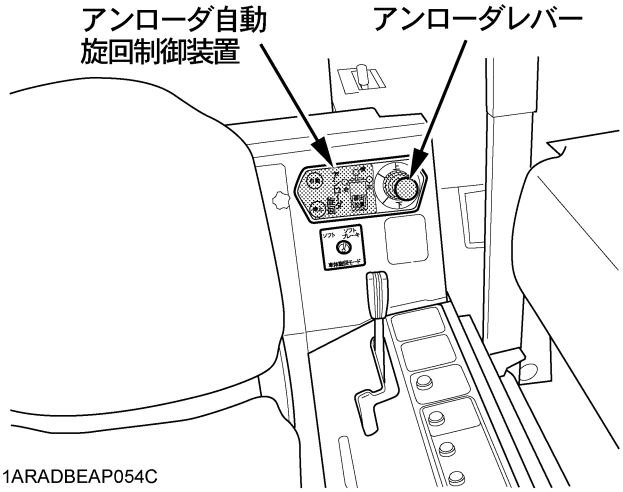
[DX 仕様]

[SD 仕様]



※イラストは 4M仕様

1ARADBEAP013D



1ARADBEAP054C

[SD 仕様]

◆ 走行操作関係

■自動車速制御装置

[SD 仕様]

自動車速制御装置は，刈取作業中の速度を制御する装置です。エンジンの負荷に応じて自動的に最適な刈取速度に変速（増・減速）します。

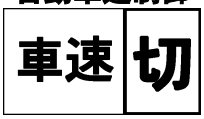
● 車速自動スイッチ

自動車速制御の**入／切**をするスイッチです。スイッチを操作すると，液晶ディスプレイに**車速［入］／［切］**を一定時間表示します。

自動車速制御［入］… ランプが点灯し，自動車速制御が作動します。

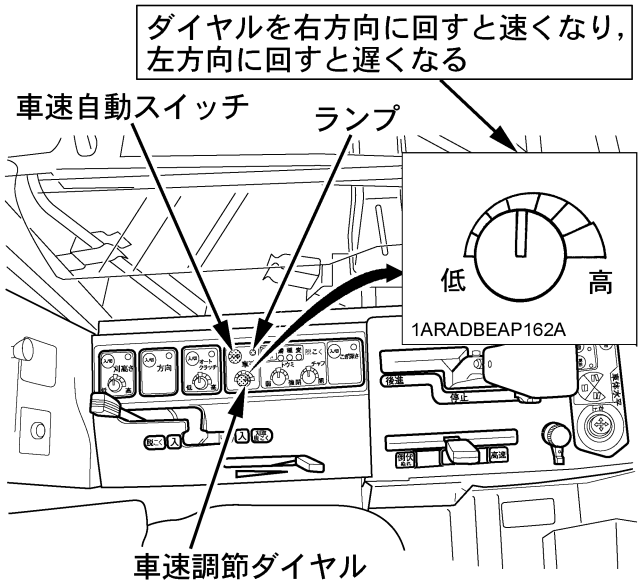


自動車速制御［切］… ランプが消灯し，自動車速制御が解除されます。



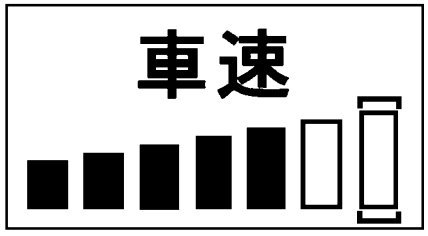
● 車速調節ダイヤル

自動車速制御で増速する**最高速度**の変更を行なうダイヤルです。作業速度を速くしたいときや遅くしたいときに変更してください。また，調節ダイヤルを回すと，液晶ディスプレイに７段階の目盛で表示します。



1ARADBEAP063C

【液晶表示】



遅い ⟵ 車速 ⟶ 速い

1ARADBEAP081A

補　足

＊ 自動制御がはたらいているときでも，主変速レバーによる操作が優先されます。

[SD 仕様]

■自動車体水平制御装置（モンロー）

[DXM 仕様]

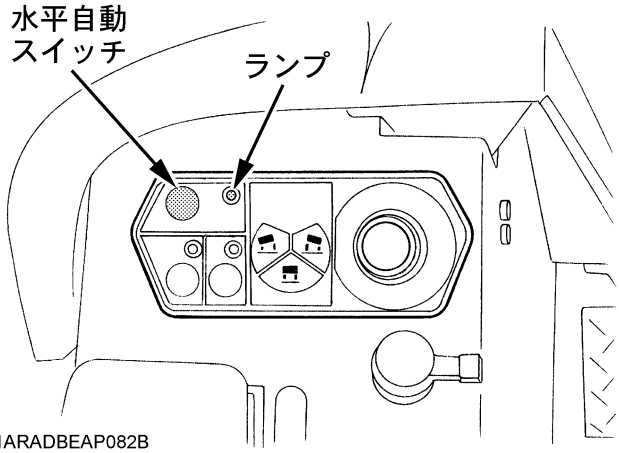
自動車体水平制御装置は，機体が左・右に傾くと，自動的に機体を水平状態に修正・保持する装置です。

● 水平自動スイッチ

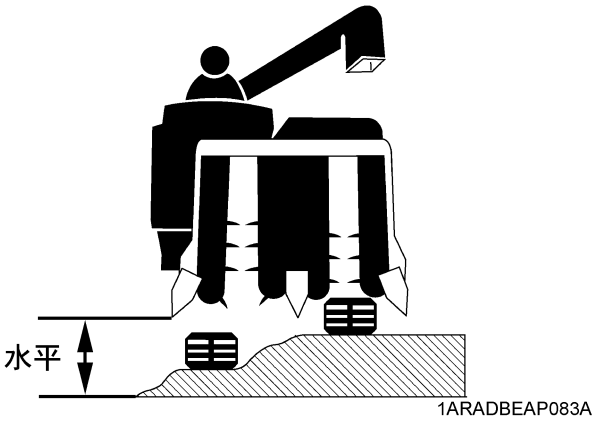
自動車体水平制御の**入／切**をするスイッチです。

自動車体水平制御［入］…… ランプが点灯し，自動制御が作動します。

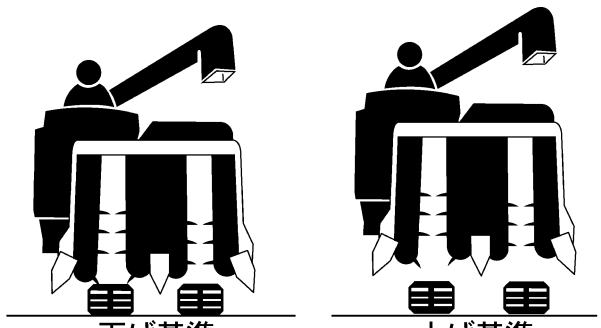
自動車体水平制御［切］…… ランプが消灯し，自動車体水平制御が解除されます。



1ARADBEAP082B



1ARADBEAP083A



1ARADBEAP084A

補　足

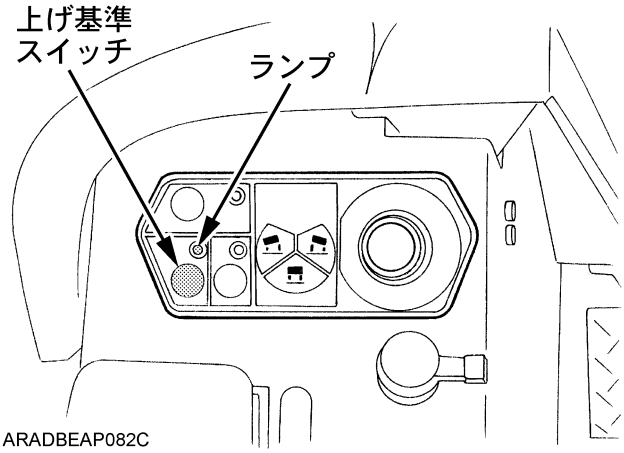
＊ 自動で作業した後，脱こくクラッチレバーを**［切］**位置にするか，又は水平自動スイッチを**［切］**にすると，機体は左右共にいったん一番下まで下がります。また，下降中に，水平操作レバーを操作すると下降が停止します。

● 上げ基準スイッチ

自動車体水平制御がはたらいているとき，水平制御を行なう基準の高さを切換えるスイッチです。

上げ基準［入］…… ランプが点灯し，上げ基準で作動します。

上げ基準［切］…… ランプが消灯し，下げ基準で作動します。



1ARADBEAP082C

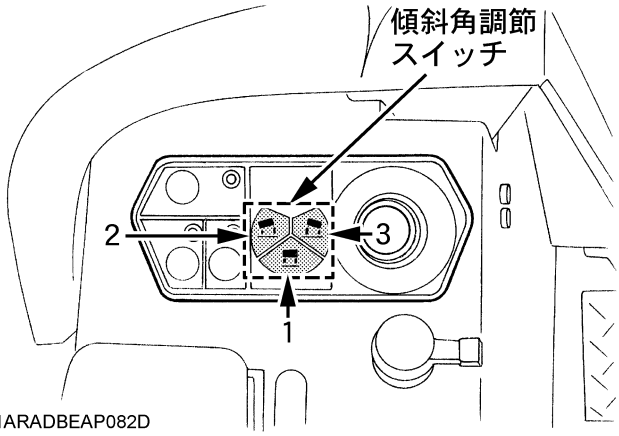
補　足

＊ 通常は**［下げ基準］（ランプ消灯）**にて，作業してください。深い湿田での刈終り時に，旋回が困難な場合にスイッチを押して［**上げ基準］（ランプ点灯）**状態にさせることにより，旋回が容易になります。直進刈取状態になれば，再びスイッチを押して**［下げ基準］（ランプ消灯）**にしてください。

＊ 超湿田で**［上げ基準］**を選択したまま刈取り作業を行なうと，車体が深みにはまった場合，脱出不能となることがあります。超湿田の刈取作業は**［下げ基準］**で行なってください。

● 傾斜角調節スイッチ

自動車体水平制御がはたらいているとき，左又は，右に機体を傾けた状態で制御をはたらかせるスイッチです。



1ARADBEAP082D

1 …… スイッチを押すと水平制御に戻ります。

2 …… スイッチを押すと，右上がり気味に制御します。

3 …… スイッチを押すと，左上がり気味に制御します。

補　足

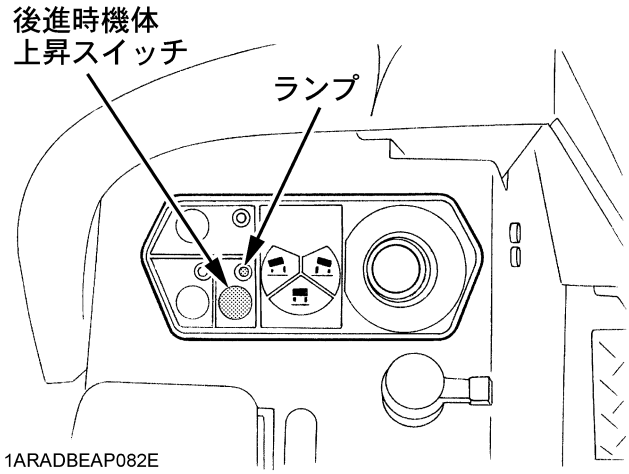
＊ 機体傾斜は３段階調節が行なえます。

● 後進時機体上昇スイッチ

自動車体水平制御が**下げ基準**で制御されているとき，機体が後進時のみ，**上げ基準**に切換えるスイッチです。

後進時上昇［入］…… ランプが点灯し，後進時**上げ基準**で作動します。

後進時上昇［切］…… ランプが消灯し，**下げ基準**で作動します。



補　足

＊ 乾田では**［切］**位置にしてください。

＊ 湿田で後進時に機体が後上りになり後進しにくいときは，後進時機体上昇スイッチを**［入］**位置にしてください。

［DXM 仕様］

■自動車体水平制御装置（4PC モンロー）

［SD4M 仕様］

自動車体水平制御装置は，機体が前・後及び左・右に傾くと，自動的に機体を水平状態に修正・保持する装置です。

● 水平自動スイッチ

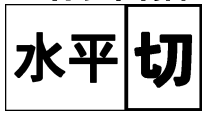
左･右方向の水平制御の**入／切**をするスイッチです。スイッチを操作すると，液晶ディスプレイに**水平［入］／［切］**を一定時間表示します。

左右水平制御［入］……

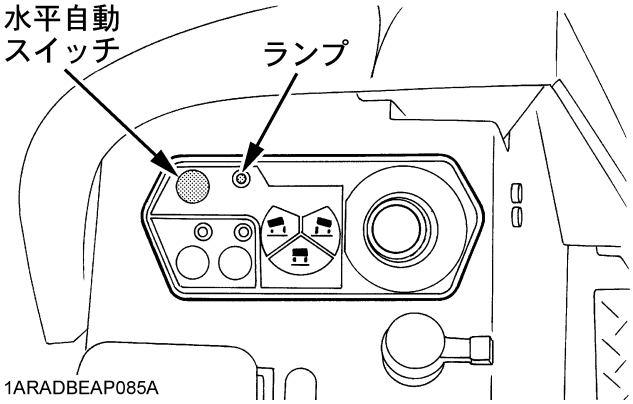


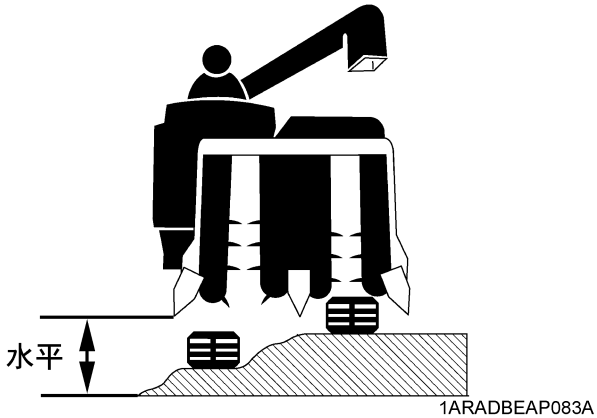
ランプが点灯し，左・右方向の自動制御が作動します。

左右水平制御［切］……



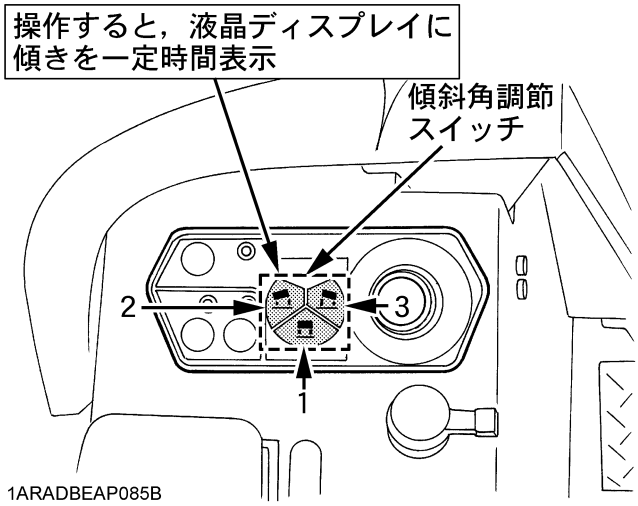
ランプが消灯し，前・後及び左・右方向の自動制御が解除されます。





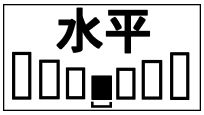
● 傾斜角調節スイッチ

自動車体水平制御がはたらいているとき，左又は，右に機体を傾けた状態で制御をはたらかせるスイッチです。

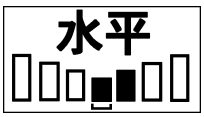


1ARADBEAP085B

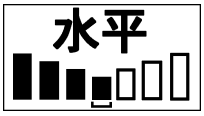
1 …… スイッチを押すと，水平制御に戻ります。



2 …… スイッチを押すと，右上がり気味に制御します。



3 …… スイッチを押すと，左上がりに気味に制御します。



補　足

＊ 機体傾斜は３段階が行なえます。

● 湿田モードスイッチ／乾田モードスイッチ

前･後方向の水平制御の**入／切**をするスイッチです。湿田モードスイッチ又は，乾田モードスイッチを**［入］**にすると，水平自動スイッチも同時に**［入］**の状態となります。また，スイッチを操作すると液晶ディスプレイに**前後水平［湿］／［切］**（湿田モードスイッチ），**［乾］／［切］**（乾田モードスイッチ）を一定時間表示します。

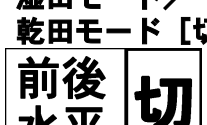
湿田モード［入］ …… ランプが点灯し，前・後及び左・右方向の水平制御が作動します。

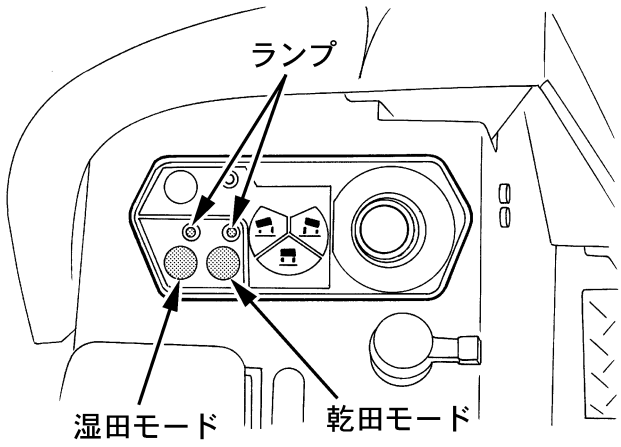


乾田モード［入］ …… ランプが点灯し，前・後及び左・右方向の水平制御が作動します。



湿田モード／乾田モード［切］ …… ランプが消灯し，前・後方向の水平制御が解除され，左・右方向の水平制御が継続してはたらきます。





1ARADBEAP085C

補　足

＊ 自動で作業した後，脱こく・刈取クラッチレバーを**［切］**位置にするか，又は水平自動スイッチを**［切］**にすると，機体は前後・左右共にいったん一番下まで下がります。(下限復帰）また，下降中に，水平操作レバーを操作すると下降が停止します。

＊ アンローダが収納位置以外では下限復帰を行ないません。車速が 0.3m/s 以上になると下限復帰を開始します。

＊ 湿田モードスイッチ又は，乾田モードスイッチが**［入］**の状態（前・後方向の自動制御がはたらいている状態）で左・右の水平制御スイッチを**［切］**にすると，自動制御は解除されはたらきません。

＊ ほ場の状態に応じて，湿田のときは湿田モード，乾田や半湿田のときは乾田モードをそれぞれ使い分けてください。

＊ 湿田モードを選択すると，前後の水平制御が敏感にはたらきます。前後の動きが大きいときは，乾田モードを選択してください。

＊ 湿田モードスイッチと乾田モードスイッチのいずれかが**【入】**位置のとき，もう一方のスイッチを押すと切換わります。

● 前後傾斜手動スイッチ

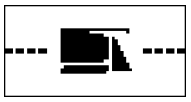
機体の**前・後**方向の傾きを調整する手動スイッチです。



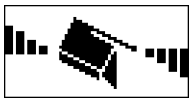
1ARADBEAP052C

補　足

＊ 手動スイッチを操作すると，液晶ディスプレイに現状の機体の傾斜状態を表示します。

 …… 地面に対して**水平状態**

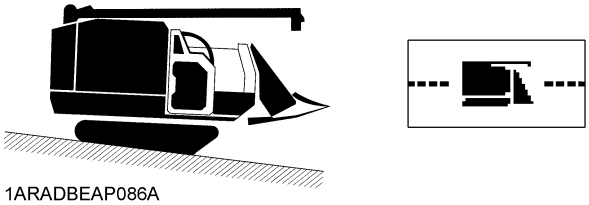
 …… 地面に対して**前上状態**

 …… 地面に対して**後上状態**

【前上】…… スイッチを押えると地面に対して機体は，前上がりとなります。

【例】：地面に対して水平状態

機体の状態　　液晶ディスプレイ

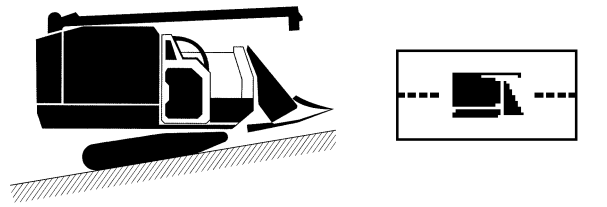


1ARADBEAP086A

【後上】…… スイッチを押えると地面に対して機体は，後上がりとなります。

【例】：地面に対して水平状態

機体の状態　　液晶ディスプレイ



1ARADBEAP087A

補　足

＊ 湿田モードスイッチ又は，乾田モードスイッチが**【入】**の状態でも，手動スイッチによる操作が優先されます。

＊ 水平自動スイッチが**【入】**の状態で，湿田モードスイッチ，乾田モードスイッチの両方が**【切】**の場合に，前後方向の手動スイッチを操作すると，その傾斜した状態で左・右の水平制御を行ないます。

＊ 下記のような傾斜地では，湿田モードスイッチ又は，乾田モードスイッチは**【切】**にし，手動スイッチで操作してください。

- ほ場の出入り
- あぜごえ
- 急な坂道など

＊ 手動スイッチの操作を行なうと機体は下記のように作動します。

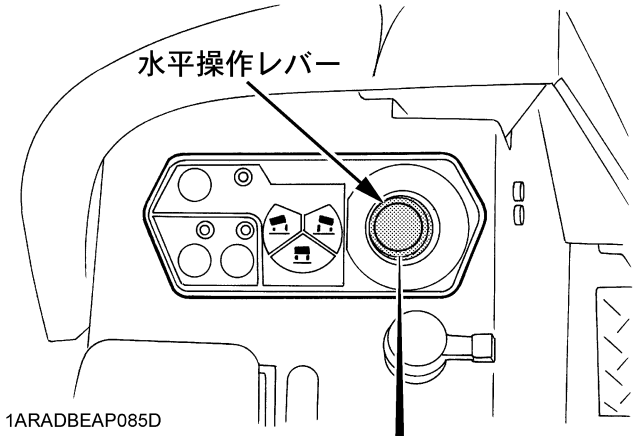
- **【前上】**…… 機体後部が上がっているときはまず後部が下降し，最下降するとブザーが鳴ると同時に動きがいったん停止します。そのあと再度**【前上】**スイッチを操作すると機体前部が上昇します。
- **【後上】**…… 機体前部が上がっているときはまず前部が下降し，最下降するとブザーが鳴ると同時に動きがいったん停止します。そのあと再度**【後上】**スイッチを操作すると機体後部が上昇します。

【SD4M 仕様】

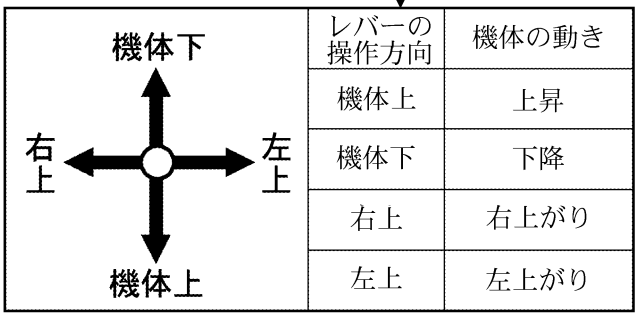
■水平操作レバー

[M 仕様]

車体の**上昇⟷下降**を行なう手動操作レバーです。



1ARADBEAP085D



レバーの操作方向	機体の動き
機体上	上昇
機体下	下降
右上	右上がり
左上	左上がり

1ARADBEAP401A

補　足

＊ 機体の動く方向は，運転席に座って見たときです。
＊ 自動車体水平制御がはたらいているときでも，水平操作レバーによる操作が優先されます。
＊ 傾斜地では操作しないでください。
＊ モンロー操作時（特に全上昇，全下降）は，エンジン回転数を上げてください。

[SD4M 仕様]

補　足

＊ 水平操作レバーの操作を行なうと機体は下記のように作動します。
● **［例］…［右上］**方向に操作したとき，機体左側が下降し，左側の前又は，後のいずれかが最下降すると，ブザーが鳴ると同時に，動きがいったん停止します。そのあと，再度水平操作レバーを**［右上］**方向に操作すると機体右側が上昇します。

[SD4M 仕様]

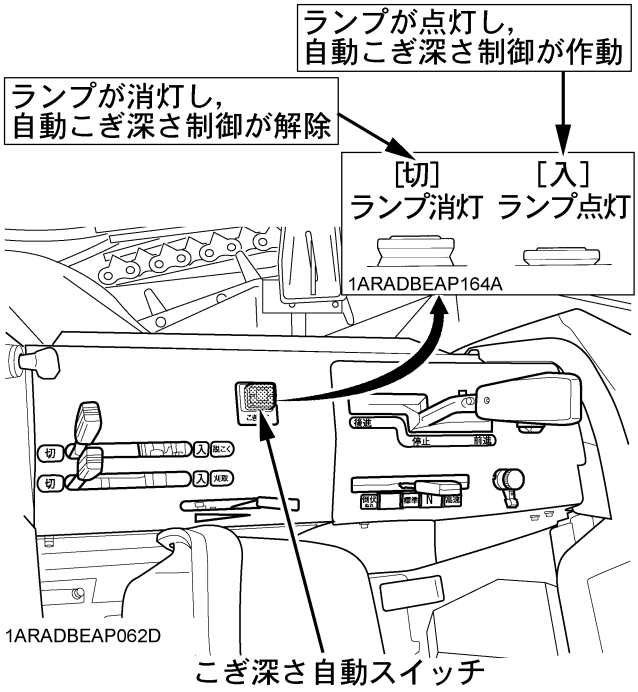
[M 仕様]

■自動こぎ深さ制御装置

こぎ深さ自動制御装置は，作物の長さに応じて，適正なこぎ深さを保つ装置です。

[DX 仕様]

● **こぎ深さ自動スイッチ**



[DX 仕様]

[SD 仕様]

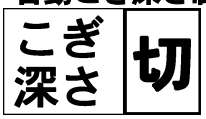
● **こぎ深さ自動スイッチ**

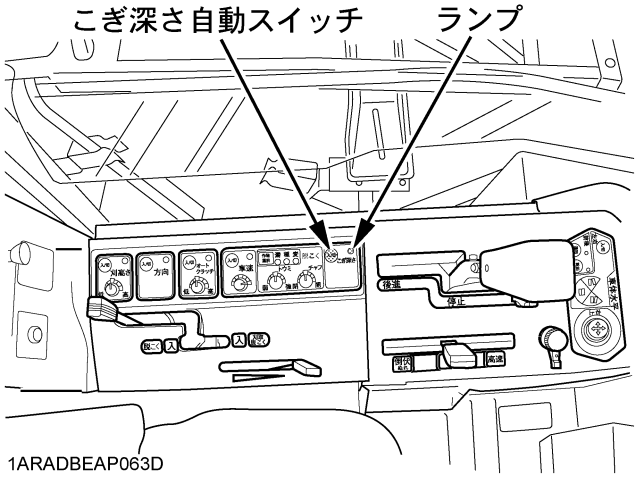
自動こぎ深さ制御の**入／切**をするスイッチです
スイッチを操作すると，液晶ディスプレイに**こぎ深さ［入］／［切］**を一定時間表示します。

自動こぎ深さ制御［入］……　ランプが点灯し，自動こぎ深さ制御が作動します。



自動こぎ深さ制御［切］……　ランプが消灯し，自動こぎ深さ制御が解除されます。





[SD 仕様]

補　足

＊ 穂先センサ（株元側，穂先側）に浮わらや雑草が引っ掛かると，正常な自動制御ができませんので取除いてください。

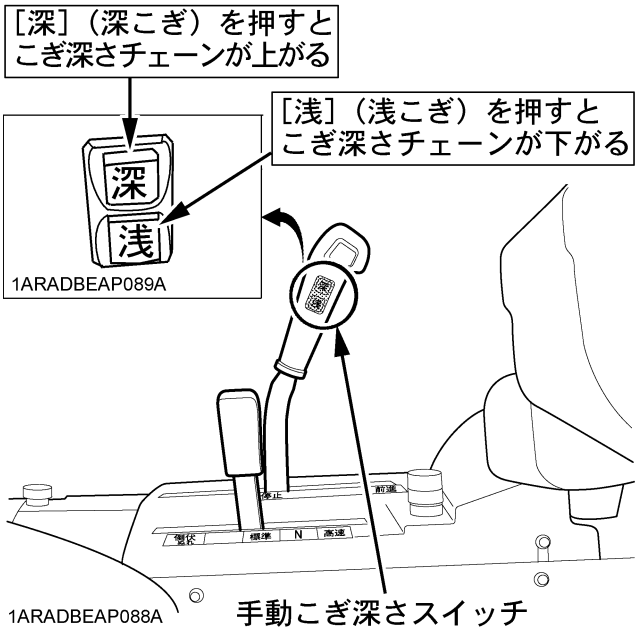
＊ 下記のときは，手動で操作してください。
- 長かん作物（約 130cm 以上）を刈取るとき
- 遅れ穂が多く，こぎ残しの出るとき
- 極端に作物の長さが不揃いのとき
- 作物よりも長い雑草が多いとき
- 倒状作物を低速で刈取るとき

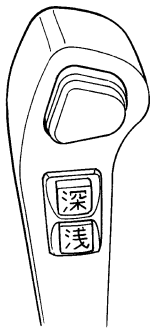
■手動こぎ深さスイッチ

[DX 仕様]

● **手動こぎ深さスイッチ**

こぎ深さの調節を手動で行なうスイッチです。





スイッチの操作	こぎ深さチェーンの動き
深	上がる
浅	下がる

補　足

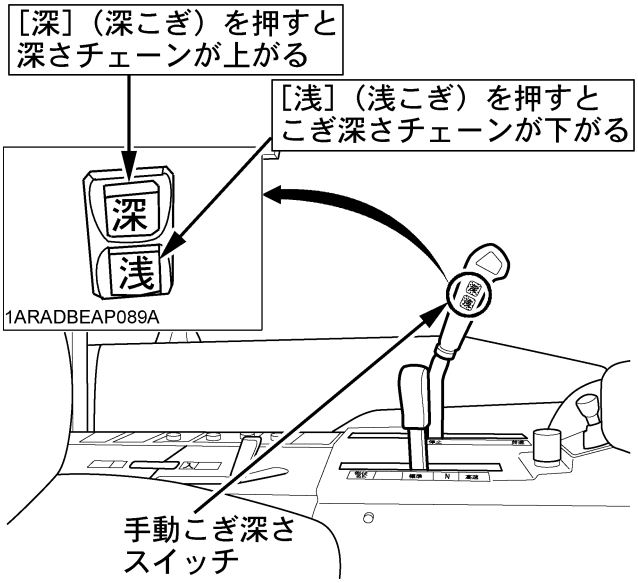
＊ 自動制御が，はたらいているときでも手動スイッチによる操作が優先されます。

[DX 仕様]

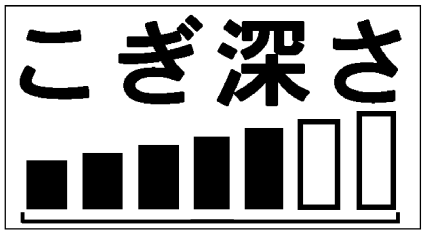
[SD 仕様]

● **手動こぎ深さスイッチ**

こぎ深さの調節を手動で行なうスイッチです。スイッチを操作すると同時に，液晶ディスプレイに７段階の目盛でこぎ深さチェーンの位置を表示します。



[液晶表示]

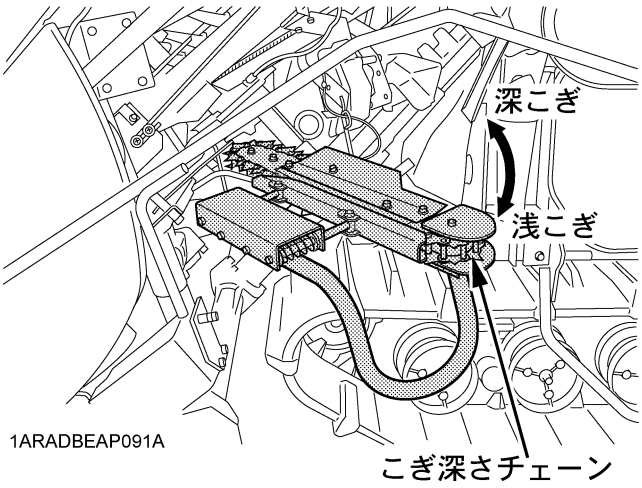


	スイッチの操作	こぎ深さチェーンの動き
 1ARADBEAP089B	深	上がる
	浅	下がる

補　足

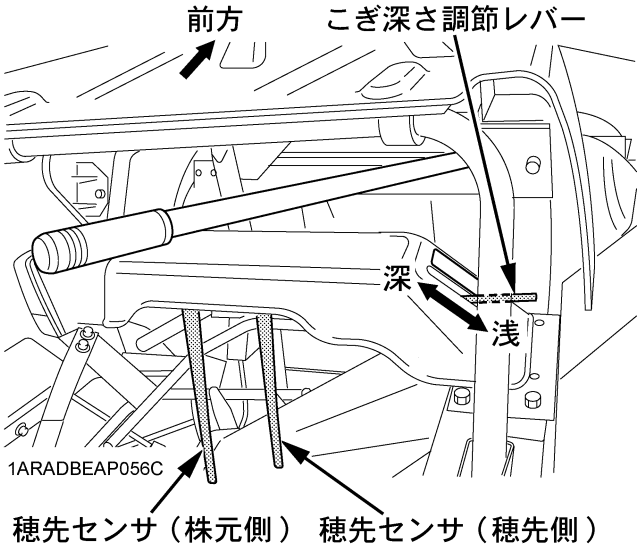
＊ 自動制御が，はたらいているときでも手動スイッチによる操作が優先されます。

[SD 仕様]



● **穂先センサの位置調節について**

通常は**［ほぼ中央］**に合せてください。調節は，レバーを**［深］**の方向に倒すと，深こぎ気味に保持され，レバーを**［浅］**の方向に倒すと，浅こぎ気味に保持されます。



■刈取オートクラッチ

[SD 仕様]

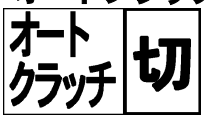
刈取オートクラッチは，刈取部及び脱こく部が作動中に SF ワンレバーを操作したとき，刈取部が地面から一定の高さまで上昇すると刈取搬送部が停止し，一定の高さまで下降すると再度動き出す自動クラッチです。

- **オートクラッチ切換えスイッチ**
  刈取オートクラッチの**入／切**をするスイッチです。スイッチを操作すると，液晶ディスプレイに**オートクラッチ［入］／［切］**を一定時間表示します。

オートクラッチ［入］… ランプが点灯し，刈取オートクラッチが作動します。

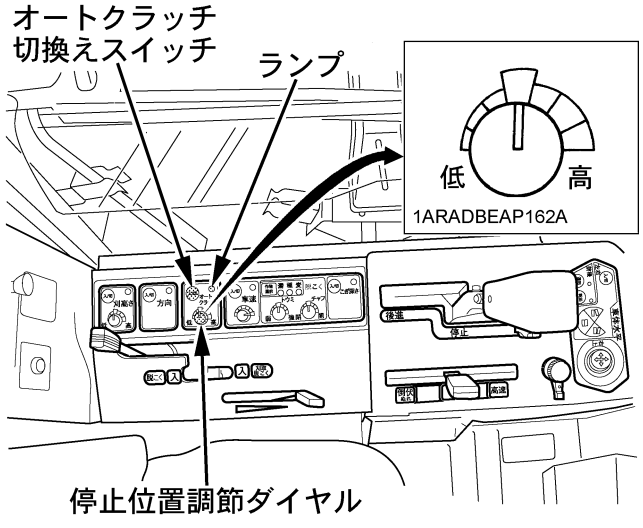


オートクラッチ［切］… ランプが消灯し，刈取オートクラッチが解除されます。



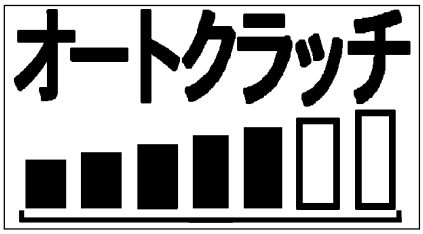
- **停止位置調節ダイヤル**

オートクラッチが**入／切**する刈取部の高さ位置の調節を行なうダイヤルです。ダイヤルを**右方向**に回すと**高く**なり，**左方向**に回すと**低く**なります。また，調節ダイヤルを回すと，液晶ディスプレイに 7 段の目盛りでオートクラッチが**入／切**する位置を表示しますので，目標の高さに調節を行なってください。



1ARADBEAP063E

［液晶表示］



低い ← オートクラッチ作動位置 → 高い

1ARADBEAP407A

[SD 仕様]

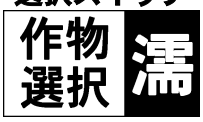
■自動脱こく制御装置

[SD 仕様]

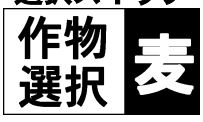
自動脱こく制御装置は，もみの量や刈取速度の変化に対応してチャフ開度とトウミ風力を自動的に調節し，安定した選別作業を行なう装置です。

- **作物（濡／麦／稲）選択スイッチ**
  作物の種類や濡れ状態に合わせて選択を行なうスイッチです。作物選択スイッチを押すと**［濡］➡［稲］➡［麦］**の順に切換わります。また，ランプが点灯し，液晶ディスプレイに**濡／稲／麦**の表示をします。

選択スイッチ［濡］… 濡れた作物のときに選択します。

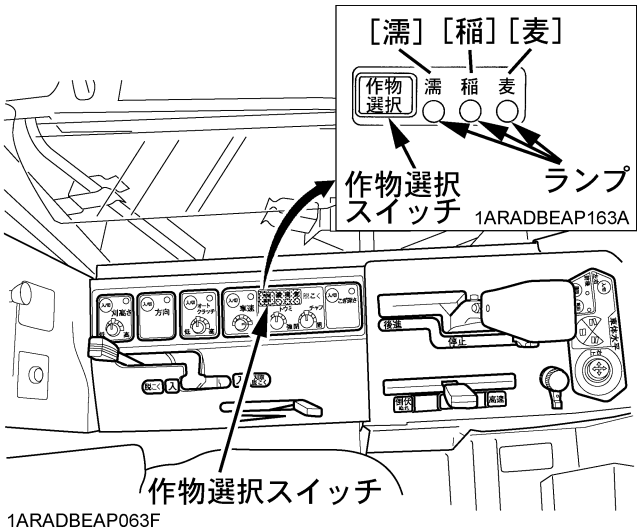


選択スイッチ［麦］… 作物が麦のときに選択します。



選択スイッチ［稲］… 作物が稲のときに選択します。





1ARADBEAP063F

● **トウミ調節ダイヤル**

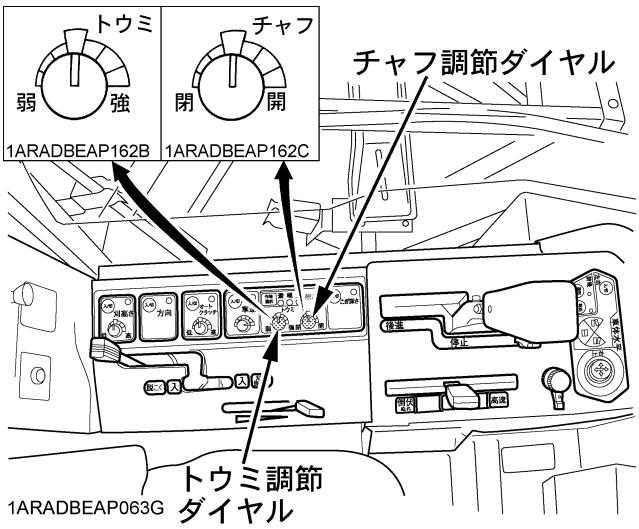
トウミの風力調節を行なうダイヤルです。風力は，ダイヤルを**右方向**に回すと**強く**なり，**左方向**に回すと**弱く**なります。また，調節ダイヤルを回すと同時に，液晶ディスプレイに７段階の目盛で表示します。

補　足

＊ 作物選択スイッチで**［濡］**を選択するとトウミ風力が最強位置で固定され，ダイヤルによるトウミの調節はできません。

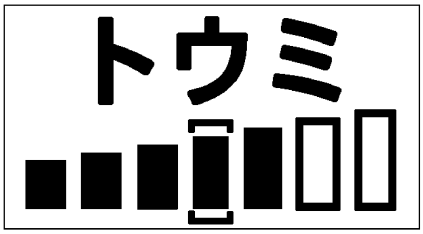
● **チャフ調節ダイヤル**

シーブケースのチャフの開度の調節を行なうダイヤルです。ダイヤルを**右方向**に回すと**開き**，**左方向**に回すと**閉じ**ます。また，調節ダイヤルを回すと，液晶ディスプレイに７段階の目盛で表示します。



1ARADBEAP063G

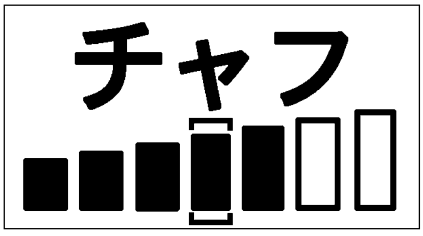
［液晶表示］



弱い ← トウミの風力 → 強い

1ARADBEAP411A

［液晶表示］

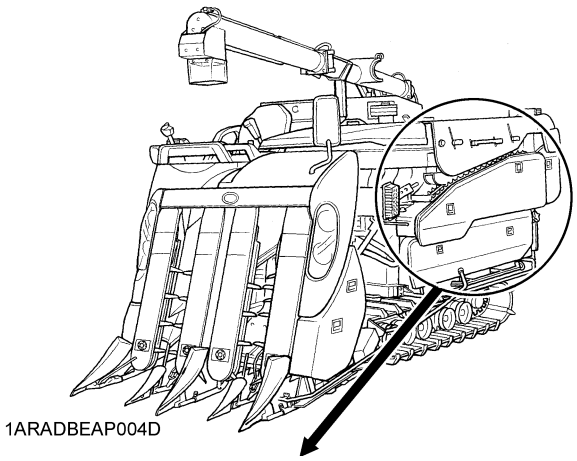


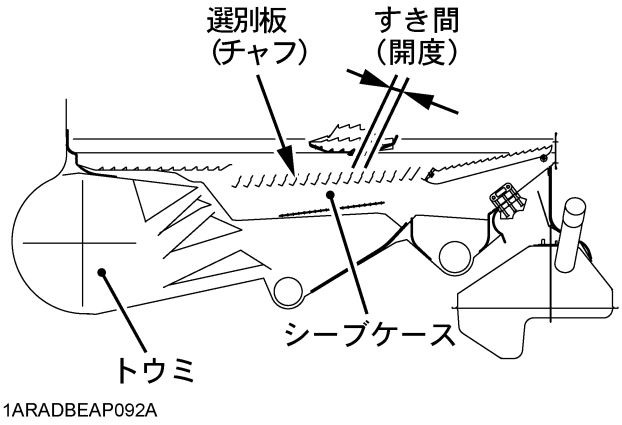
閉じる ← チャフの開度 → 開く

1ARADBEAP412A

補　足

＊ 作物選択スイッチで**［濡］**を選択するとチャフの開度が全開位置で固定され，ダイヤルによるチャフの調節はできません。





[SD 仕様]

■アンローダ自動旋回制御装置

アンローダ自動旋回制御装置は，スイッチの操作により，アンローダが**収納位置⟷排出位置**に自動旋回する装置です。

● アンローダ自動スイッチ

自動スイッチを押すと，アンローダが排出位置又は，収納位置まで自動旋回します。

補　足

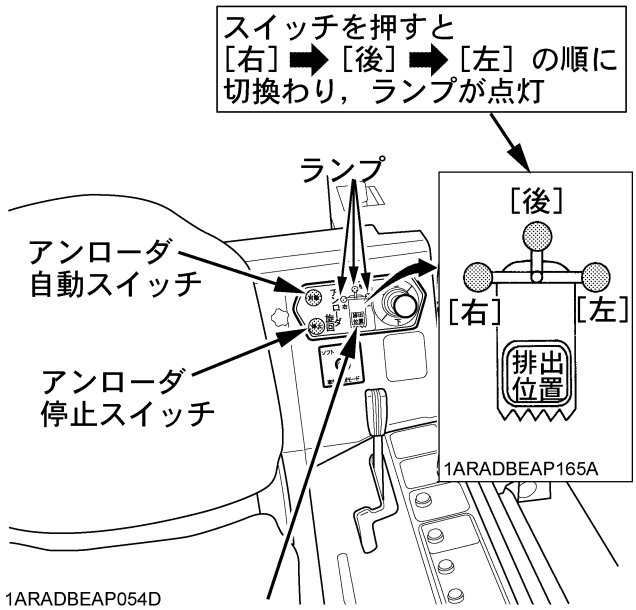
＊ アンローダが動作開始範囲で停止しているときに自動スイッチを押すと，アンローダは排出位置まで上昇及び自動旋回をします。

● アンローダ停止スイッチ

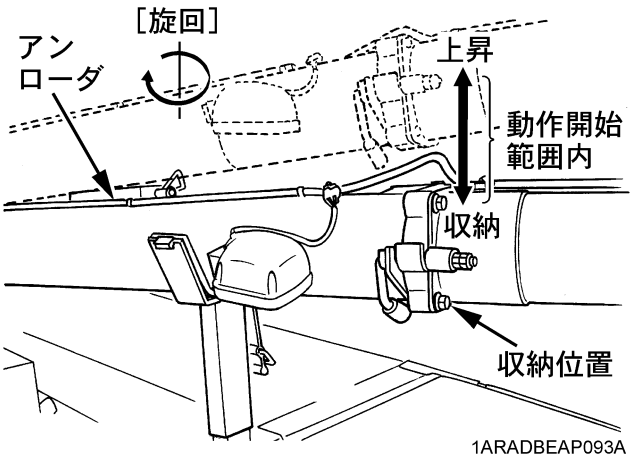
自動上昇・旋回・下降途中で停止スイッチを押すと，その位置でアンローダが停止します。

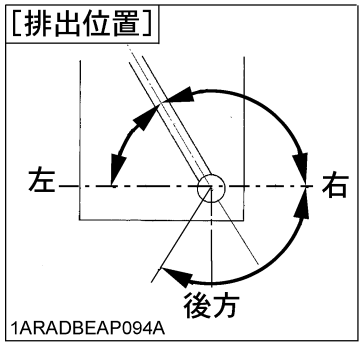
● 排出位置選択スイッチ

自動スイッチを押すとアンローダが自動旋回し，停止する排出位置（**[右]・[後]・[左]** の３方向）の選択を行なうスイッチです。



※イラストは SD 仕様





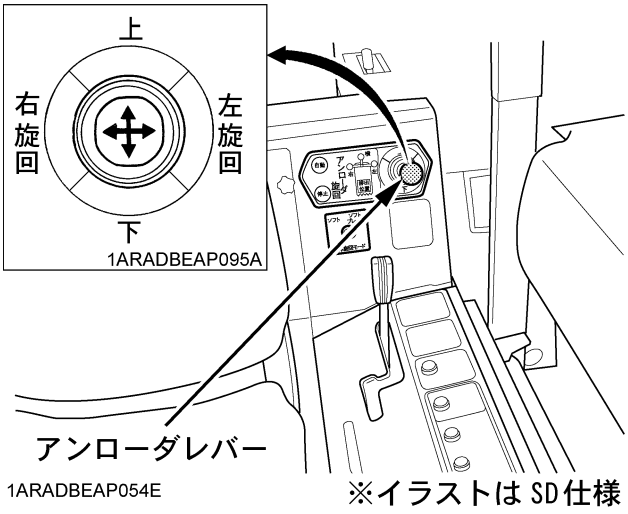
補　足

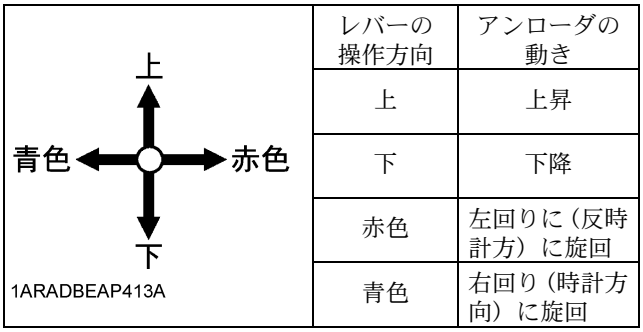
＊ 自動制御装置作動中でもアンローダレバーの操作が優先され，その後の自動旋回は停止します。

＊ 自動制御でアンローダが収納位置に戻った直後に，自動スイッチを押しても自動旋回は作動しません。10 秒程度待ってから自動スイッチを押す又は，停止スイッチを１度押してから自動スイッチを押してください。

■アンローダレバー

アンローダの旋回及び上昇・下降の操作を行なう手動操作レバーです。

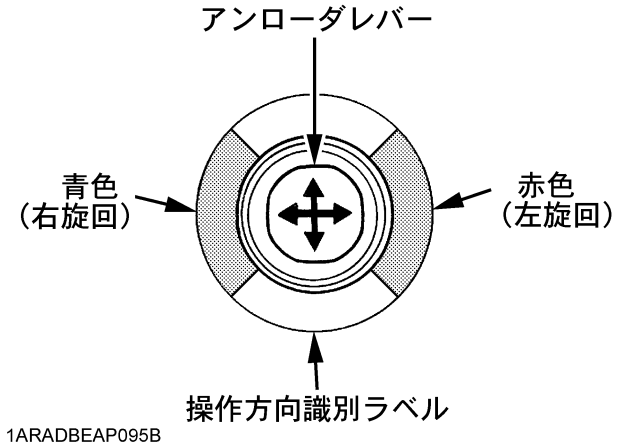


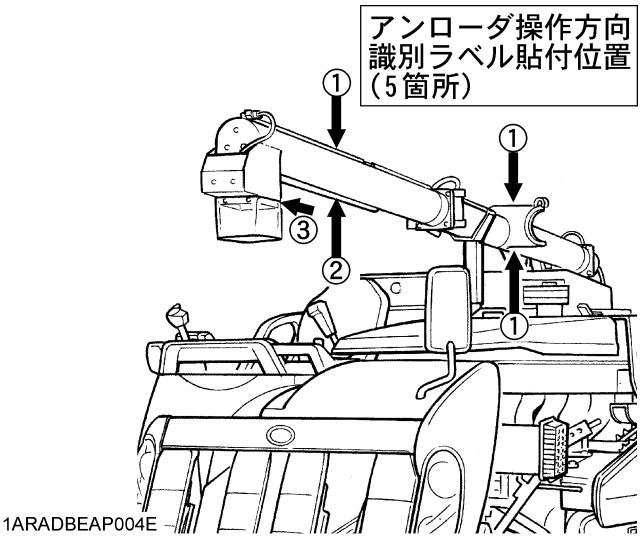


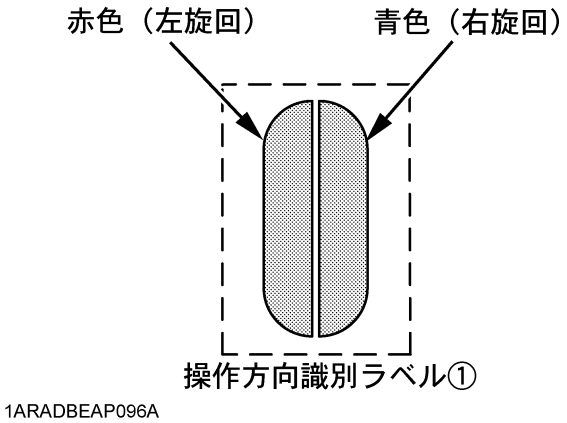
レバーの操作方向	アンローダの動き
上	上昇
下	下降
赤色	左回りに（反時計方）に旋回
青色	右回り（時計方向）に旋回

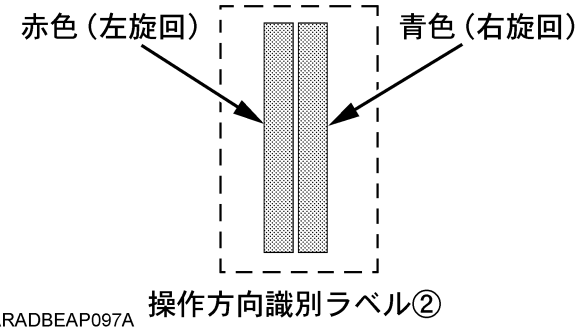
補　足

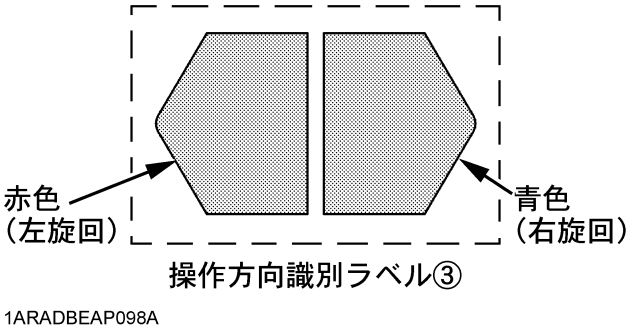
＊ アンローダレバーとアンローダに貼付している操作方向認識ラベルを確認し，アンローダレバーを操作してください。アンローダレバーを**赤色**方向に操作するとアンローダは左旋回（ラベル赤色方向）し，アンローダレバーを**青色**方向に操作するとアンローダは右旋回（ラベル青色方向）します。





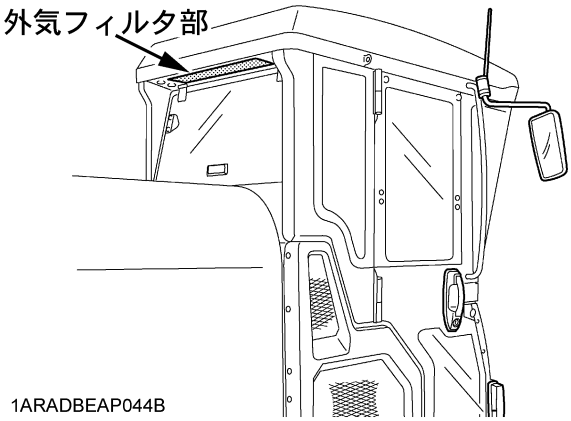




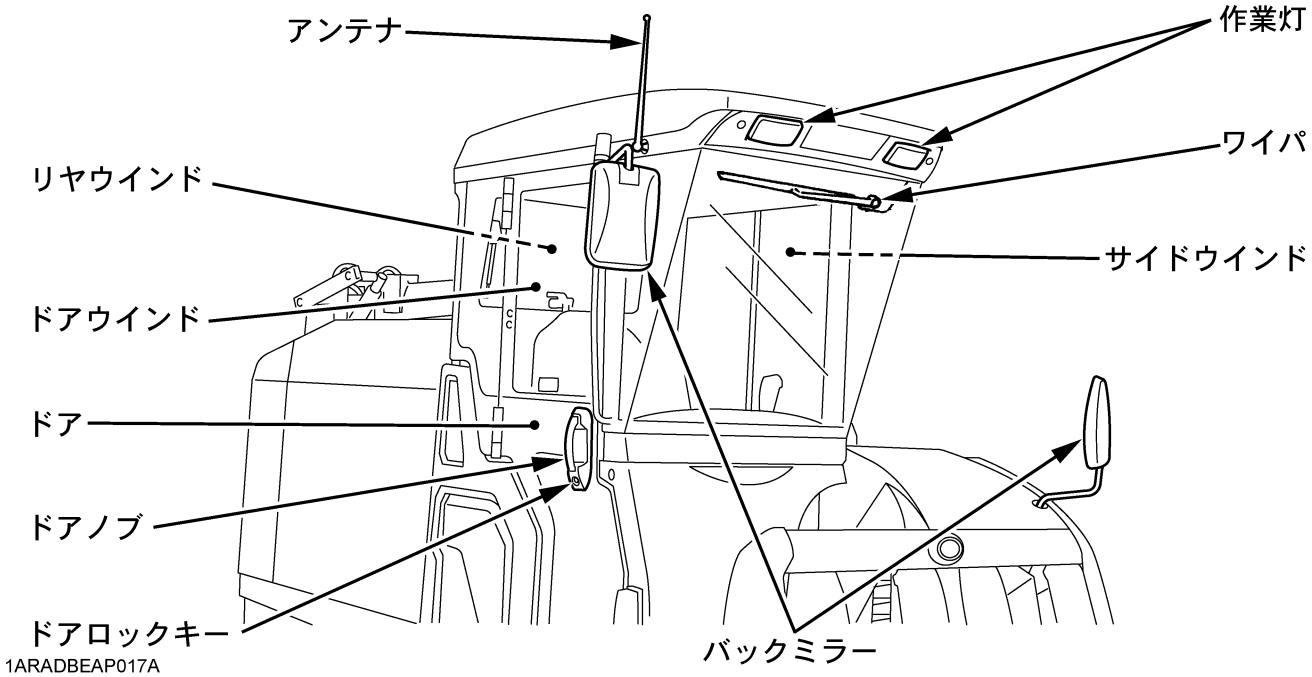


キャビン装置の名称と取扱い［Q 仕様］

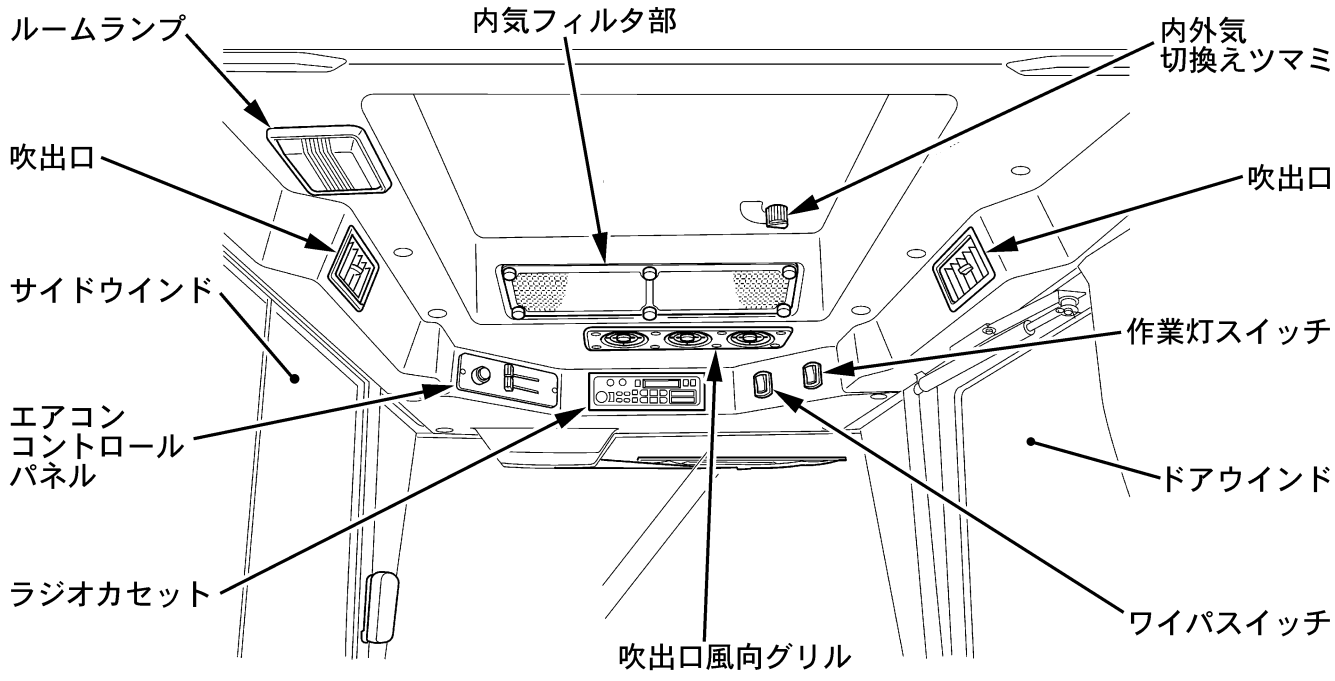
装置の名称



1ARADBEAP044B



1ARADBEAP017A



1ARADBEAP018A

各装置の取扱い

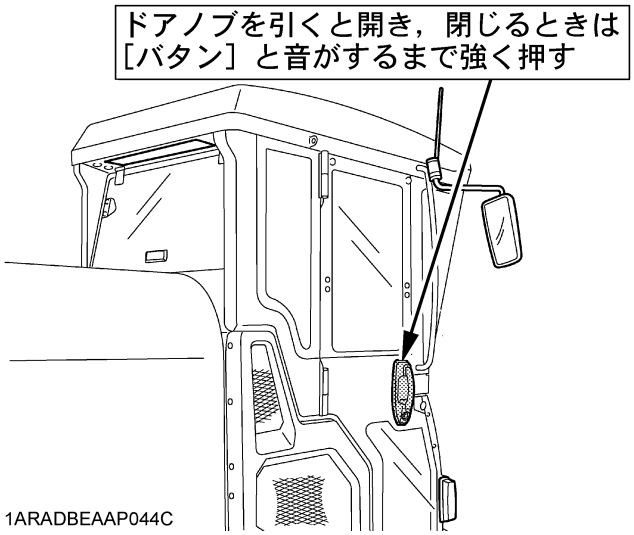
■ドアの開閉・ロックのしかた

注　意

＊ ドアの開閉時は，周囲に人を近づけないでください。手を挟んだり，ドアにあたってケガをするおそれがあります。
＊ ドアは確実に閉じてください。不意にドアが開いてケガをするおそれがあります。

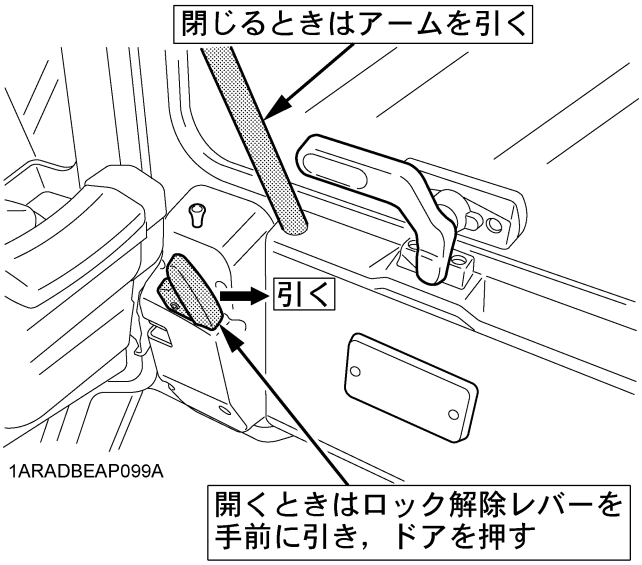
◆ ドアの開閉のしかた

● **室外から**



1ARADBEAAP044C

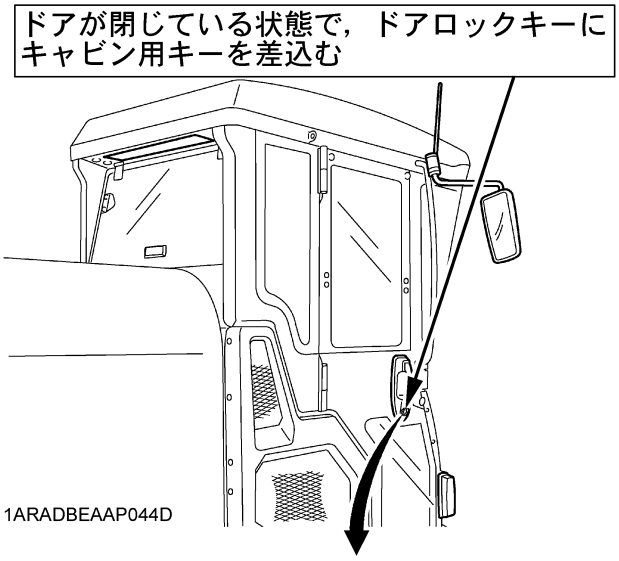
● **室内から**



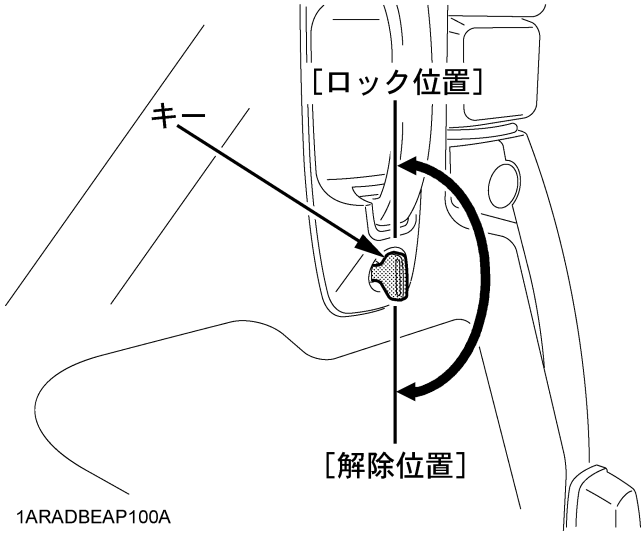
1ARADBEAP099A

◆ ドアのロック・解除のしかた

● **室外から**



1ARADBEAAP044D

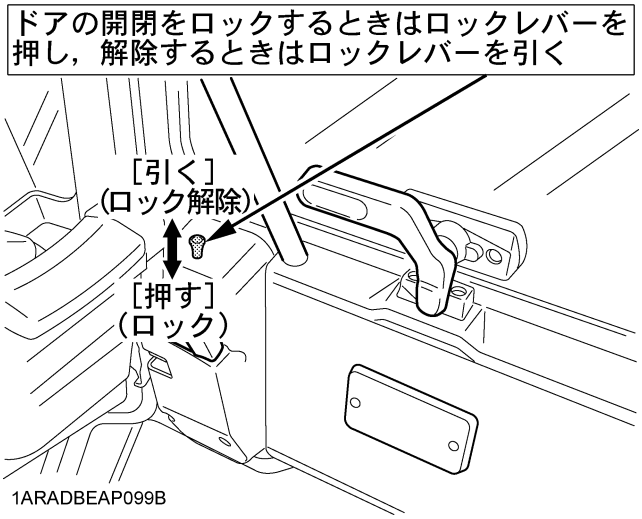


1ARADBEAP100A

重　要

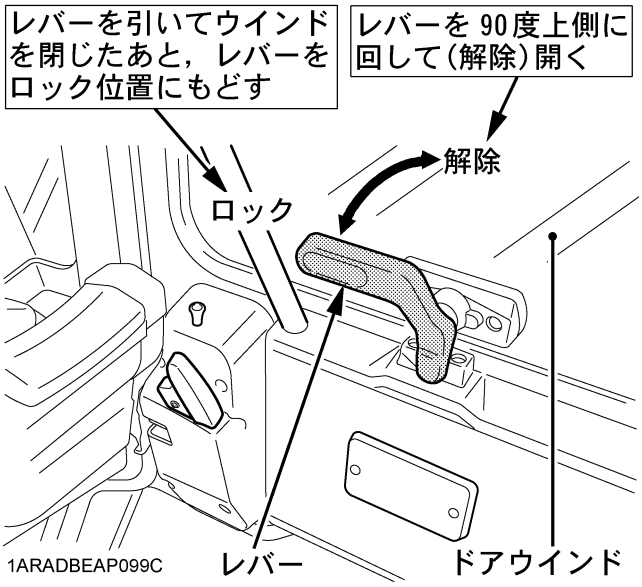
＊ 長時間コンバインから離れるときは，必ずドアのロックをしてください。

● 室内から

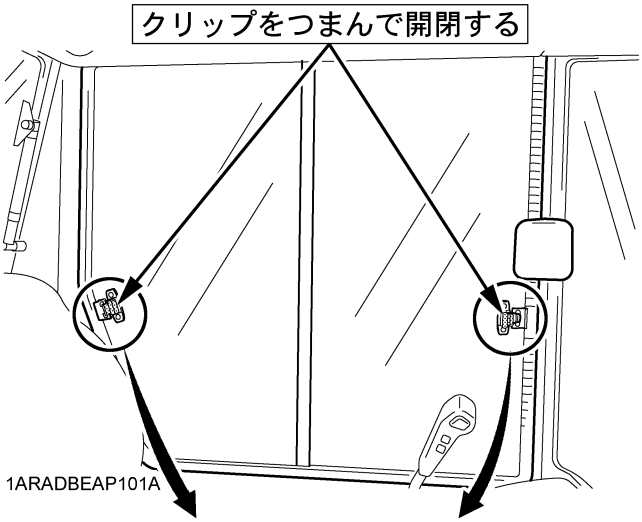


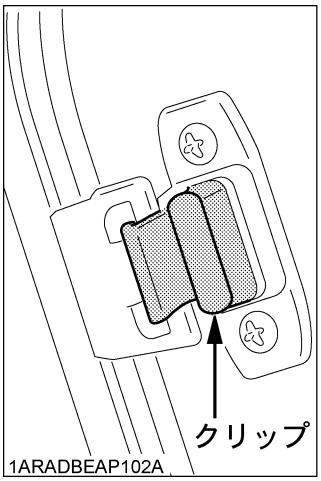
■各ウインドの開閉のしかた

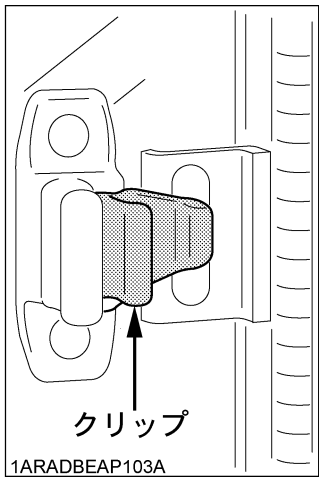
◆ ドアウインド



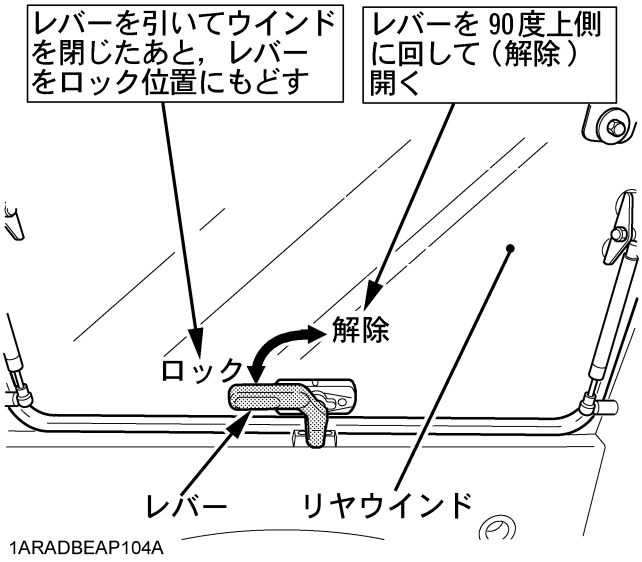
◆ サイドウインド





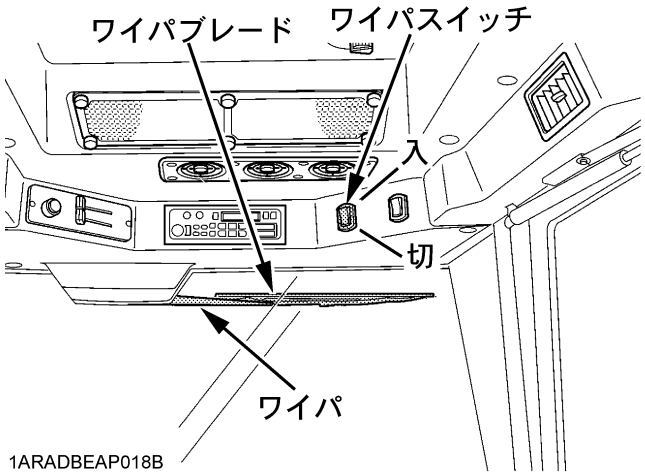


◆ リヤウインド



■ワイパの使いかた

メインスイッチのキーが**［入］**位置のとき，ワイパスイッチの上側を押すと作動（**入**）し，下側を押すと停止（**切**）します。



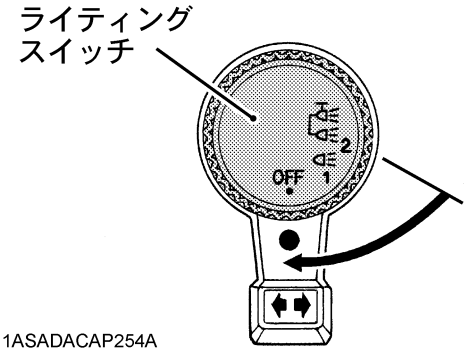
1ARADBEAP018B

重　要

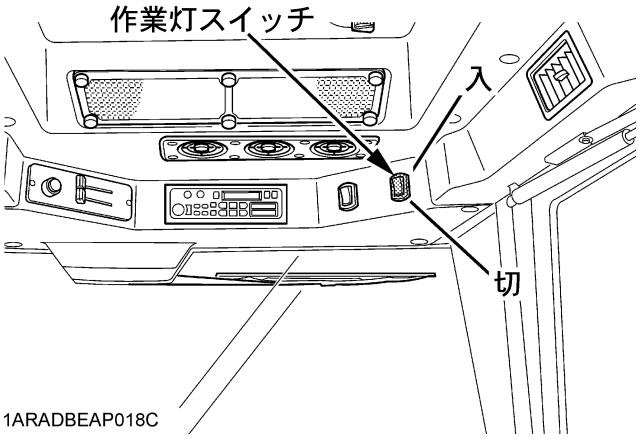
＊ ガラス表面に泥などが付着している場合は，濡れタオルなどでふき取ってください。泥などが付着したまま作動させると，ガラスのキズ付やワイパブレード（ゴム部）の損傷の原因になります。
＊ 長期使用しなかったときや寒冷時に動かすときは，ワイパブレード（ゴム部）がガラス面に接着していることがありますので注意してください。
＊ エンジンを停止して長時間使用するとバッテリが上がるおそれがあります。

■作業灯スイッチ

メインスイッチのキーが**［入］**位置のとき，ライティングスイッチを**［ ］**位置（**ヘッドランプ・作業灯点灯**）にしたあと，作業灯スイッチの上側を押す**［入］**と作業灯が点灯し，下側に押す**［切］**と作業灯が消灯します。



1ASADACAP254A



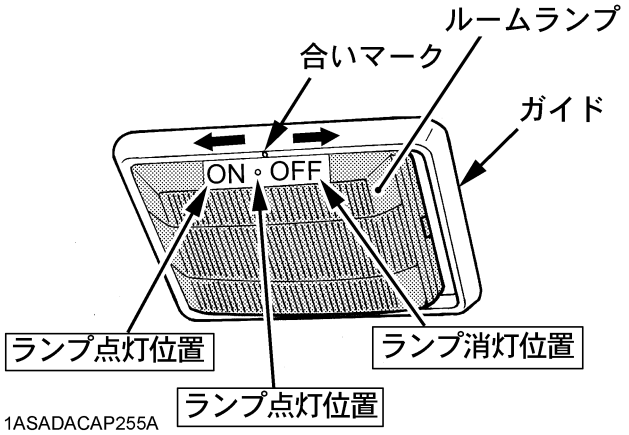
1ARADBEAP018C

■ルームランプの使いかた

メインスイッチのキーが**［入］**位置のとき，ルームランプをスライドさせてガイドの**合いマーク**に合わせてください。

重　要

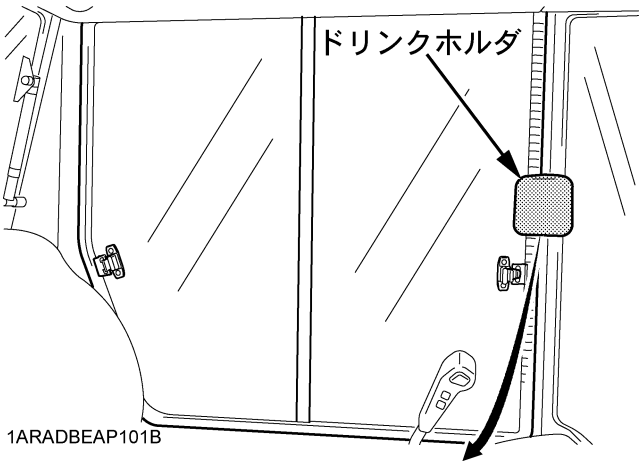
＊ エンジンを停止して長時間点灯するとバッテリが上がるおそれがあります。



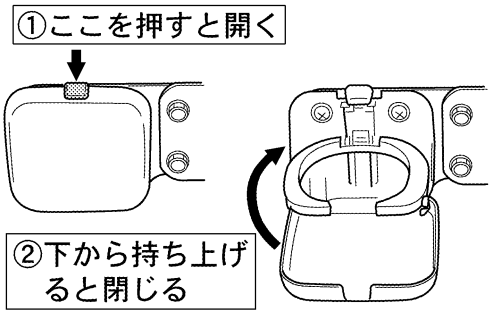
1ASADACAP255A

■ドリンクホルダの使いかた

飲料水の置き場として使用してください。使用するときはボタンを押して開き，収納するときはホルダ底をロックするまで下から持上げてください。



1ARADBEAP101B



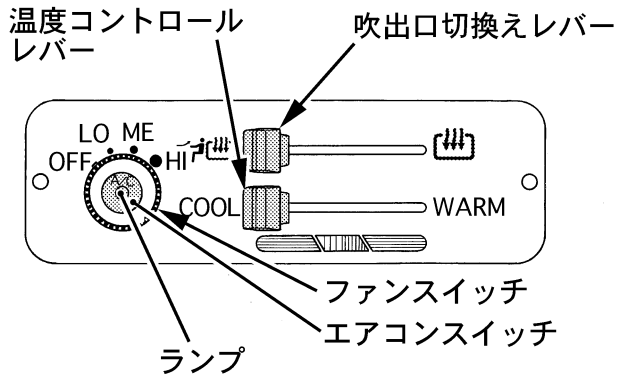
1AGACBAAP073A

補　足

＊ ドリンクホルダに飲料水以外の物はのせないでください。重量物をのせると破損するおそれがあります。

エアコンの取扱い

■コントロールパネル



1ASADACAP257A

◆ エアコンスイッチ

エアコンの電源を**入・切**するスイッチです。

重　要

＊ 1 週間以上又は，長期放置後にエアコンを使うとき，エンジン回転をアイドリングしてエアコンスイッチを**［入］**にしてください。エンジン回転が高いままで，エアコンスイッチを**［入］**にするとコンプレッサが故障するおそれがあります。

補　足

＊ エアコンスイッチを押して**［入］**の状態で，ファンスイッチが**［OFF］**位置以外（送風状態）のときに，中央のランプ（青色）が点灯します。

◆ ファンスイッチ

風量を調節するスイッチです。スイッチを回すことにより 3 段階（**LO（弱 ）←→ ME（中）←→ HI（強）**）の調節が行なえます。

補　足

＊ ファンスイッチが**［OFF］**位置のとき，送風が停止すると同時にエアコンの電源も切れます。（ランプ消灯）

◆ 温度コントロールレバー

温度を調整するレバーです。レバーを**［COOL］**（左側）に操作すると温度は低くなり，**［WARM］**（右側）に操作すると温度が上がります。

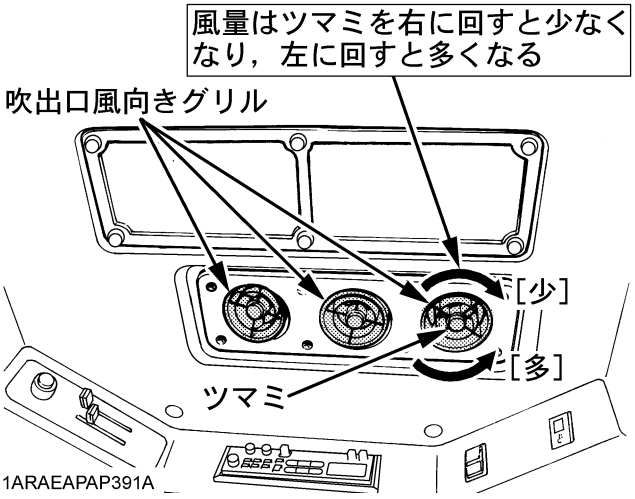
◆ 吹出口切換えレバー

送風の吹出口を切換えるレバーです。

- …… 吹出口風向グリル（上部）と吹出口（上部両横）より吹出します。
- …… 吹出口風向グリル（上部）より吹出します。

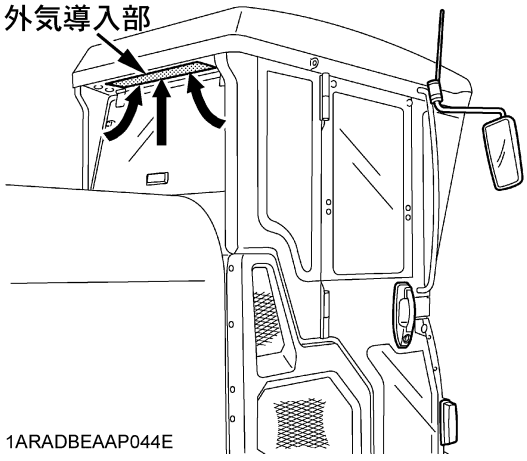
● 吹出口風向グリルの調整のしかた

吹出口の風向グリルで風量の調整を行ないます。グリルの角度を変えて，風向きを調整してください。また，上部両横の吹出口からの風量を多くしたいときは，上部の吹出口からの風量を少なくしてください。



重　要

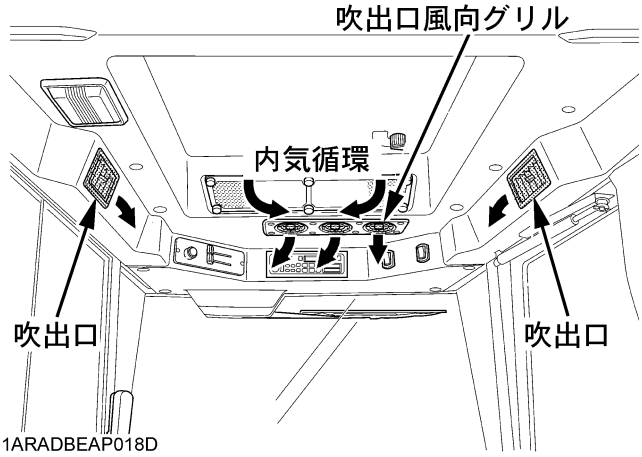
＊ 洗車を行なうとき，外気導入口に水をかけないでください。故障の原因になります。



補　足

＊ フロントガラスの曇りを除去するときは，グリルをフロントガラスに向けてください。

＊ キャビン内の空気の流れを参照して，吹出口の風量や風力を調整してください。また，外気導入口は，キャビン後部の天井下側にあります。

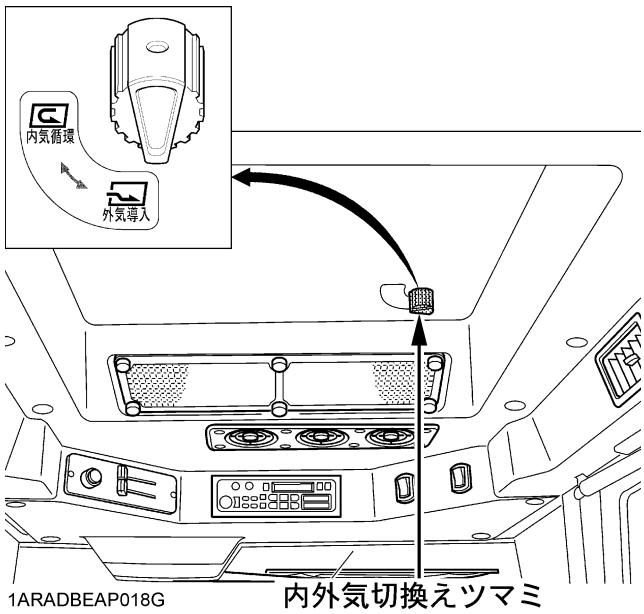


■内外気切換えツマミ

キャビン室内の空気の状態を切換えるツマミです。

(内気循環）…　切換えると内気のみの循環を行ないます。

(外気導入）…　切換えると外気を取入れます。



補　足

＊ キャビン室内の温度を下げたいときは ，**[内気循環]** 位置にしてください。

＊ 作業中にほこりが多いときは，**[外気導入]** 位置にしてキャビン内に新鮮な空気を入れてください。

■エアコン冷暖房のしかた

1. エンジンを始動します。
2. ファンスイッチを希望の位置に回します。
3. 温度コントロールレバーを希望の位置にします。
   レバーが

- 暖房 **(WARM)** 位置のときは，エアコンスイッチを **[切]** 位置にします。
- 冷房 **(COOL)** 位置のときは，エアコンスイッチを押して **[入]** 位置（ランプ点灯）にします。

補　足

＊ 湿度が高く窓ガラスが曇りやすいときは，レバーを **中間** 位置にし，エアコンスイッチを押して **[入]** 位置にして，除湿を行なってください。

＊ 健康上，冷房はやや弱い目に効かせてください。また，冷風は身体１箇所に集中して当てるのはさけてください。

＊ ゴミの多い条件で使用するときは，風量調節レバーで風量を強くしてください。

＊ 連続10分以上本機を前傾して冷房を使用すると，冷気吹出し口より水滴が飛散することがあります。このような運転はさけてください。

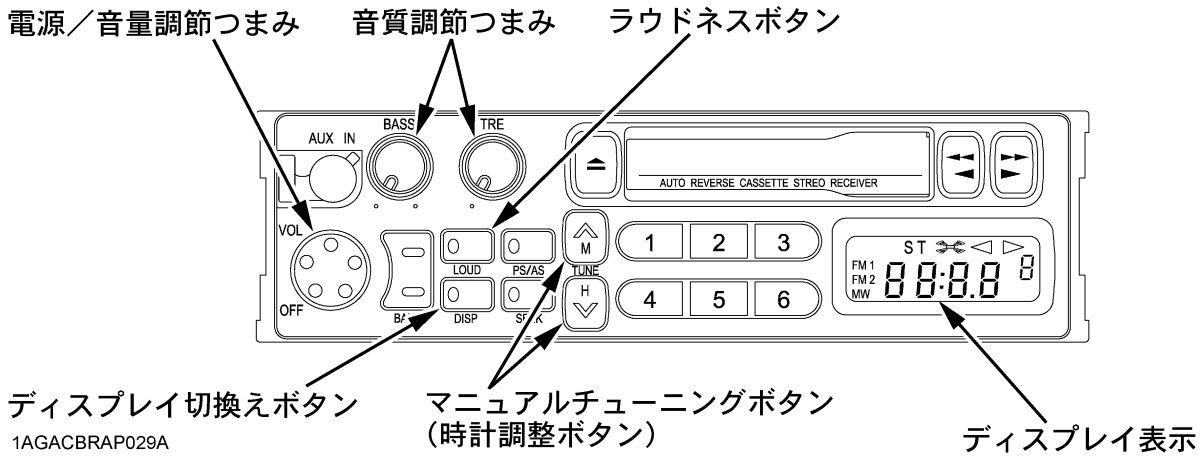
＊ エンジンの冷却水の水温が高くなるまでは暖房ができません。

AM/FMラジオ付きカセットプレーヤの取扱い

注 意

＊ 運転中は安全のため車外の音が聞こえる音量にしてください。

■共通部の操作のしかた



◆ 電源の入／切のしかた，音量調節

● VOL：電源／音量調節つまみ

クリック位置よりも時計方向（）に回すと電源が **[ON]** します。

音量調節つまみを時計方向（）に回すと音量が増大します。反時計方向（）に回すと音量が減衰します。

クリック位置よりも反時計方向（）に回すと電源が **[OFF]** します。

◆ 音質調整

● BASS：低音調整つまみ

つまみを時計方向（）に回すと低音部が強調され，反時計方向（）に回すと減衰されます。

● TRE：高音調整つまみ

つまみを時計方向（）に回すと高音部が強調され，反時計方向（）に回すと減衰されます。

◆ ラウドネスボタン

小音量で音楽を聞くと，低音が弱く感じます。ラウドネスボタンを押すと低音が強調されて聞きやすい音質になります。解除する時はもう一度ボタンを押してください。

◆ 時計表示のしかた

● DISPLAY 表示切換えボタン

ラジオ受信時にボタンを押すと，時計表示になります。元の表示に戻したいときは，もう一度ボタンを押します。テープ再生中は時計表示。

補 足

＊ 時計表示中にプリセットボタンなどの操作をすると，周波数表示に切換わります。

◆ 時計の調整のしかた

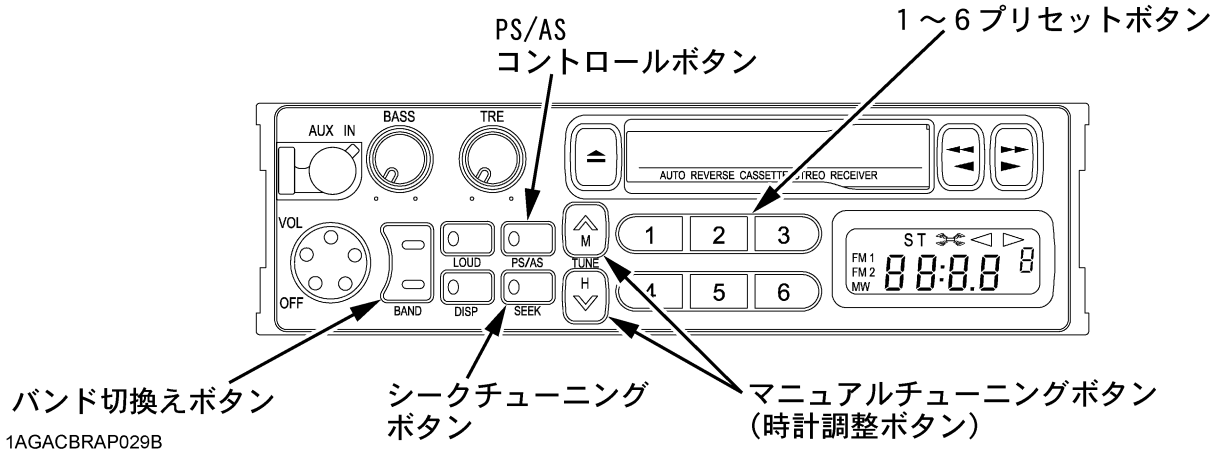
● ∧ TUNE ∨ 時計調整ボタン

1. DISP ボタンを押しながら∨ ボタン（H 側）を押すと，時間表示の調整ができます。
2. DISP ボタンを押しながら∧（M 側）を押すと，分表示の調整ができます。
3. DISP ボタンを離すと，時計の調整が完了します。

補 足

＊ 時計の調整は，時刻表示の状態で行なえます。

■ラジオの操作のしかた



1AGACBRAP029B

◆ バンド切換え

● BAND：バンド切換えボタン

電源を【ON】にする。
バンド切換えボタンを押すと MW（AM), FM のバンドが切換えられ, バンドインジケータも同時に表示します。

補　足

＊ カセットテープが挿入されている場合, ⏏ イジェクトボタンを押してテープを取出してください。

◆ 手動選局のしかた

● マニュアルチューニング（周波数同調）

手動にて選局を行ないます。
上側ボタンを押すと受信周波数が高く, 下側を押すと低くなります。
ボタンを押し続けていると早いペースで周波数が変化します。

● シークチューニング

SEAK UP：シークチューニングボタンを押すと自動的に周波数が高いほうに変化して放送をさがします。
受信可能な放送があると, その周波数で停止して継続受信します。

◆ プリセット選局のしかた

● 1～6プリセットボタン

オートストアでメモリされた放送周波数を, 1～6のボタンで単独に呼び出し, 受信することができます。1～6のボタンは FM および MW（AM）共用で 18 局（FM12 局, AM6 局）の放送をセットできます。

◆ プリセットスキャン

ラジオ受信中にPS/ASコントロールボタンを押すと現在受信中のバンドにプリセットされている放送局を1番から6番まで5秒間づつ放送します。
(その際ボタンを押す時間は3秒以内です。)
お聞きしたい局を受信したところでもう一度このボタンを押してください。プリセットスキャンの作業が終了され通常の放送に切換わります。

◆ プリセットのしかた

● マニュアルメモリ

1. バンド切換えボタンを押し, ご希望のバンドに切換えます。
2. ∧ ボタン又は∨ ボタンで, ご希望の放送局を選局します。
3. 放送局を選局したら, 周波数表示中にメモリしたい番号（1～6）を約3秒間押しつづけます。
   周波数表示が一回フラッシュして登録が終了します。
4. 同じように, 別のプリセットしたい放送局は 1. ～ 3. の操作を繰り返してください。

● オートストア

ラジオ受信中にPS/ASコントロールボタンを3秒以上押すと現在受信中のバンド内の放送を自動的に探してその周波数をプリセットメモリに記憶します。

補　足

＊ 一度プリセットしたボタンをさらにプリセット操作すると, 前にメモリされた放送局は解除されます。

◆ ディスプレイ表示

● バンド表示

MW（AM），FM1，FM2 バンドを表示します。

● 周波数デジタル表示

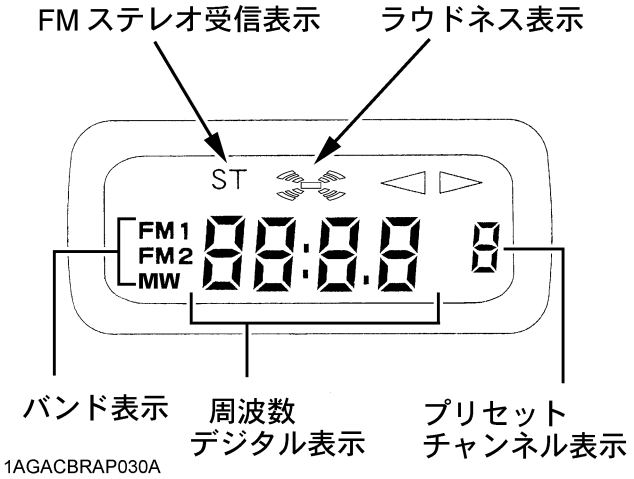
受信周波数をデジタル表示します。
MW（AM）放送受信時は KHz 単位で，FM 放送受信時は，MHz 単位で表示します。

● プリセットチャンネル表示

プリセットボタン（１～６）を押すと， そのチャンネルを表示します。

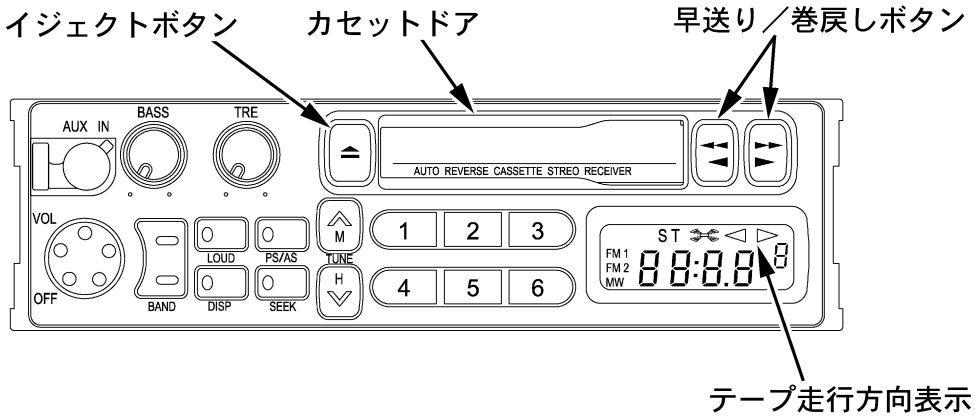
● FM ステレオ受信表示

FM ステレオ放送受信時に **[ST]** の文字を表示します。



1AGACBRAP030A

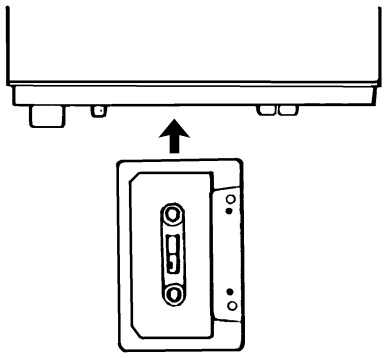
■カセットの操作のしかた



1AGACBRAP029C

◆ カセットテープの挿入

カセットテープのテープ面を右側にし，聞きたい面を上側にして挿入します。
挿入されると同時に演奏を開始します。このとき，テープ走行方向表示が【▶】なら上面を，【◀】なら下面を再生しています。



1AGALAFAP301A

◆ 演奏面の切換え

● 早送り／巻戻しボタン

演奏面を変えるときは，２つのボタンを同時に押してください。演奏面が変わると同時にテープ走行表示の点灯もかわります。本機はオートリバースメカを使用していますので，テープ再生あるいは早巻取りでテープが終端まで巻取られると，自動的にテープ走行が変わり，反対面が再生されます。
テープをいれたままにしておきますとA面B面を繰り返し演奏を続けます。

◆ 巻戻し，早送り

● 巻戻し

テープ走行方向表示が点灯している方の矢印と逆方向のボタンをロックするまで押します。

● 早送り

テープ走行方向表示が点灯している方の矢印と同じ方向のボタンをロックするまで押します。

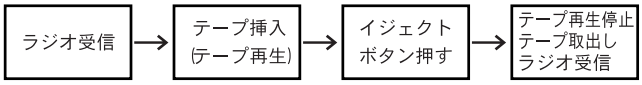
補　足

＊ 巻戻し・早送りを途中で中止するときは ◀◀ ▶▶ ボタンの押した方のボタンの隣（逆方向）のボタンを軽く押してください。

◆ カセットテープの再生停止と取出し

● ⏏イジェクトボタン

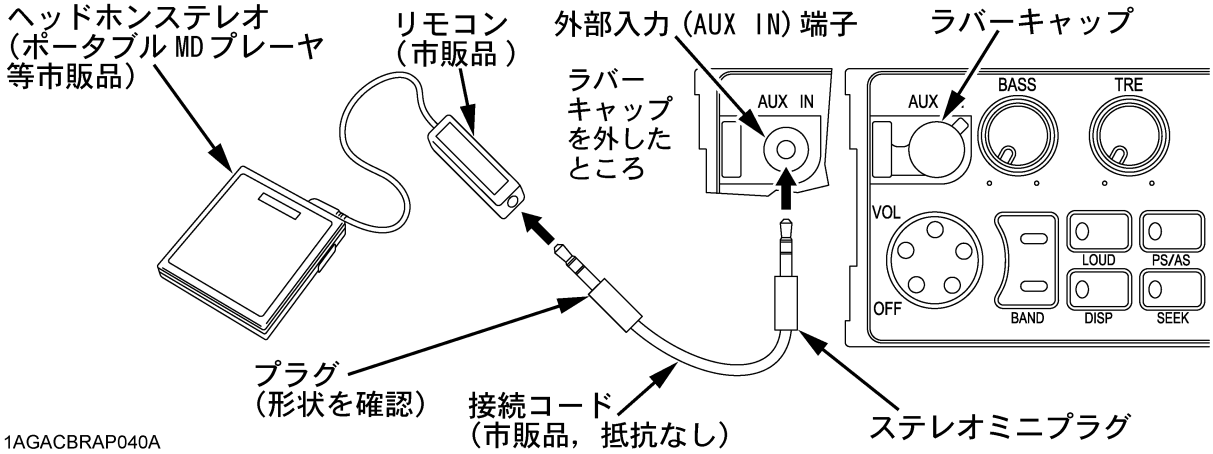
⏏イジェクトボタンを押すとテープ再生停止後，カセットテープが取出され，下記のように切換わります。



補　足

＊ カセットテープを聞かないときは，必ず ⏏ イジェクトボタンを押してテープを取出してください。

■外部入力端子について



◆ 外部入力（AUX IN）端子について

外部入力（AUX IN）端子に，市販のヘッドホンステレオ（ポータブル MD プレーヤなど）を接続すると，音楽などを聞くことができます。

◆ 音楽などを聞くには

1. ラジオ受信をしている状態にします。
2. 外部入力（AUX IN）端子のラバーキャップを取外します。
3. ヘッドホンステレオの音量ボリウムは，中間ぐらいにセットしてください。
4. 市販の接続コード（抵抗なし）を使用して，ヘッドホンステレオのヘッドホン端子から，外部入力（AUX IN）端子側にステレオミニプラグ（φ3.5）を差し込んでください。
5. プラグを差し込むと，ラジオ受信からヘッドホンステレオの接続に切換わります。
   ディスプレイ表示は，ラジオ受信時のままです。
6. ヘッドホンステレオの音量ボリウムを，本機ラジオの音量と同程度になるよう調節してください。
7. 本機の音量調節つまみで音量調節ができます。ただし，低音・高音の調節はできません。
8. 再生は，ヘッドホンステレオの操作で行なってください。
9. 外部入力（AUX IN）端子からプラグを抜くと，ラジオ受信に戻ります。

補　足

＊ 接続したヘッドホンステレオのヘッドホン端子や音量ボリウム，再生のしかたなどの取扱いは，その本機の取扱説明書をご覧ください。
＊ ヘッドホンステレオ以外で，出力の大きいオーディオ機器は接続しないでください。

◆ 接続するときの注意

接続コードの配線を固定するとき，市販の両面テープ付きクランプで止めてください。
また，配線をするとき，作業の邪魔にならないように，各レバー類やスイッチ類に接触のないように配線してください。
接続するヘッドホンステレオは，故障や音飛びを防ぐため運転席周りに置かずに，作業服のポケットに入れるようにしてください。

重　要

＊ 運転中に外部入力（AUX IN）端子に接続したヘッドホンステレオの操作はしないでください。
＊ 運転席から降りるとき，ヘッドホンステレオ側の接続コードは抜いてください。

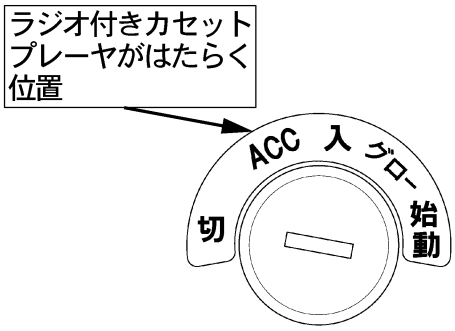
■故障・修理問い合わせ

このAM/FMラジオ付カセットプレーヤが故障した場合，下記メーカにご相談ください。

エスペリア株式会社
〒 350-0833 埼玉県川越市芳野台２－８－８５
（川越工業団地）
TEL 049-226-9120　FAX 049-226-9136

補　足

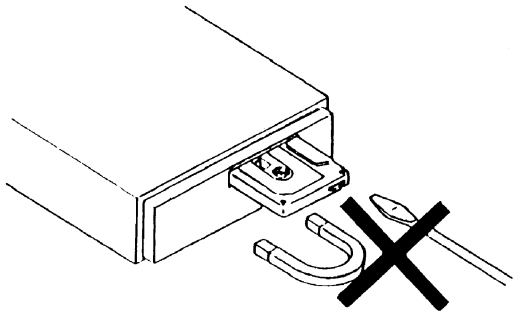
＊ ラジオ付きカセットプレーヤはメインスイッチが【ACC】位置（アクセサリ位置）で電源が入りますので使用できますが，長時間使用するとバッテリ上がりとなりますので長時間使用するときは注意してください。



1ARADBEAP061C

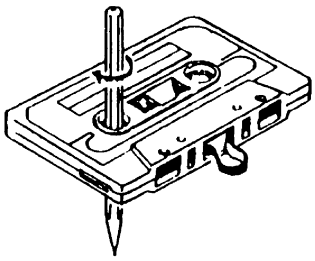
■取扱い上の注意

1. 本機は，水分や高温，多湿を嫌いますので，車内清掃や換気にじゅうぶんご注意ください。
2. ヘッド及びカセットテープに，磁石やドライバなどを絶対に近づけないでください。



1AGALAFAP304A

3. カセットテープ挿入時にテープがゆるんでいますと誤動作を起こす場合がありますので，テープのゆるみを直してからご使用ください。

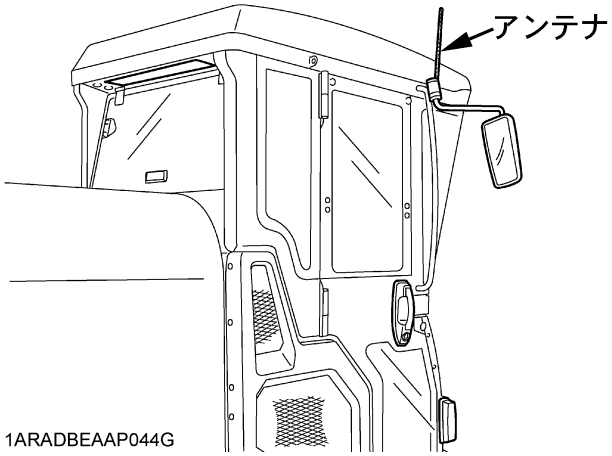


1AGALAFAP303A

4. カセットテープは，水平にし，カセットテープの中央を押して挿入してください。
5. C-120 タイプのカセットテープは，テープ自身が非常に薄く，伸びたり，切れたりしますので，ご使用は避けてください。
6. ラベルのはがれかかったカセットテープ，またケースが変形しているカセットテープは，メカニズムの故障の原因となりますので，ご使用は避けてください。
7. ヘッドが汚れると高音域が低下します。いつも良い音でお聞きいただくため，ヘッド表面を時々クリーニングしてください。市販のクリーニングテープを使用すると便利です。なお，クリーニングにはシンナやベンジンは絶対に使用しないでください。
8. 車内の温度に気をつけてください。
   極寒や酷暑のとき，とくに夏期は車内の温度が大変高くなることがありますので，車内の換気に注意し，適温で使用してください。また，車を降りられるときには，必ずカセットテープを本体から抜いてケースに入れて保管してください。
9. 本機操作は，安全性の面からできるだけ停車中に行なってください。また，運転中の音量は事故防止のため，車外の音が聞こえる程度でお楽しみください。
10. 本機のお手入れは，乾いた柔らかい布で拭いてください。固い布や，ベンジン・シンナ・アルコールなどは全体に使用しないでください。また，汚れがひどい場合には柔らかい布を水またはぬるま湯に浸し，軽く拭取ってください。

11. カセットテープを直射日光に長時間あてないでください。高温, 多湿の場所（ダッシュボード上やシートの上）への長時間放置もさけてください。

◆ アンテナ



重　要

＊ アンテナは角度調節できませんので動かさないでください。

運転前の点検

故障を未然に防ぐには，機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。日常点検は一日一回，運転前に欠かさず行なってください。（点検・調整方法の詳細は，130 ページ以降を参照）

警 告

＊ 平たんな安全な場所で，エンジンを止めて駐車ブレーキを必ず掛けてから行なってください。
＊ バッテリの点検・充電・交換中は火気厳禁です。
＊ 取外した回転部のカバー類は，衣服などが巻込み危険ですので，必ず取付けてから作業をしてください。

注 意

＊ 燃料やオイル補給中は火気厳禁です。
＊ 運転前にブレーキ・クラッチや安全装置などの日常点検を行ない，摩耗や損傷している部品があれば交換してください。また，定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。
＊ 使用前にはオイル，燃料が規定量入っているか必ず点検してください。
＊ 燃料，オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。
＊ バッテリ，マフラやエンジン・燃料タンク・ベルトカバー内・配線部周辺にごみや燃料の付着，泥の堆積などがあると火災の原因になることがあります。日常点検をして取除いてください。
＊ 刈刃やカッタの掃除や注油時は，手袋を着用し刃部に注意しながら行なってください。

重 要

各部への給油と交換

＊ 点検するときは機体を水平な場所において行なってください。傾いていると正確な量を示しません。
＊ 使用するエンジンオイル，ミッションオイル，グリースは，指定の**［クボタ純オイル・スペアグリース］**を必ず使用してください。
＊ 燃料補給の際は，ゴミや水が混入しないようにしてください。

◆ 前日の異常箇所

前日の作業中に異常を感じたところがあれば，使用前に支障がないか点検してください。

◆ コンバインの回りを歩いて

1. ボルトやナットのゆるみや脱落がないか点検します。
2. 車体各部の変形や損傷がないか点検します。
3. 油もれや水もれなどないか点検します。
4. 機体各部にわらくずがたまっていないか点検します。

日常点検項目

＜ここを＞ ➡	＜点検し異常があれば＞ ➡	＜こうする（処置）＞	参照ページ
機体の周りを歩いて			
機体各部	1. 損傷や変形はないか。 2. ボルトやナットのゆるみや脱落はないか。 3. 油もれや水もれはないか。 4. わらくずがたまっていないか。 5. 安全ラベル（⚠表示ラベル）の損傷やはがれはないか。	1. 修理又は，交換する。 2. 補充，増締めをする。 3. ホースやパイプの取付部の締付け又は，部品交換をする。 4. 掃除する。 5. 新しいラベルに貼替える。	— — 189 152, 250 ⚠-25
刈刃，わら切刃，カッタ刃	・刃の損傷はないか。	・交換する。	219, 222, 228
クローラ	・たるみや損傷はないか。	・調整又は，交換する。	246
防じんあみ	・詰まりはないか。	・掃除する。	190
反射器	・汚れや損傷はないか。	・調整又は，交換する。	245
エンジン回りを確認して			
エンジンオイル	・油量は規定量（オイルゲージの**上限線と下限線の間**）あるか。	・規定量まで補給する。 ……クボタ純オイル **[327・331・338・433・438]** D30 又は，D10W30 **[445]** D30 スーパー CD 又は D10W30 スーパー CD	178
ラジエータ冷却水	・リザーブタンクの水量は規定量（タンクの **FULL 線と LOW 線の間**）あるか。	・清水を規定量まで補給する。	185
ラジエータフィン オイルクーラフィン コンデンサフィン **[Q 仕様]**	・詰まりはないか。	・掃除する。	190
エアクリーナ	・エレメントが汚れたり，ほこりが詰まっていないか。	・掃除又は，エレメントを交換する。	187
ファン駆動ベルト	・たるみはないか。 ・損傷はないか。	・調整する。 ・交換する。	204
パイプ，ホース	・油もれ，水もれはないか。	・取付部の締付け又は，交換する。	189
配線コード	・コネクタなどの外れやゆるみ又は，被覆の損傷はないか。	・接続する。 ・交換する。	239
メインスイッチを入れて			
各ランプ	・各スイッチを操作すると点灯又は，点滅するか	・球切れ，ヒューズ切れ，配線コードの外れを調べ交換又は，接続をする。 ・バッテリの充電又は交換する。	239～ 244 235
液晶ディスプレイ	・表示はされているか。 ・切換えスイッチを押すと表示内容が変わるか。		
燃料計	・作業に必要な燃料はあるか。	・軽油を補給する。	177

＜ここを＞ ➡	＜点検し異常があれば＞ ➡	＜こうする（処置）＞	参　照 ページ
ホーン	・スイッチを押すと鳴るか。	・ヒューズ切れ，配線コードの外れを調べ交換又は，接続をする。	239
バックブザー	・主変速レバーを**【後進】**位置にするとブザーが鳴るか		
エンジンを始動して			
エンジン回転計	・回転計の作動に異常はないか。	・購入先に連絡してください。	－
エンジン（マフラ）	・異音はしないか。 ・排気ガスの色に異常はないか。	・購入先に連絡してください。	－
各レバー	・各レバーの作動に異常はないか。	・調整する。	195～198
駐車ブレーキ	・機体は停止するか。また，遊び量は適正か。	・調整する。	195
エンジン停止スイッチ	・スイッチを押すと，ブザーが鳴りエンジンが停止するか。	・ヒューズ切れ，配線コードの外れを調べ交換又は，接続をする。	239

重　要

＊ 処置したあとに異常が直らないときは，購入先に連絡してください。

移動走行と輸送

新車時の扱いかた

新車時の上手な運転操作やメンテナンスがコンバインの寿命に影響を及ぼします。新車のコンバインは厳重な検査のもとに出荷されていますがコンバインの各部の部品はならし運転されていません。ならし運転期間中はコンバイン各部の部品がなじむまでは走行速度は低速で，過負荷となる刈取作業は避けてください。
コンバインの性能を最大に発揮させたり，長期にわたる耐久力を維持させるためには，適正なならし運転が重要です。
新車時の取扱いは次項を遵守してください。

■ならし運転について

＊ 急発進や急ブレーキ操作はしないでください。
＊ 寒い日や冬期，エンジンはじゅうぶん暖機運転をしてください。
＊ エンジンは規定刈取作業回転数以上に回さないでください。
＊ 高速での刈取作業は避けてください。
＊ 整地されていない凹凸道路では低速走行をしてください。

以上はならし運転以降も必要な事項ですが，新車時は特に注意してください。

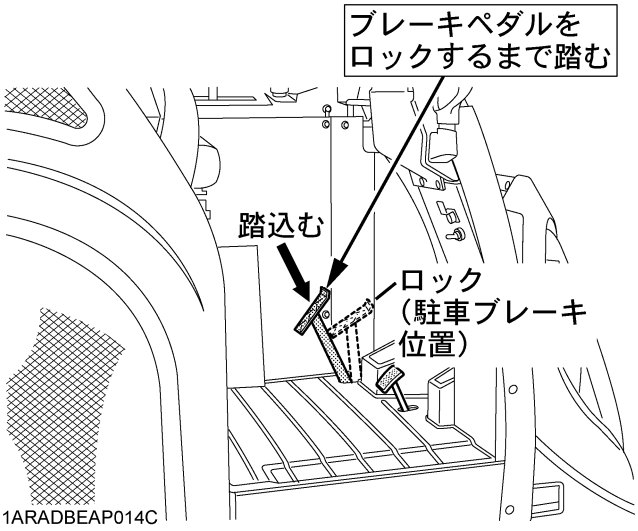
エンジンの始動と停止のしかた

注 意

＊ この取扱説明書前編の黄色のページの［安全に作業をするために］の内容を必ずお読みいただいて安全作業を心掛けてください。
＊ コンバインに貼ってある警告・注意ラベルの内容を必ずお読みください。
＊ エンジン排気ガスによる，排気ガス中毒をさけるため，換気の悪い納屋・倉庫でエンジンを回さないでください。
＊ 始動操作は，ホーンなどで周囲の人に始動の合図をしてから行なってください。

■始動のしかた

1. 駐車ブレーキを掛けます。

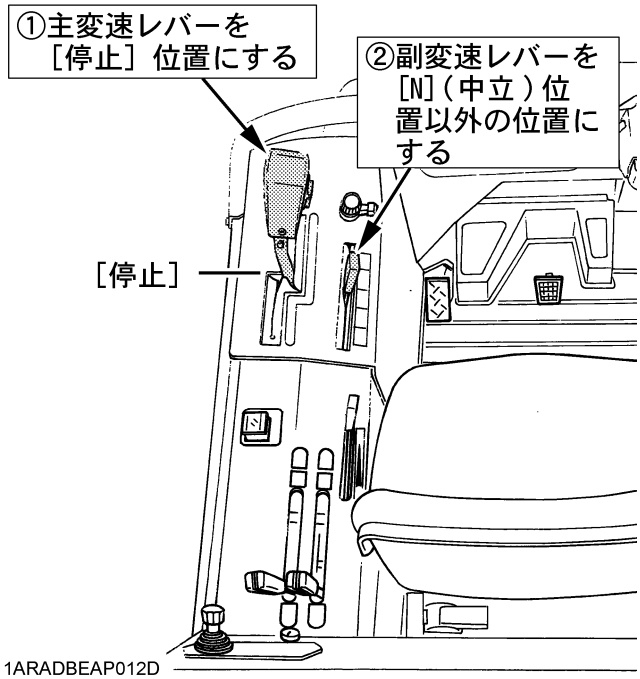


補 足

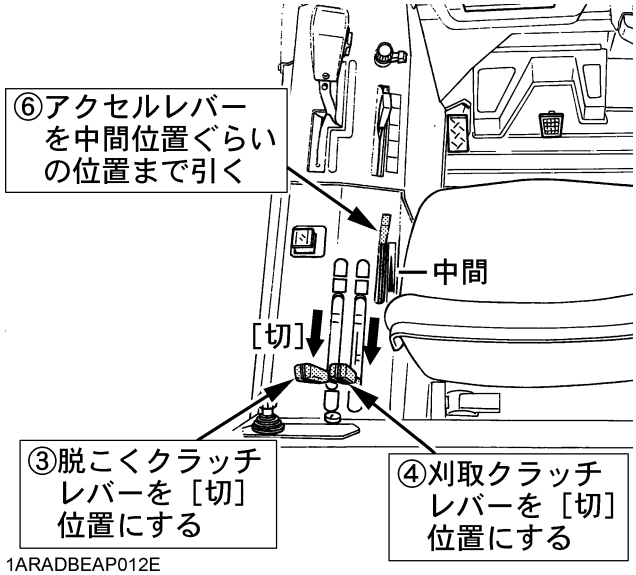
＊ 駐車ブレーキペダルを踏むと主変速レバーが**［停止］**位置に戻ります。また，ブレーキペダルが**［ロック］**位置の場合は，主変速レバーは動きません。

2. 各レバー位置の確認をします。

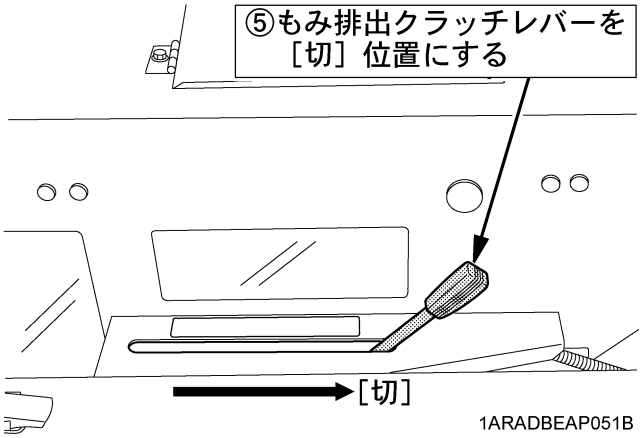
[DX 仕様]



1ARADBEAP012D



1ARADBEAP012E



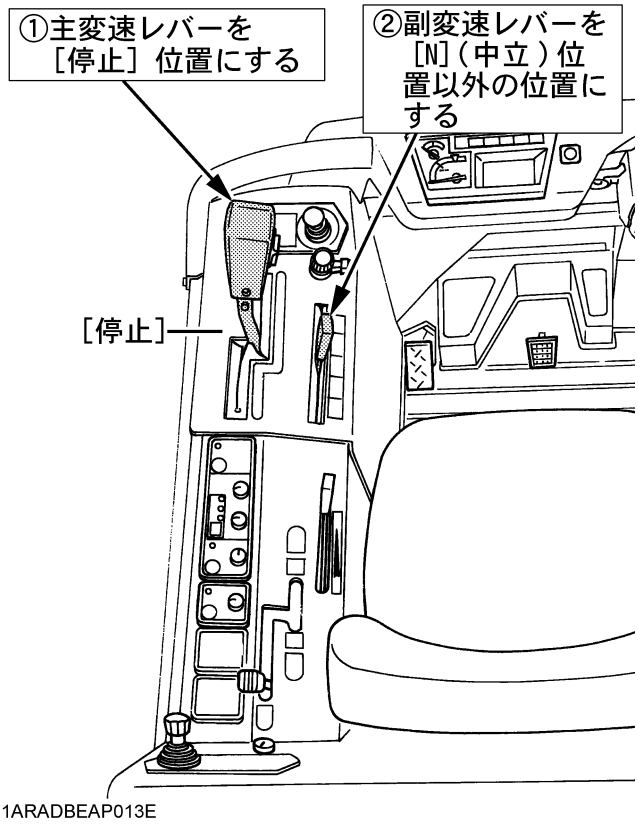
1ARADBEAP051B

補　足

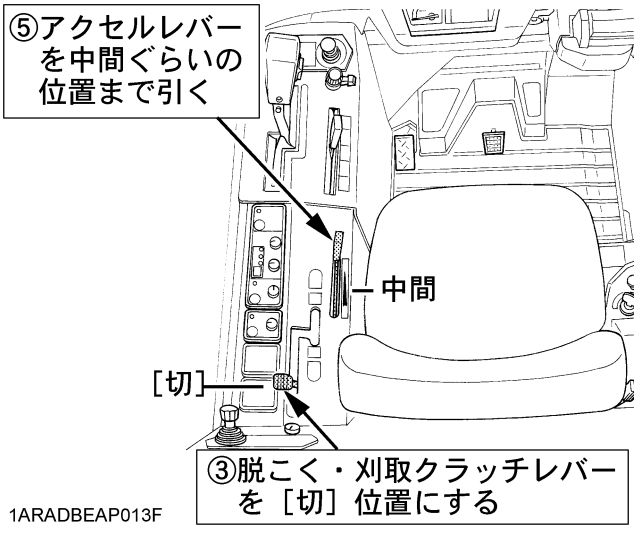
＊ 主変速レバーは**【停止】**位置にあり，脱こくクラッチレバー及びもみ排出クラッチレバーを**【切】**位置にし，ブレーキペダルを踏込まないと，エンジンは掛かりません。

[DX 仕様]

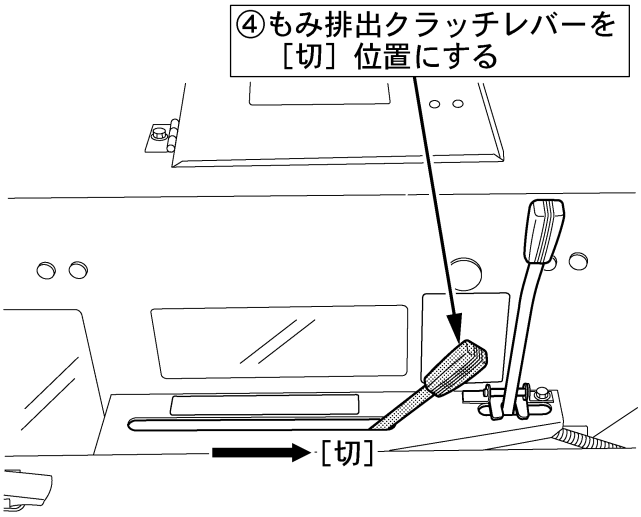
[SD 仕様]



1ARADBEAP013E



1ARADBEAP013F



1ARADBEAP050C

補　足

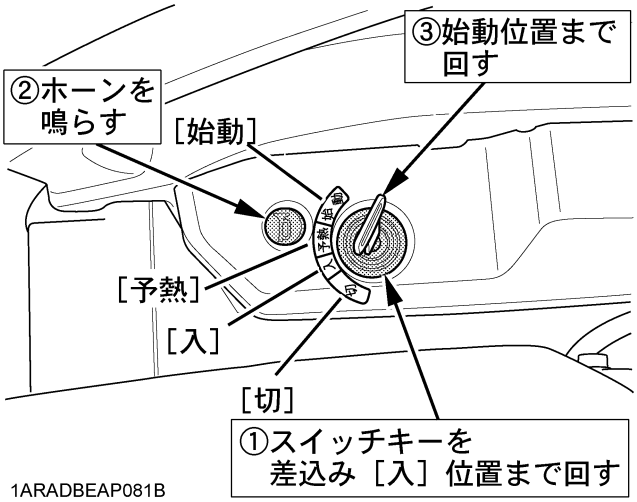
＊ 各レバーの位置がエンジンの始動条件に合っていないと，スイッチキーを回してもエンジンは始動せず液晶ディスプレイに下記の内容を表示します。

- **［脱こくクラッチ切に］**… 脱こく・刈取クラッチレバーを**【切】**位置にする。
- **［主変速中立に］**…… 主変速レバーを**【停　止】(中立)**位置にする。
- **［もみ排出クラッチ切に］**… もみ排出クラッチレバーを**【切】**位置にする。
- **［ブレーキペダルを踏む］**… 駐車ブレーキペダルを踏む。

［SD 仕様］

3.　エンジンを始動します。

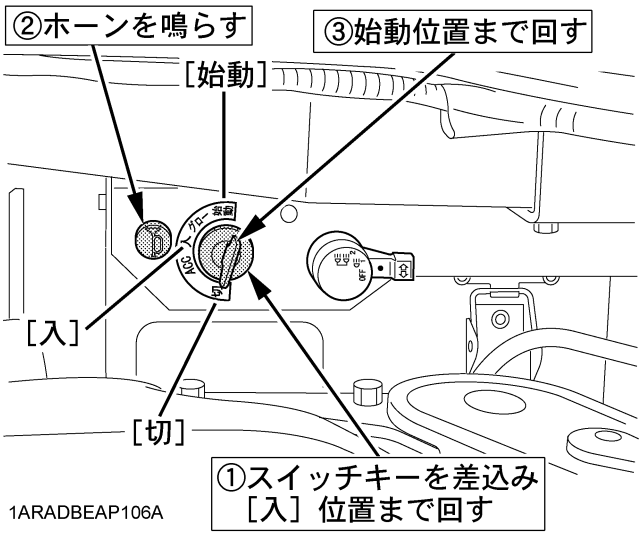
［Q 仕様除く］



1ARADBEAP081B

［Q 仕様除く］

［Q 仕様］



1ARADBEAP106A

［Q 仕様］

重　要

＊ スイッチキーを**【始動】**位置に回して 10 秒たっても始動しないときは，いったんキーを**【切】**位置にして，30 秒ほど休止してから，エンジンを再始動してください。10 秒以上の使用は故障の原因になります。
＊ エンジン回転中に，スイッチキーを**【始動】**位置に回すと故障の原因になります。

[DX 仕様]

重　要

＊ エンジン始動後，油圧ランプ，充電ランプが**消灯**しないときは，購入先へ連絡してください。

[DX 仕様]

[SD 仕様]

補　足

＊ スイッチキーを**【入】**位置にすると，エアロナビの液晶ディスプレイに**【アワーメータ・オイル（図柄）・充電（図柄）】**が表示されますが，オイル又は，充電の図柄が表示されないときは，購入先に連絡してください。
＊ 駐車ブレーキが掛かっている状態でスイッチキーを**【入】**位置にすると**【駐車ブレーキ(P)】**が優先して表示し，駐車ブレーキを解除すると表示は消えます。

[SD 仕様]

補　足

＊ ホーンを鳴らすなどして始動の合図を周囲の人に送ります。

◆ 暖機運転について

エンジン始動後，エンジン回転数を約 1500rpm に合わせて通常（寒冷時以外）約５～ 10 分間は負荷をかけずに暖機運転を行なってください。

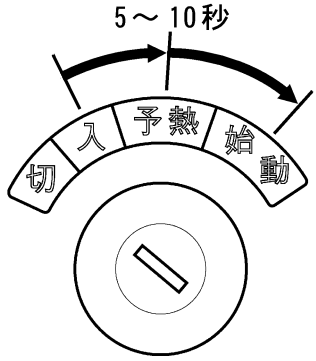
重　要

＊ オイルを各部にじゅうぶんゆきわたらせるためで，始動してからすぐ負荷をかけると，エンジンの焼付きやミッションや油圧系統の故障の原因になります。

◆ 寒冷時の始動のしかた

[Q 仕様除く]

寒冷時にエンジンを始動するときは，始動する前にスイッチキーを**【予熱】**位置で５～ 10 秒間予熱したあと**【始動】**位置に回してください。

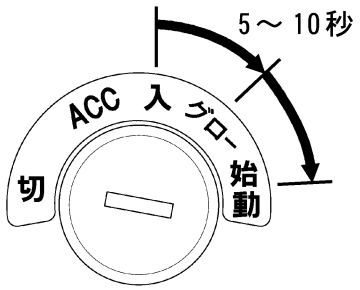


1ARADBEAP060B

[Q 仕様除く]

[Q 仕様]

寒冷時にエンジンを始動するときは，始動する前にスイッチキーを**【グロー】**位置で５～ 10 秒間予熱したあと**【始動】**位置に回してください。



1ARADBEAP061B

[Q 仕様]

重　要

＊ 寒冷時は暖機運転を怠るとSFワンレバーの操作できなくなったり，ブレーキが効かなくなるなど**油圧系統の故障**につながりますので，下記の表を目安に暖機運転を行なってください。

気　　温	暖機運転時間
0 ℃～ -10 ℃	約 10 分
-10 ℃～ -15 ℃	10 ～ 15 分
-15 ℃～ -20 ℃	15 ～ 20 分
-20 ℃	20 分以上

◆ 燃料切れ後の再始動のしかた

運転中に燃料切れで停止した場合は,

1. 脱こく・刈取クラッチレバー及びスイッチキーを**［切］**位置にします。
2. 燃料タンクに燃料を補給します。
3. **始動のしかた**の**１～２**を確認後，エンジンを始動します。

補　足

＊ スイッチキーを**［入］**位置にすると約５～10秒で自動的にエア抜きされます。

◆ バッテリが上がったときの始動のしかた

危　険

＊ バッテリの近くに裸火（マッチ，ライタ，タバコの火など）を近づけたり，（＋）端子と（－）端子が金属工具やブースタケーブルなどの接触よって起こるスパークをさせないでください。バッテリのガスで引火爆発するおそれがあります。

バッテリ上りによりエンジンが始動できなくなったときは，バッテリの補充電又は，交換を行なってください。(235 ページ参照)
補充電や交換がすぐに行なえないときは，救援車のバッテリにブースタケーブルを接続してください。

重　要

＊ 接続するバッテリは，必ず 12V のものを利用してください。故障の原因となります。
＊ バッテリを直列につないで始動しないでください。電装品が破損するおそれがあります。
＊ 充電異常により場合（充電ランプ点灯）は購入先に連絡してください。

補　足

＊ ブースタケーブルの取扱いは，ブースタケーブルの取扱説明書に従ってください。

1. ブースタケーブル（赤）をコンバイン側と救援車側のバッテリの**（＋）端子**にそれぞれ接続したあと，ブースタケーブル（黒）を救援車側のバッテリの**（－）端子**に接続し，コンバイン側はバッテリから離れたところの金属部で塗装がされていないところに接続します。
2. 利用するバッテリが車などの場合は，エンジン回転を上げます。
3. コンバインのエンジンを始動します。
4. ブースタケーブルを取付けの逆の手順で取外します。

■停止のしかた

1. 脱こく・刈取クラッチレバーを**［切］**位置にします。
2. アクセルレバーを**［🐢］**（低回転）位置にします。
3. スイッチキーを**［切］**位置にしてエンジンを停止します。

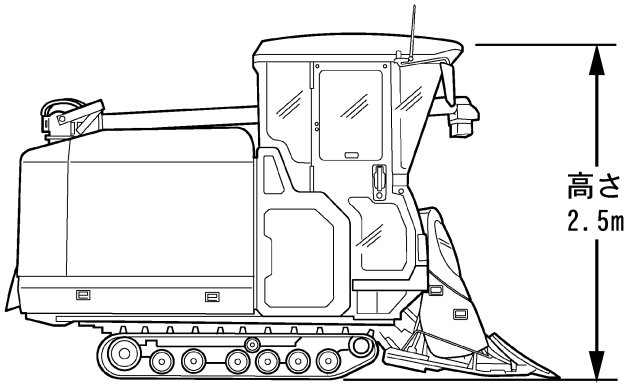
重　要

＊ エンジン停止中でスイッチキーが**［入］**位置の状態のまま長時間放置すると**バッテリ上り**となります。
＊ スイッチキーを**［切］**位置にしてもエンジンが停止しないときは**非常エンジン停止レバー**を引いてください。そのあと，購入先へ連絡してください。

移動走行について

注　意

＊ グレンタンク内に残っているもみは全て排出してください。
＊ 安全のためヘルメットを着用してください。
＊ 運転者以外の人を乗せないでください。
＊ 10cm 以上の段差（あぜやコンクリートの畦畔など）のあるところではあゆみ板を使ってください。
＊ 水平操作レバーで機体をいっぱい下げた状態にしてください。[DXM・SD4M 仕様]
[Q 仕様] は高さ制限のあるところを走行するときは注意してください。



1ARADBEAP107A

＊ あぜごえや傾斜地（坂道やあゆみ板を使うとき）での走行は，副変速レバーを［倒伏・ぬれ］位置にし，低速で走行してください。走行途中に停止するときは，主変速レバーを操作して停止してください。
＊ あぜごえや傾斜地（坂道やあゆみ板を使うとき）の途中で SF ワンレバー・副変速レバー・ブレーキペダル・水平操作レバー [DXM・SD4M 仕様]・かき込みペダル・車体旋回モード切換えスイッチを操作すると，機械の移動方向が変化したり，急降下，落下する危険がありますので操作しないでください。
＊ あゆみ板を使うときや坂道を走行するときは，速度を最低速にし，あぜや傾斜方向に対して上り方向は前進，下り方向は後進で直角に走行してください。斜めに走行すると転倒してケガをするおそれがあります。

＊ 下記のようなところを走行するときは，転倒しケガをするおそれがあるので注意してください。
- **両側が傾斜していたり，溝のある道路の路肩**
- **道幅に余裕がなく高いとろこにある道路（土手）**
- **路肩の弱い道路**
- **路面の凹凸（溝や穴・窪地など）の落差の大きいところや路面が草などでおおわれて良く見えないところ**

＊ 小型特殊自動車の標識（ナンバプレート）を取得していない場合や結束機を装着している場合は，[道路運送車両法] の違反となりますので公道を走行できません。必ずトラックなどに乗せて移動してください。

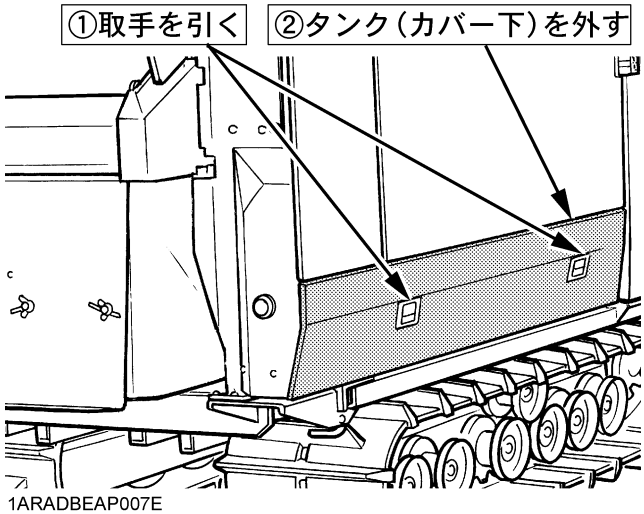
■走行前の準備

注　意

＊ 準備が終われば，カバー類などが確実に取付けられているか確認してください。

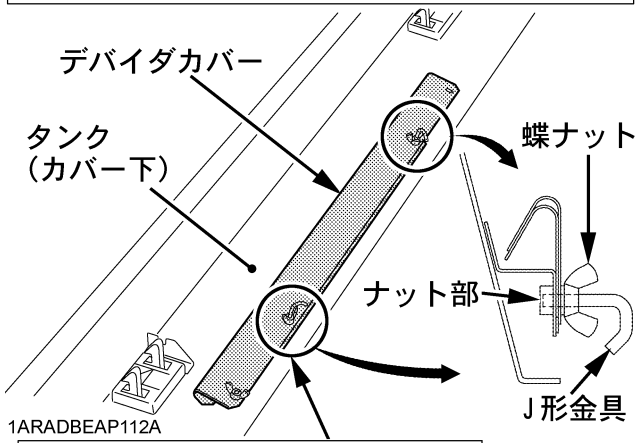
1. グレンタンク内に残っているもみは，すべて排出します。(100 ページ参照)
2. デバイダカバーを取付けます。

[327・331・338]



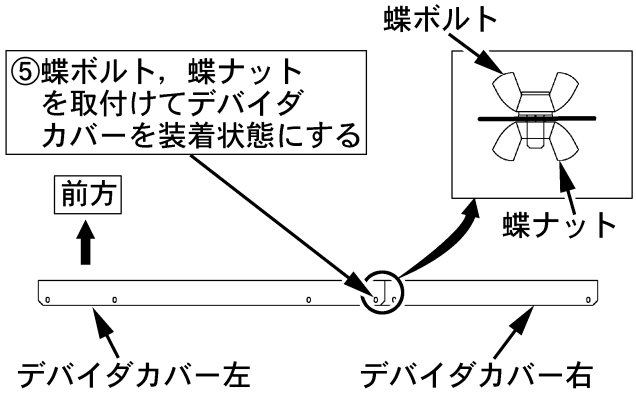
1ARADBEAP007E

③タンク(カバー下)裏側のデバイダカバーを
取付けている蝶ナットをゆるめて，J形金具
を取外して外す

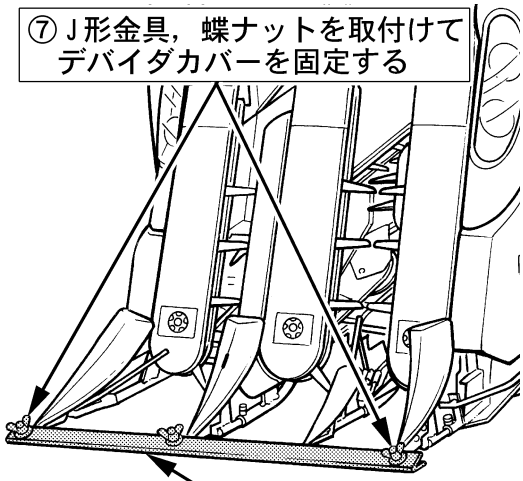


1ARADBEAP112A

④デバイダカバーを取外したあと，
蝶ボルト，蝶ナットを外して，
デバイダカバーを２分割する



1ARADBEAP115A



1ARADBEAP006C

⑥デバイダカバーを装着する

⑧タンク(カバー下)を機体に取付ける

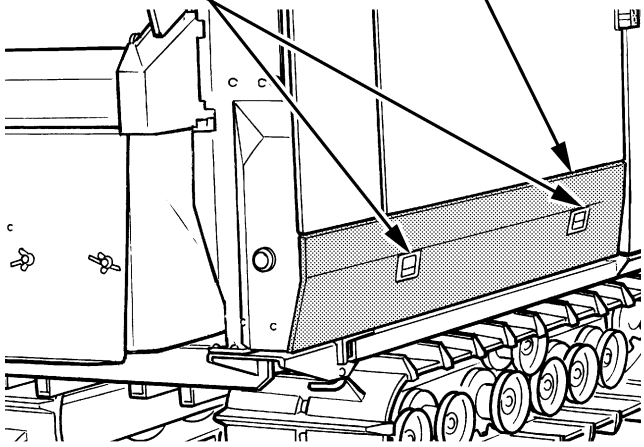
補　足

＊ 右側デバイダは標準の位置にしてください。
(109 ページ参照)

[327・331・338]

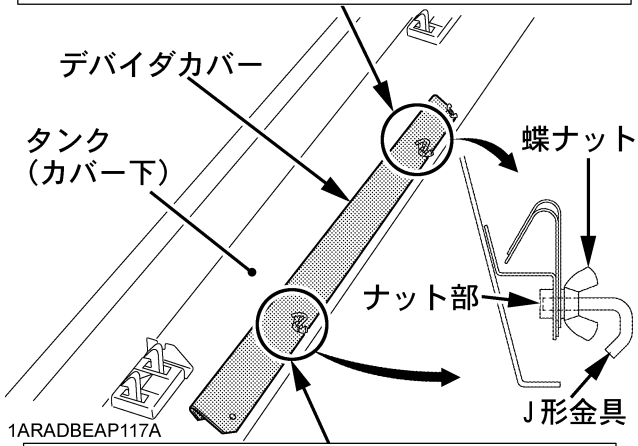
[433・438・445]

①取手を引く　②タンク(カバー下)を外す



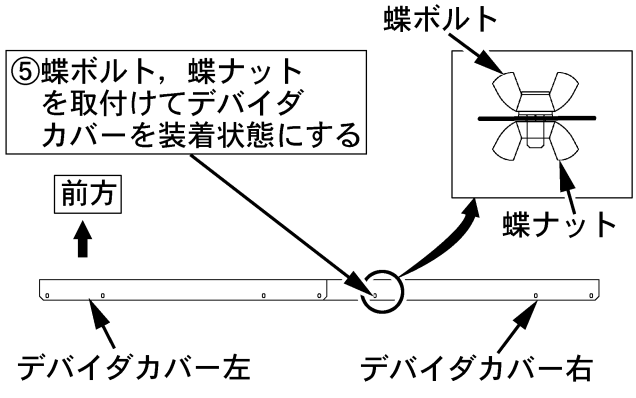
1ARADBEAP007E

④デバイダカバーを取外したあと,蝶ボルト,蝶ナット
を外して,デバイダカバーを2分割する

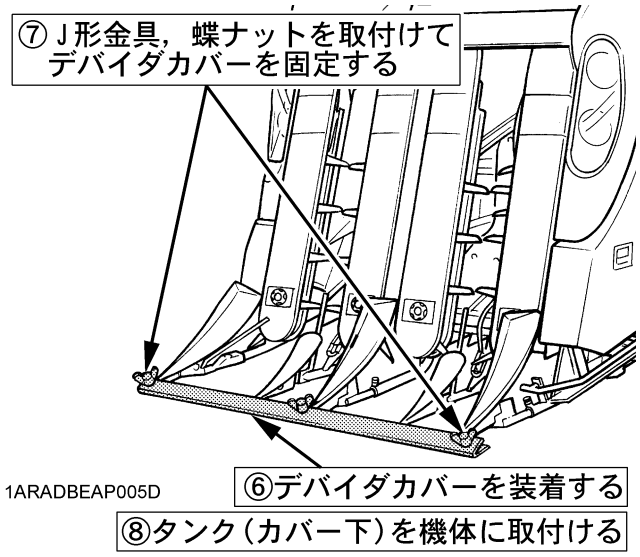


1ARADBEAP117A

③タンク(カバー下) 裏側のデバイダカバーを
取付けている蝶ナットをゆるめて，J形金具
を取外して外す



1ARADBEAP116A

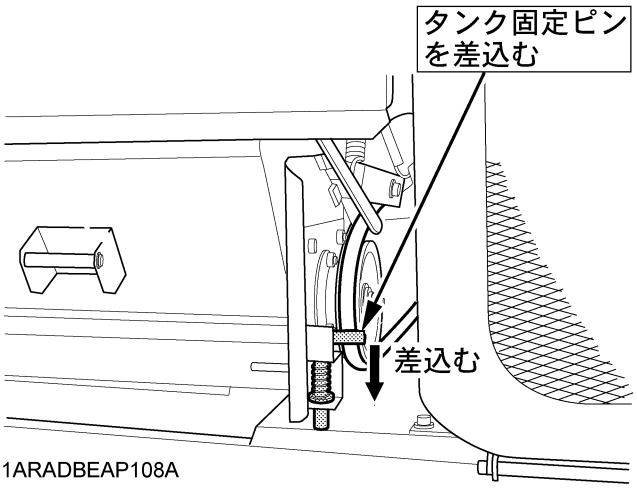


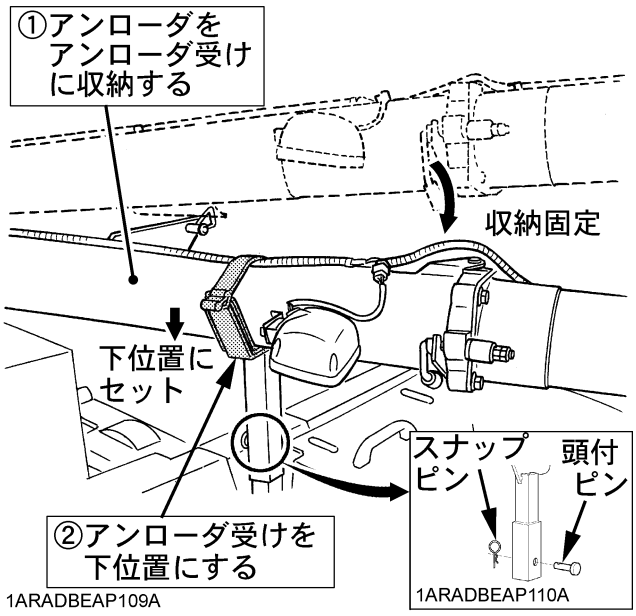
補　足

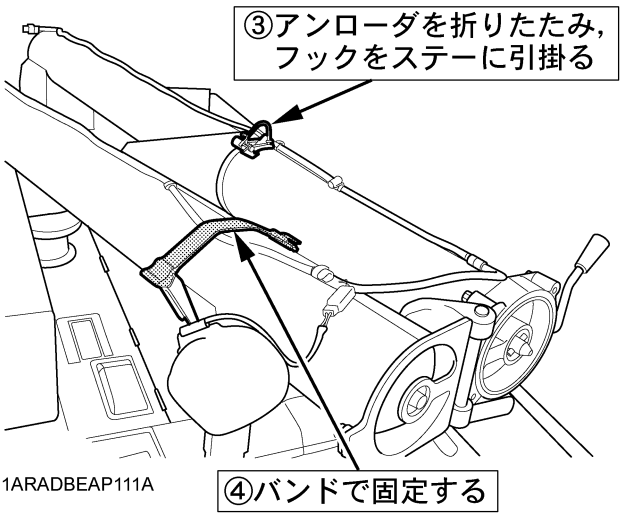
＊ 右側デバイダは標準の位置にしてください。（109 ページ参照）

[433・438・445]

3. グレンタンクを固定し，アンローダを折りたたみます。



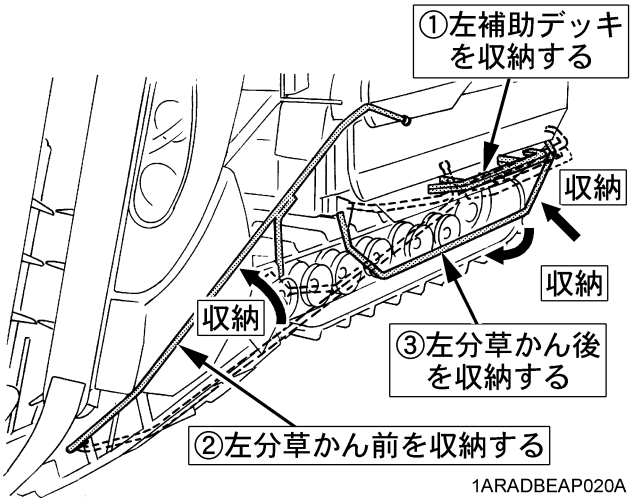




補　足

＊ アンローダ内にもみが残っていると，もみがこぼれるのでアンローダを一度最上昇させて収納してください。

4. 左補助デッキ，分草かん前・後を収納します。

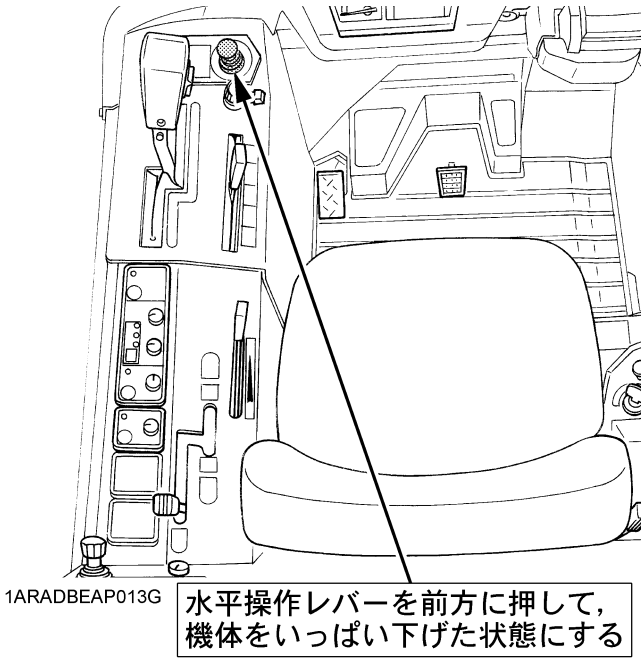


補　足

＊ こぎ深さチェーンを最深状態にしないと，折りたためません。

[DXM・SD4M 仕様]

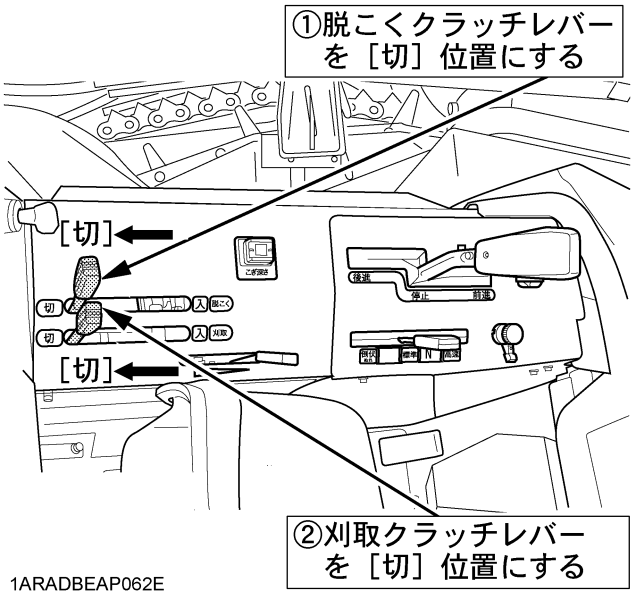
5. 自動車体水平制御スイッチを **[切]** にし，水平操作レバーで機体をいっぱい下げます。

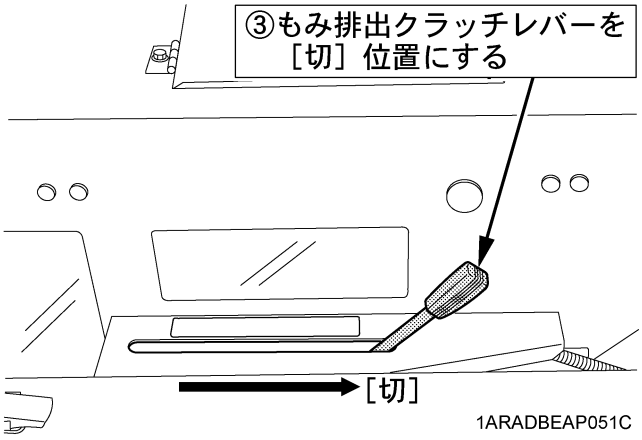


[DXM・SD4M 仕様]

[DX 仕様]

6. 各作業クラッチ（刈取，脱こく，もみ排出）各レバーを **[切]** 位置にします。

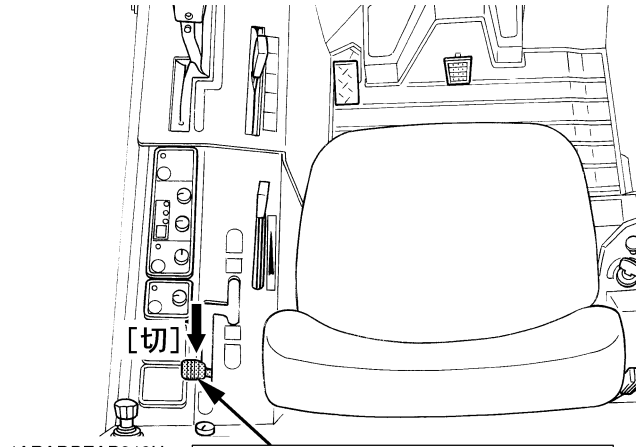




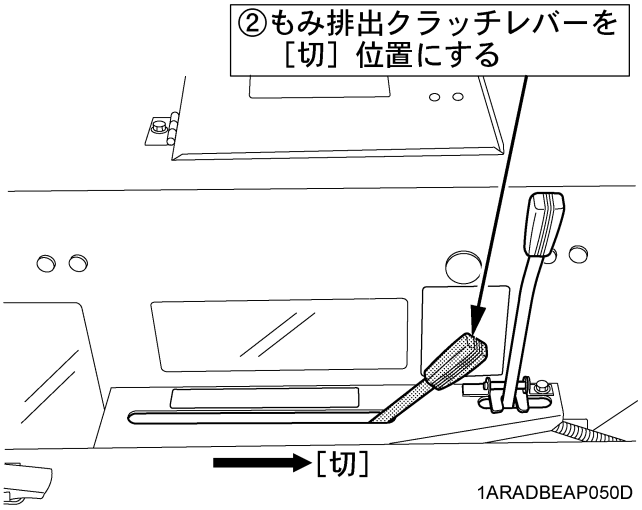
[DX 仕様]

[SD 仕様]

6. 各作業クラッチ（刈取，脱こく，もみ排出）各レバーを **[切]** 位置にします。



1ARADBEAP013H



1ARADBEAP050D

[SD 仕様]

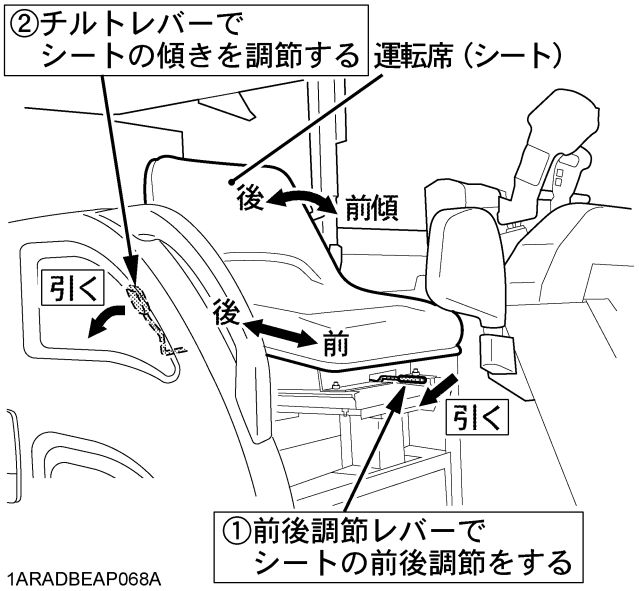
■発進のしかた

注 意

＊ 発進をするときは，周囲の安全を確かめてホーンなどで合図を行なってから発進してください。
＊ 急発進は危険ですので，ゆっくりと発進してください。

1. 運転席，バックミラーの調整を行ないます。

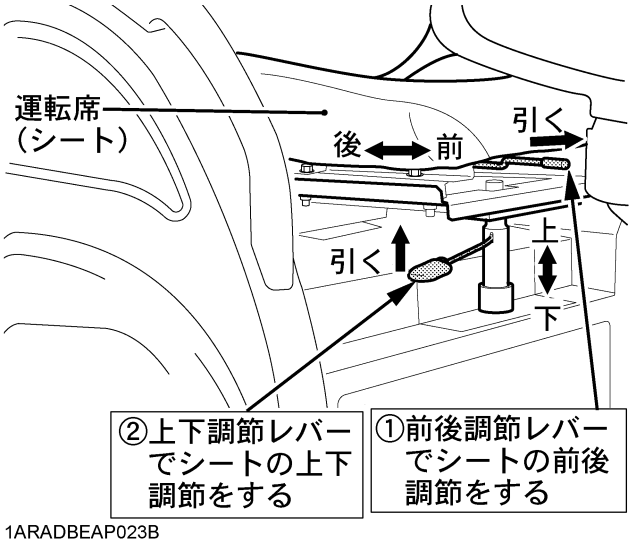
[DX 仕様]



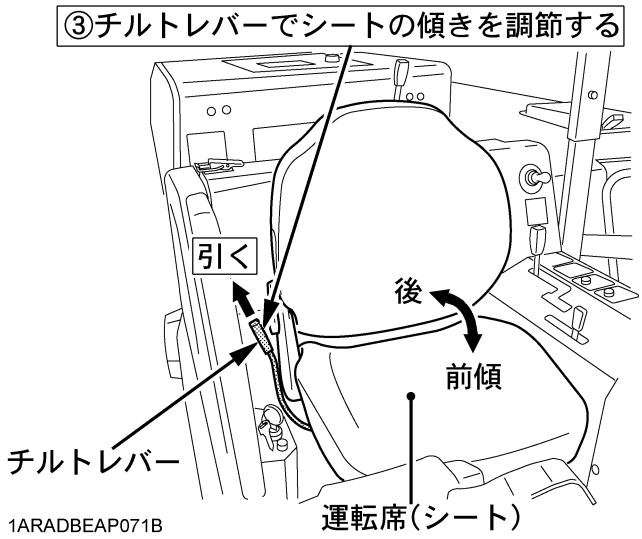
1ARADBEAP068A

[DX 仕様]

[SD 仕様]



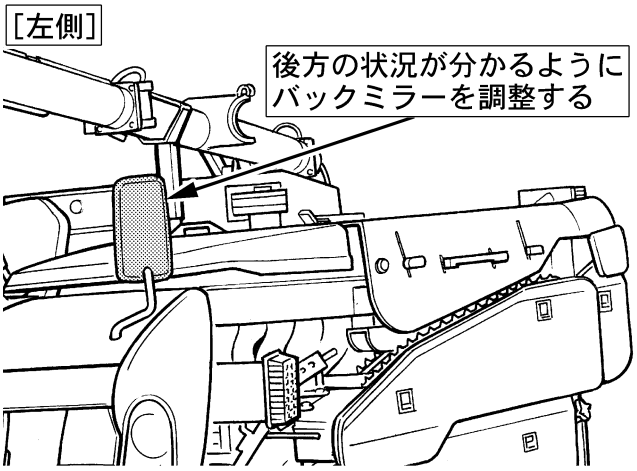
1ARADBEAP023B



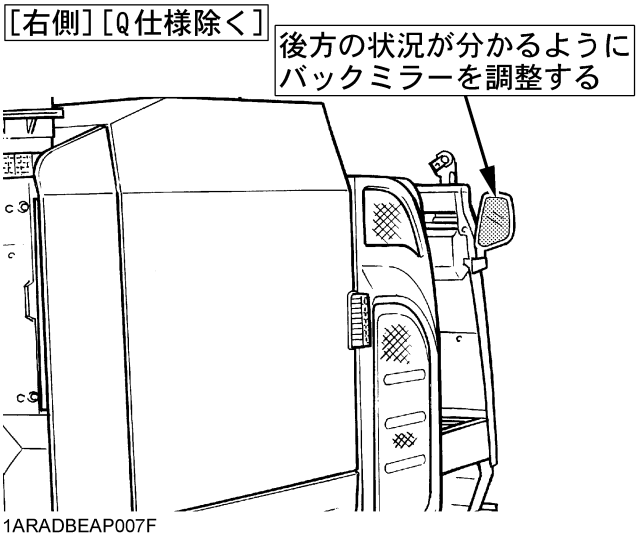
1ARADBEAP071B

[SD 仕様]

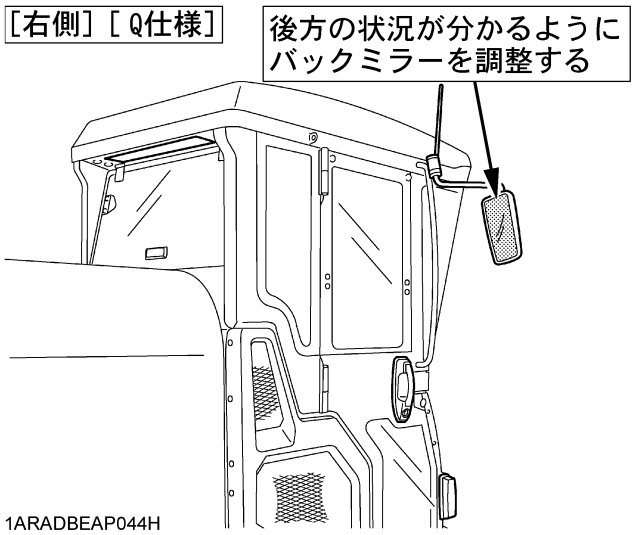
2. 左，右のバックミラーを調整します。



1ARADBEAP004F



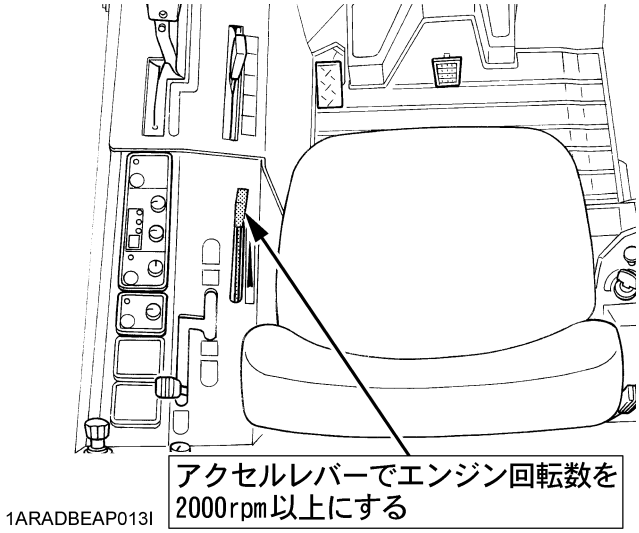
1ARADBEAP007F



1ARADBEAP044H

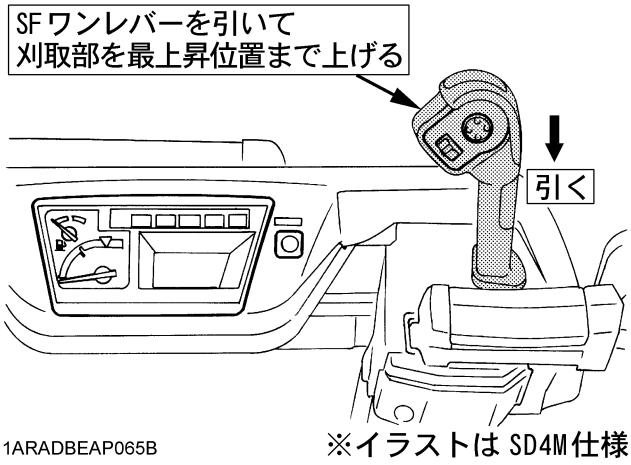
3. アクセルレバーを操作します。

エンジンを始動したあと，アクセルレバーを操作します。



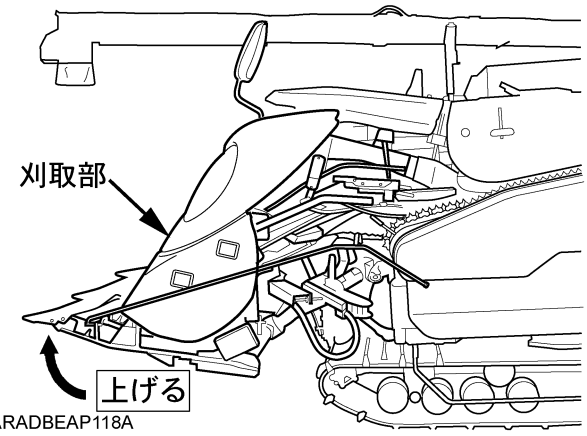
1ARADBEAP013I

4.　刈取部を上げます。



1ARADBEAP065B

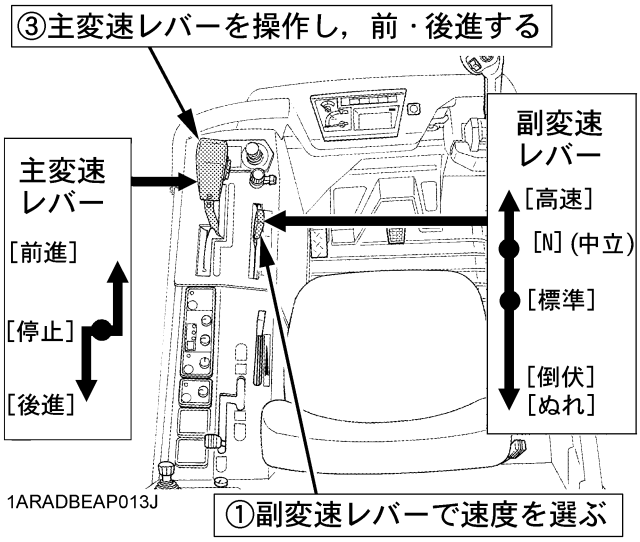
※イラストはSD4M仕様



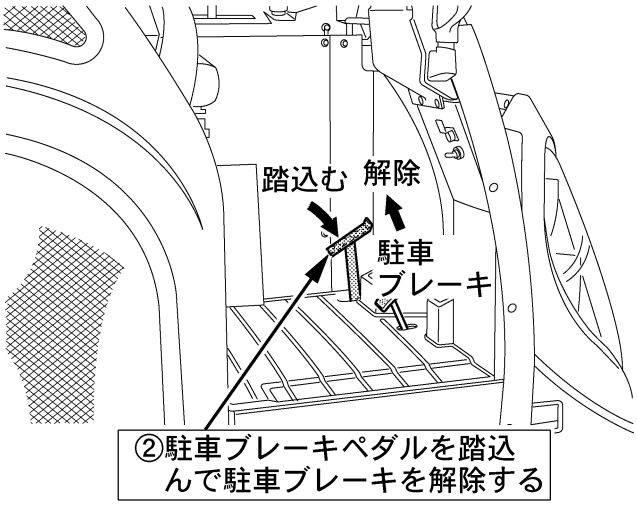
1ARADBEAP118A

5.　走行速度を選んで発進します。

主変速レバーを**【停止】**位置により前に押すと**前進**し，後に引くと**後進**します。



1ARADBEAP013J



1ARADBEAP015A

重　要

＊ 駐車ブレーキが掛かっているときは，主変速レバーを動かさないでください。無理に動かすと故障の原因となります。また，駐車ブレーキが掛かっている状態で主変速レバーを動かして警報が鳴ったときは，主変速レバーを**【停止】**位置にして駐車ブレーキを解除してください。

＊ 副変速レバーの切換えは平たんな場所で主変速レバーを**【停止】**位置にし，ブレーキペダルをいっぱいまで踏込み走行をいったん止めてから行なってください。故障の原因となります。

補　足

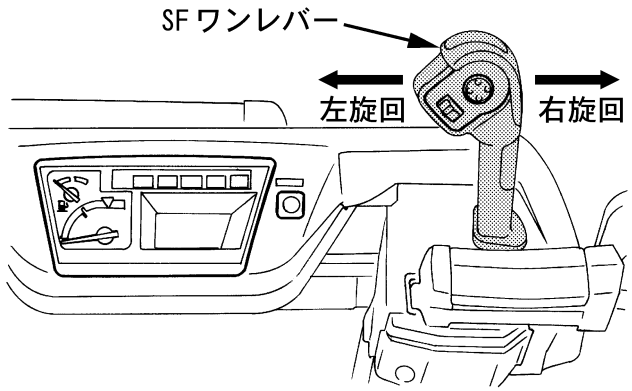
＊ 副変速レバーが切換えにくいときは，主変速レバーを少し**【前進】**側に動かして停止に戻してから切換えてください。

■旋回のしかた

注　意

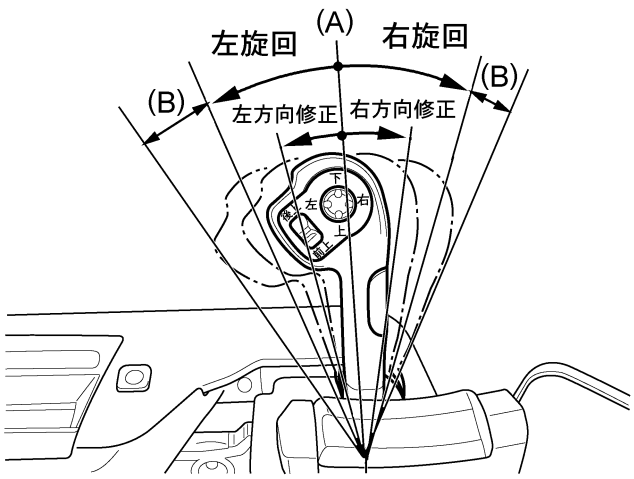
＊ 高速走行時，SF ワンレバーを強く操作すると急旋回して危険ですので，旋回前に必ず減速してください。

旋回する方向に SF ワンレバーを倒します。倒す角度に応じて旋回半径が変わります。また，いっぱいまで倒すと急旋回します。



1ARADBEAP065C

※イラストは SD4M 仕様



(A): ソフトターン範囲
(B): ブレーキターン範囲

［運転席にすわって操作する方向］

1ARADBEAP064A

重　要

＊ 砂利道での急旋回は，クローラに石がかみこみ故障するおそれがありますので避けてください。

補　足

＊ 車体旋回モードに切換えスイッチを**【ソフト・ブレーキ】**位置に選択すると**（A）**から**（B）**の範囲に切換わるとブレーキターンとなります。

■停車･駐車のしかた

注　意

＊ コンバインを離れるときは，平たんで安全な場所に置き，刈取部を降ろして駐車ブレーキを掛け，エンジンを止めてください。
＊ やむをえず坂道で駐車するときは，木片などで車止めをし，暴走を防いでください。

1. 主変速レバーを**【停止】**位置にします。
2. 駐車ブレーキを掛けます。

重　要

＊ 駐車ブレーキが掛かっているときは，主変速レバーを動かさないでください。無理に動かすと故障の原因となります。

3. アクセルレバーを**【🚗】（低回転）**位置にします。
4. 刈取部を接地します。
5. エンジンを停止してスイッチキーを抜きます。
6. **【Q 仕様】**はキャビンのドアをロックします。

■道路走行について

警　告

＊ 道路を走行するときは，大型特殊自動車の運転免許証を必ず携帯し，小型特殊自動車の法規を守り安全運転をしてください。

注　意

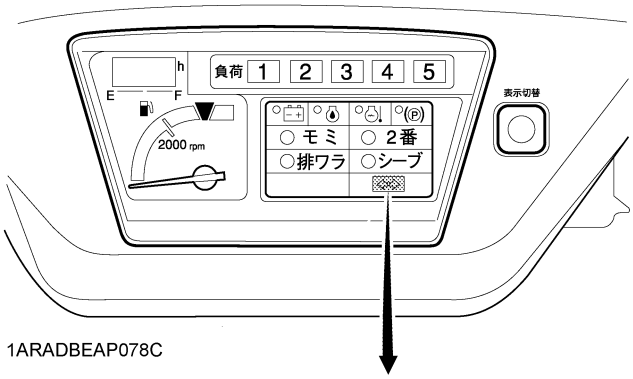
＊ 結束機［結束機付き仕様］を装着した状態で移動するときは，トラック輸送してください。
＊ 夜間など暗いときに移動走行するときは，ヘッドランプを必ず点灯し，作業灯は必ず消灯してください。
＊ 作業灯は［道路運送車両の保安基準］第 42 条（灯火の色などの制限）において，［走行中に使用しない灯火］とされ，点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから，道路走行中の点灯は禁止されています。

道路走行中，進路方向を変えるときは，ウインカ（方向指示器）で進路方向を他の自動車に知らせてください。

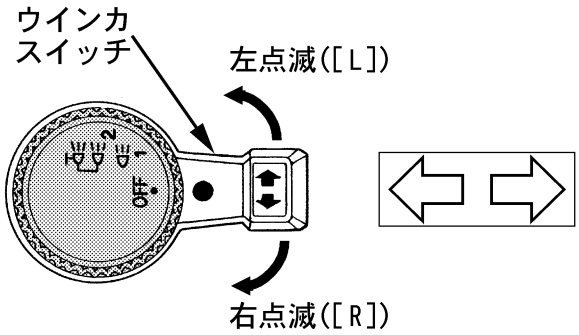
● ウインカスイッチ

[DX 仕様]

旋回方向に操作すると，ウインカランプが点滅し，メータユニット内のウインカ表示ランプが点滅します。



1ARADBEAP078C



1ARADBEAP119B

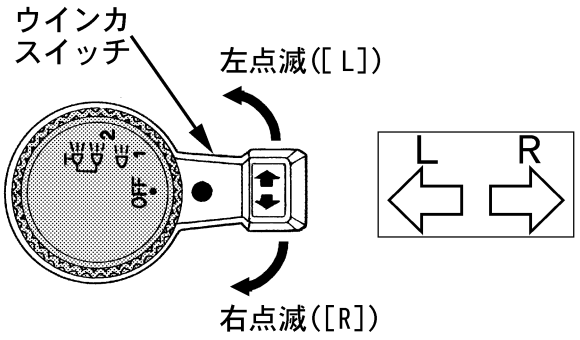
補　足

＊ 旋回が終わるとウインカスイッチは中央に戻してください。

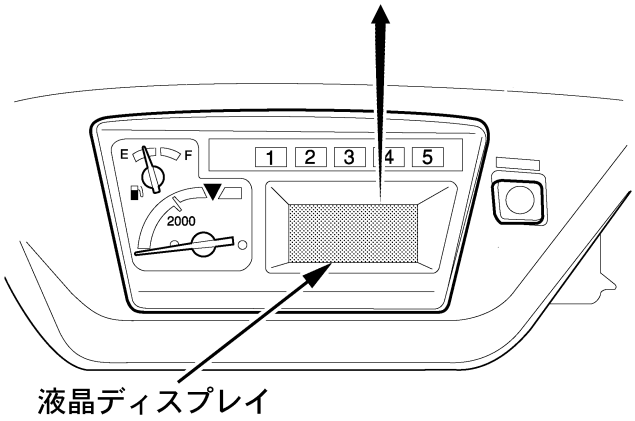
[DX 仕様]

[SD 仕様]

旋回方向に操作すると，ウインカランプが点滅し，エアロナビの液晶ディスプレイに**[L]（左方向）**又は，**[R]（右方向）**方向を示す矢印が点滅表示します。



1ARADBEAP119C



1ARADBEAP079C

補　足

＊ 旋回が終わるとウインカスイッチは中央に戻してください。

[SD 仕様]

輸送について

■トラックとあゆみ板の準備

注　意

＊ 積込み・積降しは平たん地を選び，トラックの駐車ブレーキをしっかり掛けてください。
＊ あゆみ板はフックが付いているもので，じゅうぶんな強度，幅（55cm 以上），長さ（高さの４倍以上）のある基準に合ったすべり止め付きのものを使用し，コンバインの重量であゆみ板が傾いたりしない場所を選んでください。
＊ あゆみ板を荷台に掛けるときは，段差がなく平行で，左・右のあおりに機体が接触しない位置に合わせてください。

あゆみ板の基準

長　さ	**トラックの荷台の高さの４倍以上**
幅	**55cm 以上**
数　量	**２枚**
強　度	**１枚が 2400kg 以上の重量に耐えうる**

■コンバインの準備

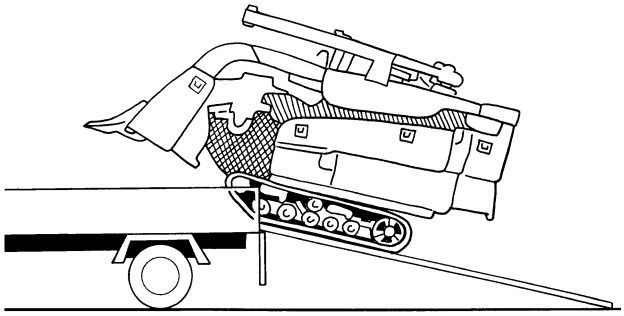
もみをすべて排出し，アンローダ受けを下（収納）位置にしてアンローダを収納後，折りたたみ式アンローダを折りたたみ，バンドで固定し，脱こく・刈取クラッチレバー，もみ排出クラッチレバー**[Q 仕様を除く]**を**[切]**位置にし，自動車体水平制御（モンロー）を機体いっぱいまで下げ，左補助デッキや左分草かん前，後をそれぞれ収納したあと，デバイダカバーを取付けます。(65 ページ参照)

■コンバインの積込み･積降しのしかた

注　意

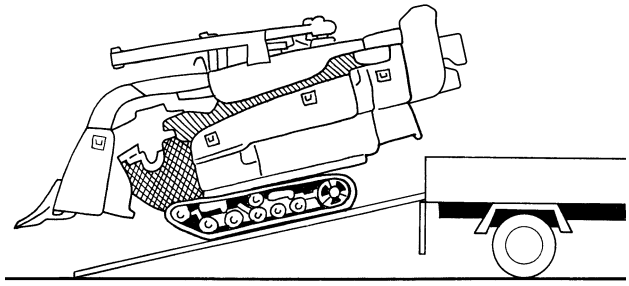
＊ 積込みは前進で，積降しは後進で行なってください。ただし，結束機を装着している機械は後進で積込み，前進で積降しを行なってください。

＊ 平たん地を選び，できるだけ助手の立合い誘導ものとに行なってください。また，助手以外の人をコンバインの周辺に近づけないでください。特にコンバインの前に人を近づけないでください。



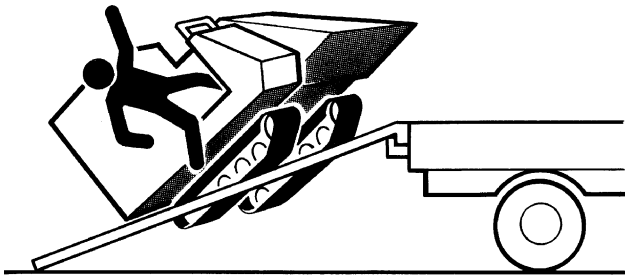
1ARADBEAP120A

［結束機付］



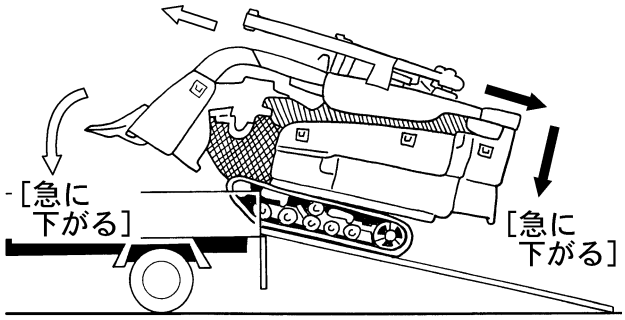
1ARADBEAP121A

＊ あゆみ板の途中で SF ワンレバー・副変速レバー・ブレーキペダル・かき込みペダル・車体旋回モード切換えスイッチを操作すると，機械が急降下し落下する危険がありますので，操作しないでください。方向を変えるときは，いったん地上又は荷台に戻って方向を修正し，再度上り下り直してください。



1ARADBEAP122A

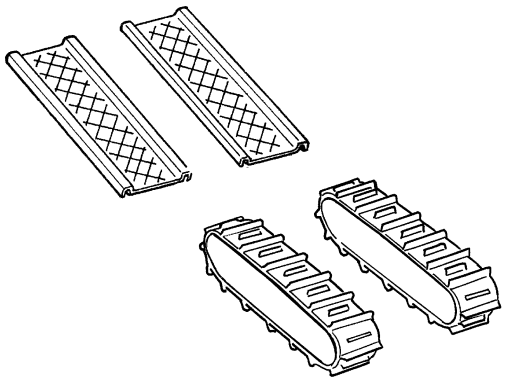
＊ 機体が凸部を越えるときは，急にコンバインの姿勢が変わりますのでじゅうぶん注意してください。



1ARADBEAP123A

◆ 操作のしかた

1. 各作業クラッチレバーを**【切】**位置にします。
2. 水平操作レバーで機体を**最下降位置**まで下げます。
3. SF ワンレバーで刈取部を上げます。
4. アクセルレバーを操作してエンジン回転数を 2000rpm 以上にし，副変速レバーを**【倒伏】**位置にしたあと，主変速レバーをゆっくり操作して，**低速**で走行します。
5. あゆみ板の前でいったん停止し，あゆみ板の中央に左右のクローラを合わせ，あゆみ板と平行になっているか確認してから積込み・積降しをしてください。



1ARADBEAP124A

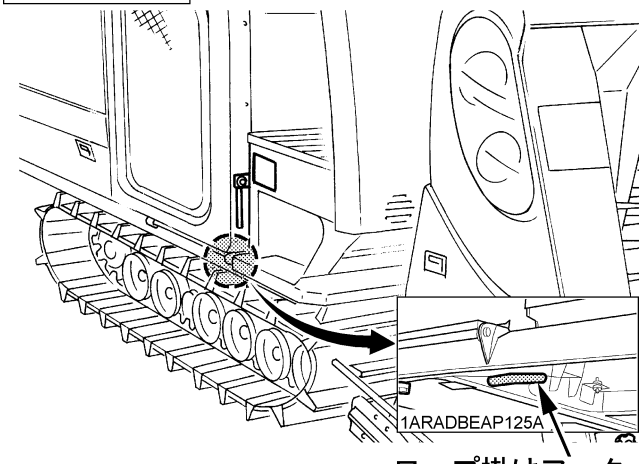
6. 荷台に載せ終わったら刈取部を接地させて駐車ブレーキを掛けます。

■トラック上での処置

注 意

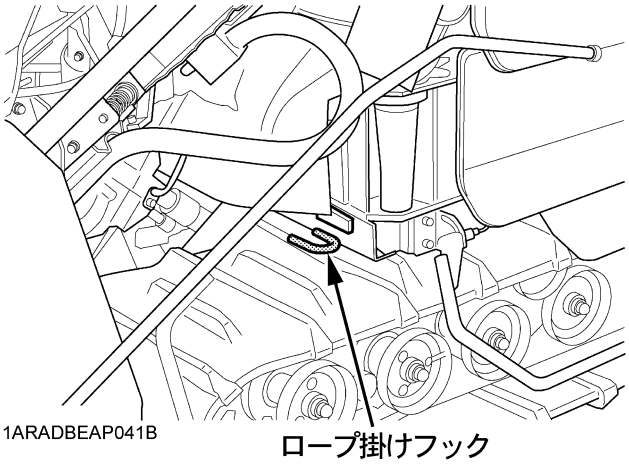
＊ 刈取部を床まで降し，駐車ブレーキを掛け，車止めをし，ロープでしっかりトラックに固定してください。

［運転席下側］

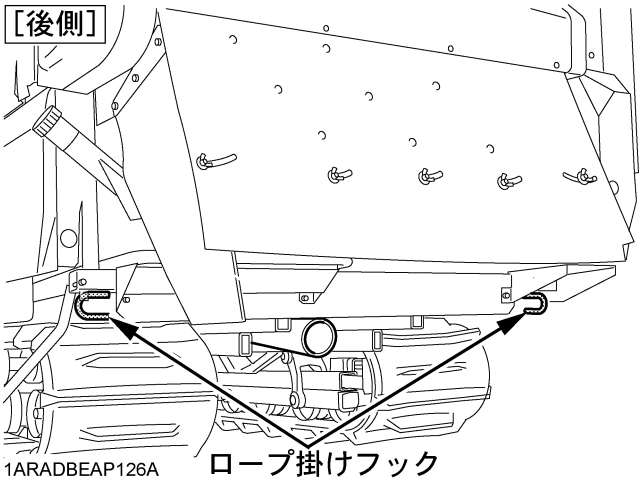


1ARADBEAP009B

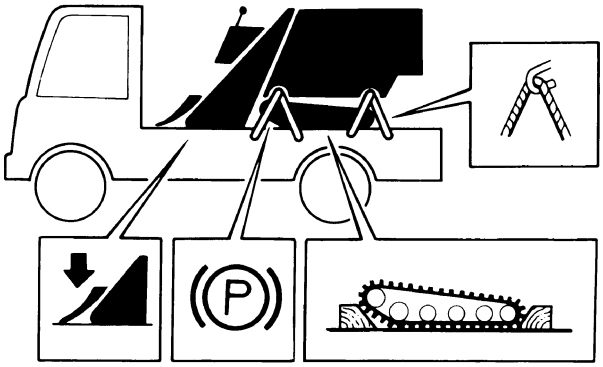
［左前側］



1ARADBEAP041B



1ARADBEAP126A



1ARADBEAP127A

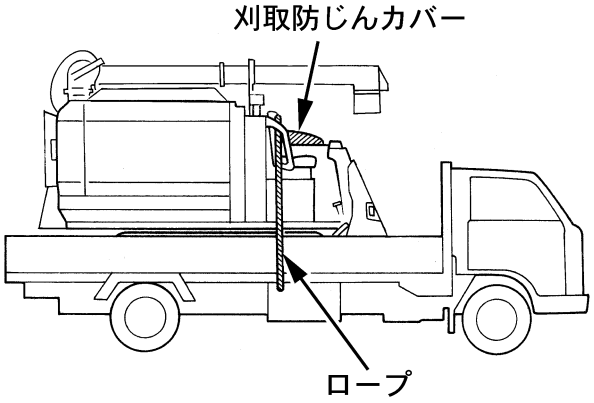
重　要

＊ フック以外の所には，ロープを掛けないでください。

[SD 仕様（Q 仕様除く）]

重　要

＊ トラックで輸送する場合は，風圧で刈取防じんカバーが浮き破損・脱落し，ケガをさせるおそれがあるので，刈取部を下げて，刈取防じんカバーを閉じ，ロープなどで浮上がりを防いでください。



1ARADBEAP128A

[SD 仕様（Q 仕様除く）]

収穫作業のしかた

作物とほ場の条件

作物の状態やほ場の状態によっては，刈取作業ができない場所があります。作業を始める前によく確かめて，収穫量が上がる能率のよい作業を行なってください。

■作物の条件

◆ 作物の長さ

刈取れる長さは，標準の刈高さで
……全長約 55 ～ 130cm

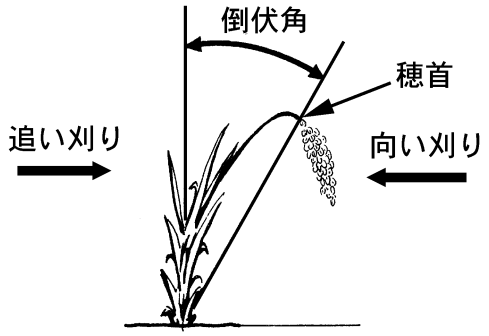


1ARADBEAP129A

◆ 作物の倒伏

作物の倒れかた（倒伏角）により，刈取り方向に注意してください。

刈取りかた（方向）	倒　伏　角
追い刈り	85 度以上
向い刈り	70 度以上



1ARADBEAP130A

◆ 作物のぬれ

作物は乾いて，手でしごいてぬれていない状態が適期です。

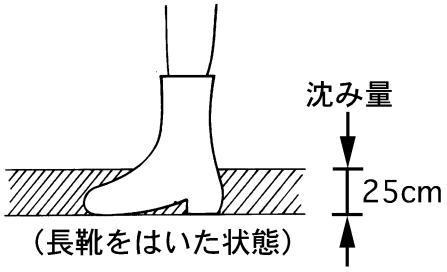
重　要

＊ 湿田の倒伏やぬれ作物の刈取作業を行なうとき，受けあみが目詰まりを起すことがあります。この場合排じんロス（もみの飛散）が多くなります。このような場合には作業をいったん中止し，受けあみの目詰まりを取除いてください。
掃除を行うときは，必要に応じて受けあみを取外してください。(148 ページ参照)

■ほ場の条件

◆ ほ場のぬかるみ

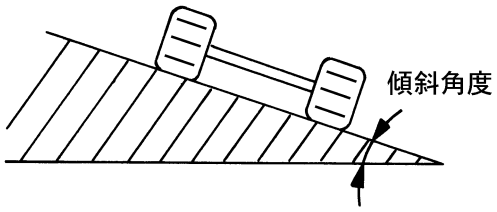
足の沈み量を測って目安にしてください。



1ARADBEAP131A

◆ ほ場の傾き

傾斜角 5 度以上では，作業できません。

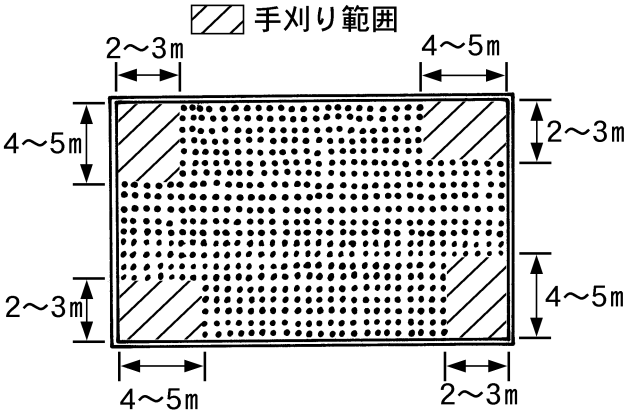


1ARADBEAP132A

ほ場の準備

■ほ場の準備

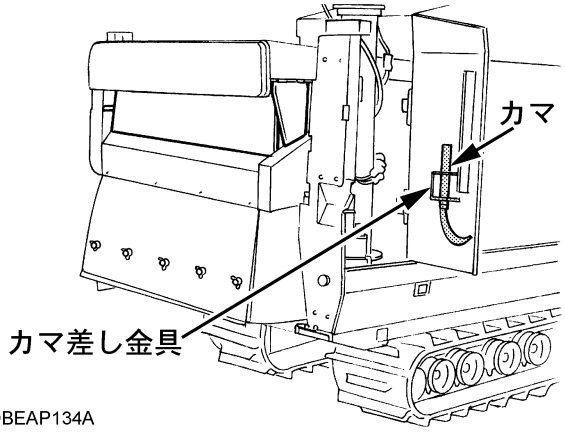
コンバインをほ場に入れる前に，あぜぎわの四隅で旋回が楽に行なえるように，旋回ができる範囲（面積）の手刈り（枕刈り）をします。



1ARADBEAP133A

補　足

＊ カマの収納場所は下図の位置にあります。



1ARADBEAP134A

コンバインの準備

警　告

＊ 平たんな場所に置き，エンジンは必ず止めてください。
＊ 取外したカバー類は必ず取付けてください。

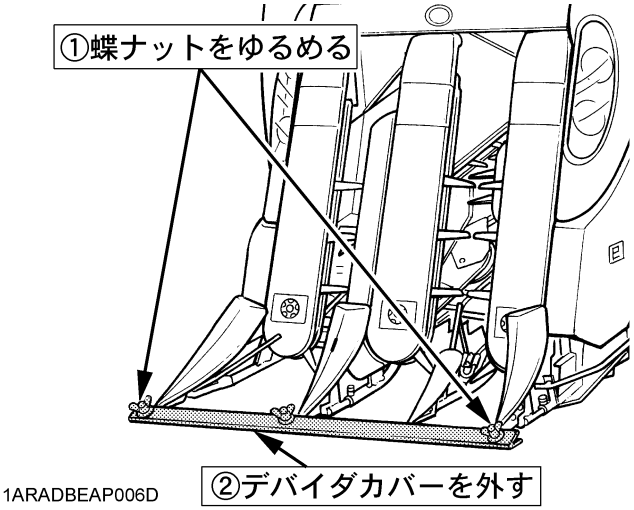
■準備のしかた

1.　各部への注油

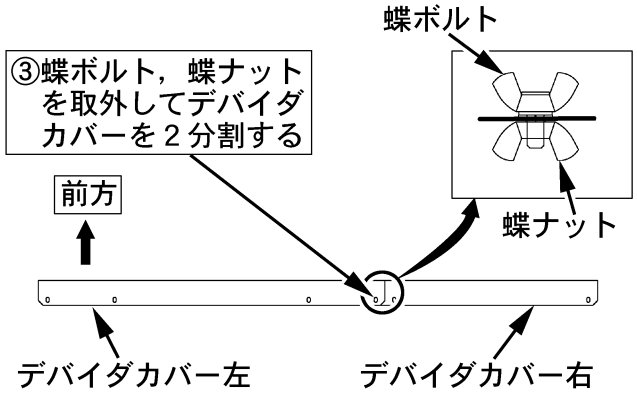
作業前に刈刃や各チェーンに注油を行なってください。(156 ページ参照)

2.　デバイダカバーの取外しと収納

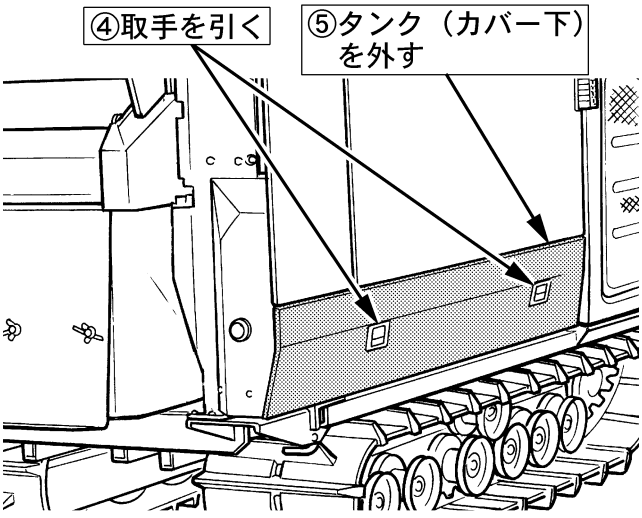
[327・331・338]



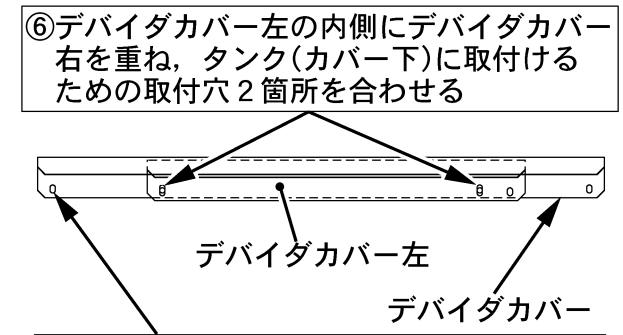
1ARADBEAP006D



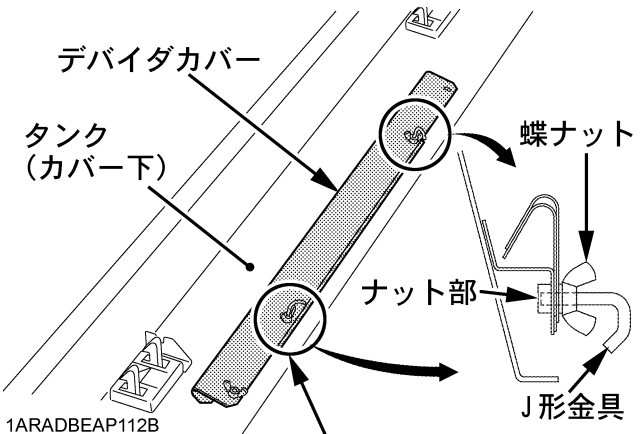
1ARADBEAP115B



1ARADBEAP007G



1ARADBEAP135A



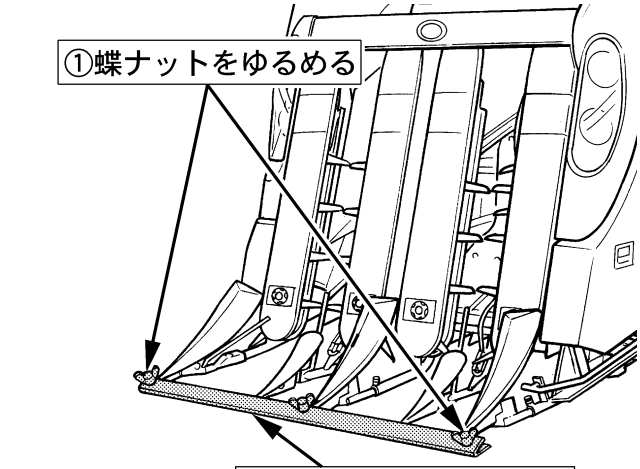
1ARADBEAP112B

⑧取外したJ形金具に蝶ナットを差込み，タンク（カバー下）のナット部にJ形金具を手で締付けたあと，蝶ナットを締付ける

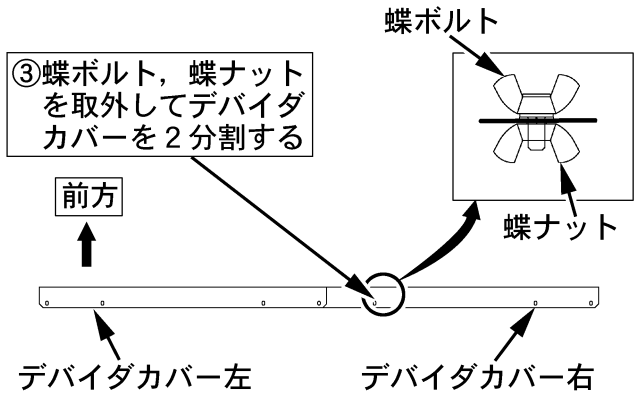
⑨タンク（カバー下）を機体に取付ける

[327・331・338]

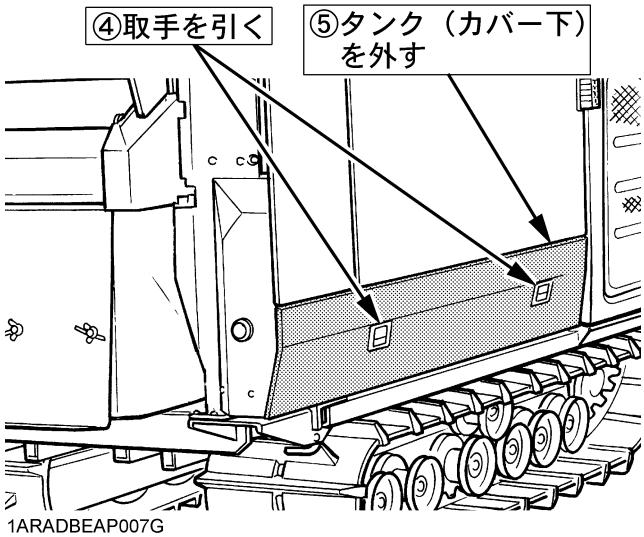
[433・438・445]



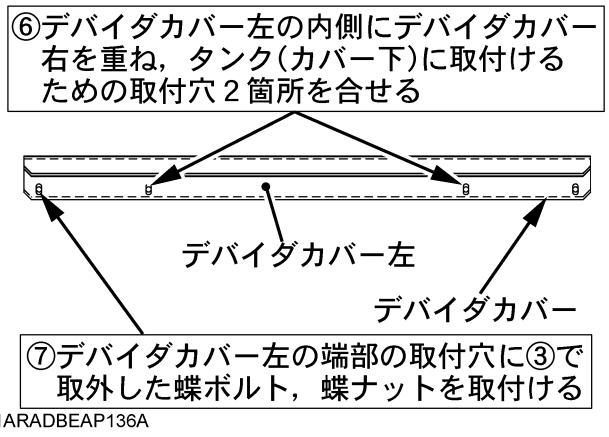
1ARADBEAP005E

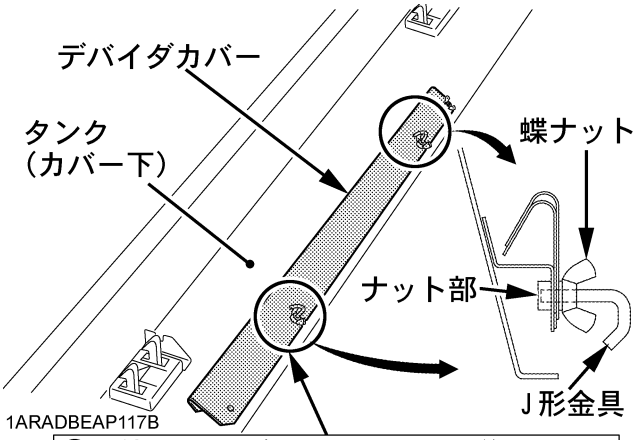


1ARADBEAP116B



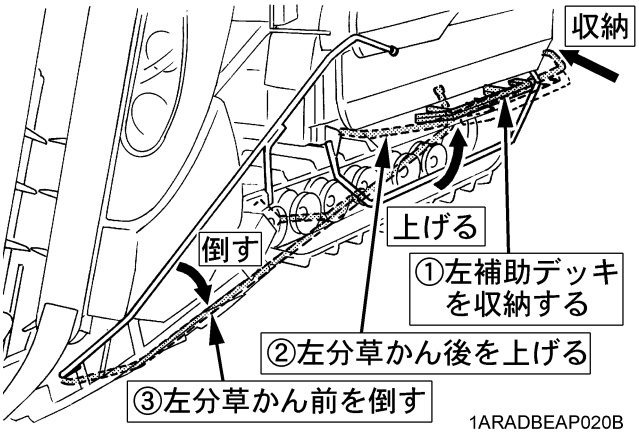
1ARADBEAP007G



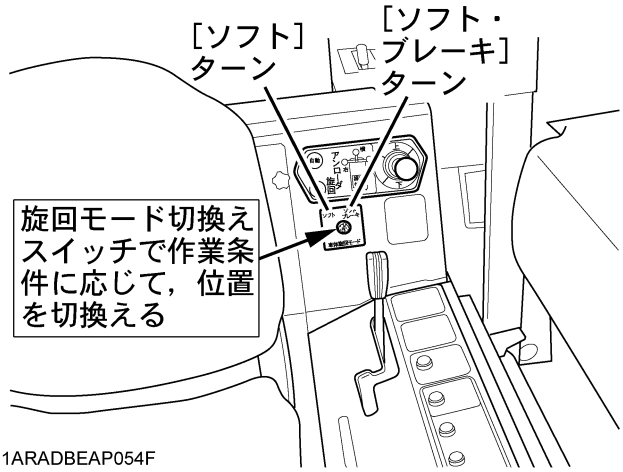


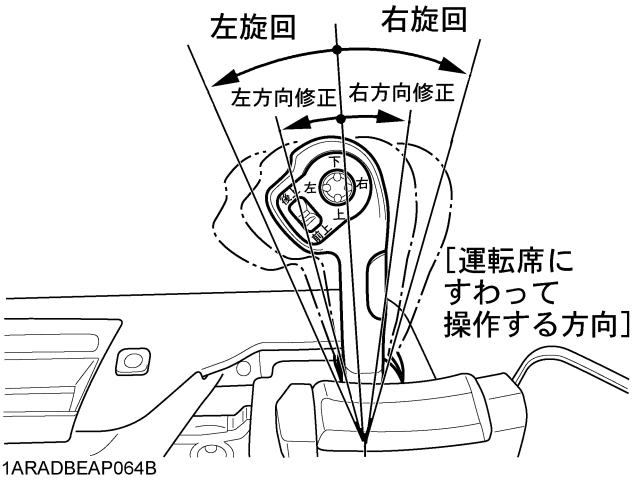
[433・438・445]

3. 左分草かんのセット



4. 車体旋回モード切換えスイッチの選択

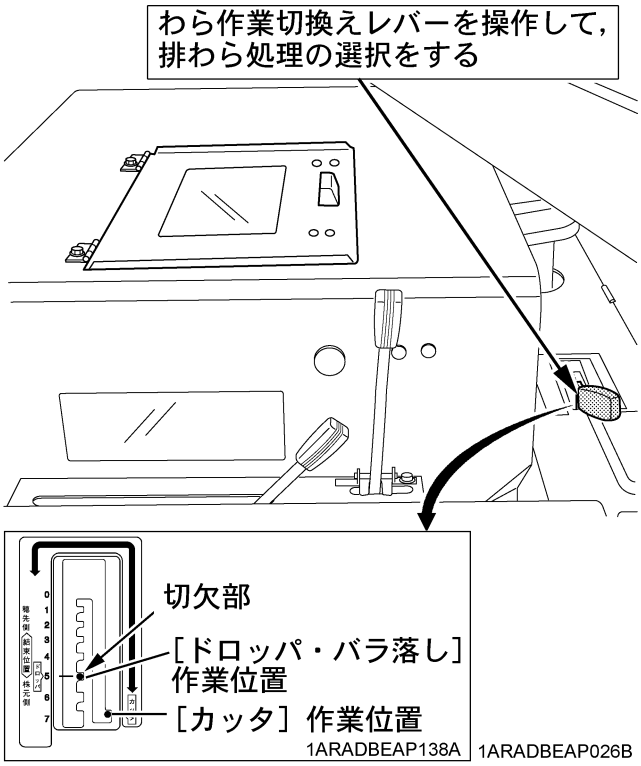




補　足

＊**[ソフト・ブレーキターン]**位置で作業を行なったとき，機体の振動が大きいとき，湿田での作業，ほ場の荒れが大きいときなど，**[ソフトターン]**位置に切換えてください。

5. 排わら処理の選択



重　要

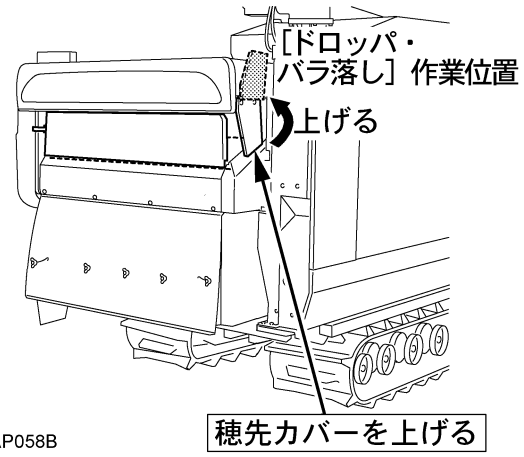
＊ 作業中に切換えレバーを切換えるときは，搬送されている作物が完全に流れ終わってから脱こく機が作動状態で行なってください。故障の原因となります。

補　足

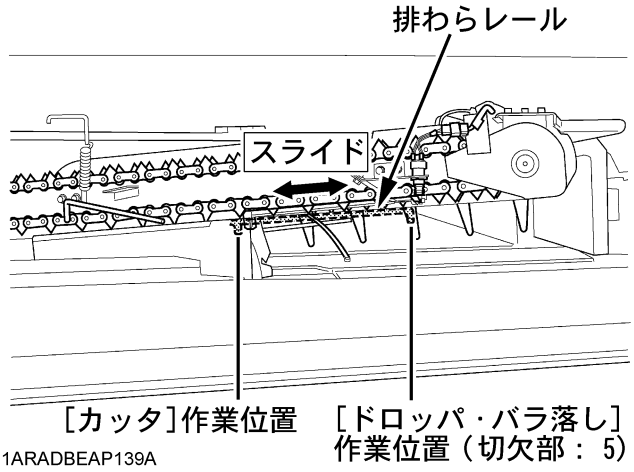
＊ **ドロッパ・バラ落し**作業を選択するときは，切換えレバーを［5］の切欠部の位置にしてください。

＊ **ドロッパ・バラ落し**作業を選択したときに，切換えレバーの位置が**1～4**の切欠部にあると，わらを次行程で踏付けたり，**6～7**の切欠部にあると，排わらチェーンがわらを巻上げて詰まりの原因となります。

＊ ドロッパ･バラ落し作業のときは，穂先カバーを上げてください。

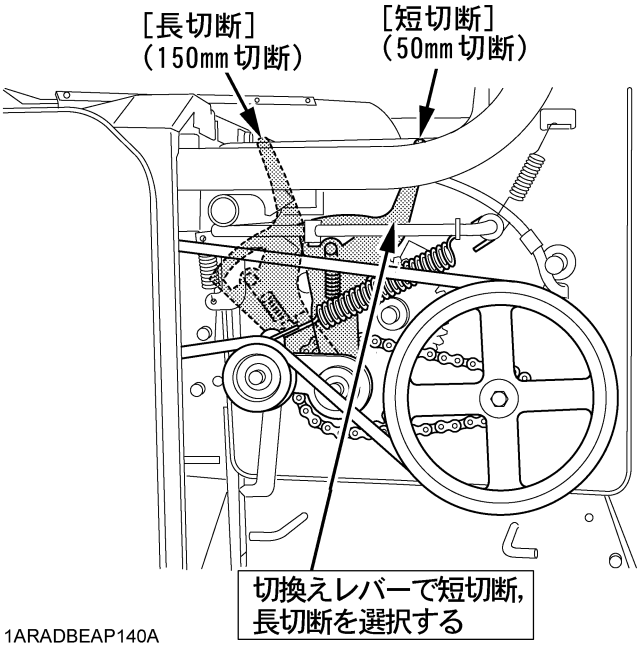


＊ 切換えレバーを操作すると，カッタ部の排わら切換えカバーが開閉すると同時に，排わらレールがスライドします。



6. 排わら切断長さの選択

わらの切断長さの切換えを行なってください。
切換えるときは，カッタ左サイドカバーを外し，切換えが終わったあとはカバーを取付けてください。



補　足

＊ シュータ式拡散装置は，切断長さに応じてリヤシュートを前、後方向に調節してください。

7. リヤシュート・サイドシュートの準備

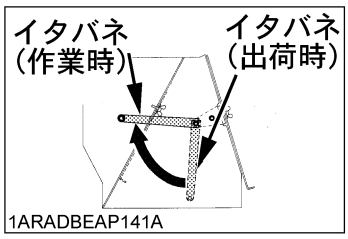
[327・331・338・433・438]

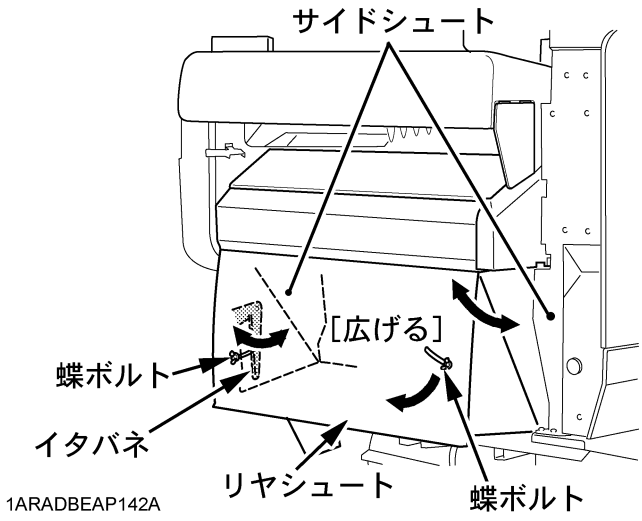
◆ セットのしかた

1. 蝶ボルトをゆるめたあと，リヤシートから左，右のサイドシュートを一度外します。
2. 左，右のサイドシュートを広げたあと，リヤシュートを後に広げます。
3. 左サイドシュートのイタバネを作業時の位置に締付け，蝶ボルトで両サイドのシュートを締付けます。

◆ 調整のしかた

作業に合わせて蝶ボルトをゆるめ，長穴方向に動かして調整します。



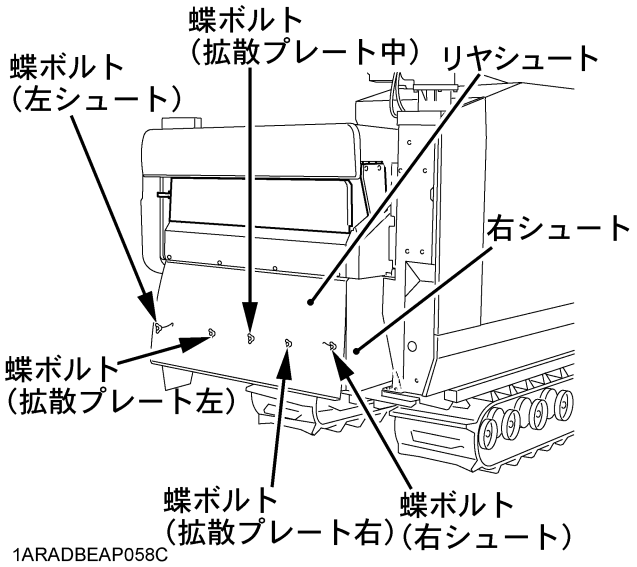


[327・331・338・433・438]

[445]

◆ セットのしかた

排わらの切断長さや拡散又は，中割り作業に応じてリヤシュート及びサイド（右，左）シュートの調整を行なってください。また，調整が終わったあとは，蝶ボルトを確実に締付けてください。



◆ 調整のしかた

● 全面散布作業⟷中割り作業

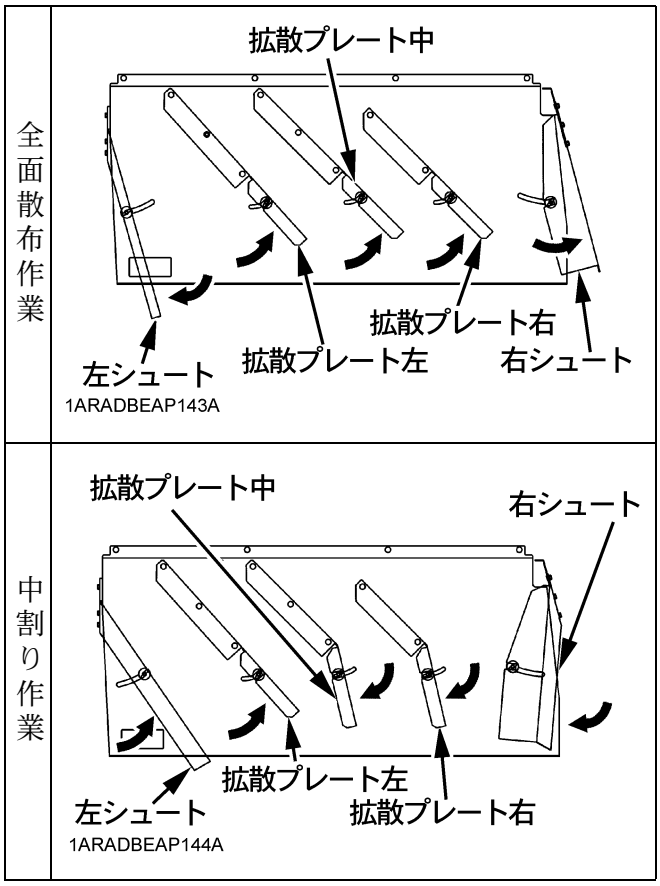
リヤシュート側にある蝶ボルト５本をゆるめて，左，右のシュートと拡散プレートを調整してください。

全面散布作業…　排わら切断長さの切換えレバーを**［短切断］**位置（50㎜切断）にしたあと，左・右のシュートを外側に広げ，拡散プレート左，中，右を右側位置にします。

補　足

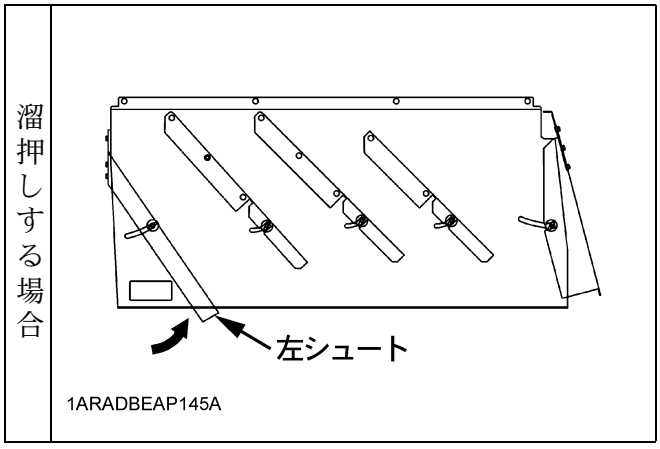
＊ 排わら切断長さが**［長切断］**位置（150㎜ 切断）では，全面散布は行なえません。

中割り作業……　左シュートを右側に寄せ，右シュートを左側に寄せたあと，拡散プレート左を右側，拡散プレート中，右を左側にします。



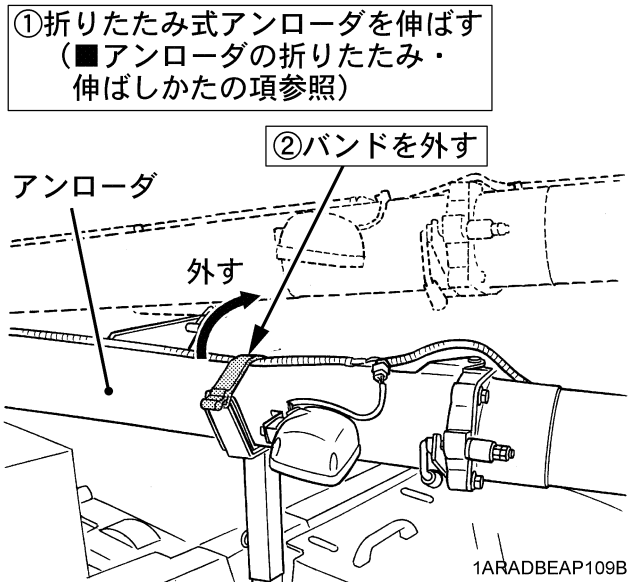
補　足

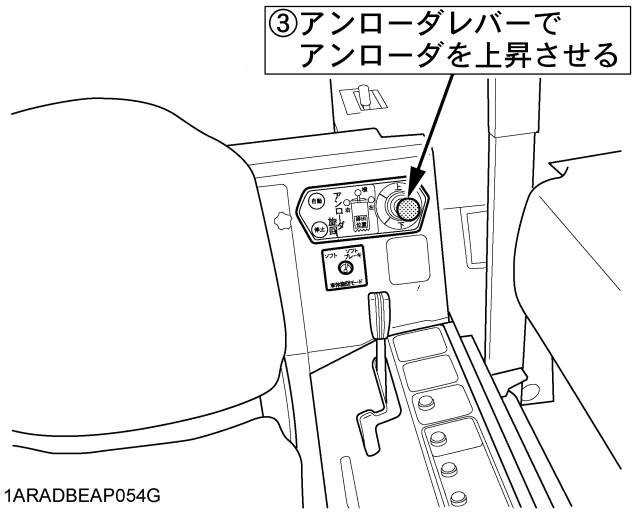
＊ 次行程でわらの溜押しがあるときは，左シュートを右側にしてください。

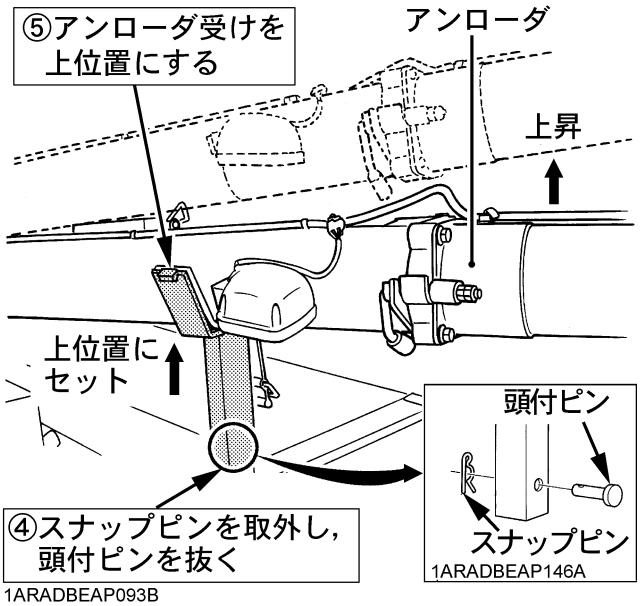


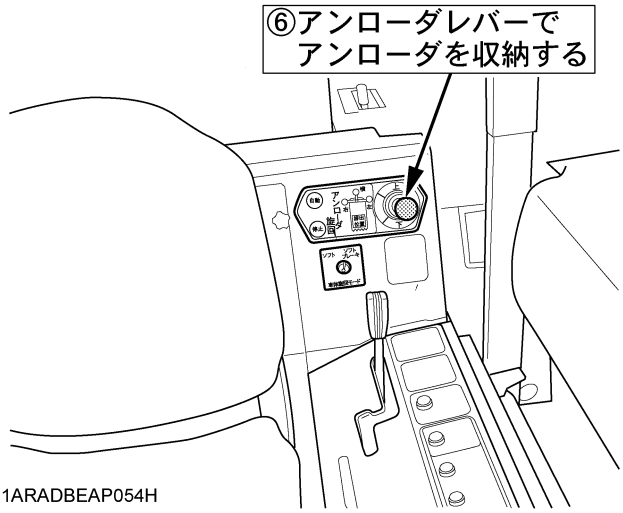
[445]

8. アンローダの準備


①折りたたみ式アンローダを伸ばす
（■アンローダの折りたたみ・
伸ばしかたの項参照）
②バンドを外す
アンローダ
外す
1ARADBEAP109B


③アンローダレバーで
アンローダを上昇させる
1ARADBEAP054G

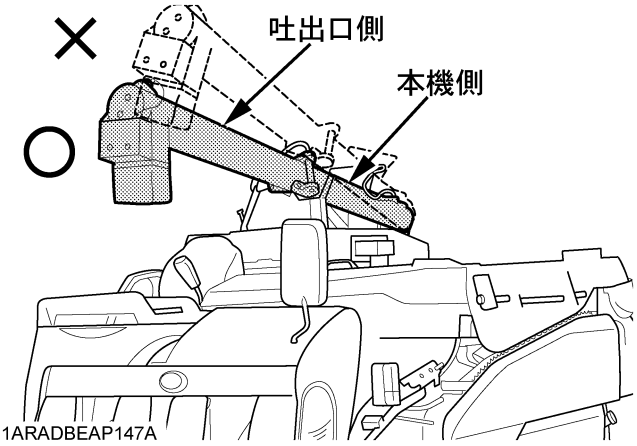

⑤アンローダ受けを
上位置にする
アンローダ
上昇
上位置に
セット
頭付ピン
スナップピン
④スナップピンを取外し，
頭付ピンを抜く
1ARADBEAP146A
1ARADBEAP093B


⑥アンローダレバーで
アンローダを収納する
1ARADBEAP054H

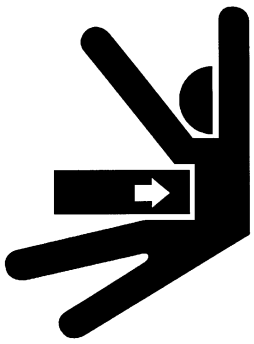
■アンローダの折りたたみ・伸ばしかた

注　意

＊ 水平で平たんな場所でエンジンを必ず停止させてください。
＊ 機体やアンローダが傾いていると，吐出口側のアンローダが自然に動きケガをするおそれがありますので，アンローダは必ず水平状態にしてください。



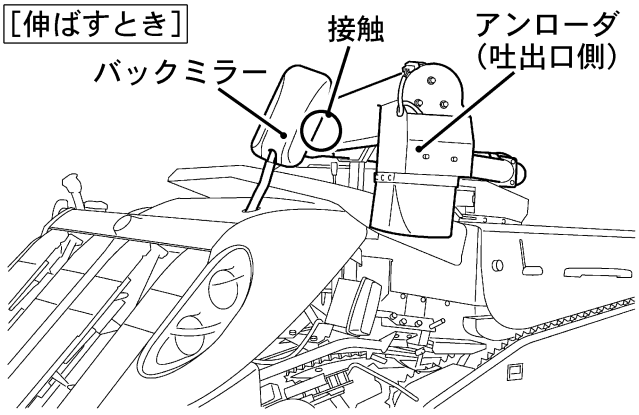
＊ アンローダ先端が大きく動き，ケガをするおそれがあるので，アンローダの旋回範囲に人がいるときは，アンローダを動かさないでください。
＊ フックがされていないと吐出口側のアンローダが不意に動いてケガをするおそれがあります。



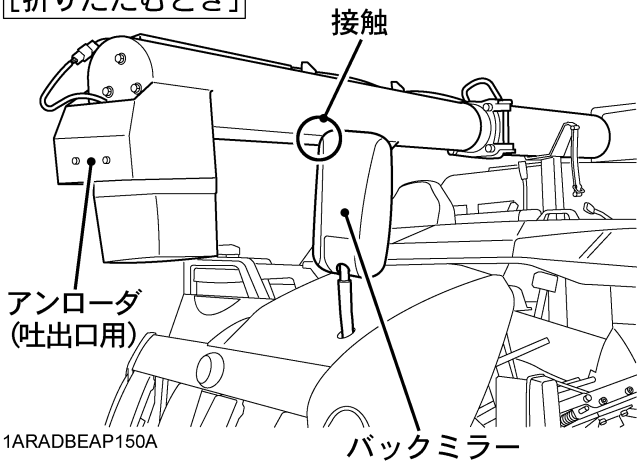
重　要

＊ 刈取部を上昇した状態でアンローダの折りたたみ又は，伸ばす作業を行なうと，吐出口側のアンローダが左側のバックミラーに接触し，破損するおそれがありますので，刈取部は必ず地面に接地させてください。

［伸ばすとき］

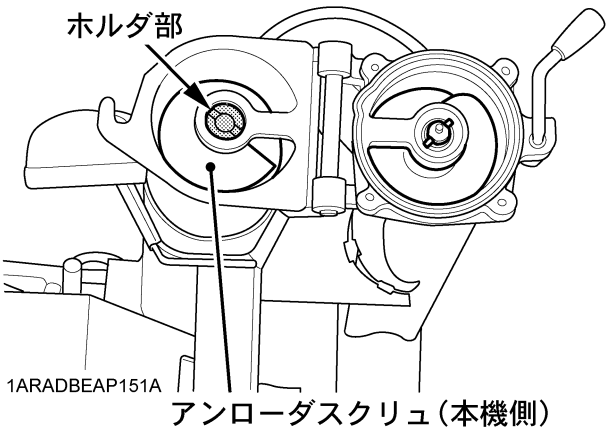


［折りたたむとき］



＊ アンローダを折りたたんだ状態で下記の操作は行なわないでください。機械の破損や故障の原因となります。

● エンジンを始動した状態でもみ排出クラッチを**［入］**位置にしないでください。**［入］**位置にすると，アンローダスクリュ（本機側）が回転し，ホルダ部が損傷します。



◆ 折りたたみかた

注　意

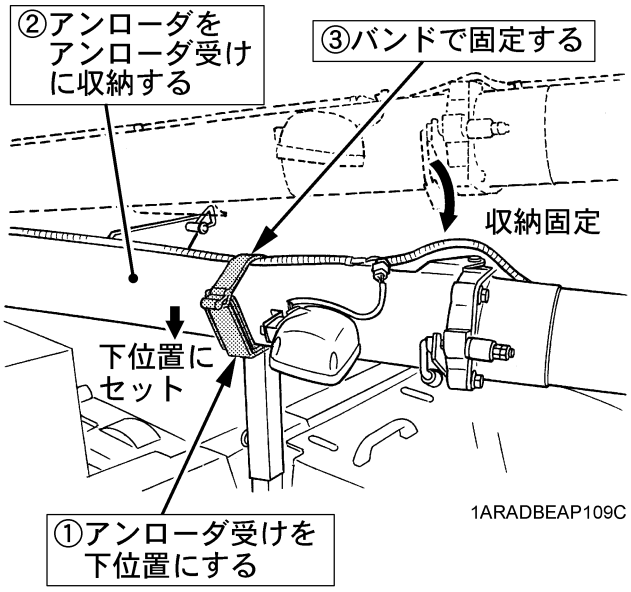
＊ あぜ越え，移動走行時及びトラックで輸送するときは，アンローダが人や物にぶつかるおそれがあるので必ず折りたたんでください。

1. SF ワンレバーを操作して刈取部を地面に接地させます。

補　足

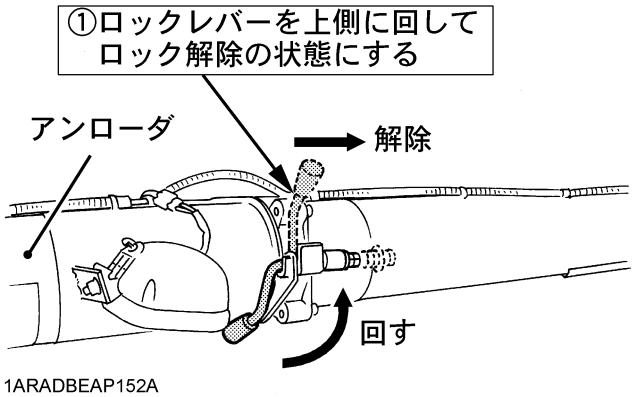
＊ アンローダ内にもみが残っているときは，一度アンローダを最上昇させてください。

2. アンローダを収納します。

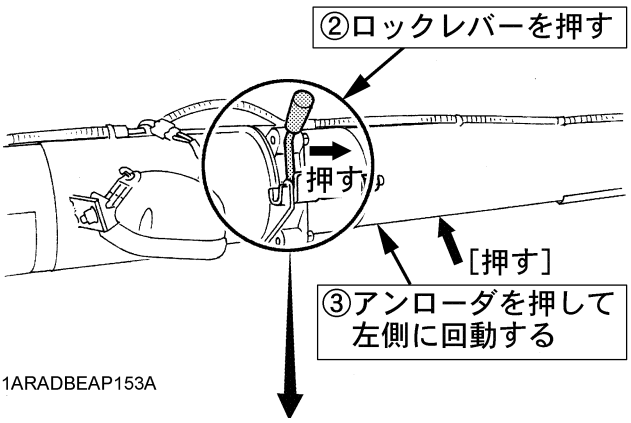


1ARADBEAP109C

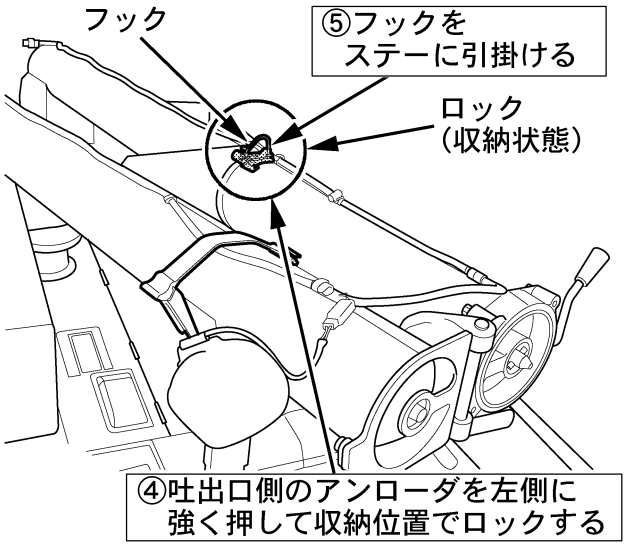
3. アンローダを折りたたみます。



1ARADBEAP152A



1ARADBEAP153A



1ARADBEAP111B

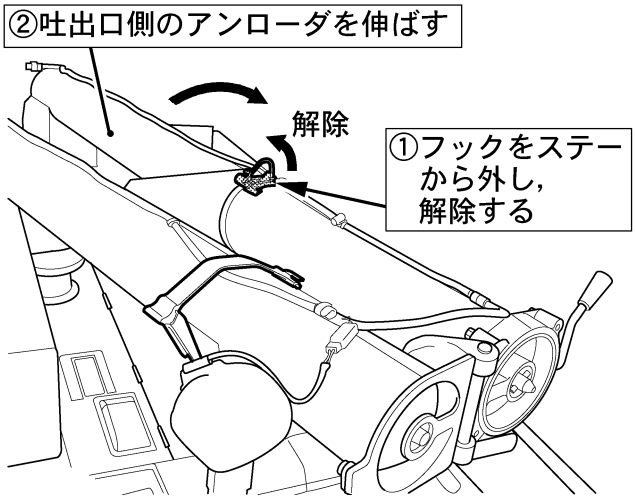
補　足

＊ 吐出口側のアンローダを強く押すと収納位置でステーにフックが引掛かり自動的にロックされます。

＊ もみの排出途中で排出を止めたとき，アンローダ内に残っているもみがこぼれますので，アンローダは折りたたまないでください。

◆ 伸ばしかた（作業時）

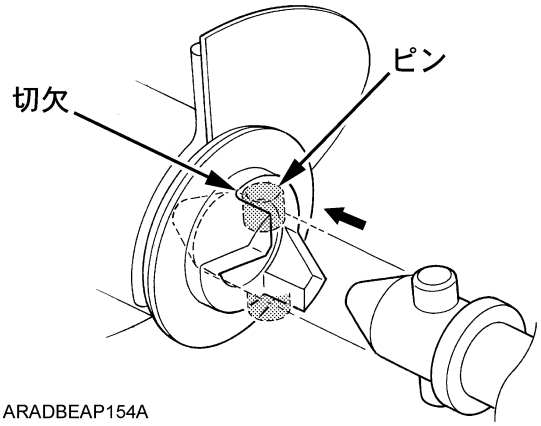
1. SF ワンレバーを操作して刈取部を地面に接地させます。



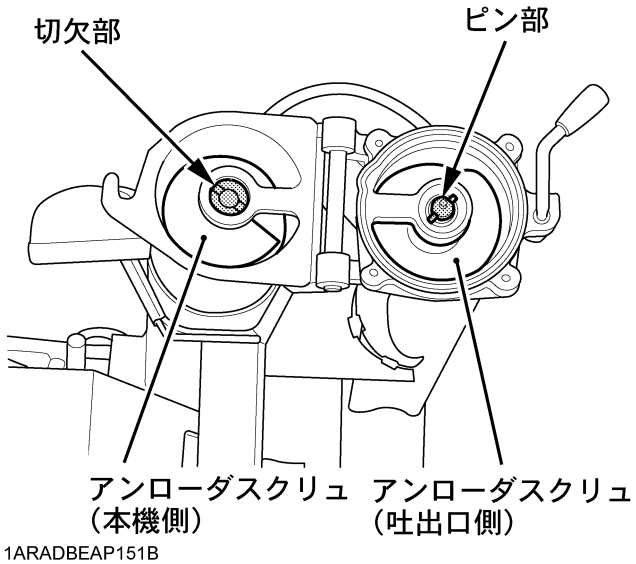
1ARADBEAP111C

補　足

＊ アンローダを伸ばすときは，本機側アンローダスクリュの切欠に吐出口側のピンを合わせてください。

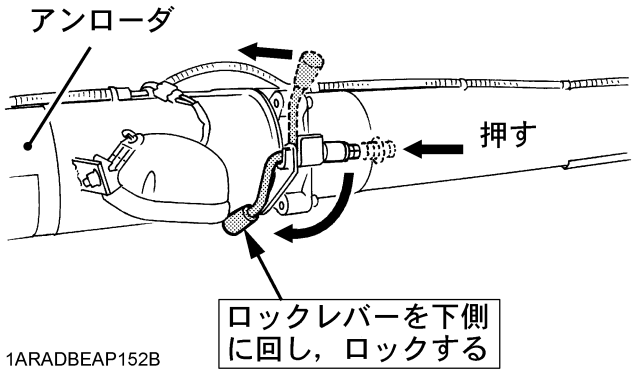


1ARADBEAP154A



1ARADBEAP151B

2. ロックレバーで本機側と吐出口側のアンローダを固定します。このとき，スプリング部を指で押して，ロック溝にレバーを通して，下側に回してロックします。



1ARADBEAP152B

3. バンドを外します。
4. スイッチキーを**［入］**位置にしたあと，アンローダレバーでアンローダを上昇させます。
5. アンローダ受けを**上位置**にします。
6. アンローダレバーを操作してアンローダ受けに収納します。

刈取作業のしかた

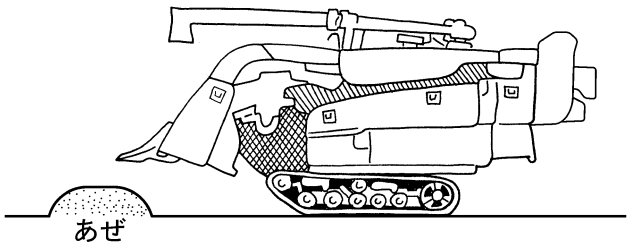
■ほ場の出入りのしかた

注　意

＊ 10cm 以上の段差（あぜやコンクリート畦畔など）のあるとことではあゆみ板を使ってください。
＊ あゆみ板を使うときや前後左右とも 10 度をこえる傾斜地を走行するときは，速度を最低速にしてください。
＊ あゆみ板を使うときは，速度を最低速にし，あぜに対して上り方向は前進，下り方向は後進で直角に走行してください。
斜めに走行すると転倒してケガをするおそれがあります。
＊ あぜ越えやあゆみ板を走行するときは，自動車体水平制御（モンロー）は機体をいっぱい下げた状態にしてください。[DXM・SD4M 仕様]
＊ 後進する場合は後方の安全確認，また後方に川（用水路）やがけのある場合は転落しないよう後方にはじゅうぶん注意してください。
＊ 機体が，凸部を越えるときは，重心の位置が変わって機体が上向きから下向きに姿勢が変わるのでじゅうぶん注意してください。

1. 副変速レバーを**［倒伏・ぬれ］**位置にし，アクセルレバーを操作してエンジン回転を 2000rpm 以上にし，主変速レバーをゆっくり操作して，低速であぜ越えしてください。

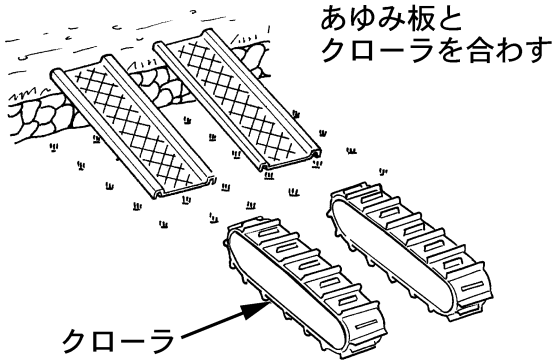
［低いあぜ越え］



1ARADBEAP155A

2. 10cm以上の高いあぜの場合はあゆみ板を使用してください。

［高いあぜ越え］

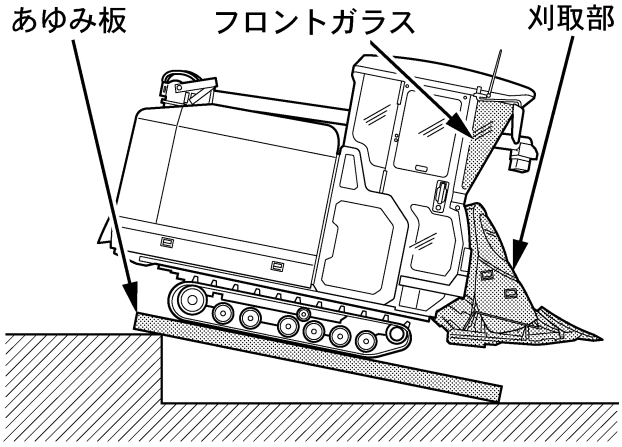


1ARADBEAP124B

［Q 仕様］

重　要

＊ あゆみ板を使用しないと刈取部が突上げられて，キャビンのフロントガラスが割れるおそれがあります。



1ARADBEAP156A

［Q 仕様］

■刈取作業の手順

警　告

＊ コンバインを停止するときは，わらくずの上に止めないでください。マフラ排気口にわらくずが触れると，火災のおそれがあります。

注　意

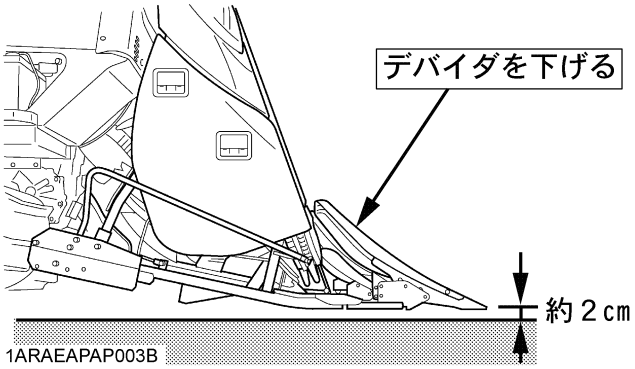
＊ 異常が発生したときは，エンジンを必ず止めてください。
＊ 小さなほ場や，ほ場のすみでは作業がしにくいので，安全のため低速で注意しながら作業を行なってください。
＊ 夜間など暗い場所で作業するときは，ヘッドランプや作業灯を必ず点灯してください。

重　要

＊ 枕地を刈取るとき，アンローダの先端が，障害物（電柱や壁など）に当たり，破損するおそれがありますので，アンローダは折りたたんだ状態で作業を行なってください。
＊ 作業中エンジン周りの防じんカバーにゴミの付着が多くなれば，そのつど掃除してください。防じんあみ全面にゴミが付着したまま作業を続けますと，エンジンオーバヒートの原因になりますので注意してください。
＊ 湿田で作業をする場合，特に一方刈りで何回も後進するときは，フレーム下部に切わらを大量に抱込み，トラブルの原因になりますので，切わらの無い場所を後進するか早めにわらを排出してください。
＊ 副変速レバーを**［高速］**位置にして刈取作業はしないでください。トラブルの原因になります。

［DX 仕様］

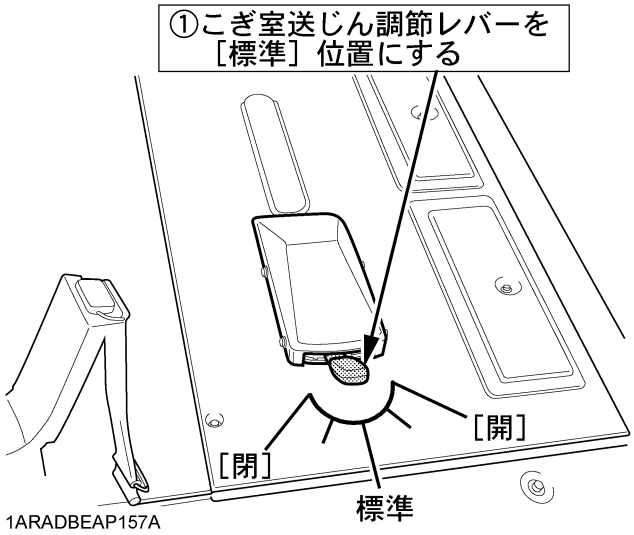
1. SF ワンレバーを操作し，通常はデバイダの先端を地面すれすれ（約２ cm 程度）のところまで刈取部を下げます。

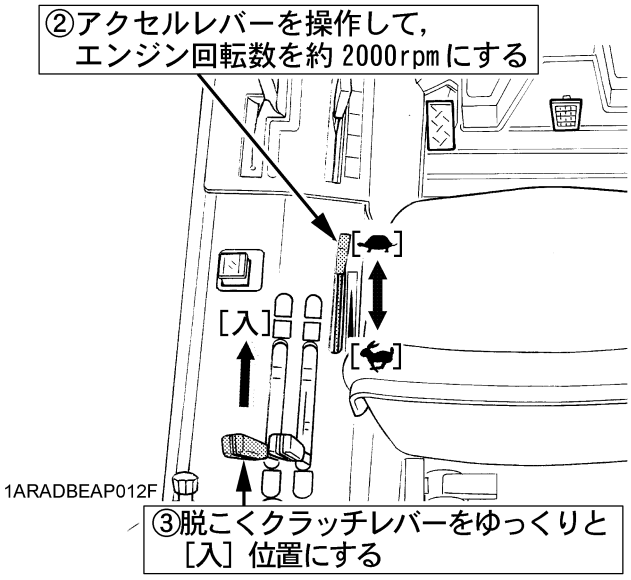


補　足

＊ 長かん作物，麦，雑草の多い作物は，高刈りしてください。

2. 各レバー・スイッチのセットとエンジン回転数の調節を行ないます。

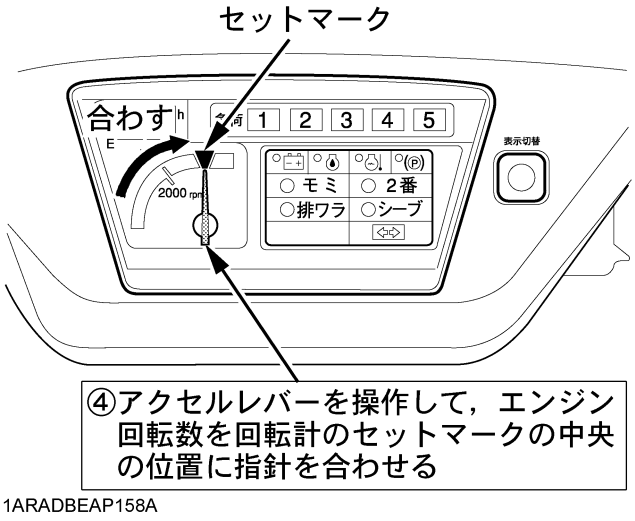




1ARADBEAP012F

重　要

＊ エンジン回転数が 2000rpm 以上のとき，脱こくクラッチレバーを入れると駆動ベルトが破損するおそれがあります。

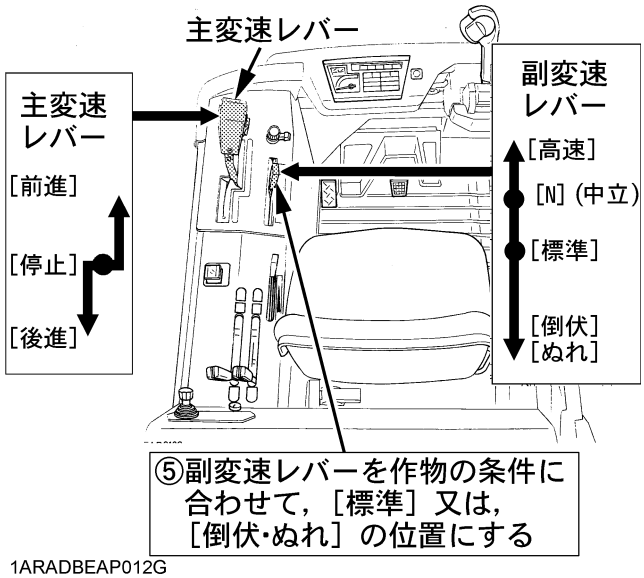


1ARADBEAP158A

補　足

＊ エンジン回転数は脱こくクラッチレバーを**［脱こく］**位置にし，走行を停止した状態で合わせてください。

＊ エンジン回転数が低すぎると，ブザーがなります。



1ARADBEAP012G

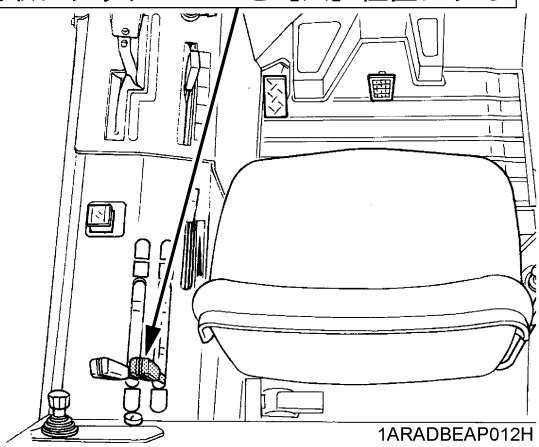
重　要

＊ 副変速レバーの切換えは，必ず平たんな場所で主変速レバーを**【停止】**位置にし，ブレーキペダルをいっぱいまで踏込み走行をいったん止めてから行なってください。故障の原因となります。

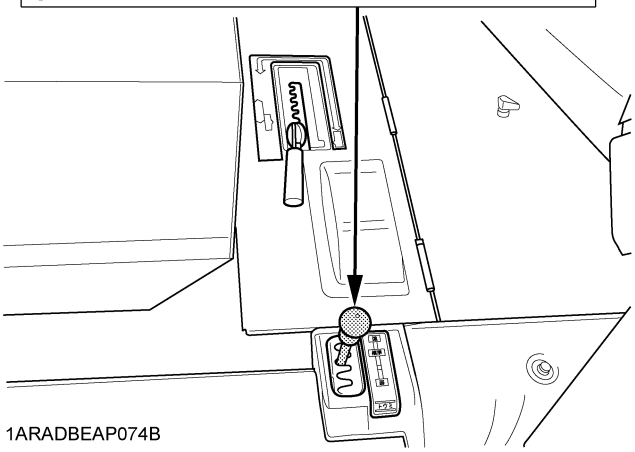
補　足

＊ 副変速レバーが切換えにくいときは，主変速レバーを少し**【前進】**側に動かして停止に戻してから切換えてください。

⑥刈取クラッチレバーを［入］位置にする



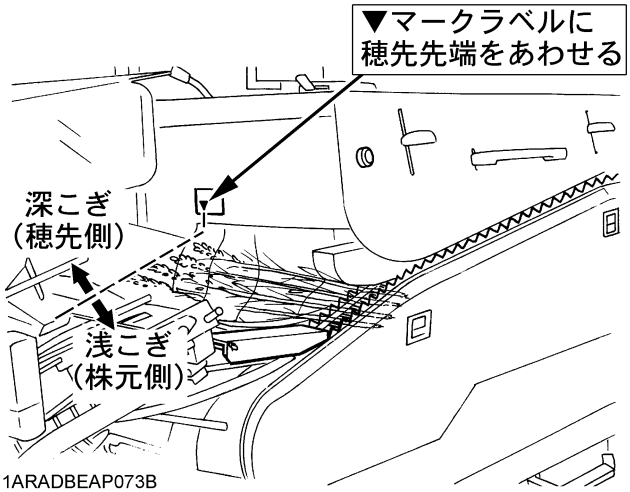
⑦トウミ調節レバーを［標準］位置にする



補　足

＊ トウミの調節は，脱こく機を必ず回転させてから行なってください。

3. 作物の長さを確認したあと，刈始めのこぎ深さの調節をします。調節するときは，主変速レバーにある手動こぎ深さスイッチで合わせます。そのあと，自動こぎ深さ切換えスイッチを**【入】**（ランプ点灯）にします。(36，37 ページ参照)
4. 作物の条件に合わせた速度に主変速レバーを合わせて刈始めます。(99 ページ参照)
5. 作物の穂先先端を脱こく入口の**【▼マーク】**（こぎ深さ標準位置）に合うようにこぎ深さを調節します。(36，37 ページ参照)



補　足

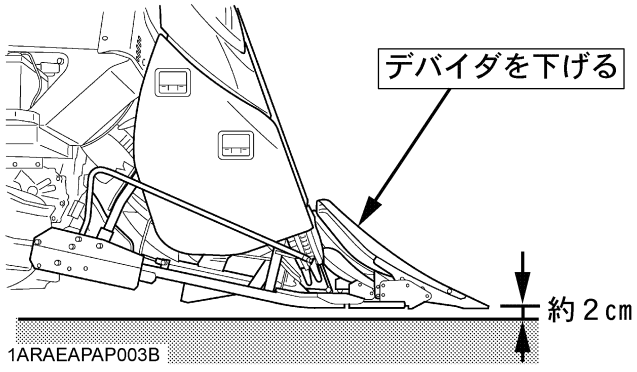
＊ **浅こぎ状態**では，こぎ残しが出て収穫量が下がったり，**深こぎ状態**では，負荷が大きくなり作業能率が上がりません。

6. 刈取作業を少し行なったあと，選別状態やこぎ残しの有無を確認し，異常があれば各部の調節（99 ページ参照）を行なってください。
7. 刈取作業が終わると，刈取クラッチレバーを**【入】**位置にし，脱こくが終わりもみが全て，グレンタンク内に入ったことを確認して，脱こくクラッチレバーを**【切】**位置にします。

【DX 仕様】

【SD 仕様】

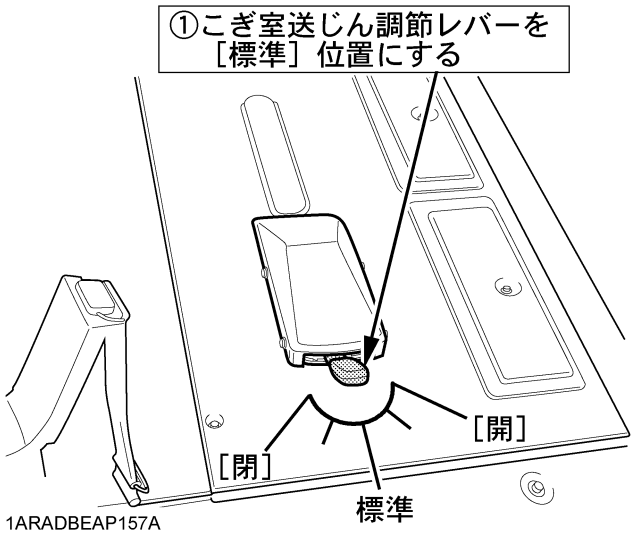
1. SF ワンレバーを操作し，通常はデバイダの先端を地面すれすれ（約 2 cm 程度）のところまで刈取部を下げます。



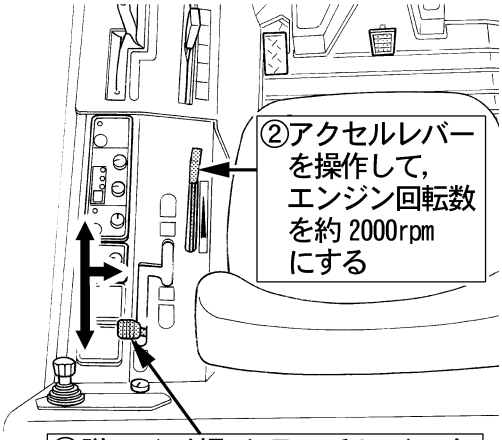
補　足

＊ 長かん作物，麦，雑草の多い作物は，高刈りしてください。

2. 各レバー・スイッチのセットとエンジン回転数の調節を行ないます。



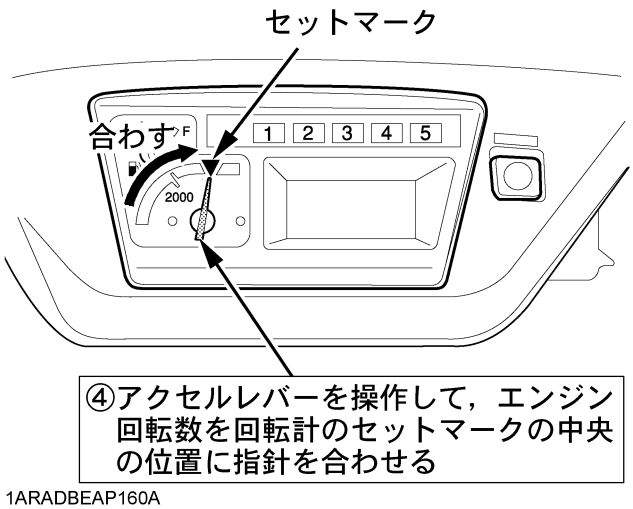
1ARADBEAP157A



1ARADBEAP13K

重　要

＊ エンジン回転数が 2000rpm 以上のとき，脱こく・刈取クラッチレバーを入れると駆動ベルトが破損するおそれがあります。

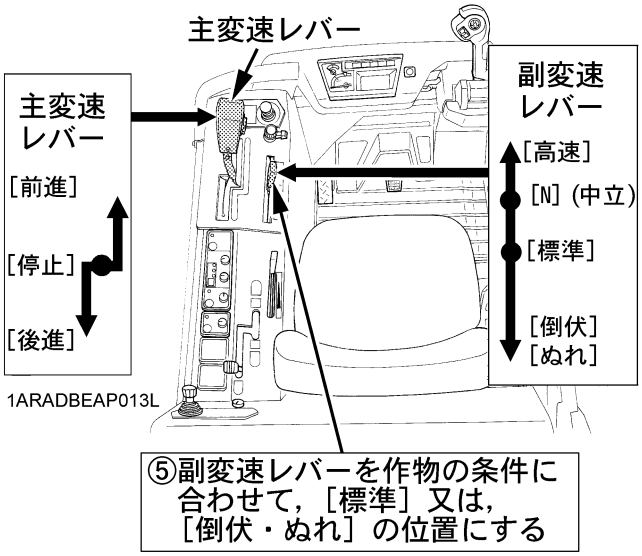


1ARADBEAP160A

補　足

＊ エンジン回転数は脱こく・刈取クラッチレバーを**【脱こく】**位置にし，走行を停止した状態で合わせてください。

＊ エンジン回転数が低すぎると，ブザーが鳴ります。



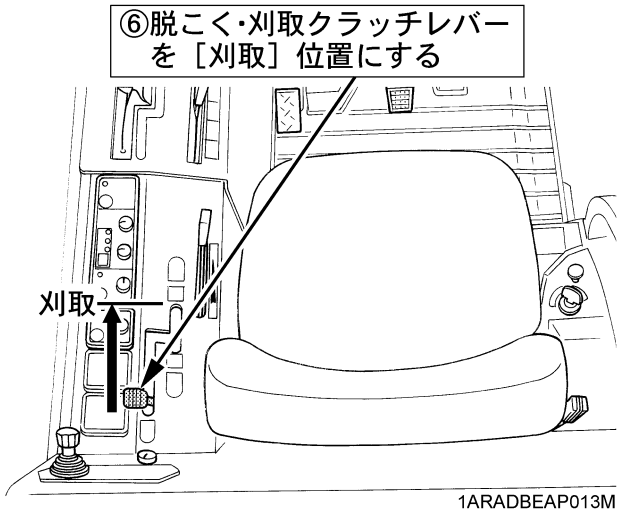
1ARADBEAP013L

重　要

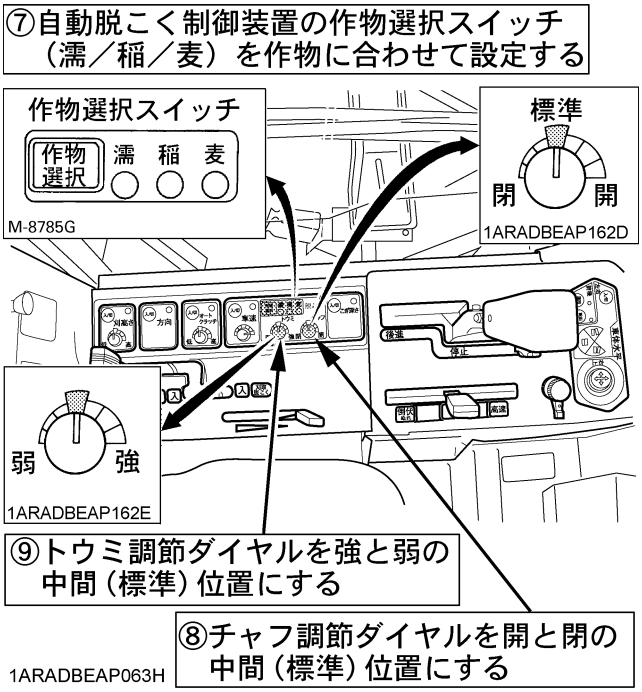
＊ 副変速レバーの切換えは，必ず主変速レバーを**【停止】**位置にし，ブレーキペダルをいっぱいまで踏込み走行をいったん止めてから行なってください。故障の原因となります。

補　足

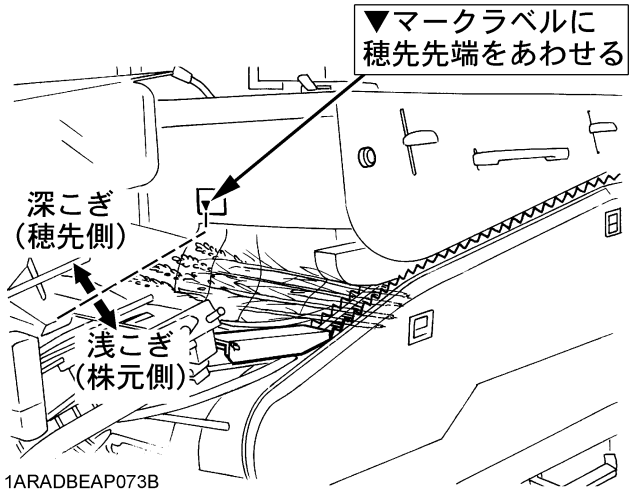
＊ 副変速レバーが切換えにくいときは，主変速レバーを少し**【前進】**側に動かして停止に戻してから切換えてください。



1ARADBEAP013M



3. 作物の長さを確認したあと，刈始めのこぎ深さの調節をします。調節するときは，主変速レバーにある手動こぎ深さスイッチで合わせます。そのあと，自動こぎ深さ切換えスイッチを**【入】**（ランプ点灯）にします。（36，37 ページ参照）



補　足

＊ **浅こぎ状態**では，こぎ残しが出て収穫量が下がったり，**深こぎ状態**では，負荷が大きくなり作業能率が上がりません。

4. 刈取作業を少し行なったあと，選別状態やこぎ残しの有無を確認し，異常があれば各部の調節（109 ページ参照）を行なってください。

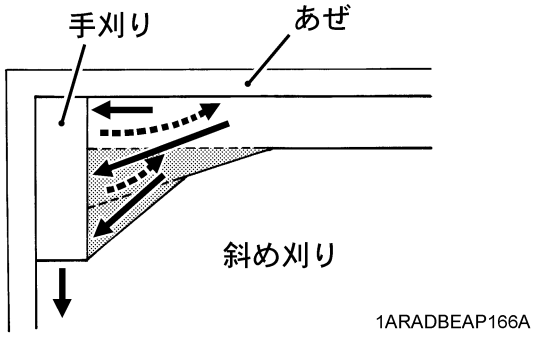
5. 刈取作業が終わると，脱こく・刈取クラッチレバーを**【脱こく】**位置にし，脱こくが終わりもみが全て，グレンタンク内に入ったことを確認して，脱こく・刈取クラッチレバーを**【切】**位置にします。
6. 作物の条件に合わせた速度に主変速レバーを合わせて刈始めます。（99 ページ参照）
7. 作物の穂先先端を脱こく入口の**【▼マーク】**（こぎ深さ標準位置）に合うようにこぎ深さを調節します。（36，37 ページ参照）

【SD 仕様】

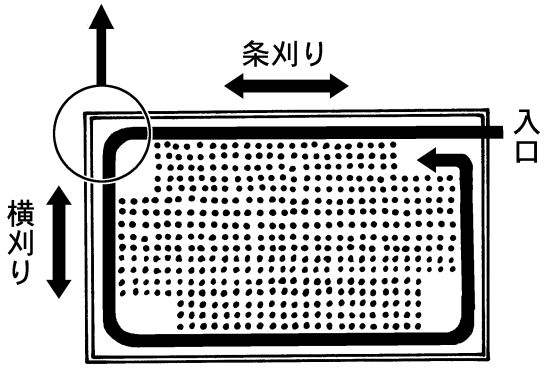
■ほ場の刈りかたと旋回のしかた

ほ場での作物の刈りかたは，作物・ほ場の状態や作業効率によって異なりますが，基本作業は，条刈りで左回りの２方向刈りを行なってください。

1. あぜは旋回できるまで２～４回斜め刈りします。

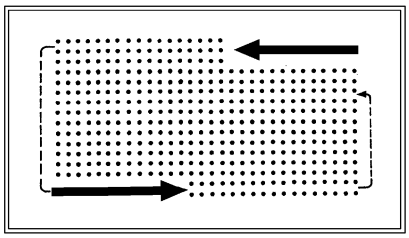


1ARADBEAP166A



1ARADBEAP133B

2. 両端（枕地）を旋回できる範囲に刈取ったら２方向刈りを行なってください。



1ARADBEAP167A

◆ デバイダ（刈取部）の条合わせのしかた

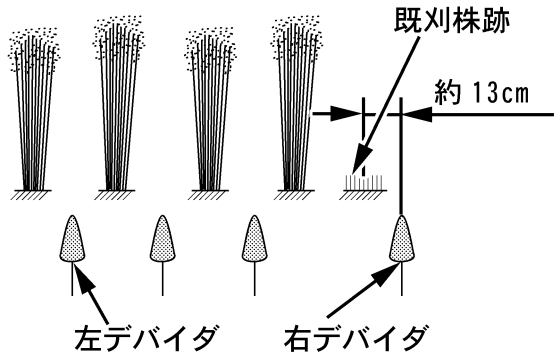
作物の植幅に合わせて，右デバイダも調節してください。

[327・331・338]

右から２つ目のデバイダを株と株の間（中心）に入れるように条合わせを行なってください。

● 通常の回り刈りのとき

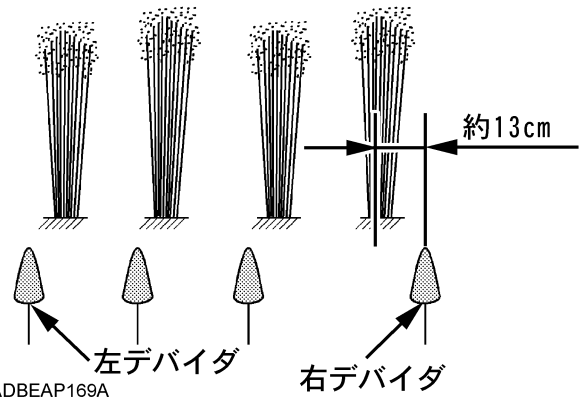
既刈側刈株跡に右デバイダを約 13cm の位置に右デバイダを合わせてください。



1ARADBEAP168A

● 刈始め・あぜぎわ刈り・中割り作業のとき

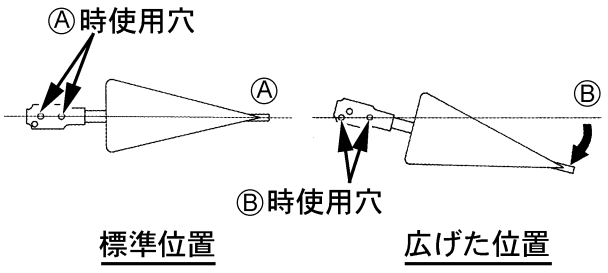
1. 右デバイダ基準で４条分刈取ってください。
2. 右デバイダを約13cmになるように合わせてください。



1ARADBEAP169A

補　足

＊ 植付け条間が広いとき（33cm 条間又は麦）右デバイダを広げてください。((B) 位置)



1ARADBEAP170A
1ARADBEAP186A

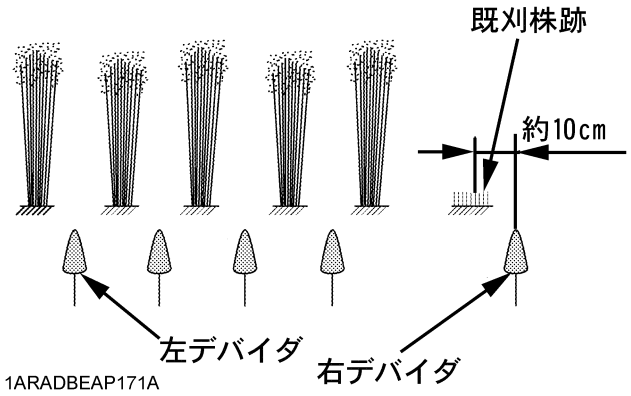
[327・331・338]

[433・438・445]

右から３つ目のデバイダ又は，分草ガイドを株と株の間（中心）に入れるように条合わせを行なってください。

● 通常の回り刈りのとき

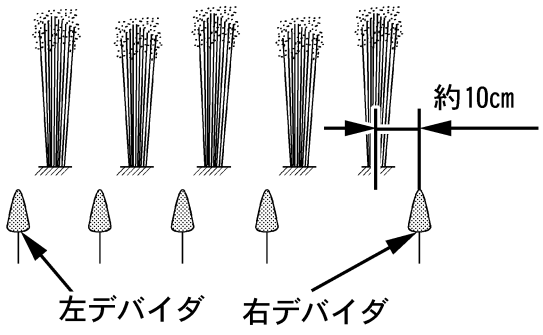
既刈側刈株跡から約 10cm の位置に右デバイダを合わせてください。



1ARADBEAP171A

● 刈始め・あぜぎわ刈り・中割り作業のとき

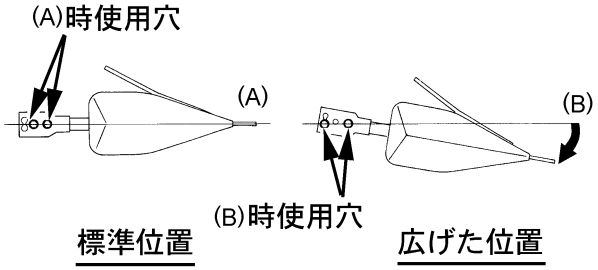
1. 右デバイダ基準で５条分刈取ってください。
2. 右デバイダを約10cmになるように合わせてください。



1ARADBEAP172A

補　足

＊ 植付け条間が広いとき（33cm 条間又は麦）右デバイダを広げてください。（(B) 位置）

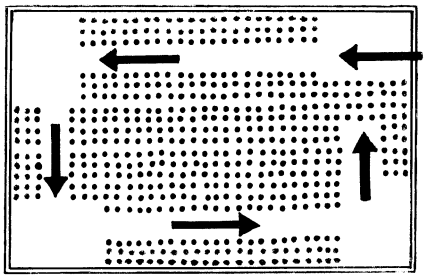


1ARADBEAP173A
1ARADBEAP187A

[433・438・445]

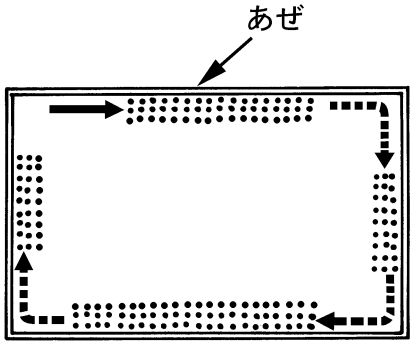
◆ あぜぎわの刈りかた

1. あぜぎわの条があぜに近く，右クローラがあぜに乗り上げるときは，１周目は周囲３条 **[327・331・338]** 又は，４条 **[433・438・445]** を残して４条分 **[327・331・338]** 又は，５条分 **[433・438・445]** を刈取ります。



1ARADBEAP174A

2. あぜぎわに残した作物の刈取りは，左分草かんを収納し，低速で右回りで行ないます。



1ARADBEAP175A

重　要

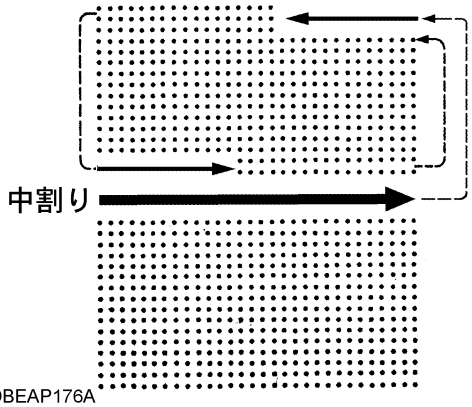
＊ あぜぎわ刈りをするとき，デバイダをあぜに突込まないように，少し高刈りをしてください。また，分草かんを畦に強く当てると刈取部が変形しますので，収納して作業してください。
＊ コンクリートの畦畔にクローラをこすりつけると，クローラを欠損する場合がありますので注意してください。

補　足

＊ 自動こぎ深さ装置を**［切］**位置にして，こぎ残しが出ないように手動スイッチで**深こぎ**ぎみにしてください。

◆ 広いほ場の場合

中割り刈りで分割して，同じ要領で刈取ります。



1ARADBEAP176A

補　足

＊ 中割り刈り以外のときは，通常の回り刈りをしてください。

◆ 旋回のしかた

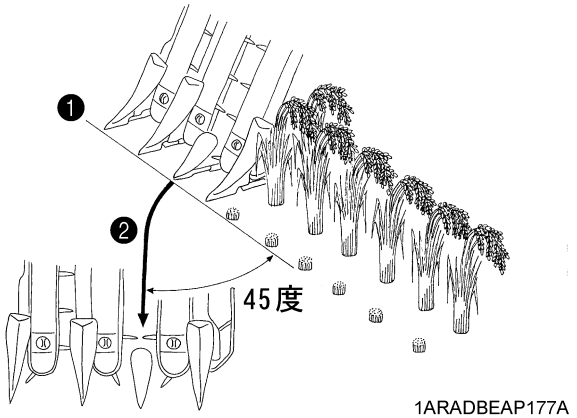
1．刈終わると前進しながら刈取部を上げます。

補　足

＊ 刈終わる前に刈取部を上げると刈残しが発生します。
＊ エンジンの回転低下が大きいときは，旋回操作の前に減速してください。
＊ SF ワンレバーを斜め方向に操作すると，機体の旋回と同時に刈取部が上下します。

2．SF ワンレバーを左に一杯倒し，45 度くらい旋回した位置で走行を停止します。

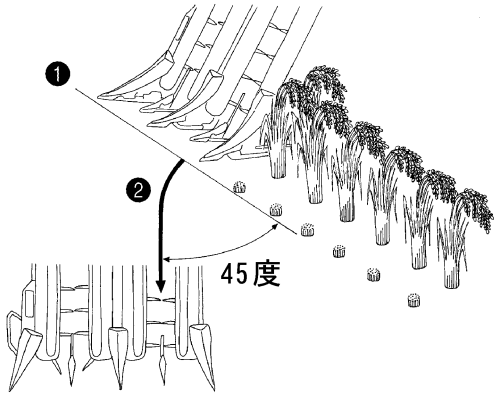
[327・331・338]



1ARADBEAP177A

[327・331・338]

[433・438・445]

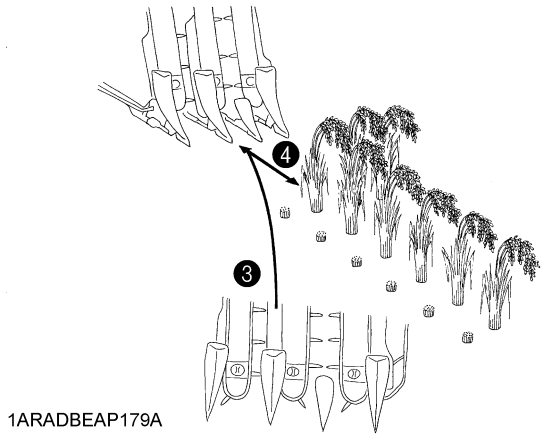


1ARADBEAP178A

[433・438・445]

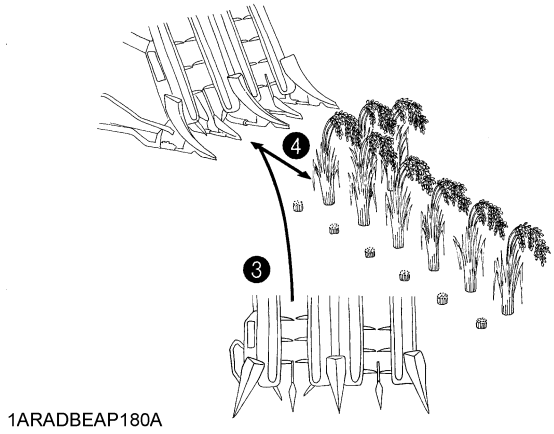
3. 主変速レバーを**後進**位置に入れ，後進しながらSFワンレバーを右に倒し，次に刈る方向に刈取部を合わせます。
4. 刈取部を下げて前進します。

[327・331・338]



[327・331・338]

[433・438・445]



[433・438・445]

重　要

＊ エンジン回転数は，下げないでください。**選別が悪くなったり詰まりの原因**になります。

[SD仕様]

補　足

＊ 刈取オートクラッチを**【入】**位置にしておくと，刈取部を上げたとき，自動的に刈取部の回転が停止するため，旋回が楽に行なえます。

[SD仕様]

■湿田作業のしかた

注　意

＊ 異常が発生したときは，エンジンを必ず止めて処置してください。

湿田で刈取作業を行なうときは，作物の状態（倒伏角の大きさなど）やほ場の状態（ぬかるみや起伏の大きさなど）をよく確認してください。また，異常が発生したときは，下表を参照してください。

現　象	処　置
・スリップする。 ・沈下して動かなくなる。 ・機体が傾く。	・低速で作業を行なう。 ・同じ場所での旋回は避ける。 ・急旋回はしない。（SF ワンレバーを小刻みに操作し，大廻りする。） ・急発進はしない。 ・機体を軽くする。（グレンタンク内のもみを早期排出する。）
・刈取部が詰まる。	・わらくずや泥の付着を取除く。（パッカ下部は搬送部） ・少し高刈りする。
・カッタ部が詰まる。	・わらくずや泥の付着を取除く。

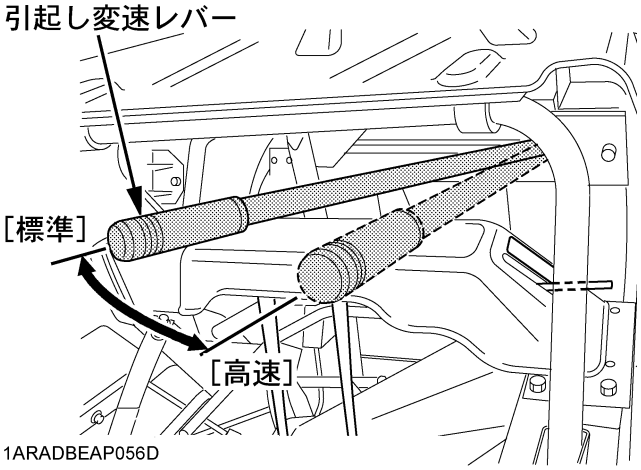
■作物に合わせた変速の選びかた

作物の状態により適正な速度の位置を選んでください。

◆ 副変速・引起し変速の選び方

刈取部の引起し速度を作物の状態に合わせて，下表を参考にして，副変速レバーと引起し変速レバー（**[標準]**・**[高速]** の２段階）の変速を行なってください。

作物状態		変速レバー位置	
倒伏度合	その他の条件	副変速レバー位置	引起し変速レバー位置
直立	一般的作物	**[標準]**	**[標準]**
	周囲刈りなど低速走行作業	**[標準]**（又は，**[倒伏]**）	
	脱粒しやすい作物（麦穂切れ大も含む）	**[標準]**（又は，**[倒伏]**）	
倒伏	45 度以下の倒伏作物		
	45度以上の倒伏作物 長かん作物	**[倒伏]**（又は，**[標準]**）	**[標準]**（又は，**[高速]**）



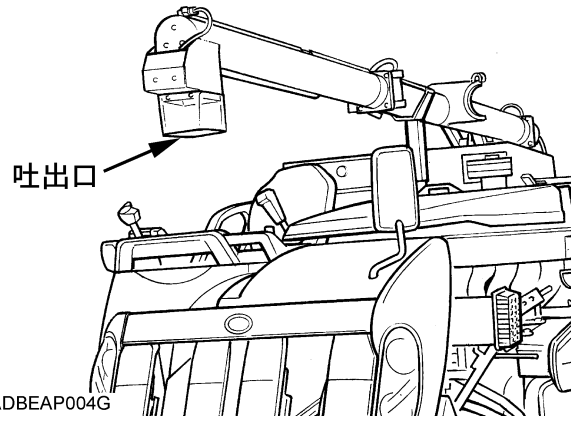
補　足

＊ 上記の表は目安です。
＊ 出荷時は **[標準]** 位置です。
＊ 刈取部の搬送は，車速に同調しています。
＊ 下記のような条件では，上表のような作業速度では作業ができない場合があります。
- 雑草が極めて多いほ場
- ５度以上傾斜しているほ場
- 病虫害，風水害により倒伏している作物
- 根ぐされし，切れやすい作物
- こくかんがくさり，ぬれているもの
- 過熟して，茎が折れやすくなっている麦
- 10㎝ 以上の高うねのほ場

■もみの排出のしかた

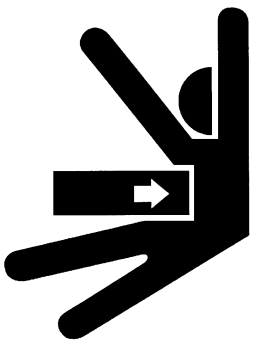
注　意

＊ コンバインを必ず停止してください。
＊ 吐出口に手は入れないでください。



1ARADBEAP004G

＊ 手をはさみ，ケガをするおそれがあるので，アンローダ受けの上に手を置かないでください。
＊ アンローダ先端が大きく動き，ケガをするおそれがあるので，アンローダの旋回範囲に人がいるときは，アンローダを動かさないでください。

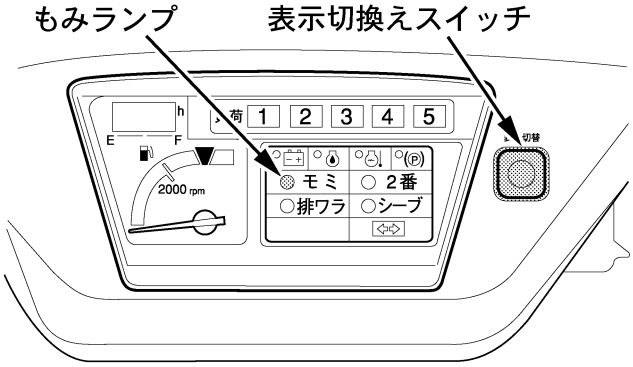


1ARADAFAP076A

＊ 排出時は機体を水平な場所に停車させ，脱こく・刈取クラッチレバーを［切］位置にしてから排出作業を行なってください。

[DX 仕様]

1. グレンタンクが満杯になると，メータユニットのもみランプが点灯すると同時にブザーが鳴ります。



1ARADBEAP078D

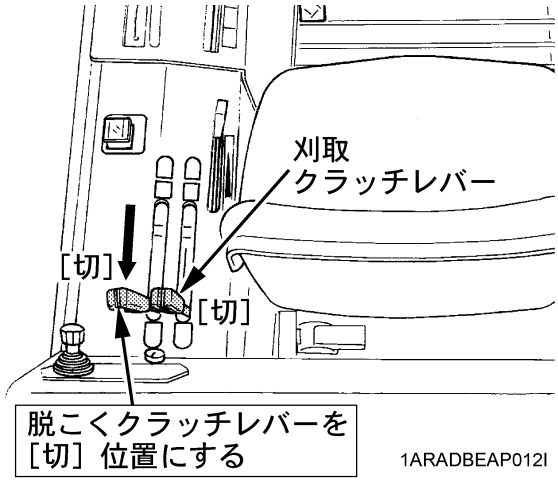
重　要

＊ ブザーが鳴ったあとも刈取作業を行なうと，もみがあふれたり，1 番スクリュが詰まったりして，故障の原因となります。

補　足

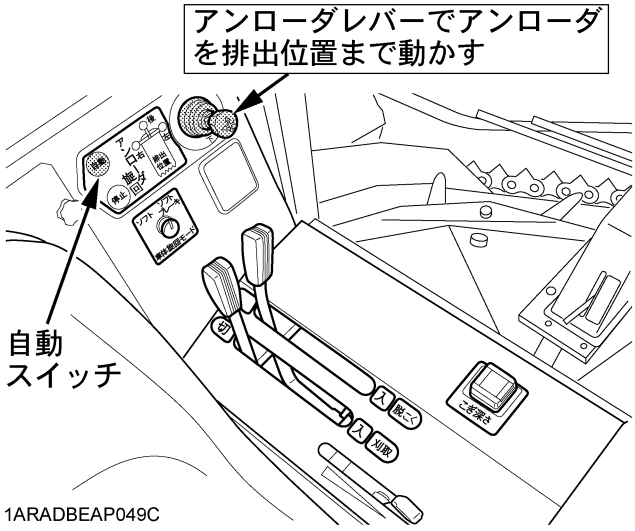
＊ 表示切換えスイッチを押すと，ブザーは停止します。

2. 刈取作業をいったん中止し，30 ～ 60 秒待ったあと，脱こくクラッチレバーを**［切］**位置にして，所定の排出位置に移動します。



1ARADBEAP012I

3. 主変速レバーを**【停止】**位置にして，駐車ブレーキを掛けます。
4. アンローダレバーを操作して，アンローダを排出位置まで動かします。

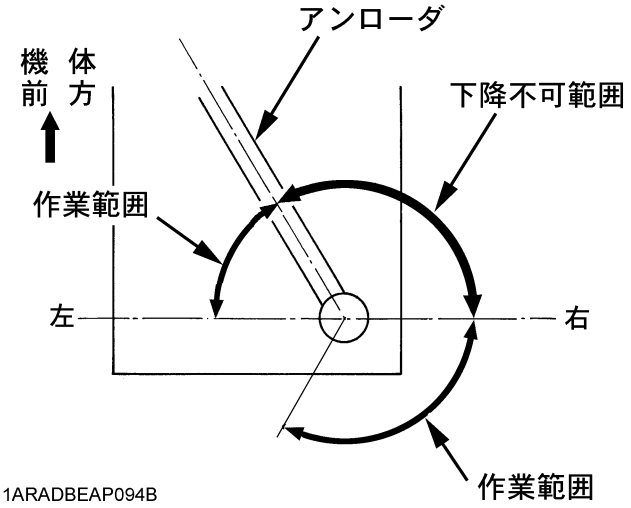


重　要

＊ 走行しながら，アンローダ旋回操作を行なわないでください。機械故障（油圧系統の作動不良）の原因になります。
＊ 自動スイッチを押す前に，アンローダの旋回範囲に障害物がないか確認してください。

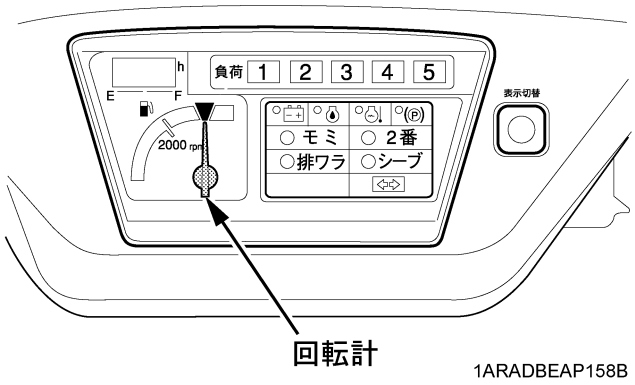
補　足

＊ 自動制御装置作動中に，停止スイッチを押すかアンローダレバーを操作すると，自動制御は停止します。停止状態から再度自動スイッチを押すと，アンローダの自動制御が作動します。
＊ 自動制御装置作動中でもアンローダレバーの操作が優先され，その後の自動旋回は停止します。
＊ アンローダが最上昇位置のとき，**下降不可範囲**ではレバーを操作しても下降しません。
＊ アンローダが作業範囲内で最上昇位置以外のとき，レバーを操作しても**下降不可範囲**内には旋回しません。



＊ アンローダレバーを操作方向識別ラベルの**赤色**方向に操作するとアンローダは左旋回（ラベル赤色方向）し，アンローダレバーを**青色**方向に操作するとアンローダは右旋回（ラベル青色方向）します。(42 ページ参照)

5. 排出作業は刈取作業時の回転のままでしてください。

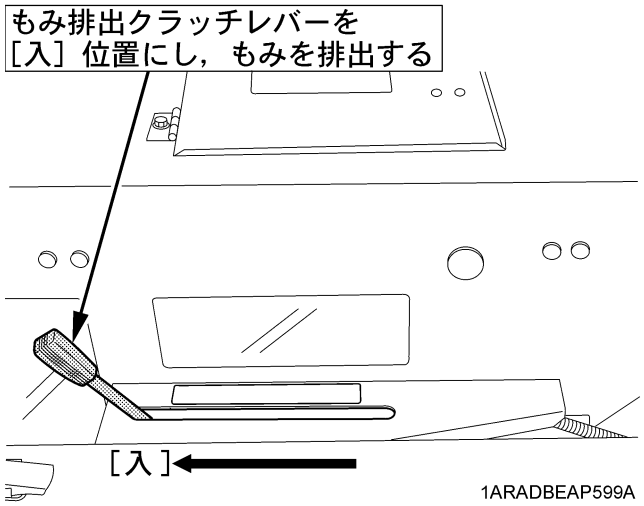


補　足

＊ 損傷しやすい作物は，エンジン回転数を約2000rpm 程度まで下げてください。

[Q 仕様除く]

6. もみ排出クラッチレバーを**【入】**位置にし，もみを排出します。



[Q 仕様除く]

[Q 仕様]

6. モミ排出スイッチを押すとランプが点滅し（スイッチ**【入】**），もみを排出します。

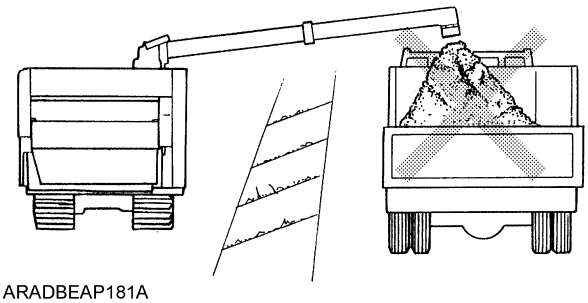


[Q 仕様]

重　要

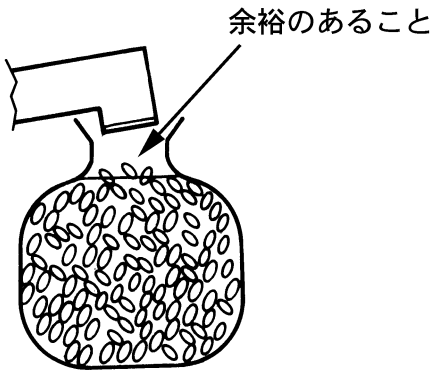
＊ 吐出口をふさがないようにアンローダの位置を調整してください。故障の原因となります。

［アンローダ出口注意］　　［近づけすぎない］



1ARADBEAP181A

＊ アンローダには，絶対物を吊るさないでください。
＊ アンローダで袋詰め作業を行なうとき，詰まり防止のため，袋に余裕のある状態で，もみ排出クラッチレバーを切ってください。アンローダが詰まると駆動系統の故障の原因になります。



1ARADBEAP182A

7. 排出が終わると，もみ排出クラッチレバーを**［切］**位置にし**［Q 仕様除く］**，又はもみ排出スイッチを押し（**［切］**）**［Q 仕様］**，アンローダ自動スイッチ又は，アンローダレバーを操作してアンローダをアンローダ受けに収納します。

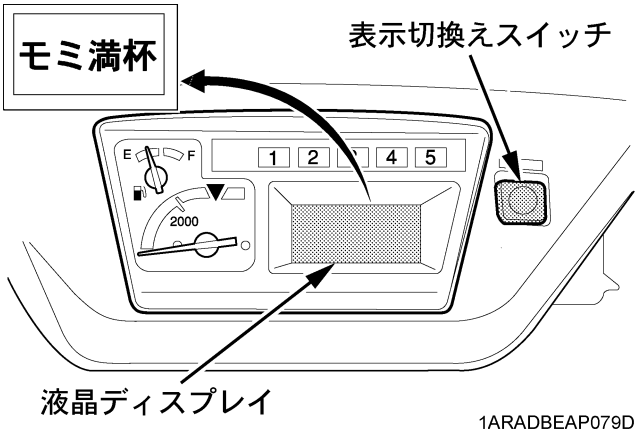
補　足

＊ アンローダレバーで操作するときは，アンローダを最上昇位置にして旋回後，アンローダ受けに収納してください。
＊ アンローダ内にもみが残っていると，もみがこぼれるのでアンローダを一度最上昇させて収納してください。

［DX 仕様］

［SD 仕様］

1. グレンタンクが満杯になると，エアロナビの液晶ディスプレイが**［モミ満杯］**と表示すると同時にブザーが鳴ります。



1ARADBEAP079D

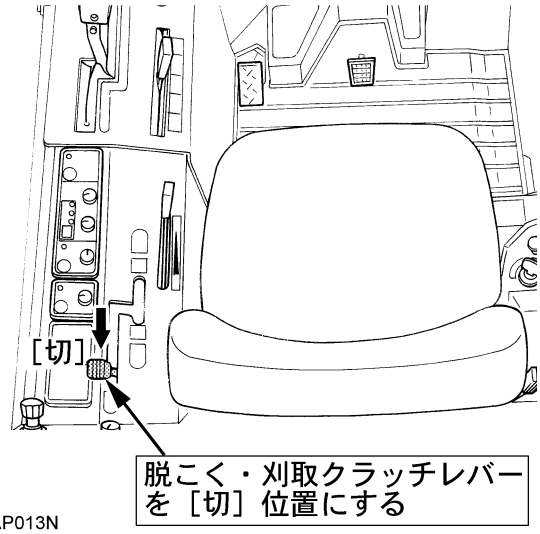
重　要

＊ ブザーが鳴ったあとも刈取作業を行なうと，もみがあふれたり，１番スクリュが詰まったりして，故障の原因となります。

補　足

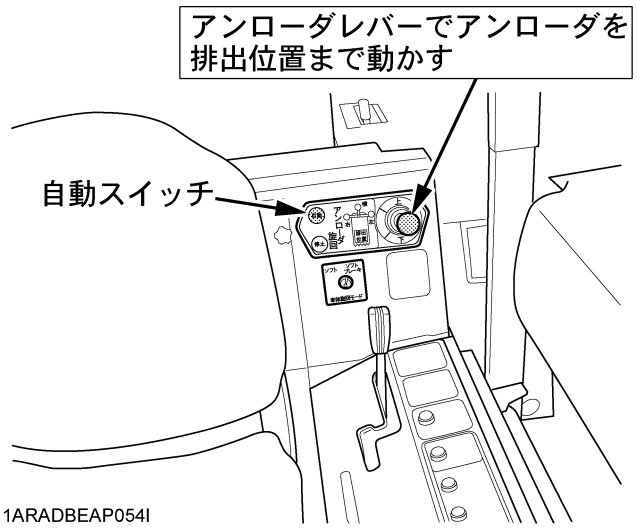
＊ 表示切換えスイッチを押すと，ブザーは停止します。

2. 刈取作業をいったん中止し，30 ～ 60 秒待ったあと，脱こく・刈取クラッチレバーを**［切］**位置にして，所定の排出位置に移動します。



1ARADBEAP013N

3. 主変速レバーを**【停止】**位置にして，駐車ブレーキを掛けます。
4. アンローダレバーを操作して，アンローダを排出位置まで動かします。



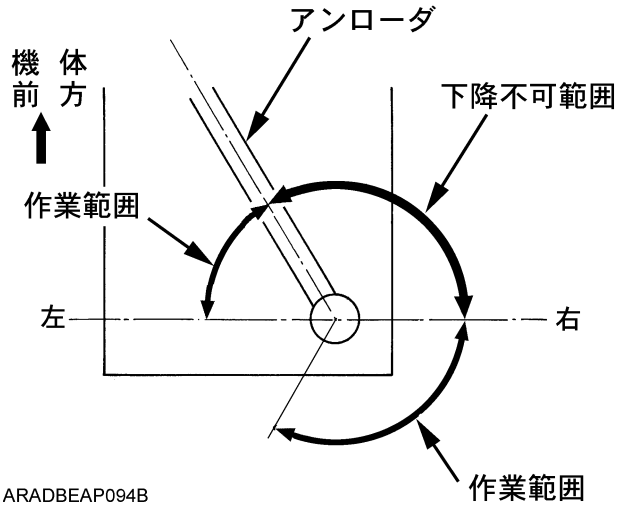
1ARADBEAP054I

重　要

＊ 走行しながら，アンローダ旋回操作を行なわないでください。機械故障（油圧系統の作動不良）の原因になります。
＊ 自動スイッチを押す前に，アンローダの旋回範囲に障害物がないか確認してください。

補　足

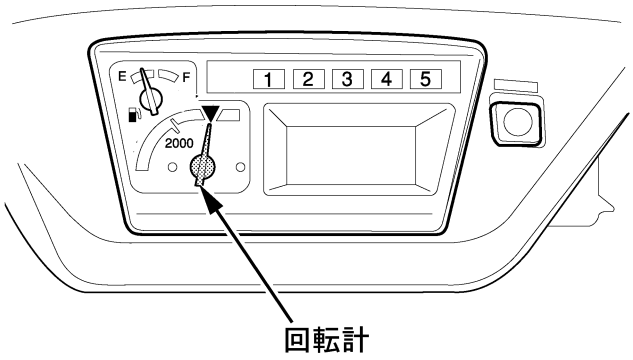
＊ 自動制御装置作動中に，停止スイッチを押すかアンローダレバーを操作すると，自動制御は停止します。停止状態から再度自動スイッチを押すと，アンローダの自動制御が作動します。
＊ 自動制御装置作動中でもアンローダレバーの操作が優先され，その後の自動旋回は停止します。
＊ アンローダが最上昇位置のとき，**下降不可範囲**ではレバーを操作しても下降しません。また，このときに液晶ディスプレイに**［アンローダを上げる］**と表示しますので，アンローダを最上昇位置まで上げて旋回してください。
＊ アンローダが作業範囲内で最上昇位置以外のとき，レバーを操作しても**下降不可範囲**内には旋回しません。また，このときに液晶ディスプレイに**［アンローダを上げる］**と表示します。



1ARADBEAP094B

＊ アンローダレバーを操作方向識別ラベルの**赤色**方向に操作するとアンローダは左旋回（ラベル赤色方向）し，アンローダレバーを**青色**方向に操作するとアンローダは右旋回（ラベル青色方向）します。(42 ページ参照)

5. 排出作業は刈取作業時の回転のままでしてください。



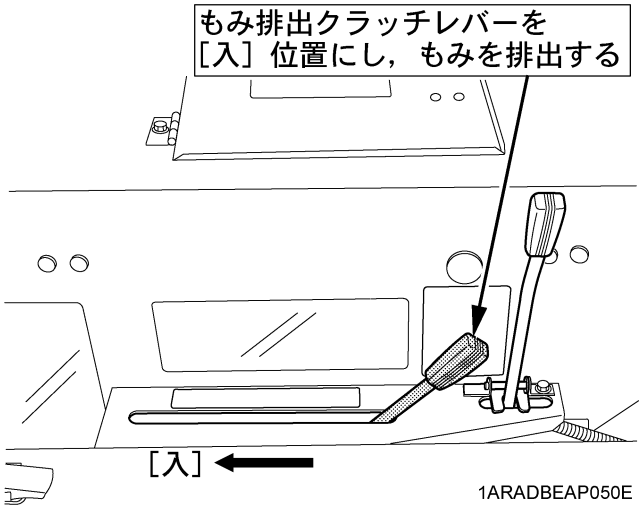
1ARADBEAP160B

補　足

＊ 損傷しやすい作物は，エンジン回転数を約2000rpm 程度まで下げてください。

[Q 仕様除く]

6. もみ排出クラッチレバーを **[入]** 位置にし，もみを排出します。



1ARADBEAP050E

[Q 仕様除く]

[Q 仕様]

6. もみ排出スイッチを押すとランプが点滅し（スイッチ **[入]**），もみを排出します。



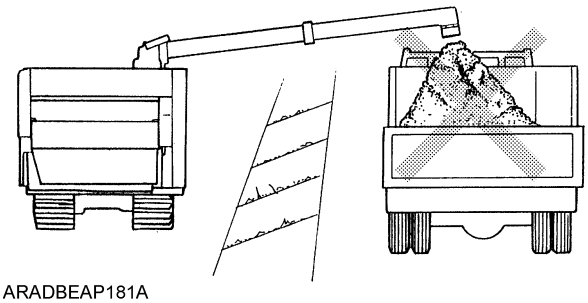
1ARADBEAP055C

[Q 仕様]

重　要

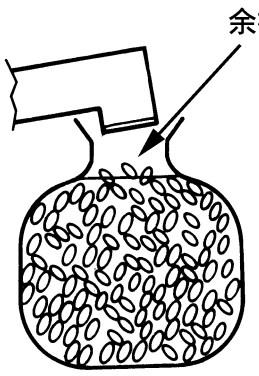
＊ 吐出口をふさがないようにアンローダの位置を調整してください。故障の原因となります。

［アンローダ出口注意］　　［近づけすぎない］



1ARADBEAP181A

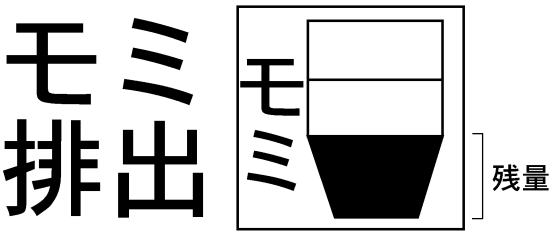
＊ アンローダには，絶対物を吊るさないでください。
＊ アンローダで袋詰め作業を行なうとき，詰まり防止のため，袋に余裕のある状態で，もみ排出スイッチを切ってください。アンローダが詰まると，駆動系統の故障の原因になります。



1ARADBEAP182A

補　足

＊ もみ排出中は，液晶ディスプレイにグレンタンク内のもみの残量を表示します。



1ARADBEAP5910

7. 排出が終わると，もみ排出クラッチレバーを**［切］**位置にし**［Q 仕様除く］**，又はもみ排出スイッチを押し（**［切］**）**［Q 仕様］**，アンローダ自動スイッチ又は，アンローダレバーを操作してアンローダをアンローダ受けに収納します。

補　足

＊ アンローダレバーで操作するときは，アンローダを最上昇位置にして旋回後，アンローダ受けに収納してください。
＊ アンローダ内にもみが残っていると，もみがこぼれるのでアンローダを一度最上昇させて収納してください。

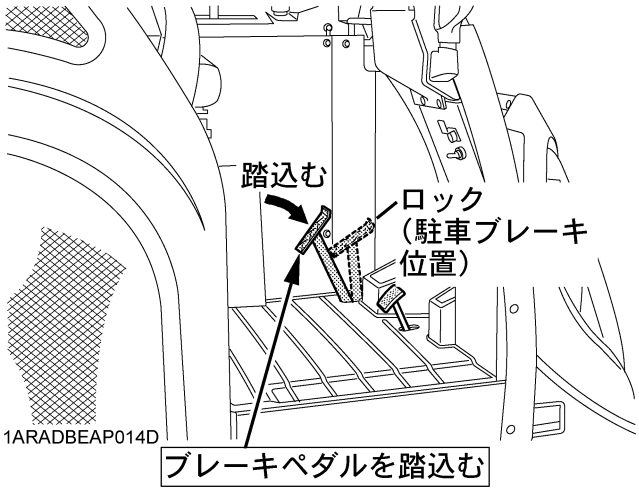
［SD 仕様］

■手刈り（枕刈り）脱こくのしかた

警　告

- **そで口はきっちり止めて，はち巻き，首巻き，腰タオルはしないでください。チェーンに巻込まれてケガをするおそれがあります。**
- **コンバインは平たんな場所に止めて，駐車ブレーキを掛けてください。**
- **刈取部は地面に接地させて，停止してください。**
- **手刈り（枕刈り）脱こくするときは，手や腕の位置を必ずチェーンの外側（コンバインから離れる位置）にして，作物を少量ずつ供給してください。**

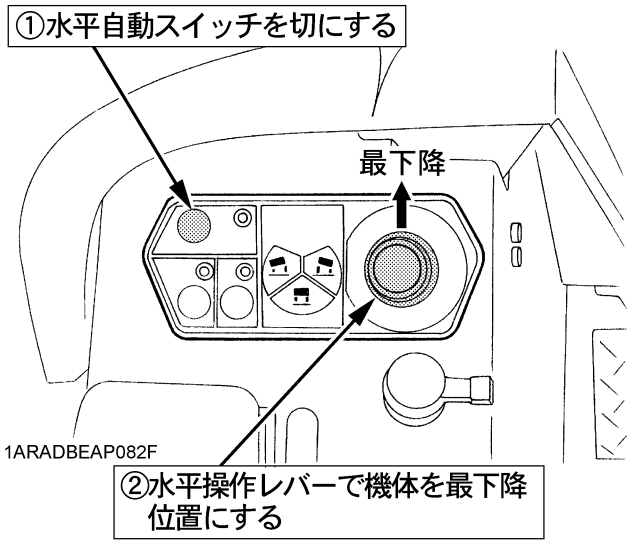
1. 駐車ブレーキを掛けます。



2. **［DX 仕様］**は脱こくクラッチレバー，**［SD 仕様］**は脱こく・刈取クラッチレバーを**［切］**位置にします。

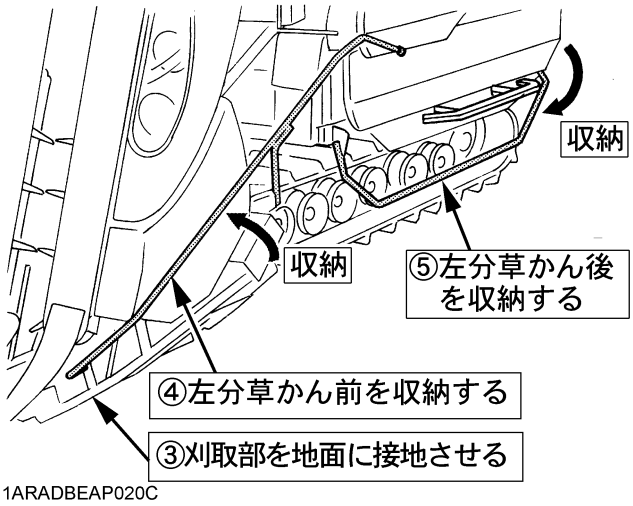
［DXM・SD4M 仕様］

3. 機体を下げて，各部の準備をします。

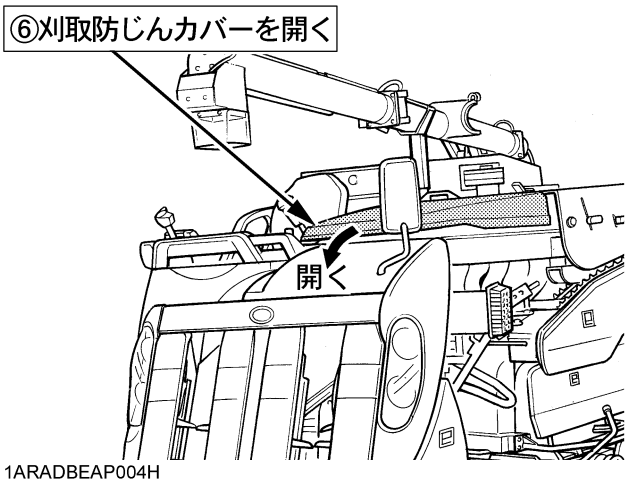


［DXM・SD4M 仕様］

4. 左分草かん前・後を収納します。



[SD 仕様]



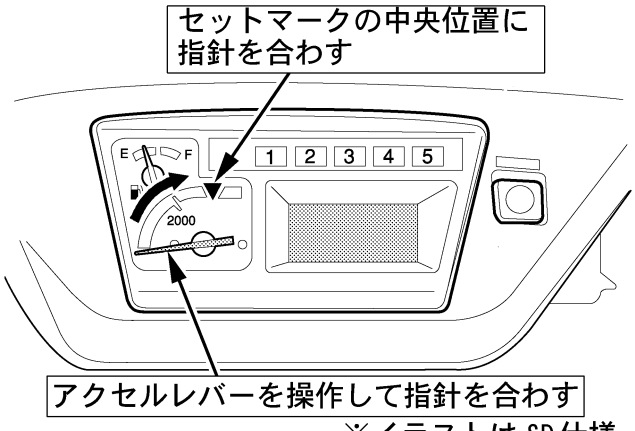
1ARADBEAP004H

補　足

＊ 刈取防じんカバーは前方いっぱいまで開けてください。

[SD 仕様]

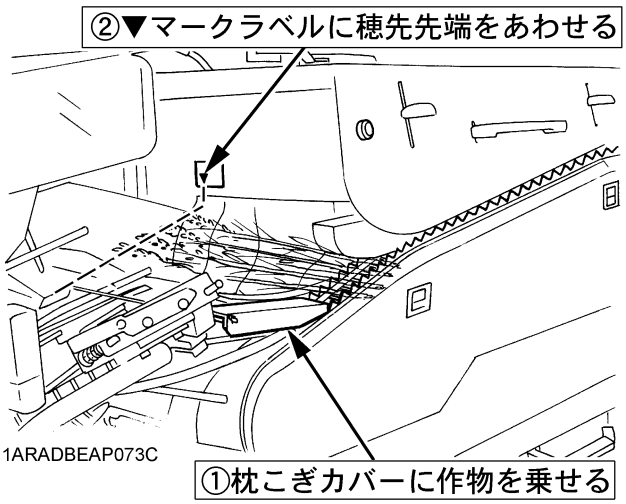
5. 脱こく・刈取クラッチレバーを**【脱こく】**位置にし，脱こく部だけを動かします。
6. エンジン回転数を**セットマーク**の中央の位置に合わせます。



1ARADBEAP079E

※イラストは SD 仕様

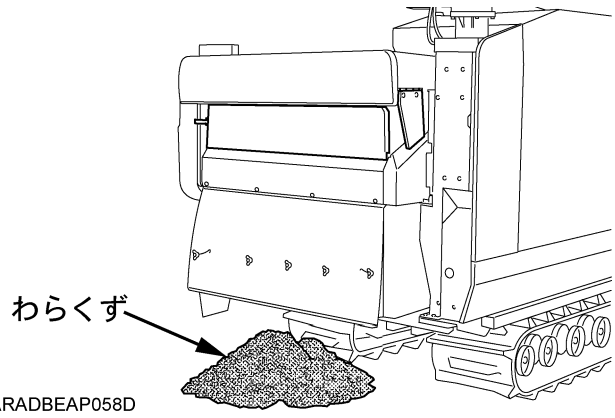
7. 手刈り作物を枕こぎカバーに乗せたあと，作物の穂先先端を**【▼マーク】**に合わせ，少量ずつフィードチェーンに供給します。



1ARADBEAP073C

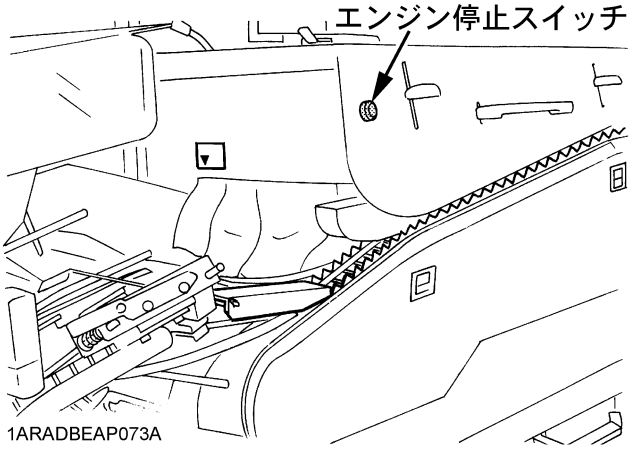
重　要

＊ １箇所で多量の手こぎをする場合，カッタやドロッパの下に排わらや切断わらの堆積が原因で，カッタなどが詰まることがありますから，機体を定期的に移動させてください。
＊ 切断わらがカッタわら排出口に詰まった場合は，エンジンを必ず止めて取除いてください。



1ARADBEAP058D

＊ 手刈り脱こく時に万一異物などのかみ込みが発生したときは，エンジン停止スイッチを押してください。



1ARADBEAP073A

■作業に合わせた各部の調整･調節のしかた

警 告

＊ 調整時は必ずエンジンを止めてください。
＊ 衣服などが回転部に巻込まれ危険ですので，取外した回転部のカバー類は必ず取付けてください。

注 意

＊ 水平で平たんな場所で行なってください。
＊ コンバインを停止するときは，わらくずの上に止めないでください。マフラ排気口にわらくずが触れると，火災のおそれがあります。

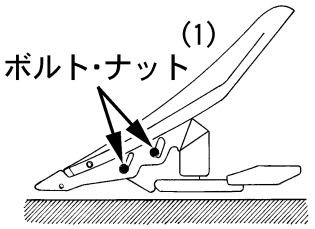
◆刈取部

■デバイダの調整

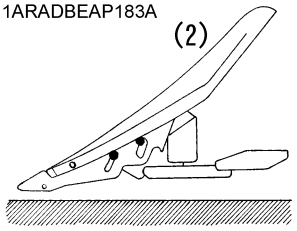
● 上・下調整

下表の作物条件に応じて，調整を行なってください。調整のしかたは，ボルト・ナットをゆるめて下表を参照し調整を行なったあと，ボルト・ナットを締付けます。

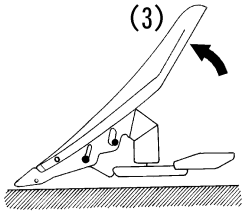
作物・ほ場条件	セット位置
標準	(1) の位置
湿田で前上りになるとき	デバイダ先端を下げる (2) の位置
うね作業のとき	
雑草が多く高刈りしたいとき	
横倒伏刈りで刈り残しがあるとき	
株の引抜きが多いとき	デバイダ先端を下げる (2) 又は (3) の位置



1ARADBEAP183A



1ARADBEAP184A



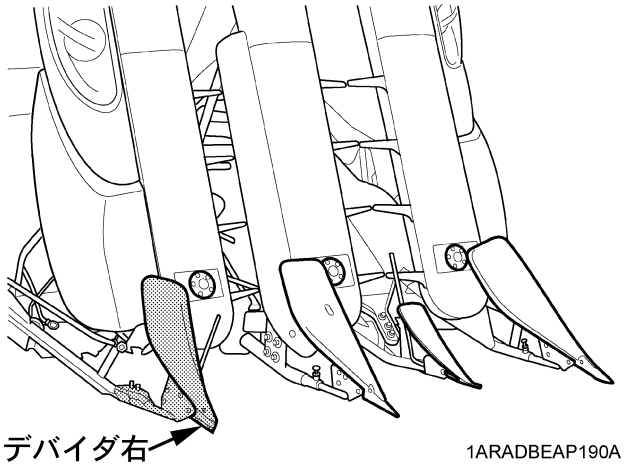
1ARADBEAP185A

● 右デバイダの調節

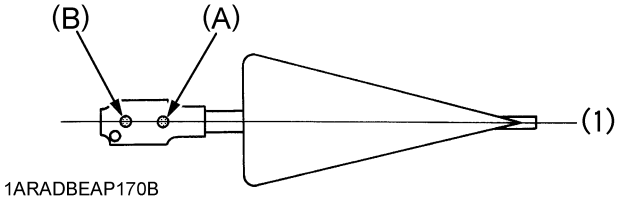
下表の作業条件に応じて，調節を行なってください。調節のしかたは，ボルト (A) と (B) 又は，(C) の２箇所をゆるめたあとボルト (B) 又は，(C) の取付け位置を変更して下表を参照し調節を行なったあと，ボルト２箇所を締付けます。

[327・331・338]

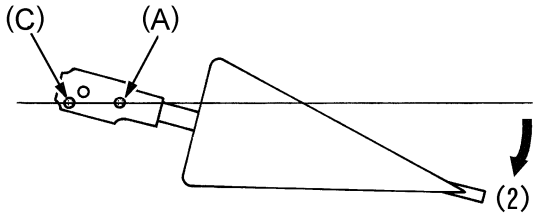
調節位置	作業条件
(1)	● 標準
(2)	● あぜぎわ刈り，中割り刈りのとき ● 33cm 条間又は，麦の刈取りのとき



1ARADBEAP190A



1ARADBEAP170B



1ARADBEAP186B

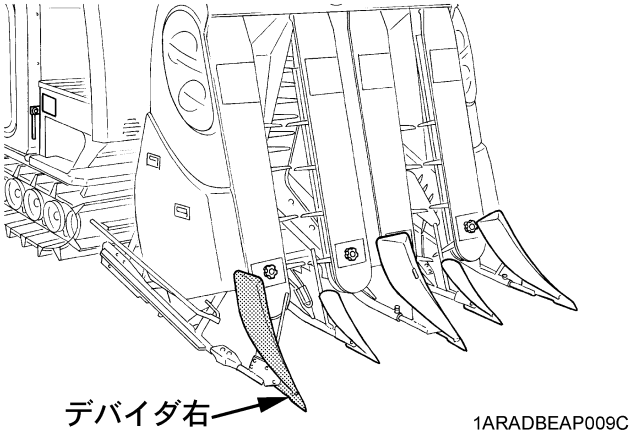
補　足

＊ デバイダカバーを取付けるときは，(1)（標準）の位置にしてください。

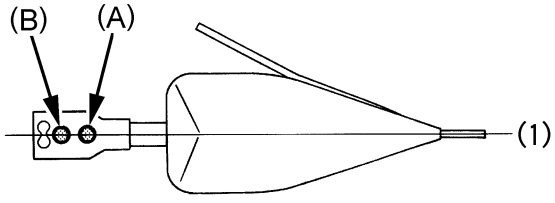
[327・331・338]

[433・438・445]

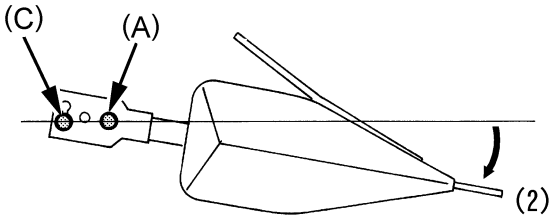
調節位置	作業条件
(1)	● 標準位置
(2)	● 湿田でコンバインが前上りになるとき ● うね作業のとき ● 雑草が多く高刈りしたいとき
(3)	● 短かん作物の中割り作業などで搬送の乱れやこぎ残しがあるとき



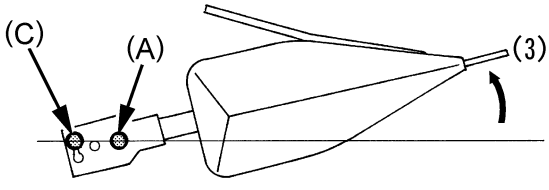
1ARADBEAP009C



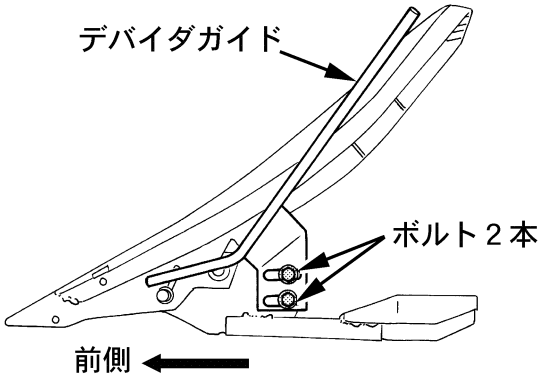
1ARADBEAP173B



1ARADBEAP187B



1ARADBEAP188A



1ARADBEAP189A

補　足

＊ デバイダカバーを取付けるときは，(1)（標準）の位置にしてください。

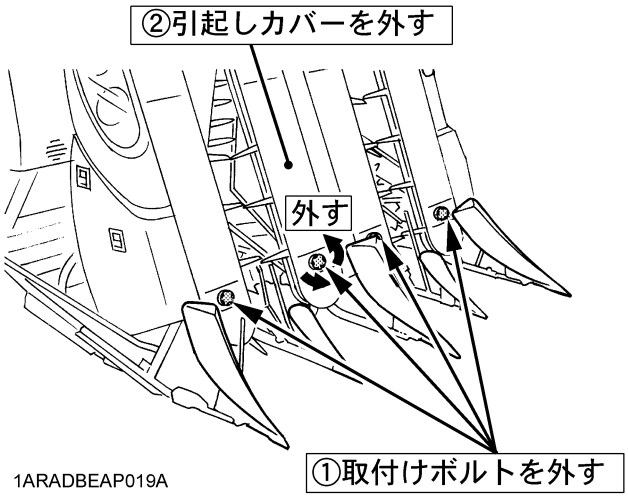
＊ (C) 位置に変更するときは，デバイダガイドが引起しカバーに接触しないようにボルト２本をゆるめて，前側に引出してください。また，(A) 又は，(B) 位置に変更するときは，他のデバイダ（左，中，中２）のガイドと同じ位置（出代）に合わせてください。

[433・438・445]

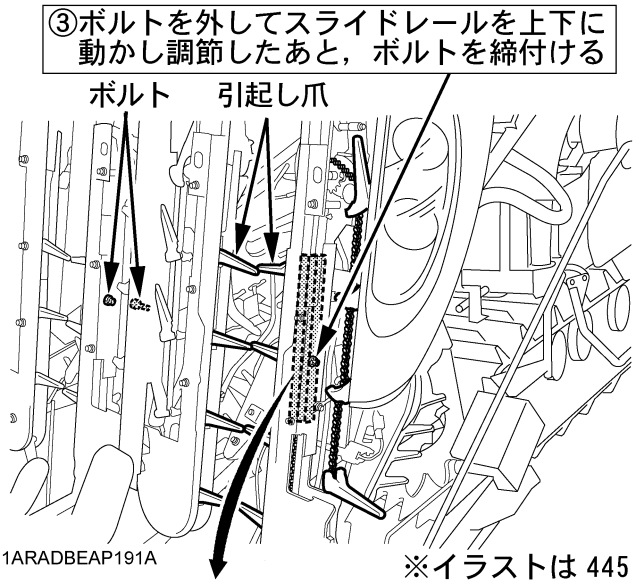
■引起し爪高さの調整

作物条件に応じて，引起し爪が収納される位置の調節を行なってください。調節は必ず**全条同じ位置**にしてください。

1.　引起し爪高さの調節を行ないます。

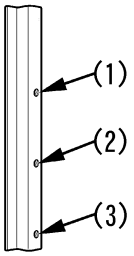


1ARADBEAP019A



1ARADBEAP191A

※イラストは 445

調節位置		作物条件
	(1)	● 脱粒しやすい品種 わらちぎれの多い作物 （過熟小麦など）
	(2)	● 標準の作物［出荷時］
	(3)	● 極長かん（130cm 以上） ● 長かんで倒伏している作物

2. 引起しカバーを装着したあと，取付けボルトを締付けます。

■刈刃の高さ調節

注 意

＊ 刈刃交換作業時には手袋などを装着してください。また，刈刃部に直接手で触らないでください。
＊ 枕木などで刈取部の落下防止の歯止めをしてください。

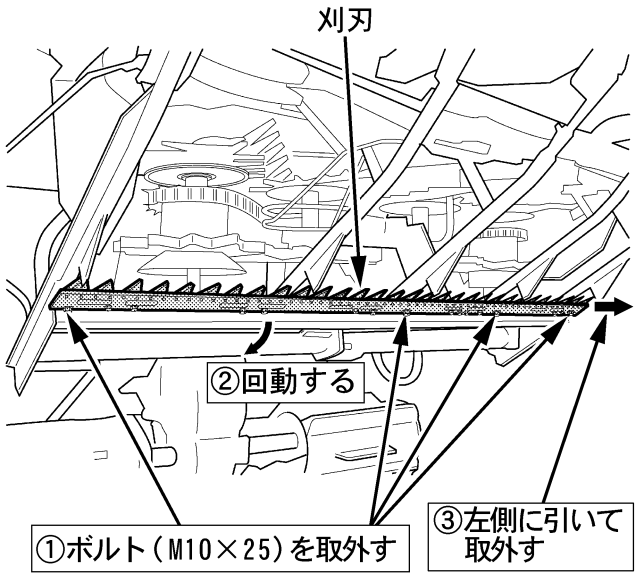
作物の刈高さを低くする（約 9㎜）ときは，刈刃の高さ調節を行なってください。

[DXM・SD4M 仕様]

1. 自動水平制御の水平操作レバーを操作して，機体を最上昇位置にします。

[DXM・SD4M 仕様]

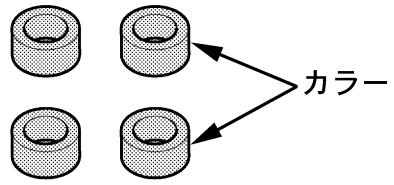
2. 刈取部を最上昇させたあと，刈取下降ロックをし，刈取部の下降防止を行ないます。
3. エンジンを停止したあと，ボルト（M10 × 25）（**[327・331・338]** は 3 本，**[433・438・455]** は 4 本）を外して刈刃を外します。
（219 ページ参照）



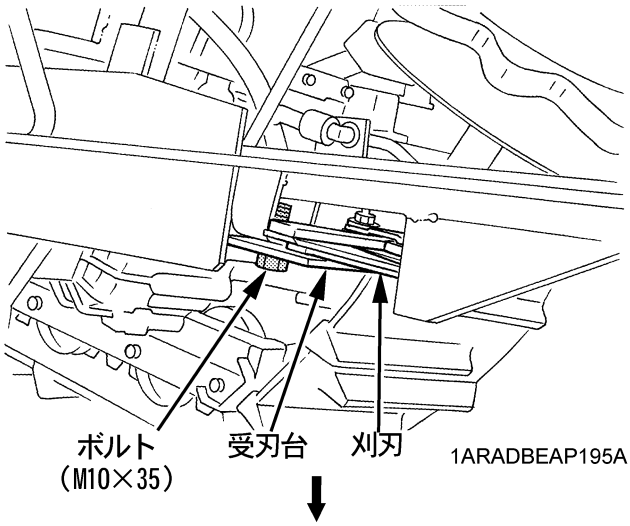
1ARADBEAP193A

※イラストは 445

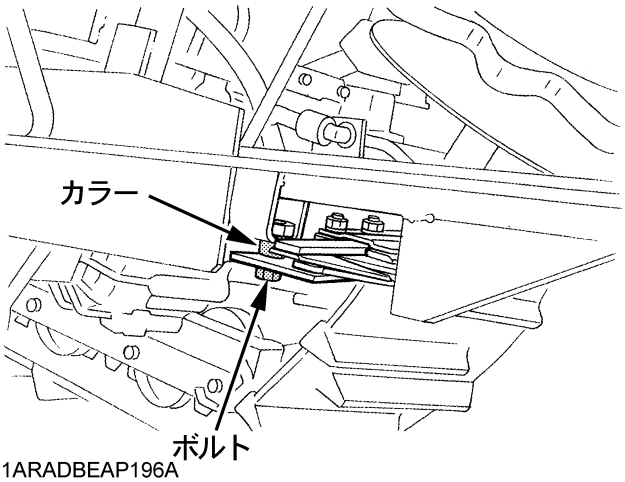
4. 付属部品のカラー（４個）をフレームと刈刃の受刃台の間にはさんで付属部品のボルト（M10 × 35）を取付けます。
（刈刃の取付けかたは 219 ページ参照）



1ARADBEAP194A



1ARADBEAP195A



1ARADBEAP196A

5. ４箇所ともカラー及びボルトを締付けて刈刃を取付けます。

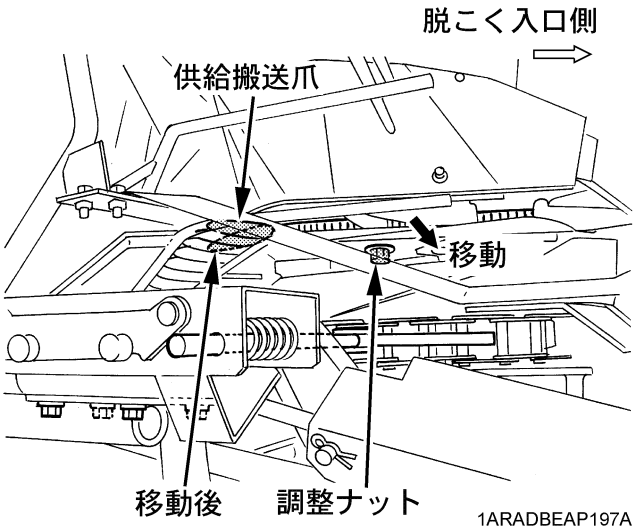
重　要

＊ 下記条件のときは，作業のしかたにより刈刃に泥・土がかかり破損の原因となりますので**標準位置**（出荷時）で作業を行なってください。
- ほ場が湿田のとき
- 作物が麦などのうねのあるほ場のときや，雑草が多いとき

■右穂先チェーン爪ガイドの調整

脱粒しやすい稲で，ロスを少なくしたいときに右穂先チェーンの搬送爪の倒れ量を調整してください。

下図のように右爪ガイドの下のナット（ケース裏側，１コ）をゆるめ，➡方向に移動させてナットを締付けてください。



補　足

＊ 脱こくへの供給姿勢に乱れが多いときは，標準位置で使用してください。

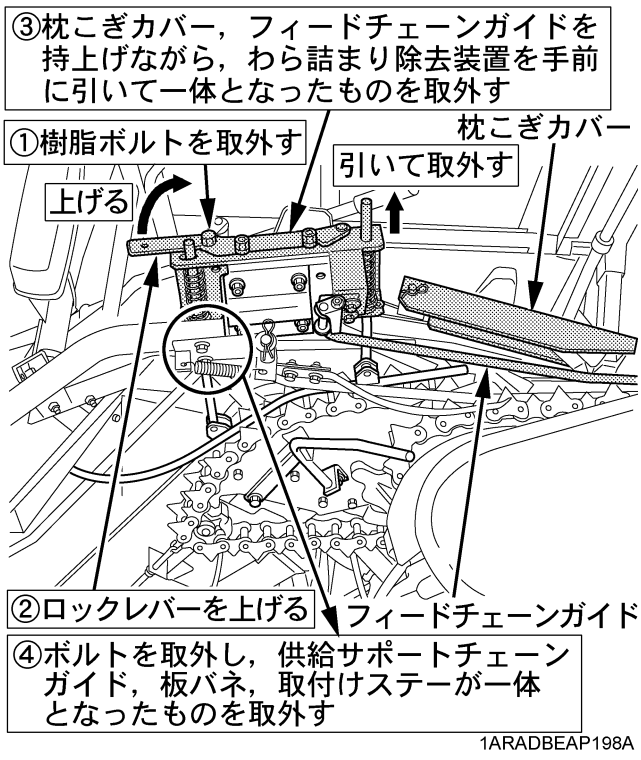
■短かん調節

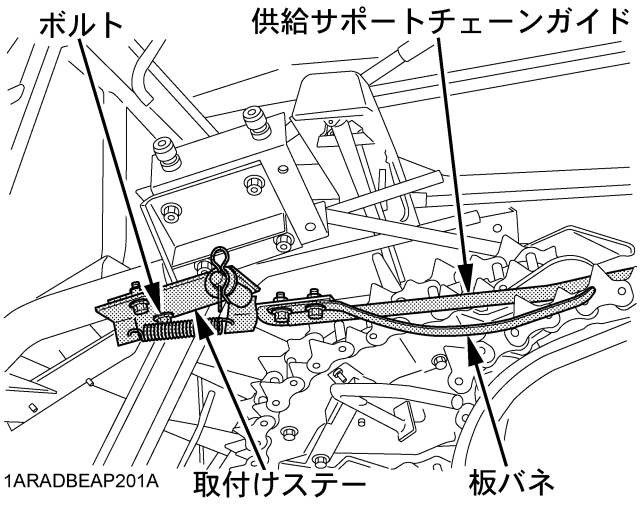
[433・438・455]

短かん作物（かん長 50 ～ 55cm）の刈取作業を行なうときは，供給搬送部の供給レール部の調節をを行なってください。

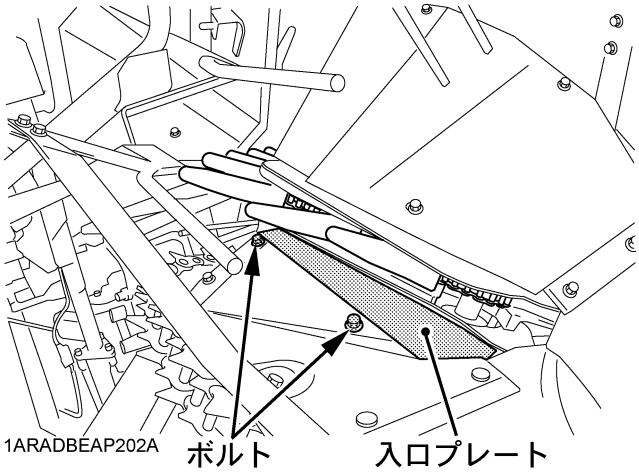
◆ 調節のしかた

1. **[M 仕様]** は機体を最下降位置まで下げます。
2. 刈取部を地面まで降ろしたあと，エンジンを停止します。
3. こぎ胴をオープンします。
4. わら詰まり除去装置を供給サポートチェーンガイドを取外します。

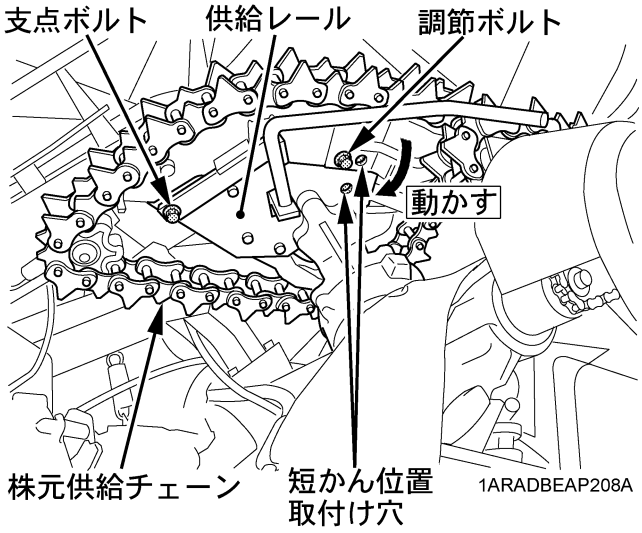




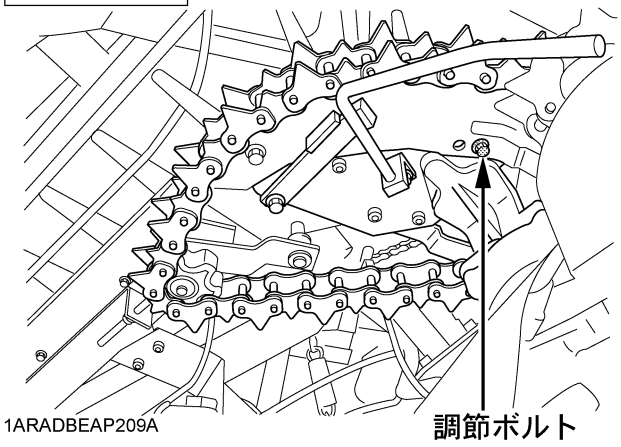
5. ボルトを取外して，入口プレートを外します。



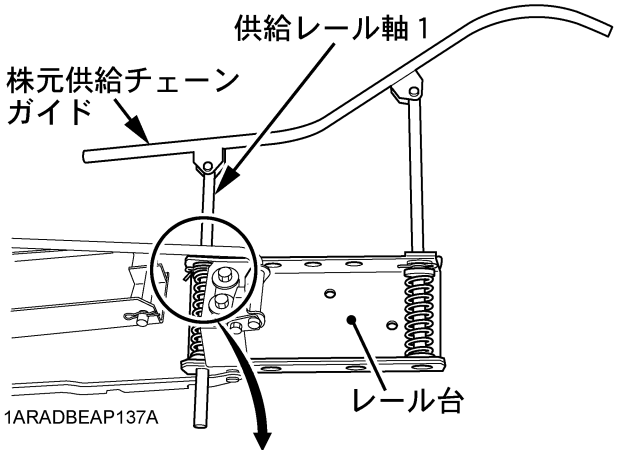
6. 供給搬送部の株元供給チェーンの供給レール下側にある支点ボルトと調節ボルトをゆるめます。
7. 調節ボルトを取外し，供給レールを動かして短かん位置用の取付け穴と調節ボルトの位置を合わせたあと，支点ボルトと調節ボルトを締付けます。

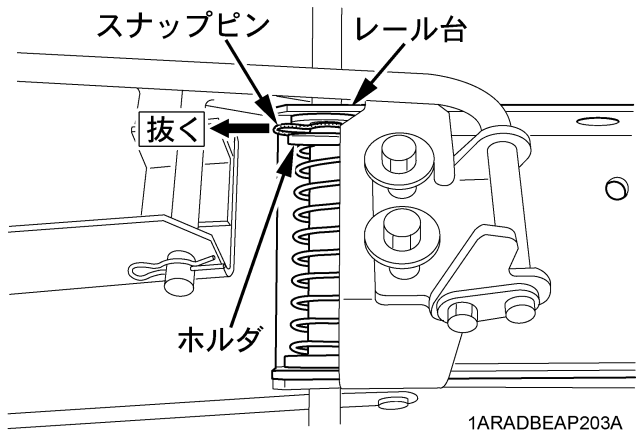


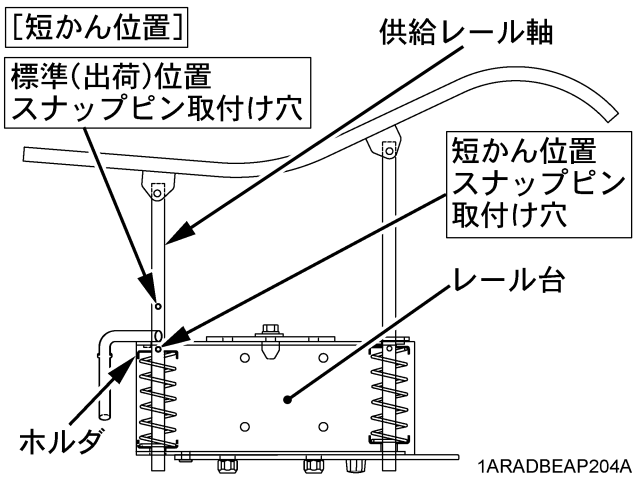
［短かん位置］



8. 取外したわら詰まり除去装置のレール台を裏返し，供給レール軸１のホルダとレール台の間に取付けているスナップピンを，供給レール軸１より取外します。
9. 取外したスナップピンを供給レール軸１の短かん位置の穴に差し込みます。



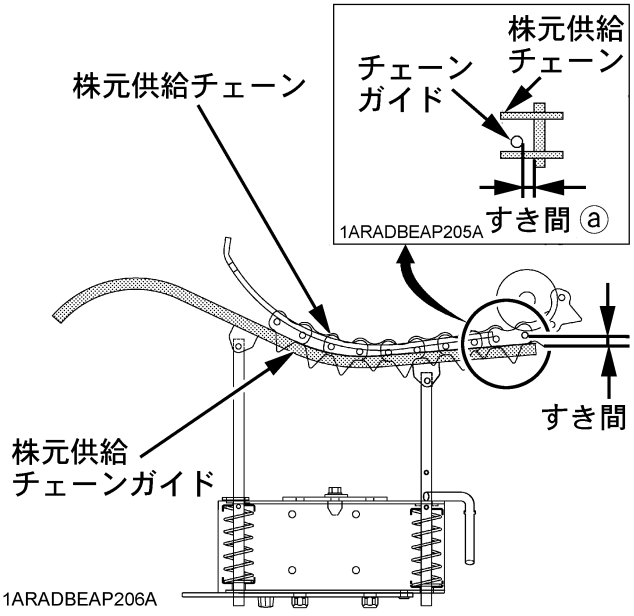


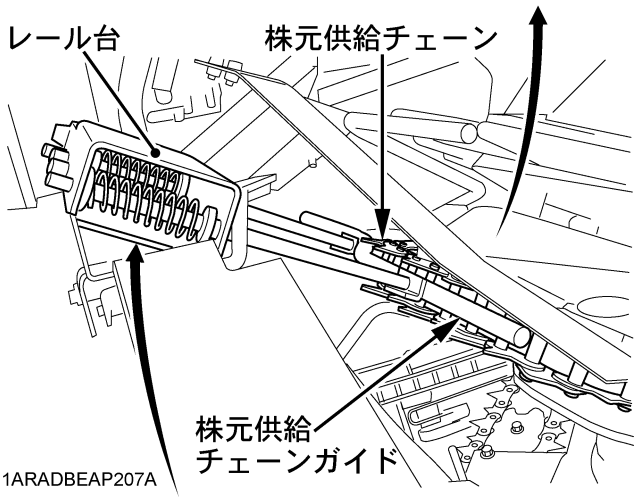


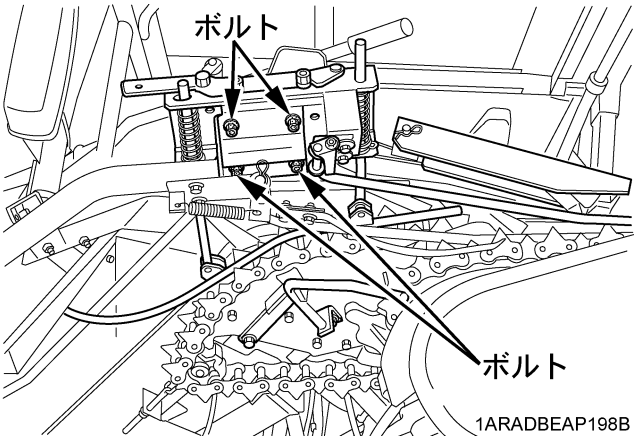
補　足

＊ スナップピンはホルダとレール台の間に取付けてください。

10. わら詰まり除去装置と供給サポートチェーンガイドを取付けます。(工程 4. 参照)
11. 株元供給チェーンのテンションスプリングの長さを 123 ～ 129㎜ に調整します。(ページ参照)
12. 株元供給チェーンとチェーンガイドのすき間を０～５ ㎜ に調整します。
    (1) レール台の取付けボルト４本をゆるめます。
    (2) レール台を動かして，株元供給チェーンとチェーンガイドのすき間を全体が均一になるよう調整します。
    (3) レール台の取付けボルト４本を締付けます。







13. こぎ胴を閉じます。

[433・438・455]

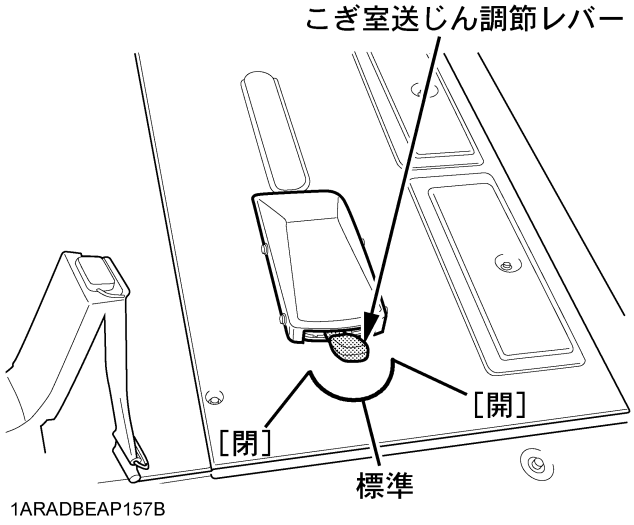
◆脱こく部

■脱こく状態に合わせた調節・調整

● こぎ室送じんレバーの調節

下表を参照してこぎ室送じん調節レバーで調節してください。

調節方向	現　象（状　態）
[開] ↑ [標準] ↓ [閉]	● ゴトゴトと大きな異音がする（こぎ胴の負荷が大きい） ● 倒伏作物やぬれ作物の刈取り ● 脱ぷや損傷（胴割れや欠け）粒が多い
	● 選別が悪い 　● 芒・枝梗粒が多い 　● 穂切れ粒が多い 　● ササリ粒が多い ● 排じんロス（もみの飛散）が多い



● 排じん調整板の調整

下表を参照して排じん調整板を調整してください。

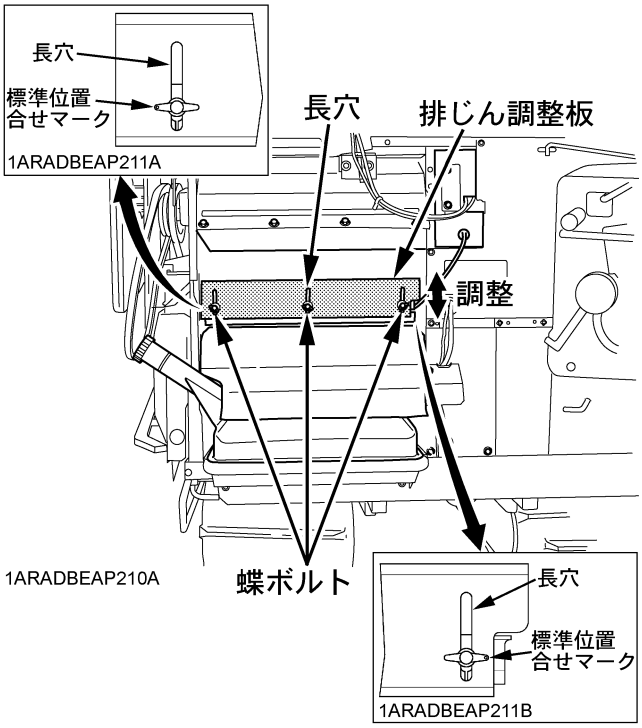
1. カッタをオープンします。(140 ページ参照)
2. 蝶ボルト３個をゆるめます。

補　足

＊ 出荷時は，左・右の長穴横にある**標準位置合せマーク**位置に蝶ボルトで締付けています。

3. 排じん調整板を動かして調整します。

調節方向	現　象（状　態）
上 ↑ [標準] ↓ 下	● 排じんロスが多い
	● ぬれ作物の刈取り ● 雑草が多い ● 能率を上げる（高速刈取り）



4. 蝶ボルト３個を締付けて，カッタを閉じます。

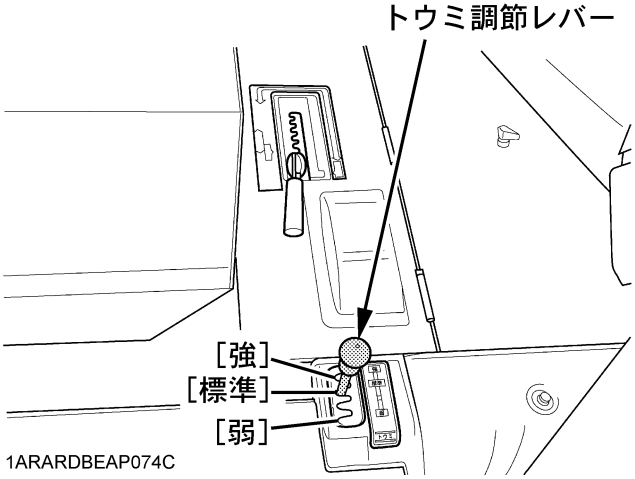
● トウミ（風力）とチャフ（選別板のすき間）の開度の調節

[DX 仕様]

作物に合わせ，表を参照してトウミ切換えレバー及びチャフ切換えレバーで調節してください。

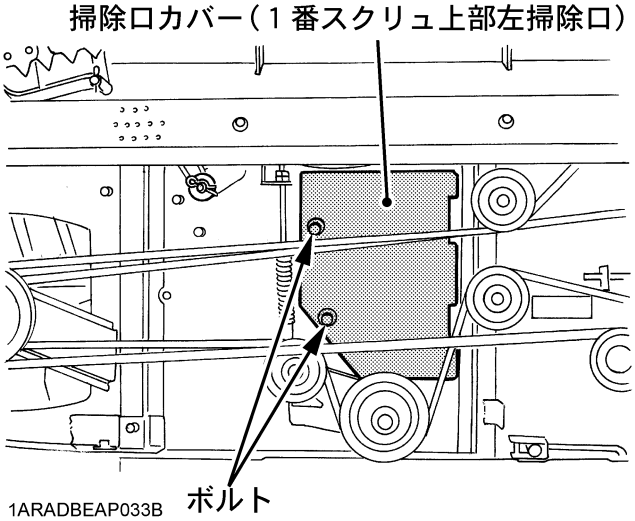
[トウミ調節]
トウミ調節レバー

調節方向	現　象（状　態）
[強] ⬆ **[標準]** ⬇ **[弱]**	● 選別が悪い
	● 排じんロス（もみの飛散）が多い



[チャフ（選択板のすき間）調節]

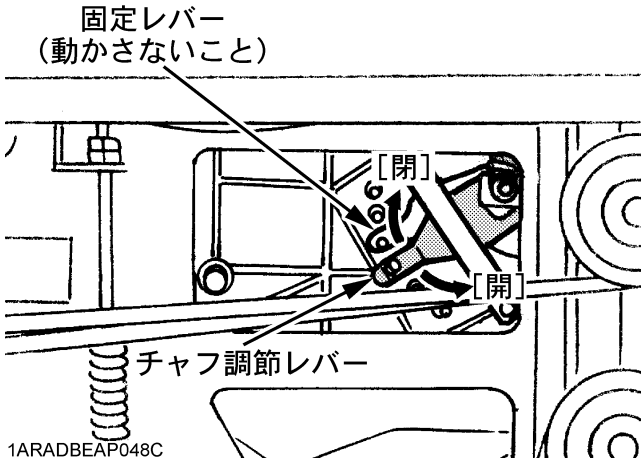
1. 左サイドカバー上，下を取外します。
2. ボルト２個を取外して１番スクリュ上部左掃除口の掃除口カバーを外します。



3. チャフ調節レバーで調節します。調節を行なうときは，必ずチャフ調節レバーで行なってください。このとき，固定用レバーは動かさないでください。

チャフ調節レバー

調整方向	現象（状態）
[開] ⬆ **[標準]** ⬇ **[閉]**	● 排じんロス（もみの飛散）が多い ● 脱ぷが多い
	● 選別が悪い ● 小枝梗が多い



補　足

＊ チャフの調節は，脱こく機内にこく粒が残っていないときに行なってください。
＊ チャフ（選別板のすき間）はもみの量により自動開閉するようになっていますが，選別をさらに良くしたい場合は作物の脱こく状態に合わせて調節を行なってください。

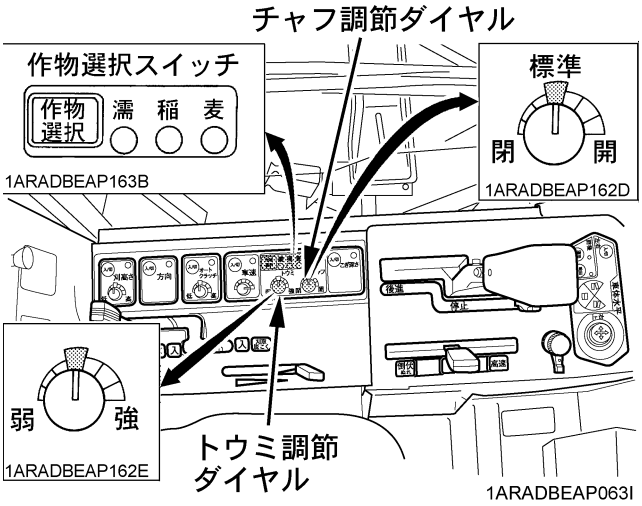
4. 掃除口カバーをボルトで締付けたあと，左サイドカバー（上，下）を取付けます。

[DX 仕様]

［SD 仕様］

［自動脱こく制御装置］

作物に合わせて作物選択スイッチで**［濡］／［稲］／［麦］**を設定したあと，下表を参照してトウミ調節ダイヤル（トウミ風力）及びチャフ調節ダイヤル（チャフの開度）で調節してください。



トウミ調節ダイヤル

調節方向	現　象（状　態）
［強］ ⬆ **［標準］** ⬇ **［弱］**	● 選別が悪い
	● 排じんロス（もみの飛散）が多い

チャフ調節ダイヤル

調節方向	現　象（状　態）
［開］ ⬆ **［標準］** ⬇ **［閉］**	● 排じんロス（もみの飛散）が多い ● 脱ぷが多い
	● 選別が悪い ● 小枝梗が多い

補　足

＊ 作物選択スイッチを**［濡］**位置に設定すると，チャフの開度は全開位置に固定されます。また，トウミ風力も最強位置で固定されます。

［SD 仕様］

■メータユニットによる異常と処置

[DX 仕様]

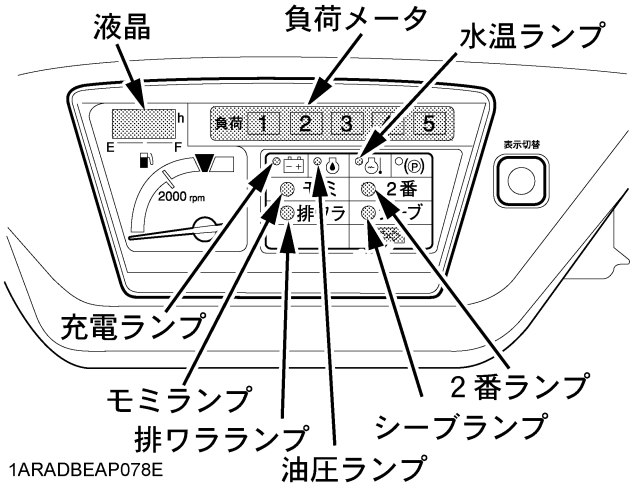
警 告

＊ 各部の点検やわら詰まりを取除くときは，エンジンを必ず止めてください。
＊ 各搬送チェーンやカッタ刃には注意してください。ケガをするおそれがあります。

注 意

＊ エンジン停止直後は，エンジンにさわったり，ラジエータキャップを開けないでください。ヤケドをするおそれがあります。
＊ 取外したカバー類は，必ず取付けてください。

メータユニットに警報が表示されたときは，下表を参照して処置してください。



警報の種類	警報		警報ブザー（吹鳴時間）	現象	処置	参照ページ
	液晶表示	ランプ/メータ表示				
燃料警報	残り１目盛が点滅	—	○ 断続 （約５秒後停止）	・燃料が少なくなっています。 ・そのまま作業を続けると… **［エンジンが停止します。］**	・燃料を補給します。	177
油圧警報	—	油圧ランプ点滅	○ 断続 （処置後停止）	・エンジンオイルの圧力が不足しています。 ・そのまま作業を続けると… **［エンジンが焼付きを起こし停止します。］**	・エンジンを停止後，オイル量を点検します。 ・オイルドレーンゴムホースの点検と処置をします。 ・バンドの増締めをします。 ・購入先へ連絡してください。	178 189 189 －

警報の種類	警報		警報ブザー（吹鳴時間）	現象	処置	参照ページ
	液晶表示	ランプ/メータ表示				
水温警報	水温ランプが点灯すると同時に，液晶目盛が全て点滅	水温ランプ点灯	○ 断続 （処置後停止）	・エンジンの冷却水温が上昇しています。 ・そのまま作業を続けると… **［エンジンが焼付きを起こし停止します。］**	・エンジンを停止し，30分以上たってから点検と処置をします。 ①冷却水量の点検 不足……ラジエータ・リザーブタンクに清水を補給 水もれ…排水プラグ・ラジエータホースのバンドを増締め ②ファン駆動ベルトの点検 ゆるみ……張り調整 破損など…交換・調整 ③防じんあみ・ラジエータフィンの点検 汚れ・詰まり…掃除して取除く ・購入先へ連絡してください。	185 185，189 204 204 190 ―
充電警報	―	充電ランプ点灯	○ 断続 （約５秒後停止）	・バッテリに充電されていません。 ・そのまま作業を続けると… **［バッテリ上りとなり，エンジンの始動ができなくなります。］**	・エンジンを停止後，点検と処置をします。 ①ファン駆動ベルトの点検 ゆるみ……張り調整 破損など…交換・調整 ②バッテリ 電圧低下…充電 ・バッテリを充電してもエンジンが始動しないときは，交換してください。	204 204 235
負荷警報	―	負荷メータ全ランプが点滅	○ 断続 （処置後停止）	・エンジンや脱こく部に負担がかかっています。 ・そのまま作業を続けると… **［エンジンが停止します。］**	・作業速度を落としてください。 ・作業条件に合った調節や調整を行なってください。	12，90 99，116 ―
もみ満杯警報	―	モミランプ点灯	○ 断続 （処置後停止又は，表示切換えスイッチを押すと停止）	・グレンタンク内のもみが満杯です。 ・そのまま作業を続けると… **［グレンタンクからもみがあふれます。又は，１番スクリュが詰まります。］**	・刈取作業を中止し，もみを排出します。	100 ―
２番警報	―	２番ランプ点灯	○ 断続 （処置後停止）	・１番縦スクリュケース内又は，２番処理胴（ツースバー），２番縦スクリュケース内が詰まっています。 ・そのまま作業を続けると… **［ベルトの焼付きやベルト切れとなります。］**	・１番縦スクリュケース又は，２番処理胴（ツースバー），２番縦スクリュケースを掃除します。	152 ―

警報の種類	警報		警報ブザー（吹鳴時間）	現象	処置	参照ページ
	液晶表示	ランプ/メータ表示				
シーブ警報	—	シーブランプ点灯	○ 断続 （処置後停止）	・シーブケース上に詰まりが発生しています。 ・刈取量が処理能力をこえています。 ・そのまま作業を続けると… **［ロスや損傷米が増えたり，２番詰まりが発生します。］**	・刈取作業を中止し，脱こく部を空運転します。 ⬇ ・チャフ調節レバーを開方向に調節します。（チャフのすき間を開く） ⬇ ・チャフの調節が全開位置でもシーブ警報が出たときは，作業速度を落とします。	12，21，90 116 －
詰まり各警報	自動的にエンジンが停止すると同時に表示します。⬇			・わら詰まりをしています。	・異常の原因（詰まり）を取除いて復帰します。	－
排ワラ詰まり警報	—	排ワラランプ点灯	○ 断続 （処置後又は，メインスイッチ**［切］**で停止）	・フィードチェーン終端部にわらが詰まっています。	・こぎ胴をオープンして，フィードチェーン終端部のわらを取除きます。	132，250
				・カッタ部にわらが詰まっています。 **◆［結束機仕様の場合］** ・結束機のひもなし・ひも切れです。 ・結束機の結節部にわらやひもが巻付いています。また，結束部にわらが詰まっています。	・排わらの切換えカバーを開いて，わらを取除きます。 ・新しいひものセット・ひもの再セットをします。 ・わらやひもを取除きます。	250 － （※）

※結束機仕様は，別冊の結束機の取扱説明書を参照してください。

重　要

＊ 処置したあとに異常が直らないときは，購入先へ連絡してください。

［DX 仕様］

■エアロナビによる異常と処置

[SD 仕様]

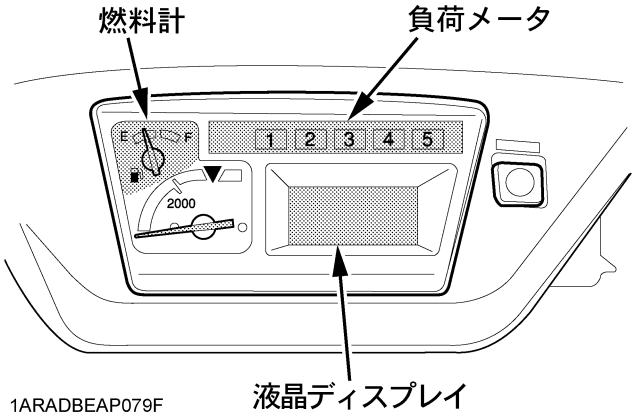
警 告

＊ 各部の点検やわら詰まりを取除くときは，エンジンを必ず止めてください。
＊ 各搬送チェーンやカッタ刃には注意してください。ケガをするおそれがあります。

注 意

＊ エンジン停止直後は，エンジンにさわったり，ラジエータキャップを開けないでください。ヤケドをするおそれがあります。
＊ 取外したカバー類は，必ず取付けてください。

エアロナビの液晶ディスプレイに警報が表示されたときは，下表を参照して処置してください。



1ARADBEAP079F

警報の種類	液晶表示（液晶ディスプレイ） 異常内容（表示時間）	液晶表示（液晶ディスプレイ） 処置内容	警報ブザー（吹鳴時間）	現象	処置	参照ページ
燃料警報	燃料を給油 （約 5 秒後消灯）		○ 断続 （約 5 秒後停止）	・燃料が少なくなっています。 ・そのまま作業を続けると… **[エンジンが停止します。]**	・燃料を補給します。	177
油圧警報	エンジン油圧異常 （処置後消灯）	－	○ 断続 （処置後停止）	・エンジンオイルの圧力が不足しています。 ・そのまま作業を続けると… **[エンジンが焼付きを起こし停止します。]**	・エンジンを停止後，オイル量を点検します。 ・オイルドレーンゴムホースの点検と処置をします。 ・バンドの増締めをします。 ・購入先へ連絡してください。	178 189 189 －

警報の種類	液晶表示（液晶ディスプレイ） 異常内容（表示時間）	液晶表示（液晶ディスプレイ） 処置内容	警報ブザー（吹鳴時間）	現象	処置	参照ページ
オーバヒート警報	⬅交互に表示➡ オーバーヒート （処置後消灯）	アイドリングに	○ 断続 （処置後停止）	・エンジンの冷却水温が上昇しています。	・**［アイドリング］**を表示すると… アクセルレバーを操作して，エンジン回転数を**最低回転**位置にします。	11
	⬅交互に表示➡ オーバーヒート （処置後消灯）	冷却後点検			・**［冷却後点検］**を表示すると… エンジンを停止し，30 分以上たってから点検と処置をします。	185
	⬅交互に表示➡ オーバーヒート （処置後消灯）	エンジンを停止する ↕ 冷却後点検			・**［エンジンを停止する］⟷［冷却後点検］**を表示すると… エンジンを**直ちに停止**し，30 分以上たってから点検と処置をします。	185
					・**点検と処置** (1) 冷却水量の点検 不足……ラジエータ・リザーブタンクに清水を補給 水もれ…排水プラグ・ラジエータホースのバンドを増締め (2) ファン駆動ベルトの点検 ゆるみ……張り調整 破損など…交換・調整 (3) 防じんあみ・ラジエータフィンの点検 汚れ・詰まり…掃除して取除く	185 185, 189 204 204 190
				・そのまま作業を続けると.. **［エンジンが焼付きを起こし停止します。］**	・購入先へ連絡してください。	－
充電警報	充電系異常 （処置後消灯）	－	○ 断続 （処置後停止）	・バッテリに充電されていません。	・エンジンを停止後，点検と処置をします。 (1) ファン駆動ベルトの点検 ゆるみ……張り調整 破損など…交換・調整 (2) バッテリ 電圧低下…充電	 204 204 235
				・そのまま作業を続けると… **［バッテリ上りとなり，エンジンの始動ができなくなります。］**	・バッテリを充電してもエンジンが始動しないときは，交換してください。	235
負荷警報	⬅交互に表示➡ 負荷 （処置後消灯）	速度を落とす	○ 断続 （処置後停止）	・エンジンや脱こく部に負担がかかっています。	・作業速度を落としてください。 ・作業条件に合った調節や調整を行なってください。	12,90 99,116
				・そのまま作業を続けると… **［エンジンが停止します。］**		－

警報の種　類	液晶表示（液晶ディスプレイ） 異常内容（表示時間）	液晶表示（液晶ディスプレイ） 処置内容	警報ブザー（吹鳴時間）	現　　象	処　　置	参照ページ
もみ満杯警報	モミ満杯 （処置後消灯）	－	○ 断続 （処置後停止又は，表示切換えスイッチを押すと停止）	・グレンタンク内のもみが満杯です。 ・そのまま作業を続けると… **［グレンタンクからもみがあふれます。又は，１番スクリュが詰まります。］**	・刈取作業を中止し，もみを排出します。	100 －
２番警報	⬅交互に表示➡ ２番　詰まりを取り除く （処置後消灯）		○ 断続 （処置後停止）	・１番縦スクリュケース内又は，２番処理胴（ツースバー），２番縦スクリュケース内が詰まっています。 ・そのまま作業を続けると… **［ベルトの焼付きやベルト切れとなります。］**	・１番縦スクリュケース又は，２番処理胴（ツースバー），２番縦スクリュケースを掃除します。	152 －
浮きわら警報	⬅交互に表示➡ こぎ深さ　穂先センサ点検 （処置後消灯）		○ 断続 （処置後停止）	・浮きわらや雑草が，穂先センサに長時間接触しています。 ・自動制御が困難なとき。 ・そのまま作業を続けると… **［選別不良となります。］**	・穂先センサを点検し，浮きわらや雑草を取除きます。 ・自動こぎ深さ制御を解除し（切換えスイッチ**【切】**位置），手動で操作を行なってください。	37 36 －
シーブ警報	⬅交互に表示➡ シーブ　速度を落とす （処置後消灯）		○ 断続 （処置後停止）	・シーブケース上に詰まりが発生しています。 ・刈取量が処理能力をこえています。 ・そのまま作業を続けると… **［ロスや損傷米が増えたり，２番詰まりが発生します。］**	・作業速度を落とします。 ⬇ ・作業速度を落としても表示が消えないときは，チャフ調節ダイヤルを右（開）方向いっぱいまで回します。（チャフのすき間を全開） ⬇ ・刈取作業を中止し，脱こく部を空運転します。	12, 39, 90 23, 109 －
詰まり各警報	自動的にエンジンが停止すると同時に表示します。⬇			・わら詰まりをしています。	・異常の原因（詰まり）を取除いて復帰します。	－

警報の種　類	液晶表示（液晶ディスプレイ） 異常内容（表示時間）	処置内容	警報ブザー（吹鳴時間）	現　　象	処　　置	参照ページ
排ワラ詰まり警報	⬅交互に表示➡ 排ワラ （処置後消灯）	詰まりを取り除く	○ 断続（処置後又は，メインスイッチ**【切】**で停止）	・フィードチェーン終端部にわらが詰まっています。	・こぎ胴をオープンして，フィードチェーン終端部のわらを取除きます。	132，250
カッタ詰まり警報	⬅交互に表示➡ カッタ （処置後消灯）	詰まりを取り除く		・カッタ部にわらが詰まっています。 **◆【結束機仕様の場合】** ・結束機のひもなし・ひも切れです。 ・結束機の結節部にわらやひもが巻付いています。また，結束部にわらが詰まっています。	・排わら切換えカバーを開いて，わらを取除きます。 ・新しいひものセット・ひもの再セットをします。 ・わらやひもを取除きます。	250 －（※）

※結束機仕様は，別冊の結束機の取扱説明書を参照してください。

【SD 仕様】

■エアロナビによる故障と処置

[SD 仕様]

故障が発生すると，液晶表示部に異常内容のみの表示と，故障しても応急的に手動操作可能な場合に，異常内容と処置内容を交互に表示します。故障が発生したときは，必ず購入先に連絡して処置してください。

1. 異常内容と処置内容を交互に表示した場合

液晶表示（液晶ディスプレイ） 交互に表示 異常内容 ⟷ 処置内容		異常内容	処置	参照ページ
車速 VR 異常	車速自動切に	車速制御がはたらきません。	主変速レバーの操作で作業を続けて行なうことができます。また，異常の表示は車速自動スイッチを**【切】**（ランプ消灯）にすると，通常表示に切換わります。	12, 31
モンロ左前異常	水平自動切に	水平制御が故障しています。	手動操作で機体を下限にして作業を続けて行なうことができます。また，異常の表示は水平自動スイッチを**【切】**（ランプ消灯）にすると，通常表示に切換わります。	33
モンロ左後異常	水平自動切に			
モンロ右前異常	水平自動切に			
モンロ右後異常	水平自動切に			
ローリングセンサ異常	水平自動切に			
ピッチングセンサ異常	水平自動切に			
オートクラッチVR異常	標準設定で作動中	刈取オートクラッチの停止位置の調節ができません。	作業を続けて行なうことができます。このとき，刈取オートクラッチの停止位置は標準位置ではたらきます。また，異常の表示は表示切換えスイッチを押すと，通常表示に切換わります。	39
刈高レバー VR 異常	微調 SW で操作	SF ワンレバーを操作しても刈取部が昇降しません。	刈高微調整スイッチで刈取部の昇降操作を行なうことができます。また異常の表示は表示切換えスイッチを押すと，通常表示に切換わります。	14
方向レバー VR 異常	微調 SW で操作	SF ワンレバーを左，右に操作しても機体の操向操作ができません。	方向微調整スイッチを旋回方向に押しながらSFワンレバーを旋回方向に倒すと機体は旋回しますが，購入先に連絡して処置してください。また，異常の表示は表示切換えスイッチを押すと，通常表示に切換わります。	14

液晶表示（液晶ディスプレイ） 交互に表示 異常内容 ⟷ 処置内容		異常内容	処置	参照ページ
オーガ位置異常	手動レバーで操作	アンローダ自動旋回制御が故障しています。	アンローダレバーの操作で作業を続けて行なうことができますが，運転席の上部（頭上）に注意してください。また，異常の表示は表示切換えスイッチを押すと，通常表示に切換わります。	41
チャフＶＲ異常	標準設定で作動中	チャフ調節ができません。	作業を続けて行なうことができますが，選別やロスに注意してください。また，異常の表示は表示切換えスイッチを押すと，通常表示に切換わります。	39
トウミＶＲ異常	標準設定で作動中	トウミ調節ができません。		

2. 異常内容のみの表示の場合

液晶表示（液晶ディスプレイ） 異常内容	異常内容	処置	参照ページ
エンジン回転異常	車速制御及び，負荷警報制御が故障しています。	主変速レバーの操作で作業を続けて行なうことができますが，刈取速度に注意してください。また，異常の表示は車速自動スイッチを**［切］**（ランプ消灯）にし，表示切換えスイッチを押すと，通常表示に切換わります。	12，31
ファンセンサ異常 ファン作動異常	ラジエータの逆転ファンが作動しません。 **［338・438・445］**	直ちに購入先に連絡して処置してください。	—
シフトレバーSW異常	主変速レバーのスイッチに異常が発生しています。	作業を続けて行なうことができます。 また異常の表示は表示切換えスイッチを押すと，通常表示に切換わります。	23
旋回センサ異常 旋回作動異常	機体の操向操作ができません。	直ちに購入先に連絡して処置してください。	—
刈取位置異常	刈取オートクラッチがはたらきません。	SFワンレバーの操作で作業を続けて行なうことができます。刈高さに注意してください。また，異常の表示は刈取オートクラッチ切換えスイッチを**［切］**（ランプ消灯）にすると，通常表示に切換わります。	13，39

液晶表示（液晶ディスプレイ） 異常内容	異常内容	処置	参照ページ
コギ深センサ異常	こぎ深さ制御が故障しています。	手動こぎ深さスイッチの操作で作業を続けて行なうことができますが，こぎ深さに注意してください。また，異常の表示は表示切換えスイッチを押すと，通常表示に切換わります。	36，37
水平作動異常 水平ユニット異常	水平制御が故障しています。	直ちに購入先に連絡して処置してください。	—
脱こくＳＷ異常	脱こくスイッチに異常が発生しています。	作業を続けて行なうことができますが，２番スクリュに詰まりが発生しても警報（２番警報）が鳴りませんので注意してください。また，異常の表示は表示切換えスイッチを押すと，通常表示に切換わります。	39
チャフセンサ異常 チャフ作動異常	脱こく制御が故障しています。	直ちに購入先に連絡して処置してください。	—
シーブセンサ異常	シーブセンサが故障しています。	作業を続けて行なうことができますが，選別やロスに注意してください。異常の表示は表示切換えスイッチを押すと，通常表示に切換わります。	23

液晶表示 （液晶ディスプレイ） 異常 内容	異常内容	処置	参照 ページ
トウミセンサ 異常	脱こく制御が故障しています。	直ちに購入先に連絡して処置してください。	_
オーガ作動 異常	アンローダの昇降操作が行なえません。		
オーガユニット 異常			
油圧作動 異常	油圧装置が故障しています。		
パネルユニット 異常	マイコンに異常が発生しています。		
メータ・CU 通信異常			
CU・LU通信 異常			
LU1通信 異常			
LU2通信 異常			
LU3通信 異常			
機種設定 異常			
型式設定 異常			
微調データ 異常			
センサ電源 異常			

[SD 仕様]

各部のオープン（開閉）と脱着のしかた

警　告

＊ 平たんで安全な場所で，エンジンを必ず止めてから行なってください。
＊ 取外したカバー類は，必ず取付けてください。

注　意

＊ 傾斜地では，開閉や脱着を行なわないでください。

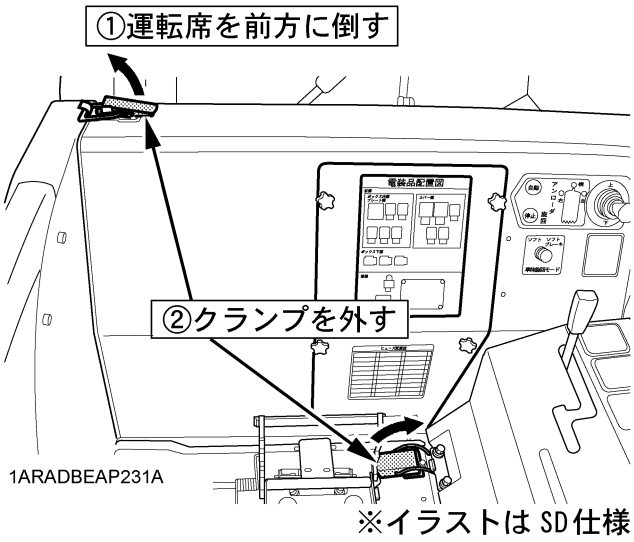
■エンジンルームオープン

[Q 仕様除く]

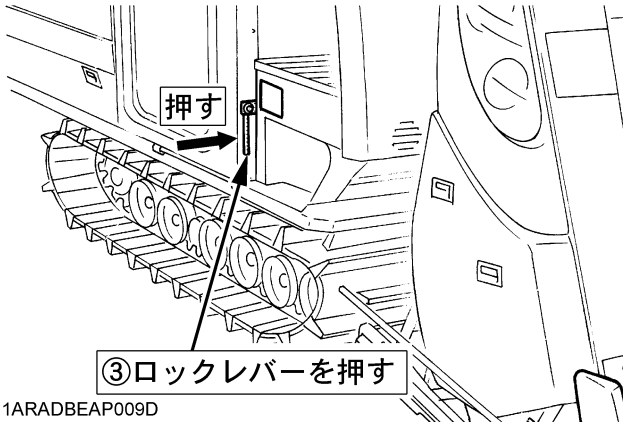
注　意

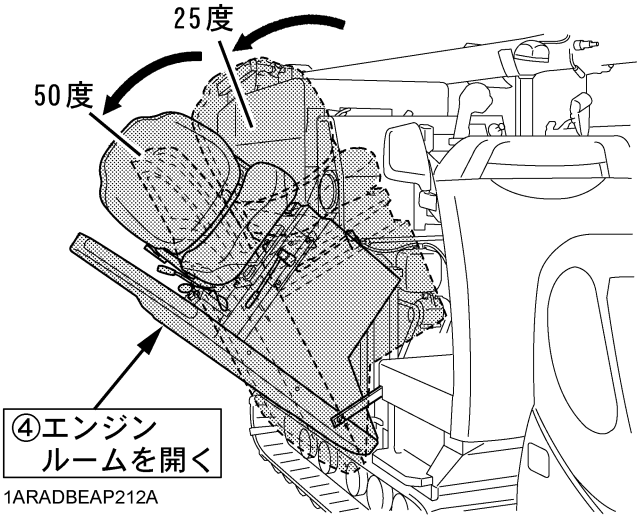
＊ オーバヒートなどでエンジンルームを開けて点検・整備するときは，次の手順に従ってください。
(1) 作業を中止する。
(2) エンジンを約 5 分間アイドリング回転で運転した後，エンジンを停止する。
(3) エンジン停止後 30 分以上経過してから開ける。
(4) 点検・整備で内部に触れるときは，ヤケドの危険性がないことを確認する。
＊ エンジンが冷えていないとき，エンジンルームを開けるとラジエータ部，リザーブタンク部などより熱湯が噴出し，あるいは高温部に接触してヤケドするおそれがあります。

◆開きかた



※イラストは SD 仕様





補　足

＊ エンジンルームは，25 度と 50 度の 2 段階開きます。25 度でいったん止まったあと，再度ロックレバーを押すと 50 度まで開きます。

◆閉じかた

エンジンルームを閉じたあと，2箇所のクランプをします。

重　要

＊ 閉じたときは，クランプで必ずロックしてください。

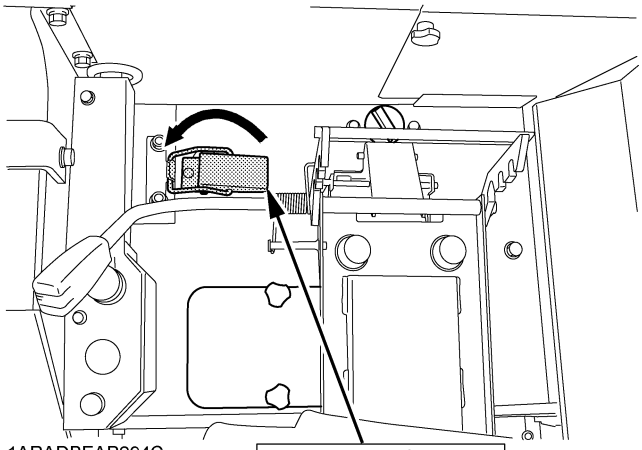
[Q 仕様除く]

■防じんカバーオープン

[Q 仕様]

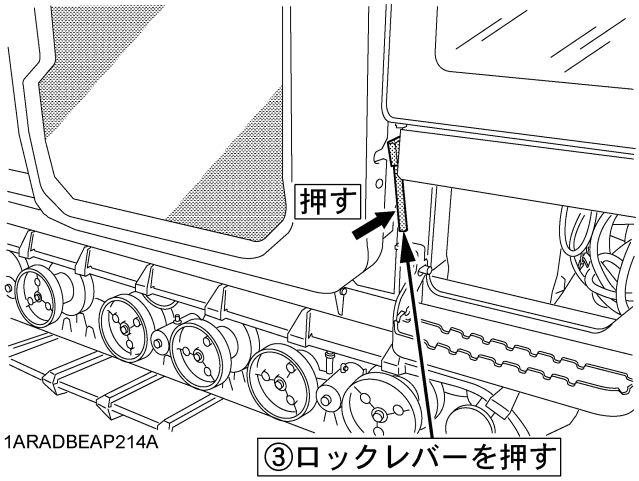
◆開きかた

①運転席を前方に倒す



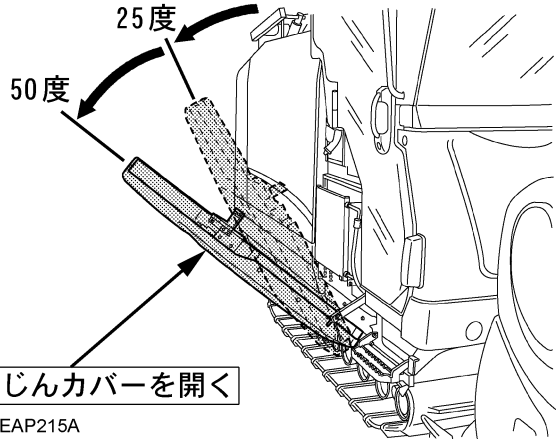
1ARADBEAP294C

②クランプを外す



1ARADBEAP214A

③ロックレバーを押す



④防じんカバーを開く

1ARADBEAP215A

重　要

＊ 防じんカバーの網の部分を押すと網が変形します。

補　足

＊ 防じんカバーは，25 度と 50 度の 2 段階開きます。25 度でいったん止まったあと，再度ロックレバーを押すと 50 度まで開きます。

◆閉じ方かた

防じんカバーを閉じたあと，クランプをします。

重　要

＊ 閉じたときは，クランプで必ずロックしてください。

[Q 仕様]

■運転席下カバーの脱着

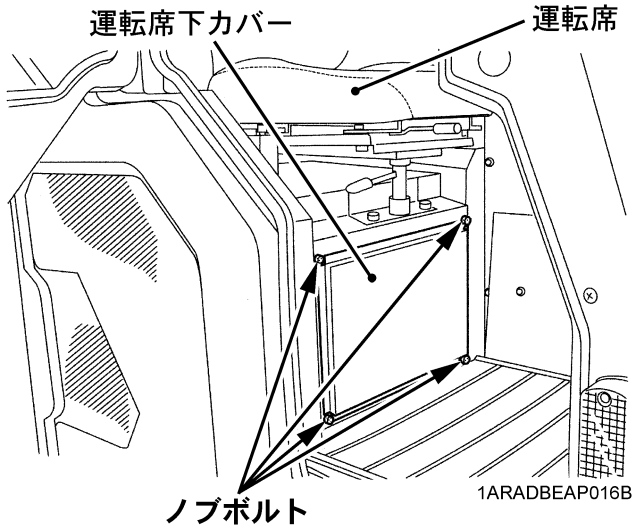
[Q 仕様]

注 意

＊ オーバヒートなどでエンジンルームを開けて点検・整備するときは，次の手順に従ってください。
(1) 作業を中止する。
(2) エンジンを約 5 分間アイドリング回転で運転した後，エンジンを停止する。
(3) エンジン停止後 30 分以上経過してから開ける。
(4) 点検・整備で内部に触れるときは， ヤケドの危険性がないことを確認する。
＊ エンジンが冷えていないとき，エンジンルームを開けるとラジエータ部，リザーブタンク部などより熱湯が噴出し，あるいは高温部に接触してヤケドするおそれがあります。

◆取外しかた

樹脂ボルト４本を外して取外します。



◆取付けかた

取外しかたと逆の手順で取付けます。

[Q 仕様]

■こぎ胴オープン

警 告

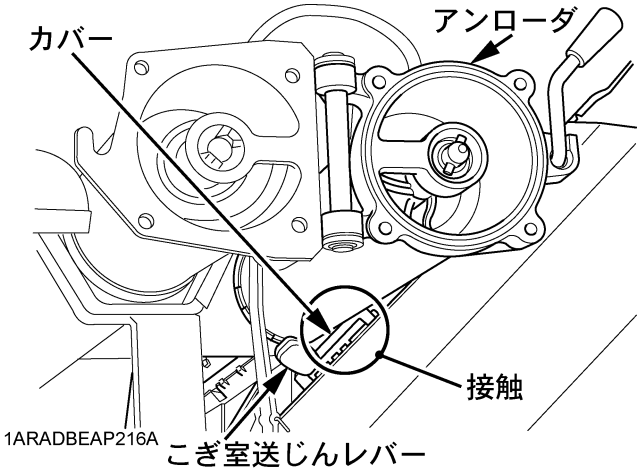
＊ 中でこぎ歯が高速で回転しているので接触するとケガをします。こぎ胴オープン するときは，エンジンを必ず止めてください。
＊ こぎ胴をオープンして，受あみの脱着やこぎ室の掃除をするときは，こぎ胴が落下して身体がはさまれるおそれがあるので，オープンストッパで必ず固定してください。

◆開きかた

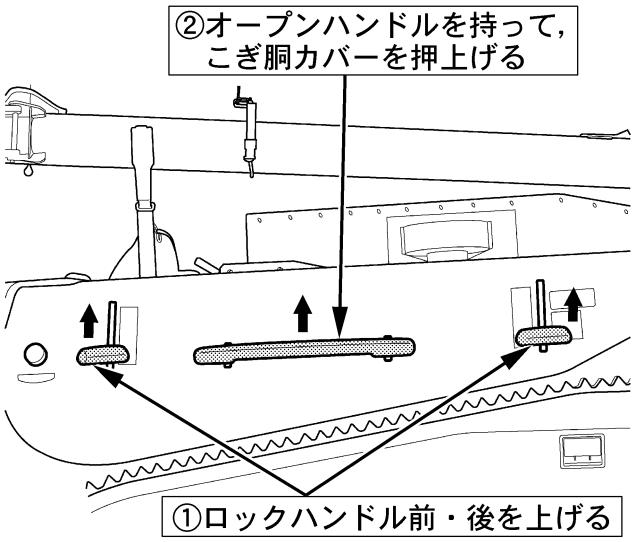
1. エンジンを始動し，アンローダを最上昇させたあと，エンジンを停止します。

重 要

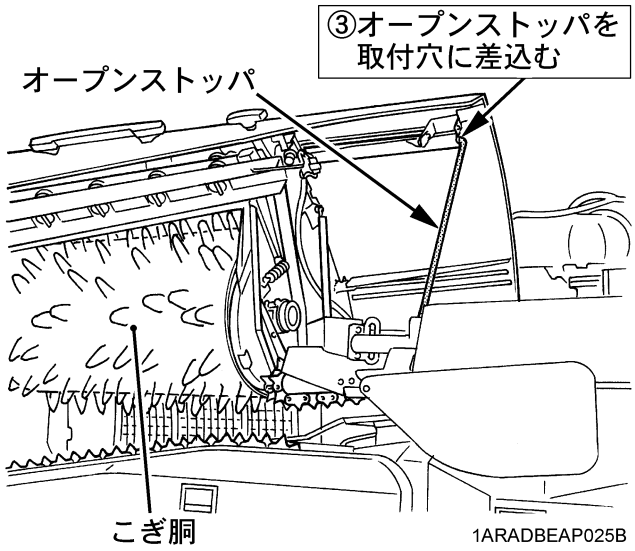
＊ アンローダが折りたたまれているときにこぎ胴をオープンすると，こぎ室送じんレバーのカバーがアンローダに接触し，変形するおそれがあります。



2. こぎ胴をオープンします。



1ARADBEAP217A



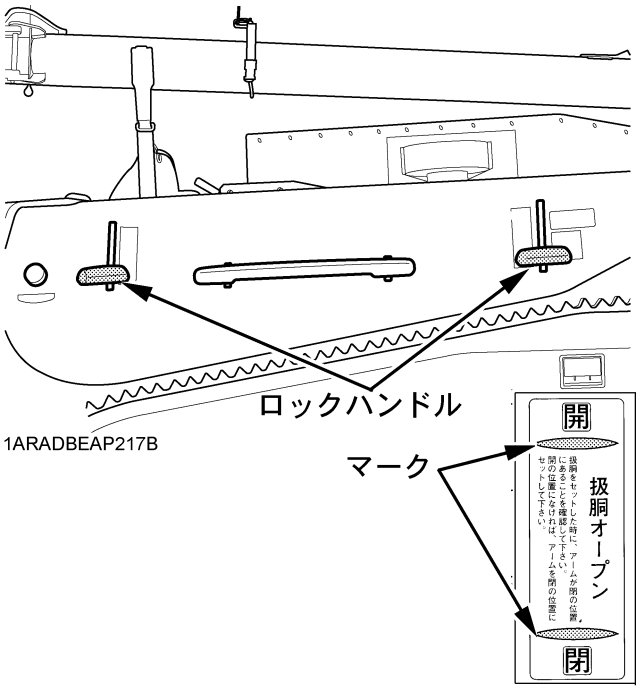
1ARADBEAP025B

◆閉じかた

1. オープンストッパを取付穴から外します。
2. オープンハンドルを持って，こぎ胴を押下げます。

重　要

＊ こぎ胴カバーを閉じたとき，ロックハンドル前，後の【⬭】マークが，ハンドル横の**【開】⟷【閉】**ラベルの**【閉】**の【⬭】マーク位置にあることを確認してください。**【閉】**の位置以外で作業を行なうと，こぎ室フレームが変形することがあります。



1ARADBEAP217B

3. アンローダを収納します。

■刈取オープン

警　告

- **＊ 刈取部をオープンするときは，平たんで安全な場所で，刈取部の昇降操作以外はエンジンを必ず止めて行なってください。**
- **＊ 取外したカバー類は，必ず取付けてください。**
- **＊ 傾斜地では，刈取部の開閉を行なわないでください。**
- **＊ 刈取部をオープンしたまま，走行しないでください。**
- **＊ 刈取オープンした状態で作業するときは，枕木などで刈取部の落下防止の歯止めをしてください。**

◆開きかた

1. **［M 仕様］**は機体を最下降位置まで下げます。

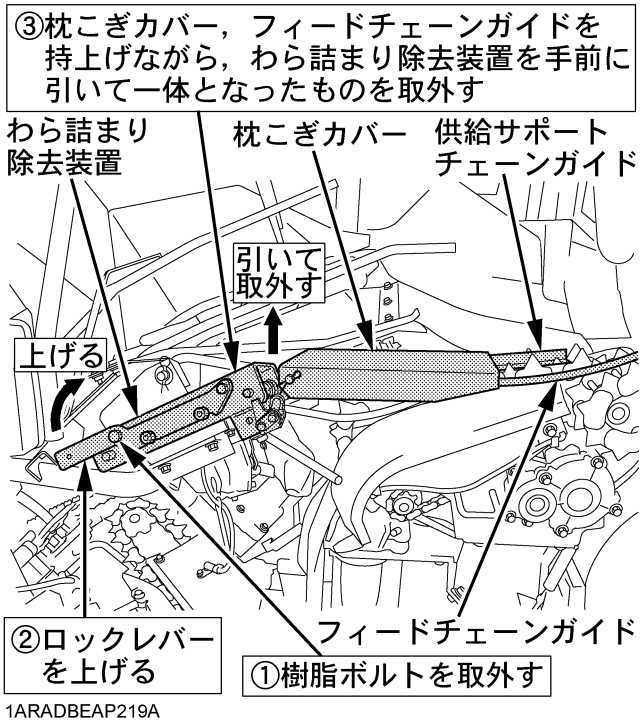


1ARADBEAP013O

※イラストは SD 仕様

2. 刈取部を地面まで降ろしたあと，エンジンを停止します。
3. こぎ胴をオープンしたあと，脱こく左サイドカバー上，下を取外します。
4. 左分草かん前を倒し，わら詰まり除去装置を取外します。

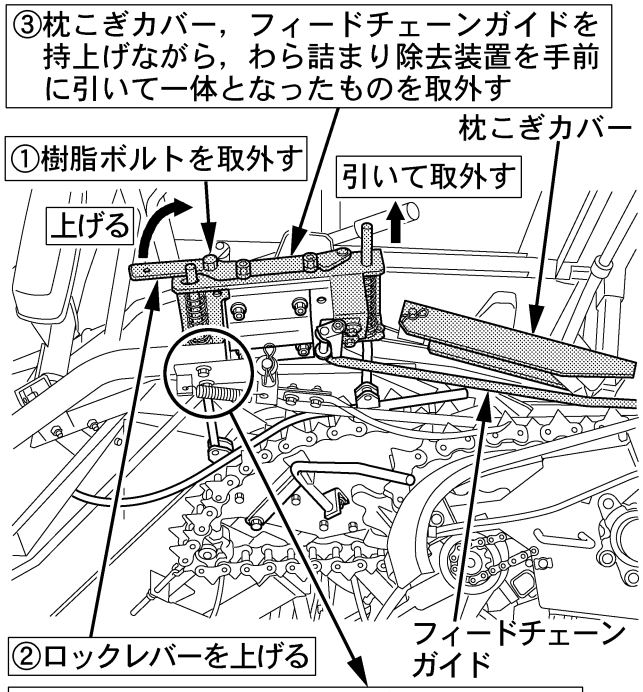
［327・331・338］

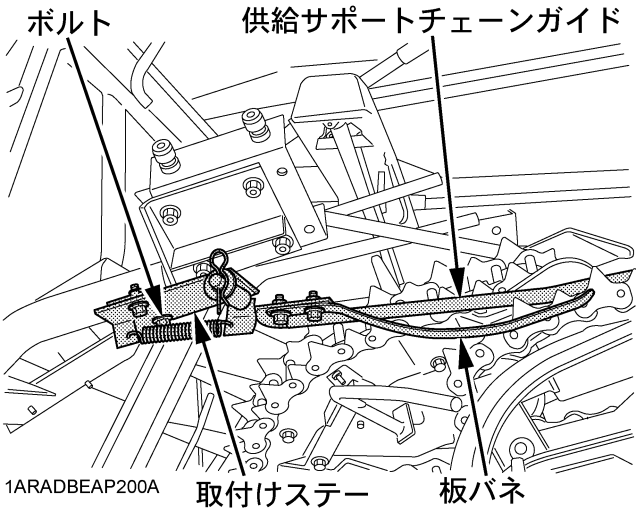


1ARADBEAP219A

［327・331・338］

[433・438・445]

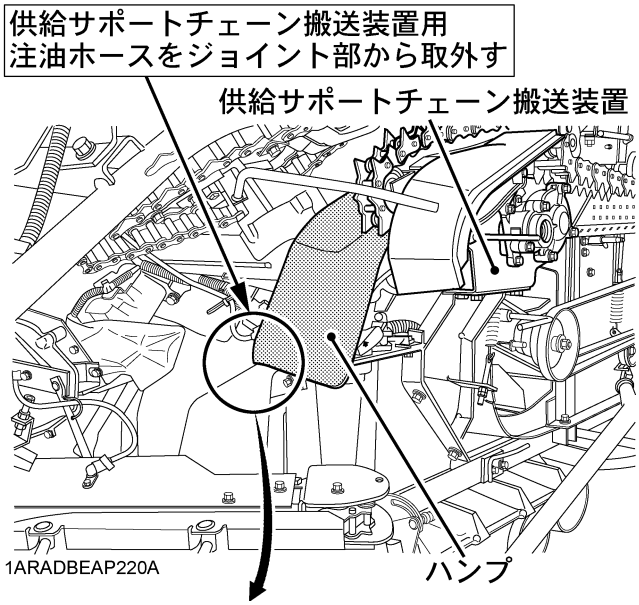


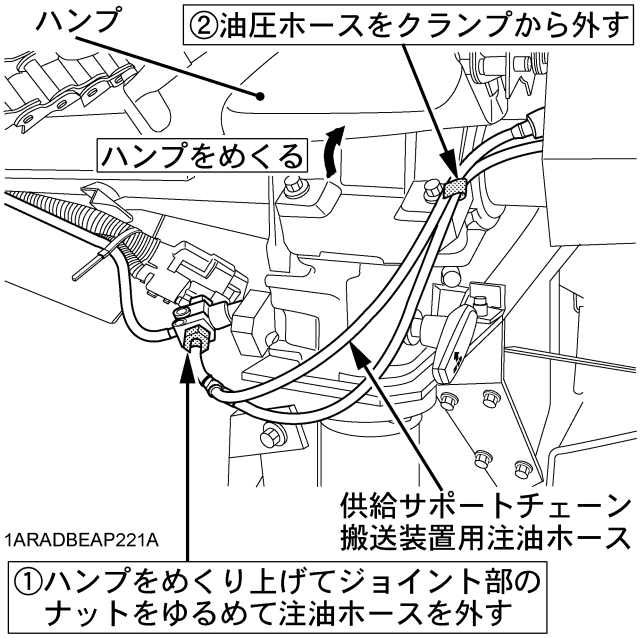


[433・438・445]

5. 供給サポートチェーン搬送装置を取外します。

[SD 仕様]





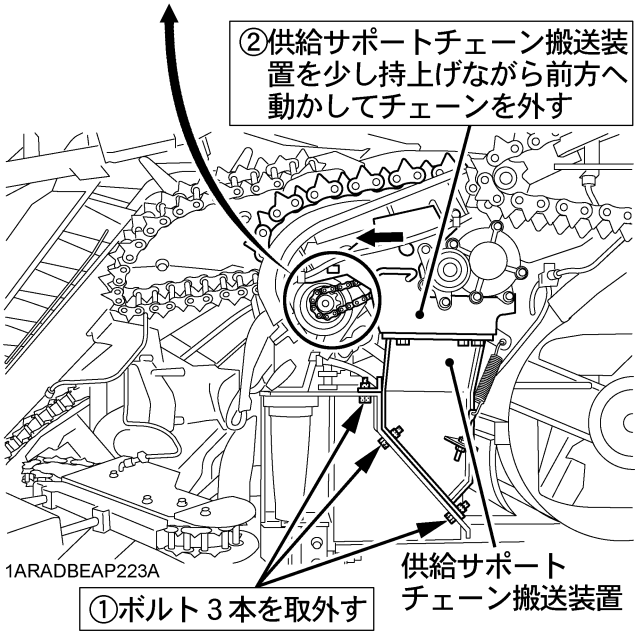
補　足

＊ 注油ホースを取外すとき，注油ホース内に残っているオイルがこぼれないようにしてください。また，オイルがこぼれたときは，ふき取ってください。

＊ 取外した注油ホースのナット部にゴミが付着すると，油もれの原因となりますので，供給サポートチェーン搬送装置を取外したあとはゴミが付着しないように注意してください。

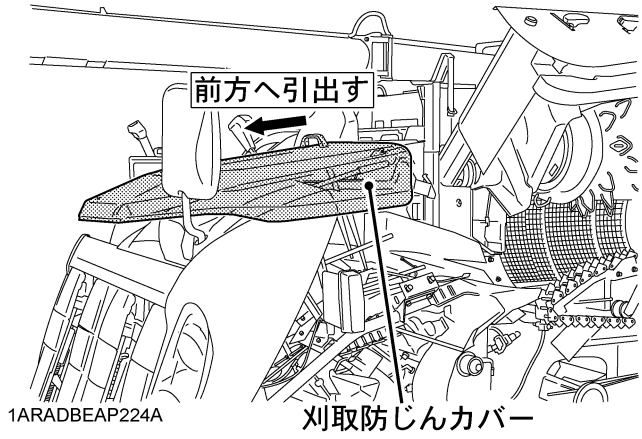
[SD 仕様]





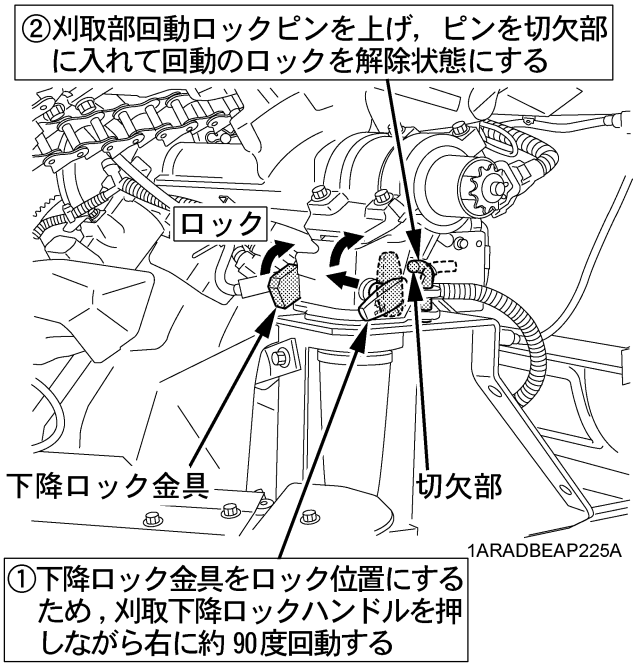
[SD 仕様]

6. 刈取防じんカバーを前方へ引出します。



[SD 仕様]

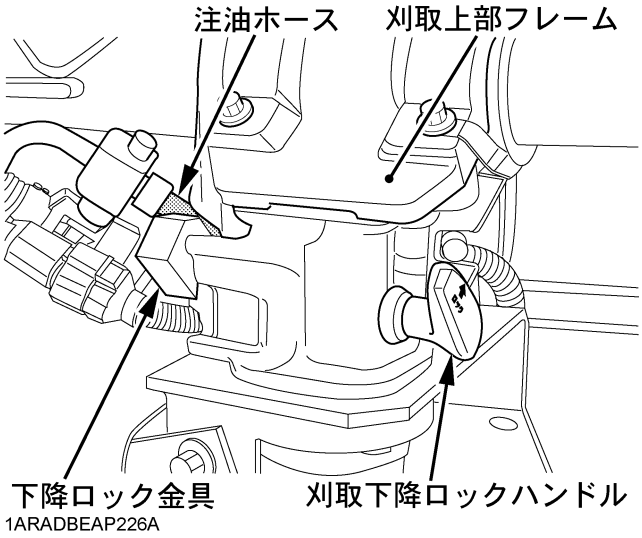
7. エンジンを始動したあと，刈取部を最上昇位置にします。
8. 刈取下降ロックハンドルをロック位置にします。



[SD 仕様]

補　足

＊ 下降ロック金具の上に注油ホースがあると，刈取下降ロックハンドルを回動すると下降ロック金具と刈取部フレームの間に注油ホースがはさまり，刈取下降ロックハンドルが**[ロック位置]**まで回動できません。



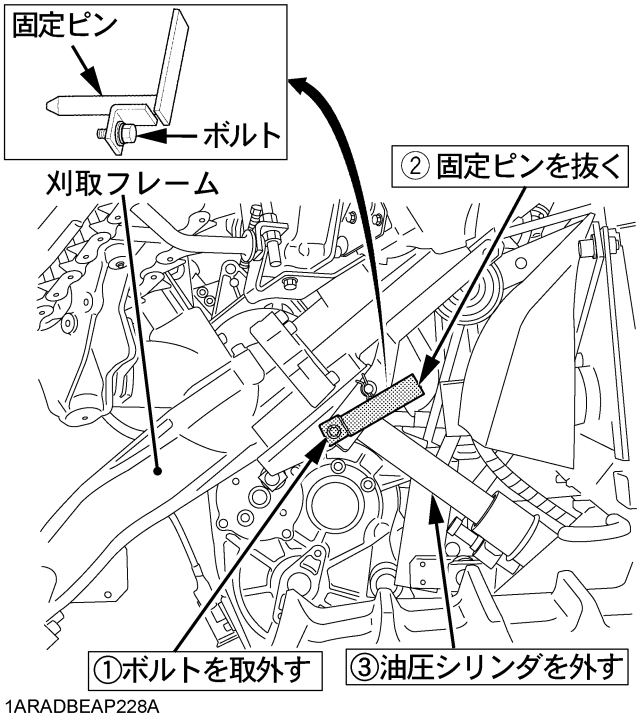
[SD 仕様]

9. SF ワンレバーで刈取部の下降が停止するまで下げます。このとき，下降が停止したあとも２～３秒間SFワンレバーを押さえ続けてからエンジンを停止します。

補　足

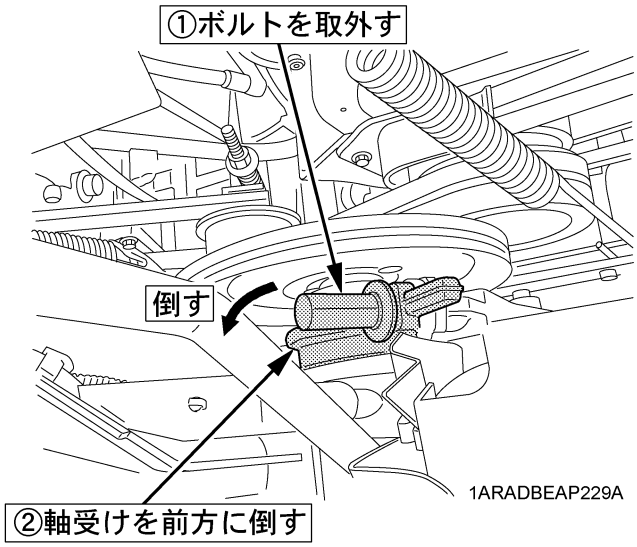
＊ 油圧シリンダの残圧が残っていると，閉じるときに刈取フレームと油圧シリンダの取付ピンの穴位置が合わなくなるおそれがあるため，２～３秒間は SF ワンレバーを押さえ続けてください。

10. 左分草かん前を収納状態にしたあと，スイッチキーを **[入]** 位置にし，手動こぎ深さスイッチでこぎ深さチェーンを最上昇（深こぎ側）位置にします。
11. 刈取フレームから油圧シリンダを外します。

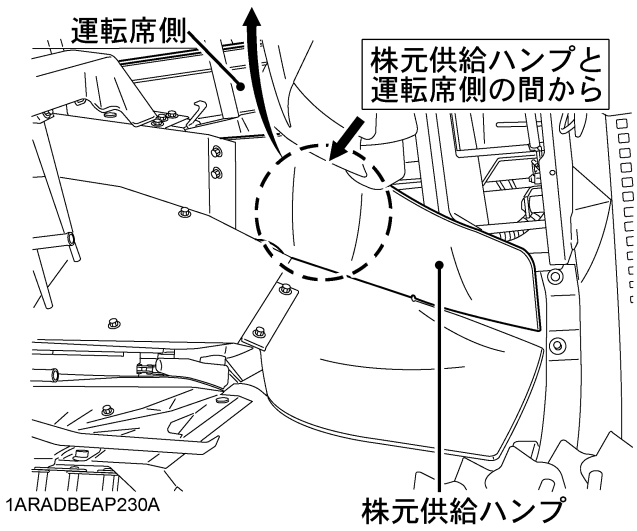


1ARADBEAP228A

12. 運転席左下側の本機と刈取部を固定している軸受けを前方に倒します。



1ARADBEAP229A

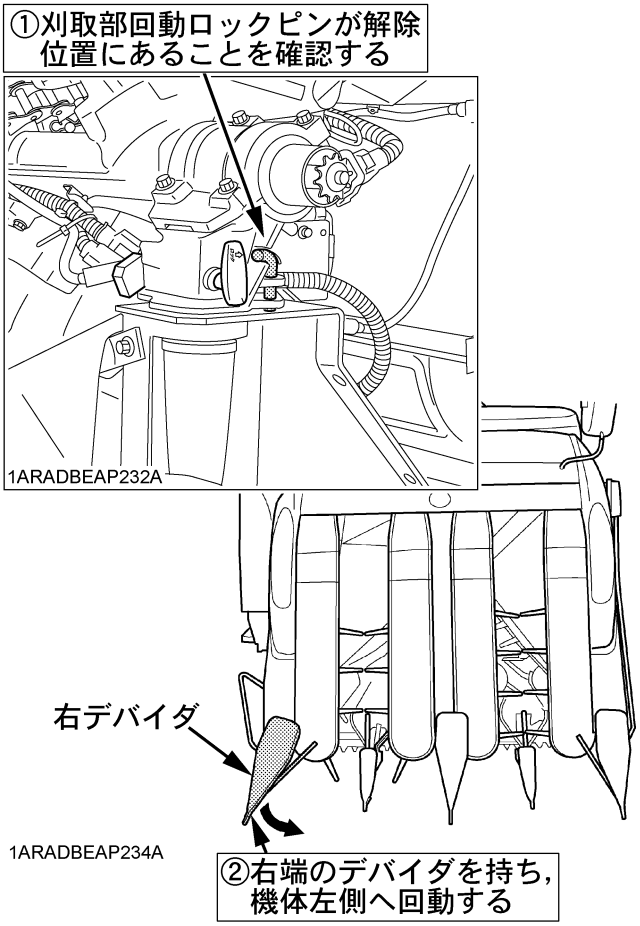


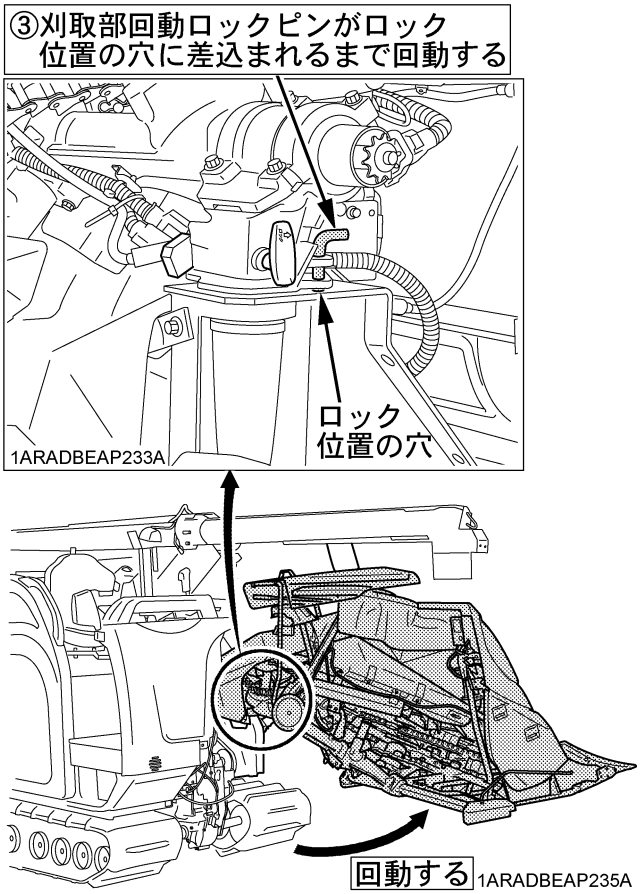
1ARADBEAP230A

補　足

＊ ボルトの取外し作業は，運転席左側からも行なえますが，使用する工具については，購入先に相談してください。

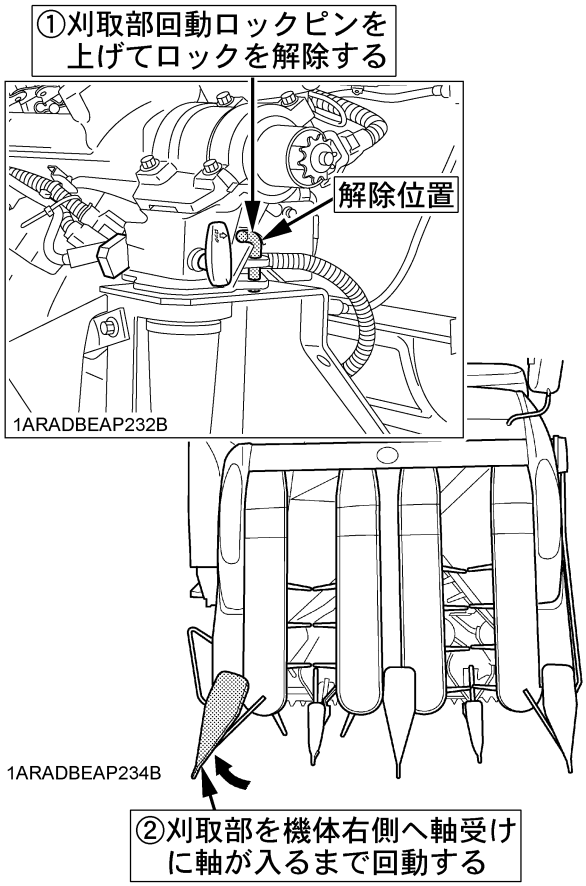
13. 刈取部をオープンします。





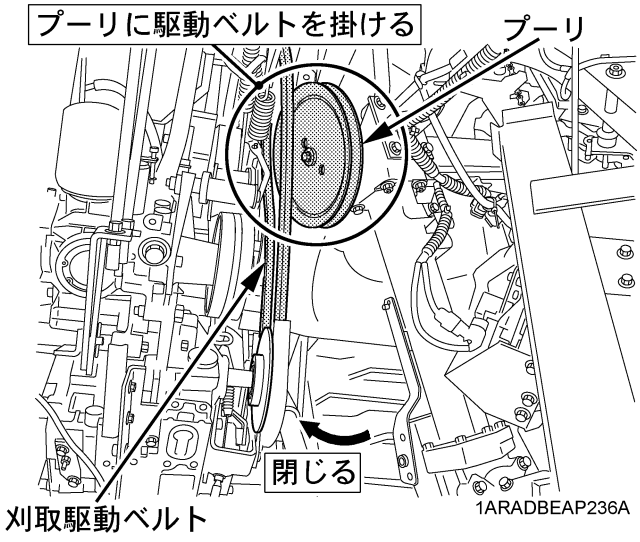
◆閉じかた

1. 刈取部を閉じます。

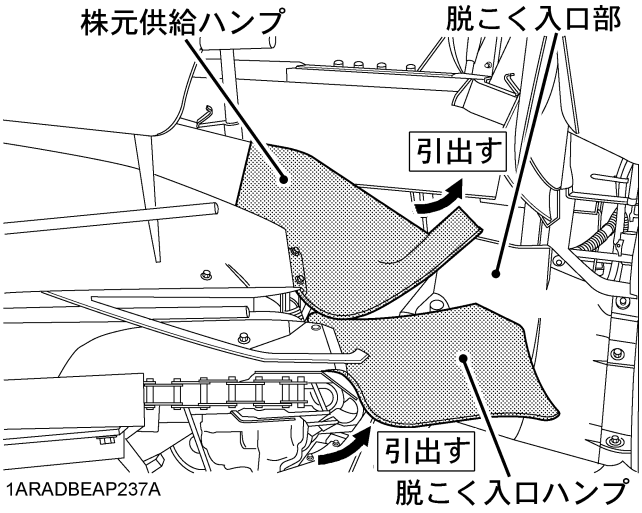


補　足

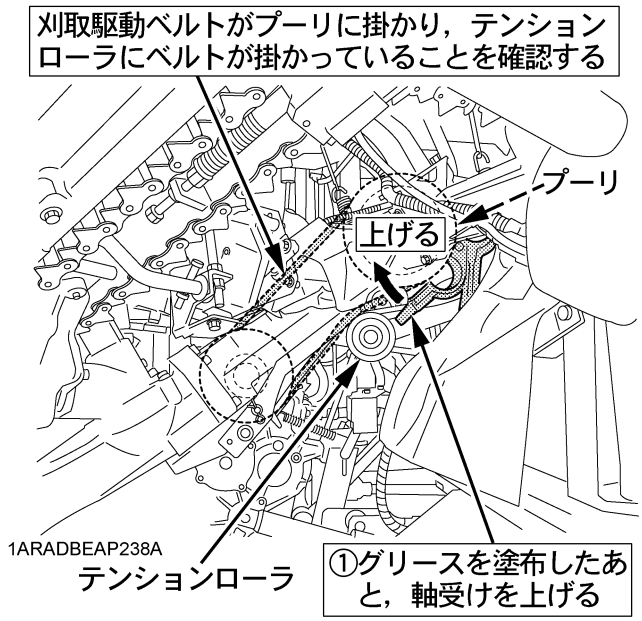
＊ 刈取部を閉じる前に刈取駆動ベルトをプーリに掛けながら閉じてください。



＊ 刈取部を閉じるとき，脱こく入口ハンプ及び株元供給ハンプが垂れ下がり脱こく入口部に挟まらないように引出してください。また，ハンプは脱こく入口ハンプの上に株元供給ハンプを重ねてください。

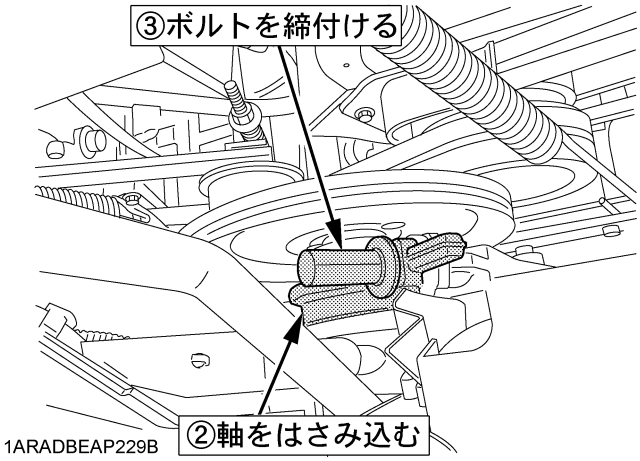


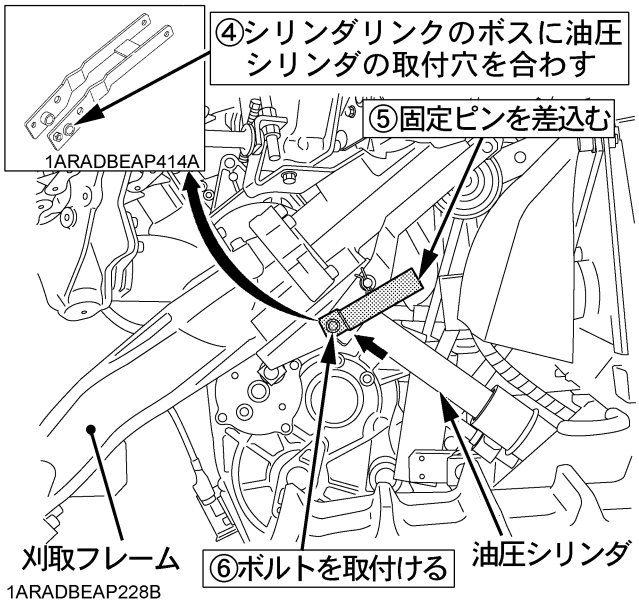
2. 各部の取付けを行ないます。



補　足

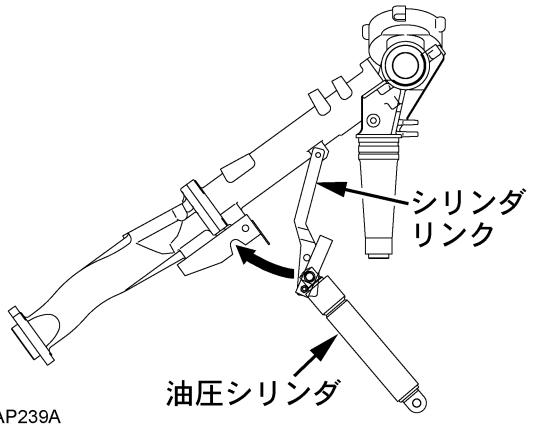
＊ 軸受けを上げる前に軸受けにグリースを塗布してください。





補　足

＊ 油圧シリンダが伸びたりして，穴位置が合わないときは，刈取部を再度オープンして，油圧シリンダを最圧縮し，シリンダにシリンダリンクを取付けてください。



3. 開きかたの手順の順 2. ～ 9. と逆の手順で各部品を取付けます。

■カッタオープン

警　告

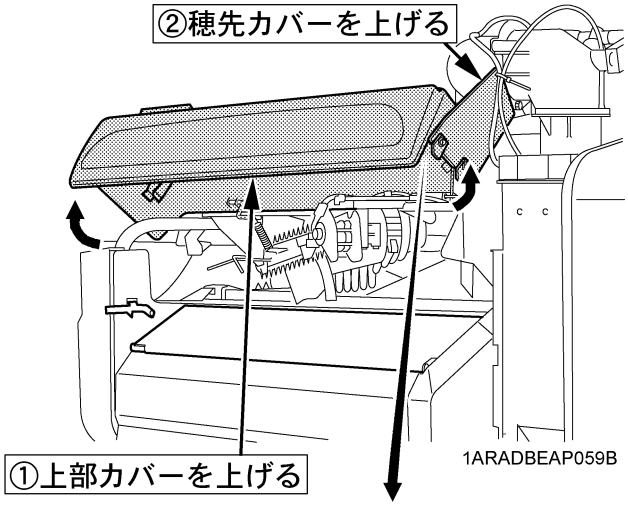
＊ カッタを開いているときは，カッタの刃先に注意してください。

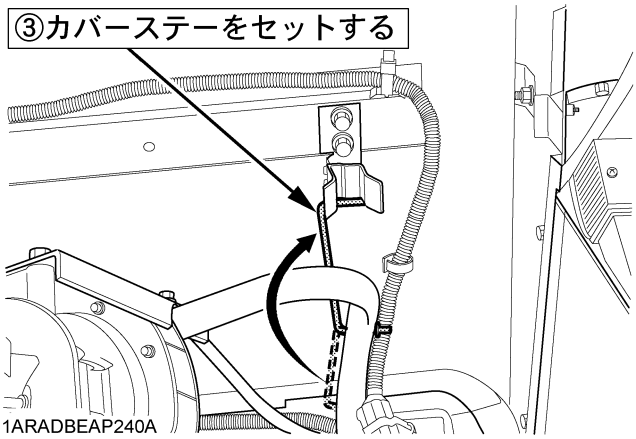
注　意

＊ 傾斜地では，カッタの開閉を行なわないでください。
＊ カッタをオープンして掃除をするときは，ステーで必ず固定してください。

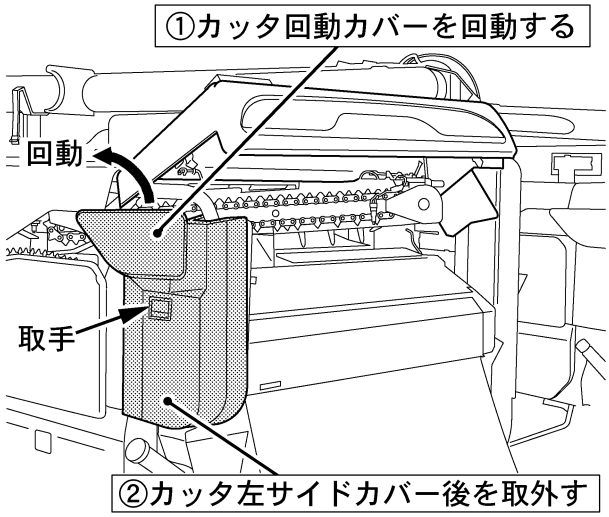
◆開きかた

1. 上部カバーを上げて，カバーステーをセットしたあと，穂先カバーを上げます。



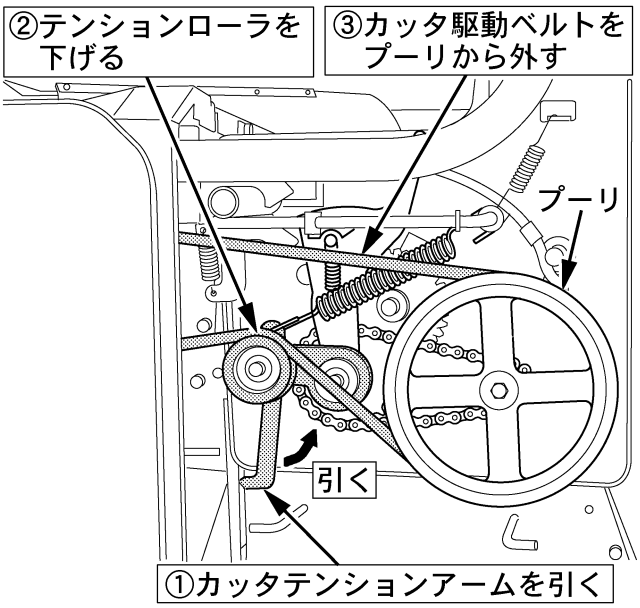


2. 取手を引いてカッタ左サイドカバーを外します。

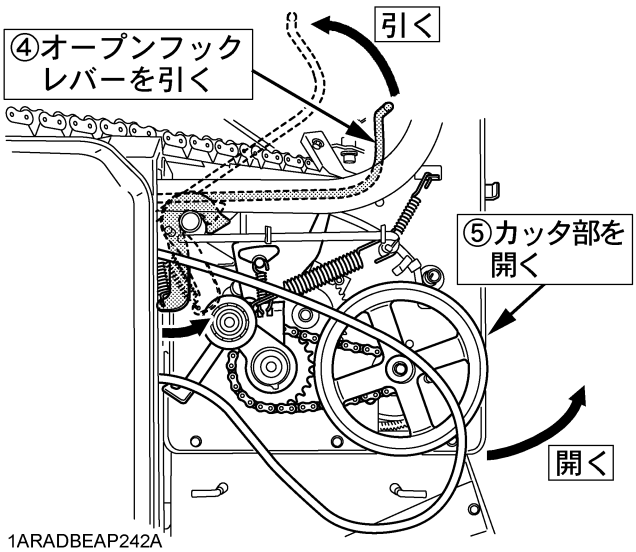


1ARADBEAP241A

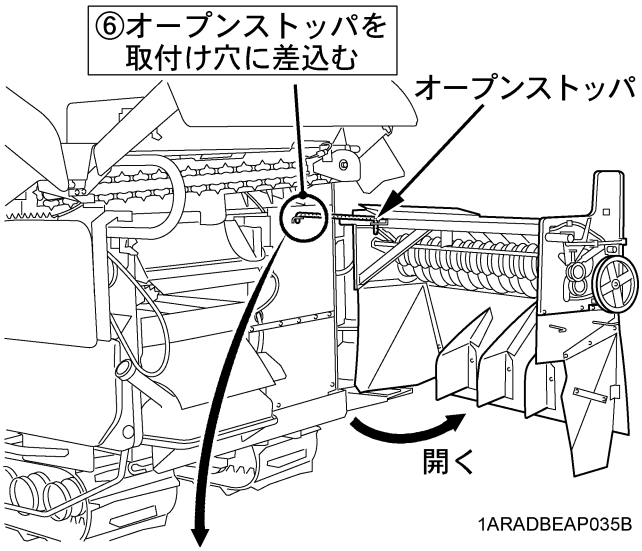
3. カッタをオープンします。

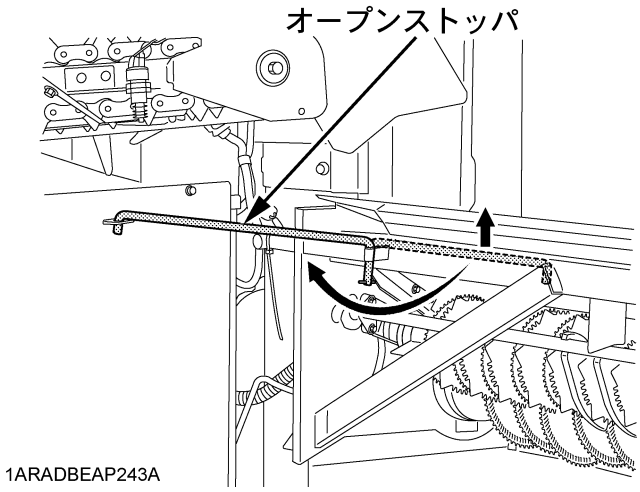


1ARADBEAP140E



1ARADBEAP242A





◆閉じかた

開き方と逆の手順で閉じます。

重　要

＊ オープンフックが確実にロックされていることを確認してください。
＊ ベルトは，掛け間違えないでください。

■シーブケースの脱着

注　意

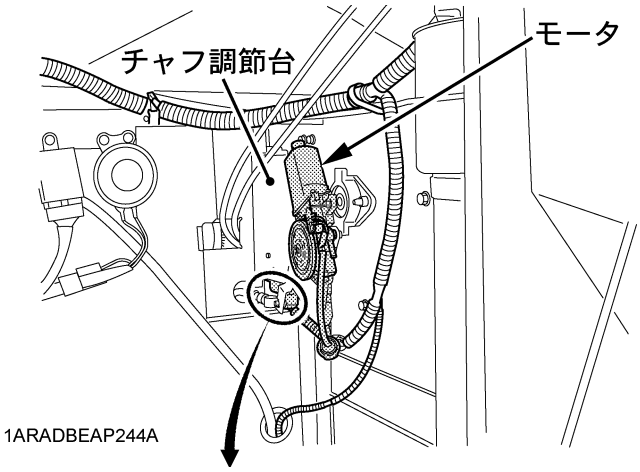
＊ 脱着作業は，合図を掛け合って２人で行なってください。

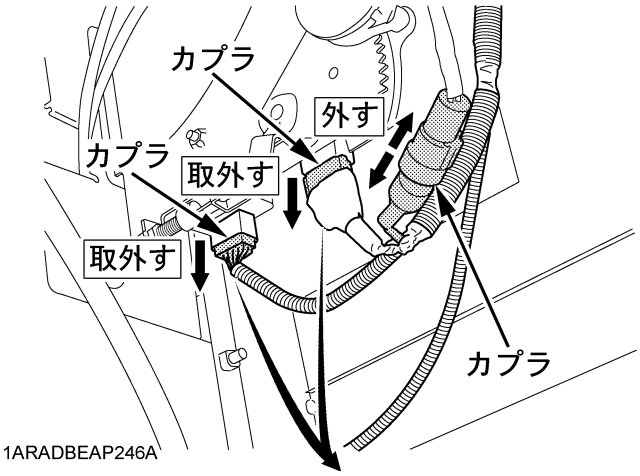
◆ 抜出しかた

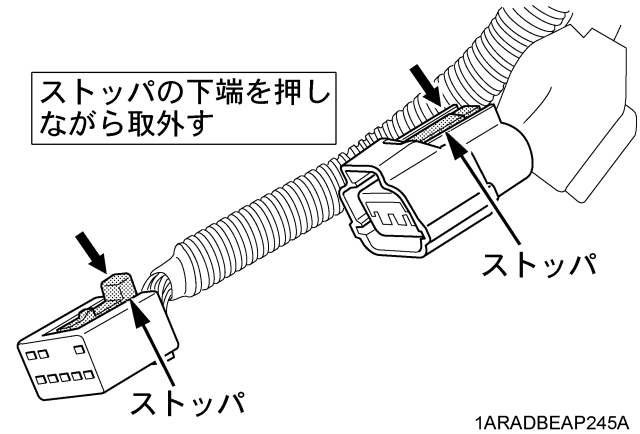
1. 左サイドカバー上，下及びカッタ左サイドカバーを取外します。
2. グレンタンクをオープンします。
(150 ページ参照)

[SD 仕様]

3. チャフ調節台に取付けている３箇所のモータ用カプラを取外します。





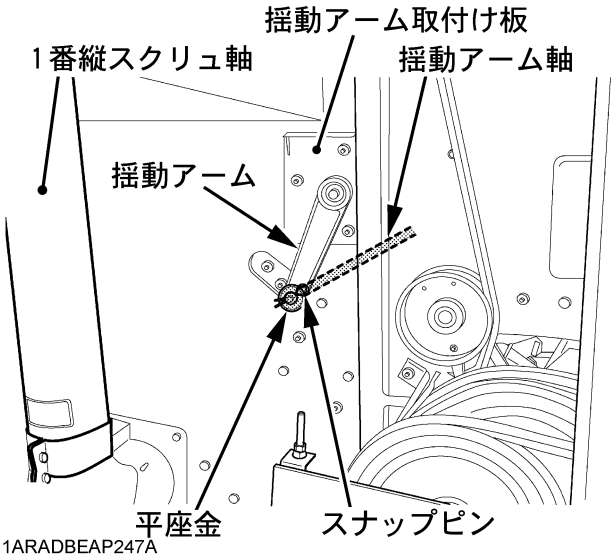


補　足

＊ モータ下側にあるカプラを取外すときは，チャフ調節台側からストッパを押えながら引いてください。

[SD 仕様]

4. グレンタンク側の１番縦スクリュ軸前方にある，揺動アームと揺動アーム軸を取付けているスナップピンと平座金を取外します。



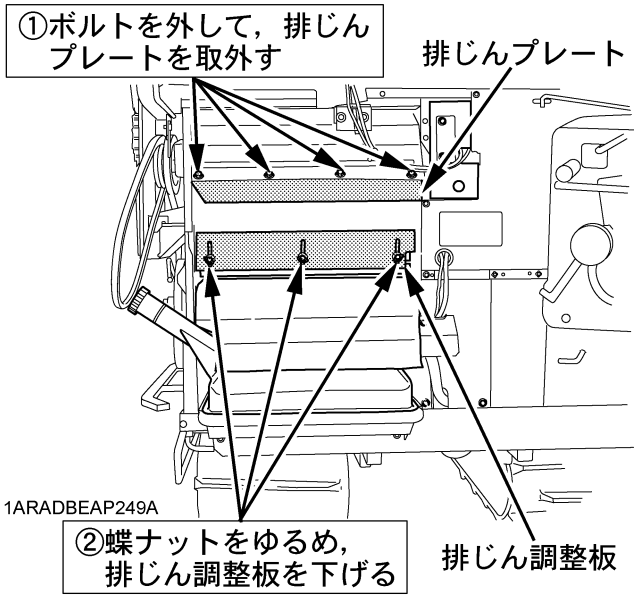
補　足

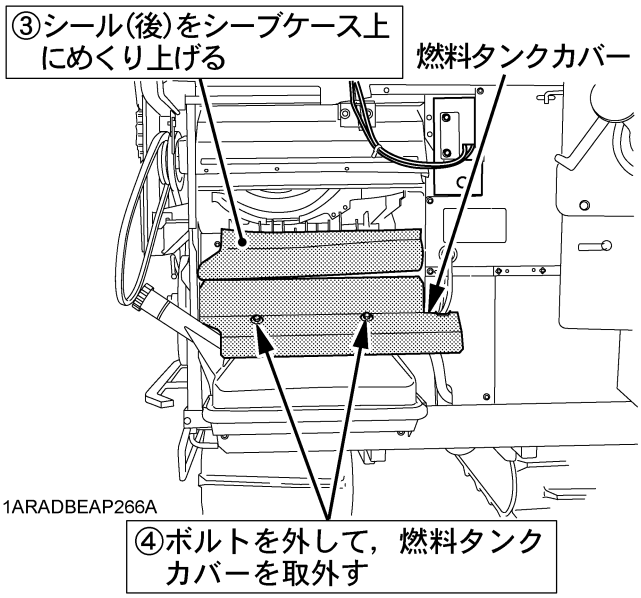
＊ 後の作業で揺動アーム軸を取外しますが，固くて引抜きにくい場合がありますので，そのときは揺動アーム及び揺動アーム取付け板を取外すと，揺動アーム軸が引抜きやすくなります。

5. グレンタンク及びグレンタンク後部カバーをいったん閉じます。
6. カッタオープンをします。(140 ページ参照)

7. シーブケースを引出す準備をします。

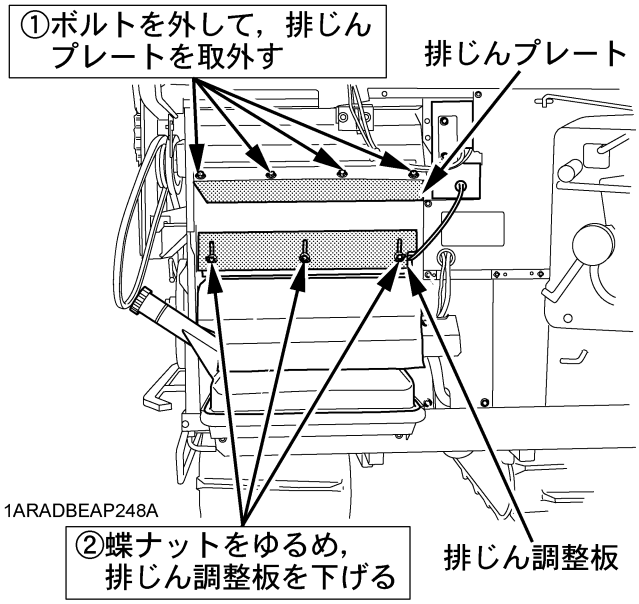
[DX 仕様]

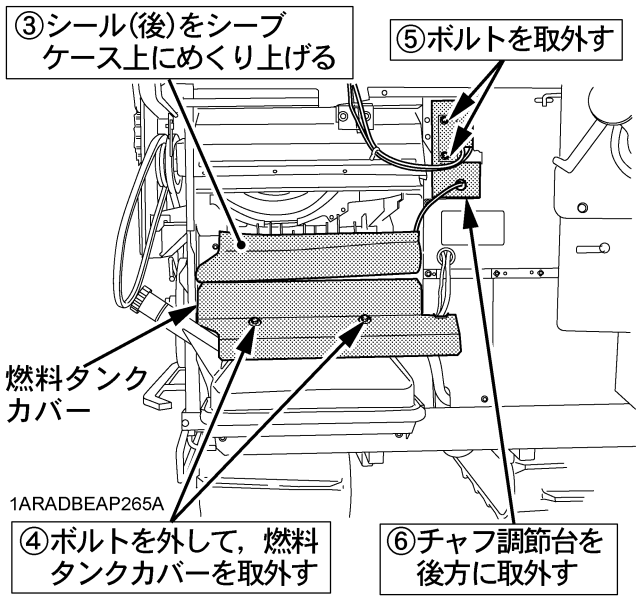


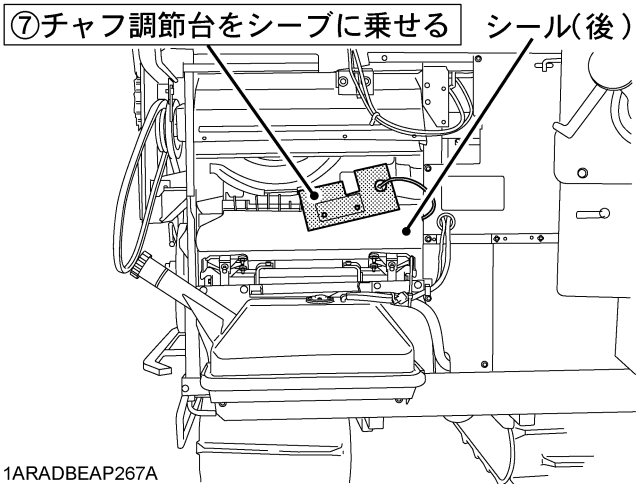


[DX 仕様]

[SD 仕様]

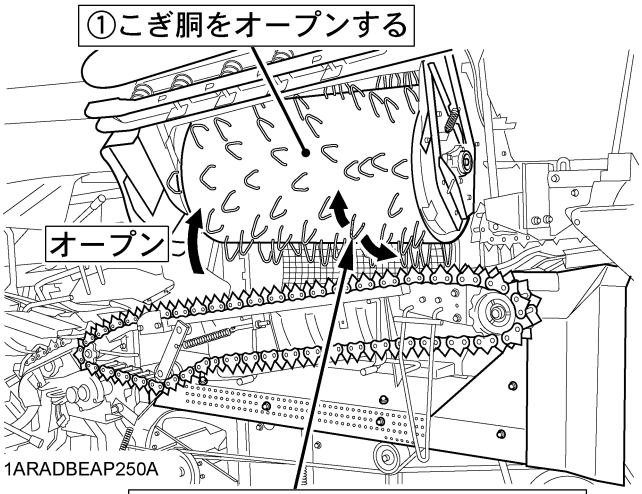


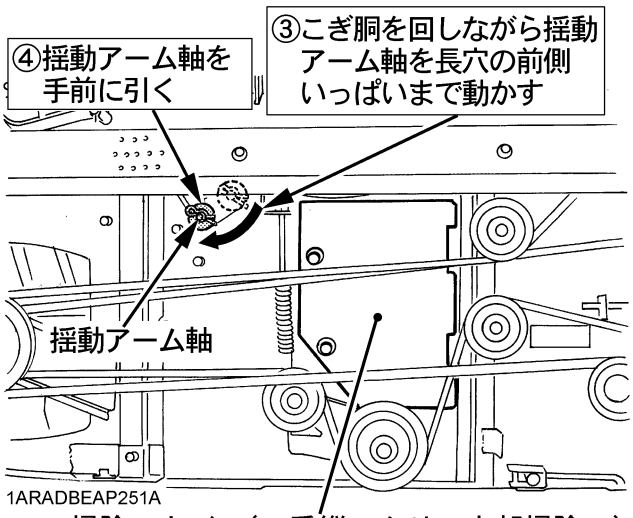




[SD 仕様]

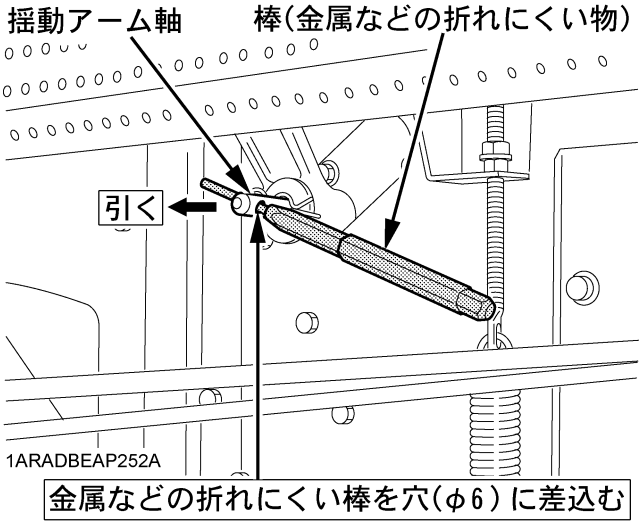
8. 揺動アーム軸を取外します。

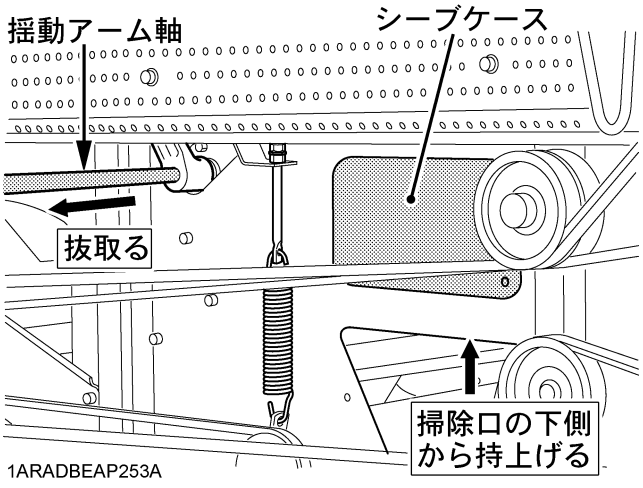




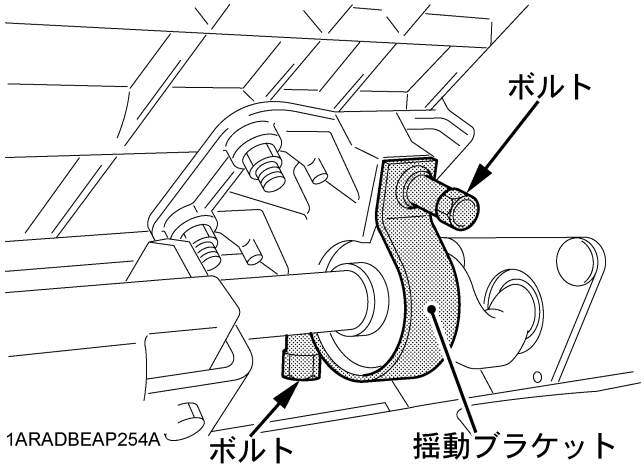
補　足

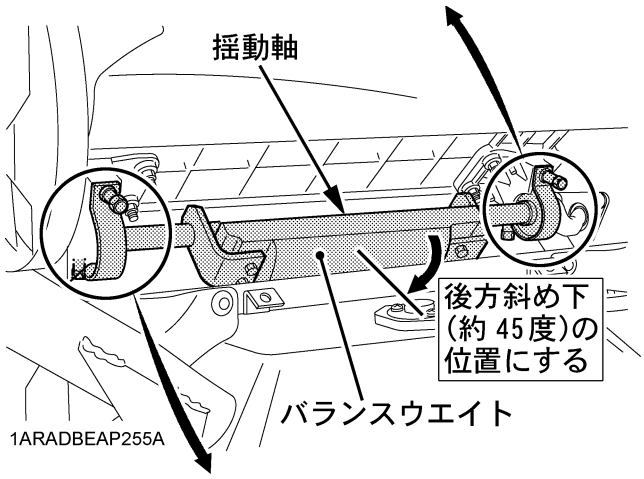
＊ 揺動アーム軸を手で引いても抜きにくいときは，ボルトを取外して掃除口カバーを外したあと，揺動アーム軸先端側にある穴（φ6）に金属などの棒を差込み，掃除口からシーブケースを少し持上げながら棒を引いて，揺動アーム軸を抜取ってください。

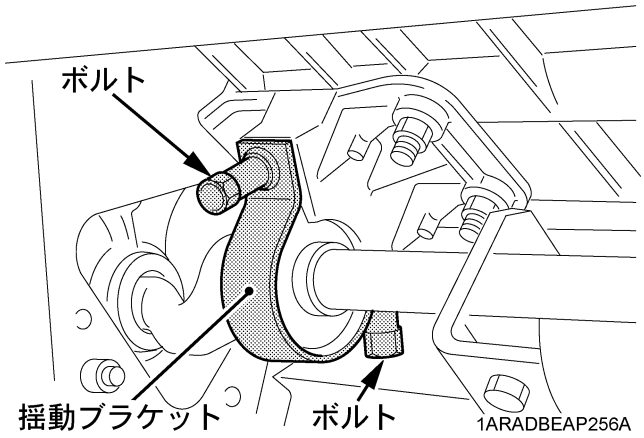




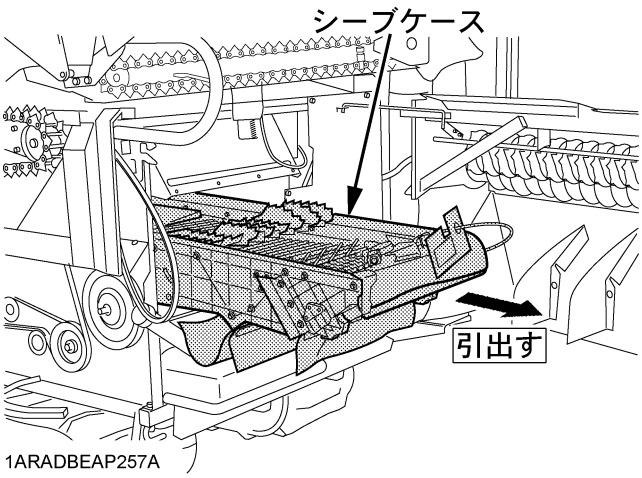
9. こぎ胴を回して，揺動軸のバランスウエイトの位置を後方斜め下（約 45 度）の位置に調整します。
10. ボルトを取外して左，右の揺動ブランケットを外します。





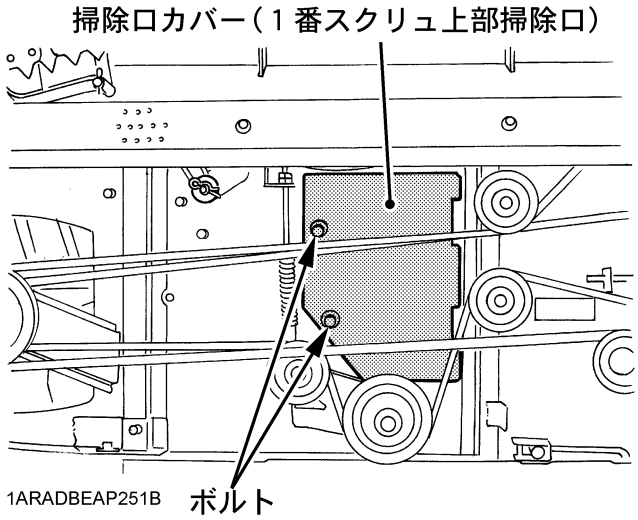


11. シーブケースを引出します。



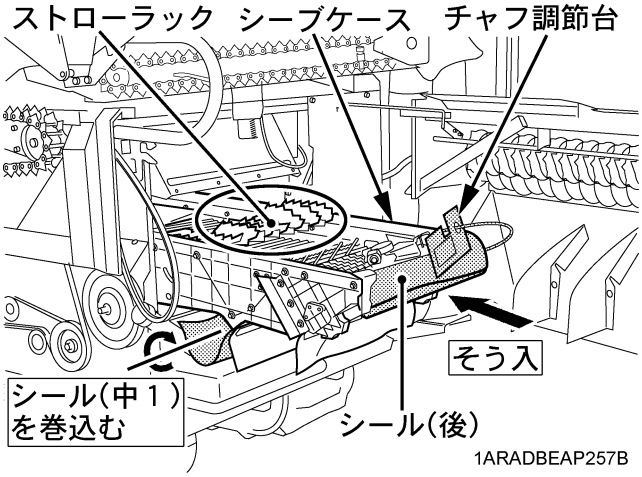
◆ 取付けかた

1. ボルトを取外して１番スクリュ上部掃除口カバーを取外します。



2. シーブケース後部のシール（後）をシーブケース上にめくり上げ，**【SD 仕様】**は，チャフ調節台をシーブケースに乗せます。

3. シーブケース下側のシール（中 1）を右巻きに巻込んだあと，シーブケースをそう入します。

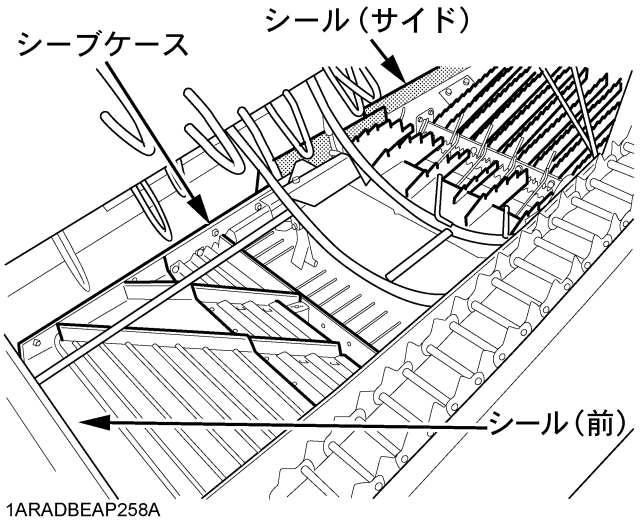


重　要

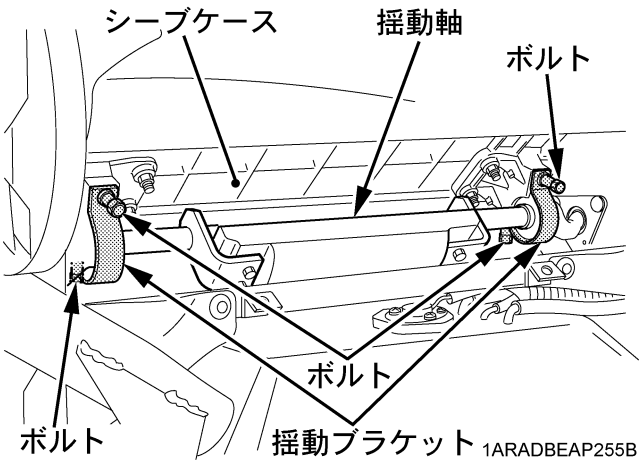
＊ ストローラックの引掛かりに注意してください。

＊ そう入途中で，大きく上下動させないでください。

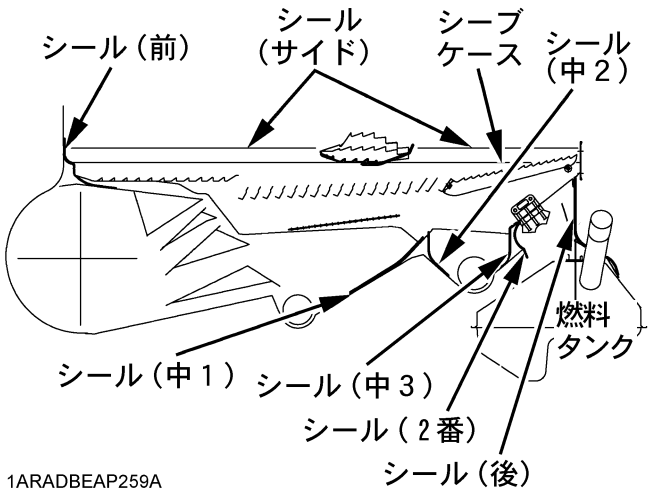
4. そう入したあと，受けあみを取外し，シーブケースの左，右及び前にあるシール（サイド）及びシール（前）が下向きに折れ曲がっているときは，シーブケースを前・後に動かして，シール（サイド）及びシール（前）の先端を上向きにします。

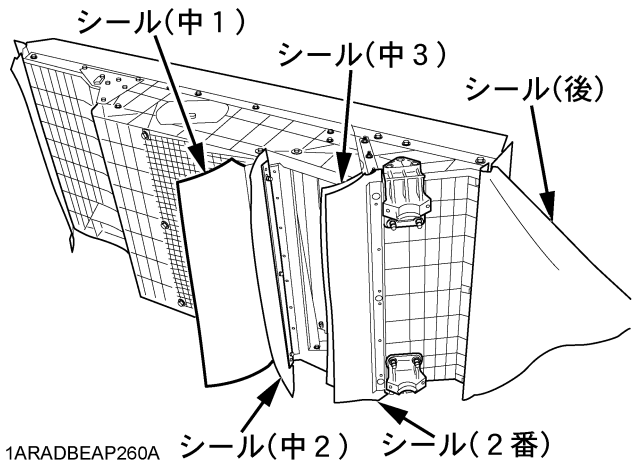


5. 左, 右の揺動ブラケットをボルトで締付けて, シーブケースに揺動軸を固定します。



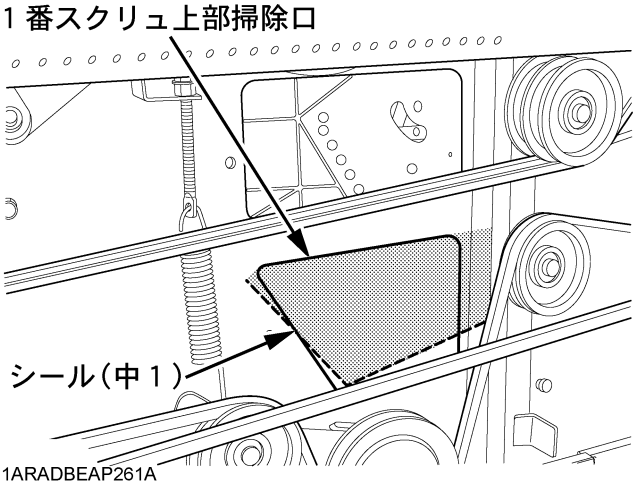
6. シール各部を下図のような位置と向きにセットします。





補　足

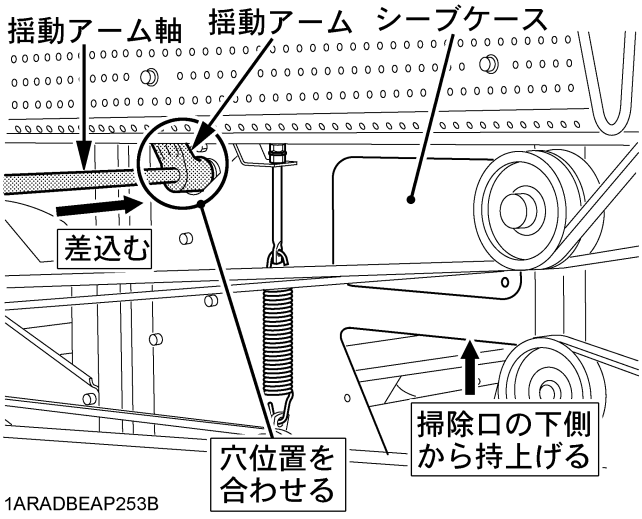
＊ シール（中１）は，１番スクリュ上部掃除口より手を入れて下図のようにセットします。



7. 揺動アーム軸を取外しの逆の手順で取付けます。

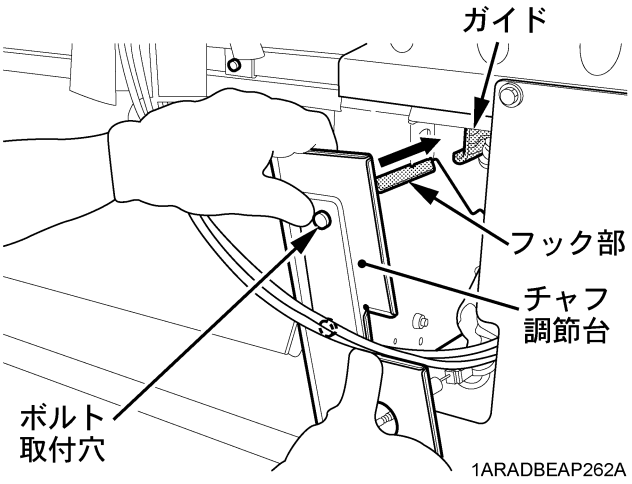
補　足

＊ 揺動アームとシーブケースに揺動アーム軸を差込むとき，こぎ胴を回して揺動アームとシーブケースの穴位置を合わせたあと，シーブケースを掃除口から少し持上げて揺動アーム軸をいっぱいまで差込んでください。



[SD 仕様]

8. チャフ調節台のフック部をガイドに合わせて取付け，ボルト２本で取付けます。

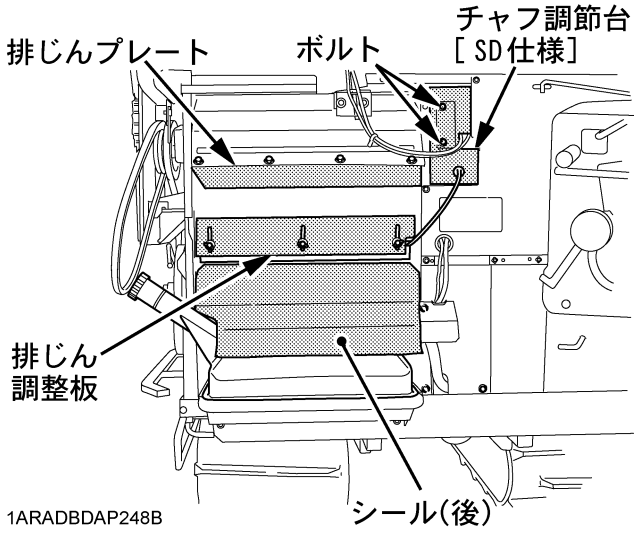


補　足

＊ モータのハーネスがガイドにくい込まないようにしてください。

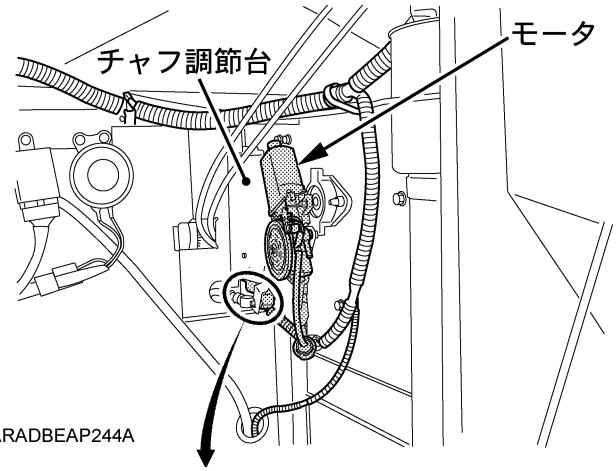
[SD 仕様]

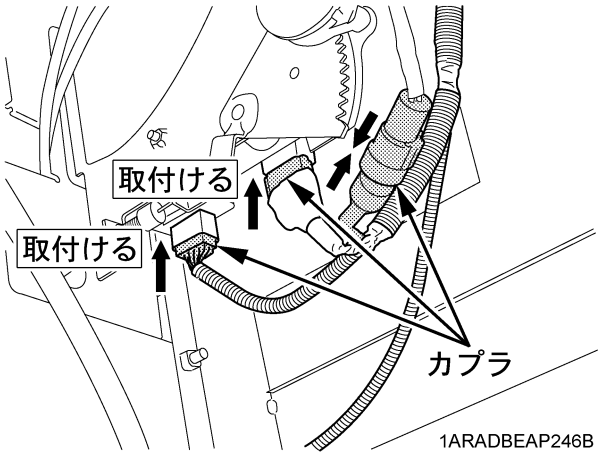
9. シール（後）をセットし，排じん調整板を作業位置に調整（109 ページ参照）したあと，排じんプレートを取付け，カッタを閉じます。



[SD 仕様]

10. ３箇所のモータ用カプラをチャフ調節台側と取付けます。



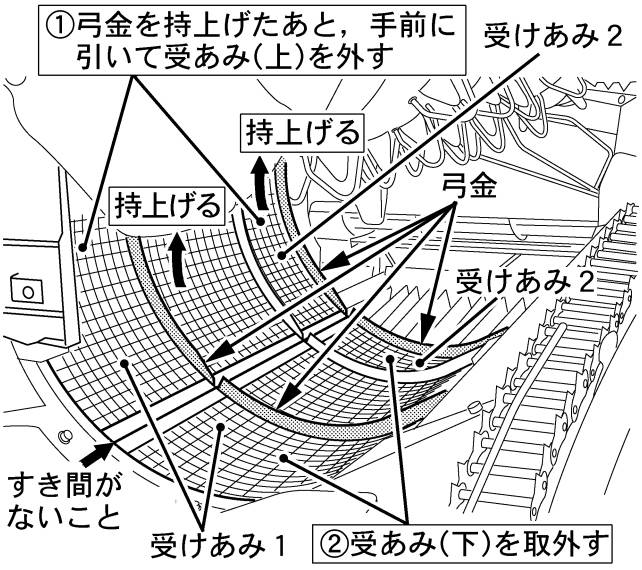


[SD 仕様]

11. グレンタンク側の揺動アーム及び揺動アーム軸を取外しの逆の手順で取付けます。
12. １番スクリュ上部掃除口カバーをボルトで取付けたあと，左サイドカバー上・下及びカッタ左サイドカバーを取付けます。
13. 受あみを取付けたあと，こぎ胴を閉じます。

■受あみの脱着

1. こぎ胴をオープンします。(132 ページ参照)
2. 受あみ１，２の各（上），(下）を取外します。
3. 逆の手順で受あみ（下）を取付け，受あみ（上）をそれぞれ取付けます。



1ARADBEAP263A

重　要

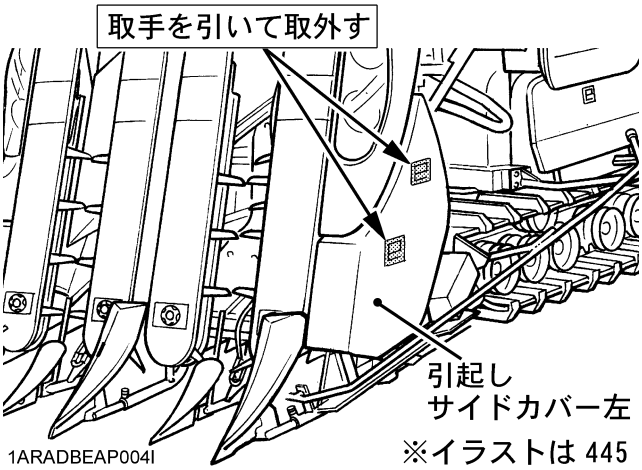
＊ 取付けたときに受あみ（上），(下）の間にすき間があったり，受あみ（上），(下）を逆に組付けると，脱こく部の故障の原因となります。
＊ 受あみが確実に取付いていることを確認してください。
＊ 受あみ（上），(下）それぞれ２種類あります。

■引起しサイドカバー右・左の脱着

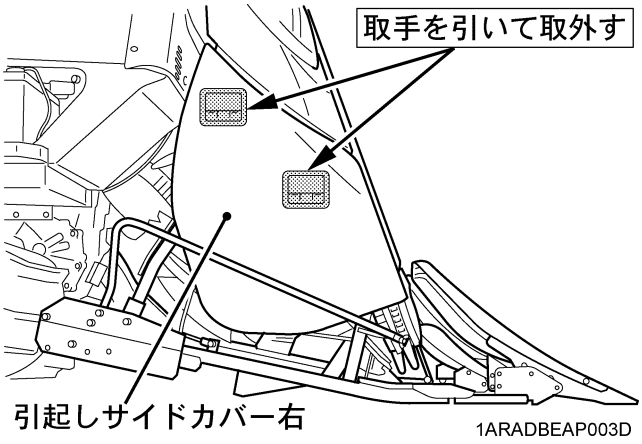
刈取部を地面に接地させて行なってください。

◆取外しかた

取手を引いて取外します。



1ARADBEAP004I
※イラストは 445



1ARADBEAP003D

◆取付けかた

引起し爪を全て上側に倒したあと，引起しサイドカバーを取付けます。

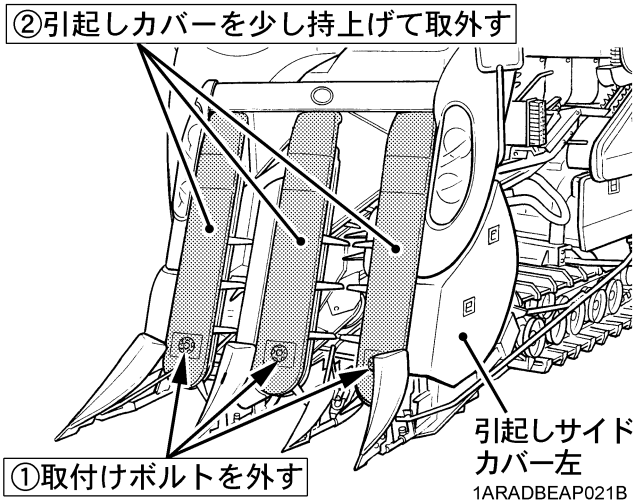
■引起しカバーの脱着

刈取部を地面に接地させて行なってください。

◆取外しかた

取付けボルトを外したあと，引起しカバーを少し持上げて取外します。

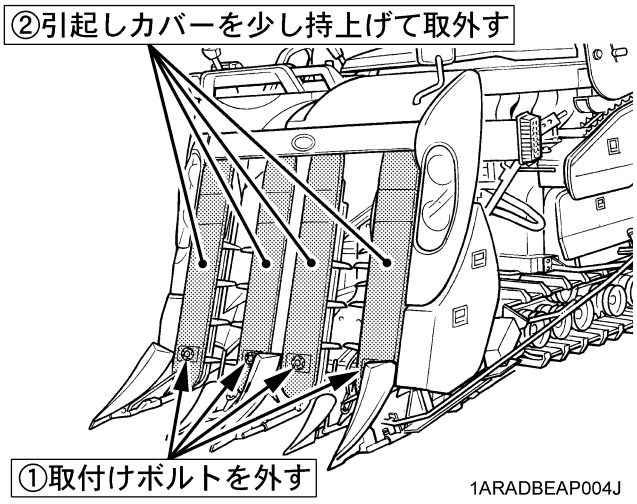
[327・331・338 仕様]



1ARADBEAP021B

[327・331・338 仕様]

［433・438・445 仕様］



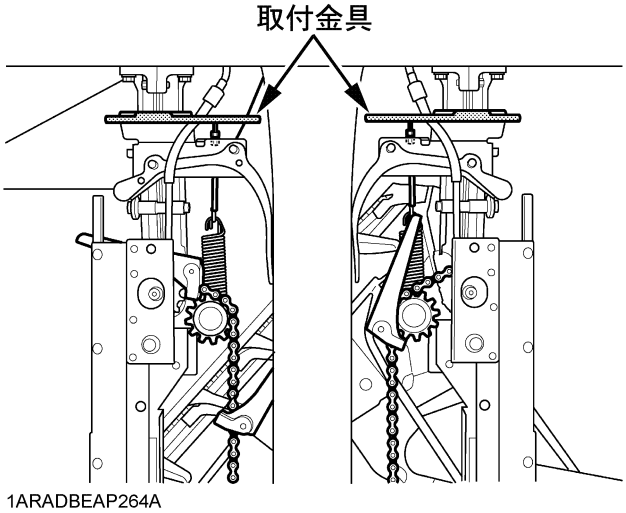
［433・438・445 仕様］

◆取付けかた

引起しカバーを取付けて取付けボルトを締付けてロックします。

補　足

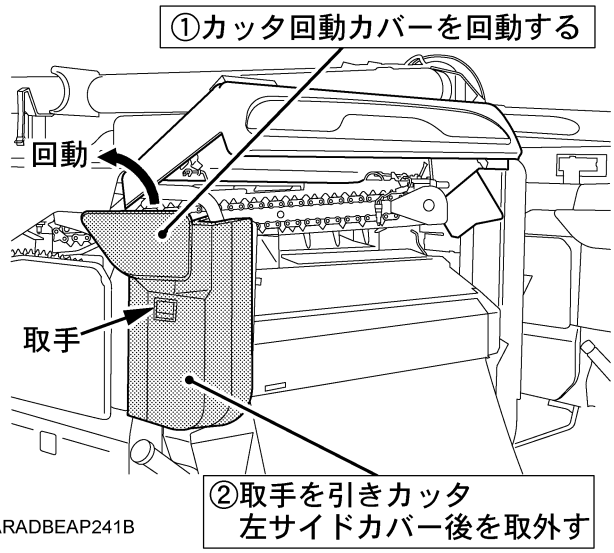
＊ 引起しカバーを取付けるとき，上部にある取付金具に引掛けてください。

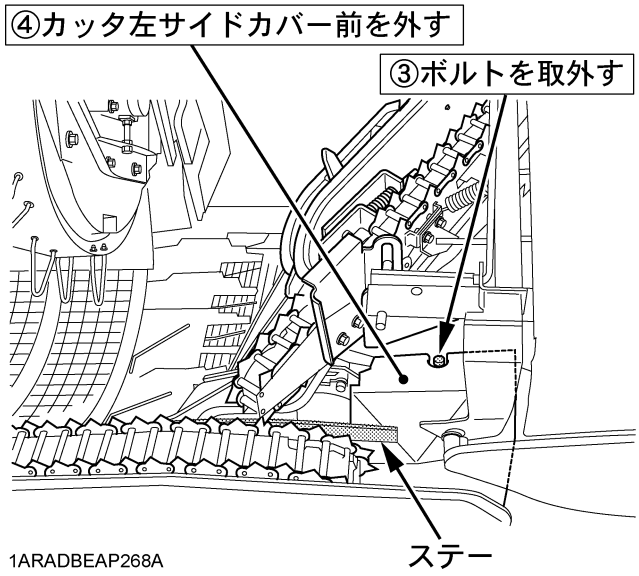


■カッタ左サイドカバー前及びカッタ左サイドカバー後の脱着

◆ 取外しかた

1. カッタ回動カバーを上側に回動します。
2. 取手を引き，カッタ左サイドカバー前を取外します。
3. ボルトを取外して，カッタ左サイドカバー前を取外します。





補　足

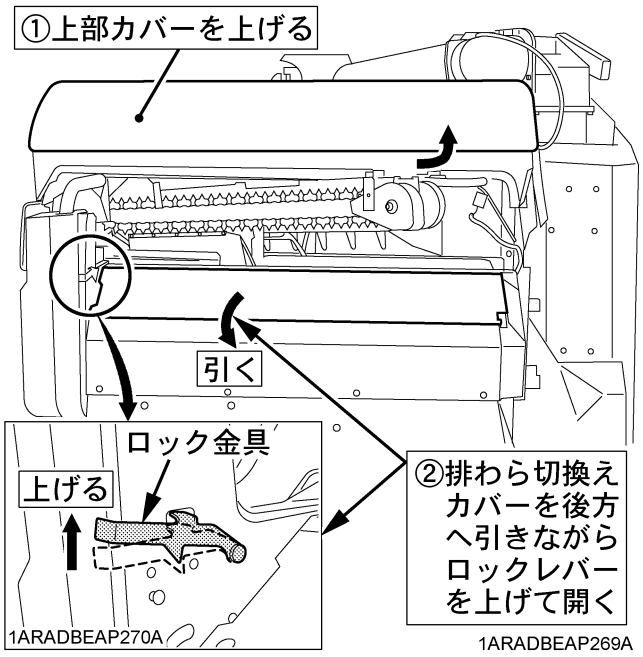
＊ ステーの引っ掛かりに注意してください。

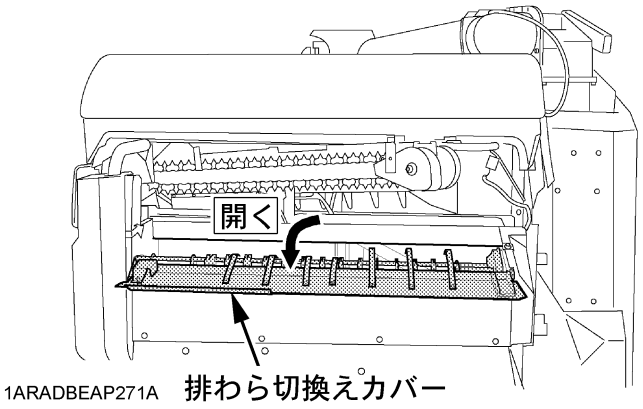
◆ 取付けかた

取外しかたの逆の手順で取付けてください。

■排わら切換えカバーのオープン

◆ 開きかた





◆ 閉じかた

排わら切換えカバーを前方に倒して閉じてください。

補　足

＊ 排わら切換えカバーを開けたままでは，エンジンをかけても脱こく・刈取クラッチレバーを**【入】**位置にするとエンジンが止まります。点検・掃除後は，必ず切換えカバーを閉じてください。

■グレンタンクオープン

注　意

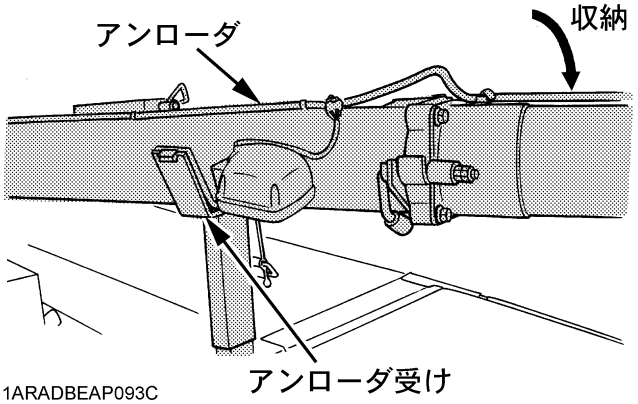
＊ グレンタンク開閉範囲内に人がいないことを確認してください。
＊ 傾斜地では，グレンタンクの開閉を行なわないでください。

重　要

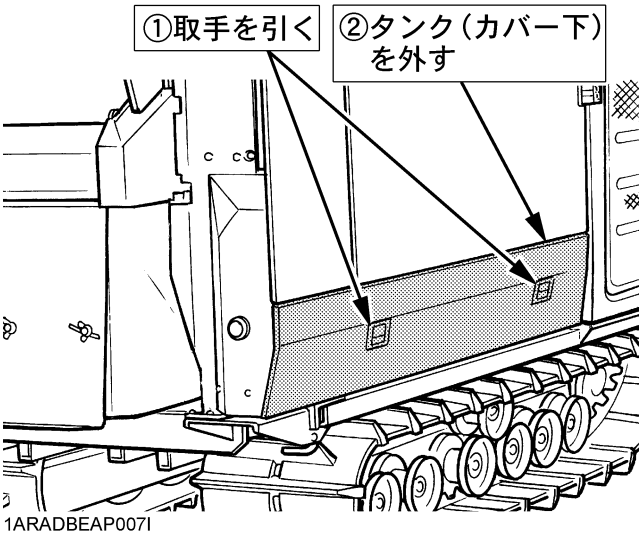
＊ カッタ部がオープンされているときは，グレンタンクを開けないでください。グレンタンク後部カバーと接触し，破損するおそれがあります。

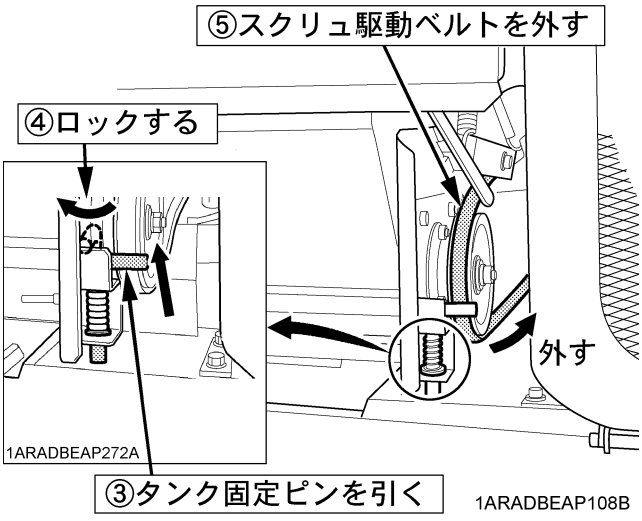
◆開きかた

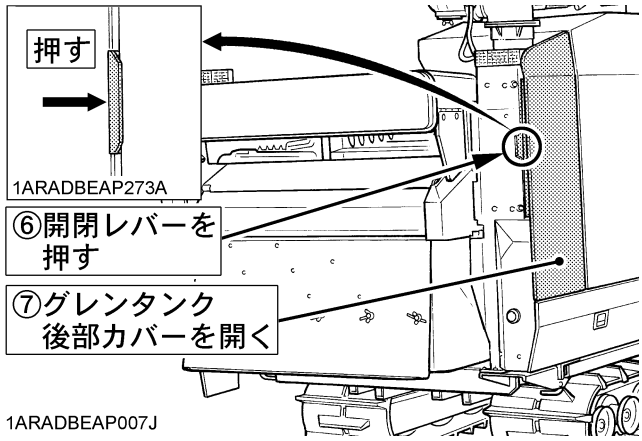
1. グレンタンク内に残っているもみは，すべて排出します。(100 ページ参照)
2. 主変速レバーを**【停止】**位置，副変速レバーを**【N】**（中立）位置にし，各作業クラッチ（刈取，脱こく，もみ排出）レバーを**【切】**位置にします。
3. アンローダをアンローダ受けに収納し，エンジンを停止します。

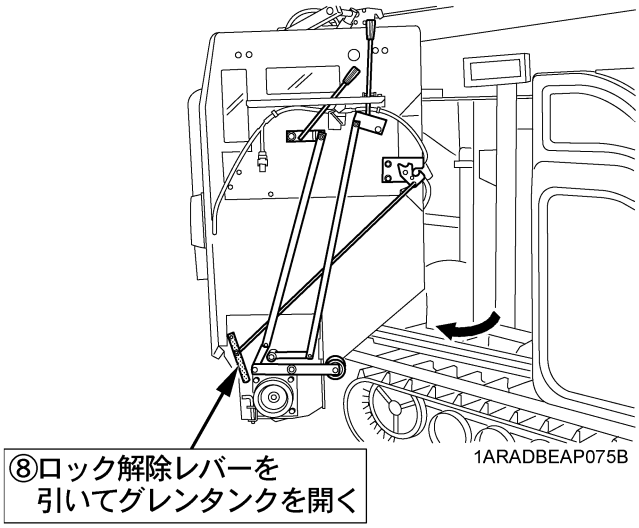


4. グレンタンクをオープンします。









◆閉じかた

開きかたと逆の手順で閉じます。

重　要

＊ スクリュ駆動ベルトは確実に掛けてください。ベルトが掛かっていないと，もみを排出しません。また，ベルトを破損するおそれがあります。

＊ グレンタンクのロックや固定ピンの差込みは確実に行なってください。

各部の掃除と注油のしかた

機械の故障などトラブルが発生しないように，各部の手入れをじゅうぶん行なってください。

警　告

- **＊ エンジンを必ず止めてください。**
- **＊ 取外したり，オープンした回転部のカバー類は衣服などが巻込み危険ですので必ず取付けてください。**
- **＊ 各搬送チェーンやカッタ刃には注意してください。ケガをするおそれがあります。**

注　意

- **＊ 刈取部を上げた状態で作業するときは，刈取下降ロック装置で必ずロックしてください。さらに枕木などを使用して落下防止の歯止めをしてください。**
- **＊ 空運転するときには必ずこぎ胴をセットして，カッタを閉じてください。**
- **＊ オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。（クローラなどのゴム製品が劣化します。）**
- **＊ バッテリ，マフラやエンジン・燃料タンク周辺部にごみや燃料の付着，泥の堆積などがあると火災の原因になることがありますので，取除いてください。**
- **＊ 刈刃やカッタの掃除・注油時は，手袋を着用し刃部に注意しながら行なってください。**

重　要

- ＊ 水洗いするときは，電装品に水をかけないようにしてください。故障の原因になります。
- ＊ 掃除口を閉じるときは，掃除口にもみの付着がないことを確めてから閉じてください。また，掃除の後，ふたを取付け忘れるともみが飛散します。
- ＊ 機内はよく乾燥させてから掃除してください。濡れているともみが機内に付着して残留もみが多くなります。
- ＊ 湿田で作業したあとは，必ずクローラ部分の泥を取除いてください。
- ＊ 取外したボルト・ナットは，必ず締付けてください。

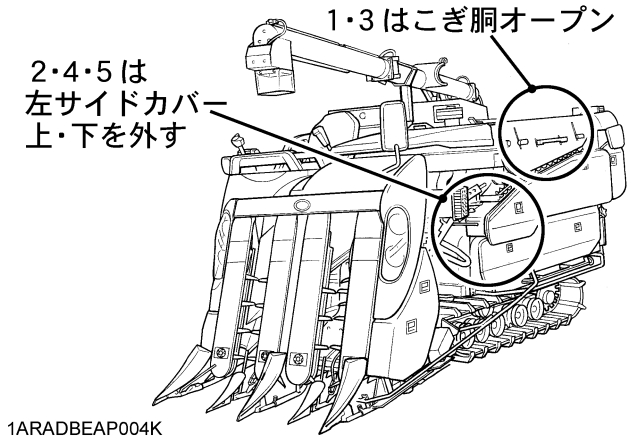
■各部の掃除

品種や稲・麦の混合を避けたいときや収穫シーズンが終わったときには，機内の残留こく粒をきれいに取除いておきましょう。

◆ 掃除のしかた

刈取り作業が終わり，もみの排出がすべて終わったあと脱こく部を約３分間空運転します。そのあと，いったん機体各部を収納状態（65 ページ参照）にし，脱こく・刈取クラッチレバーを**［切］**位置にしてエンジンを止めます。
掃除をするときには，各部をオープン（開閉）又は，掃除口を開いてください。

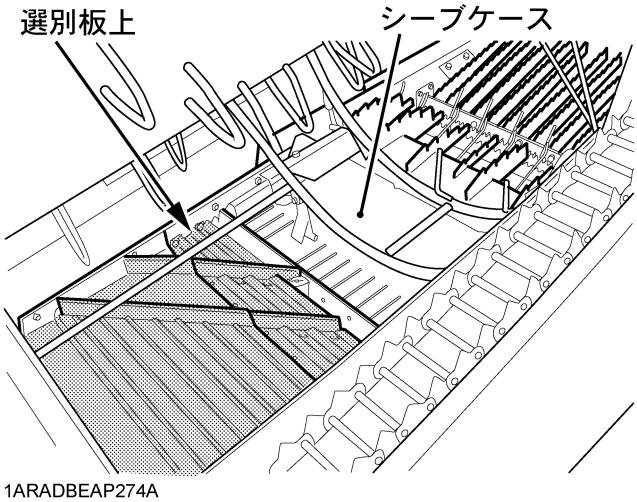
◆掃除箇所



1ARADBEAP004K

1. 脱こく部内（シーブケース内選別板上）

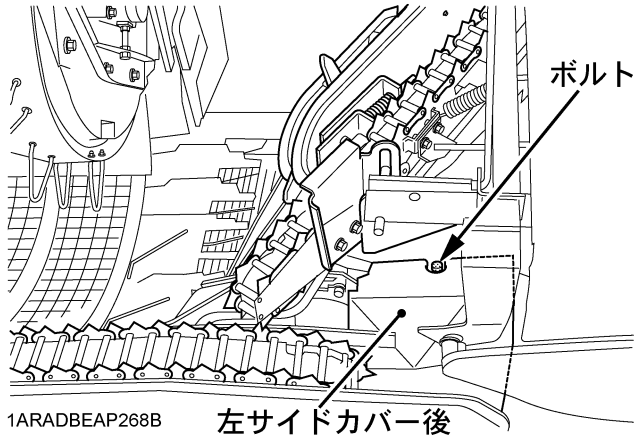
受あみ（上，下）を取外してください。

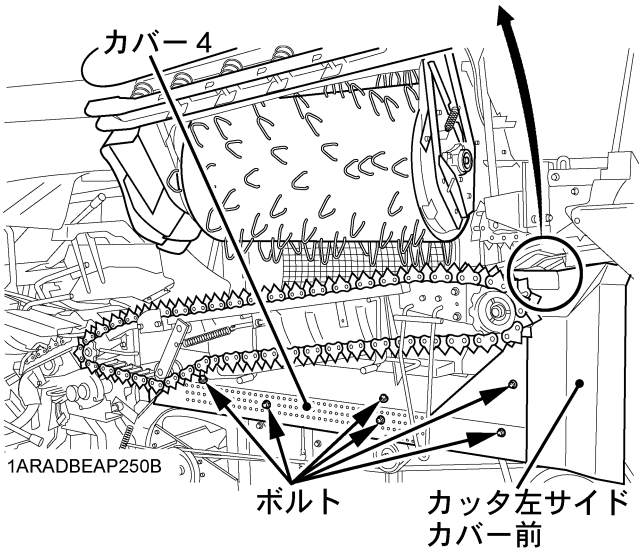


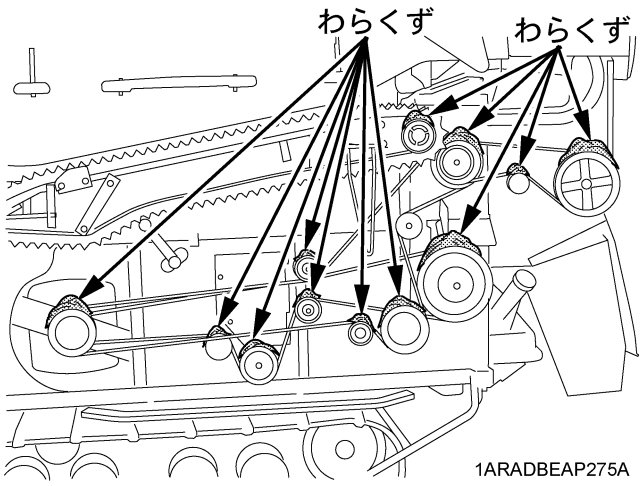
1ARADBEAP274A

2. ベルトカバー内

左サイドカバー上，下を外したあと，ボルトを取外して左サイドカバー上の内側にあるカバー４及びカッタ左サイドカバー前を取外してください。

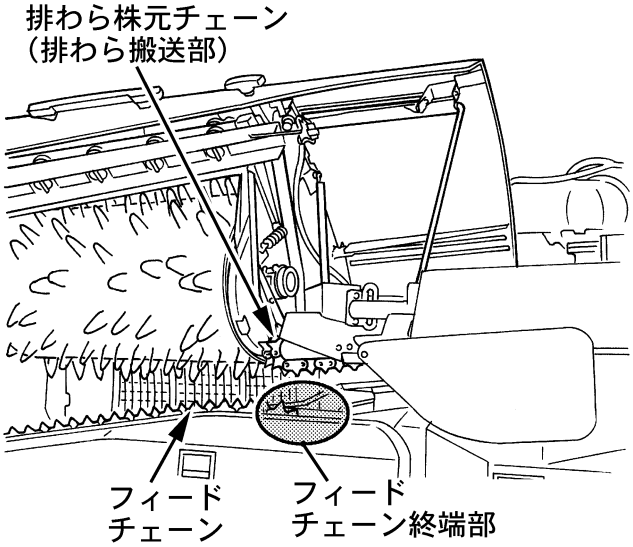






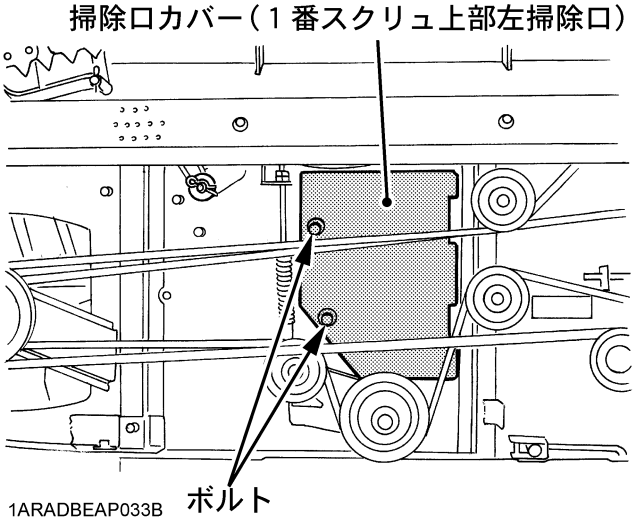
3. フィードチェーン終端部・排わら搬送部

自動エンジン停止装置がはたらいたとき**［わら詰まりのとき］**に掃除してください。



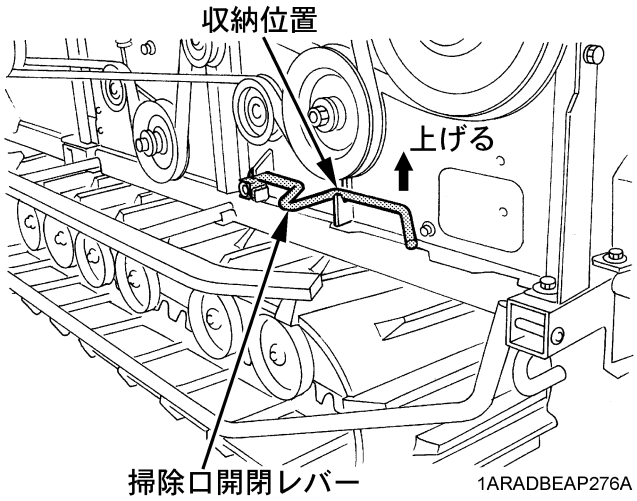
4. １番スクリュ上部掃除口

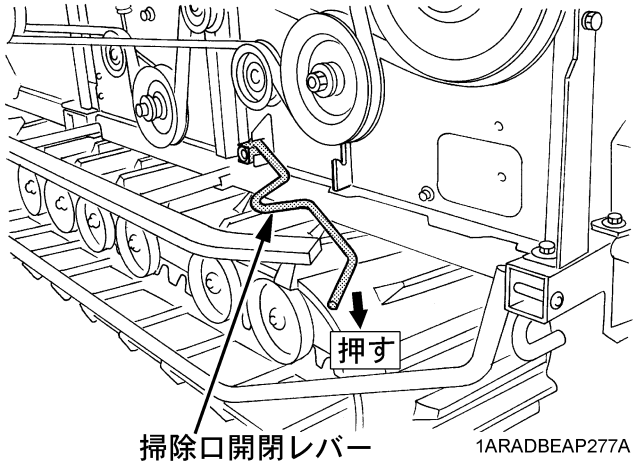
ボルト２本を取外し，１番スクリュ上部の掃除口カバーを取外してください。



5. １・２番横スクリュ下部掃除口

掃除口開閉レバーを上げて収納位置から抜出して，１・２番横スクリュ下部にある掃除口の開閉カバーを開いてください。開くときは，開閉レバーを下側に押します。



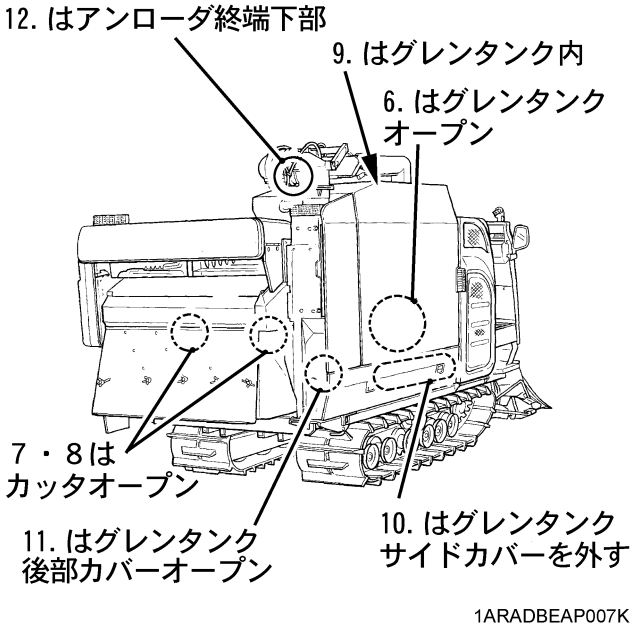


重　要

＊ 掃除口開閉レバーを使用しないときは，収納位置にしておいてください。走行中に掃除口開閉レバーが開いて破損するおそれがあります。

補　足

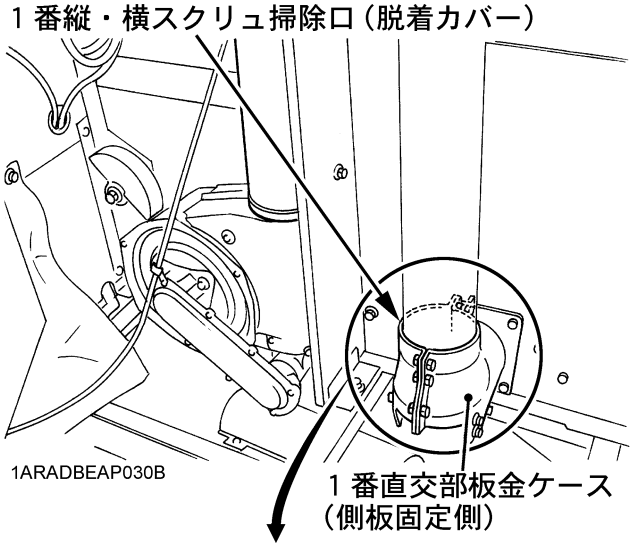
＊ クローラに付着している泥は取除いてください。掃除口開閉レバーに接触し，開閉しなくなります。

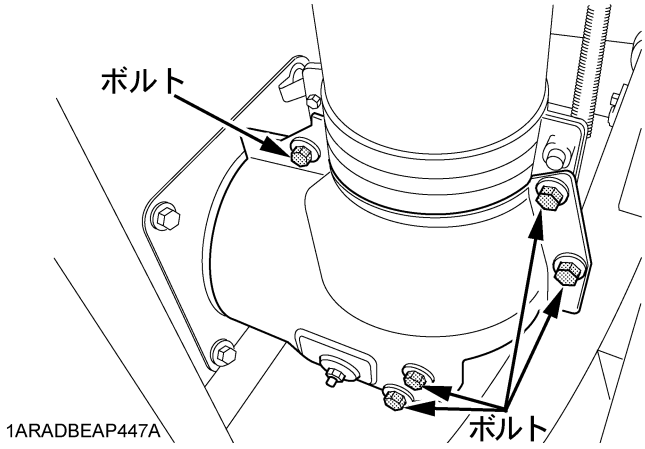


6. １・２番スクリュ掃除口

● １番縦・横スクリュ掃除口

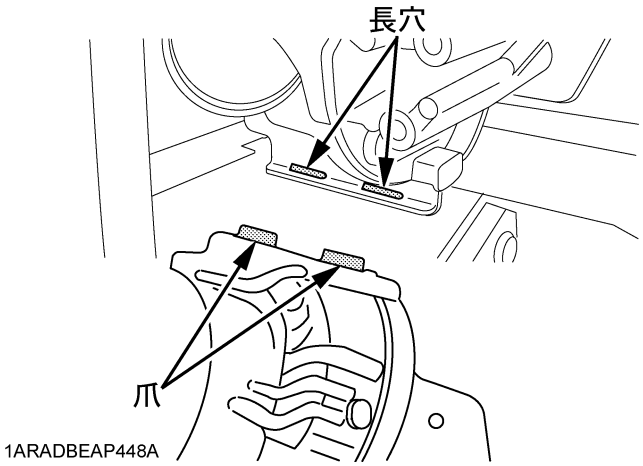
ボルト５本を外して，１番縦横スクリュ掃除口の脱着カバーを取外します。

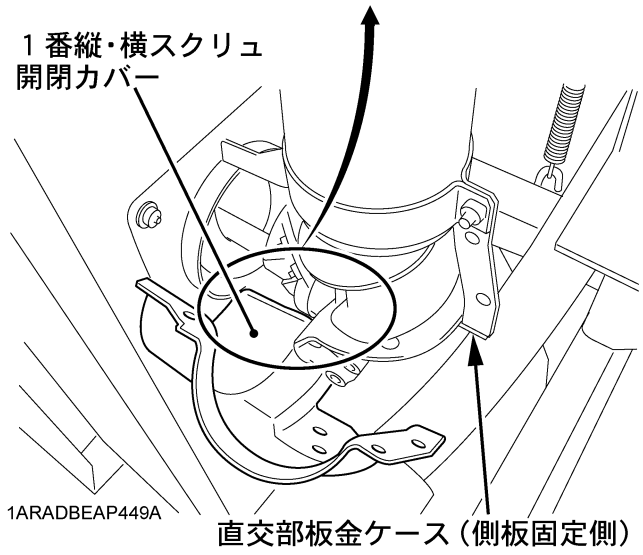




補　足

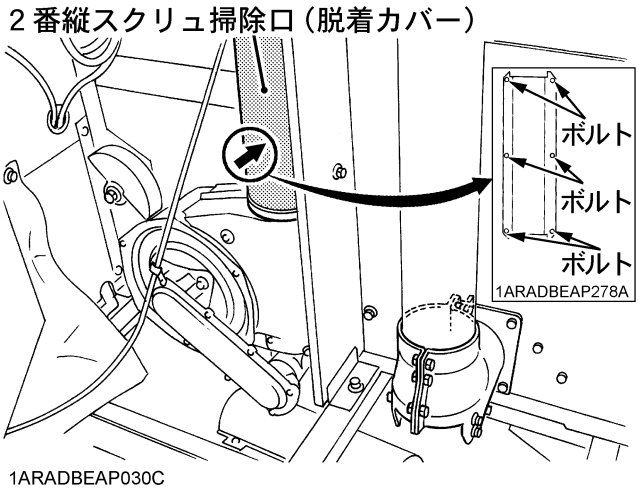
＊ 開閉カバーを取付けるとき，開閉カバーの爪を１番直交部板金ケース（側板固定側）の長穴の差込み穴に確実に差込んでください。カバーの底部が開いてもみ漏れの原因になります。





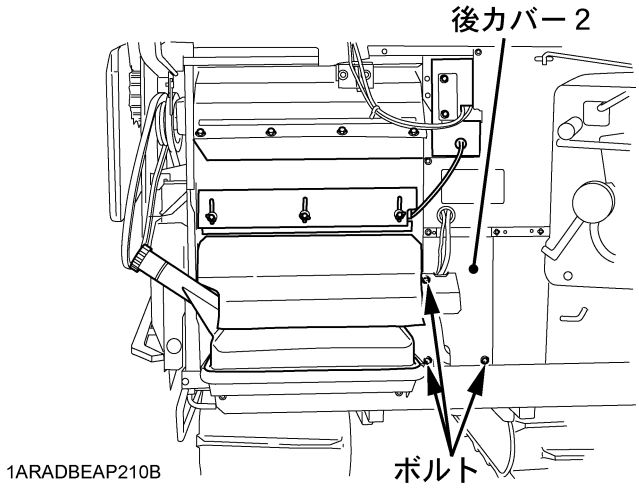
● **２番縦スクリュ掃除口**

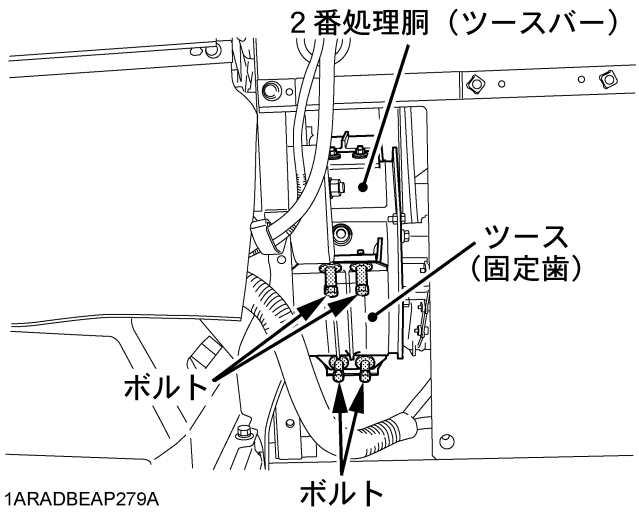
ボルト６本を取外して２番縦スクリュ掃除口の脱着カバーを取外してください。



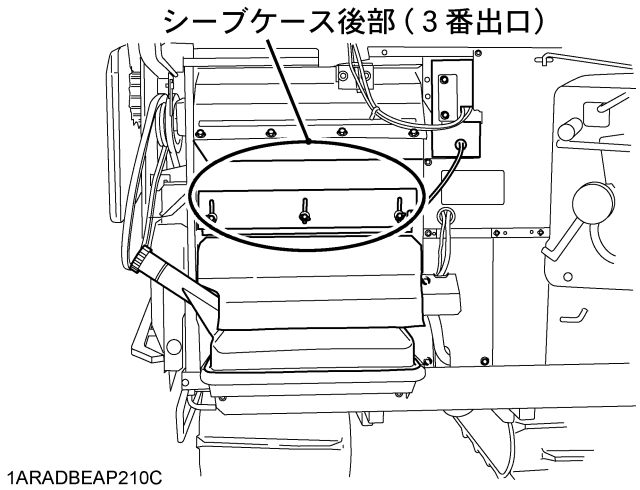
7.　２番処理胴（ツースバー）掃除口

ボルト３本を取外したあと，後カバー２を取外してください。そのあと，ボルト４本を取外して２番処理胴のツース（固定歯）を取外してください。



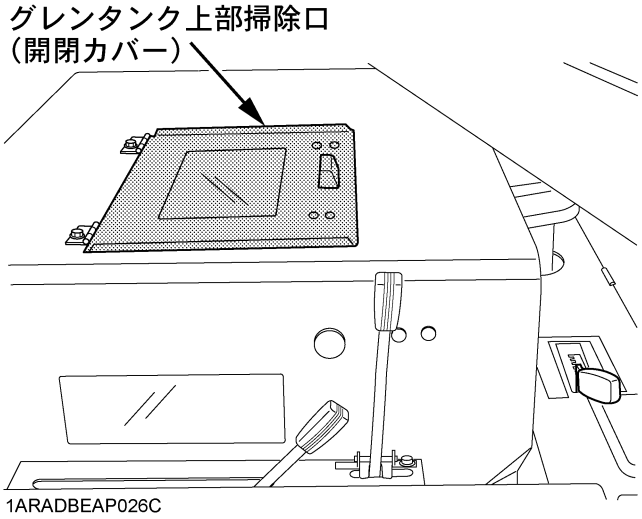


8. シーブケース後部（３番出口）
カッタをオープンしてください。



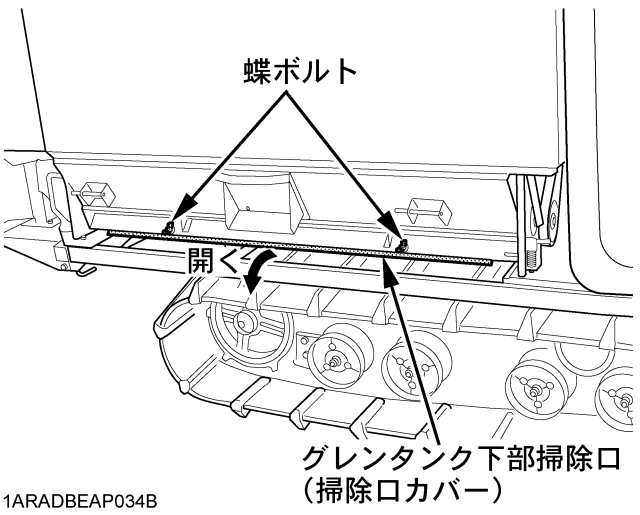
1ARADBEAP210C

9. グレンタンク内
開閉カバーを開いてください。



1ARADBEAP026C

10. グレンタンク下部掃除口
蝶ボルト２本を取外すと，掃除口カバーが開きます。

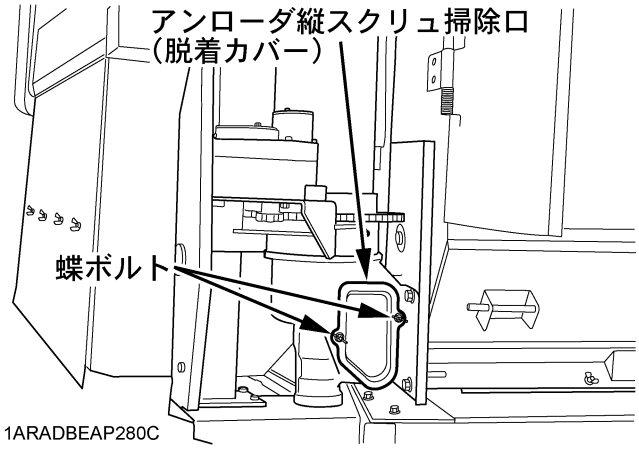


1ARADBEAP034B

重　要

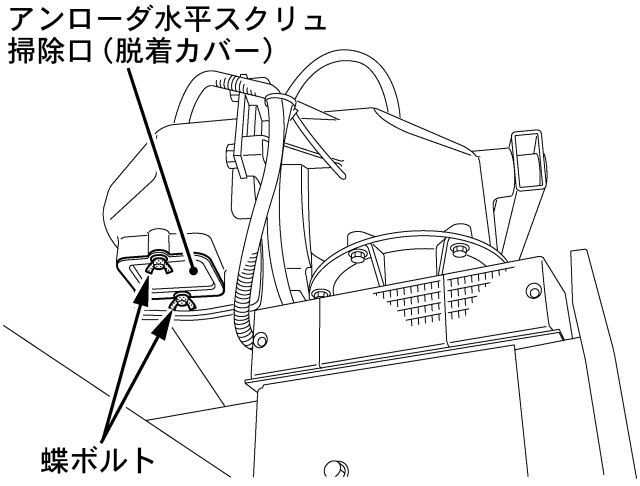
＊ タンク下部掃除口を開いた状態で，グレンタンクの開閉をしないでください。掃除口カバーが変形するおそれがあります。

11. アンローダ縦スクリュ掃除口
蝶ボルトを取外して脱着カバーを取外してください。



1ARADBEAP280C

12. アンローダ水平スクリュ掃除口
蝶ボルトを取外して脱着カバーを取外してください。



1ARADBEAP028B

◆ 掃除後の処置
掃除終了後は，取外したり，オープンした掃除口カバーや安全カバーは必ず取付けてください。

■各部の注油
機体各部の掃除が終わったあと又は，刈取り作業を始める前には各部の注油やグリースの塗布を行なってください。

◆自動集中注油装置による注油

自動集中注油装置の注油スイッチを押して各作動部（刈刃や各チェーン）に注油してください。

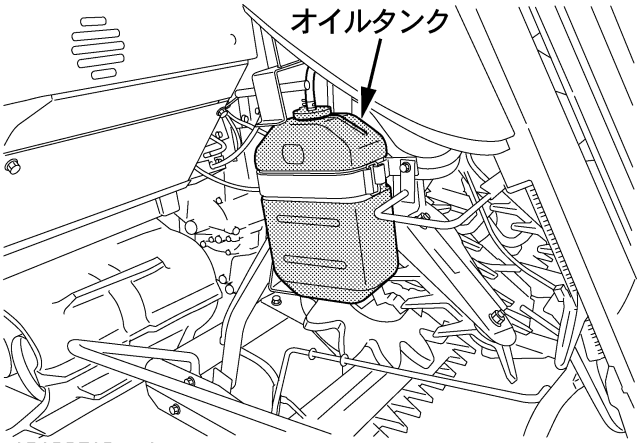
補　足

＊ 気温が10℃以下になると均等に注油されなくなります。寒い地域では，気温の上がる昼間に注油してください。
＊ 各チェーン部に巻付いたわらくずやごみは注油の前にきれいに取除いてください。

● 注油のしかた

1. 平たんな場所に刈取部を地面から５～15cmの位置にしたあと，エンジンを停止します。
2. 引起しサイドカバー右を取外し，オイルタンクのオイル量を確認して不足しているときは補給します。

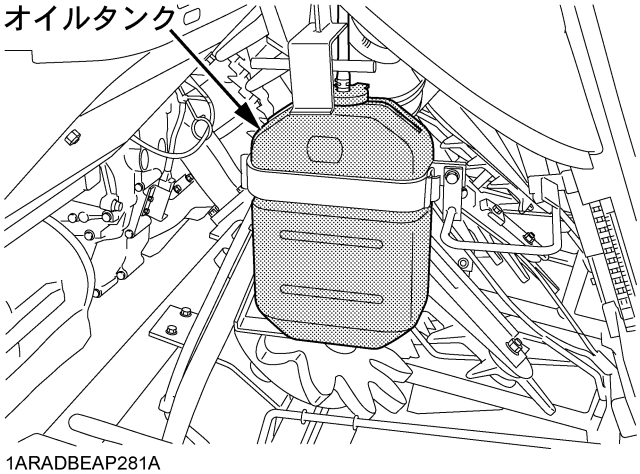
[327・331・338]



1ARADBEAP282A

[327・331・338]

[433・438・445]



1ARADBEAP281A

[433・438・445]

重　要

＊ 指定のオイル以外は使用しないでください。また，廃油などゴミの混入しているオイルを使用すると，ノズルの詰まりやバルブ不良の原因となります。

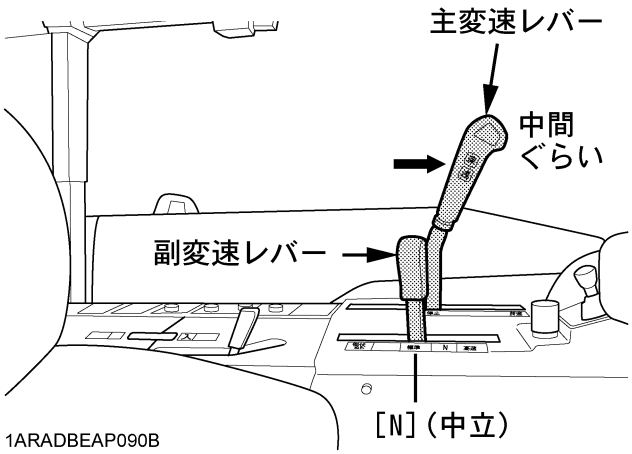
オイルの種類	オイルタンク容量
クボタ純オイル D10W30 又は，D30	1.5L

3. エンジンを再始動したあと，エンジン回転数を中速回転（約 2000rpm）にし，脱こく・刈取クラッチレバーを**[入]**位置にして刈取部・脱こく部を動かします。

補　足

＊ チェーンは中速回転で注油してください。その際，２番警報が出ますが，異常ではありません。
＊ 注油したときチェーンが停止していると，オイルが1箇所に集中するため,ベルトやカバーにオイルが付着したり，チェーンのスリップの原因となります。

4. 副変速レバーを**[N]（中立）**位置にしたあと，駐車ブレーキを解除して主変速レバーを前進側へ中間の位置ぐらいまで倒します。



1ARADBEAP090B

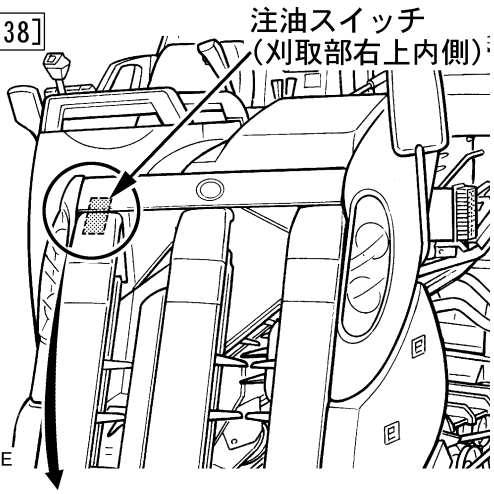
[SD 仕様]

5. 切換えコックの位置を確認（**チェーン**位置 / **刈刃**位置）して注油スイッチを押します。注油は切換えコックを切換えて各部チェーン・刈刃の両方共に行ないます。

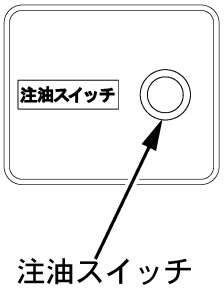
● チェーン位置…７～10 秒間**連続**で押す。
● 刈刃位置……５～７秒間**断続**で押す。

[SD 仕様]

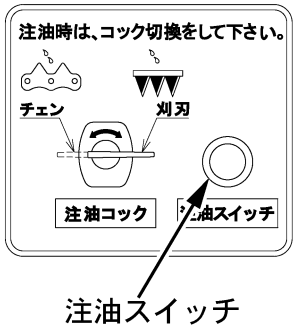
[327・331・338]



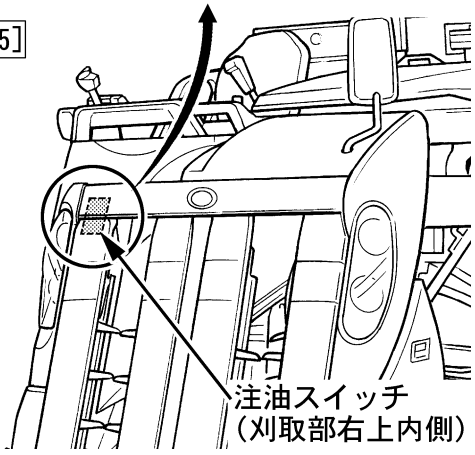
[DX仕様]



[SD仕様]



[433・438・445]



重　要

＊ オイルタンク内のオイルが空の状態で注油スイッチを押すとポンプモータの故障の原因となります。
＊ 万一ポンプとオイルタンク間のホースにエアが入り，注油スイッチを押してもオイルが送られない場合は，エア抜きキャップを押し，エア抜きしてから作動してください。

6. 各部チェーンや刈刃に注油されていることを確認します。

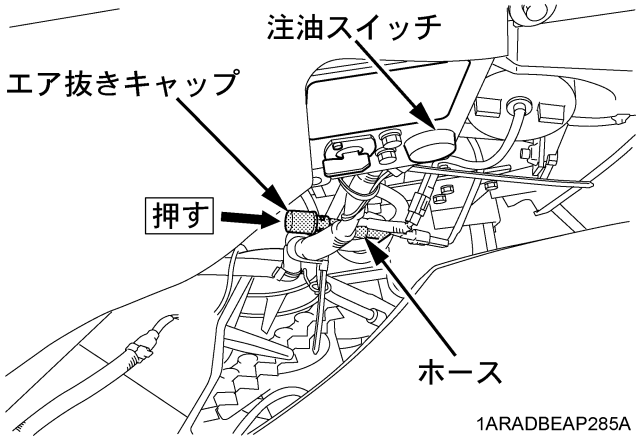
補　足

＊ 注油されていないときは，各注油ホースのノズルの掃除を行なってください。
＊ 必要以上に注油しないでください。機械が汚れるばかりでなく，故障の原因になります。
＊ 最初の１回目は配管内部にオイルがゆきわたり，配管内部にオイルが充満したことを確認したあと注油してください。配管内にオイルがゆきわたるまで約 30 秒かかります。

◆エア抜きの方法

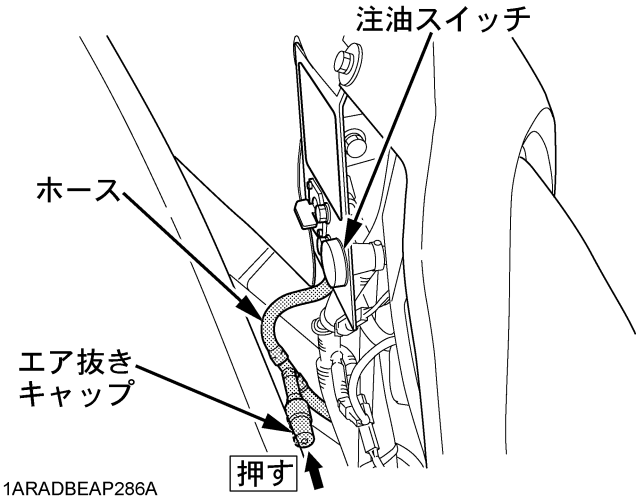
図示のエア抜きキャップを押してから，注油スイッチを押して，油を送出してください。

[327・331・338]



[327・331・338]

[433・438・445]



[433・438・445]

1. 注油後２～３分間そのままの状態で運転します。
2. 主変速レバーを**【停止】**位置にし，エンジンを止めたあと，引起しサイドカバー右を取付けます。

◆ 注油箇所・集中注油ノズルの掃除・グリース塗布

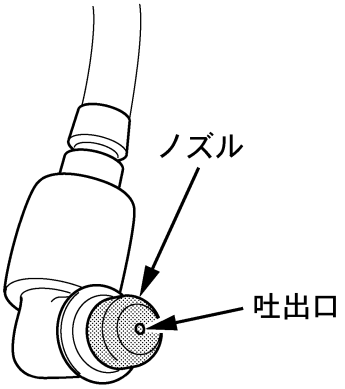
自動集中注油で注油が行なえる箇所以外の注油は，油差しで行なってください。

1. 自動集中注油箇所と掃除のしかた

ノズルからオイルが出ていないときは，エンジンを必ず止めて，各ノズルの吐出口の掃除を行なってください。掃除を行なうときは，水洗い又は，圧縮空気などを使用してください。

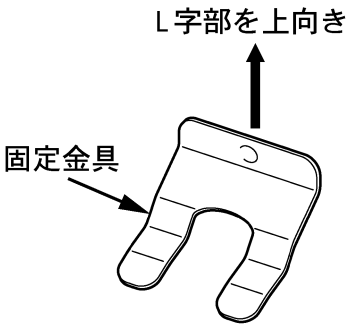
補　足

＊ ノズル先端部の吐出口の掃除を行なうときは，必ず針などを使用してください。つまようじなど折れやすい物を使用すると詰まりの原因となります。また，各ノズルの先端を固定している金具・ボルト・スナップピンなど各固定部品を取外すと掃除が容易に行なえます。



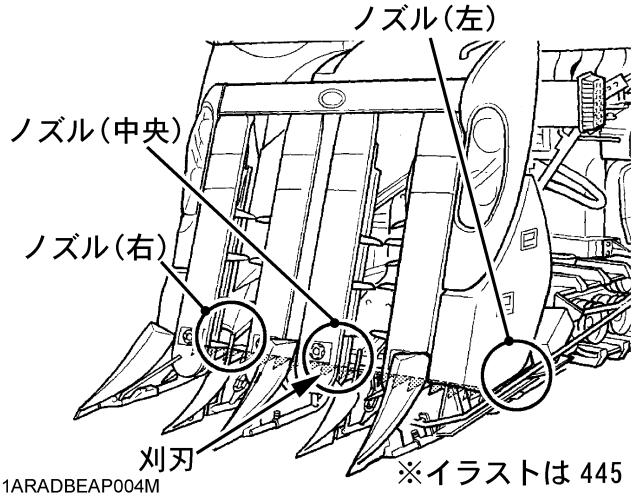
1ARADBEAP287A

＊ 固定金具を取付けるときは，必ず金具のＬ字部を上側に向けて取付けてください。



1ARADBEAP288A

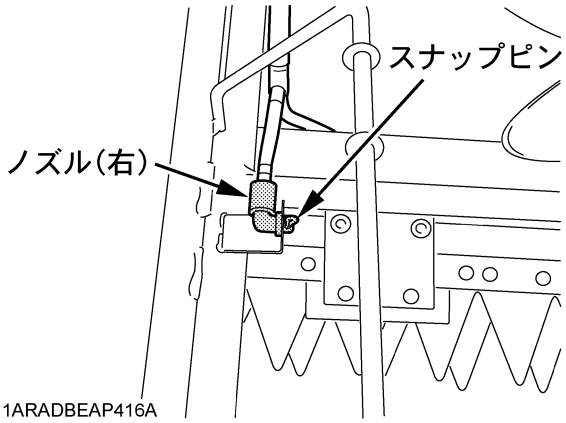
● **刈刃**



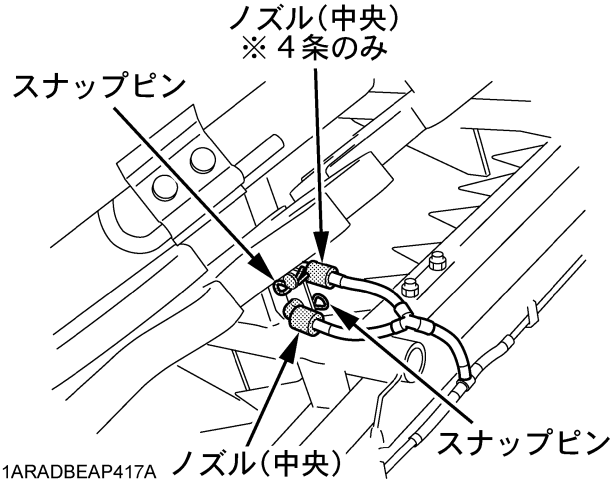
1ARADBEAP004M

掃除箇所

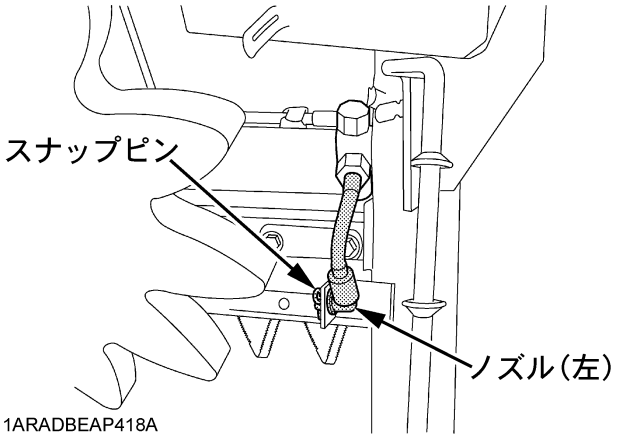
刈取部を最上昇したあと刈取下降ロックをし，泥などの異物を取除いてください。また，引起しサイドカバー左右を取外したあと，スナップピンを取外してください。



1ARADBEAP416A



1ARADBEAP417A

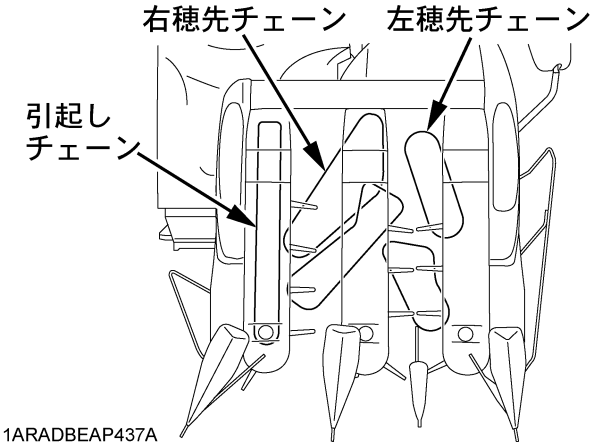


1ARADBEAP418A

[DX 仕様]

●引起しチェーン　●右穂先チェーン
●左穂先チェーン

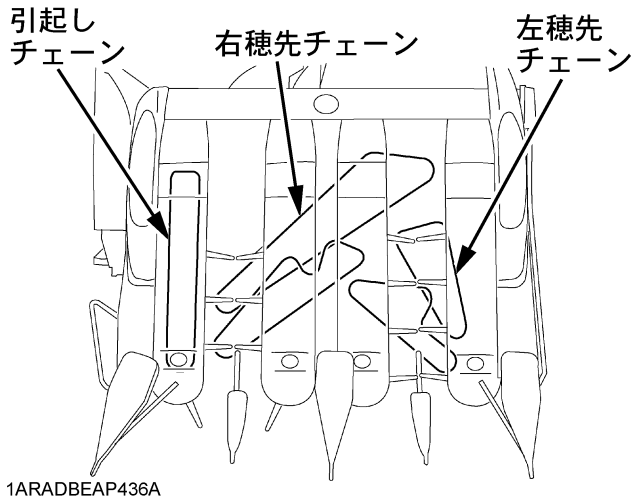
[327・331・338]



1ARADBEAP437A

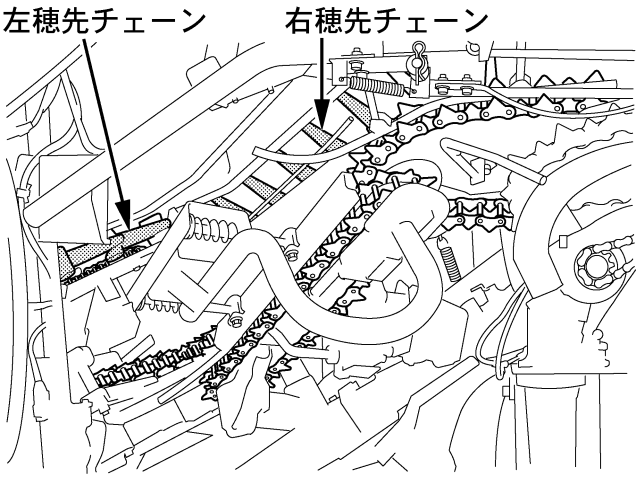
[327・331・338]

[433・438・445]



1ARADBEAP436A

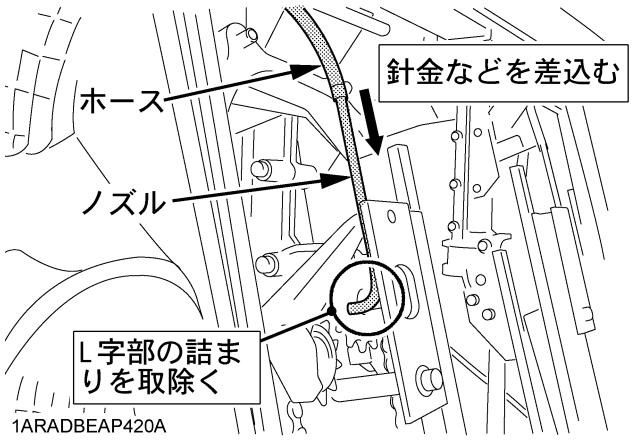
[433・438・445]



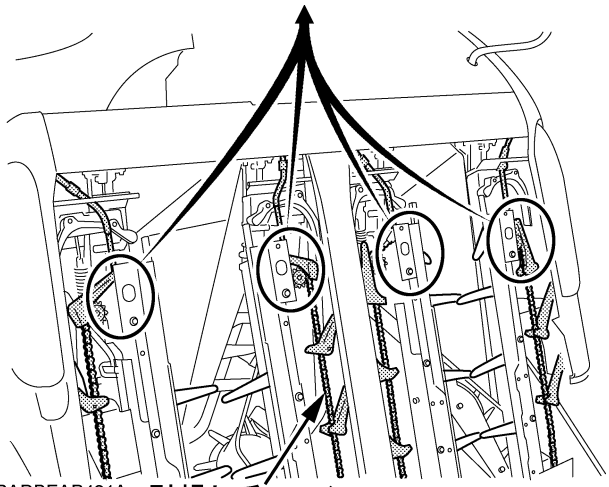
1ARADBEAP419A

掃除箇所

●引起しチェーン
各引起しカバーを取外したあと，ホースをノズルから抜取り，針金などでＬ字部の詰まりを取除いてください。



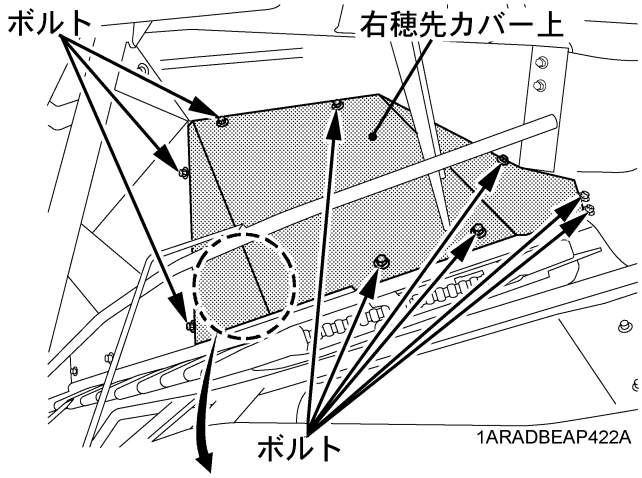
1ARADBEAP420A

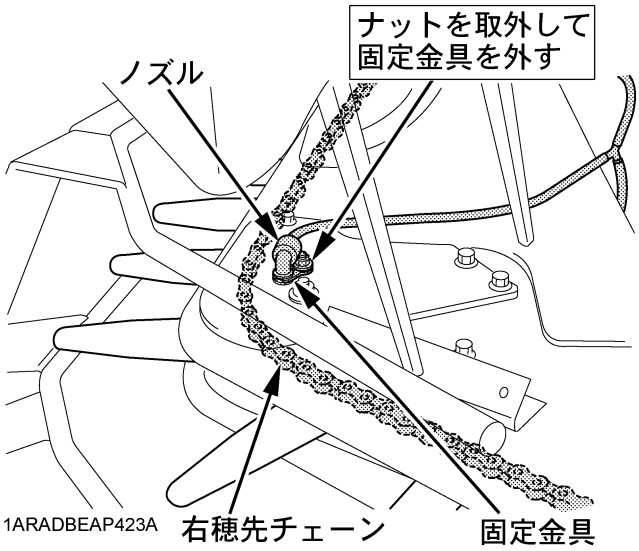

1ARADBEAP421A 引起しチェーン ※イラストは 445

●右穂先チェーン

ボルトを取外して右穂先カバー上を外したあと，固定金具を取外してください。

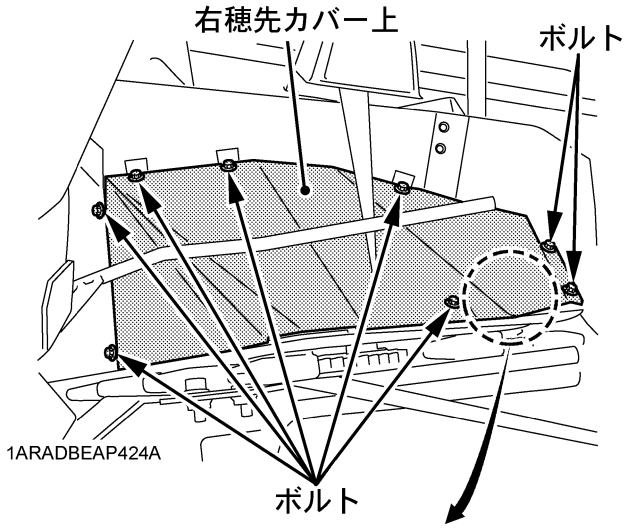
[327・331・338]

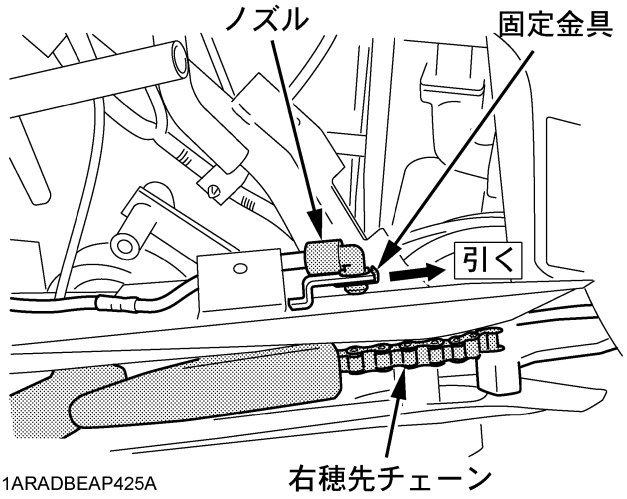




[327・331・338]

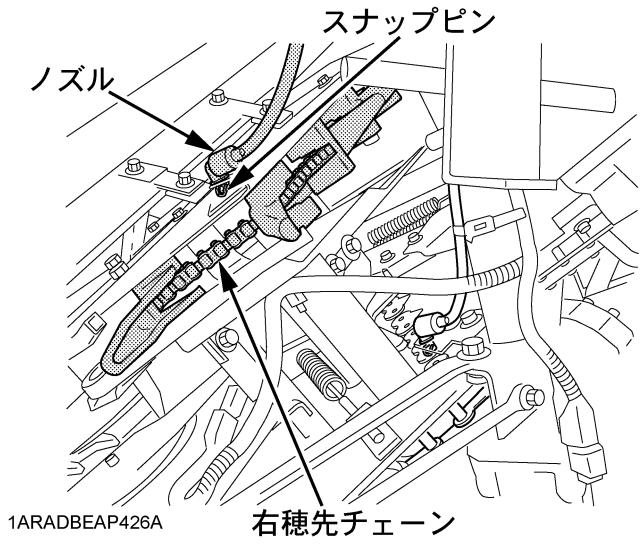
[433・438・445]





[433・438・445]

●左穂先チェーン
スナップピンを取外してください。

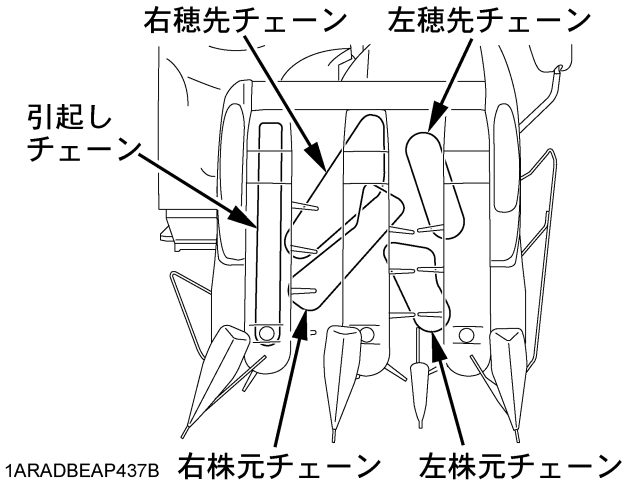


[DX 仕様]

[SD 仕様]

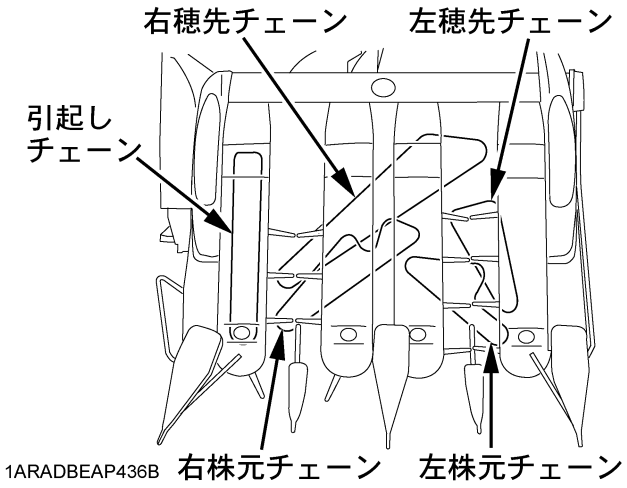
●引起しチェーン　●右穂先チェーン
●右株元チェーン　●左穂先チェーン
●左株元チェーン　●株元供給チェーン
●供給サポートチェーン
●供給サポートチェーン駆動チェーン
●こぎ深さチェーン　●フィードチェーン
●排わら穂先チェーン　●排わら株元チェーン

[327・331・338]

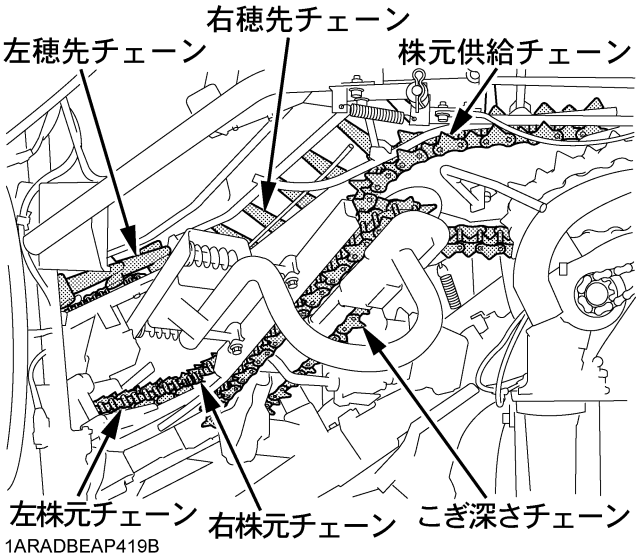


[327・331・338]

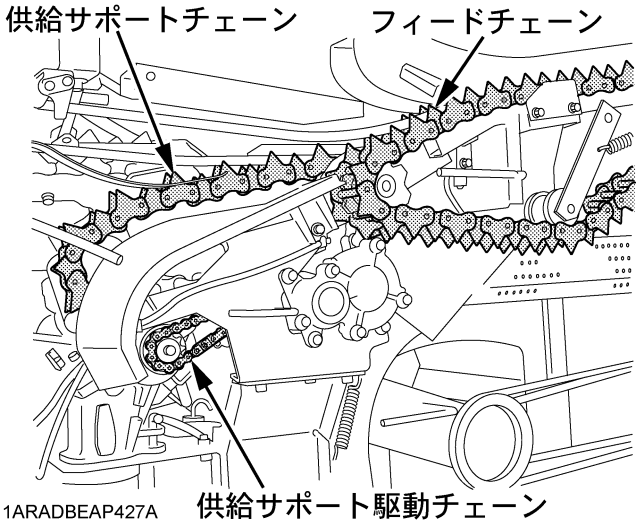
[433・438・445]



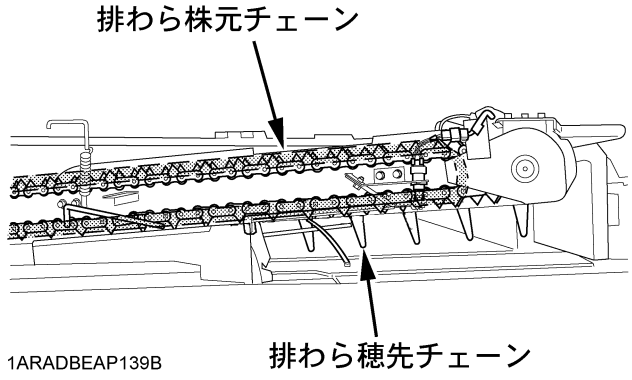
[433・438・445]



1ARADBEAP419B



1ARADBEAP427A

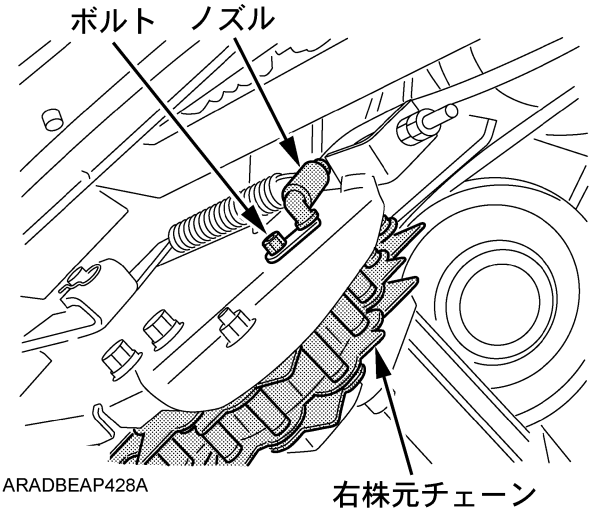


1ARADBEAP139B

掃除箇所

- **引起しチェーン**　●**右穂先チェーン**
- **左穂先チェーン**
  は**［DX 仕様］**を参照してください。
- **右株元チェーン**

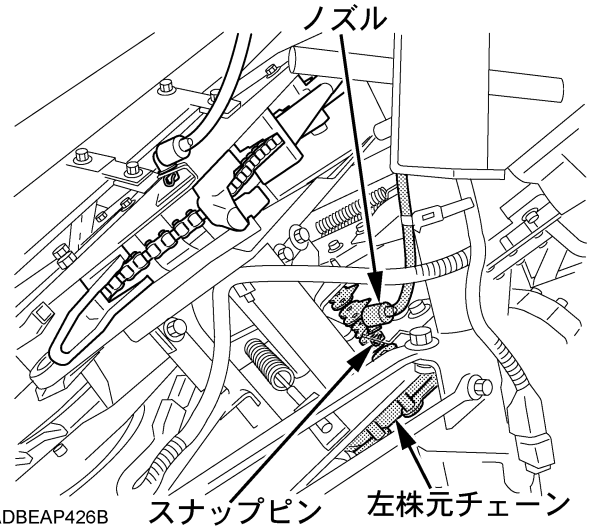
ボルトを取外してください。



1ARADBEAP428A

- **左株元チェーン**

スナップピンを取外してください。

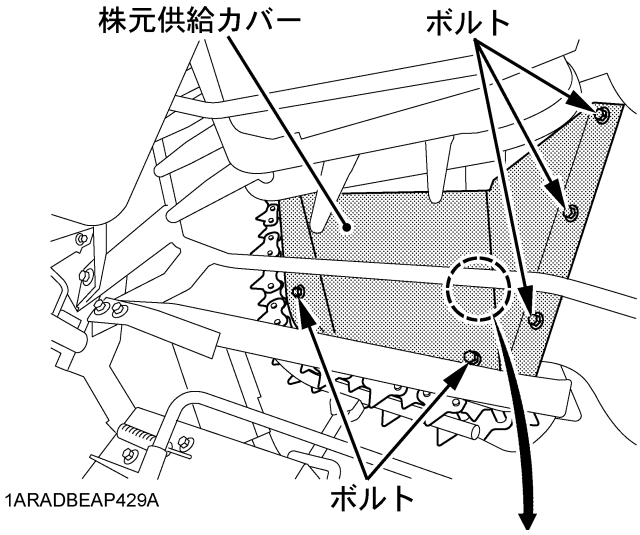


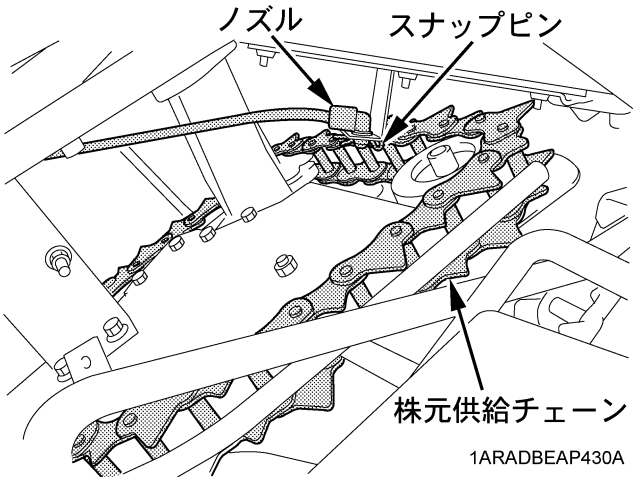
1ARADBEAP426B

●株元供給チェーン

[327・331・338]

ボルト５本を取外し，株元供給カバーを外したあと，スナップピンを取外してください。

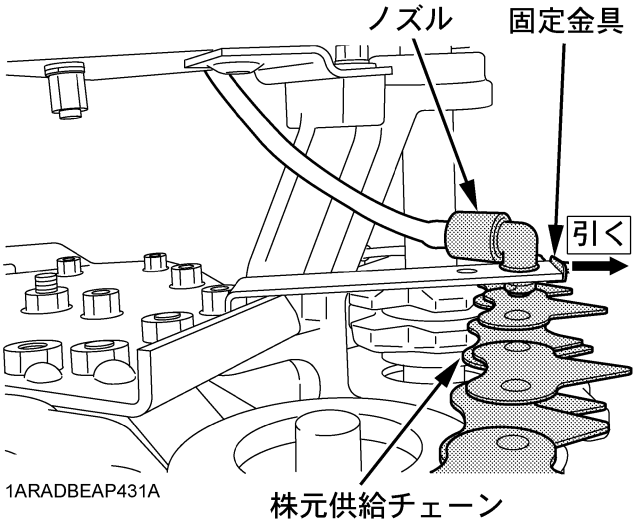


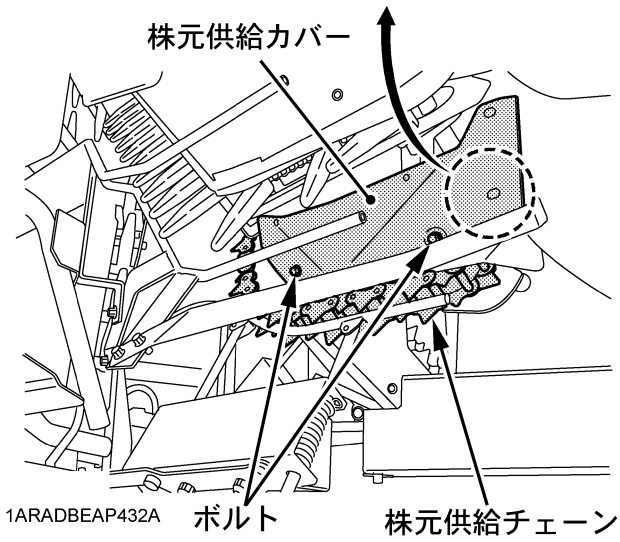


[327・331・338]

[433・438・445]

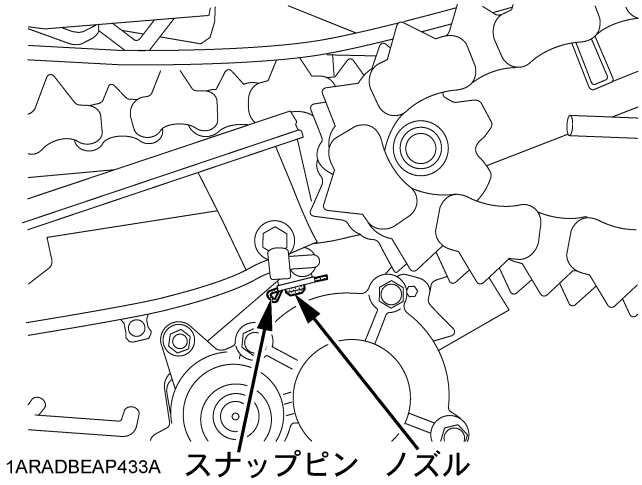
ボトル２本を取外し，株元供給カバーを外したあと，固定金具を取外してください。

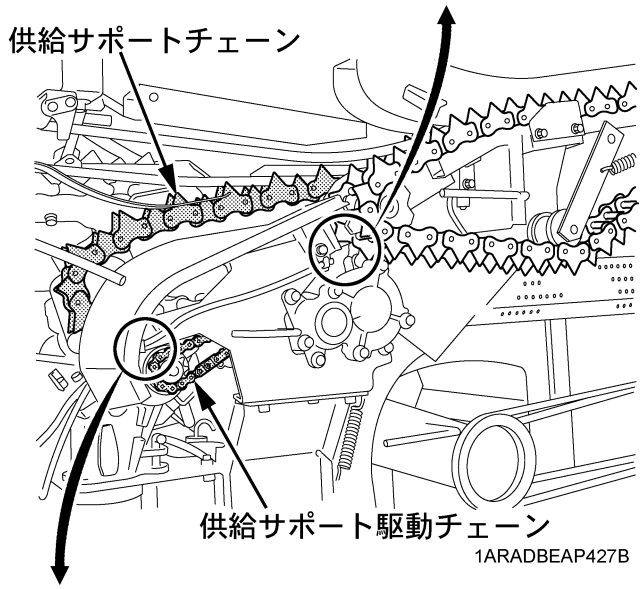


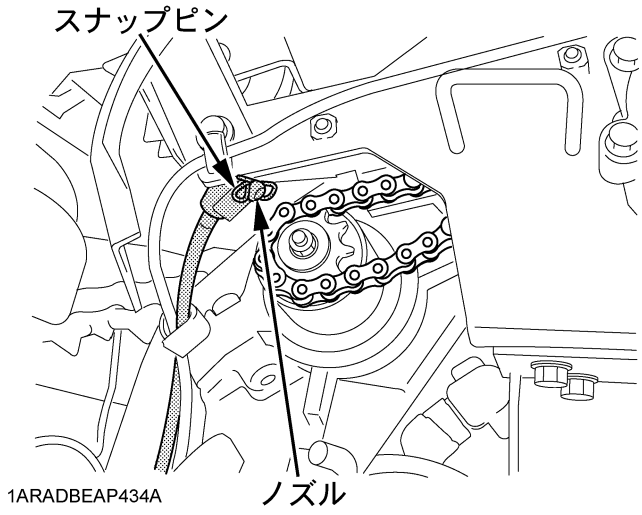


[433・438・445]

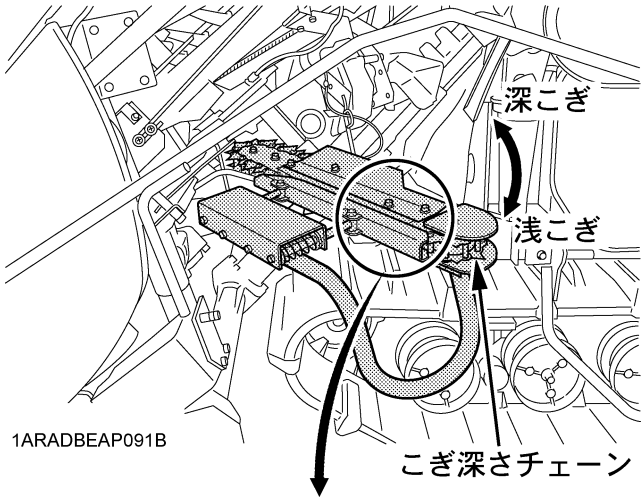
●供給サポートチェーン
●供給サポート駆動チェーン
左サイドカバー上，下を外したあと，スナップピンを取外してください。

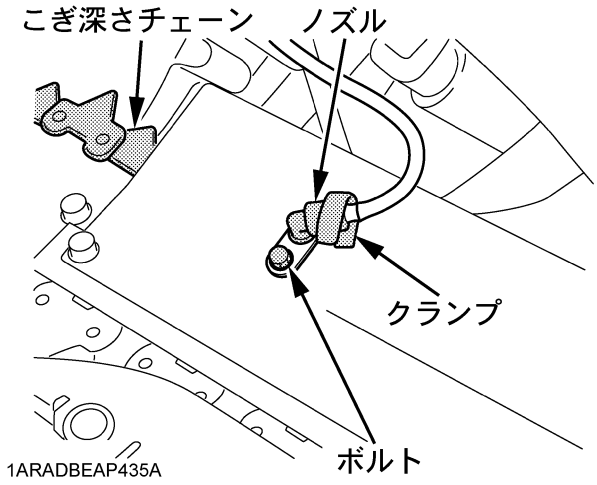




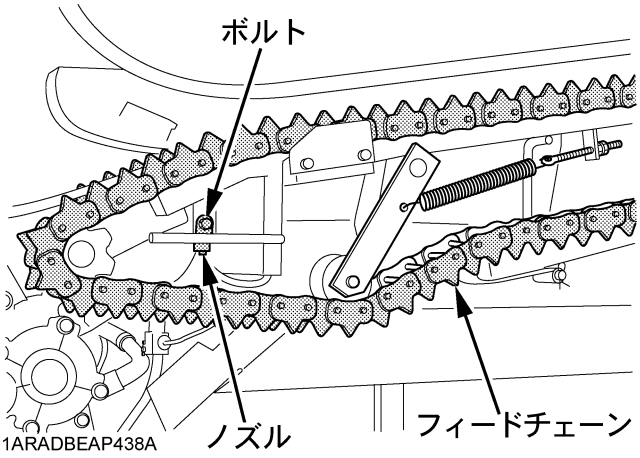


●こぎ深さチェーン
こぎ深さチェーンを**浅こぎ**位置にしたあと，クランプを外してボルトを取外してください。

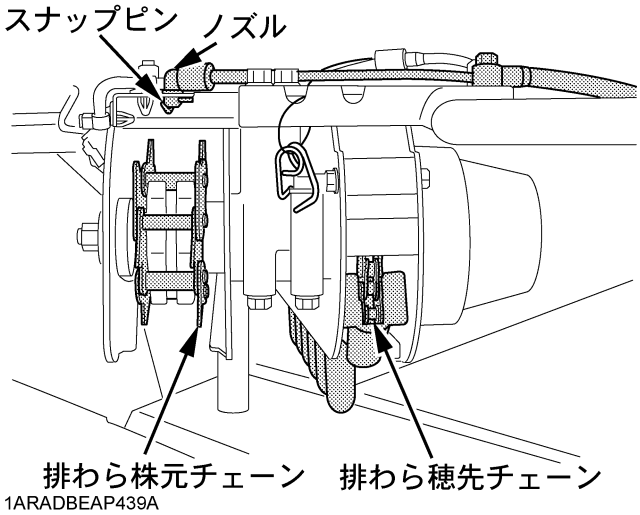




●フィードチェーン
左サイドカバーを外したあと，ボルトを取外してください。



●排わら穂先チェーン　●排わら株元チェーン
排わら穂先チェーンのノズルの掃除は不要です。また，排わら株元チェーンは上部カバーを上げて，カバーステーで下降防止を行なったあと，スナップピンを取外してください。

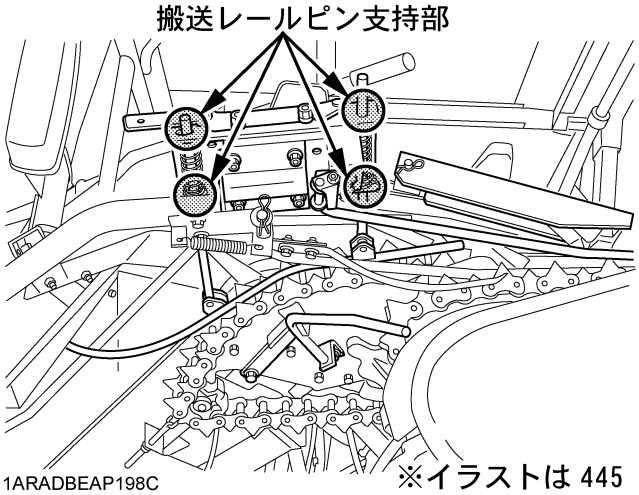


1ARADBEAP439A

[SD 仕様]

2. 手差し注油
下記箇所は油差しを使用して行なってください。

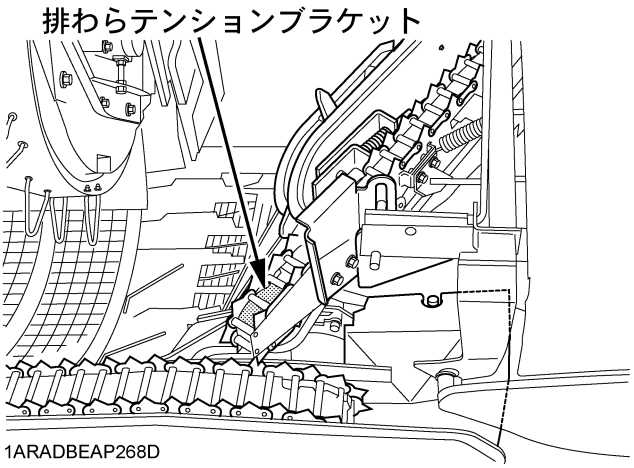
●搬送レールピン支持部



1ARADBEAP198C

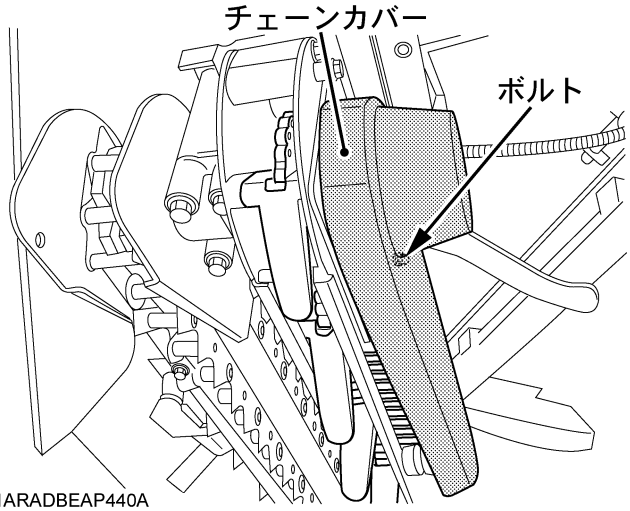
※イラストは 445

●排わら株元チェーンテンション部（排わらテンションブラケット）

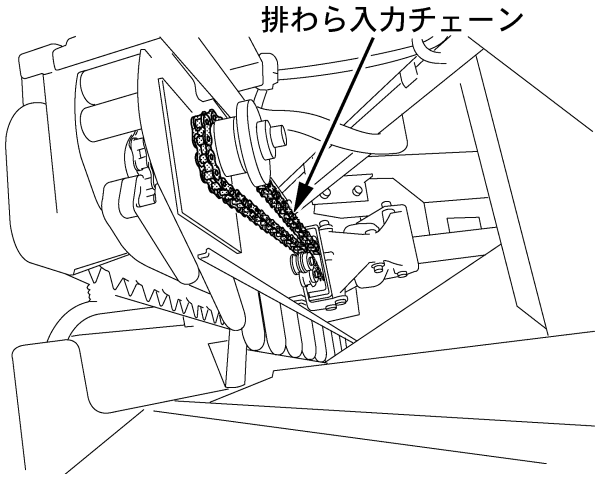


1ARADBEAP268D

●排わら入力チェーン
ボルトを取外してチェーンカバーを外してください。



1ARADBEAP440A

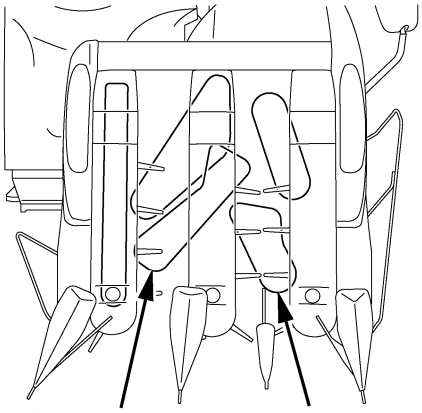


1ARADBEAP441A

[DX 仕様]

- **右株元チェーン　●左株元チェーン**
- **株元供給チェーン　●供給サポートチェーン**
- **供給サポートチェーン駆動チェーン**
- **こぎ深さチェーン　●フィードチェーン**

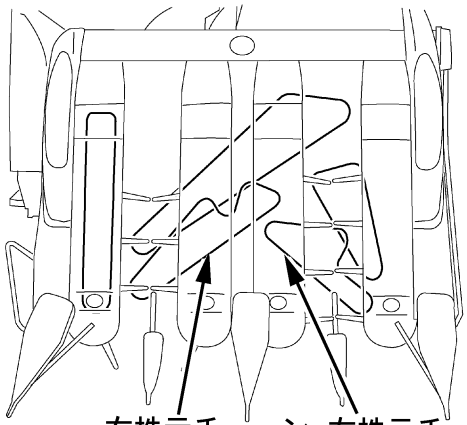
[327・331・338]



1ARADBEAP437C 右株元チェーン　左株元チェーン

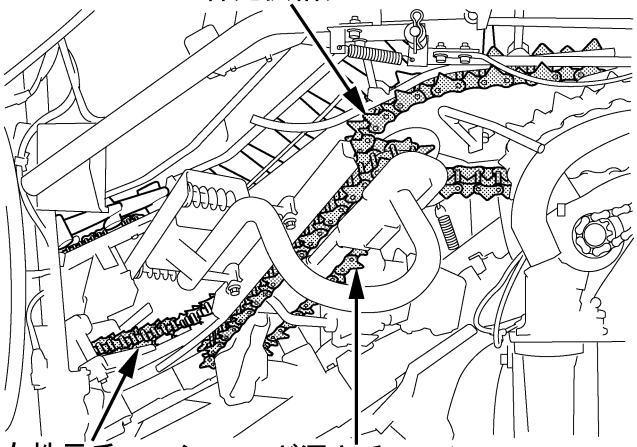
[327・331・338]

[433・438・445]

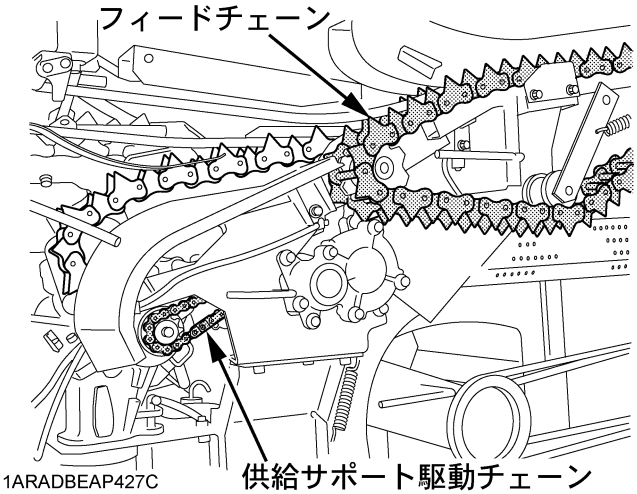


1ARADBEAP436C 右株元チェーン　左株元チェーン

[433・438・445]

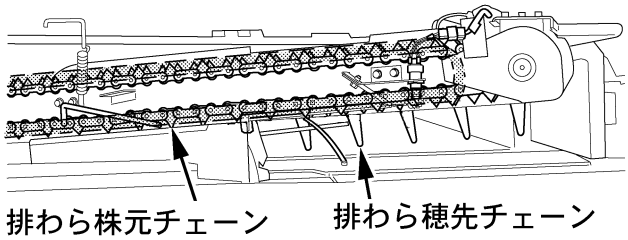


1ARADBEAP419C ※イラストは 445



1ARADBEAP427C

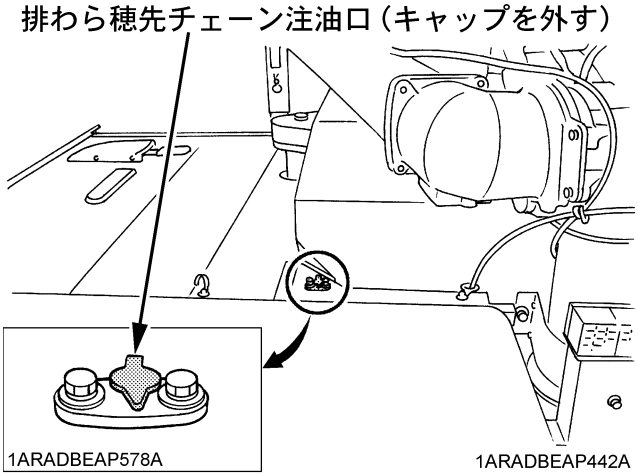
- **排わら穂先チェーン　●排わら株元チェーン**



1ARADBEAP139C

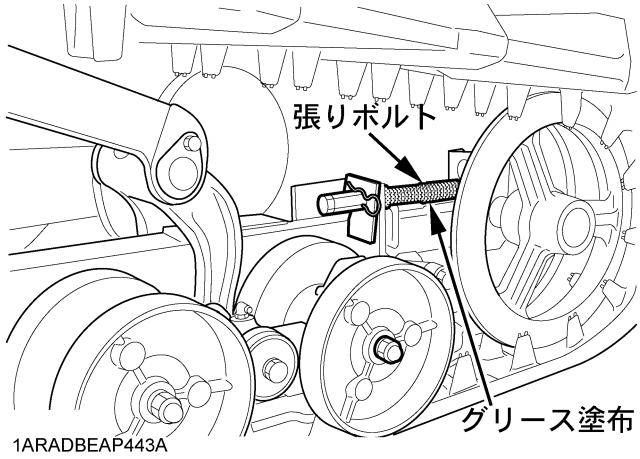
[DX 仕様]

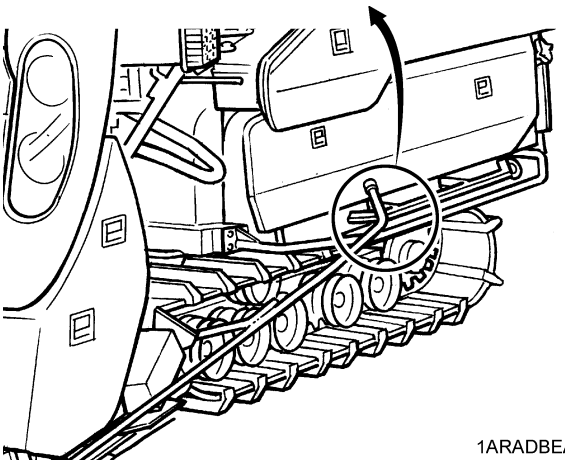
●排わら穂先チェーン
エンジンを始動したあと，脱こく部を中速回転しながら，注油してください。



3. グリース塗布
グリースを塗布してください。

●クローラ張りボルト（左，右）





定期点検

定期点検は，コンバイン作業を行なう人が定期的に行なう点検です。
コンバインは，使用時間と使用状況に応じて劣化が進み，その構造や装置の性能が低下します。これを放置しておくと故障や事故の原因となり，ひいてはコンバインの寿命を短くしてしまいます。コンバインの持つ性能がいつまでもじゅうぶん発揮できるよう，定期的に点検を行ないましょう。

警　告

＊ 各部の調整・点検・交換を行なうときは，エンジンを必ず停止させ，各レバー類を［切］位置にして，回転部を止めてから作業をしてください。
＊ 取外した回転部のカバー類は，衣服などが巻込み危険ですので，点検後は必ず取付けてから作業をしてください。

注　意

＊ 点検・作業するときは，駐車ブレーキを掛けてください。また刈取部は一番下まで降してください。
もし刈取部を上げた状態で作業するときは，刈取下降ロックレバーで刈取部の下降防止を行なってください。さらに枕木などを使用して落下防止の歯止めをしてください。
＊ エンジンルーム内の点検のためカバーを外すときは，内部がじゅうぶん冷え，ヤケドのおそれがないことを確認してください。
＊ オイル交換中は火気厳禁。
＊ 刈刃やカッタの掃除や注油時は，手袋を着用し刃部に注意しながら行なってください。
＊ 機械は平たんで，周りにわらくずなどの燃えやすいごみのない場所へおいてください。バッテリ，マフラやエンジン周辺部にごみや燃料の付着，泥の堆積などがあると火災の原因となります。
＊ 燃料，オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。

補　足

＊ 専門的な技術や特殊工具を必要とする場合及び定期点検一覧表の参照ページ欄に☆印のある項目は，購入先にご相談ください。

■オイル･フィルタ類の交換とチェーン･ベルト･クローラの張り調整

1. 新車時はコンバインの回転・しゅう動部の各部品はなじみがついていませんのでならし運転期間中に細かい金属粉が生じ，部品の極度な摩耗につながるおそれがあります。よって，オイル･フィルタ類は初期 50 時間で交換してください。
2. チェーンやベルト類・クローラはならし運転中に初期伸びが発生します。初期 20 又は，50 時間で張り調整をしてください。
（交換したときも同様です。）

■廃棄物の処理について

警　告

廃棄物をみだりに捨てたり，焼却すると，環境汚染につながり，法令により処罰されることがあります。
廃棄物を処理するときは
＊ 機械から廃液を抜く場合は，容器に受けてください。
＊ 地面へのたれ流しや河川，湖沼，海洋への投棄はしないでください。
＊ 廃油，燃料，冷却水（不凍液），冷媒，溶剤，フィルタ，バッテリ，ゴム類，その他の有害物を廃棄，又は焼却するときは，購入先，又は産業廃棄物処理業者などに相談して，所定の規則に従って処理してください。

■洗車時の注意

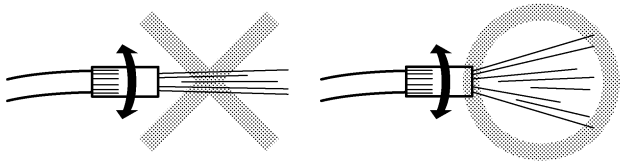
高圧洗車機の使用方法を誤ると人をケガさせたり，機械を破損・損傷・故障させることがありますので，高圧洗車機の取扱説明書・ラベルに従って，正しく使用してください。

注　意

機械を損傷させないように洗浄ノズルを拡散にし，２ｍ以上離して洗車してください。
もし，直射にしたり，不適切に近距離から洗車すると，

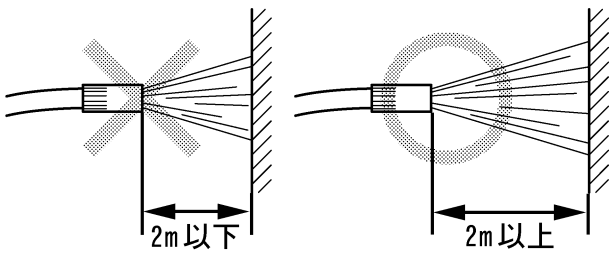
1. **電気配線部被覆の損傷・断線により，火災を引き起こすおそれがあります。**
2. **油圧ホースの破損により，高圧の油が噴出して傷害を負うおそれがあります。**
3. **機械の破損・損傷・故障の原因になります。**
   例）
   (1) シール・ラベルの剥がれ
   (2) 電装部品，エンジン・ラジエータ室内，キャビン室内等への浸入による故障
   (3) クローラ，タイヤ，オイルシール等のゴム類，化粧カバー等の樹脂部品，ガラス等の破損
   (4) 塗装，メッキ面の皮膜剥がれ

直射洗車厳禁



1AGACBRAP067A

近距離洗車厳禁



1AGACBRAP068A

■使用者が行なってはいけない修理

下記部品に異常があるときは購入先に連絡してください。

- 電気系統（自動制御関係）
- 結束部（ケッセツブカンビ）
- エンジン本体
- トランスミッションケース
- ギヤ(ベベルギヤを含む)を内蔵したケース類
- 油圧系統
- 電気部品と電気系統
- 刈取部の動力伝達系統

■定期点検一覧表

※処置項目：点検・調整・掃除・締付け（バンド）・充電

点検項目	点検・処置／交換	点検・交換時期（アワメータ表示時間）	対象型式	参照ページ
◆エンジン部				
ファン駆動ベルト	調整	初回又は,交換後:50時間後,それ以降100時間ごと	全型式	204 ☆
	交換	250 時間ごと		
逆流ファン切換えワイヤ	交換	500 時間ごと	338・433・445	☆
エアクリーナエレメント	掃除	50 時間ごと	全型式	187
	交換	300 時間ごと（点検・掃除が６回目のときに交換）		
インレットパイプ（エアクリーナ）	締付け	150 時間又は，６ヵ月ごとの早いほうで点検・処置	全型式	189
	交換	300 時間又は，２年ごとの早いほうで交換		
フューエルフィルタエレメント	掃除	100 時間ごと	全型式	191
	交換	400 時間ごと		
フューエルフィルタカートリッジ	交換	400 時間ごと	全型式	191
オイルフィルタカートリッジ	交換	初回：50 時間後，それ以降 200 時間ごと（エンジンオイルの交換が２回目のとき，同時に交換）	全型式	193
フューエルパイプ	締付け	150 時間又は，６ヵ月ごとの早いほうで点検・処置	全型式	189 ☆
	交換	300 時間又は，２年ごとの早いほうで交換		
燃料こしあみ	掃除	100 時間ごと	全型式	177
オイルドレーンゴムホース	締付け	150 時間又は，６ヵ月ごとの早いほうで点検・処置	全型式	☆
	交換	300 時間又は，２年ごとの早いほうで交換		
ラジエータホース	締付け	150 時間又は，６ヵ月ごとの早いほうで点検・処置	全型式	189 ☆
	交換	300 時間又は，２年ごとの早いほうで交換		
防じんあみ，ラジエータフィン，オイルクーラフィン	掃除	50 時間ごと	全型式	190
コンデンサフィン	掃除	50 時間ごと	Q 仕様	190
◆走行・操作部				
ミッション駆動ベルト	調整	初回又は,交換後:20時間後,それ以降100時間ごと	全型式	204 ☆
	交換	300 時間ごと		
駐車ブレーキワイヤ	調整	初回又は,交換後:50時間後,それ以降100時間ごと	全型式	195 ☆
	交換	300 時間ごと		
ブレーキシュー	交換	500 時間又は，２年ごとの早いほうで交換	全型式	☆
ＳＦ ワンレバーリリーフワイヤ	調整	初回又は,交換後:50時間後,それ以降100時間ごと	全型式	13 ☆
	交換	500 時間又は，2 年ごとの早いほうで交換		
かき込みワイヤ	交換	500 時間ごと	全型式	☆
かき込み規制ワイヤ	交換	500 時間ごと	全型式	☆
HST オイルフィルタカートリッジ	交換	初回又は,交換後:50時間後,それ以降300時間ごと（油圧オイルタンクオイルの交換と同時に交換）	全型式	194 ☆

＊ 参照ページに☆印のある整備項目（交換）については，購入先又は，整備工場で行なってください。
＊ 上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス（保守・点検）により異なる場合があります。

重　要

＊ 各ベルト・チェーン・各ワイヤを交換したあとは，ならし運転後の点検と調整を行なってください。

※処置項目：点検・調整・掃除・締付け（バンド）・充電

点検項目	点検・処置／交換	点検・交換時期（アワメータ表示時間）	対象型式	参照ページ
ミッション吸入フィルタ	交換	300 時間ごと	全型式	☆
油圧オイルタンクフィルタ	洗浄	初回又は，交換後：50 時間後，それ以降 300 時間ごと（油圧オイルタンクの交換と同時に交換）	全型式	194
	交換	600 時間ごと	全型式	194
クローラ	調整	初回又は,交換後:20時間後,それ以降100時間ごと	全型式	246 ☆
	交換	500 時間ごと		
反射器	交換	破損しているとき	全型式	☆
車幅灯ラベル	交換	破損しているとき	全型式	☆
ドライブスプロケット，可動ローラ	交換	300 時間ごと	全型式	☆
トラックローラ（固定転輪，揺動転輪）	点検	100 時間ごと	全型式	☆
	交換	500 時間ごと又は，リブの厚さが 2 ㎜ 以下のとき		
テンションローラ（後輪），キャリアローラ，クローラガイド（前，後）	交換	500 時間ごと	全型式	☆
ブッシュ（モンローリンク，揺動転輪軸部）	交換	500 時間ごと	全型式	☆
シール（車軸，トラックローラ，テンションローラ，キャリアローラ）	交換	500 時間ごと	全型式	☆
ベアリング（トラックローラ，テンションローラ，キャリアローラ）	交換	500 時間ごと	全型式	☆
◆刈取部				
刈刃駆動ベルト	調整	初回又は,交換後:20時間後,それ以降100時間ごと	全型式	205 ☆
	交換	300 時間ごと		
補助搬送（突起付）ベルト	調整	初回又は,交換後:50時間後,それ以降100時間ごと	全型式	207 ☆
	交換	500 時間ごと		
引起しチェーン	調整	初回又は,交換後:50時間後,それ以降100時間ごと	全型式	212 ☆
	交換	300 時間ごと		
引起し爪	交換	300 時間ごと	全型式	
引起しローラ	交換	500 時間ごと	全型式	☆
引起しスプロケット	交換	500 時間ごと	全型式	☆
引起しスライドレール	交換	1000 時間ごと	全型式	☆
引起しクッションゴム	交換	1000 時間ごと	全型式	☆
供給サポートチェーン	調整	初回又は,交換後:50時間後,それ以降100時間ごと	全型式	217 ☆
	交換	300 時間ごと		
供給サポートチェーン駆動チェーン	交換	300 時間ごと	全型式	☆

＊ 参照ページに☆印のある整備項目（交換）については，購入先又は，整備工場で行なってください。
＊ 上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス（保守・点検）により異なる場合があります。

重　要

＊ 各ベルト・チェーン・各ワイヤを交換したあとは，ならし運転後の点検と調整を行なってください。

※処置項目：点検・調整・掃除・締付け（バンド）・充電

点検項目	点検・処置／交換	点検・交換時期（アワメータ表示時間）	対象型式	参照ページ
供給サポートチェーン駆動チェーンのタイトナ	交換	300 時間ごと	全型式	☆
供給サポートチェーンの駆動スプロケット	交換	500 時間ごと	全型式	☆
右穂先チェーン	交換	300 時間ごと	全型式	213
右穂先爪	交換	300 時間ごと	全型式	☆
右株元チェーン	調整	初回又は,交換後:50時間後,それ以降100時間ごと	全型式	214
	交換	400 時間ごと		☆
株元供給チェーン	調整	初回又は,交換後:50時間後,それ以降100時間ごと	全型式	216
	交換	300 時間ごと		☆
左穂先チェーン	交換	300 時間ごと	全型式	213
左穂先爪	交換	300 時間ごと		☆
左株元チェーン	調整	初回又は,交換後:50時間後,それ以降100時間ごと	全型式	
	交換	300 時間ごと		☆
こぎ深さチェーン	調整	初回又は,交換後:50時間後,それ以降100時間ごと	全型式	218
	交換	300 時間ごと		☆
刈刃	調整	初回又は,交換後:50時間後,それ以降100時間ごと	全型式	219
	交換	300 時間ごと		☆
刈刃クランクピン，ローラ，ベアリング，ベアリングホルダ，オイルシール	交換	300 時間ごと	全型式	☆
株元センサ	交換	800 時間ごと	全型式	☆
穂先センサ（株元側，穂先側）	交換	800 時間ごと	全型式	☆
パッカ	交換	800 時間ごと	全型式	☆
◆脱こく部				
脱こく駆動ベルト	調整	初回又は,交換後:20時間後,それ以降100時間ごと	全型式	206
	交換	300 時間ごと		☆
こぎ胴駆動ベルト	調整	初回又は,交換後:20時間後,それ以降100時間ごと	全型式	208
	交換	300 時間ごと		☆
こぎ胴駆動ケースベルト	点検	初回又は,交換後:20時間後,それ以降100時間ごと	全型式	208
	交換	300 時間ごと		☆
2 番・チェーン駆動ベルト	調整	初回又は,交換後:20時間後,それ以降100時間ごと	全型式	209
	交換	300 時間ごと		☆
揺動・1 番駆動ベルト	調整	初回又は,交換後:20時間後,それ以降100時間ごと	全型式	209
	交換	300 時間ごと		☆
フィードチェーン	調整	初回又は,交換後:50時間後,それ以降100時間ごと	全型式	218
	交換	400 時間ごと		☆
排わら穂先チェーン	調整	初回又は,交換後:50時間後,それ以降100時間ごと	全型式	218
	交換	300 時間ごと		☆
排わら穂先搬送爪	交換	300 時間ごと		☆
排わら株元チェーン	交換	300 時間ごと	全型式	☆
排わら入力チェーン	点検	初回又は,交換後:50時間後,それ以降100時間ごと	全型式	219
	交換	300 時間ごと		☆
わら切刃	交換	200 時間ごと	全型式	223
こぎ歯	交換	300 時間ごと	全型式	222

＊ 参照ページに☆印のある整備項目（交換）については，購入先又は，整備工場で行なってください。
＊ 上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス（保守・点検）により異なる場合があります。

重 要

＊ 各ベルト・チェーン・各ワイヤを交換したあとは，ならし運転後の点検と調整を行なってください。

※処置項目：点検・調整・掃除・締付け（バンド）・充電

点検項目	点検・処置／交換	点検・交換時期（アワメータ表示時間）	対象型式	参照ページ
受あみ１	交換	450 時間ごと	全型式	148
受あみ２	交換	400 時間ごと		148
フロントハンプ	交換	400 時間ごと	全型式	☆
1 番縦スクリュ	交換	400 時間ごと	全型式	☆
1 番スクリュ	交換	500 時間ごと	全型式	☆
1 番直交部板金ケース（側板固定側）	交換	400 時間ごと	全型式	152
2 番縦スクリュ	交換	400 時間ごと	全型式	☆
2 番スクリュ	交換	500 時間ごと	全型式	☆
2 番縦スクリュケース	交換	500 時間ごと	全型式	☆
2 番処理ケース	交換	400 時間ごと	全型式	☆
ツース（2 番固定歯）	交換	300 時間ごと	全型式	☆
ツース（2 番回転歯）	交換	300 時間ごと	全型式	☆
◆グレンタンク部				
タンク駆動ケース駆動ベルト	調整	初回又は,交換後:20時間後,それ以降100時間ごと	全型式	210 ☆
	交換	300 時間ごと		
スクリュ駆動ベルト	調整	初回又は,交換後:20時間後,それ以降100時間ごと	全型式	210 ☆
	交換	300 時間ごと		
吐出口ブーツ	交換	破損しているとき	全型式	234
底スクリュ軸	交換	300 時間ごと	全型式	☆
縦スクリュ軸	交換	300 時間ごと	全型式	☆
◆カッタ部				
カッタ駆動ベルト	調整	初回又は,交換後:20時間後,それ以降100時間ごと	全型式	209 ☆
	交換	300 時間ごと		
排わら切換えワイヤ	調整	初回又は,交換後:50時間後,それ以降100時間ごと	全型式	196
	交換	500 時間ごと		
カッタ刃（標準切断刃）	交換	150 時間ごと	全型式	228
カッタ刃（セラミック切断刃）	交換	500 時間ごと		
供給軸と切断軸のナット	増締め	初回又は,交換後:50時間後,それ以降200時間ごと	全型式	226
◆キャビン				
コンプレッサ駆動ベルト	点検	作業シーズン前又は，後	Q 仕様	206 ☆
	交換	２年ごと		
冷媒ガス	点検	作業シーズン前又は，後	Q 仕様	234
内気・外気フィルタ	掃除	使用時間が 30 時間ごと	Q 仕様	233
◆電装部				
バッテリ	充電	インジケータの色が黒色のとき	全型式	235 ☆
	交換	インジケータの色が透明のとき		
ワイヤハーネス，バッテリコード	点検	50 時間ごと	全型式	235,239
	交換	破損しているとき		
ヒューズ・スローブローヒューズ	点検	100 時間ごと	全型式	239 ☆
	交換	破損しているとき		
ランプ（電球）	点検	100 時間ごと	全型式	244 ☆
	交換	破損しているとき		
ホーンスイッチ	点検	100 時間ごと	全型式	244 ☆
	交換	破損しているとき		

＊ 参照ページに☆印のある整備項目（交換）については，購入先又は，整備工場で行なってください。
＊ 上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス（保守・点検）により異なる場合があります。

重　要

＊ 各ベルト・チェーン・各ワイヤを交換したあとは，ならし運転後の点検と調整を行なってください。

■給･注油（水）点検一覧表

種類	点検箇所	処置	点検・交換時期（アワメータ表示時間）		容量・規定量（L）	種類	参照ページ
			点検	交換			
燃料	燃料タンク	補給	作業前又は，作業後	—	・容量……約 40	ディーゼル軽油	177
オイル	エンジン	補給・交換		・初回 …50 時間目 ・２回目以降 …100 時間ごと	＊規定量 オイルゲージの**下限**と**上限**の間 **[327・331・338]** ……4.2 ～ 6.0 **[443・438・445]** ……4.7 ～ 6.8	クボタ純オイル **[327・331・338・443・438]** …… D30 又は，D10W30 **[445]** …… D30 スーパー CD 又は， D10W30 スーパー CD	178
	集中注油オイルタンク	補給		—	・容量……約 1.5		156
	トランスミッションケース	補給・交換	100 時間ごと	・初回 …50 時間目 ・２回目以降 …100 時間ごと	＊規定量 検油口からオイルがにじむまで ……約 6.8	クボタ純オイル ＮＥＷ・ＵＤＴ 又は， スーパー ＵＤＴ	180
	油圧オイルタンク			・初回 …50 時間目 ・２回目以降 …300 時間ごと	＊規定量 オイルゲージの**下限**と**上限**の間 **[D・SD 仕様]** ……13.3～14.7 **[DM 仕様]** ……13.8～15.3 **[SD4M 仕様]** ……14.3 ～ 15.8		181
	フィードチェーン駆動ケース	補給		—	・容量……約 0.15	クボタ純オイル M8OB 又は，M90	182
	こぎ胴駆動ケース			—	・容量……約 0.25		182
	引起しチェーン	注油	作業前又は，作業後	—	適　　量	クボタ純オイル D30 又は，D10W30	156
	搬送レールピン支持部						
	供給チェーン（株元，穂先）						
	フィードチェーン						
	排わらチェーン（株元，穂先）						
	排わらチェーンテンション部（株元，穂先）						

＊ 参照ページに☆印のある整備項目（交換）については，購入先又は，整備工場で行なってください。
＊ 上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス（保守・点検）により，異なる場合があります。

重　要

［各部への補給と交換］

＊ 点検するときは機体を水平な場所において行なってください。傾いていると正確な量を示しません。
＊ 使用するオイル・グリースは，指定の**クボタ純オイル・スペアグリース**を使用してください。
＊ 補給や交換の際は，ゴミや水が混入しないようにしてください。

種類	点検箇所	処置	点検・交換時期（アワメータ表示時間）		容量・規定量（L）	種類	参照ページ
			点検	交換			
水・液	冷却水（リザーブタンク）	補水・交換	作業前又は，作業後	冬期停止時は排出又は，不凍液を入れる	＊規定量 タンク側面の**L**(下限)と**F**（上限）の間 **L**(LOW)……0.15 **F**(FULL) …1.1	清水	185
グリース	**◆走行部**						
	スイングアーム部	補給	作業シーズン終了後	—	適　量	クボタスペアグリース	183
	転輪部						
	シリンダ部						
	◆刈取部						
	刈取部各ケース	補給	分解時	—	適　量	クボタスペアグリース	183
	刈取軸受						
	◆脱こく部						
	排わらベベルケース	補給	分解時	—	適　量	クボタスペアグリース	☆
	１番・ベベルケース						
	２番ベベルケース						
	２番チェーンケース						
	揺動ギヤケース						
	◆グレンタンク部						
	グレンタンク駆動ケース	補給	分解時	—	適　量	クボタスペアグリース	☆
	アンローダケース 1,2,3						183
	縦スクリュケース アンローダブラケット部		200 時間ごと				
	縦スクリュケース 旋回モータベース部 1,2						
	アンローダケース 2						

＊ 参照ページに☆印のある整備項目（交換）については，購入先又は，整備工場で行なってください。
＊ 上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス（保守・点検）により，異なる場合があります。

重　要

［各部への補給と交換］
＊ 点検するときは機体を水平な場所において行なってください。傾いていると正確な量を示しません。
＊ 使用するオイル・グリースは，指定の**クボタ純オイル・スペアグリース**を使用してください。
＊ 補給や交換の際は，ゴミや水が混入しないようにしてください。

■燃料･オイル･グリースの点検･補給･交換

注 意

＊ 燃料やオイル補給中は火気厳禁です。
＊ 燃料を補給する前に給油口やタンク周辺のごみを取除いてください。

重 要

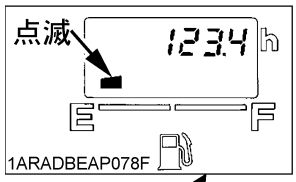
＊ 補給・交換を行なうときは，機械の故障の原因となりますので下記事項を守ってください。
- 廃油は使用しないでください。
- 今まで使用していたオイルと異なるメーカ，あるいは粘度 No. の異なるものを使用する場合は，オイルを全部排出してから，新しいオイルと交換してください。
- 給油口やその周辺からゴミなど異物や水の混入を防ぐため掃除してください。
- 使用するオイル･グリースは**クボタ純オイル・スペアグリース**を使用してください。

＊ 点検するときは機体を水平な場所に置いて行なってください。傾いていると正確な量を示しません。

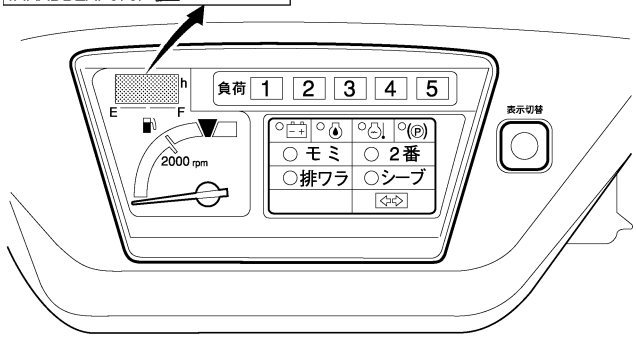
■燃料

[DX 仕様]

メータユニットの燃料計の最後の 1 目盛が点滅し，ブザーが鳴ったとき（燃料警報）は給油してください。



1ARADBEAP078F

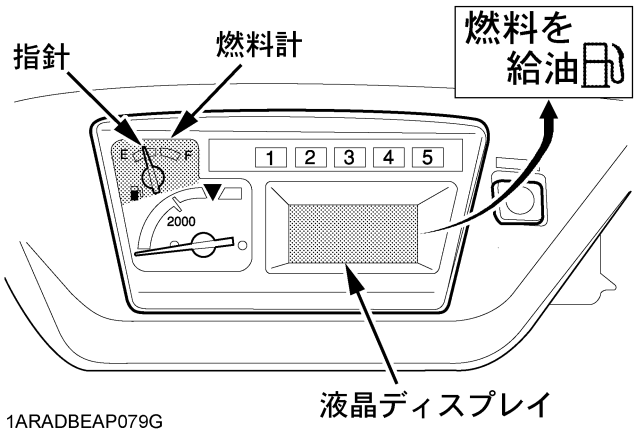


1ARADBEAP078F

[DX 仕様]

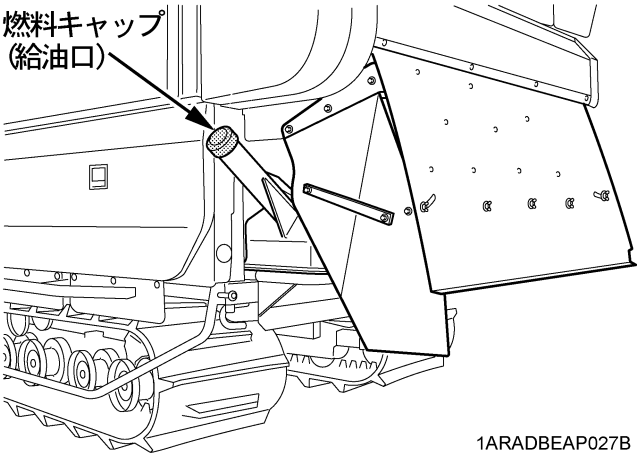
[SD 仕様]

燃料計の指針が **[E]**（空）に近づくと，エアロナビの液晶ディスプレイに **[燃料を給油]** と表示し，ブザーが鳴ったとき（燃料警報）は給油してください。



1ARADBEAP079G

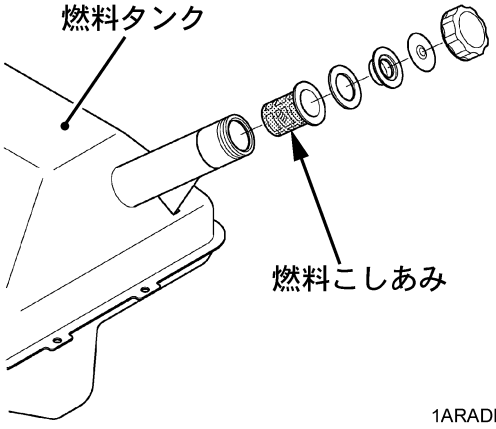
[SD 仕様]



1ARADBEAP027B

重 要

＊ 給油口の燃料こしあみは外さないでください。燃料タンクにゴミなどの異物が混入するとエンジンの故障の原因となります。



1ARADBEAP581A

◆ 給油

燃料を給油するときは平たんな場所でエンジンを止め，燃料キャップを外してください。また，メインスイッチのキーを**[入]**位置にすると燃料が満タン近くになったとき満タンお知らせ機能がはたらき，ブザーが鳴ります。また**[SD 仕様]**は，ブザーが鳴ると同時に液晶ディスプレイに**[燃料満タン]**と表示します。給油後は燃料キャップを取付けてください。

燃料の種類	燃料タンク容量
ディーゼル軽油	約 40L

補　足

＊ **満タンお知らせ機能**は，ブザーが 5 回鳴ると停止します。
＊ ブザーが鳴ったあと，あふれさせないように注意してください。
＊ **満タンお知らせ機能**は下記の条件のとき，はたらかない場合があります。
- エンジン停止後約 20 秒間
- 給油中に機体を揺らしたり，急激に給油したとき
- 給油量が少ないとき

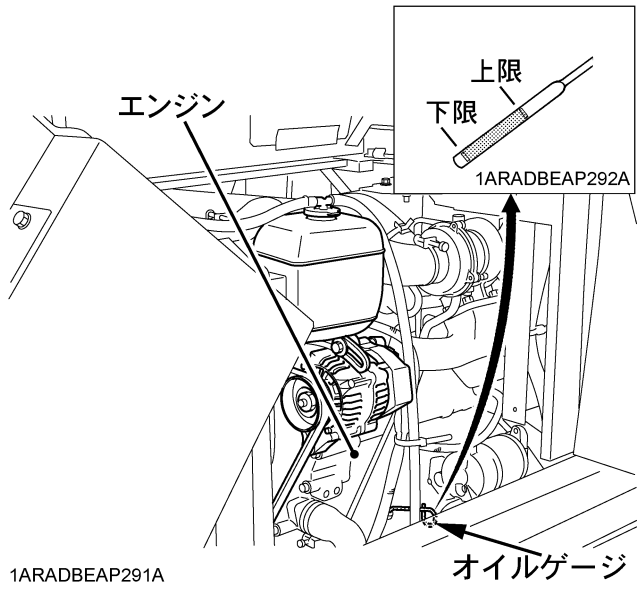
■エンジンオイル

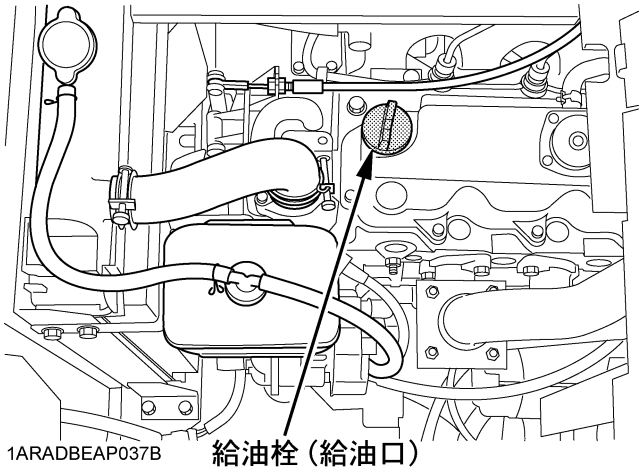
[Q 仕様除く]はエンジンルームをオープンし，**[Q 仕様]**は運転席下カバーを取外してください。
点検・補給・交換後は，エンジンルームを閉じる又は，運転席下カバーを取付けてください。

◆ 点検・補給

エンジン停止後，数分たってからオイルゲージを抜いて，先端をきれいにふき取ります。もう一度いっぱいまで差し込んでから抜き，ゲージの**上限**と**下限**の間にオイルがあるか点検します。不足しているときは，給油口から規定量になるまで給油してください。さらに，油もれのないことも調べてください。

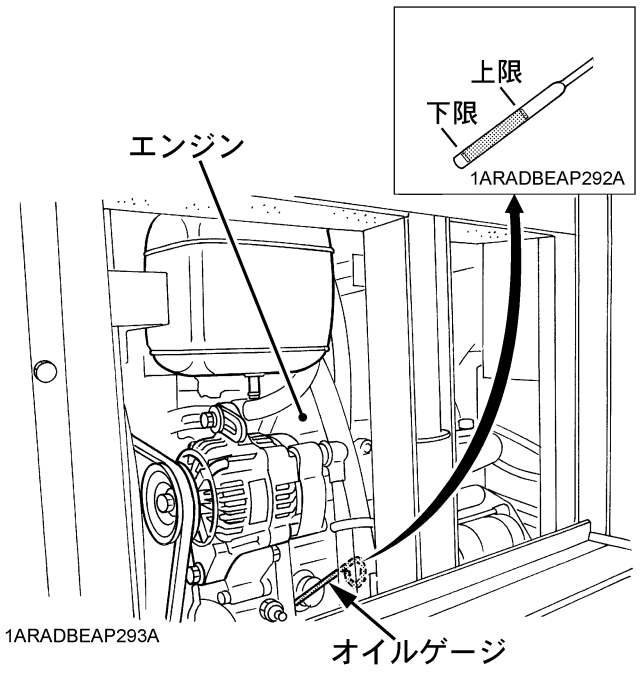
[Q 仕様除く]

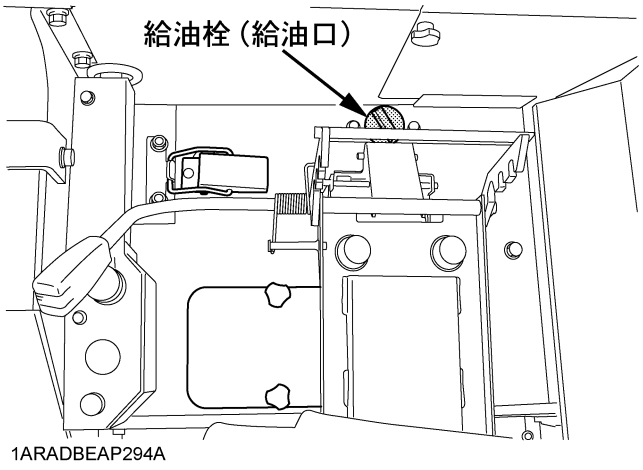




[Q 仕様除く]

[Q 仕様]





[Q 仕様]

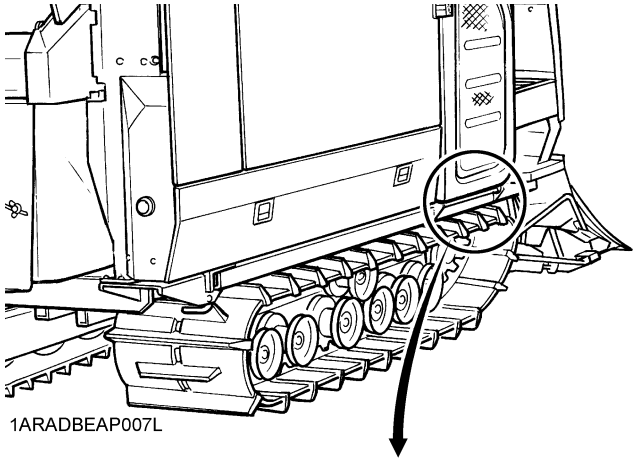
◆ 交換

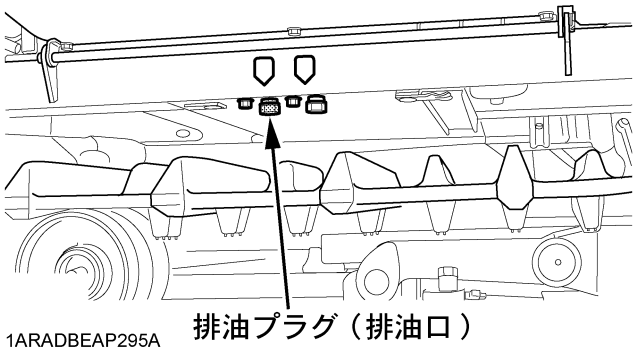
補　足

＊ オイルの交換と同時に，エンジンオイルフィルタカートリッジも交換してください。

● 排油のしかた

1. 給油栓を外します。
2. 排油プラグを外し，排油口からオイルを排出します。





3. 給油プラグを取付けます。

重　要

＊ 排油プラグを締め忘れると油もれが発生し，クローラの劣化やエンジントラブルの原因となります。

● 給油のしかた

1. 給油口から規定量のオイルを給油し，給油栓を締付けます。

重　要

＊ 指定以外のオイルを使用すると，出力が低下したり，エンジンオイルが異常に消耗又は劣化し，エンジントラブルの原因となります。また，気温によりオイルを選んでください。

気温	オイルの種類	規定オイル量
15℃未満のとき	クボタ純オイル ディーゼルエンジン用 **[327・331・338・433・438]** …… D30 又は，D10W30 **[445]** …… D30 スーパー CD 又は， D10W30 スーパー CD	**[327・331・433]** ● 上限線 ……6.0L ● 下限線 ……4.2L **[338・433・445]** ● 上限線 ……6.8L ● 下限線 ……4.7L
15℃以上のとき	クボタ純オイル ディーゼルエンジン用 **[327・331・338・433・438]** …… D10W30 **[445]** …… D10W30 スーパー CD	

＊ クボタ純オイルの入手が困難な場合は，API 分類で CC 級以上 **[327・331・338・433・438]**，CD 級以上 **[445]** のオイルをお使いください。この場合は気温により下表のように使い分けてください。

気温	オイルの種類	
	[327・331・338・433・438]	**[445]**
15℃未満	10W-30	10W-30（CD 級）
15℃以上	SAE30 又は， 10W-30	SAE30（CD 級）又は， 10W-30（CD 級）

※ 10W-30 はオールシーズン用です。

2. エンジンを始動し，アイドリング状態で約 1 分間運転します。
3. エンジンを停止したあと，５分間以上たってからオイル量の点検を行ないます。
4. オイルが不足しているときは，規定量になるまでオイルを追加補給します。

■トランスミッションケースオイル

警　告

＊ 点検・補給・交換するとき，刈取部を上げて行なうときは，刈取下降ロック装置で必ずロックして，刈取部の下降防止を行なってください。さらに枕木などを使用して落下防止の歯止めをしてください。

◆ 点検・補給

検油ボルトを外してオイルが検油口から出てくれば適正量です。不足しているときは，給油口から規定量になるまで給油してください。さらに，油もれのないことも調べてください。

◆ 交換

補　足

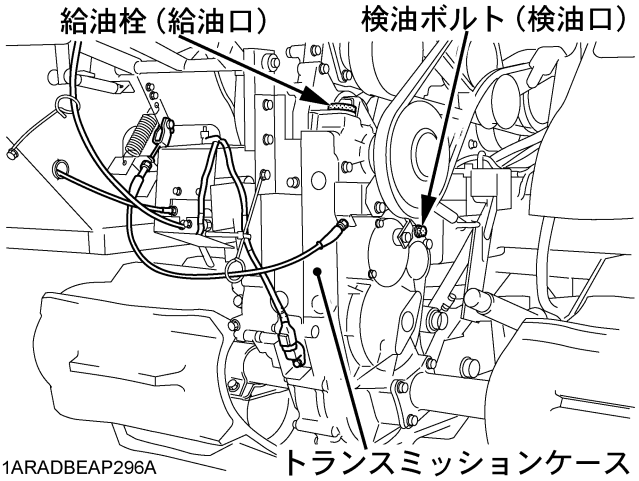
＊ オイルの交換と同時に，HST オイルフィルタカートリッジも交換してください。

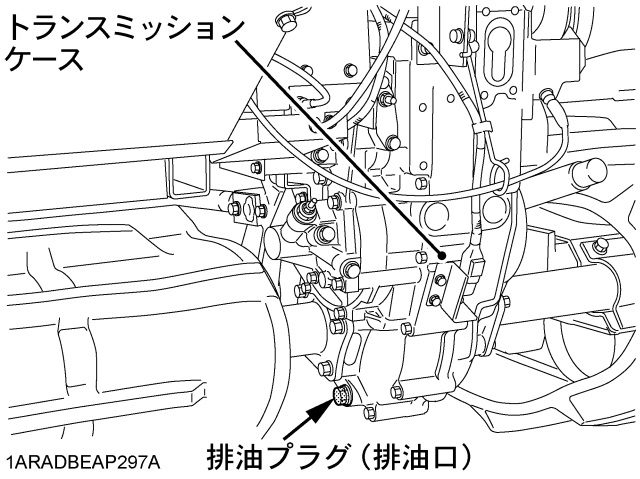
● 排油のしかた

給油栓を外してから，排油プラグを外し，オイルを排出してください。

● 給油のしかた

排油プラグを締付けて，検油口からオイルが出てくるまで給油口から規定量のオイルを給油し，給油栓と検油ボルトを締付けてください。





オイルの種類	規定オイル量
クボタ純オイル NEW・UDT 又は，スーパー UDT	約 6.8L

重　要

＊ 給油したあと，エンジンをアイドリング状態で約１分間運転してエンジンを停止し，５分間以上たってから，再度点検を行ない検油口からオイルが出ないときは，オイルを追加補給してください。

■油圧オイルタンクオイル

左サイドカバー上，下を取外してください。
点検・補給・交換後は，左サイドカバー上，下を取付けてください。

◆ 点検・補給

オイルゲージを抜いて，先端をきれいにふき取ります。もう一度差込んでから抜き，ゲージの**上限**と**下限**の間にオイルがあるか点検します。不足しているときは，給油口から規定量になるまで給油してください。さらに，油もれのないことも調べてください。

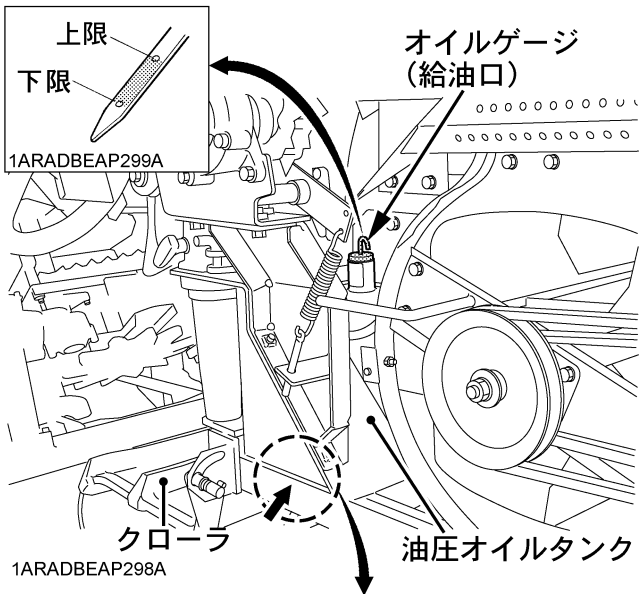
◆ 交換

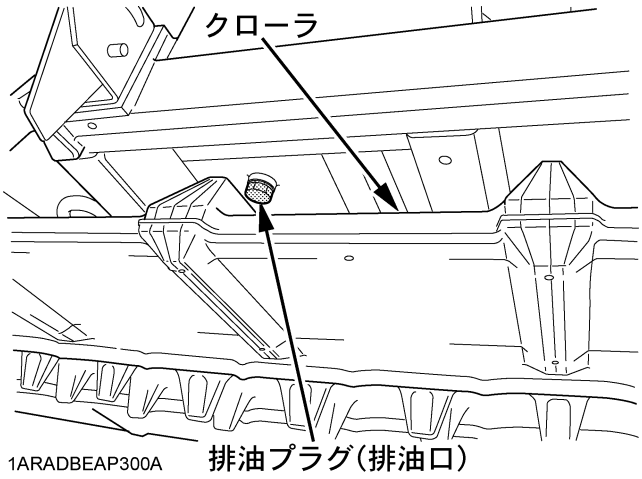
● 排油のしかた

給油栓を外してから，排油プラグを外し，オイルを排出してください。

● 給油のしかた

排油プラグを締付けて，給油口から規定量オイルを給油し，オイルゲージを差込んでください。





オイルの種類	規定オイル量
クボタ純オイル NEW・UDT 又は，スーパー UDT	**[D・SD 仕様]** ● 上限線…14.7L ● 下限線…13.3L **[DM 仕様]** ● 上限線…15.3L ● 下限線…13.8L **[SD4M 仕様]** ● 上限線…15.8L ● 下限線…14.3L

重　要

＊ 給油したあと，エンジンをアイドリング状態で約１分間運転してエンジンを停止し，５分間以上たってから再度点検を行ないオイルが不足しているときは，規定量になるまでオイルを追加補給してください。

■フィードチェーン駆動ケースオイル

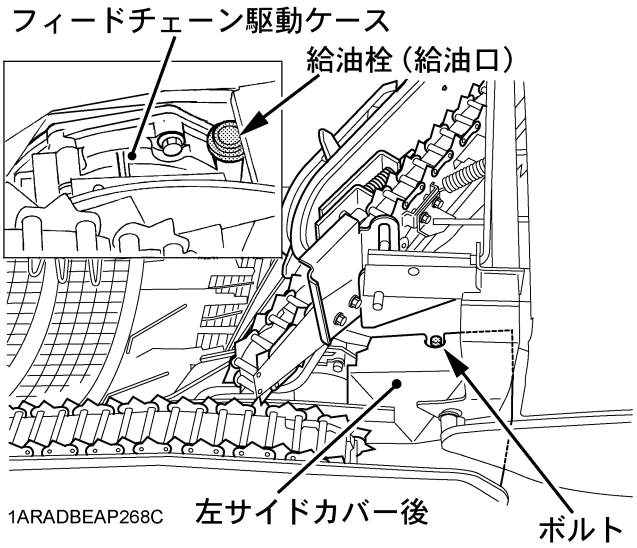
警　告

＊ 中でこぎ歯が高速で回転しているので接触するとケガをします。こぎ胴オープンするときは，エンジンを必ず止めてください。

こぎ胴をオープンしたあと，ボルトを取外して左サイドカバー後を外します。

◆ 補給

給油栓を外して，オイルを適量補給してください。補給後は，左サイドカバー後を取付けたあと，こぎ胴を閉じてください。



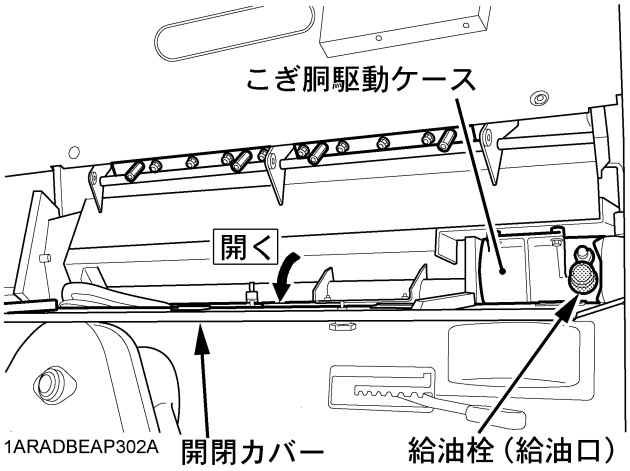
オイルの種類	オイルの容量
クボタ純オイル M90 又は，M80B	約 0.15L

■こぎ胴駆動ケースオイル

脱こく上部の開閉カバーを開いてください。

◆ 補給

給油栓を外して，オイルを適量補給してください。補給後は開閉カバーを閉じてください。



オイルの種類	規定オイル容量
クボタ純オイル M90 又は，M80B	約 0.25L

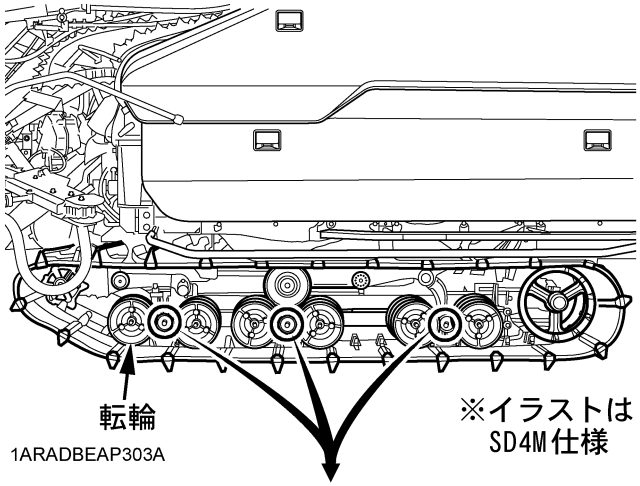
■各部のグリース

クボタスペアグリースをグリースニップルから補給してください。補給後は，各カバーを閉じる又は，取付けてください。

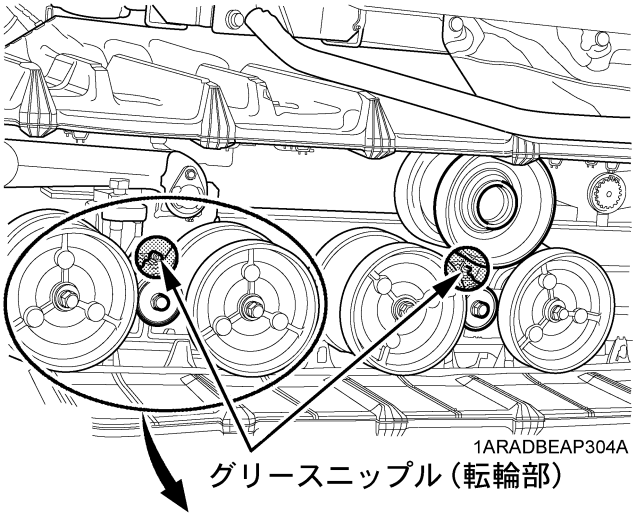
◆ 転輪部（左，右６箇所）

転輪部へのグリースアップを行なうときは、各転輪部の前側又は後側のプラグ（12ヵ所）を外し、グリースが出てくるまで図のグリースニップルから補給してください。

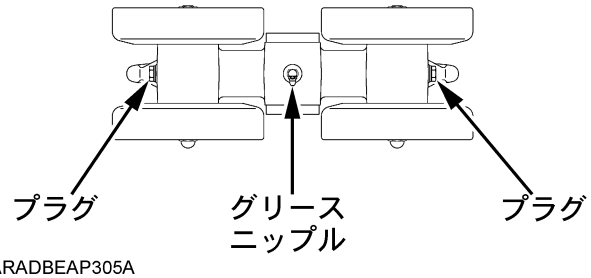
◆ スイングアーム部（左,右６箇所）[DXM 仕様]
◆ スイングアーム部(左,右８箇所)[SD4M 仕様]



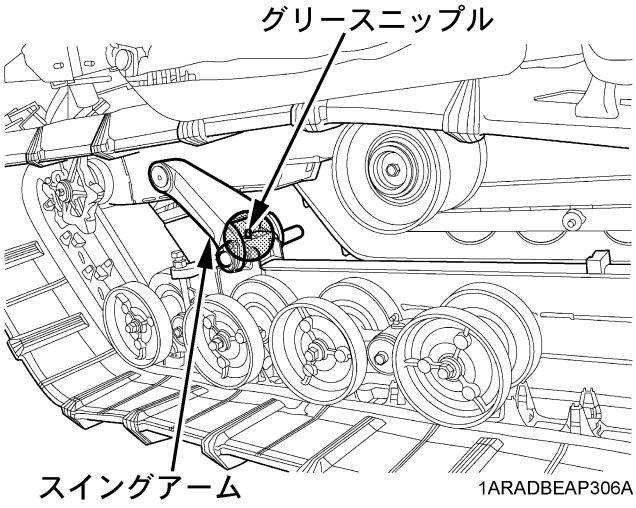
1ARADBEAP303A



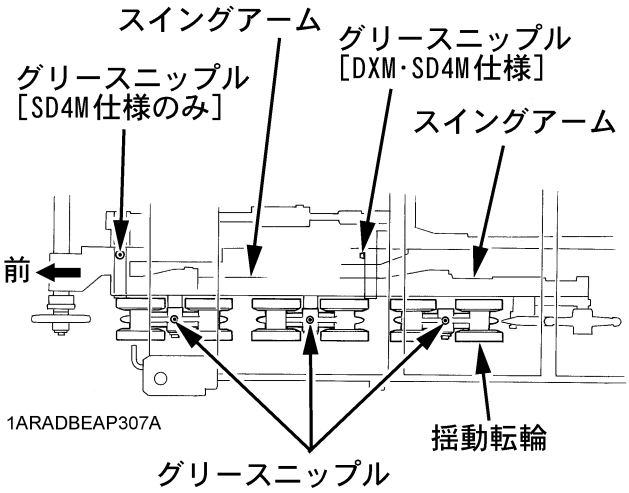
1ARADBEAP304A



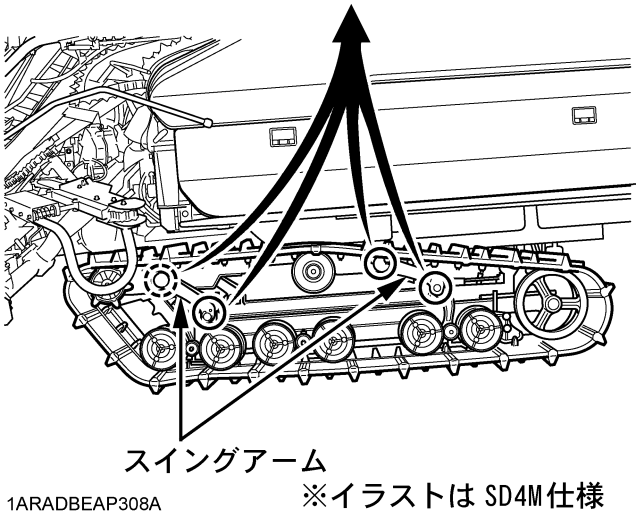
1ARADBEAP305A



1ARADBEAP306A

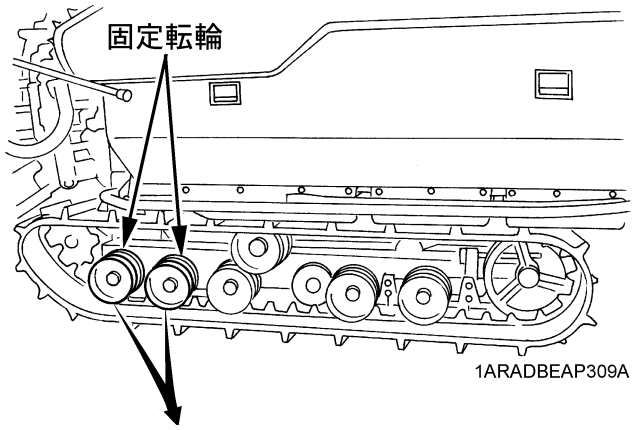


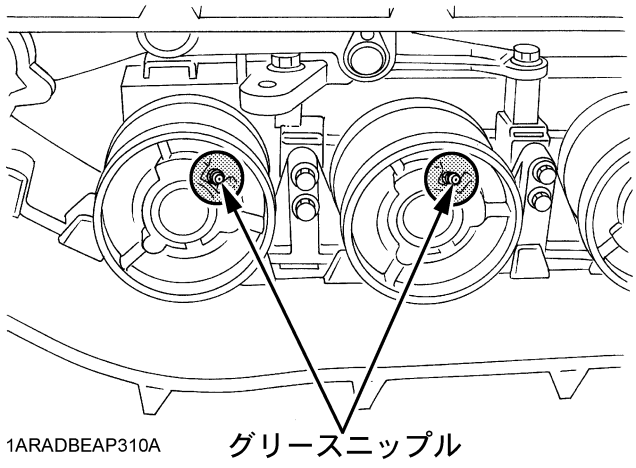
1ARADBEAP307A



1ARADBEAP308A

[327・331・433 M仕様除く]

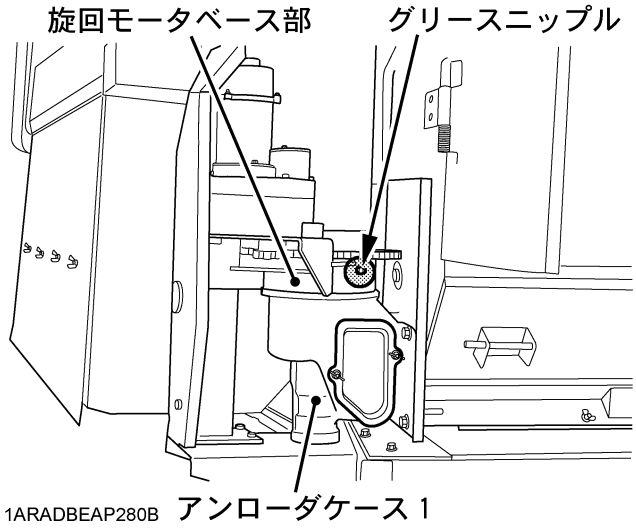


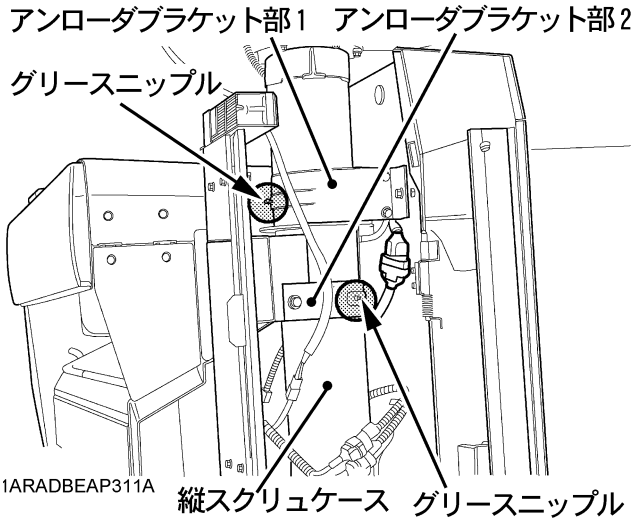


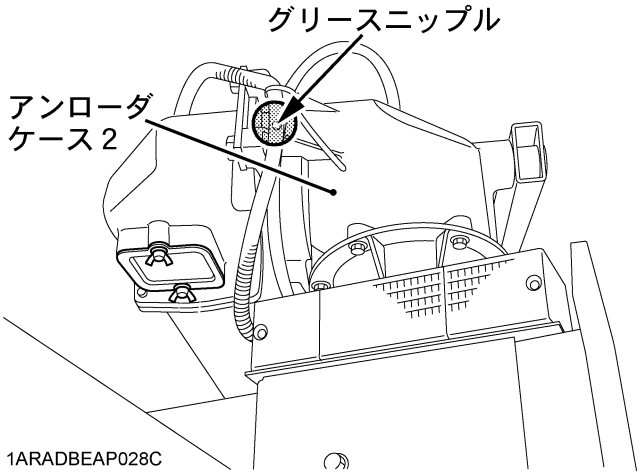
[327・331・433 M仕様除く]

◆ **アンローダ部**

グレンタンク後部カバーを開いてください。また，旋回モータベース部のグリースの補給は，グレンタンクをオープンして行なってください。







■ラジエータ冷却水の点検・交換

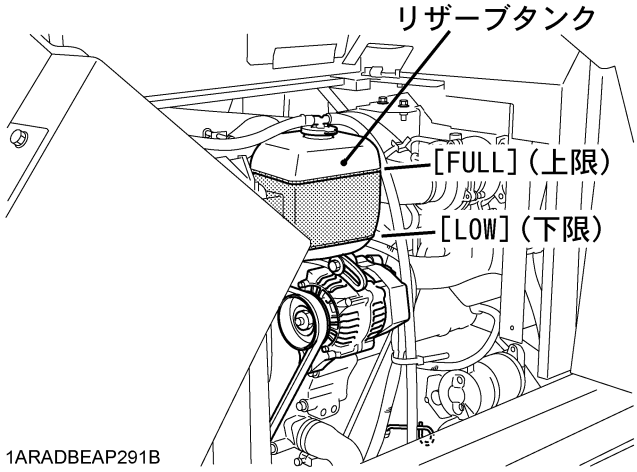
注　意

＊ ラジエータキャップやリザーブタンクは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出することがありますので，エンジン停止後じゅうぶん冷えてからにしてください。
＊ 異なるメーカの不凍液を混用しないでください。

◆ 点検

[Q 仕様除く] は、エンジンルームをオープンし、**[Q 仕様]** は運転席下カバーを取外したあと，リザーブタンクの水量が **[LOW]**（下限）と **[FULL]**（上限）の間にあるか確かめます。**[LOW]**（下限）の線より下にあるときは，リザーブタンクのキャップを外して清水を補給してください。

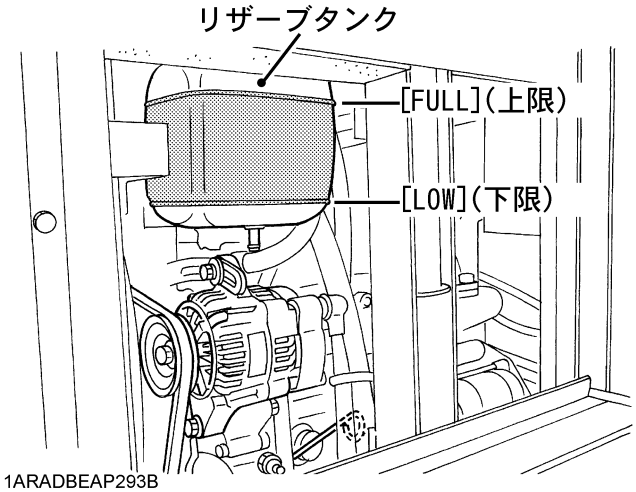
[Q 仕様除く]



1ARADBEAP291B

[Q 仕様除く]

[Q 仕様]



1ARADBEAP293B

[Q 仕様]

重　要

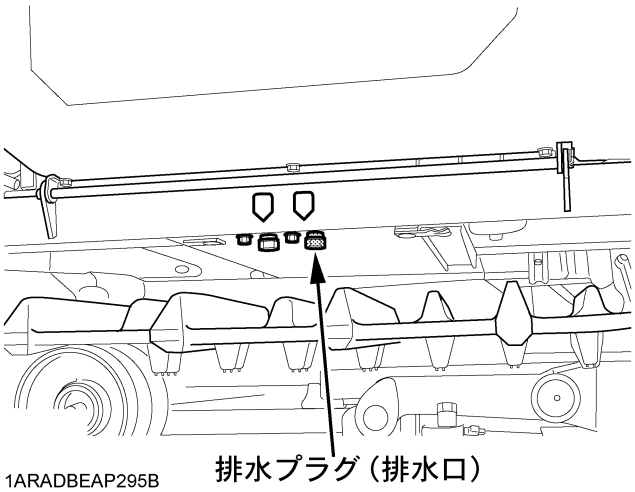
＊ 冷却水が自然に不足したときは，必ず清水を補給してください。不凍液を補給すると濃度が濃くなりエンジンやラジエータの故障の原因となります。

補　足

＊ **[FULL]**（上限）の線以上は補給しないでください。

◆ 交換

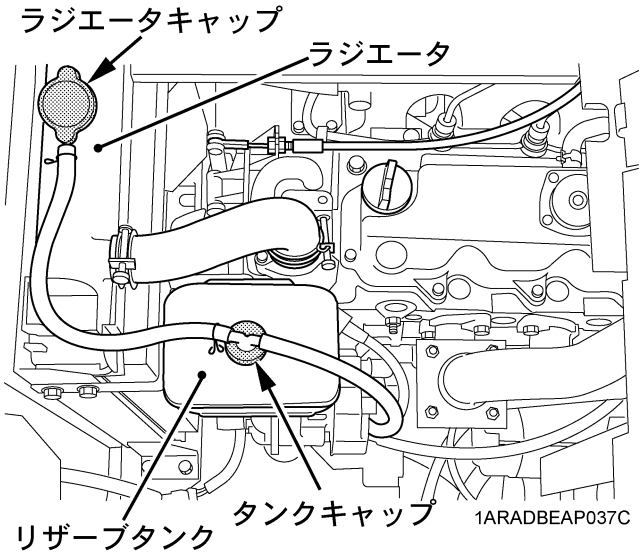
1. ラジエータの冷却水は排水プラグを外したあと，ラジエータキャップを外して排水します。



1ARADBEAP295B

2. リザーブタンクの冷却水はタンクのキャップ（吸引パイプ付）を取外したあと，リザーブタンクを上側に抜いて取外し，排水します。
3. 水道水でごみやさびが出なくなるまで洗います。

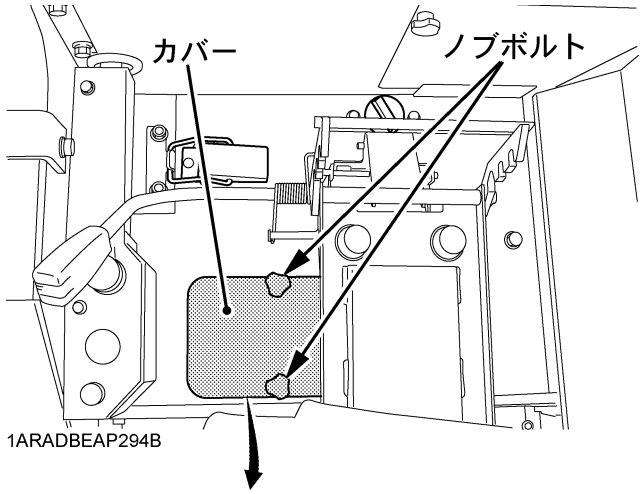
[Q 仕様除く]

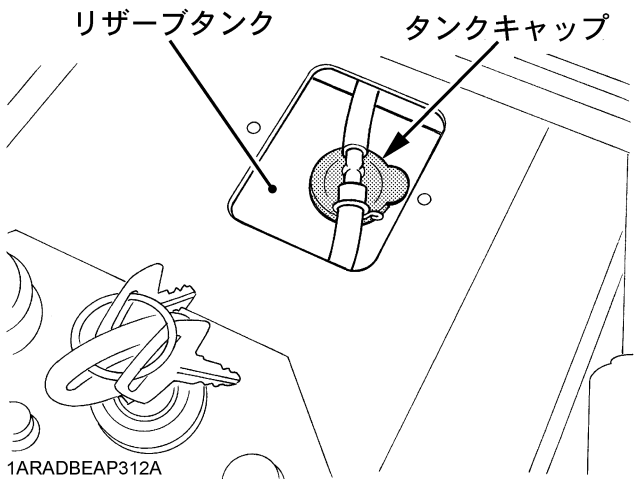


[Q 仕様除く]

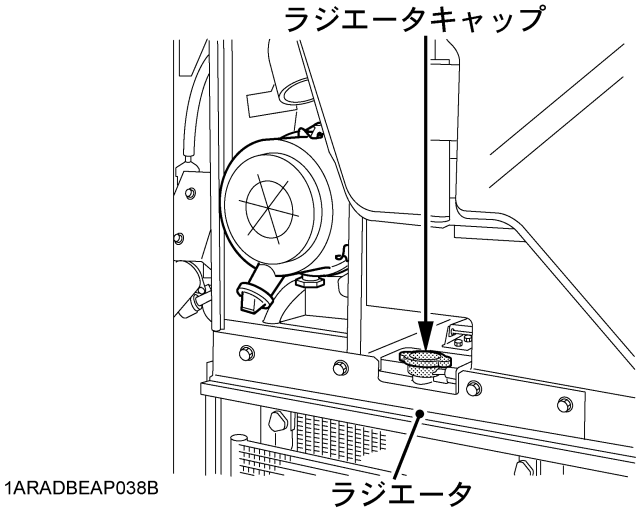
[Q 仕様]

(1) ノブボルト 2 個を外してカバーを取外します。





(2) 防じんカバーをオープンします。



[Q 仕様]

4. 排水プラグを締付けたあと，目標温度（外気温）の比率分（混合比）の不凍液をラジエータ及びリザーブタンクに入れます。

重　要

* 不凍液の混合比を誤まると，冬期には冷却水の凍結，夏期にはエンジンの故障やラジエータの破損の原因になります。
* 不凍液を使用する場合は，ラジエータ保浄剤を投入しないでください。不凍液には防錆剤が入っていますので，保浄剤を混入するとエンジン部品に悪影響を与えます。
* クボタ不凍液（ロングライフクーラント）の有効使用期間は 2 年間です。必ず 2 年で交換してください。
* 排水プラグを締め忘れると水もれが発生したり，排水プラグ部を機体に取付け忘れると，ホースが破損するおそれがあります。

補　足

＊ 不凍液混合比は，寒冷地ほど高くなります。購入先に相談して，下表を参照して混合比を決めてください。また，不凍液はエチレングリコール（EG）タイプの**ロングライフクーラント**をご使用ください。

● **不凍液混合比率表**

外気温度（℃）		-5	-8	-11.5	-15	-20	-25	-30	-35	-43
比率	水（%）	85	80	75	70	65	60	55	50	45
	不凍液（%）	15	20	25	30	35	40	45	50	55

※ 出荷標準　不凍液35％(北海道[H]向け:50％)

※ ラジエータ容量　3.7L

※ 新しい冷却水と交換を行なったあとは，必ず不凍液を入れて，5分間エンジンを空回転し，不凍液の混合を早めてください。そのあと，リザーブタンクの水量を確かめておいてください。

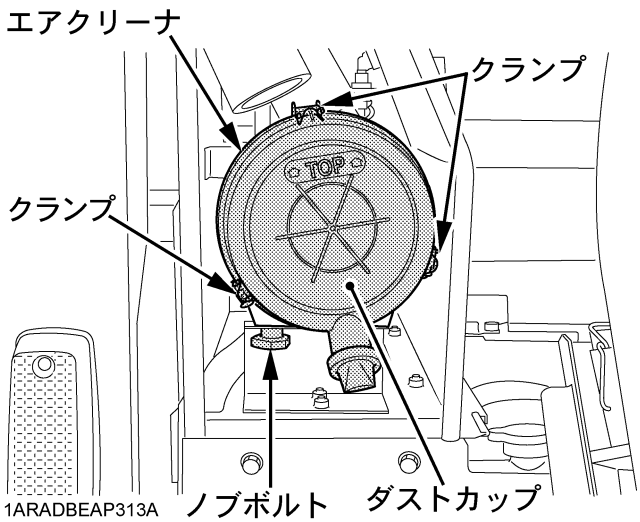
5. ラジエータキャップ及びリザーブタンク，キャップを取付けます。

■エアクリーナの点検･掃除･交換

エアクリーナエレメントの点検・掃除・交換を行なうときは，ダストカップを取出してください。

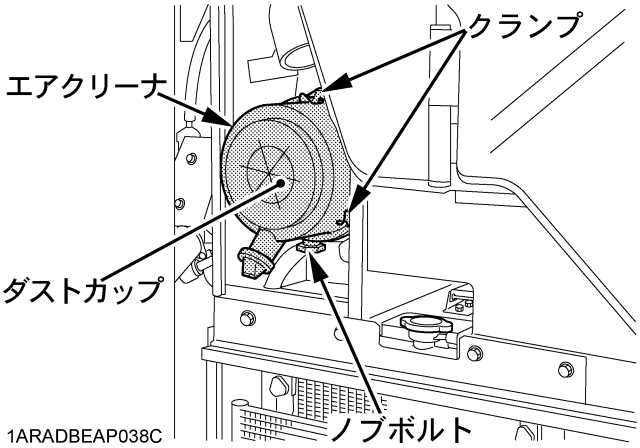
1. エンジンルーム　**[Q 仕様除く]** 又は，防じんカバー **[Q 仕様]** をオープンします。
2. ノブボルトをゆるめます。
3. クランプ３箇所を外してダストカップを取外します。このとき，ダストカップの右又は，左側のクランプを外す場合は，ゆるめたノブボルトを右又は，左いっぱいまでスライドして外しやすい位置にします。

[Q 仕様除く]

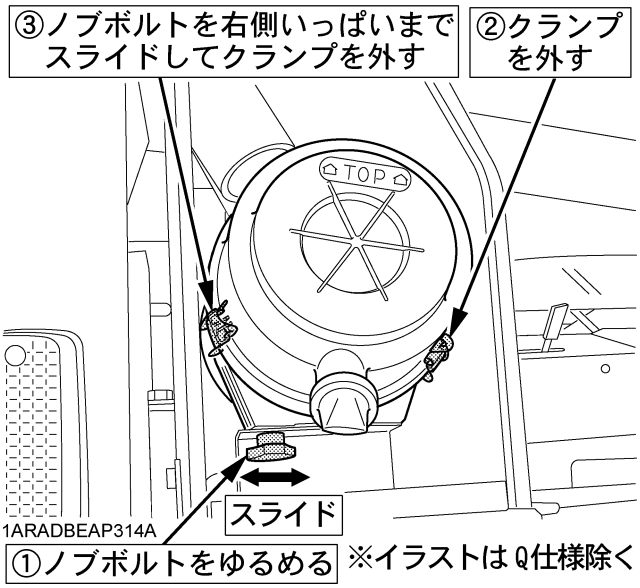


[Q 仕様除く]

[Q 仕様]

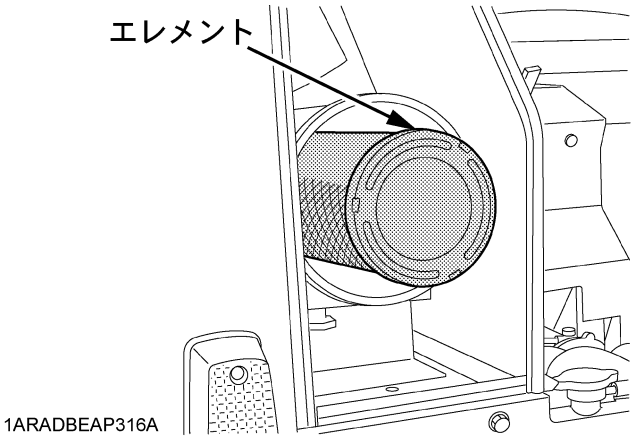


[Q 仕様]



◆ 点検・掃除・交換

エアクリーナエレメントの点検を行ない，掃除又は，交換を行なってください。エレメントを掃除するときは，エレメントを引抜いて取外したあと，エレメントの内側から空気を吹きつけるか，又は軽く振ってゴミを取除いてください。汚れのひどい場合や 300 時間経過しているときは，交換してください。作業終了後は，ダストカップを取付けて，ノブボルトを締付けたあと，エンジンルーム**【Q 仕様除く】**又は，防じんカバー**【Q 仕様】**を閉じてください。

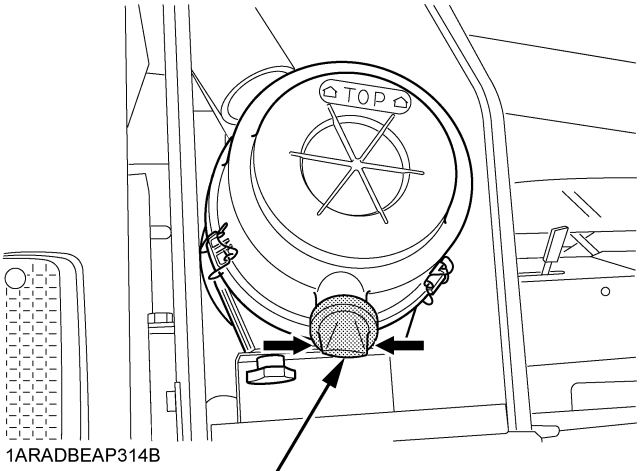


重　要

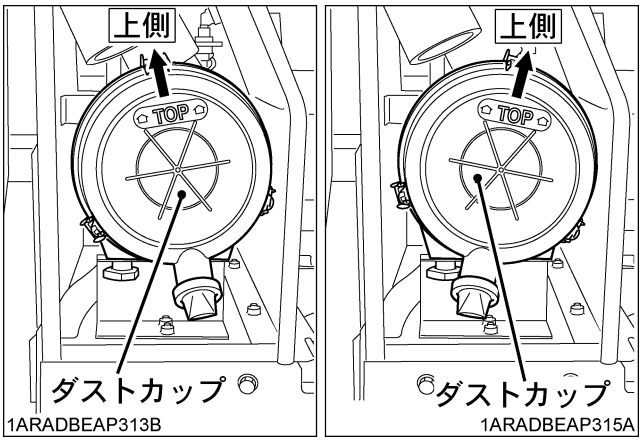
＊ 高性能サイクロン併用乾式エレメントを使用していますので，オイルを使用しないでください。
＊ エアクリーナにほこりが詰まったまま運転すると，エンジンの出力が低下したり，エンジンオイルが異常に消耗又は劣化し，エンジントラブルの原因となります。点検は運転前に欠かさず行なってください。
＊ エレメントは傷がつかないように取扱ってください。特に掃除時は，たたいたり固い物に当てて変形させるとエンジンの故障の原因となりますのでしないでください。
＊ エレメントを掃除する場合，エアの圧力は 0.69Mpa（7.0kgf/cm²）をこえないよう注意し，エアガンのノズルとエレメントの間は適当にあけてください。また，エアはエレメントの内側から外側に通してください。

補　足

＊ エアクリーナの点検を行なったときは，ダストカップのバキュエータバルブの先端部をつまんでダストカップ内に溜まったゴミを排出してください。



＊ ダストカップを取付けるときは**【TOP】**の文字を上側にしてください。



■パイプ･ホース類の点検･交換

注　意

＊ 運転中ラジエータホースが外れると熱湯が吹出し，ヤケドをするおそれがあります。
＊ 燃料系ゴムホースが破損していると燃料もれを起し火災の原因となります。

◆ 点検

エンジン，エアクリーナ，ラジエータ，燃料タンク各部にある各パイプやホースを点検し，油もれや水もれが発生しているときは，パイプやホースの交換やバンドを締付けてください。

重　要

＊ オイルドレーンゴムホースが破損していると，エンジンが焼付を起します。
＊ 油もれや水もれをしていなくても，**２年経過しているときや劣化の激しい場合**は交換してください。

◆ 交換

交換時の取付け不良やバンドの締付忘れ，締付不足がないよう取付けてください。

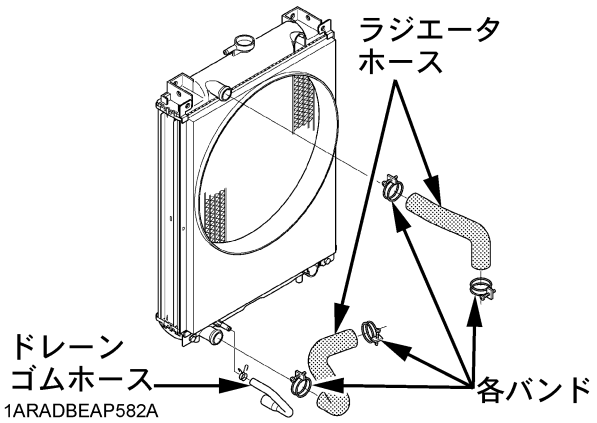
重　要

＊ 交換時にパイプや噴射ポンプなどにゴミが入らないように注意してください。

補　足

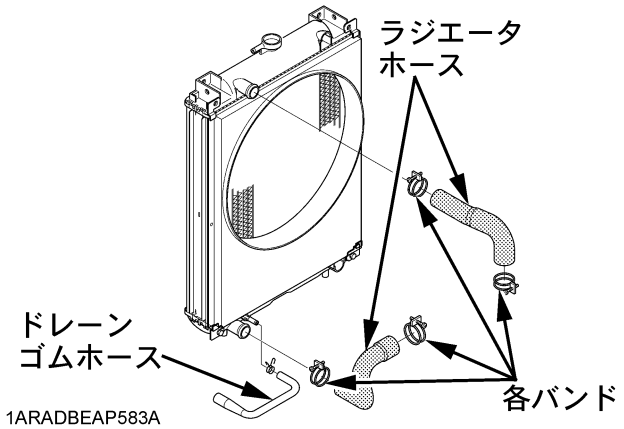
＊ 交換を行なうときは，購入先に連絡してください。
＊ フューエルパイプ交換後は，スイッチキーを**［入］**位置にすると５～ 10 秒で自動的にエア抜きされます。

［327・331・433］



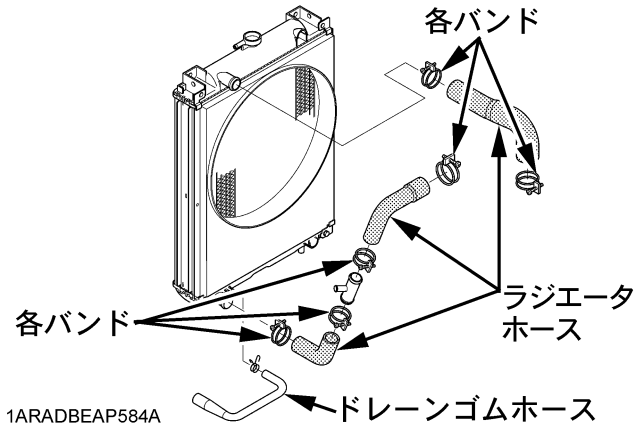
［327・331・433］

［338・438・445］

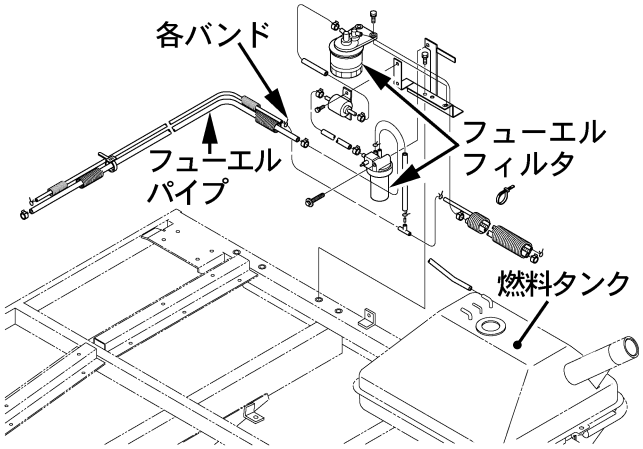


［338・438・445］

［Q 仕様］

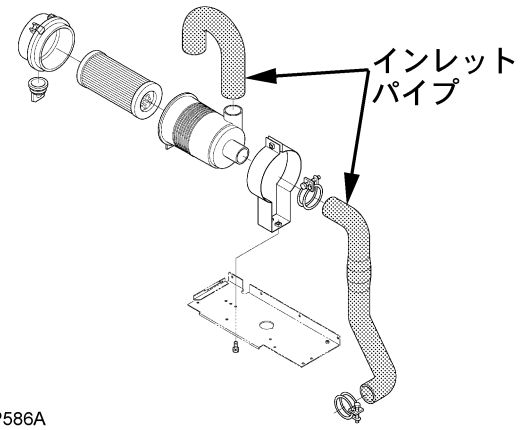


［Q 仕様］



1ARADBEAP585A

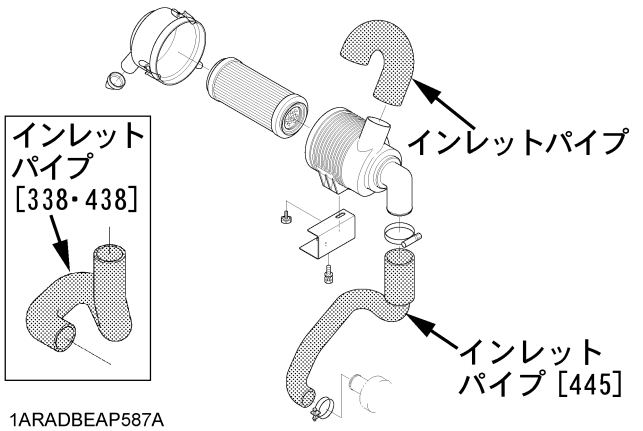
[327・331・433]



1ARADBEAP586A

[327・331・433]

[338・438・445]



1ARADBEAP587A

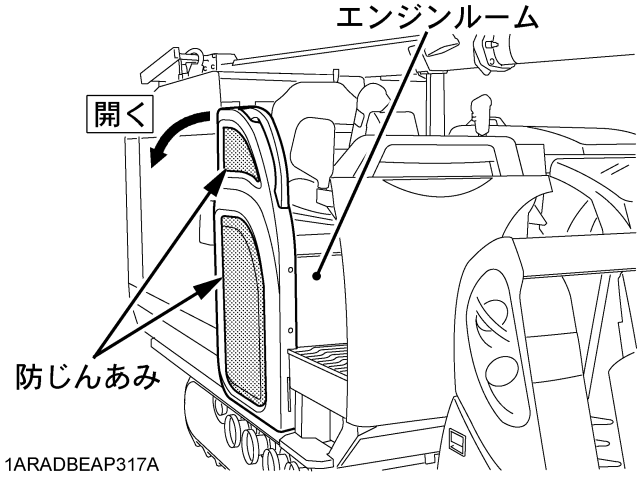
[338・438・445]

■防じんあみ，ラジエータフィンの掃除・オイルクーラフィンの掃除・コンデンサフィンの掃除

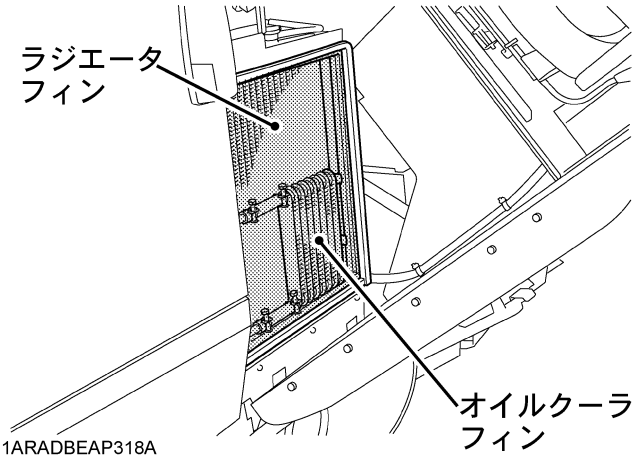
◆ 掃除

[Q 仕様除く] はエンジンルームをオープンし，**[Q 仕様]** は防じんカバーをオープンしたあと，圧縮空気を使用するなどして防じんあみやラジエータ部及びエンジンに付着しているゴミなどを掃除してください。掃除が終わったあとはエンジンルーム **[Q 仕様除く]** 又は，防じんカバー **[Q 仕様]** を閉じてください。

[Q 仕様除く]



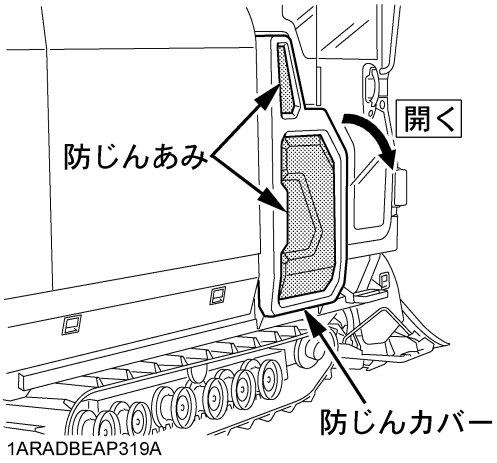
1ARADBEAP317A

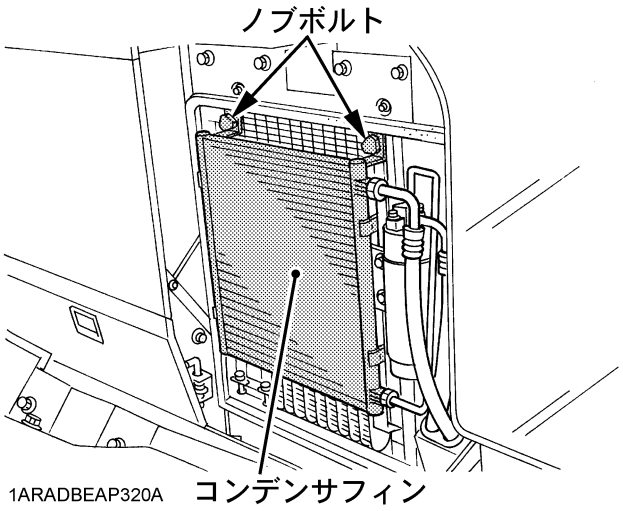


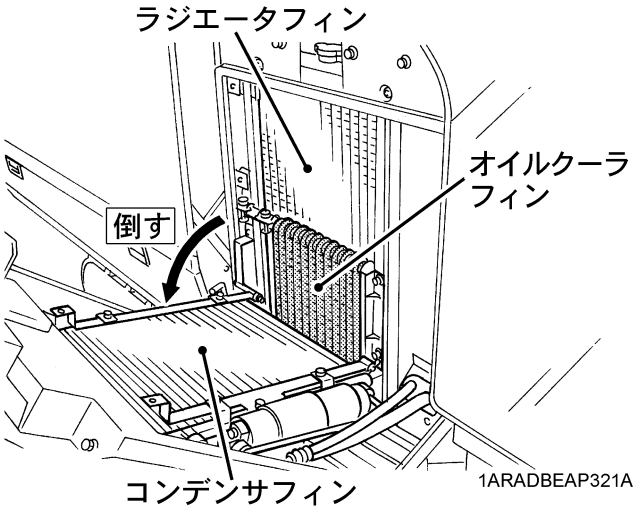
1ARADBEAP318A

[Q 仕様除く]

[Q 仕様]







[Q 仕様]

重　要

＊ ヘラやドライバなど固いものや高圧洗車機を使用して，ラジエータフィンやオイルクーラは掃除しないでください。ラジエータフィンを傷め，ラジエータの機能を低下させる原因になります。

補　足

＊ ラジエータフィンのほこりが取れにくい場合は，オイルクーラを取外してから掃除してください。

■フューエルフィルタエレメントの掃除，フューエルフィルタカートリッジ・フィルタエレメントの交換

注　意

＊ グレンタンク開閉範囲内に人がいないことを確認してください。
＊ 傾斜地では，グレンタンクの開閉を行なわないでください。

グレンタンクをオープンしてください。また，交換は燃料を給油する前に行なってください。

重　要

＊ 燃料内にゴミなどの異物や水が混入すると，フィルタの目詰まりが早くなったり，フィルタ内に水が溜まりやすくなります。また燃料ポンプや噴射ノズルが摩耗し，エンジンの故障の原因となります。

補　足

＊ 交換後は，スイッチキーを**［入］**位置にすると 5 ～ 10 秒で自動的にエア抜きされます。

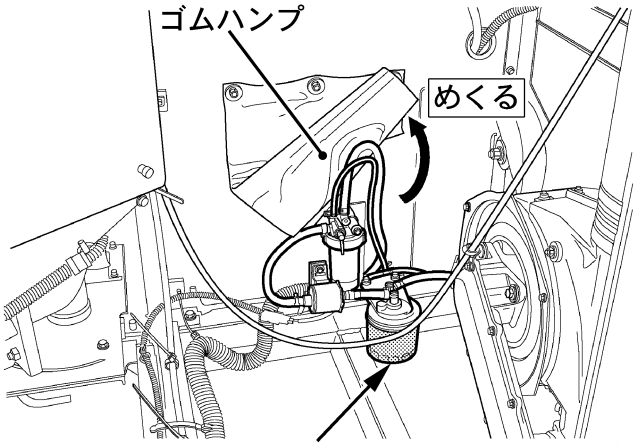
◆ フューエルフィルタカートリッジの交換

1. グレンタンクをオープンします。
2. ゴムハンプをめくり上げます。
3. 専用工具を使ってカートリッジを取外します。

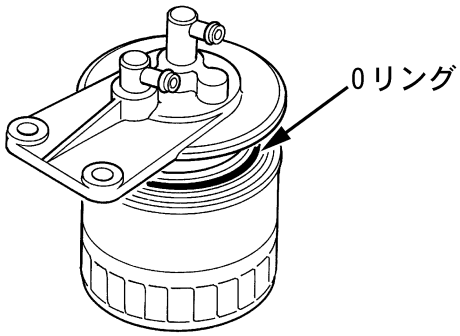
補　足

＊ 取外しかたや専用工具については，購入先にご相談ください。

4. 新しいカートリッジは 0 リングに燃料を薄く塗布してから，フィルタレンチを使用せず手で締付けてください。



1ARADBEAP444A



1ARADBEAP445A

5. ゴムハンプを降ろしたあと，グレンタンクを閉じます。

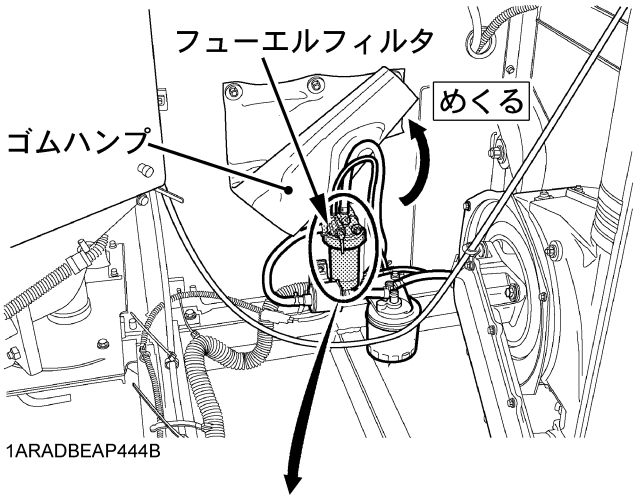
◆ フューエルフィルタのエレメントの掃除，交換

重　要

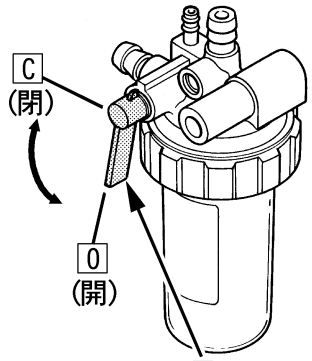
* フィルタ下部に水が溜まっているときは，早めに掃除又は，交換してください。
* 燃料タンクにゴミなどの異物や水が混入すると，フィルタの目詰まりが早くなったり，フィルタ内に水が溜まりやすくなりエンジンの故障の原因となります。

1. グレンタンクをオープンします。
2. ゴムハンプをめくり上げます。

3. フューエルコックレバーを**［O］（開）**位置から**［C］（閉）**位置にします。

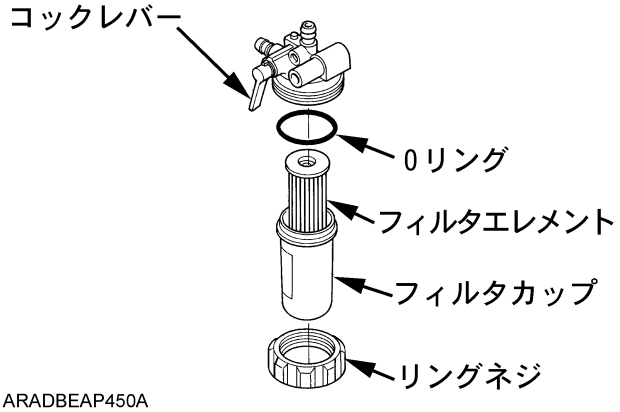


1ARADBEAP444B



1ARADBEAP446A
フューエルコックレバー

4. リングネジをゆるめてフィルタカップを外します。
5. フィルタエレメントを取出して**軽油**で 0 リングを含めて洗浄（すすぎ洗い）をします。このとき，汚れのひどい場合や運転時間が 400 時間経過しているときは交換してください。



1ARADBEAP450A

重　要

＊ 0リングは傷つけないようにしてください。また，失くさないでください。
＊ 汚れ（目詰まり）がひどい場合は，洗浄を行なっても短時間で目詰まりします。

6. 0 リングやフィルタエレメントにゴミが付着しないように元通りに組付けます。

重　要

＊ 0 リングは溝にきちんと入れて組付けてください。
＊ ゴミが燃料内に混入すると，燃料ポンプや噴射ノズルの故障の原因となります。

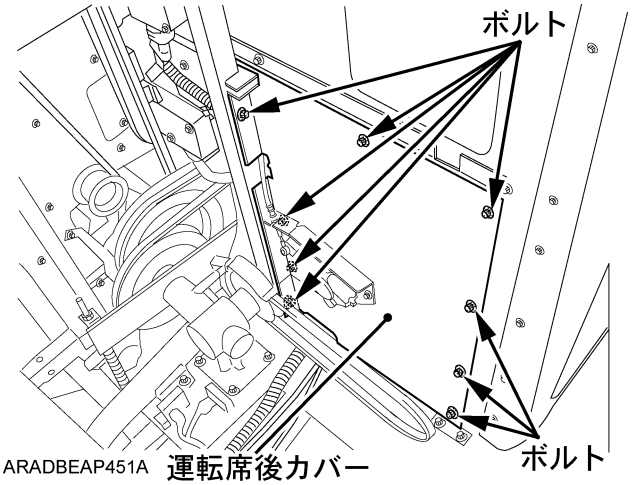
7. ゴムハンプを降ろしたあと，グレンタンクを閉じます。

■エンジンオイルフィルタカートリッジの交換

エンジンオイルの交換（178 ページ参照）が２回目のとき交換してください。交換するときは，グレンタンクをオープンしてください。

◆ 交換

1. グレンタンクをオープンしたあと，ボルト９本を取外して運転席後カバーを外します。



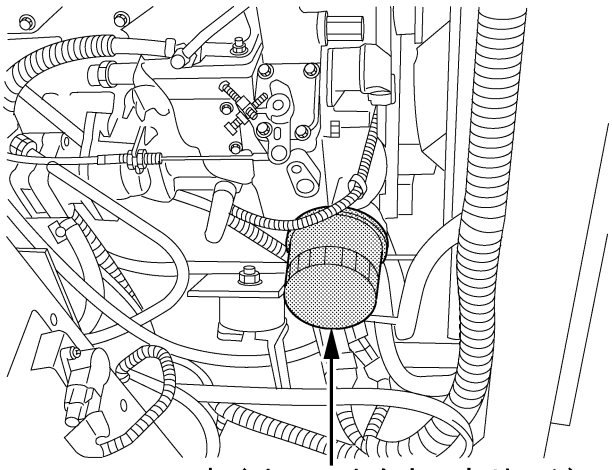
1ARADBEAP451A 運転席後カバー

2. 専用工具を使ってカートリッジを取外します。

補　足

＊ 取外しかたや専用工具については，購入先にご相談ください。

3. 新しいフィルタカートリッジを取付けます。
4. オイルゲージの上限線までオイルを補給したあと，５分程度エンジンを運転して各部及び油圧（オイルランプ）に異常がないことを確認してから，エンジンを止め，再度油面がオイルゲージの規定内にあることを確めておいてください。



1ARADBEAP452A オイルフィルタカートリッジ

重　要

＊ 新しいカートリッジは 0 リングにオイルを薄く塗布してから，フィルタレンチを使用せず手で締付けてください。
＊ エンジンオイルフィルタカートリッジを交換するときに，ゴミなどの異物が混入するとフィルタの目詰まりが早くなったり，エンジンの故障の原因となります。

補　足

＊ オイルフィルタカートリッジを交換すると，オイルフィルタカートリッジに入る量だけエンジンオイルの油面が下がります。

5. 運転席カバーを取付けたあと，グレンタンクを閉じます。

■ HST オイルフィルタカートリッジの交換・油圧オイルフィルタの洗浄・交換

警　告

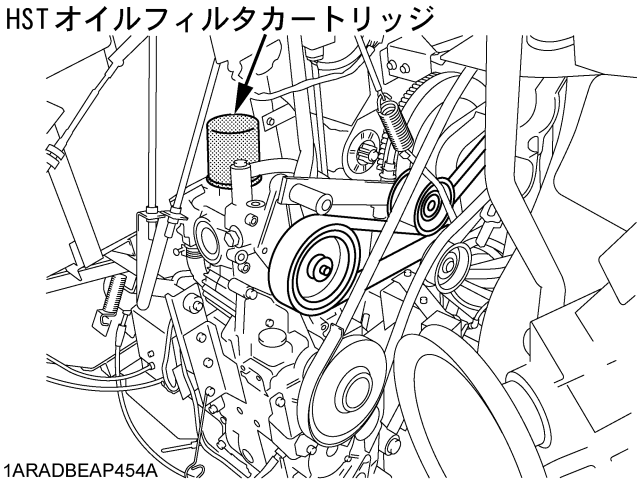
＊ 刈取オープンを行なうときは，平たんな場所で機体を最下降位置にしてください。

HST オイルフィルタカートリッジの交換と油圧オイルタンクフィルタの洗浄又は，交換は同時に行なってください。

1. 刈取オープンをします。(134 ページ参照)
2. 油圧オイルタンクの給油栓を外してから，排油プラグを外し，オイルを排出します。(181 ページ参照)
3. 専用工具を使って HST オイルフィルタカートリッジを取外します。

補　足

＊ 取外しかたや専用工具については，購入先にご相談ください。

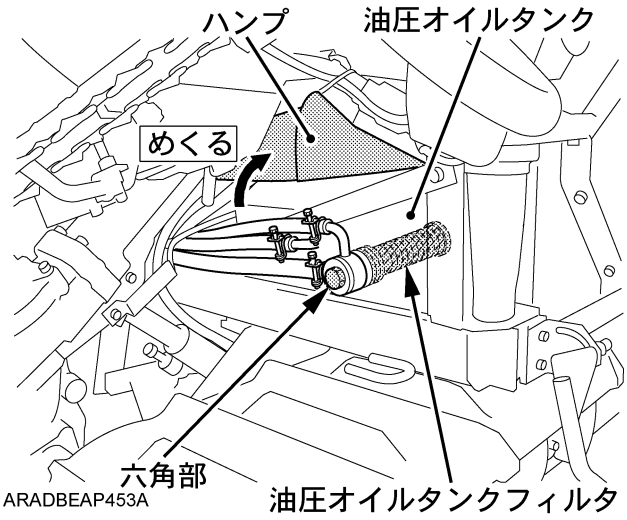


4. 新しいフィルタカートリッジを取付けます。

重　要

＊ 新しいカートリッジは 0 リングにオイルを薄く塗布してから，フィルタレンチを使用せず手で締付けてください。
＊ HST オイルフィルタカートリッジを交換するときに，ゴミなどの異物が混入するとフィルタの目詰まりが早くなったり，HST の故障の原因となります。

5. 排油プラグを締付けます。
6. ハンプをめくり上げたあと，油圧オイルタンクフィルタの六角部をスパナでゆるめて，フィルタを抜きます。
7. 油圧オイルタンクフィルタが汚れているときは，軽油などで洗浄し，破損しているときは交換します。



8. 取外した逆の手順で油圧オイルタンクフィルタを取付けます。

重　要

＊ 給油したあとエンジンを約 1 分間以上負荷をかけずに回転させて，オイルゲージで点検を行ない，下限より少ないときは，オイルを追加補給してください。

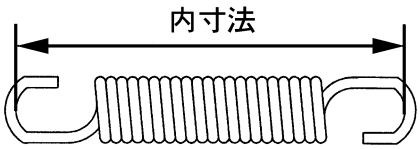
9. 181 ページの項を参照し，オイルを規定量給油します。

10. ハンプを降ろしたあと，刈取部を閉じます。

■各部ワイヤの点検・調整

補　足

＊ スプリングの取付け長さは，フックの内寸法を測定してください。

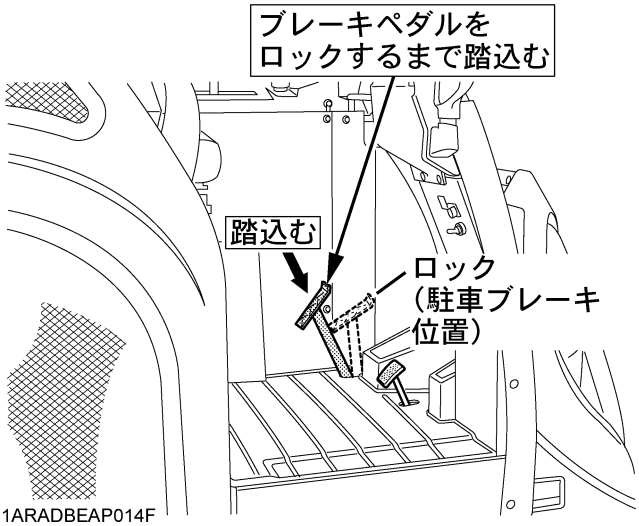


1ARADBEAP455A

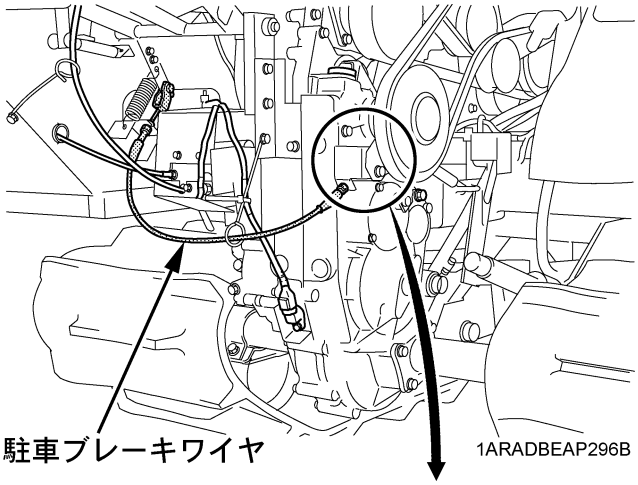
■駐車ブレーキワイヤ

テンションスプリングの長さを 86 ～ 88㎜ に調整します。

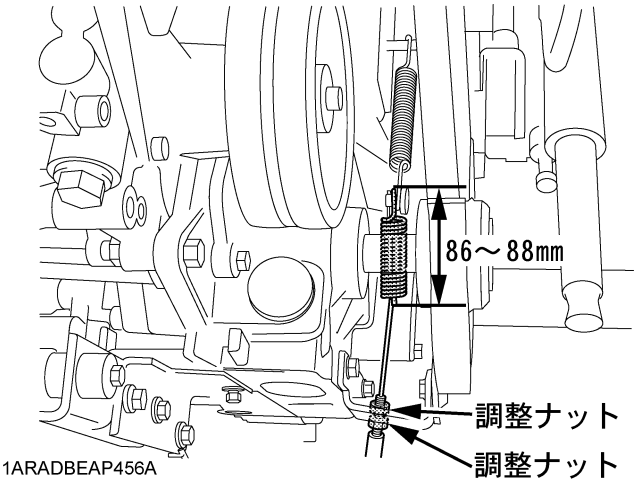
1. 刈取オープンをします。(134 ページ参照)
2. 駐車ブレーキを掛けます。
3. 調整ナット 2 個をゆるめて，調整します。



1ARADBEAP014F



1ARADBEAP296B



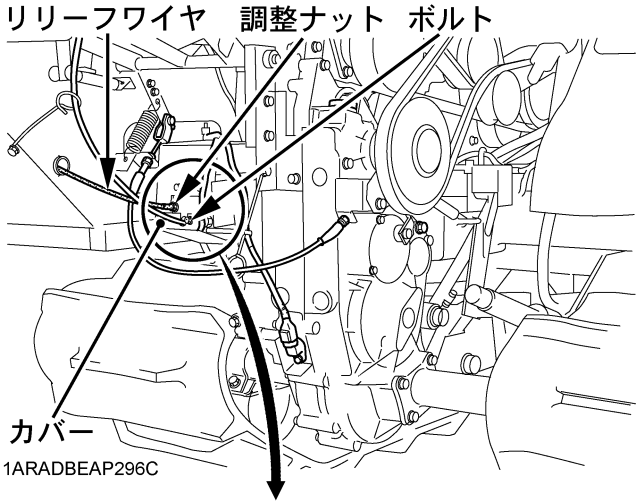
1ARADBEAP456A

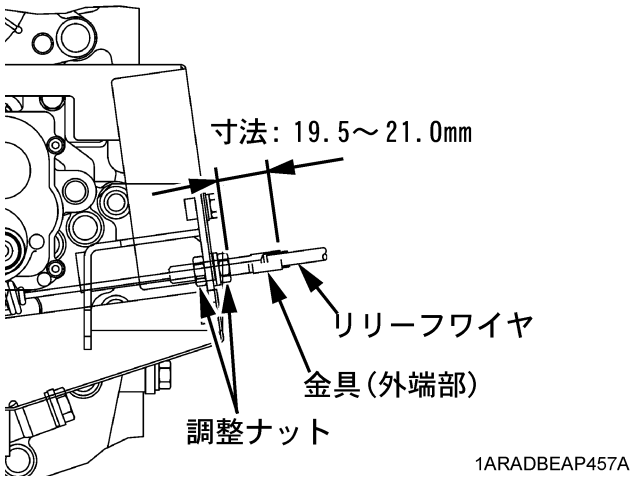
4. 調整ナットを締付けます。
5. 駐車ブレーキを解除します。
6. 刈取部を閉じます。

■リリーフワイヤ

調整ナット外端部とワイヤ金具外端部の寸法を19.5 ～ 21.0mm に調整します。

1. 刈取オープンをします。(134 ページ参照)
2. 調整ナット２個をゆるめて調整します。





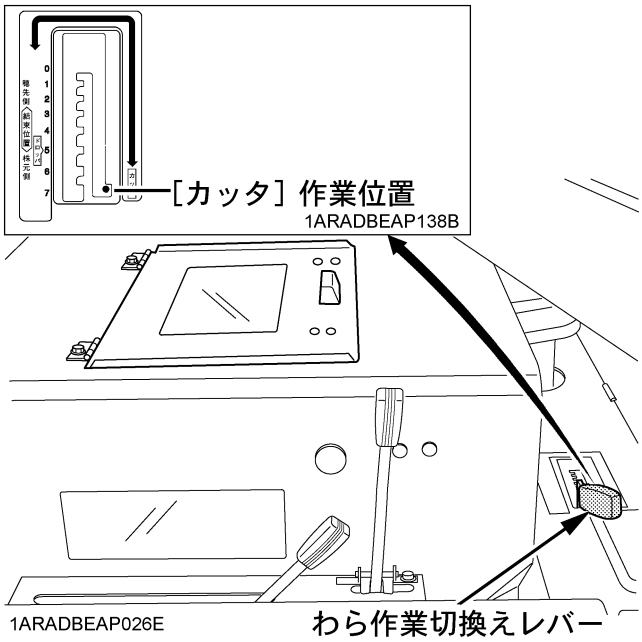
3. 調整ナットを締付けます。
4. 刈取部を閉じます。

■排わら切換えワイヤ

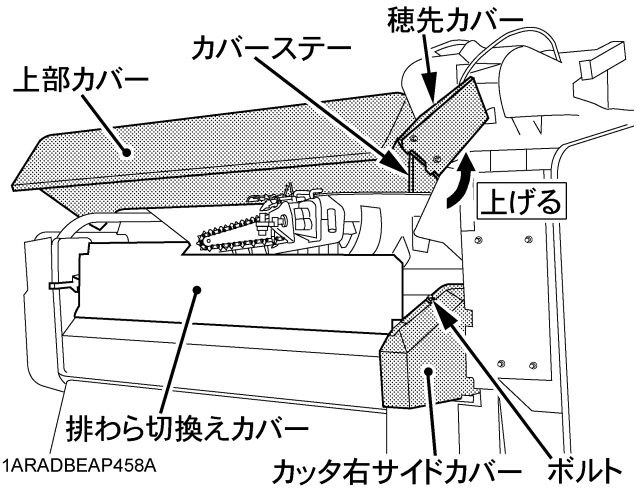
● 排わら切換えカバー

わら作業切換えレバーを**［カッタ］**作業位置にしたときにピンと排わら切換えカバーのカバーロックレバーのすき間が８ mm 以上のときは，排わら切換えカバーの開閉ワイヤをの張り調整を行なってください。

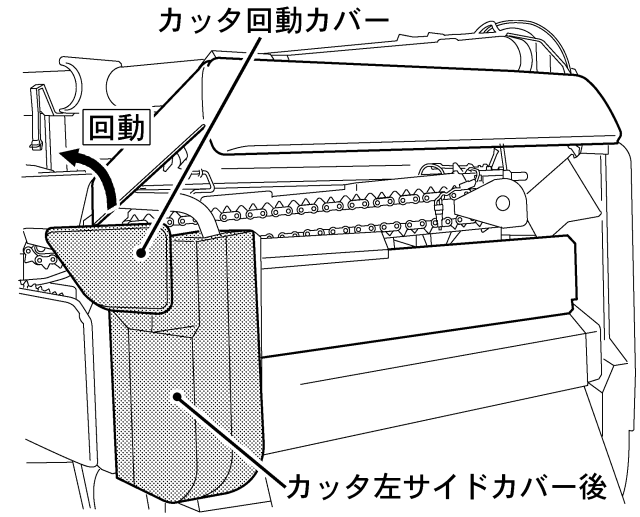
1. わら作業切換えレバーを**［カッタ］**作業位置にします。



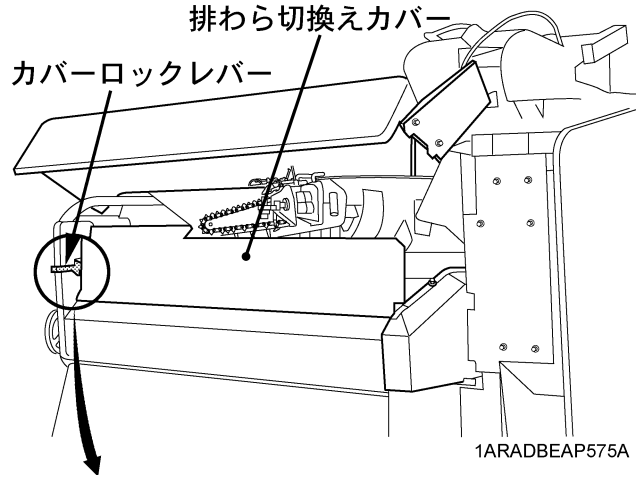
2. 上部カバーを上げて，カバーステーをセットしたあと，穂先カバーを上げます。そのあと，ボルトを外してカッタ右サイドカバーを取外します。

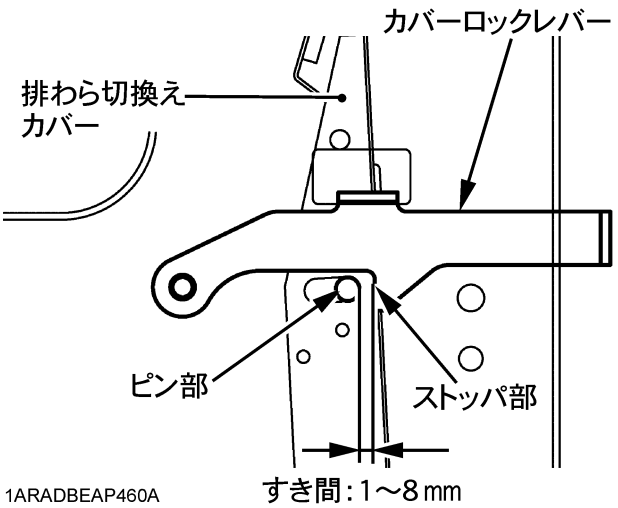


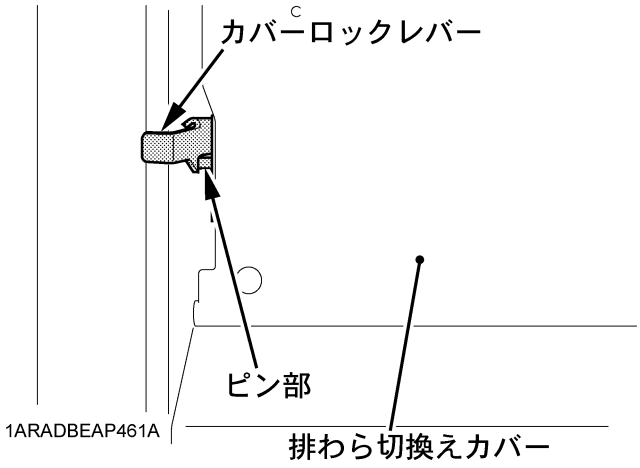
3. カッタ回動カバーを上側に回動したあと，カッタ左サイドカバー後を外します。



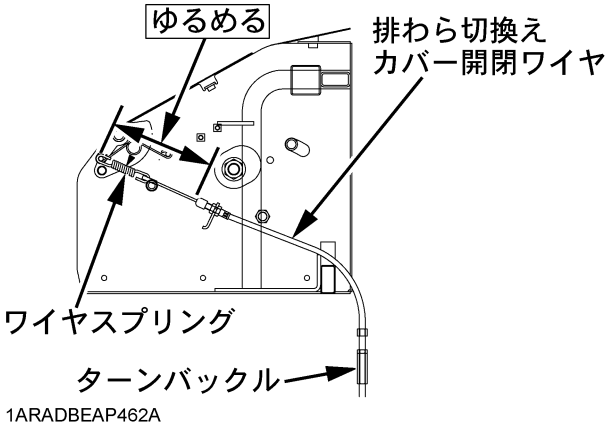
4. 排わら切換えカバーのピン部とカバーロックレバーのストッパ部のすき間を測定します。

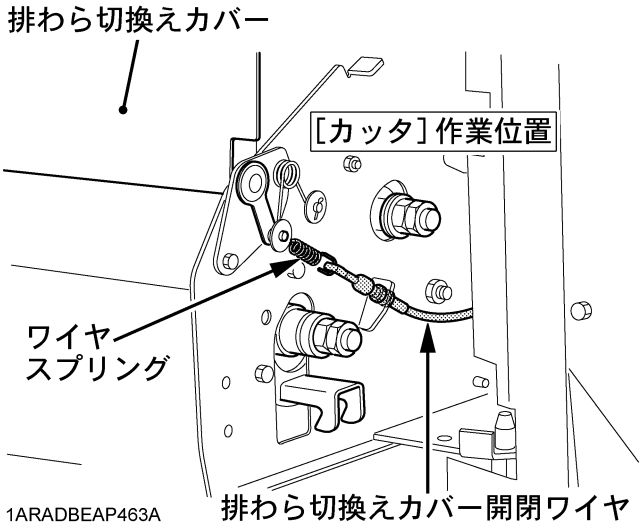






5. すき間が８ ㎜以上あるときは，すき間を１～８ ㎜ の範囲に調整します。
   (1) わら作業切換えレバーを**［ドロッパ・バラ落とし］**作業位置にしていったん排わら切換えカバーを閉じます。
   (2) グレンタンク後部カバーを開き，排わら切換えカバー開閉ワイヤ調整用のターンバックルのロックナットをゆるめ，ターンバックルを右回転方向に回してワイヤスプリングの張りをゆるめます。
   (3) 再度わら作業切換えレバーを**［カッタ］**作業位置にします。
   (4) ターンバックルを締付け方向に回しながらすき間を１～８ ㎜ に調整します。





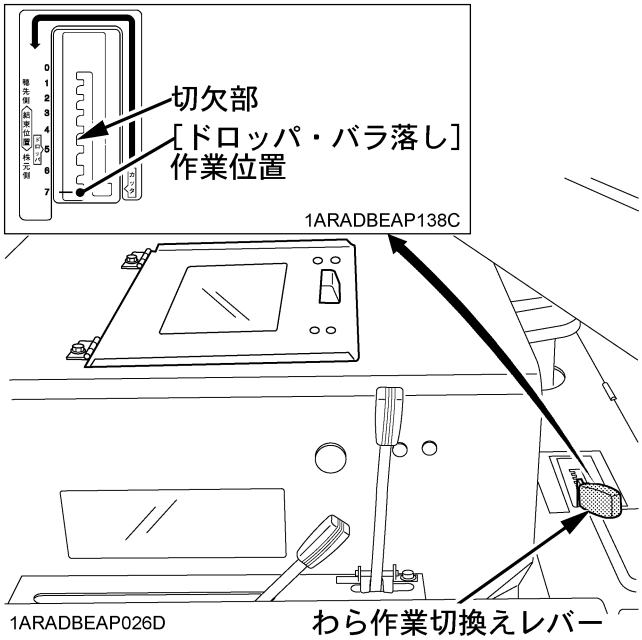
(5) ターンバックルのロックナットを締付けたあと，グレンタンク後部カバーを閉じます。

6. カッタ右サイドカバー及びカッタ左サイドカバー後を取付けたあと，カッタ回動カバーを降ろします。
7. 上部カバーと穂先カバーを閉じます。

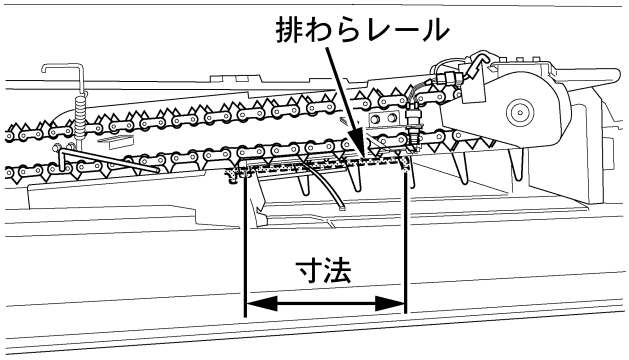
■排わらレール

わら作業切換えレバーを**［ドロッパ］**作業位置にしたとき，カッタ上部の排わら株元チェーン下側にある排わらレールの出代を**370～390mm**に調整します。

1. わら作業切換えレバーを**［ドロッパ］**作業側の切欠部**［7］**の位置（排わらレールがいっぱいまで出ている位置）にします。



2. 下図の出代の寸法を測定します。

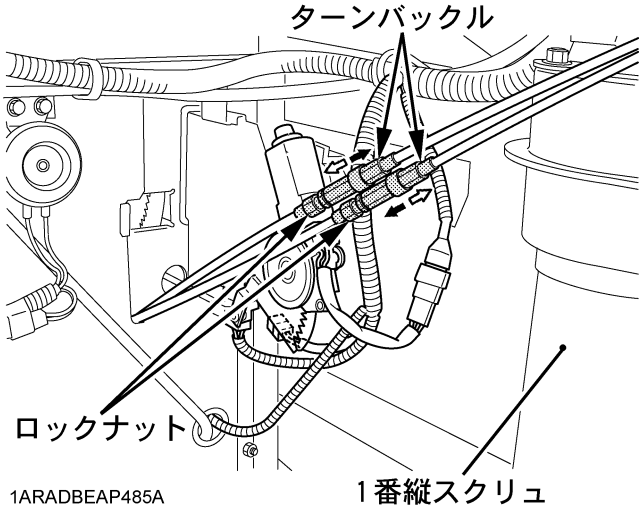


1ARADBEAP139D

3. グレンタンクをオープンします。

[327・331・433]

4. 寸法が規定値（370 ～ 390mm）から外れているときは１番縦スクリュ後部にある２箇所のターンバックルで調整します。ターンバックルのロックナットをゆるめ，ターンバックルを回して調整を行なって，調整後はターンバックルのロックナットを締付けます。



1ARADBEAP485A

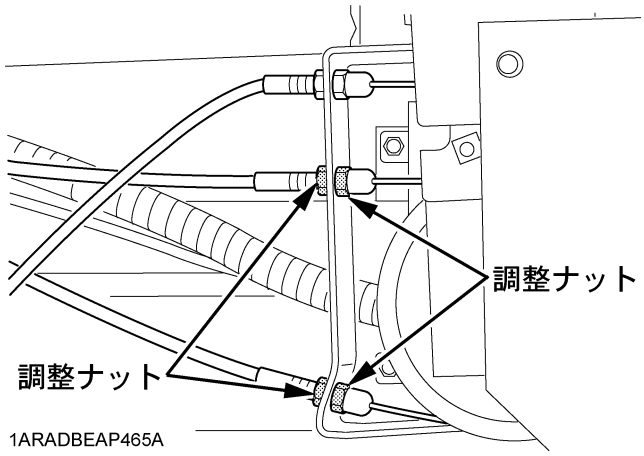
補　足

＊ ２箇所のターンバックルは片方を回転させると同じ量だけ，もう片方も回転させてください。

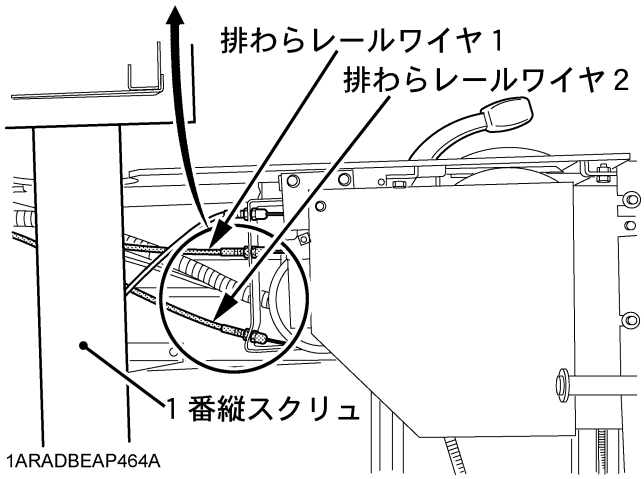
[327・331・433]

[338・438・445]

4. 寸法が規定値（370 ～ 390mm）から外れているときは１番縦スクリュ前部にある２箇所の調整ナットで調整します。調整ナットをゆるめて調整を行ない，調整後は調整ナットを締付けます。



1ARADBEAP465A



1ARADBEAP464A

[338・438・445]

5. グレンタンクを閉じます。

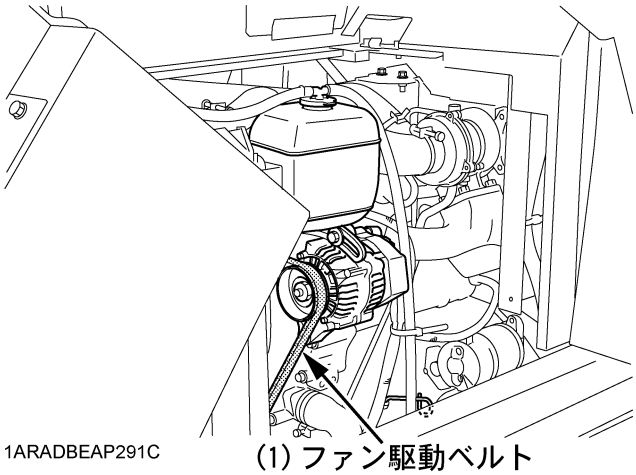
■各部ベルトの点検･調整

下表を参照して，各部ベルトの張り調整を行なってください。

点検個所	図番	名称	適応機種	サイズ	本数（本／台）	張り調整		
						テンションスプリング取付け長さ（mm）		たわみ量（mm）
エンジン・刈取部周辺	(1)	ファン駆動ベルト	[327・331・433]	38 ブイベルト（コグ）	1	—		7～9
			[338・438・445]	39.5 ブイベルト				
	(2)	刈取駆動ベルト	[327・331・433 DX 仕様]	特 B61	1	A	183～187	—
			[327・331・433 SD 仕様]				126～132	
			[338・438・445]	特 B62				
	(3)	ミッション駆動ベルト	[327]	特 B53	2	B	42～44	—
			[331・338・455]	特 B54				
			[433・438]	特 B52				
	(4)	脱こく駆動ベルト	[327・331・433]	特 C60	1	C	[Q 仕様除く]: 509～514 [Q 仕様]: 469～475	—
			[338・438・445]	特 B61	2			
	(5)	補助搬送（突起付）ベルト	[327・331・433]	—	3	—		5～10
			[431・438・445]		4			
	(6)	コンプレッサ駆動ベルト	[338・438・445 Q 仕様]	特 A39	1			5～8

点検個所	図番	名称	適応機種	サイズ	本数（本／台）	張り調整		
						テンションスプリング取付け長さ（mm）		たわみ量（mm）
脱こく部・カッタ部周辺	(7)	こぎ胴ケース駆動ベルト	[327・331・433]	特 C87	1	D	200 ～ 205	—
			[338・438]	特 C88	1			
			[445]	特 B88	2			
	(8)	こぎ胴駆動ベルト	[327・331・433]	特 B55	2	E	233 ～ 238	—
			[338・438・445]	特 C55			238 ～ 243	
	(9)	２番・チェーン駆動ベルト	[327・331・433]	特 B125	1	F	195 ～ 200	—
			[338・438・445]	特 B141				
	(10)	揺動・１番駆動ベルト	[327・331・433]	特 B109	1	G	136 ～ 141	—
			[338・438・445]	特 B125				
	(11)	カッタ駆動ベルト	[全機種]	特 B54	1	スプリングの掛け換え		
グレンタンク部	(12)	タンク駆動ケース駆動ベルト	[全機種]	特 B64	1	H	211 ～ 217	—
	(13)	スクリュ駆動ベルト	[全機種]	特 B47	1	I	117 ～ 122	—

[Q 仕様除く]

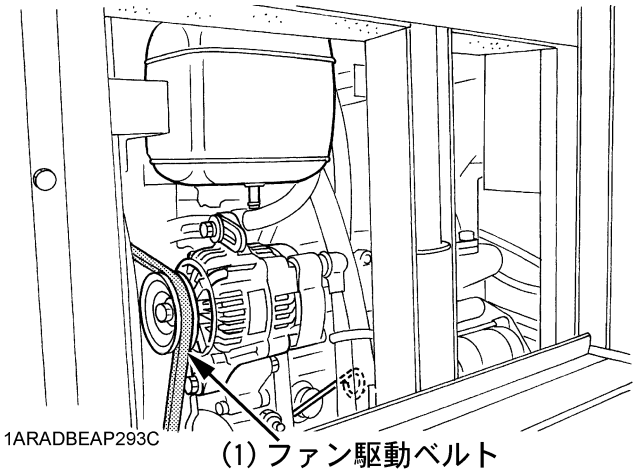


1ARADBEAP291C

(1) ファン駆動ベルト

[Q 仕様除く]

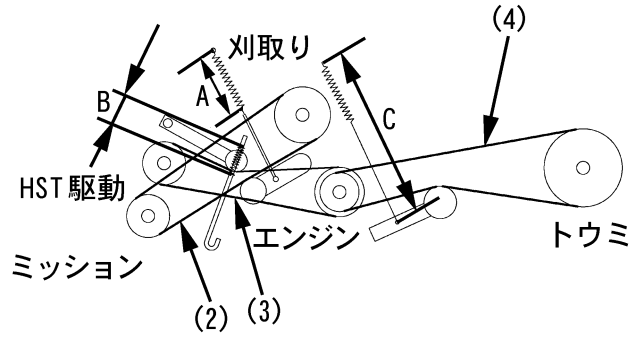
[Q 仕様]



1ARADBEAP293C

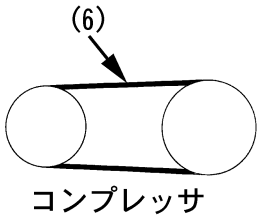
(1) ファン駆動ベルト

[Q 仕様]



1ARADBEAP466A

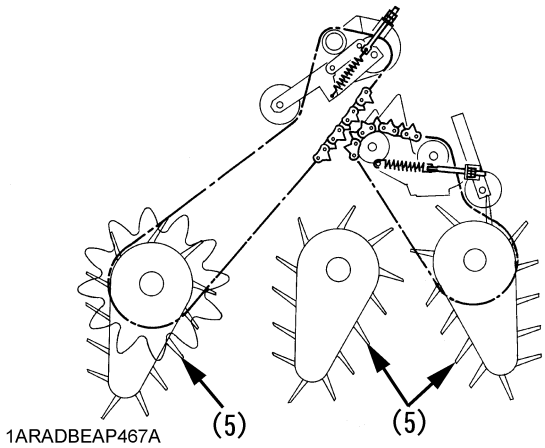
[Q 仕様]



1ARADBEAP469A

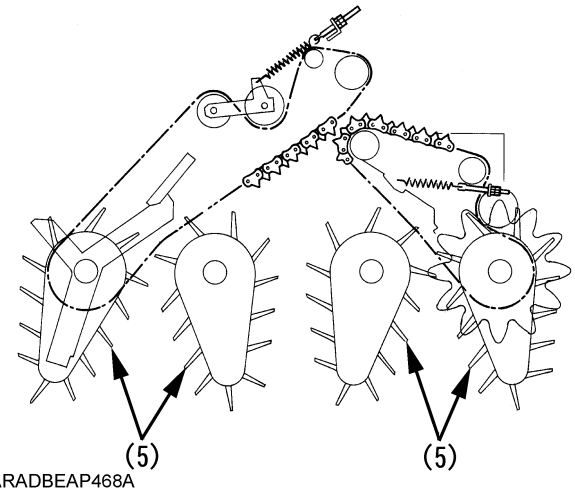
[Q 仕様]

[327・331・338]



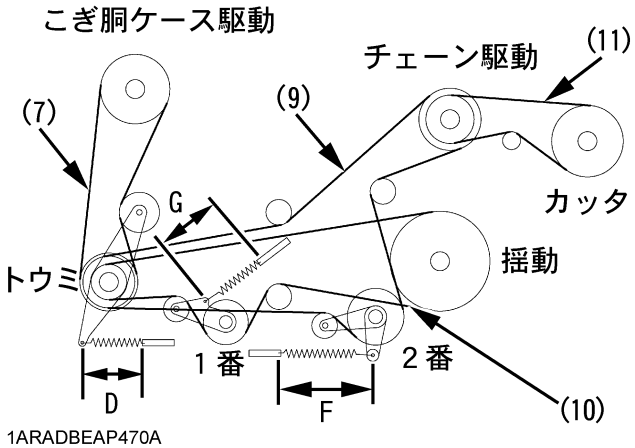
1ARADBEAP467A

[433・438・445]



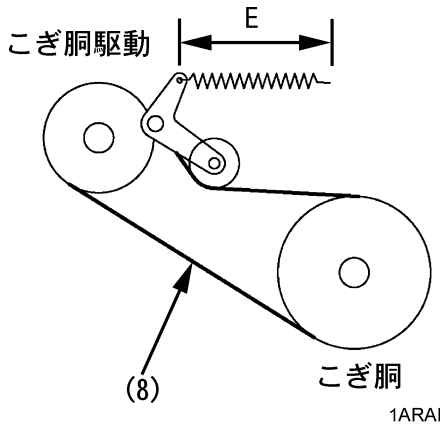
1ARADBEAP468A

[327・331・338]

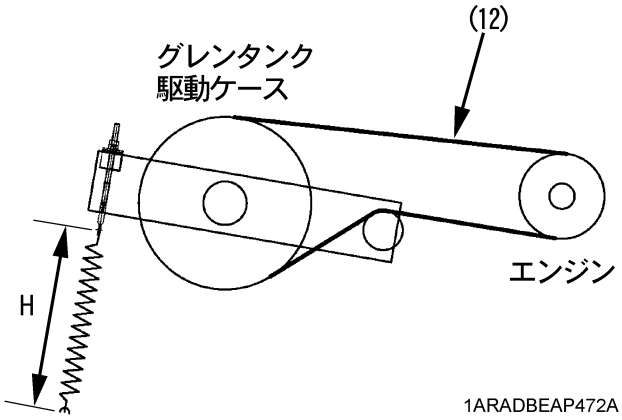


1ARADBEAP470A

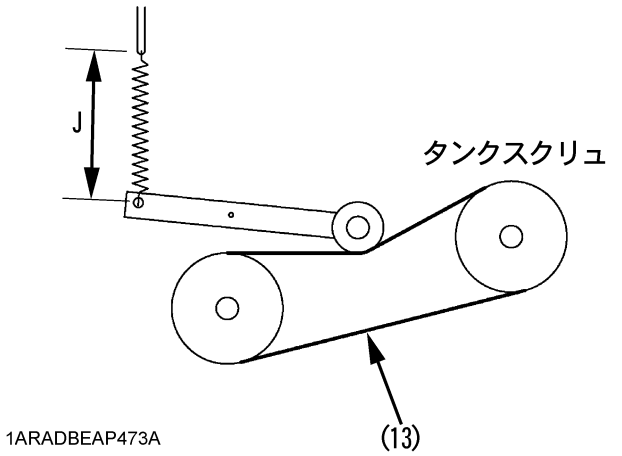
[433・438・445]



1ARADBEAP471A



1ARADBEAP472A

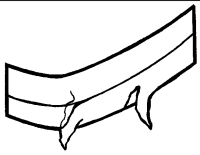
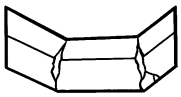


1ARADBEAP473A

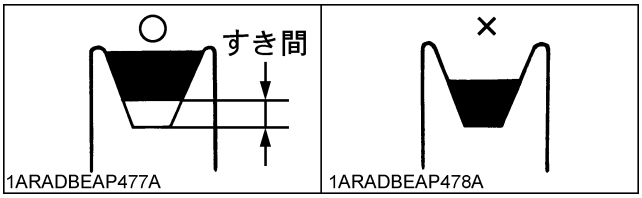
◆ 点検

各部のベルトを点検するときは，下記の事項をよく確認してください。

1. ベルトの焼付きや摩耗，被覆のはがれ，き裂やひび割れ

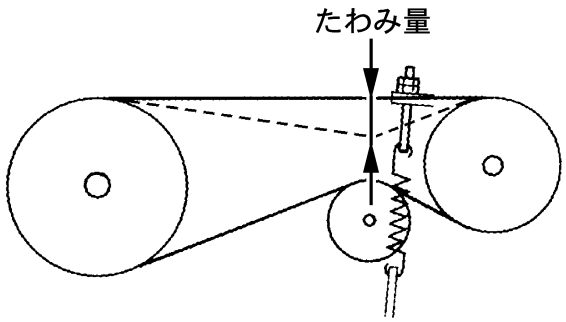
焼付きや摩耗	被覆のはがれ	き裂やひび割れ
×	×	×
 1ARADBEAP474A	 1ARADBEAP475A	 1ARADBEAP476A

2. ベルトの底部とプーリ溝部のすき間



1ARADBEAP477A　1ARADBEAP478A

3. ベルトの伸び（たわみ量）



1ARADBEAP479A

上記の事項を確認したとき，異常があればベルト交換又は，ベルトの張り調整を行なってください。ベルトの交換は購入先へ連絡して行なってください。

重　要

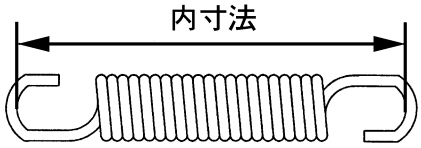
＊ ベルトは必ずクボタ純正品を使用してください。

◆ 調整

ベルトが伸びているとき（スリップが発生しやすい）は，張り調整を行なってください。

補　足

＊ スプリングの取付け長さは，フックの内寸法を測定してください。



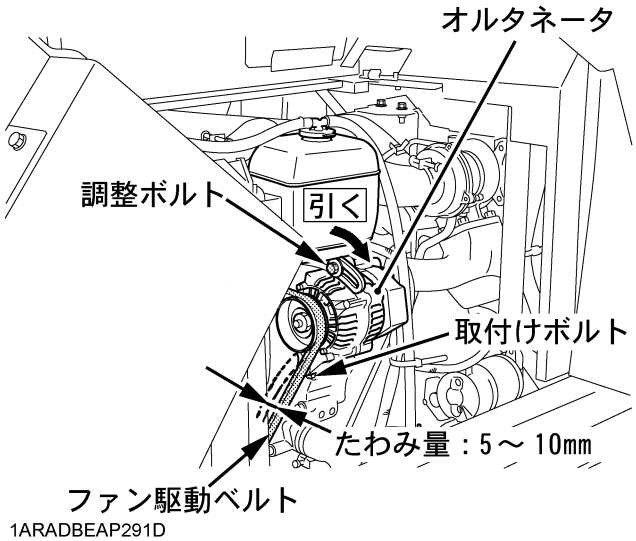
1ARADBEAP480A

■ファン駆動ベルト

指先でベルトの中央部を押したとき（約 60 ～ 70N {6 ～ 7 kg} の荷重）のたわみ量を 5 ～ 10mm に調整します。

1. **[Q 仕様除く]**はエンジンルームをオープンし，**[Q 仕様]** は運転席下カバーを取外します。
2. オルタネータの取付けボルトと調整ボルトをゆるめます。
3. オルタネータを引っ張ります。
4. 調整ボルトを締付けたあと取付けボルトを締付けます。

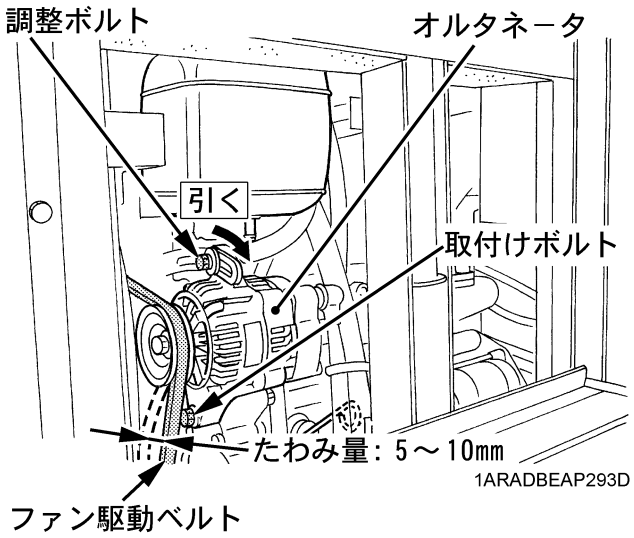
[Q 仕様除く]



1ARADBEAP291D

[Q 仕様除く]

[Q 仕様]



1ARADBEAP293D

[Q 仕様]

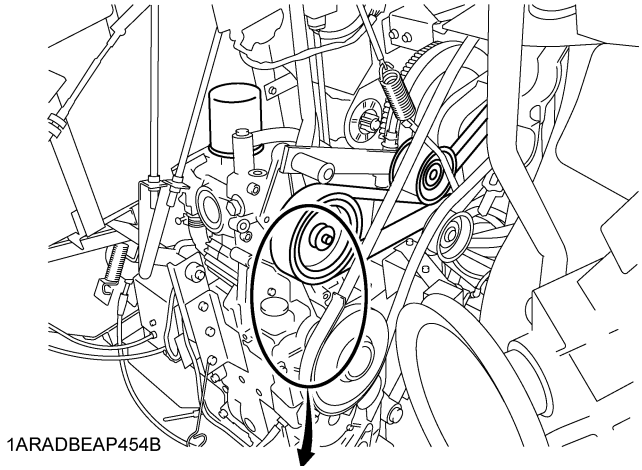
5. **[Q 仕様除く]** はエンジンルームを閉じ，**[Q 仕様]** は運転席下カバーを取付けます。

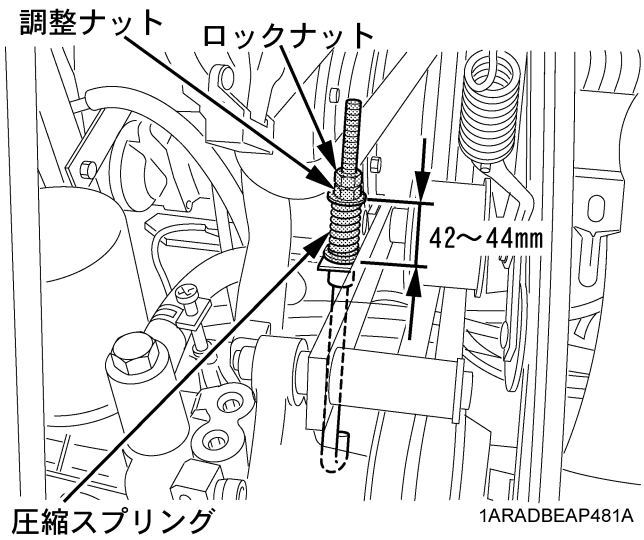
■ミッション駆動ベルト

圧縮スプリングの長さ 42 ～ 44mm に調整します。

1. 刈取オープンをします。(134 ページ参照)
2. ロックナットと調整ナットをゆるめて，調整ナットで調整を行ないます。

3. ロックナットを締付けたあと，刈取部を閉じます。



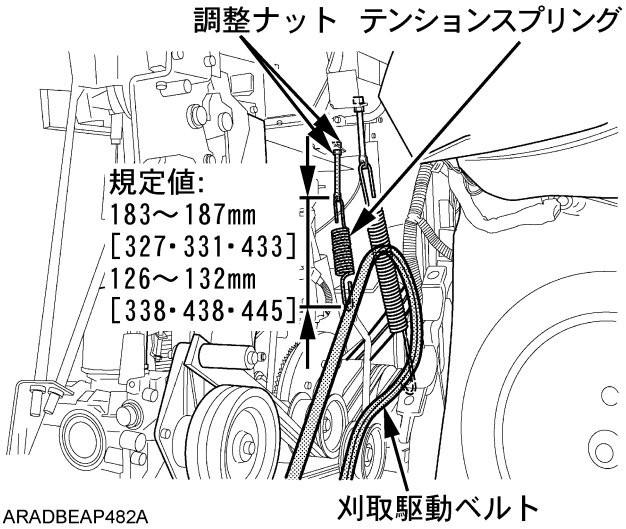


■刈取駆動ベルト

テンションスプリングの長さを183～187mm**[327・331・433]**，126 ～ 132mm **[338・438・445]** に調整します。

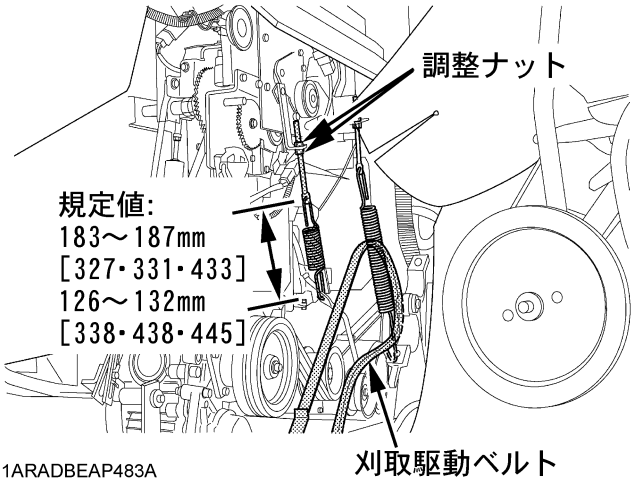
1. エンジンが停止した状態で，**[DX 仕様]** は刈取クラッチレバーを **[入]** 位置，**[SD 仕様]** はメインスイッチを **[入]** 位置にしたあと，刈取・脱こくクラッチレバーを［刈取］位置にします。
2. テンションスプリングの長さを測定します。
3. クラッチを **[切]** 位置にして刈取オープンをします。
4. 調整ナットをゆるめて，2. の工程で測定した長さと規定値の差分を調整します。
5. 調整ナットを締付けます。
6. 刈取部を閉じます。
7. 工程の 1.2. を再度行ない，テンションスプリングの長さが規定値に入っていることを確認します。

[DX 仕様]



[DX 仕様]

[SD 仕様]



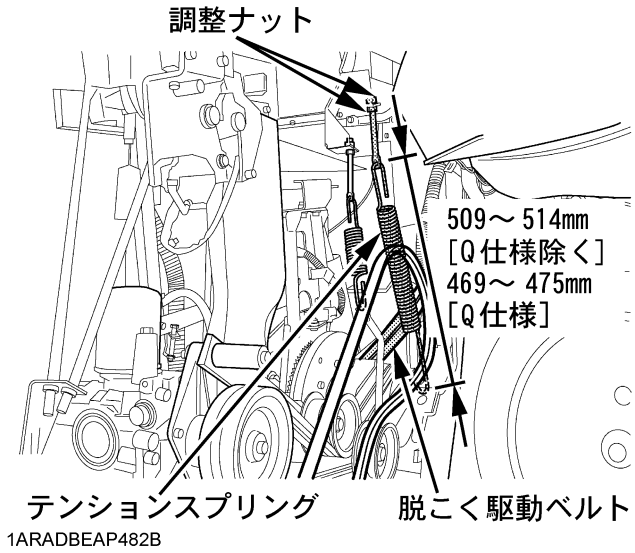
[SD 仕様]

■脱こく駆動ベルト

テンションスプリングの長さを 509 ～ 514mm **[Q 仕様除く]**，469 ～ 475mm **[Q 仕様]** に調整します。

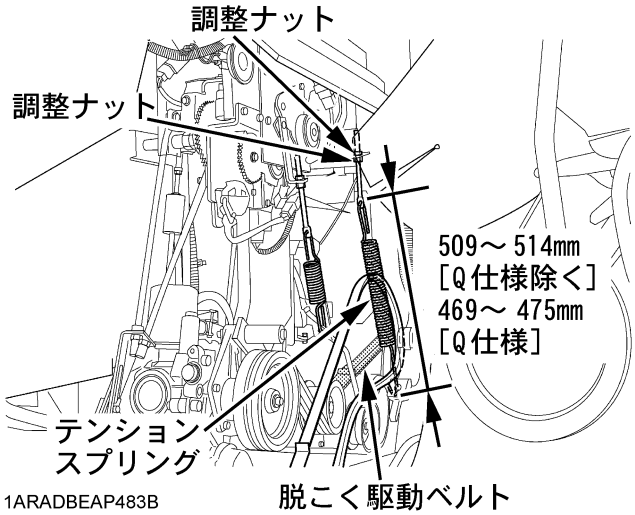
1. 刈取オープンをします。(134 ページ参照)
2. **[DX 仕様]** は，脱こくクラッチレバーを **[入]** 位置，**[SD 仕様]** は，刈取・脱こくクラッチレバーを **[脱こく]** 位置にします。
3. 調整ナット 2 個をゆるめて，調整を行ないます。
4. 調整ナットを締付けます。
5. 刈取部を閉じます。

[DX 仕様]



[DX 仕様]

[SD 仕様]



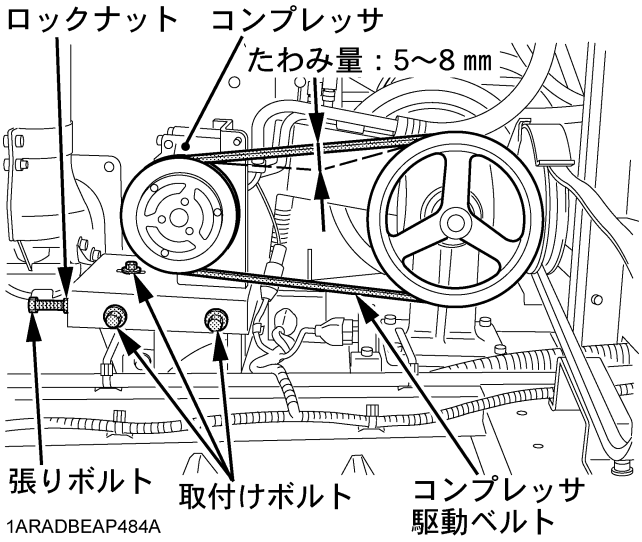
[SD 仕様]

■コンプレッサ駆動ベルト

[Q 仕様]

指先でベルトの中央部を押したとき (約 150N {15 kg} の荷重) のたわみ量を 5 ～ 8 mm に調整します。

1. グレンタンクオープンします。
2. コンプレッサの取付けボルトをゆるめます。
3. 張りボルトのロックナットをゆるめ，張りボルトで調整をします。
4. 張りボルトのロックナットを締付け，コンプレッサの取付けボルトを締付けます。



5. グレンタンクを閉じます。

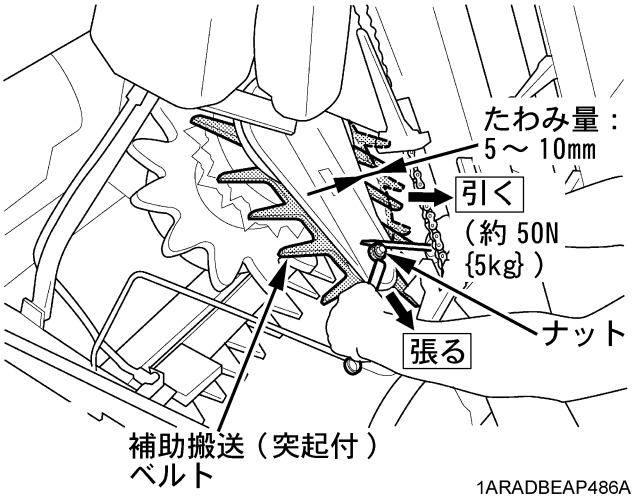
[Q 仕様]

■補助搬送（突起付）ベルト

指先でベルトの中央部を引いたとき（約50N{ 5 kg} の荷重）のたわみ量を５～ 10㎜ に調整します。

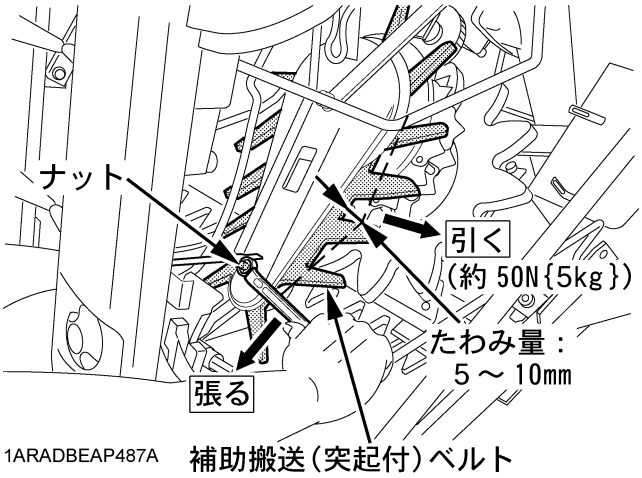
1. 引起しサイドカバー左，右を取外します。
2. ナットをゆるめます。
3. ４条の両端部と３条の左端部は下図のように固い棒（鉄の棒など）を切欠き部に差込み，張り方向に押しながらレンチでナットを締付けます。
4. 両端部以外はナットを少しゆるめて，樹脂ハンマーなどでナット取付部を前方に少しずつ張りながらベルトの調整を行なったあとナットを締付けます。
5. 引起しサイドカバー左，右を取付けます。

[４条右端部]



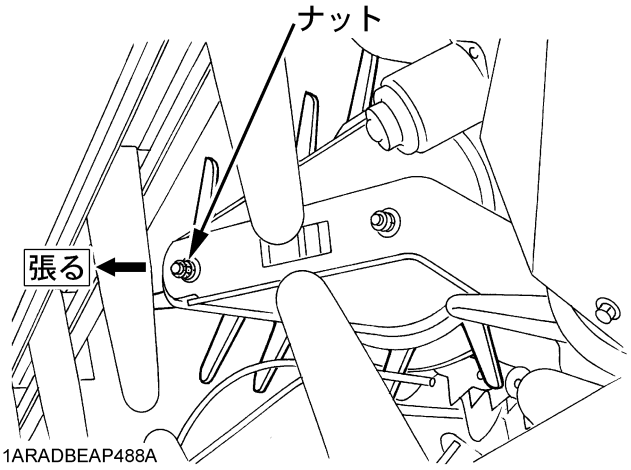
[４条右端部]

[３条・４条左端部]



[３条・４条左端部]

[４条両端部以外・３条左端部以外]

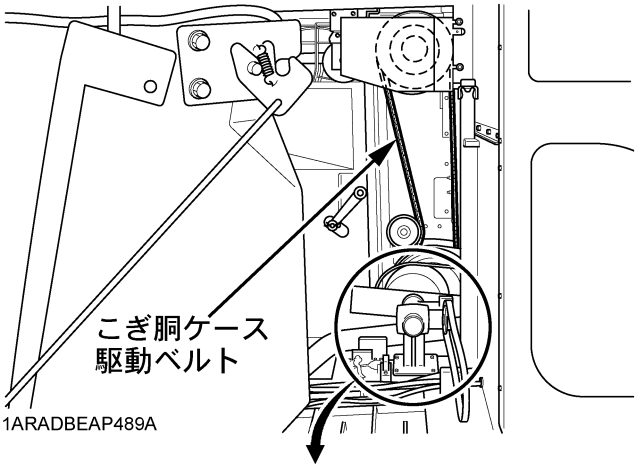


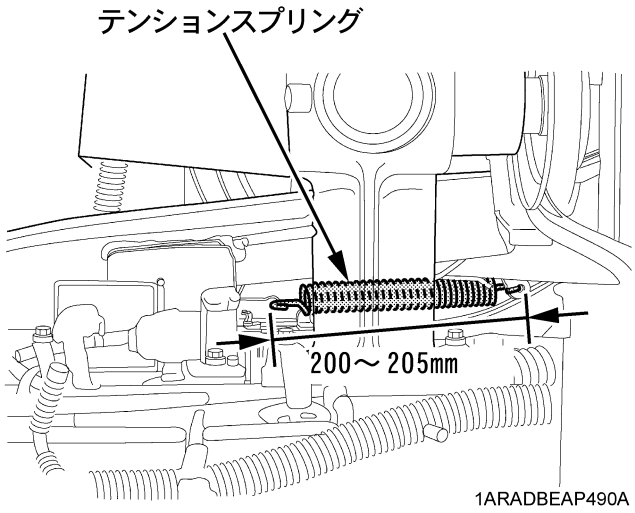
[４条両端部以外・３条左端部以外]

■こぎ胴ケース駆動ベルト

テンションスプリングの長さを 200 ～ 205mm に調整します。

1. グレンタンクオープンします。
2. ロックナットと調整ナットをゆるめて，調整ナットで調整を行ないます。
3. ロックナットを締付けたあと，グレンタンクを閉じます。

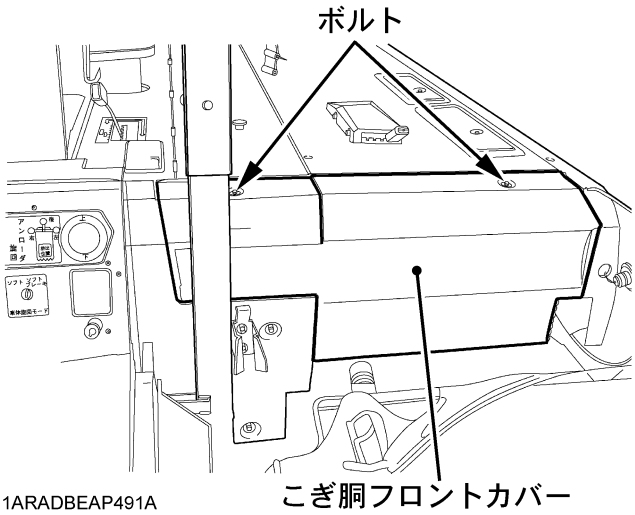




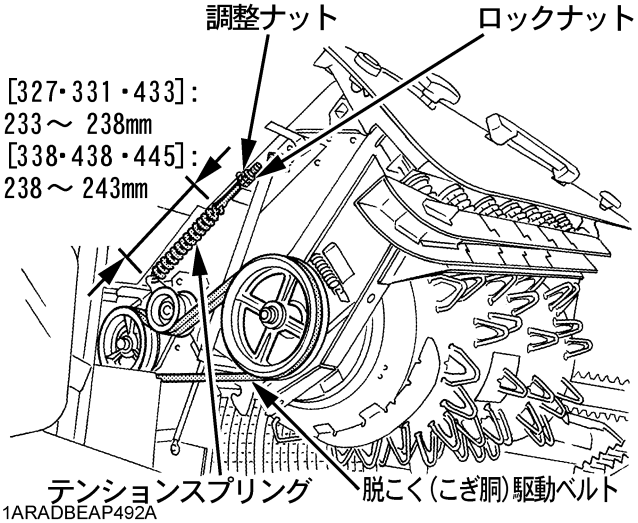
■こぎ胴駆動ベルト

テンションスプリングの長さを **[327・331・433]** は 233 ～ 238mm，**[338・438・445]** は 238 ～ 243mm に調整します。

1. こぎ胴フロントカバーを取外します。
   (1) フロントカバー上部のボルト 2 本を取外します。
   (2) こぎ胴をオープンします。
   (3) フロントカバー下部のボルト 2 本を取外したあと，フロントカバーを取外します。



2. ロックナットと調整ナットをゆるめて，調整ナットで調整を行ないます。

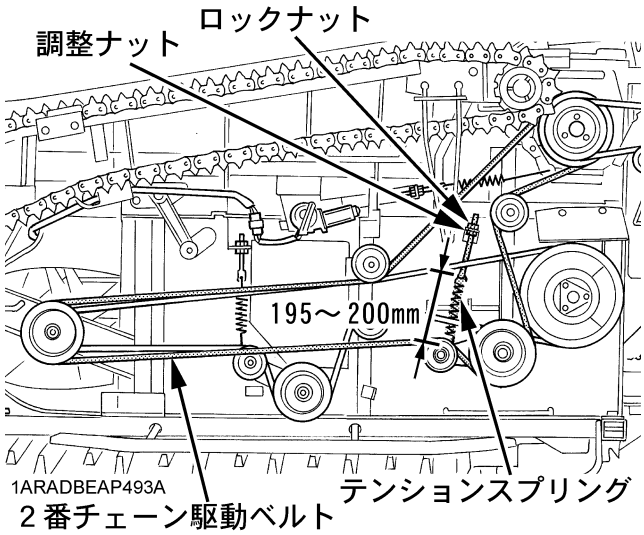


3. ロックナットを締付けたあと，こぎ胴フロントカバーを取付けます。
4. こぎ胴を閉じます。

■ 2 番・チェーン駆動ベルト

テンションスプリングの長さを 195 ～ 200㎜ に調整します。

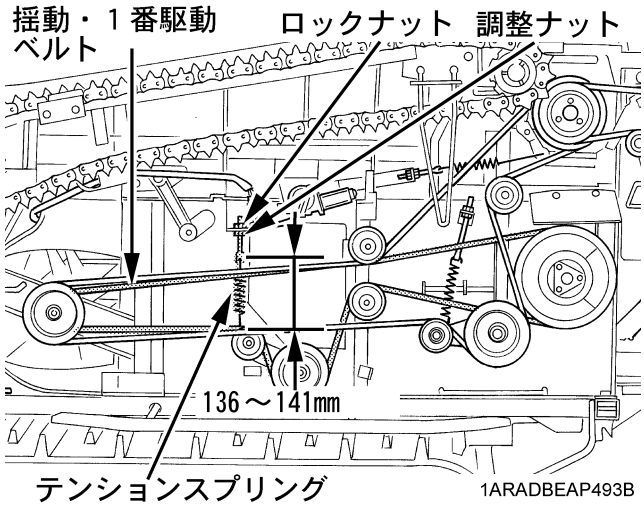
1. 左サイドカバー上・下を取外します。
2. 調整ナット 2 個をゆるめて，調整を行ないます。
3. 調整ナットを締付けたあと，左サイドカバー上・下を取付けます。



■揺動・1 番駆動ベルト

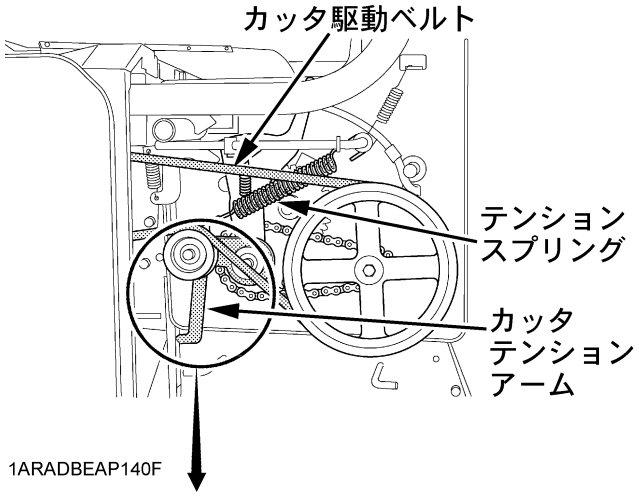
テンションスプリングの長さを 136 ～ 141㎜ に調整します。

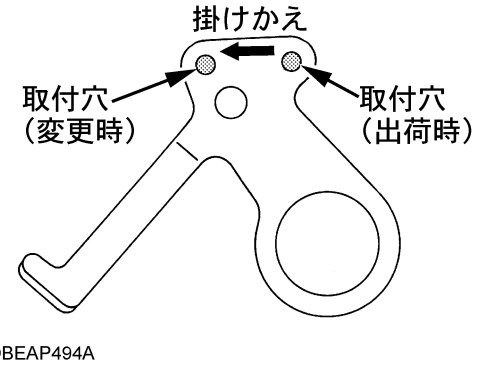
1. 左サイドカバー上・下を取外します。
2. 調整ナット 2 個をゆるめて，調整を行ないます。
3. 調整ナットを締付けたあと，左サイドカバー上・下を取付けます。



■カッタ駆動ベルト

ベルトの張りが弱いときは，テンションスプリングを取付けているカッタテンションアーム側の取付穴の位置を変更（掛けかえ）してください。

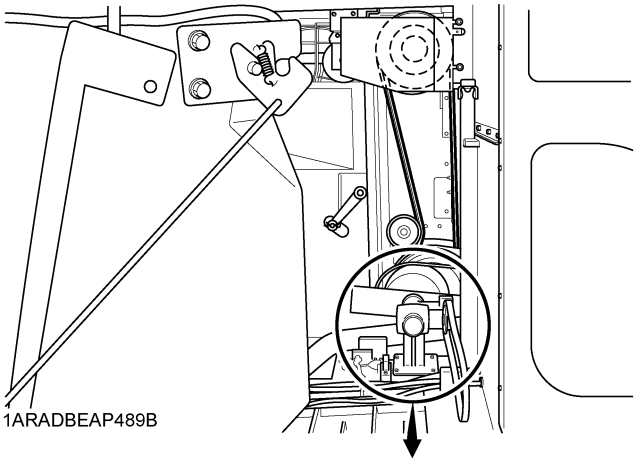


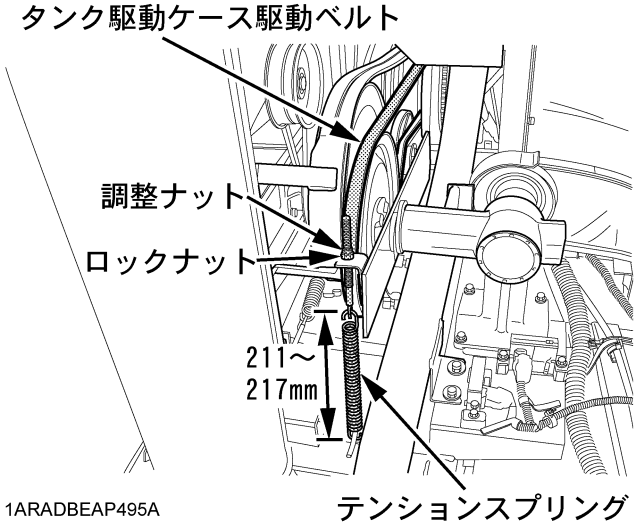


■タンク駆動ケース駆動ベルト

テンションスプリングの長さを211～217mmに調整します。

1. グレンタンクオープンをします。
2. ロックナットと調整ナットをゆるめて，調整ナットで調整を行ないます。
3. ロックナットを締付けたあと，グレンタンクを閉じます。

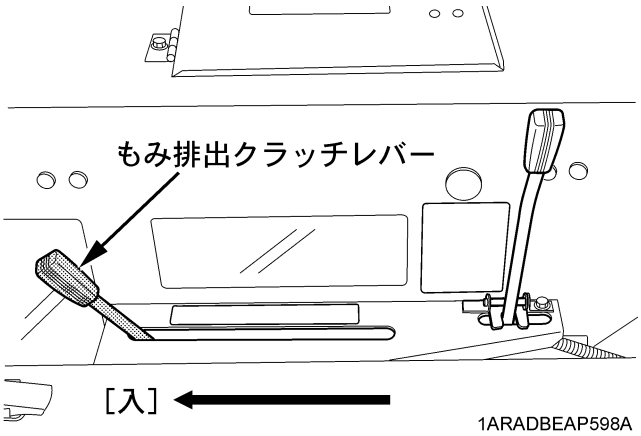


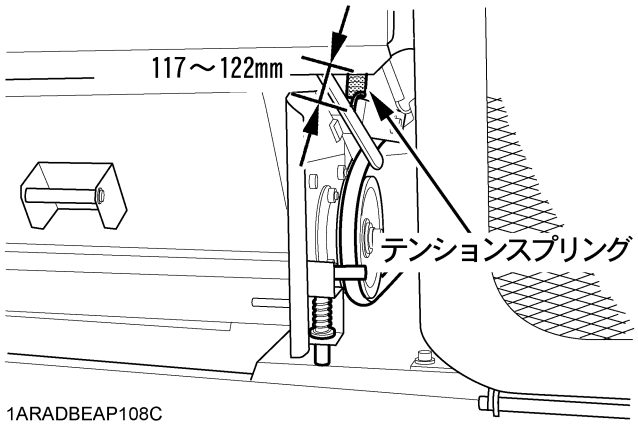


■スクリュ駆動ベルト

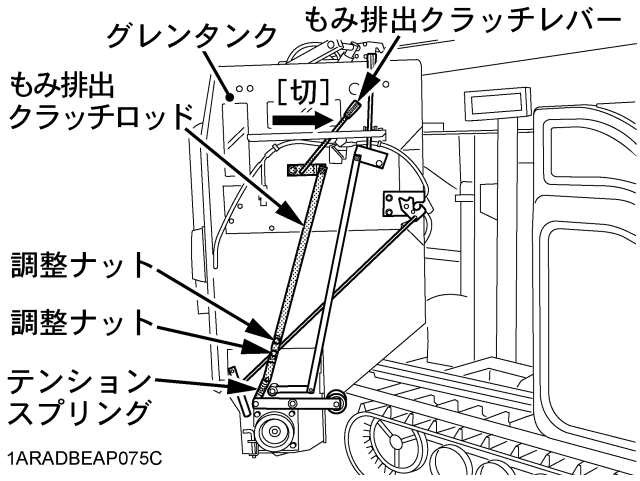
テンションスプリングの長さを117～122mmに調整します。

1. もみ排出クラッチレバーを**【入】**位置にします。
2. グレンタンク右サイドカバーを取外します。
3. テンションスプリングの長さを測定します。





4. 規定値（117～122mm）から外れているときはグレンタンクをオープンしたあと，もみ排出クラッチレバーをいったん**【切】**位置にします。
5. もみ排出クラッチロッド中間位置にある２箇所の調整ナットをゆるめて，調整を行ないます。



6. ２箇所の調整ナットを締付けたあと，グレンタンクを閉じてスクリュ駆動ベルトを取付けます。

7. もみ排出クラッチレバーを【入】位置にしてテンションスプリングが規定値になっていることを確認します。

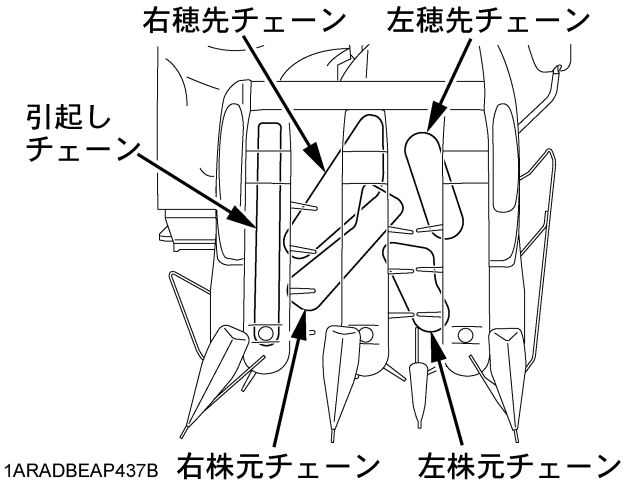
■各部チェーンの点検･調整

◆ 点検

各部のチェーンを点検して，ゆるみがあるときは調整してください。

● 点検箇所

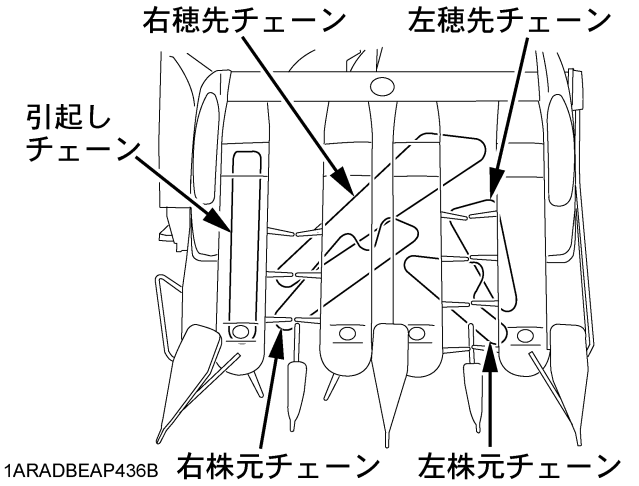
[327・331・338]



1ARADBEAP437B

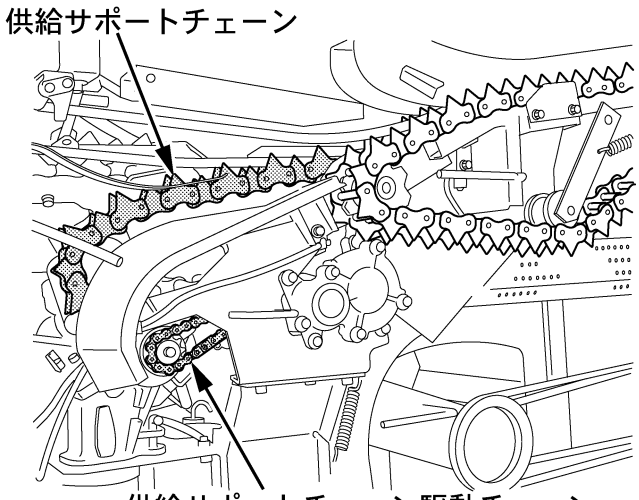
[327・331・338]

[433・438・445]

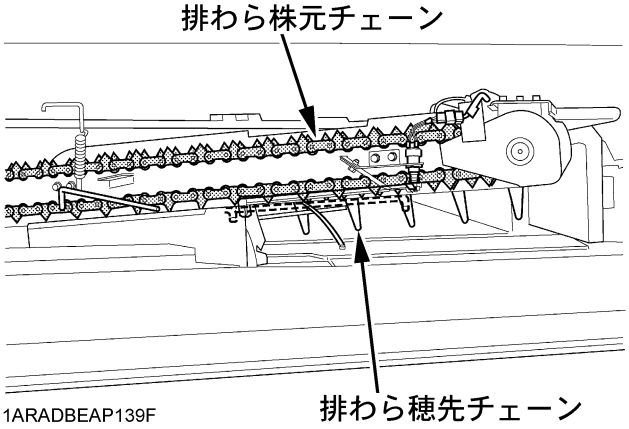


1ARADBEAP436B

[433・438・445]



1ARADBEAP427D



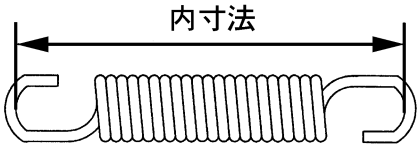
1ARADBEAP139F

◆ 調整

チェーンが伸びているときは，張り調整を行なってください。

補　足

＊ スプリングの取付け長さは，フックの内寸法を測定してください。



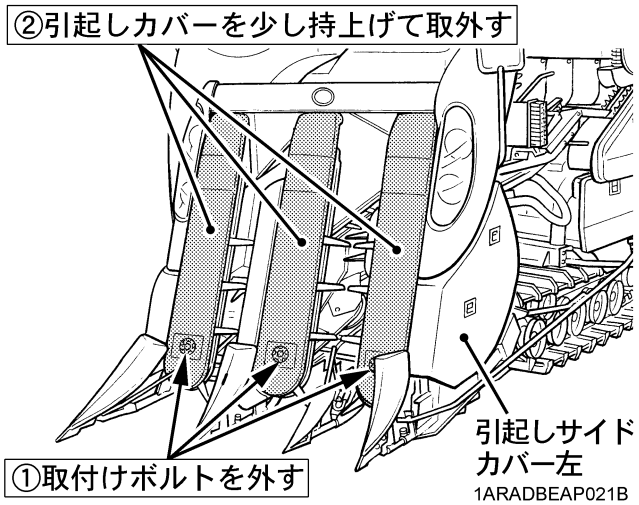
1ARADBEAP455A

■引起しチェーン

引起しテンションフックと引っ掛け部のすき間を 0.5 ～ 2.5㎜ に調整します。引起しチェーンの調整を行なうときは，引起しカバー及び引起しサイドカバー左・右を取外してください。

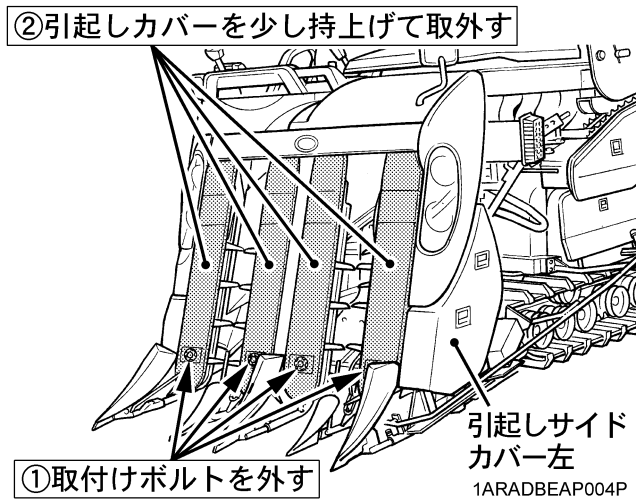
1. ロックナットと調整ナットをゆるめて，調整ナットで調整します。
2. ロックナットを締付けます。

[327・331・338]

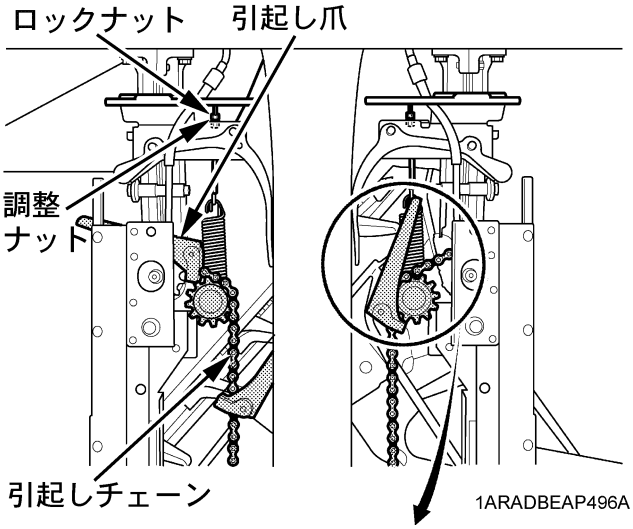


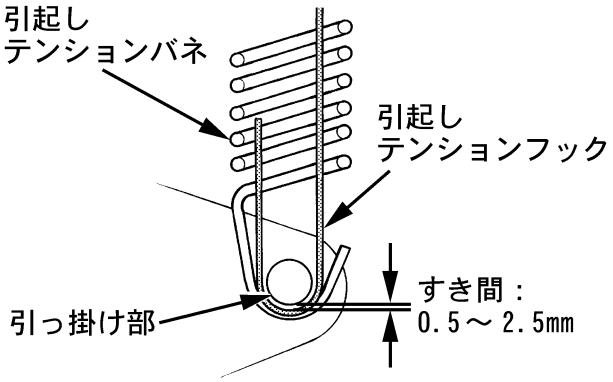
[327・331・338]

[433・438・445]



[433・438・445]

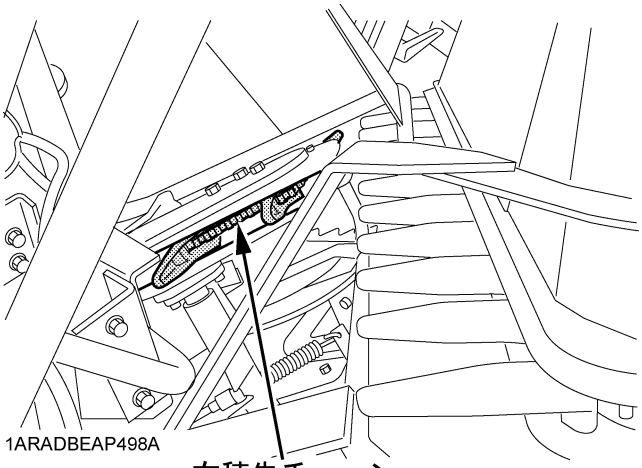


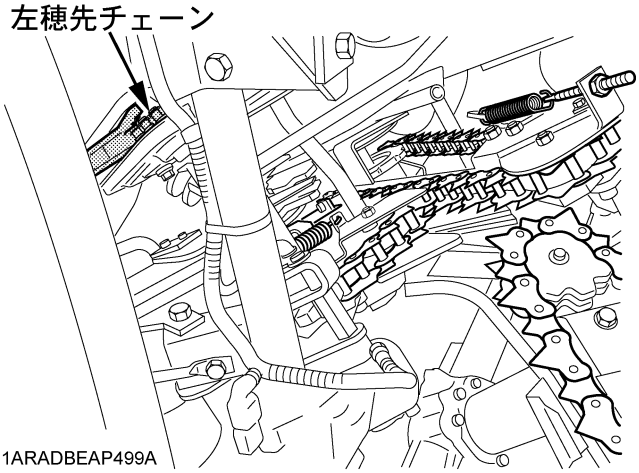


■右穂先チェーン・左穂先チェーン

自動テンションになっていますがチェーンが伸びたときは，購入先に連絡して半コマ（チェーン２リンク）を抜いてください。

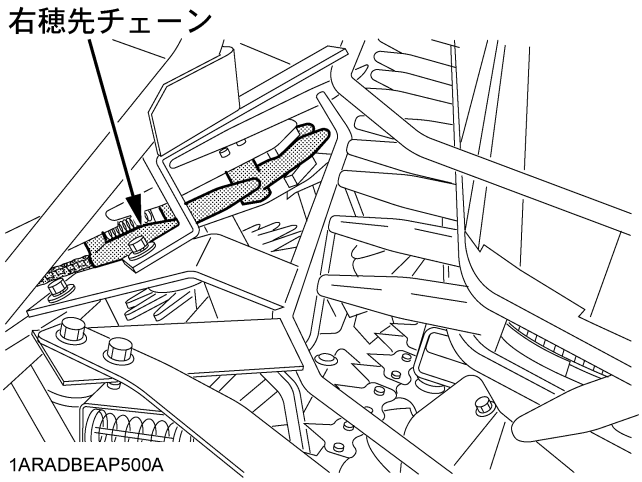
[327・331・338]

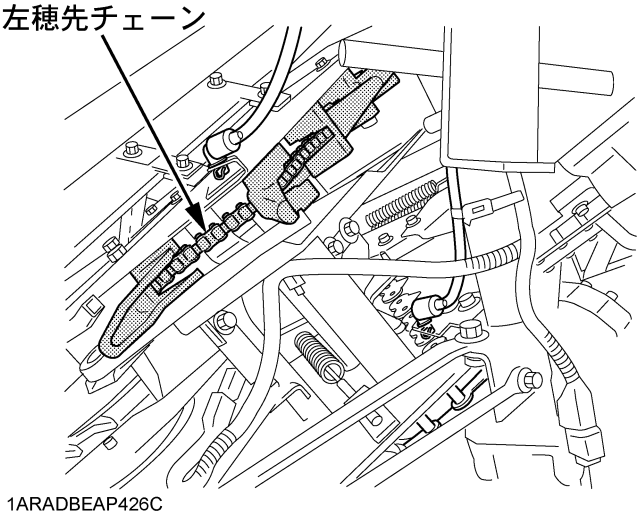




[327・331・338]

[433・438・445]



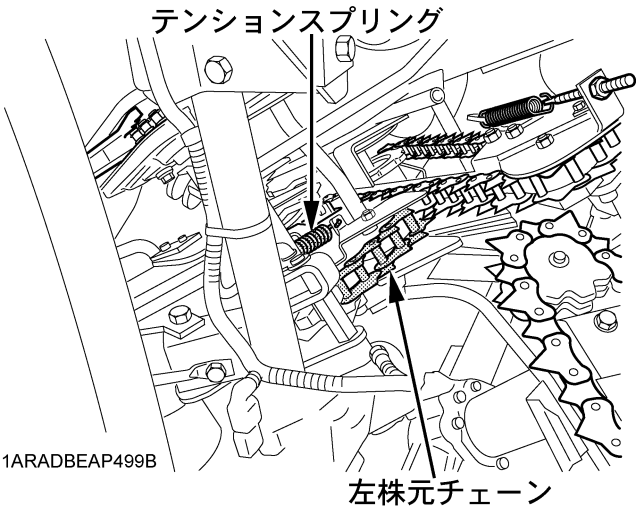


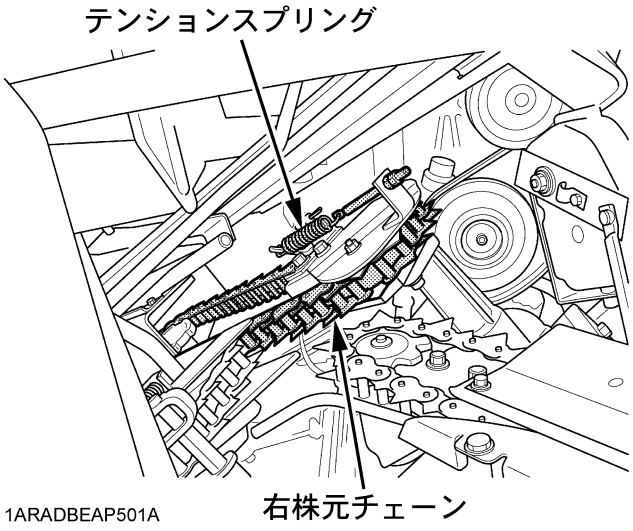
[433・438・445]

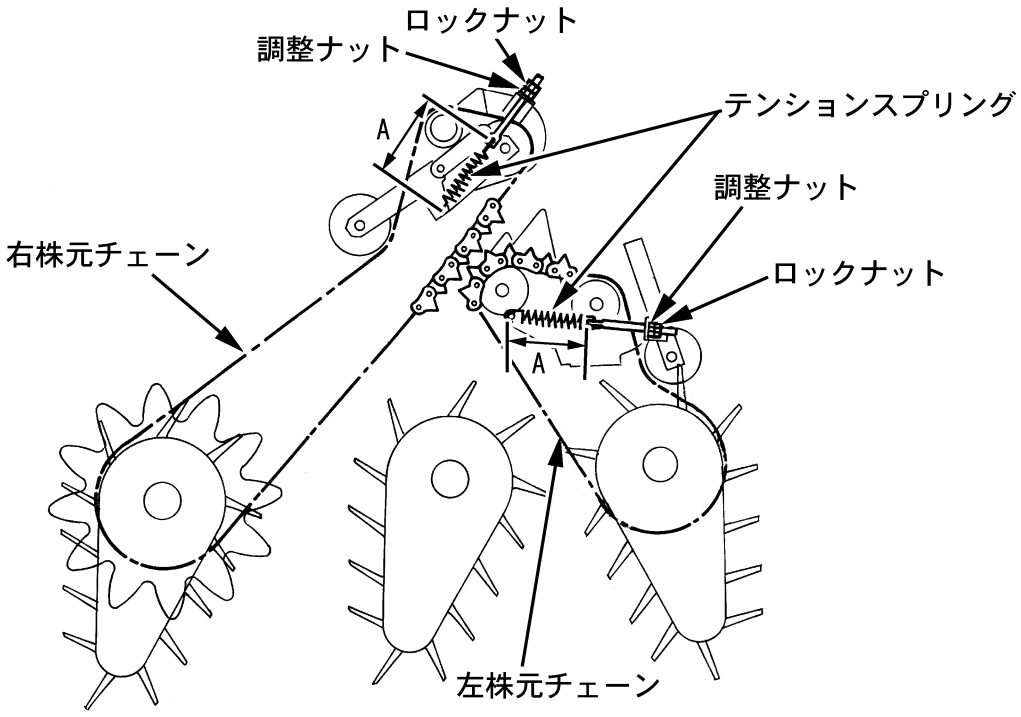
■左株元チェーン・右株元チェーン

[327・331・338]

テンションスプリングの長さ A 寸法を 123 ～ 129㎜ に調整します。
1. ロックナットと調整ナットをゆるめて，調整ナットで調整を行ないます。
2. ロックナットを締付けます。





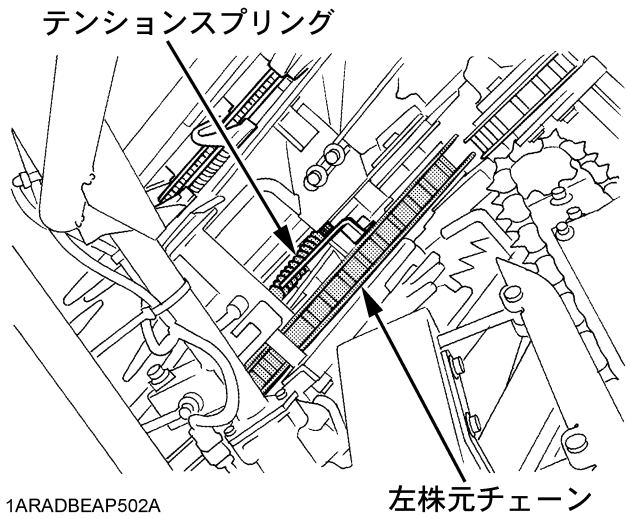


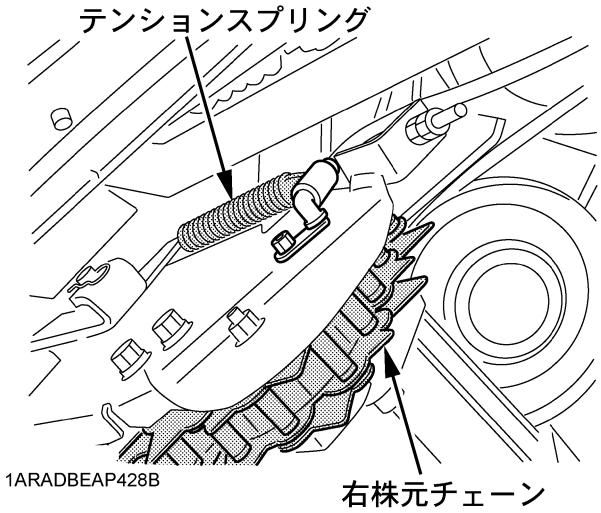
[327・331・338]

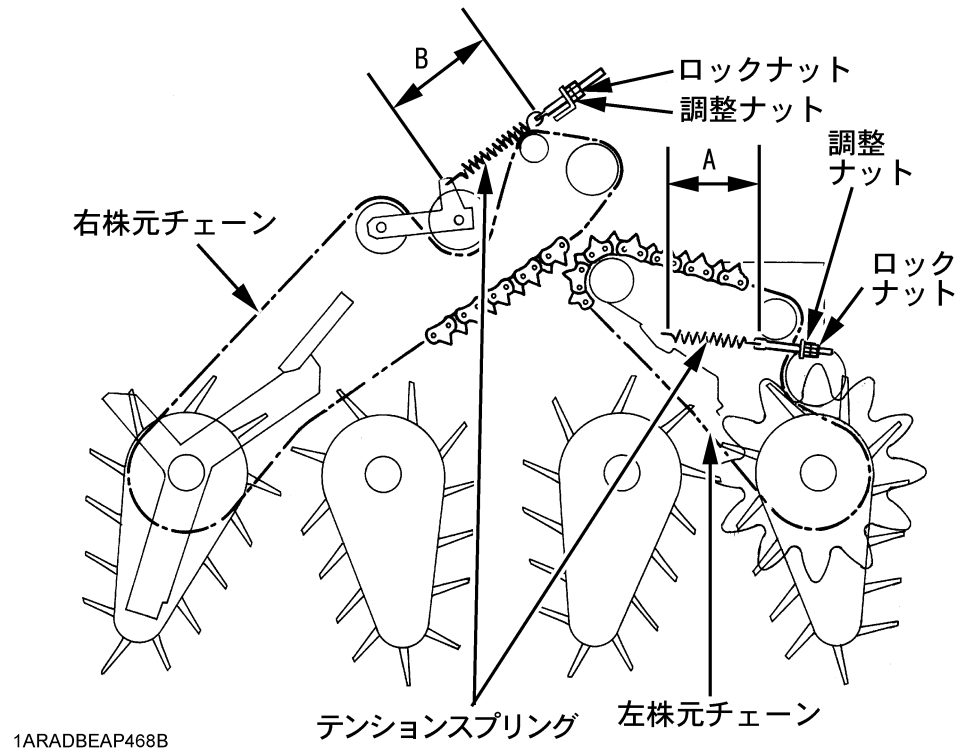
[433・438・445]

左株元チェーンはテンションスプリングの長さ A 寸法を 139 ～ 145mm に調整し，右株元チェーンはテンションスプリングの長さ B 寸法を 172 ～ 178mm にします。

1. ロックナットと調整ナットをゆるめて，調整ナットで調整を行ないます。
2. ロックナットを締付けます。







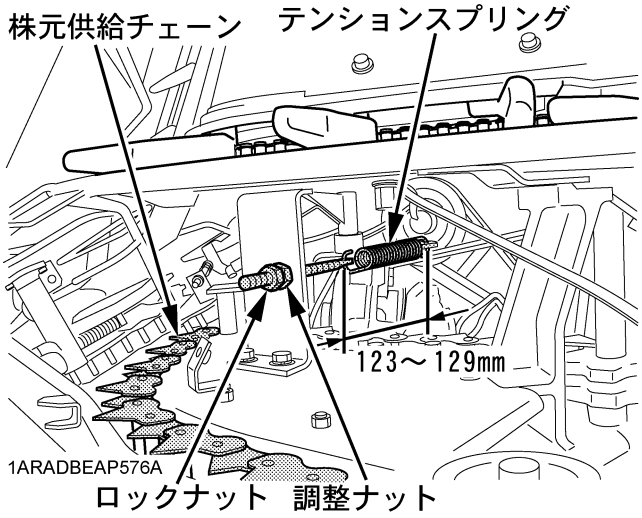
[327・331・338]

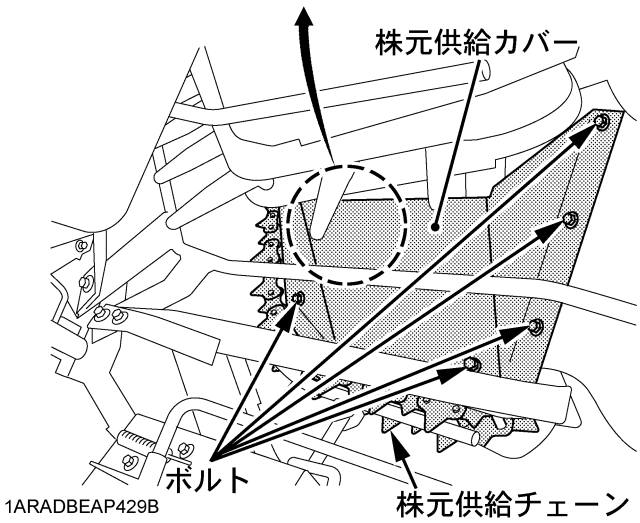
■株元供給チェーン

[327・331・338]

テンションスプリングの長さを123～129mmに調整します。

1. ボルトを取外して，株元供給カバーを外します。
2. ロックナットと調整ナットをゆるめて，調整ナットで調整を行ないます。
3. ロックナットを締付けます。
4. 株元供給カバーを取付けます。



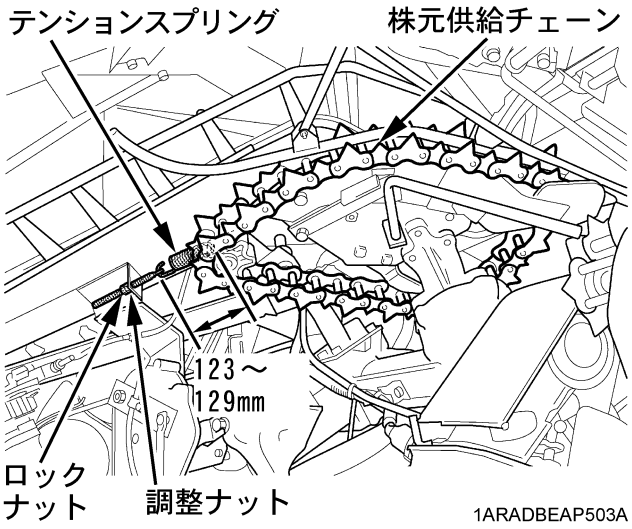


[327・331・338]

[433・438・445]

テンションスプリングの長さを123～129mmに調整します。

1. ロックナットと調整ナットをゆるめて，調整ナットで調整を行ないます。
2. ロックナットを締付けます。

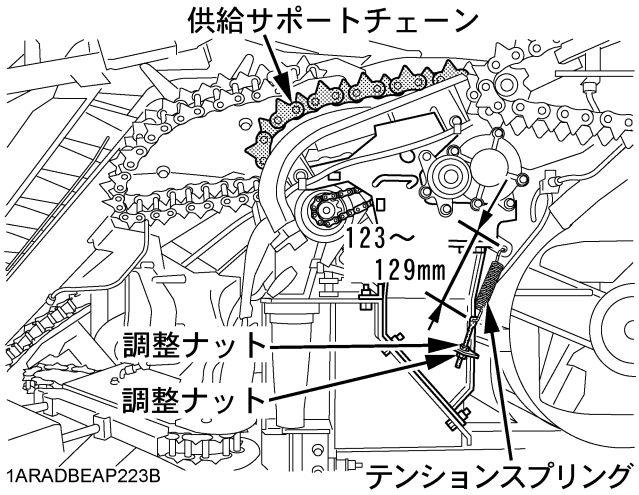


[433・438・445]

■供給サポートチェーン

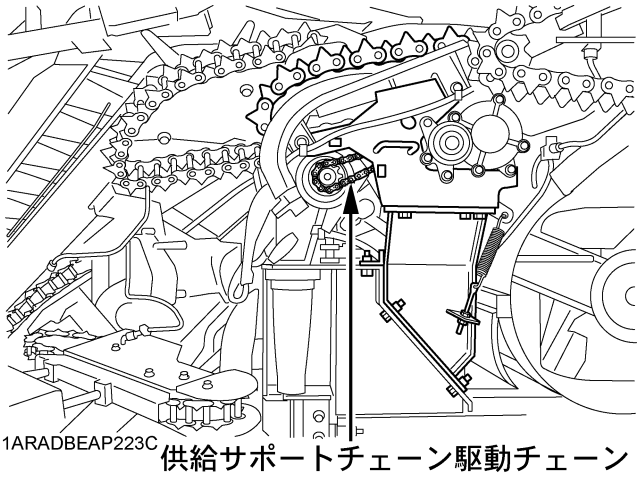
テンションスプリングの長さを123～129㎜に調整します。

1. 左サイドカバー１，２を取外します。
2. ロックナットと調整ナットをゆるめて，調整ナットで調整を行ないます。
3. ロックナットを締付けたあと，左サイドカバー１，２を取付けます。



■供給サポートチェーン駆動チェーン

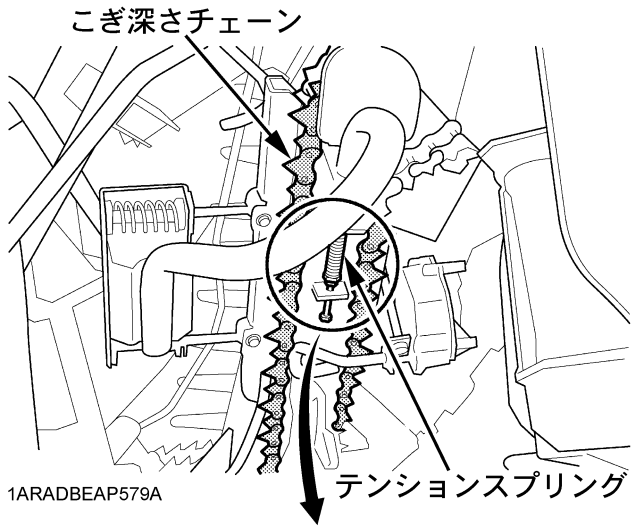
チェーンが伸びたときは，購入先に連絡してください。

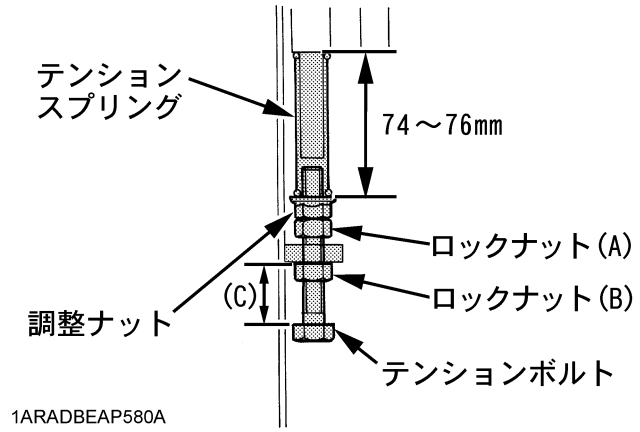


■こぎ深さチェーン

テンションスプリングの長さを74～76mmに調整します。

1. テンションボルトのロックナット（A）をゆるめます。
2. テンションスプリングのロックナット（A）と調整ナットをゆるめて，調整ナットで調整を行ないます。
3. ロックナットを締付けます。





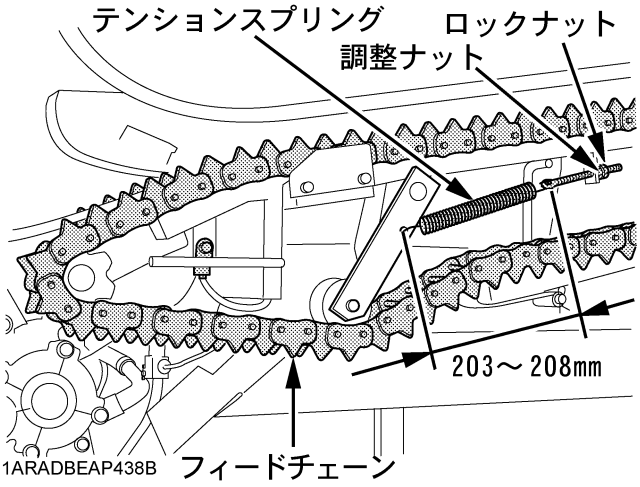
補　足

＊ ロックナット（B）はゆるめないでください。スプリングの張り代が変わるおそれがあります。もしロックナット（B）をゆるめたときは，（C）寸法を34mmに調整してください。

■フィードチェーン

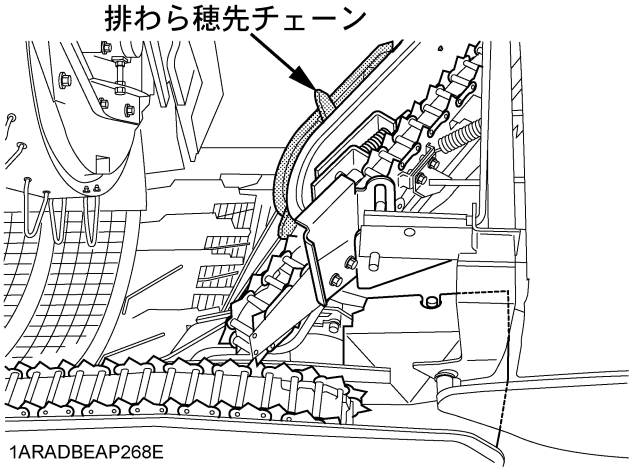
テンションスプリングの長さを203～208mmに調整します。

1. 左サイドカバー上を取外します。
2. ロックナットと調整ナットをゆるめたあと，調整ナットで調整を行ないます。
3. 調整ナットを締付けたあと，左サイドカバー上を取付けます。



■排わら穂先チェーン

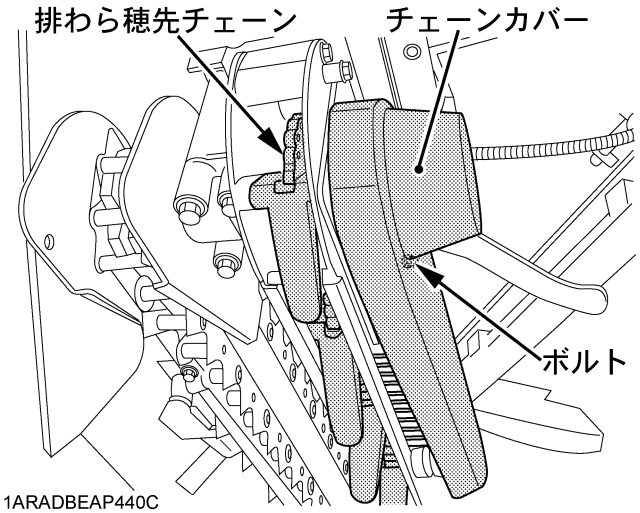
排わら穂先チェーンの張り調整は自動（自動テンション）で行ないますが，チェーンが伸びたときは，購入先に連絡してください。



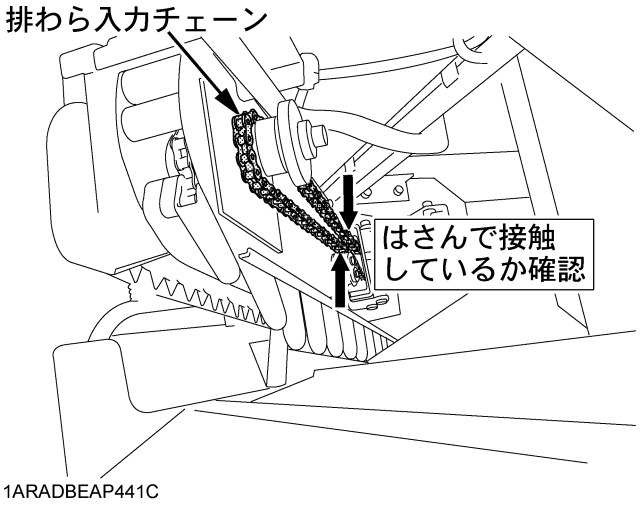
■排わら入力チェーン

排わら入力チェーンの張り調整は自動（自動テンション）で行ないますが，指で上下のチェーンをはさむと接触するときは，購入先に連絡してください。

1. ボルトを取外して排わら入力チェーンカバーを外します。



2. 指で排わら入力チェーンの上下の幅が一番狭いところをはさみ，接触しているか確認します。



3. 排わら入力チェーンカバーを取付けます。

■刈刃の点検・調整

注 意

＊ 平たんな場所で刈取部を上げて，刈取り下降ロックレバーを［ロック］位置にして刈取部を必ずロックし，落下防止の歯止めをしてください。
＊ 刃部に手を掛けないでください。不用意に刃が動くと危険です。
＊ 脱着作業は手袋をして，２人で刈刃の両端を持って行なってください。

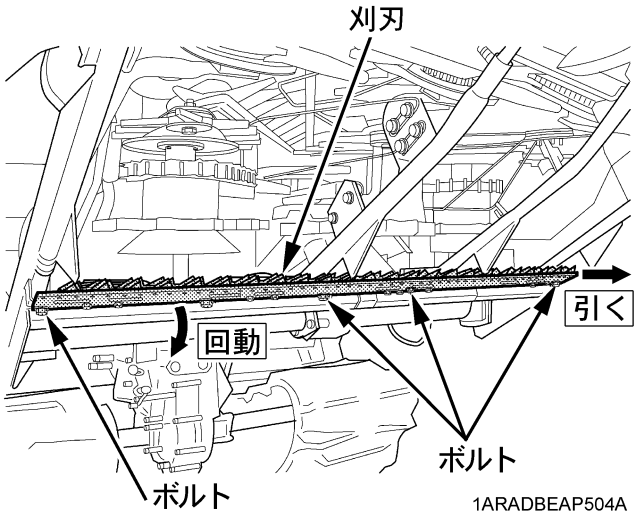
刈刃の刃先が摩耗してきたり，欠けてくると作物の刈跡が悪くなったり，引抜きを起こすことがありますので，早目の点検・調整・交換を行なってください。

◆ 点検・取外し

1. 自動水平制御の水平操作レバーを操作して，機体を最上昇位置にします。
2. 刈取部を最上昇させたあと，刈取下降ロックをし，刈取部の下降防止を行ないます。

[327・331・338]

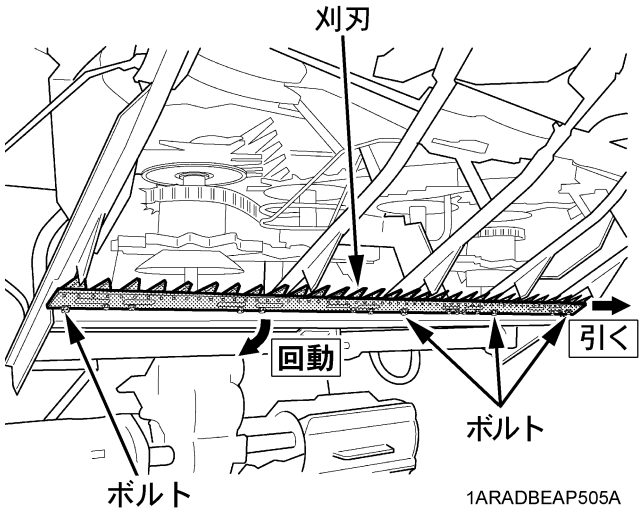
3. エンジンを停止したあと，ボルト３本を外し，刈刃を垂直に回動したあと，左側へ引いて刈刃を取外します。



[327・331・338]

[433・438・445]

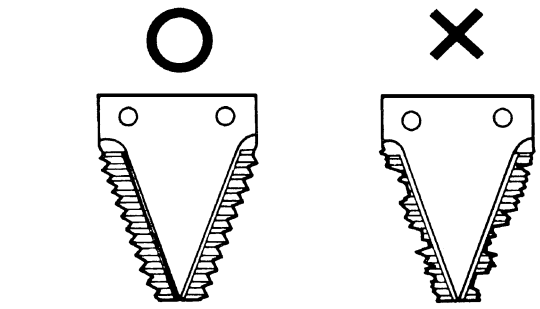
3. エンジンを停止したあと，ボルト４本を外し，刈刃を垂直に回動したあと，左側へ引いて刈刃を取外します。



1ARADBEAP505A

[433・438・445]

4. 刈刃の刃先と刈刃の動きを確認し，動きがかたいときは，注油，グリース塗布やすき間調整を行ないます。また，刃先が摩耗したり，欠けているときは購入先に連絡して交換してください。



1ARADBEAP506A

◆ すき間調整

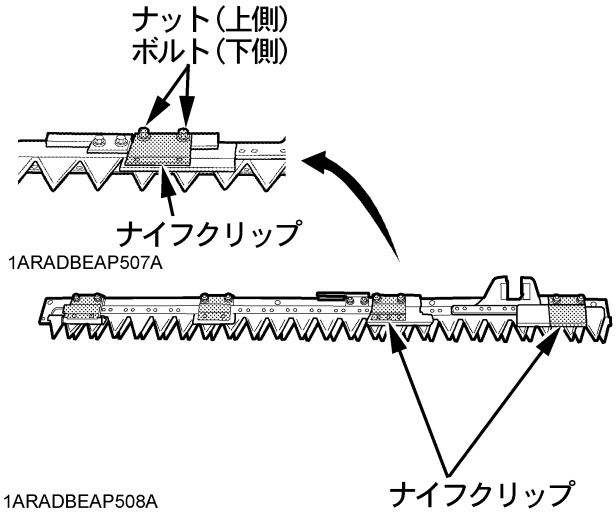
すき間を測定するときは，すき間ゲージを使用してください。

補　足

＊ 専用工具については，購入先にご相談ください。

1. ボルト・ナットを取外して各ナイフクリップを受刃台から外します。

[327・331・338]

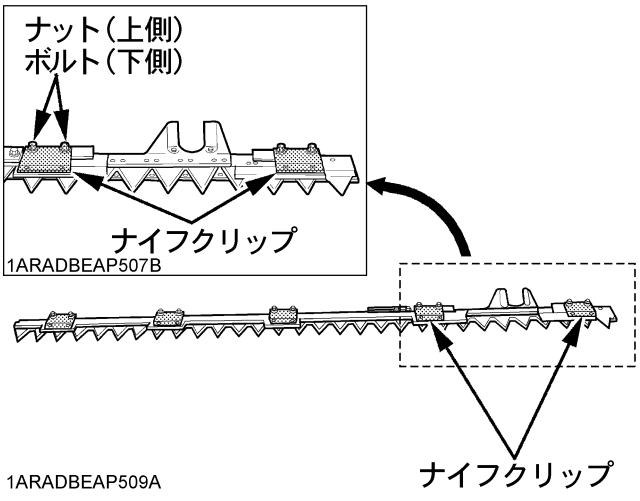


1ARADBEAP507A

1ARADBEAP508A

[327・331・338]

[433・438・445]

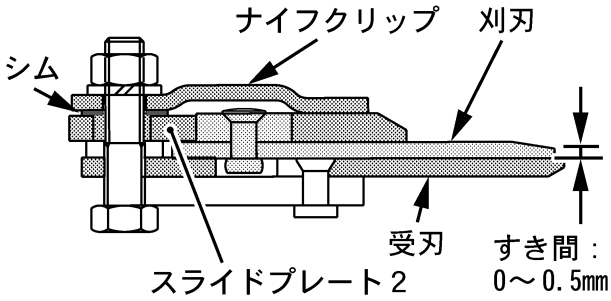


1ARADBEAP507B

1ARADBEAP509A

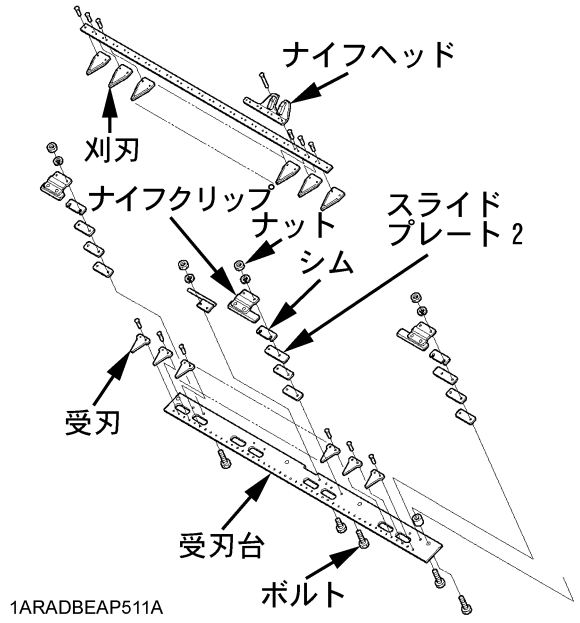
[433・438・445]

2. 刈刃を取外したあと，ワイヤブラシなどで泥やさびを取除きます。
3. 刈刃と受刃のすき間が０～ 0.5㎜ になるよう調整します。
   (1) ナイフクリップとスライドプレート２の間にあるシムを増減して調整したあと，ボルト・ナットを締付けたときの刈刃と受刃のすき間を０～0.5㎜に調整します。



1ARADBEAP510A

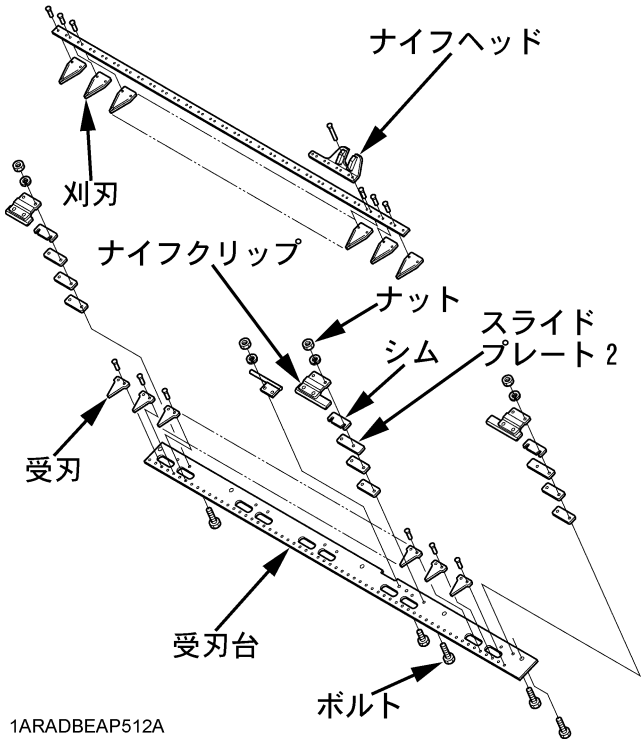
[327・331・338]



1ARADBEAP511A

[327・331・338]

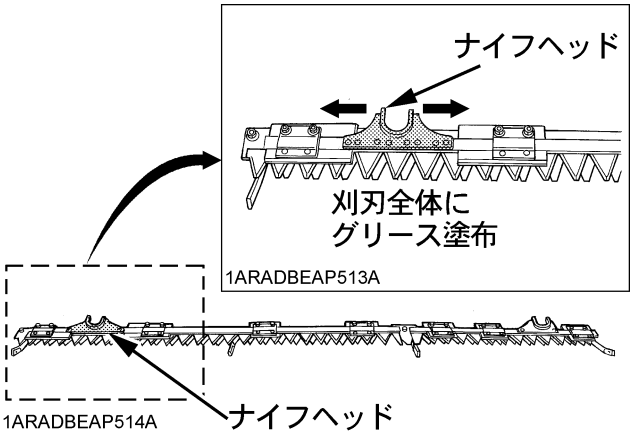
[433・438・445]



1ARADBEAP512A

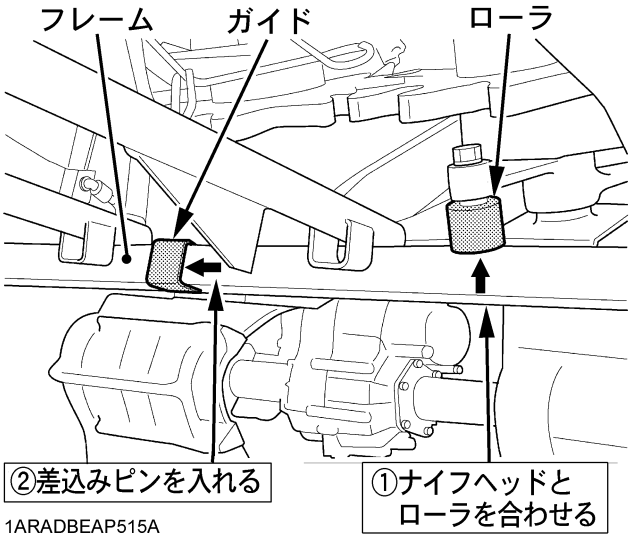
[433・438・445]

(2) ナイフヘッドを持ち，刈刃を左，右に動かします。動かないときや軽く動くときは再調整を行ない，異常がなければ刈刃全体にグリースを塗布します。

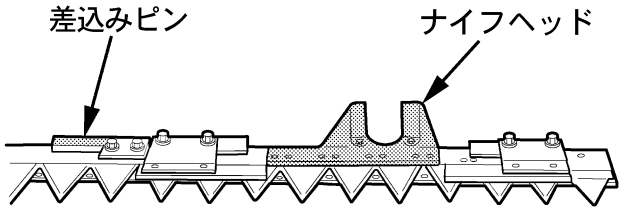


◆ 取付け

1. ２人作業で刈刃を垂直の状態にして，刈刃の差込みピンをフレームとガイドのすき間に差込んで，刈刃全体を右側に移動させます。
2. 刈刃取付け台の前を持上げ，ナイフヘッドとローラの位置を合わせてから，ボルト穴まで持上げて，ボルト（**[327・331・338]** は３本，**[433・438・445]** は４本）で取付けます。



1ARADBEAP515A



1ARADBEAP507C

■こぎ歯の点検･交換

警　告

＊ 中でこぎ歯が高速で回転しているので接触するとケガをします。こぎ胴オープンするときは，エンジンを必ず止めてください。

注　意

＊ 平たんな場所でエンジンを必ず停止して，こぎ歯の点検・交換を行なってください。

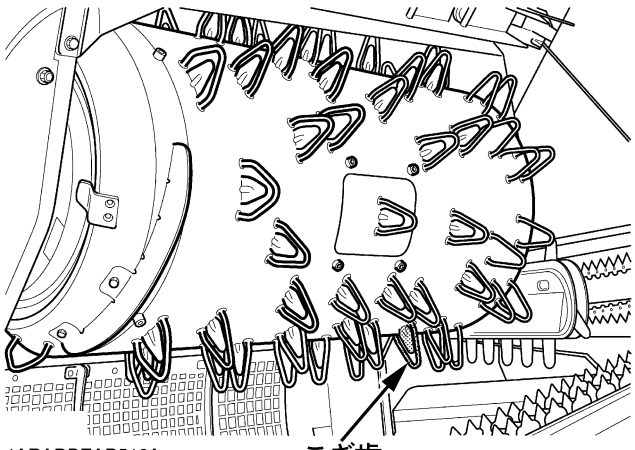
こぎ歯の歯先が摩耗してくると，受あみとのすき間が大きくなり，こぎ残しが発生する原因となりますので歯先の線径が2.5㎜以下になったときは組換え又は，交換を行なってください。

重　要

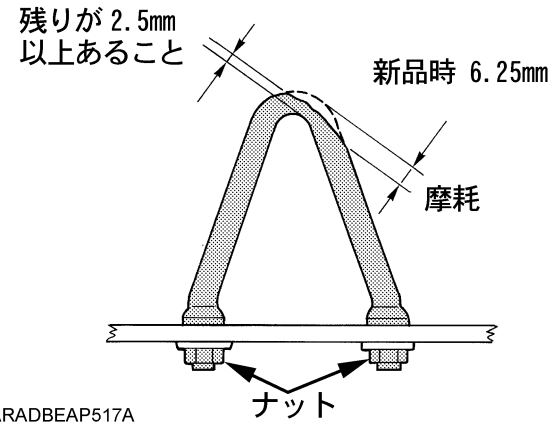
＊ 歯先の線径が 2.5㎜ 以下になると，こぎ歯が変形したり，歯先が割れて故障の原因となります。

◆ 点検

1. こぎ胴をオープンします。
2. こぎ歯の歯先の摩耗量を測定し，線径が2.5㎜以下のときは交換します。



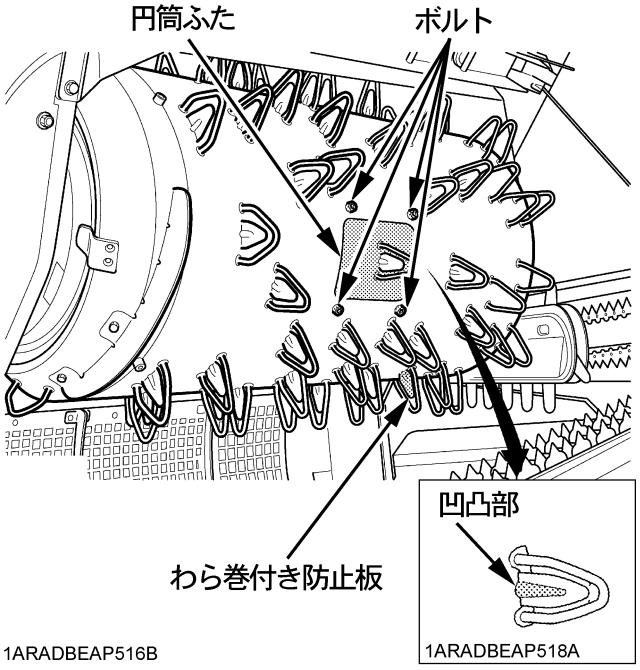
1ARADBEAP516A



1ARADBEAP517A

◆ 交換

1. 六角レンチでボルト４本を取外し，円筒ふたを取外します。
2. 円筒ふたから手を入れて，こぎ胴の内側からナット２個を取外し，こぎ歯を取外します。
3. 新しいこぎ歯をナット２個で取付けます。
4. 円筒ふたを取付けます。



1ARADBEAP516B
1ARADBEAP518A

補　足

＊ 円筒ふたは２箇所あります。
＊ わら巻付防止板を取付けるときは，凹凸部の凸側を左側にして取付けてください。
＊ 六角レンチは購入先にご相談ください。

■わら切刃の点検･交換

注　意

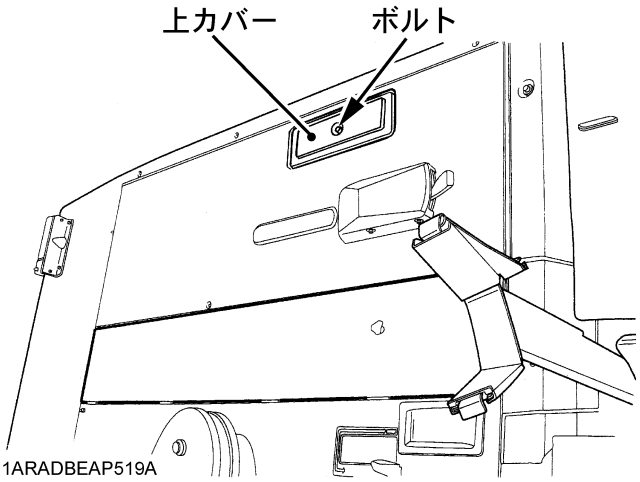
＊ 刃部に手を掛けないでください。
＊ 危険ですので，手袋をして，脱着作業をしてください。

わら切刃が切れなくなると，こぎ胴室内に発生するわらくずを細かく切断できなくなるため，わらくずの移動が悪くなります。また，必要以上の動力を消費するばかりでなく，排じん選別室に送られたわらくずが２番スクリュに巻きついたり，２番処理胴に詰まったりします。

◆ 点検

点検するときは，アンローダを上昇し，わら作業切換えレバーを**［ドロッパ・バラ落とし］**側にしてください。また，穂先側はノブボルトを引いて脱こく上部カバー２を開き，株元側はボルトを取外して上カバーをそれぞれ取外してください。

[327・331・433]



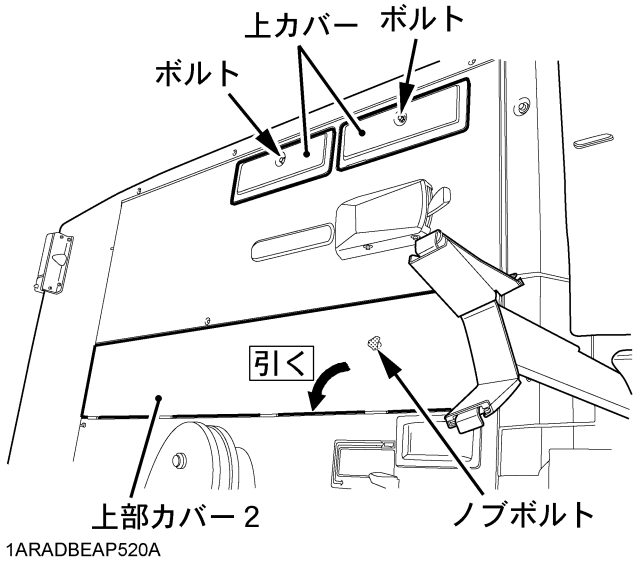
1ARADBEAP519A

補　足

＊ **［327］**の株元側のわら切刃はありません。

[327・331・433]

[338・438・445]

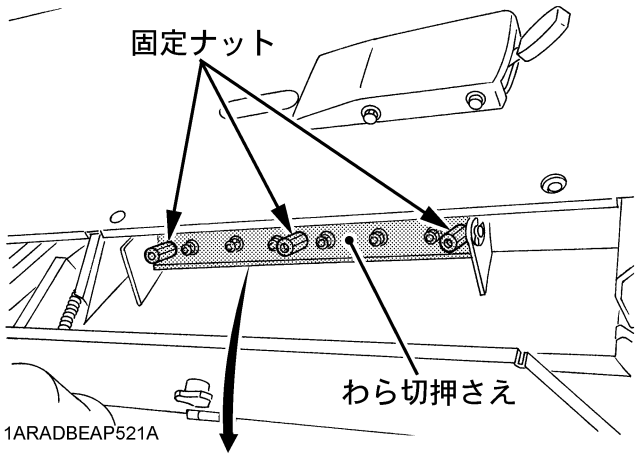


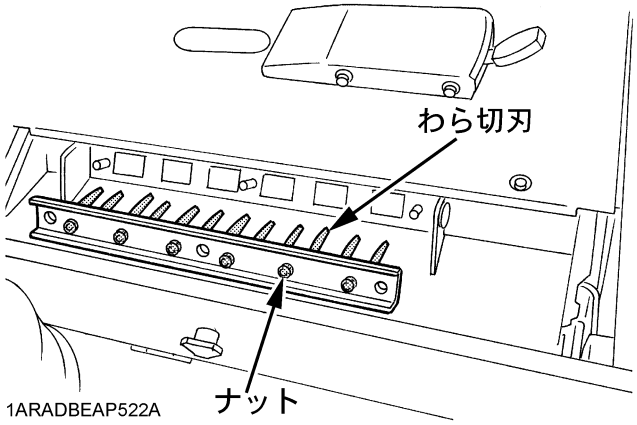
[338・438・445]

● **穂先側**

1. 脱こく上部カバー２を開けます。
2. わら切刃押えの固定ナット（４個）を外します。
3. わら切刃押えを取外します。

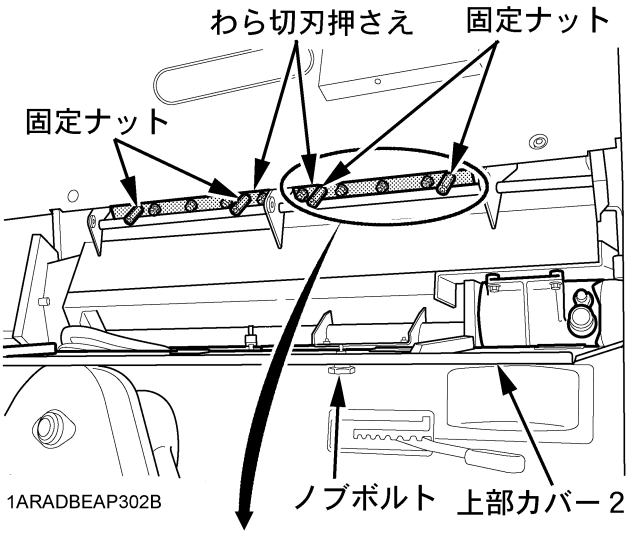
[327・331・433]



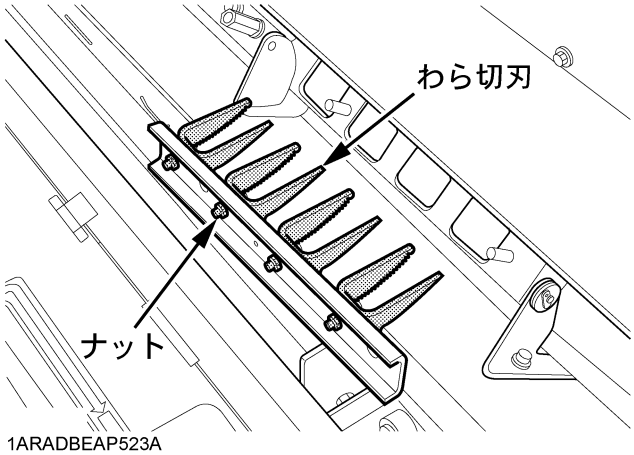


[327・331・433]

[338・438・445]



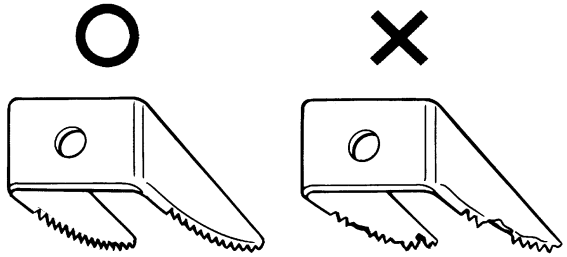
1ARADBEAP302B



1ARADBEAP523A

[338・438・445]

4. わら切刃押えを取出したあと，わら切刃の刃先を確認します。刃先が摩耗したり，欠けているときはナットを取外して交換してください。

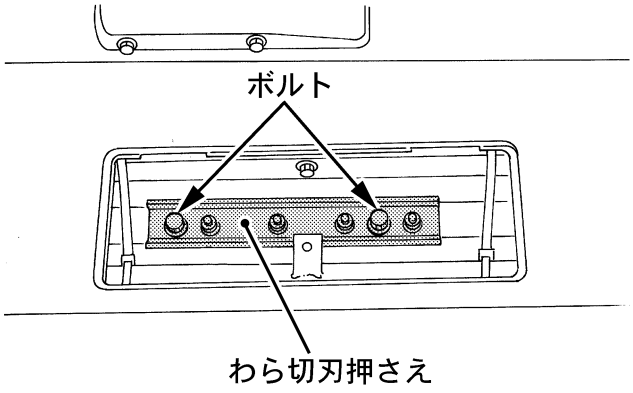


1ARADBEAP524A

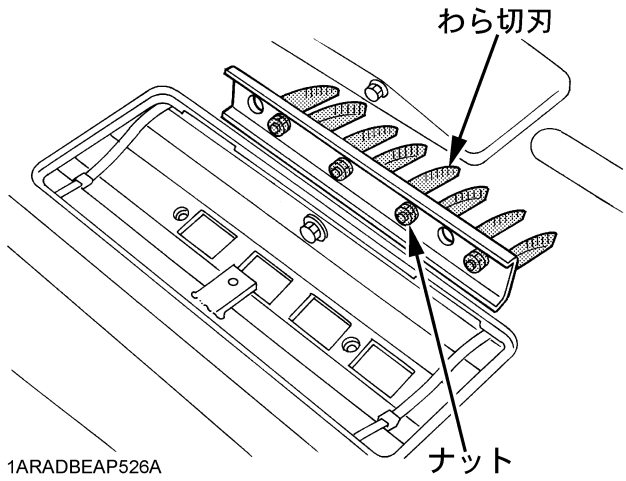
● **株元側**

1. 上カバーふたを取外します。
2. わら切刃押えの固定ボルトを外します。
3. わら切刃押えを取出します。

[331・433]



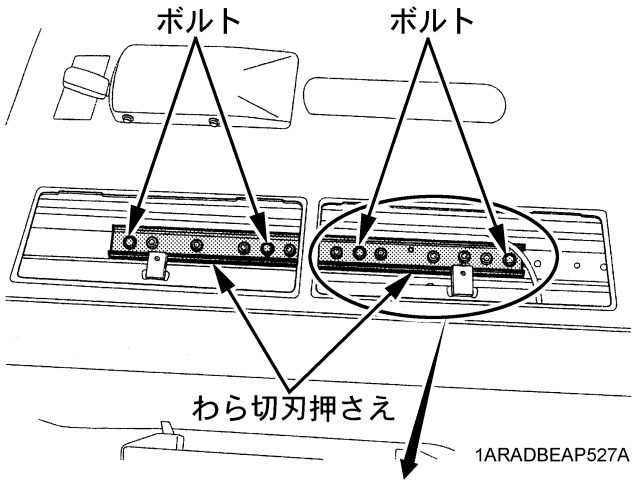
1ARADBEAP525A

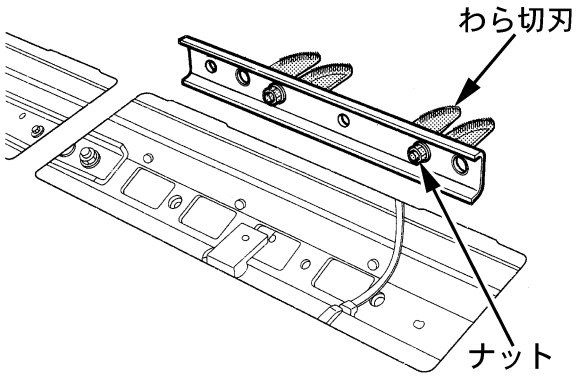


1ARADBEAP526A

[331・433]

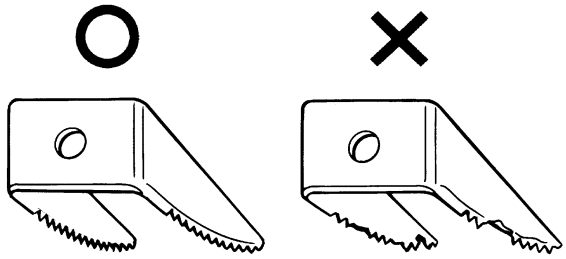
[338・438・445]





[338・438・445]

4. わら切刃押えを取出したあと，わら切刃の刃先を確認します。刃先が摩耗したり，欠けているときはナットを取外して交換してください。



◆ **交換・取付け**

1. **［穂先側］**は刃先を**下側**にし，**［株元側］**は刃先を**上側**にしてわら切刃押えを差込みます。
2. **［穂先側］**は，固定ナット又は，**［株元側］**は，固定ボルトにネジロックを塗布してそれぞれ取付けます。
3. カバーを閉じます。

重　要

＊ わら切刃を取付けるときは，取付方向や傾きの出ないように注意して取付けてください。

補　足

＊ ネジロックは購入先に連絡してください。

■カッタ部の点検･増締め

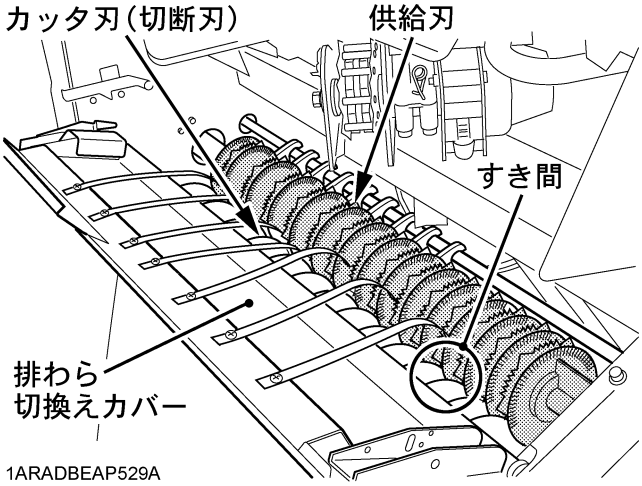
警　告

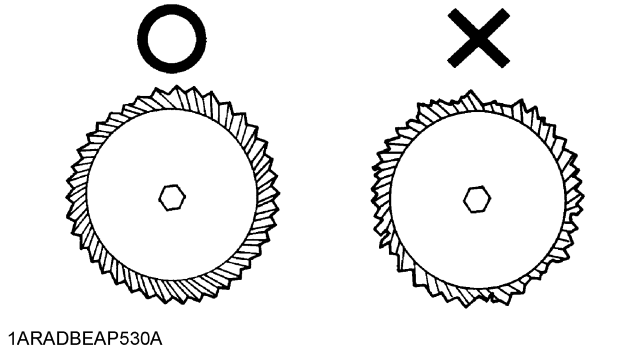
＊ 平たんな場所でエンジンを必ず停止して行なってください。
＊ 手袋を使用し，直接カッタ刃に触れないでください。

補　足

＊ わらくずなどは取除いてください。

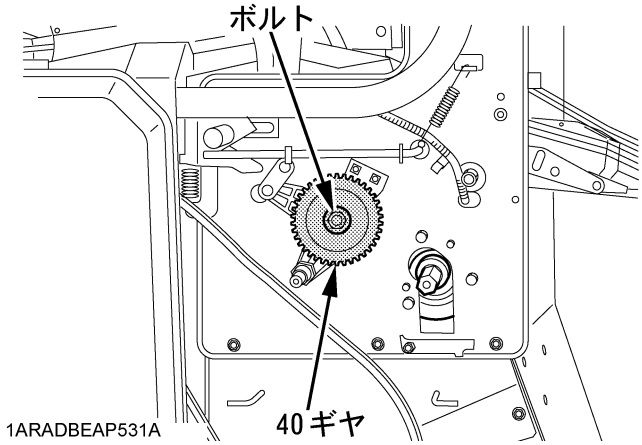
カバーロックレバーを引き，排わら切換えカバーを開いてカッタ刃（切断刃）の刃先の摩耗状態やカッタ刃（切断刃）と供給刃のラップ代とすき間を確認します。刃先が摩耗したり，欠けているときは交換してください。（228 ページ参照）また，定期的（初回又は，交換後 50 時間後，その後 200 時間ごと）に切断軸と供給軸の増締めを行なってください。



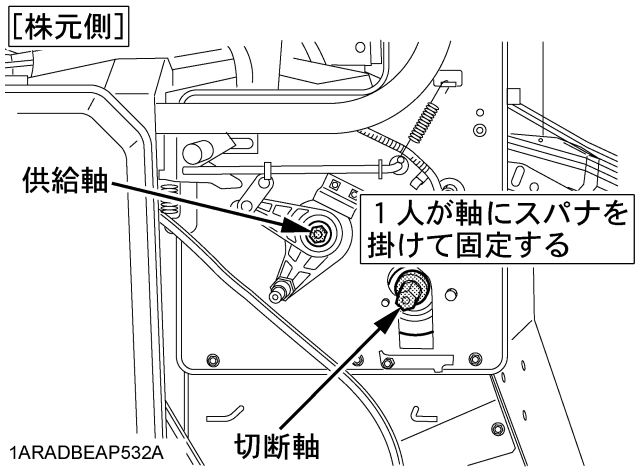


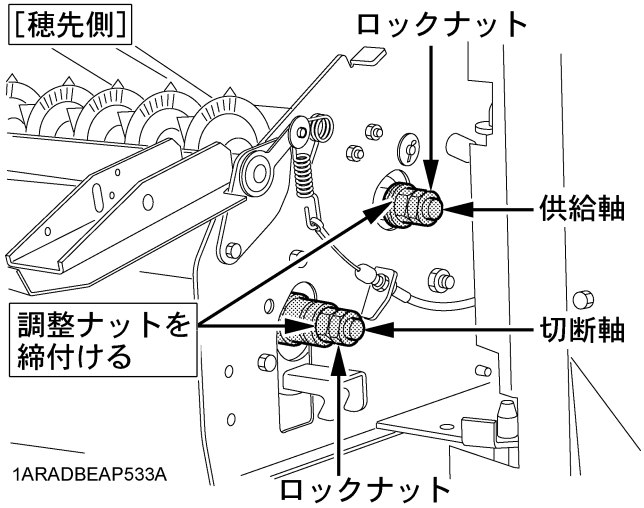
◆ 切断軸，供給軸の増締め

1. **［カッタ刃の交換］**の手順（228 ページ参照）の **1. ～ 4.**（駆動チェーンの取外しまで）を行ないます。
2. ボルトを取外して，供給軸の 40 ギヤを外します。



3. 切断軸株元側の六角軸に 1 人がスパナを掛けて軸が動かないように固定し，もう 1 人が切断軸穂先側のロックナットをゆるめます。そのあと，調整ナットを締付けて増締めを行ない，ロックナットを締付けます。
4. 同じ容量で供給軸の増締めをします。





重　要

＊ 軸の締付けトルクは 49.0 ～ 58.8N・m(500 ～ 600kgf・cm）です。確実に締付けてください。

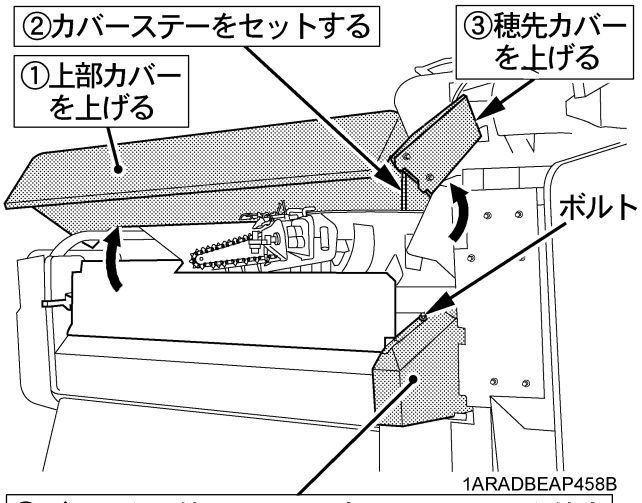
5. 取外した逆の手順で各部品の取付けを行ないます。
6. カッタ切換えカバーを閉じます。

■カッタ刃の交換

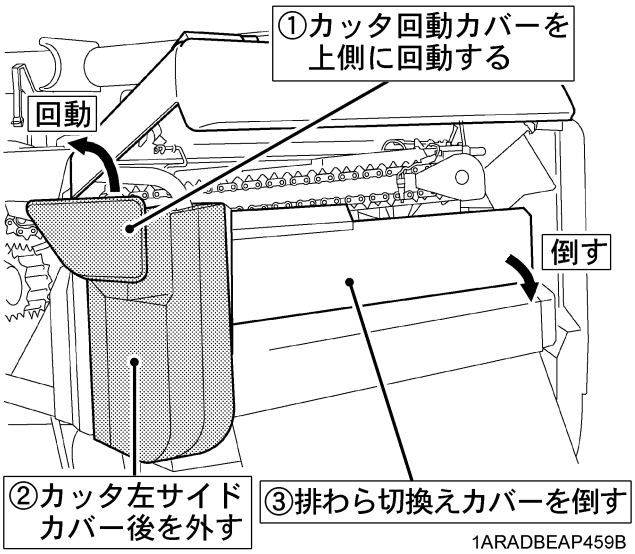
警　告

＊ カッタ刃を交換するときは，エンジンを必ず止めてください。
＊ 手袋を使用し，直接カッタ刃に触れないでください。
＊ 切断軸完備を外すときは，２人でカッタ刃のない両端を持って脱着作業をしてください。
＊ 切断軸完備の分解・組立て作業は２人作業で行なってください。

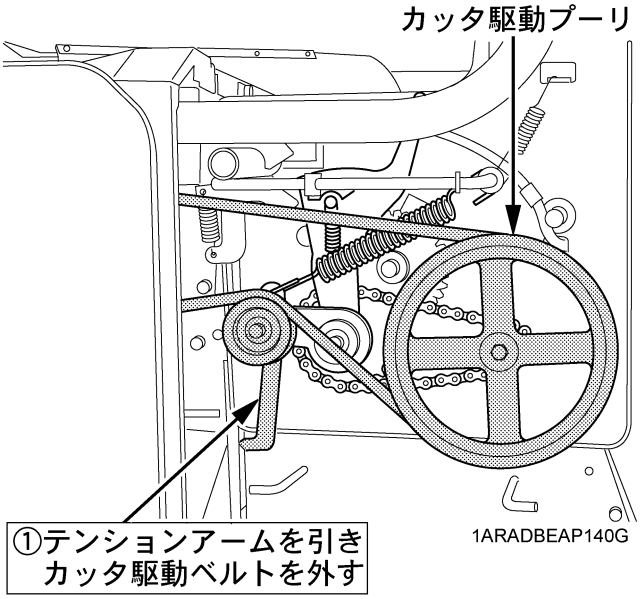
1. 上部カバーを上げて，カバーステーをセットしたあと，穂先カバーを上げます。そのあと，ボルトを外してカッタ右サイドカバーを取外します。

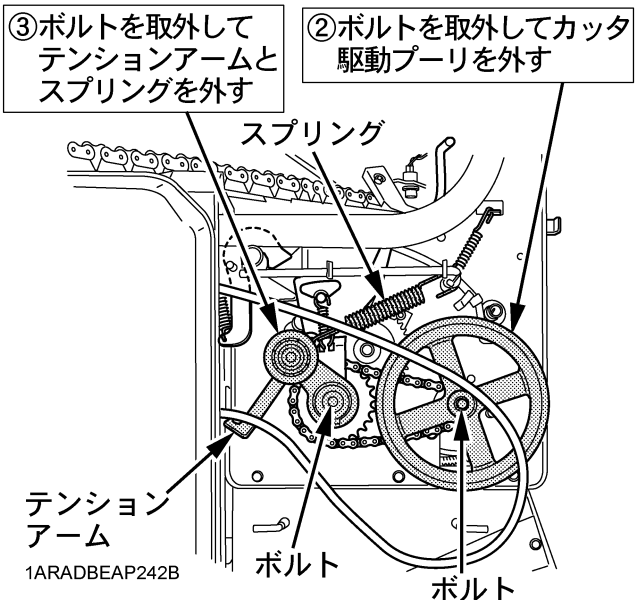


2. カッタ回動カバーを上側に回動したあと，カッタ左サイドカバー後を外し，排わら切換えカバーを後に倒します。

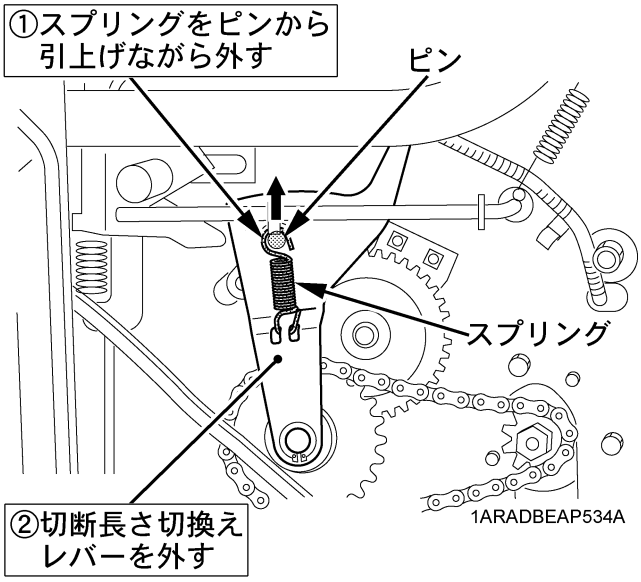


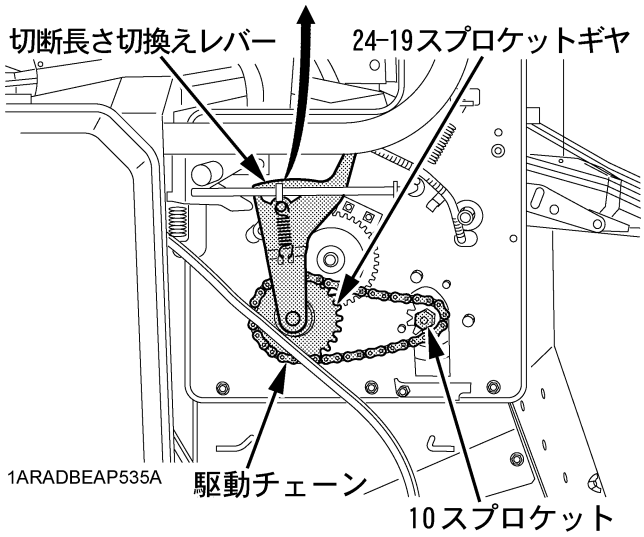
3. カッタ駆動ベルトをカッタ駆動プーリから外したあと，カッタ駆動プーリ及びテンションアーム，スプリングを外します。



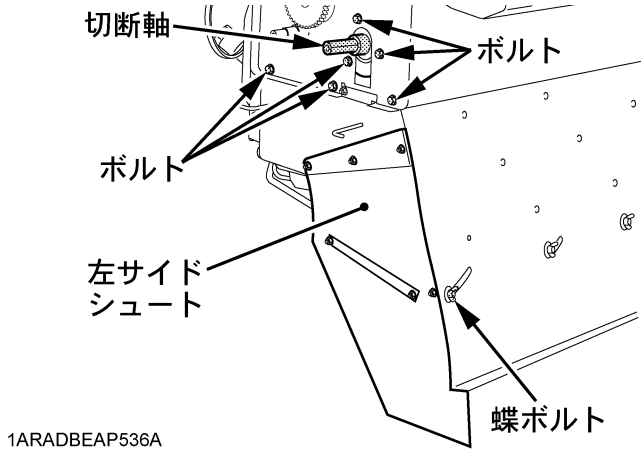


4. 切断長さ切換えレバー，24-19 スプロケットギヤ，10 スプロケット，駆動チェーンを取外します。

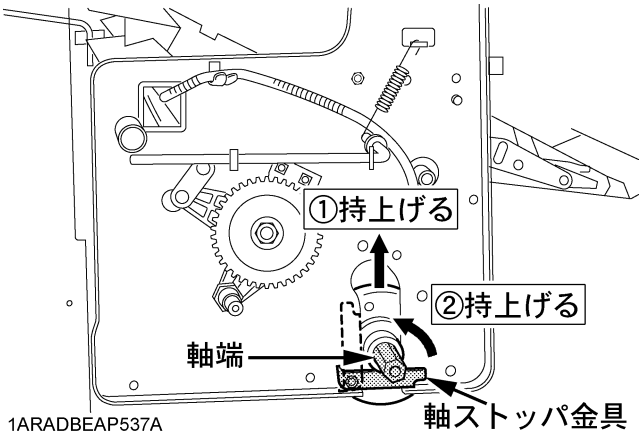


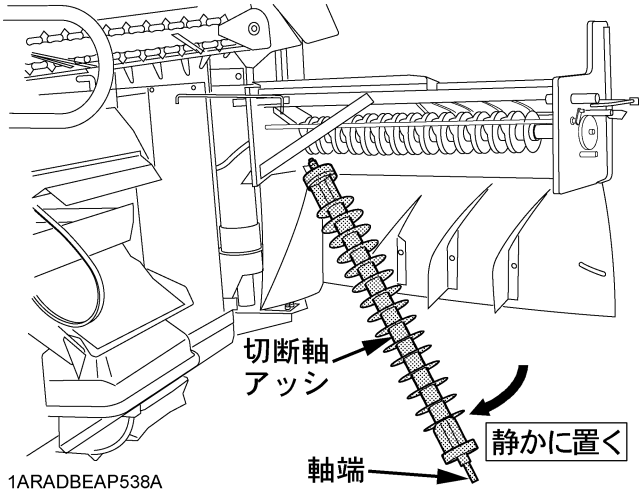


5. カッタをオープンしたあと，ナット，蝶ボルトを外し，左側のサイドシュートを取外したあと，株元側の切断軸軸受けボルトを外します。

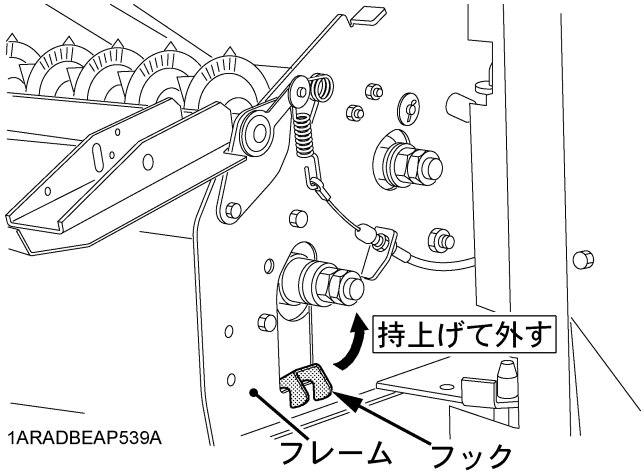


6. 株元側の軸端を少し持上げて，軸ストッパ金具を上側に回動して，切断軸アッシの軸端を静かに地面に置きます。

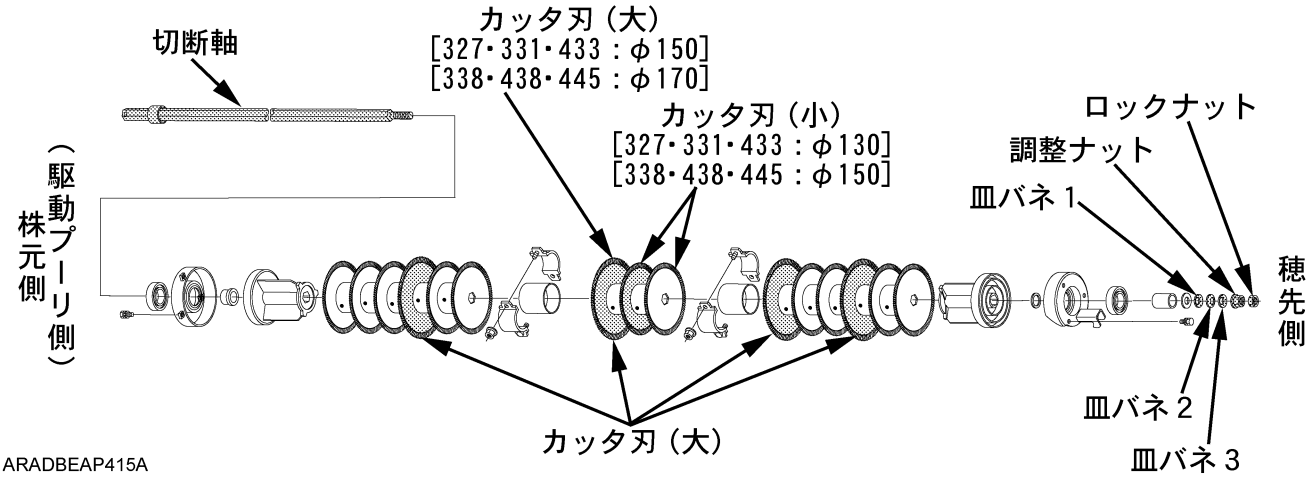




7. 穂先側の軸受けフックをフレームから外し，切断軸を取外します。



8. カッタ刃（切断刃）の交換を行ないます。交換作業を行なうときは，必ず補助者と共に２人作業で行なってください。
   (1) 切断軸アッシを安定した場所に置き，穂先側のロックナット，調整ナットと順番に取外して分解します。
   (2) 切断軸の穂先側を上向きにして垂直に立てた状態でカッタ刃の取付方向（刃先の向き）や大きさ（大，小）に注意しながら交換を行ないます。



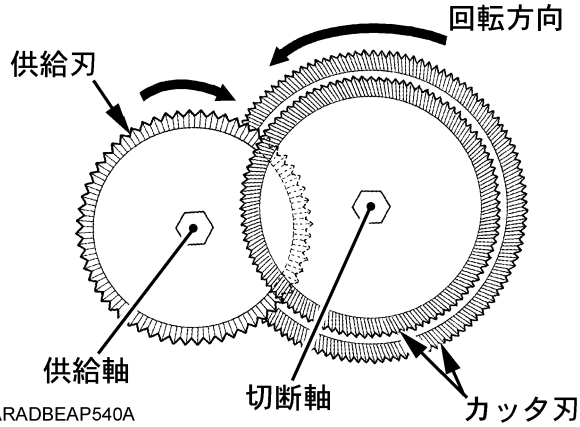
1ARADBEAP415A

重　要

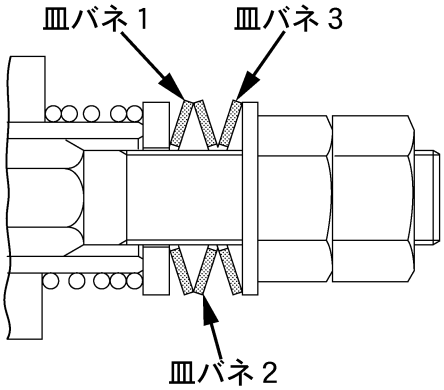
＊ 組付け後にカッタ刃が切断軸の垂直方向に対して傾いていると，切断軸が軸振れを起して異音が発生したり破損する原因となります。
＊ 組付け時にカッタ刃やパイプの端面に砂などの異物が付着すると，カッタ刃と供給刃のすき間及びカッタ刃両端の寸法が規定値の範囲から外れ，上記の軸振れを起こすことやわらの切断性能が悪くなるおそれがあります。

補　足

＊ 取付方向（刃先の向き）や大きさを間違うとわらの切断性能が悪くなります。
＊ カッタ刃の大きさは大小２種類あります。**[327・331・433：φ150 とφ130，338・438・445：φ170 とφ150]**
＊ 刃の向きと回転方向は下図のようになります。
＊ 皿バネ３枚は下図のように組付けてください。



1ARADBEAP540A



1ARADBEAP541A

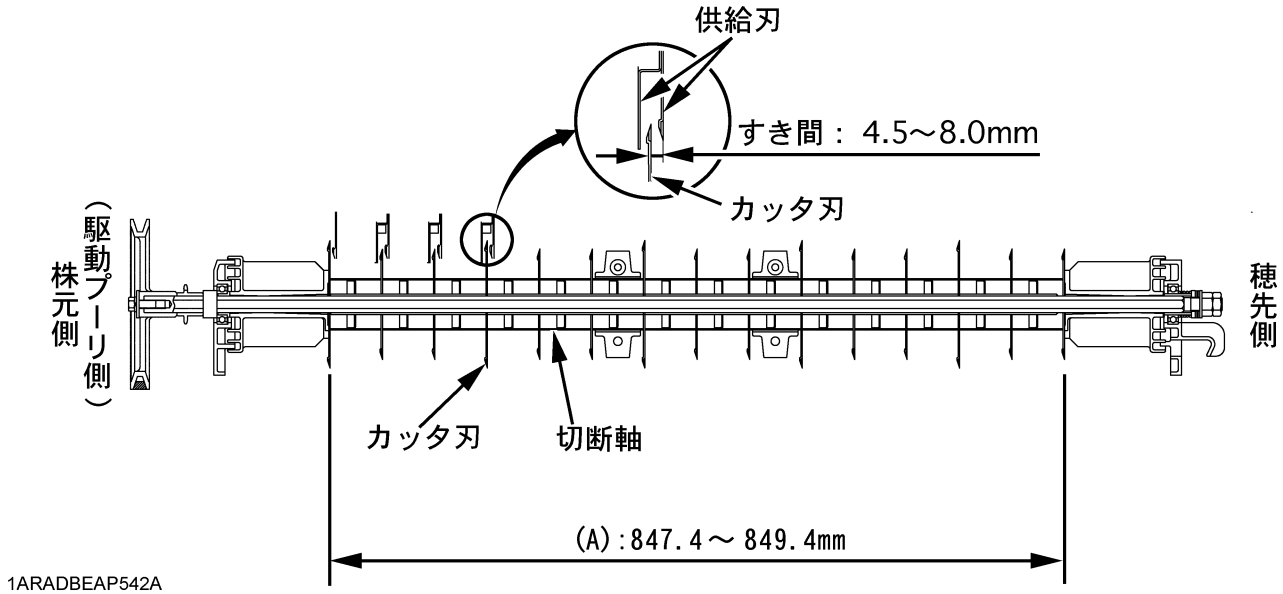
(3) カッタ刃の交換が終わると，分解と逆の手順で切断軸アッシを組立てます。
(4) 切断軸アッシを垂直に立てた状態で調整ナットをスパナで軽く締付けたあと，ロックナットを仮止めします。

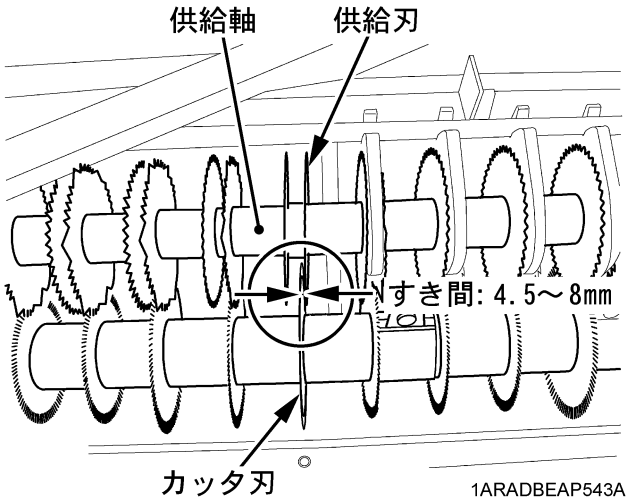
9. 切断軸アッシをカッタフレームに取付けます。（手順５～７の逆に取付けます。）
10. 切断軸の調整ナットとロックナットを増締めの要領（226 ページ参照）で締付けます。

重　要

＊ 軸の締付けトルクは 49.0 ～ 58.8N・m（500 ～ 600kgf・cm）です。確実に締付けてください。
カッタ刃と供給刃が接触していないかまた，手で切断軸を軽く回して確かめてください。

11. 下図のようにカッタ刃の両端の寸法（A）が 847.4 ～ 849.4mm の範囲から外れているときやカッタ刃と供給刃のすき間が 4.5 ～ 8 mm の範囲から外れているときは，再度分解と正しい組立てを行ないます。





重　要

＊ 再組立てを行なっても範囲から外れるときは，購入先に連絡してください。

12. 取外した逆の手順で各部品の取付けを行ないます。
13. 排わら切換えカバーを閉じます。

補　足

＊ 排わら切換えカバーをきちんと閉じないと，自動エンジン停止装置がはたらき，エンジンが始動しません。

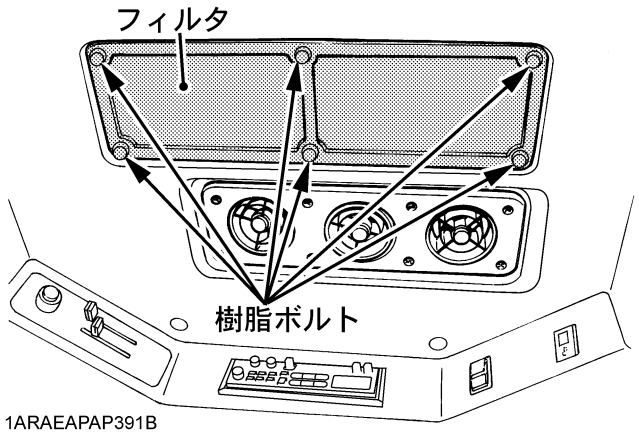
■キャビン内気・外気フィルタの掃除・交換

[Q 仕様]

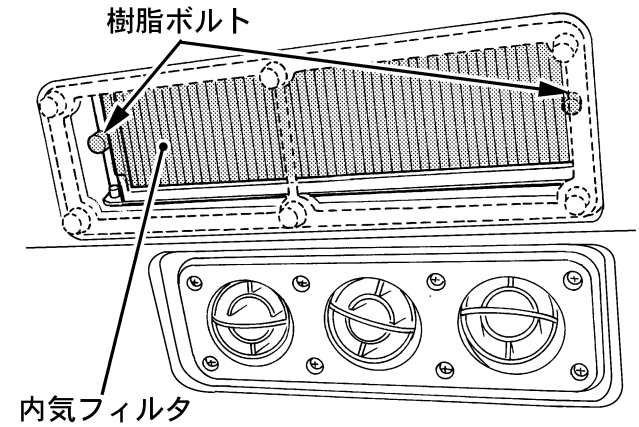
フィルタが目詰まりするとエアコンの効率が低下します。フィルタを損傷させないように掃除してください。

◆ 内気フィルタの掃除・交換

1. フィルタの樹脂ボルトを取外して，フィルタを取外します。そのあと，内気フィルタの樹脂ボルトを取外して内気フィルタを取外します。
2. フィルタと内気フィルタを掃除します。掃除を行なっても汚れの取れないときや，損傷しているときは交換してください。
3. 内気フィルタとフィルタを取付けます。



1ARAEAPAP391B



1ARAEAPAP388A

重　要

＊ 洗浄にガソリン，シンナなどを使用しないでください。

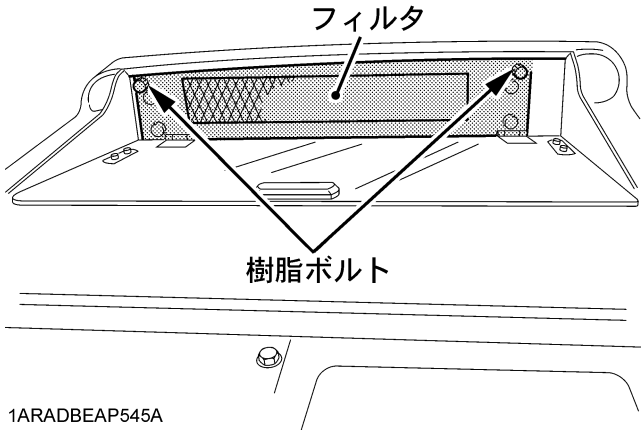
補　足

＊ 風の流れ方向の逆方向よりエアブローしてください。

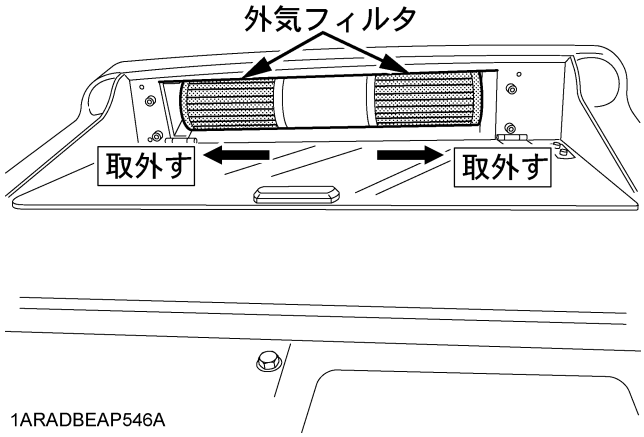
＊ 汚れが著しいときは，家庭用中性洗剤を溶かしたぬるま湯につけて上下左右に動かしながら洗浄し，清水でよくすすいだ後，完全に自然乾燥させてください。

◆ 外気フィルタの掃除・交換

1. グレンタンクをオープンします。(150 ページ参照)
2. フィルタの樹脂ボルトを取外して，フィルタを取外します。そのあと，2 箇所ある外気フィルタを取外します。
3. フィルタと外気フィルタを掃除します。掃除を行なっても汚れの取れないときや，損傷しているときは交換してください。



1ARADBEAP545A



1ARADBEAP546A

4. 外気フィルタとフィルタを取付けます。
5. グレンタンクを閉じます。

重　要

＊ 洗浄にガソリン，シンナなどを使用しないでください。
＊ 外気フィルタを取付けるときは，傾きが出ないように確実に取付部に差込んでください。

補　足

＊ 風の流れ方向の逆方向よりエアブローしてください。

＊ 汚れが著しいときは，家庭用中性洗剤を溶かしたぬるま湯につけて上下左右に動かしながら洗浄し，清水でよくすすいだ後，完全に自然乾燥させてください。

[Q 仕様]

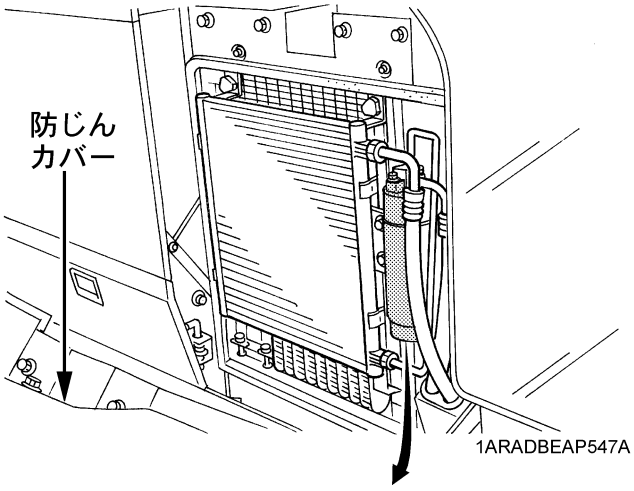
■冷媒（ガス）量の点検

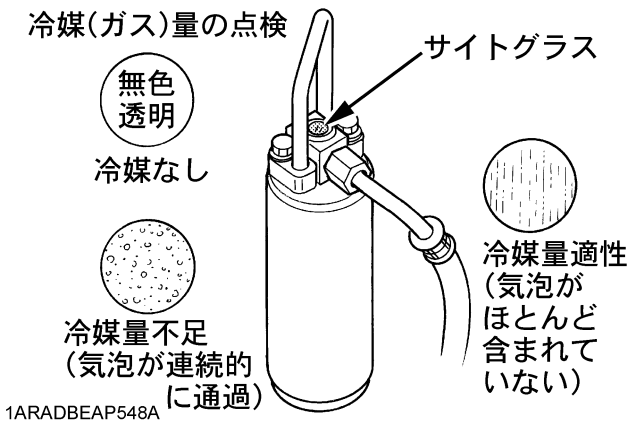
[Q 仕様]

冷媒が不足するとエアコンが冷えなくなります。下記要領で点検し，冷媒が不足しているときは，購入先に連絡して補充してください。

◆ 点検

1. エアコンを以下の条件で運転します。
   - エンジン回転数：約 1500rpm
   - 温度コントロールレバー:左端（**[COOL]**側）
   - ファンスイッチ：**[HI]（強）**位置
   - エアコンスイッチ：**[入]** 位置
   - 窓（左，後）を全開，ドア全開
2. 防じんカバーを開きます。
3. サイトグラスから流れている冷媒の状態を確認します。





4. エンジンを停止し，ファンスイッチとエアコンスイッチを**[切]**位置にします。
5. 防じんカバーを閉じます。
6. 窓（左，後）とドアを閉じます。

[Q 仕様]

■吐出口ブーツの点検･交換

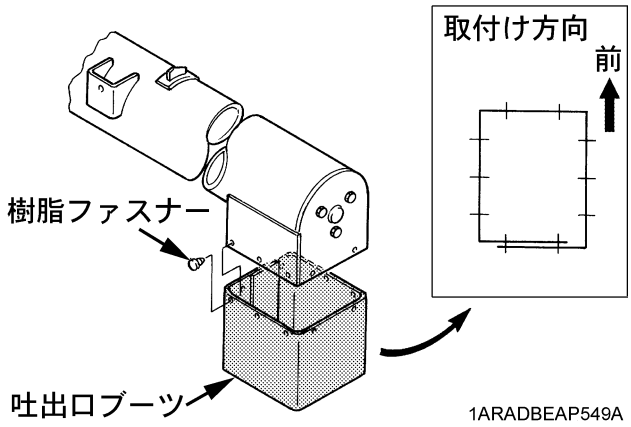
アンローダ先端部の吐出口ブーツが破損したときは交換してください。

◆ 交換

1. ブーツを取付けている樹脂ファスナー10本を外します。
2. 破損したブーツを取外し，新しいブーツを取付けます。

補　足

＊ ブーツを取付けるとき，ブーツの重なりの方向を間違えないでください。

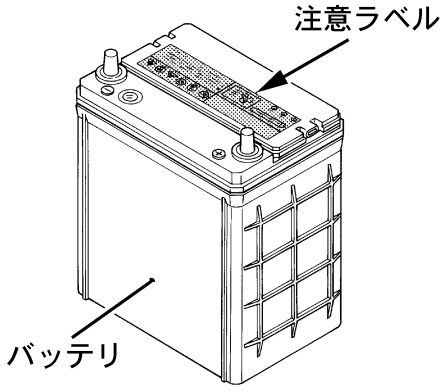


重　要

＊ ブーツ（品番：58056-5123-5）は必ずクボタ純正品を使用してください。

■バッテリの点検･交換

バッテリ上面に貼ってある取扱いの注意ラベルをよく読んでください。



1ARADBEAP550A

危　険

＊ バッテリの近くに裸火（マッチ，ライター，タバコの火など）を近づけたり，（＋）端子と（－）端子が金属工具などの接触によって起こるスパークをさせないでください。バッテリのガスで引火爆発するおそれがあります。
＊ バッテリを取扱うときは，必ず保護メガネとゴム手袋を着用してください。バッテリに入っている電解液（希硫酸）により，失明やヤケドの原因となります。
＊ 充電器やブースターケーブルを使用するときの取扱いは，それぞれの取扱説明書に従って行なってください。取扱いを誤まると引火爆発するおそれがあります。
＊ この 12V バッテリはエンジン始動用ですから，他の用途には使用しないでください。
＊ 急速充電は厳禁です。
＊ 開封は厳禁です。（密封タイプ）

警　告

＊ バッテリを乾いた布などで掃除しないでください。静電気により引火爆発するおそれがあります。

補　足

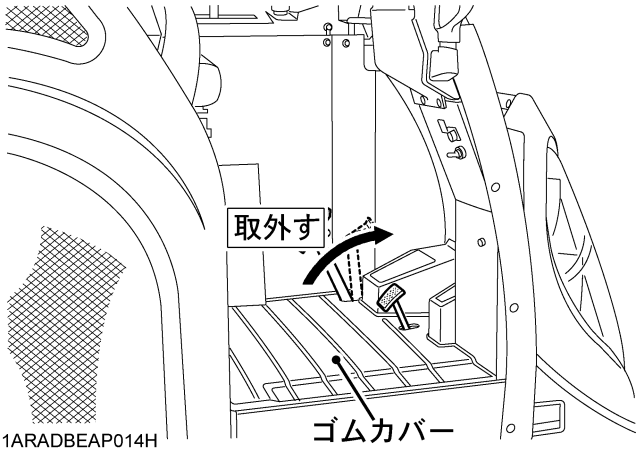
＊ 出荷時は，補水不要のバッテリです。

◆ 点検

危　険

バッテリが破損や傾いたりして，液もれが発生しているとき……
＊ バッテリ液が身体や衣服に付かないようにしてください。付着したときは，すぐに水で洗い流してください。電解液（希硫酸）によってヤケドすることがあります。
＊ バッテリの電解液（希硫酸）が目に入った場合は，ただちに多量の清水で洗浄したあと，速やかに医師（眼科医）の治療を受けてください。失明の原因となります。

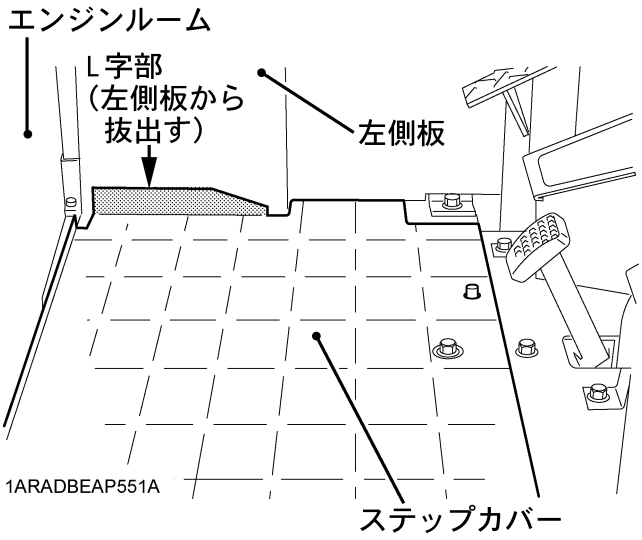
1．ステップのゴムカバーを取外します。

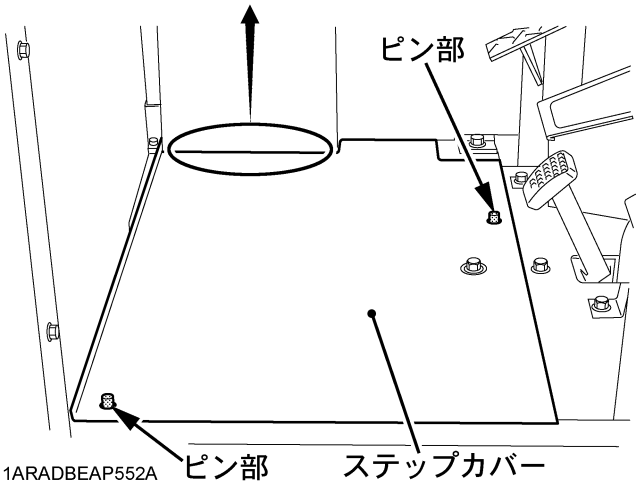


1ARADBEAP014H

2．エンジンルームオープンを行なうときのクランプ２箇所を外したあと，ステップカバーのL 字部を左側板から，ステップカバーを少し持上げて抜出します。

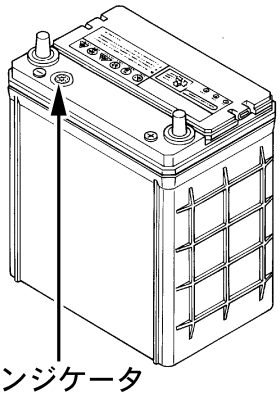
3. ステップカバーを２箇所のピン部から抜出して取外します。





4. バッテリの状態を点検し，異常があれば処置します。
   (1) バッテリ上面にあるインジケータの色で充電状態を確認ます。下表を参照し，処置を行なってください。

表示の色	充電状態	処置
緑	正常	使用可能
黒	放電している	補充電
透明	液減り	交換



補　足

＊ インジケータは真上から確認してください。

   (2) バッテリが破損して液もれが発生しているときは，交換してください。

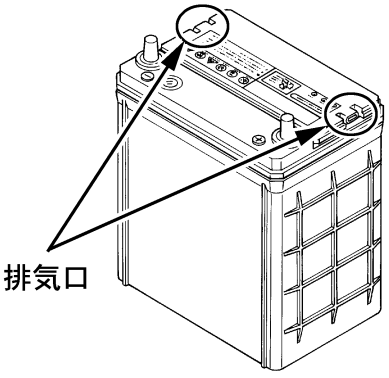
重　要

＊ 液もれが発生すると車体が腐食する原因となります。

(3) ふたの排気口にゴミなどが付着しているときは掃除してください。

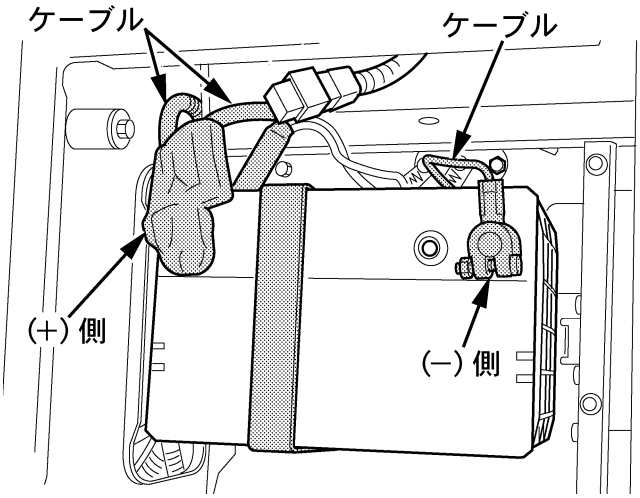
重　要

＊ 排気口をふさぎますと，バッテリ内部で発生するガスによりバッテリの内圧が上がり，破損する原因となります。



1ARADBEAP550C

(4) バッテリケーブルの破損や（+）端子，(−）端子にゆるみや腐食がないか確認し，ケーブルの交換や端子の増締めや掃除を行ないます。



◆ 補充電・交換

警　告

＊ バッテリは，以下の順序で取換えてください。順序を誤まると，ショートによるスパークで引火爆発するおそれがあります。
- **取外し…(−) 端子側（アース側）から外す。**
- **取付け…(−) 端子側（アース側）を最後に接続する。**

＊ バッテリを転倒させたり，衝撃を与えたりしないでください。電解液（希硫酸）のもれにより，失明やヤケドをするおそれがあります。

＊ バッテリを機体に取付けた状態での充電は避けてください。バッテリの引火爆発や機体損傷の原因となるおそれがあります。

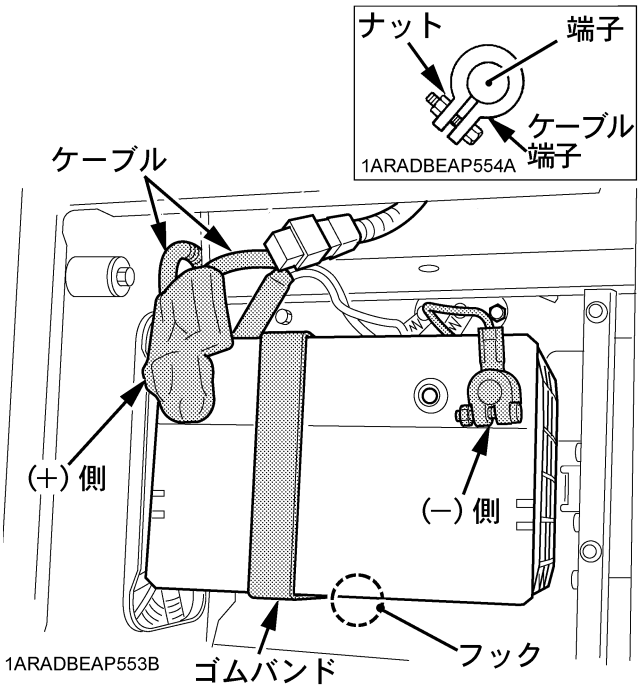
＊ バッテリの取付け方向を間違えないでください。（+）と（−）が逆に取付けられると接続ケーブルが損傷し，火災の原因となるおそれがあります。

＊ バッテリを投げたり，落としたり，斜めにしたり，衝撃を与えたりしないでください。バッテリに入っている電解液（希硫酸）により，失明やヤケドの原因となることがあります。

次のような状態が発生したときは補充電を行なってください。また，補充電を行なっても短時間で再発するときや状態が良くならないときは，バッテリの寿命ですので交換を行なってください。

- スタータモータの回転が，いつもより弱い。
- アクセルの加減で，ヘッドランプの明るさが変わる。
- ホーンの音が，いつもより低い。
- バッテリ電解液の減りが早い。

1. バッテリを機体から取外します。
   (1) ゴムバンドの端部金具をフックから外します。
   (2) ケーブル端子のナットをゆるめて，端子からケーブル端子を取外します。取外すときは，必ず（−）側から取外してください。



重　要

＊ バッテリを斜めにしたり，横倒しにして運ばないでください。電解液（希硫酸）がこぼれ，衣服の損傷の原因となります。

2. 補充電を行なうときは，平たんで風通しの良い場所を選んで行ないます。また，充電は，バッテリの（+）を充電器の（+）側に，バッテリの（−）を充電器の（−）側にそれぞれ接続して，普通の充電方法で行なってください。
3. 補充電が終わると取外したときと逆の手順で取付けます。

重　要

＊ バッテリを交換するとき，バッテリは下記指定のバッテリを使用してください。電圧や容量が違うと故障の原因となります。
バッテリ形式：**80D26L-MF**
＊ バッテリはエンジン始動用ですから，他の用途には使用しないでください。
＊ バッテリはきちんと取付けてください。傾いたりすると転倒や液もれの原因となります。

補水が必要なバッテリの場合
（補水が不要なバッテリの説明と異なる部分の説明です。）

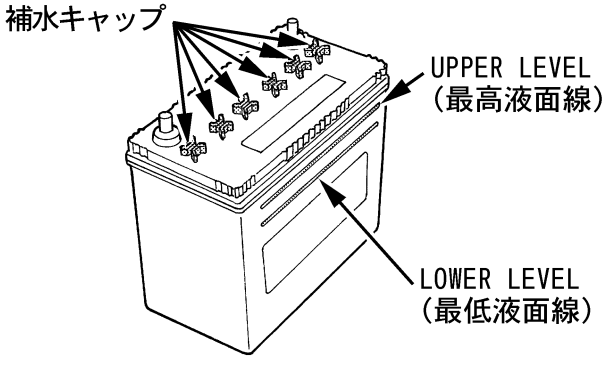
◆ 点検・補水

注　意

バッテリには補水不要なタイプと補水が必要なバッテリの 2 種類があります。補水が必要なバッテリについては，以下の事を守ってください。
＊ バッテリは液面が LOWER（最低液面線）以下になったままで使用や充電をしないでください。
LOWER 以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され，バッテリの寿命を縮めるばかりでなく，爆発の原因となることがあります。
すぐに UPPER LEVEL と LOWER LEVEL の間に補水してください。
＊ バッテリ液が身体や衣服に付かないようにしてください。付着したときは，すぐに水で洗い流してください。電解液（希硫酸）によってヤケドすることがあります。

バッテリの状態を点検し，異常があれば処置します。

1. バッテリ液の量を点検し，**[UPPER LEVEL]**（最高液面線）と **[LOWER LEVEL]**（最低液面線）の間に液量があるか確認し，不足しているときは補水キャップを外して補水します。



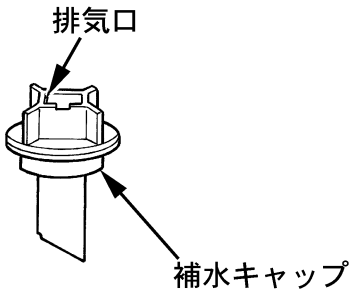
重　要

＊ バッテリ液が不足して極板が空気中に露出しますと，バッテリの寿命は著しく短くなります。
＊ バッテリ液を補充する場合は，必ず精製水を補充してください。希硫酸・井戸水・泥水などは絶対に入れないでください。
＊ バッテリに精製水を入れ過ぎないでください。液もれして機体を傷めるおそれがあります。

2. 補水キャップの排気口にゴミなどが付着しているときは掃除してください。

重　要

＊ 排気口をふさぎますと，バッテリ内部で発生するガスによりバッテリの内圧が上がり，破損する原因となります。



1ARADBEAP556A

◆ 補充電・交換

注　意

＊ 補充電中は補水キャップ全てを取外して行ないますので裸火は近づけないでください。引火爆発するおそれがあります。

1. 補充電を行なうときは，平たんで風通しの良い場所を選んで補水キャップを全て取外した状態で行ないます。
   また，充電は，バッテリの（＋）を充電器の（＋）側に，バッテリの（－）を充電器の（－）側にそれぞれ接続して，普通の充電方法で行なってください。

補　足

＊ 急速充電を行なったときは，作業後必ず補充電を行なってください。

2. 補充電が終ると補水キャップを全て取付けてください。

■電気の各配線コード･各ヒューズの点検･交換

注　意

＊ 配線コード被覆の損傷やコネクタ（端子）の接触不良によるろう電やショート（短絡）は火災の原因となります。

◆ 各配線コードの点検・交換

各配線コードのコネクタ（端子）の接続状態を点検し，ゆるみや外れがあるときは確実に差込んでください。また，被覆の損傷状態を点検し，被覆が破れているときは，販売店へ連絡して交換してください。

◆ 各ヒューズの交換

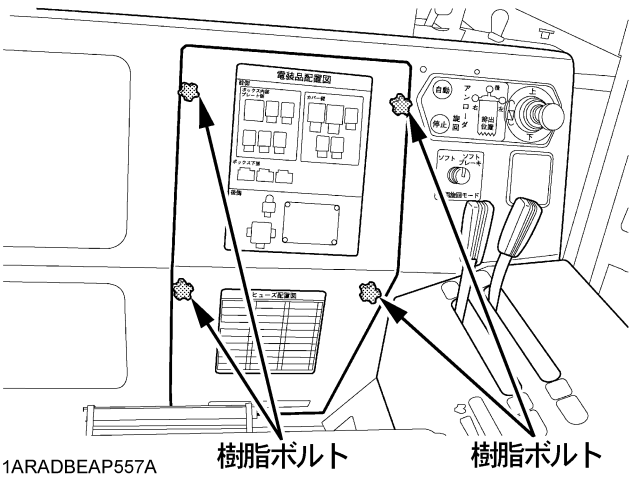
ヒューズ切れによる異常が発生したときは，ヒューズを交換してください。

重　要

＊ 新しいヒューズは必ず指定容量のヒューズを使用してください。異なる容量のヒューズを使用すると故障の原因となります。
＊ ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は，針金や銀紙などで代用せず，購入先に連絡してください。

1. 刈取部を地面に接地させエンジンを止めます。
2. 運転席（シート）を前方へ倒します。
3. 樹脂ボルト４本を取外して運転席後面のカバーを外します。

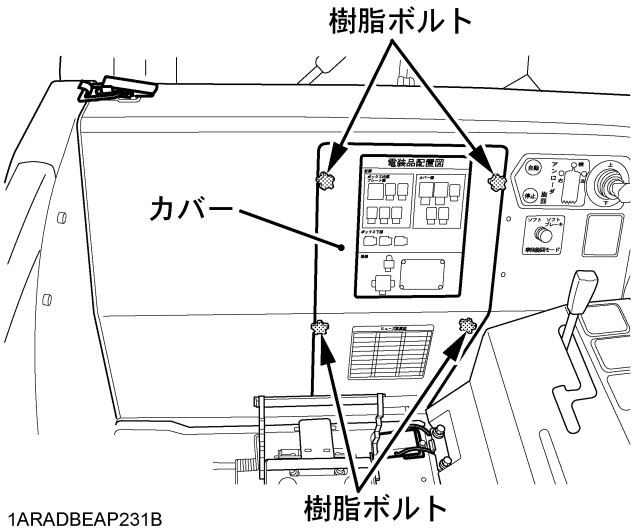
[DX 仕様]



1ARADBEAP557A

[DX 仕様]

[SD 仕様]



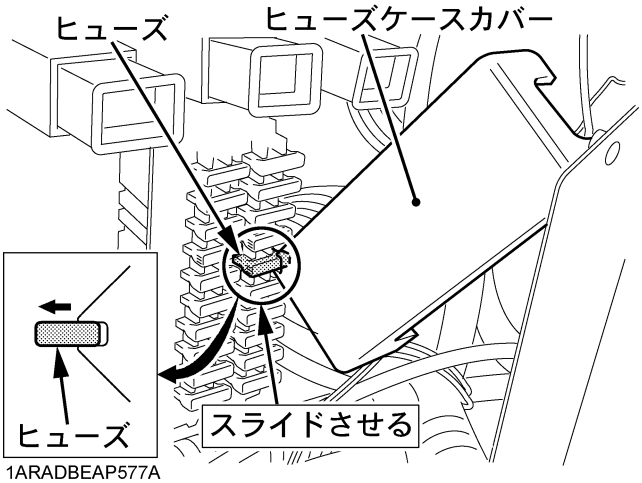
1ARADBEAP231B

[SD 仕様]

4. ヒューズケースのカバーを取外します。
5. ヒューズが切れた箇所に同じ容量のヒューズと交換します。

補　足

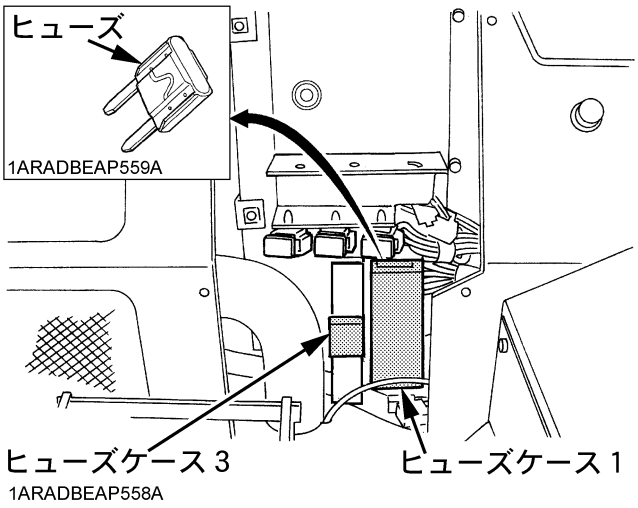
＊ ヒューズを交換するときは，ヒューズケースカバー左下端部の切欠部をヒューズにスライドして差込み，抜いてください。



1ARADBEAP577A

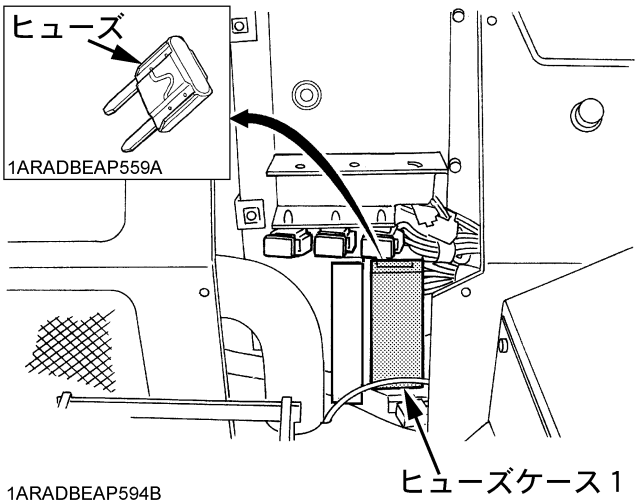
[DX 仕様]

[327・331・433各 DX・DXM仕様]



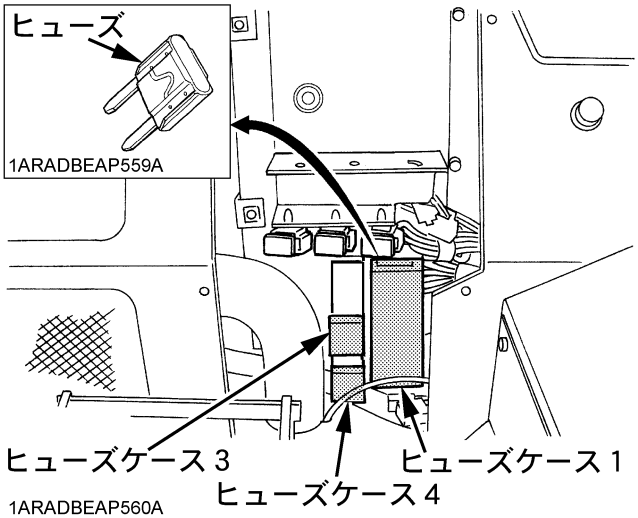
1ARADBEAP558A

[338・433・445各 DX・DXM仕様]



1ARADBEAP594B

[338・433・445各 DXMQ仕様]

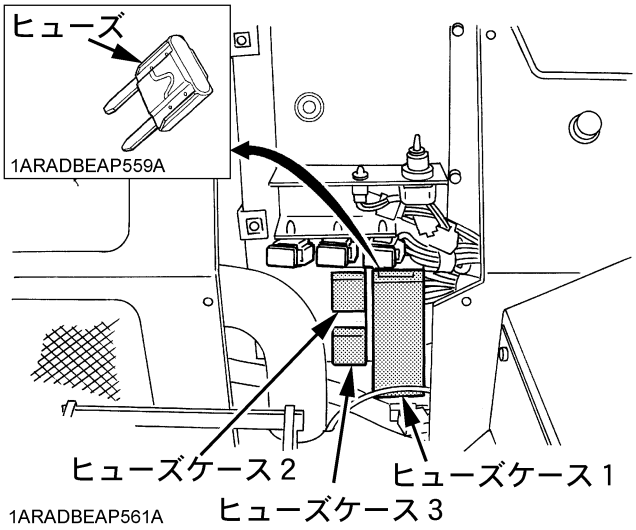


1ARADBEAP560A

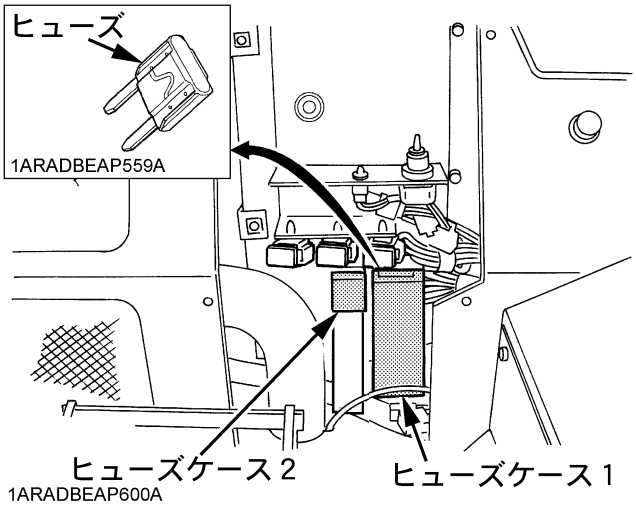
[DX 仕様]

[SD 仕様]

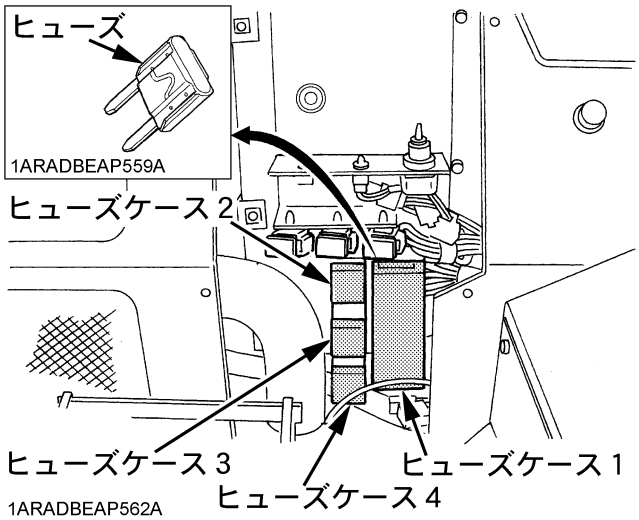
[327・331・433各 SD仕様][SD4M仕様]



[338・433・445各 SD仕様]



[338・433・445各 SD4MQ仕様]



[SD 仕様]

● ヒューズケース１（上から）

[全仕様]

回路	容量(A)	回路	容量(A)
こぎ深さモータ，注油ポンプ	20	マイコン（直 B）	5
アンローダモータ	25	ウインカ，後退灯，制動灯（直 B）	15
結束機	15	前照灯（直 B）	25
車速モータ	15	作業灯（直 B）	25
モミ排出クラッチモータ	20	エンジン停止（直 B） **[327・331・433]** **[338・438・445]**	 30 15
逆転ファンモータ **[338・438・445]**	15	マイコン，リレーコイル，チェッカ	5
操向モータ	15	メータ，リモコン，スイッチユニット	5
予備ヒューズ	15	油圧バルブ	20
予備ヒューズ	20	燃料ポンプ，オルタネータ	7.5
予備ヒューズ	25	ブザー	5

補　足

＊ 予備ヒューズは，ヒューズケース１のカバー裏側に５Ａ１本,7.5A １本が入っております。

[全仕様]

● ヒューズケース２（上から）

[SD・SD4M・SD4MQ 仕様]

回路	容量（A）
チャフモータ	15
トウミモータ	15
刈取クラッチモータ	15

[SD・SD4M・SD4MQ 仕様]

● ヒューズケース３（上から）

[327・331・433 各 DX・DXM・DXMQ・SD 仕様]

回路	容量（A）
－	－
－	－
予備ヒューズ	30

[327・331・433 各 DX・DXM・DXMQ・SD 仕様]

[SD4M・SD4MQ 仕様]

回路	容量（A）
スイッチ	3
予備ヒューズ	3
予備ヒューズ **[327・331・433]**	30

[SD4M・SD4MQ 仕様]

● ヒューズケース４（上から）

[DXMQ・SD4M・SD4MQ 仕様]

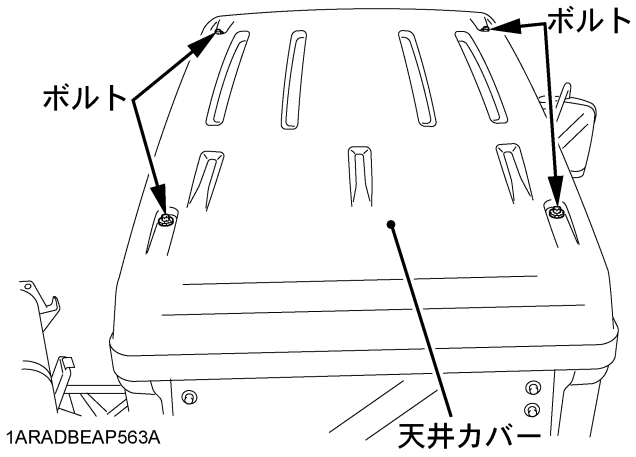
回路	容量（A）
キャビン	20
キャビン（直 B）	20
ラジオ（ACC）	5

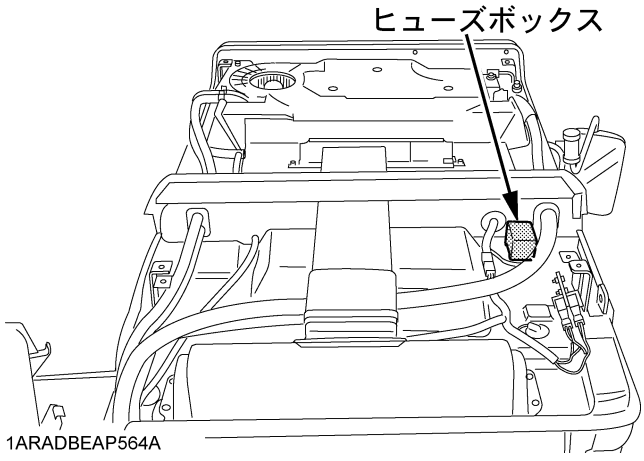
[DXMQ・SD4M・SD4MQ 仕様]

6. カバーを取付けます。

[Q 仕様]

1. ボルト４本を外して天井カバーを取外します。
2. ヒューズボックスのふたを開きます。
3. ヒューズが切れた箇所に同じ容量のヒューズと交換します。
4. 天井カバーを取付ます。





回路	容量（A）
ラジオ（直 B）	5
ブロワ（直 B）	15
キャビン作業灯（直 B）	15
－	－
コンプレッサ	7.5
ワイパ	15

補　足

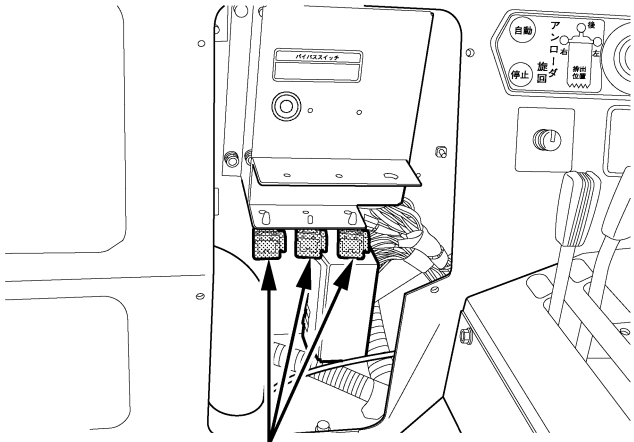
＊ ヒューズボックス本体に５ A, 7.5A, 15A の予備ヒューズが入っています。

[Q 仕様]

● **スローブローヒューズ・バッテリ（+）コードヒューズの点検・交換**

スローブローヒューズは，過電流が流れたときに各配線が損傷しないように保護するためのものです。エンジンがかからないときは点検し，切れているときは新しいヒューズと交換してください。

[DX 仕様]

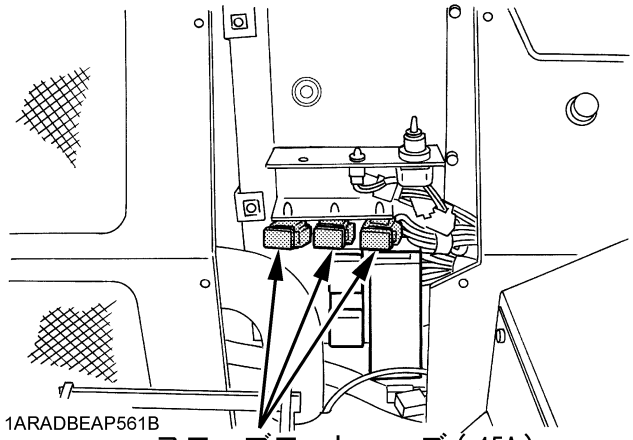


1ARADBEAP565A

スローブローヒューズ（45A）

[DX 仕様]

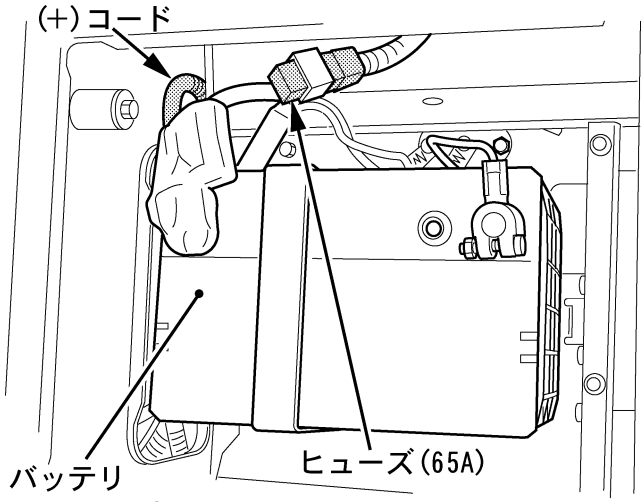
[SD 仕様]



1ARADBEAP561B

スローブローヒューズ（45A）

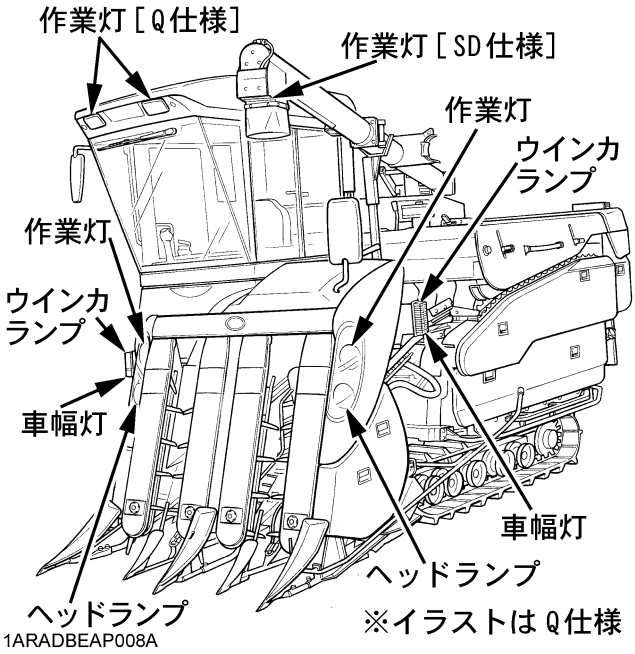
[SD 仕様]



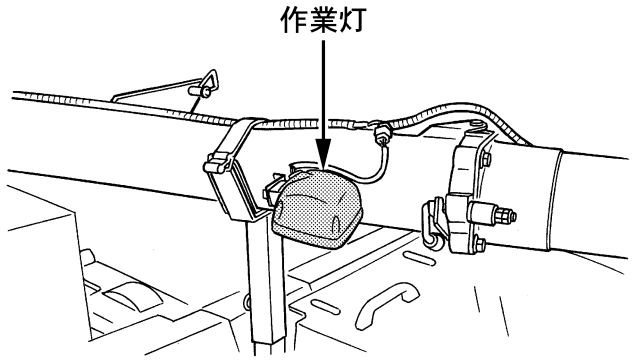
1ARADBEAP553C

■ランプ（電球）の点検･交換･ホーンスイッチの点検

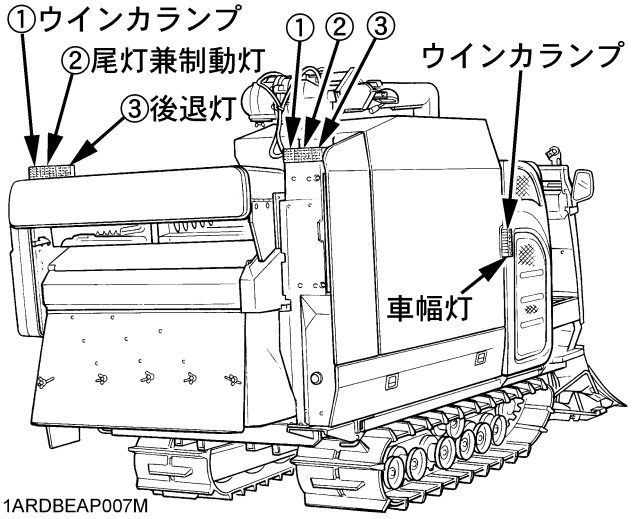
ランプ（電球）切れがないか点検し，切れているときは交換してください。また，ホーンスイッチを押して点検し，鳴らないときは，配線やヒューズを確認してください。



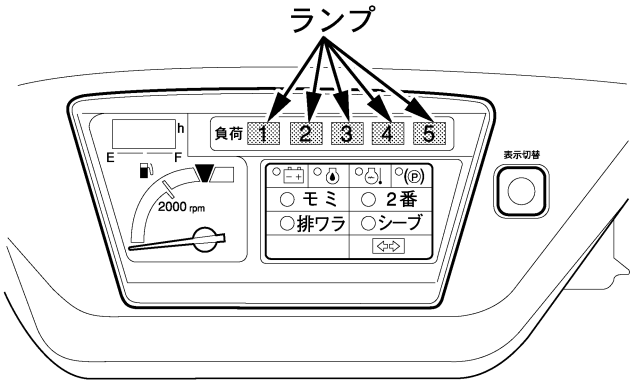
1ARADBEAP008A



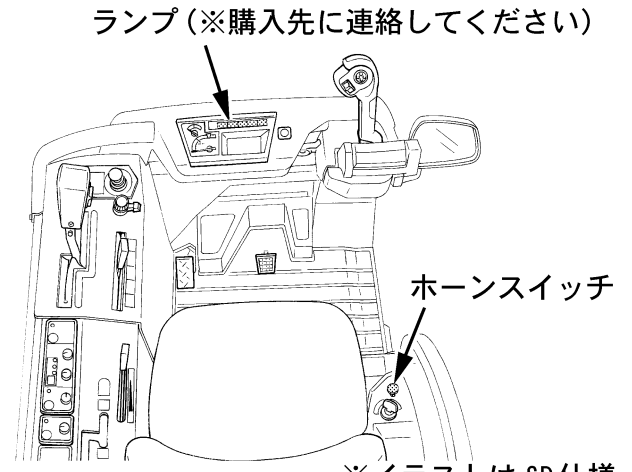
1ARADBEAP109D



1ARDBEAP007M



（※購入先に連絡してください。）
1ARADBEAP078G
※イラストはDX仕様

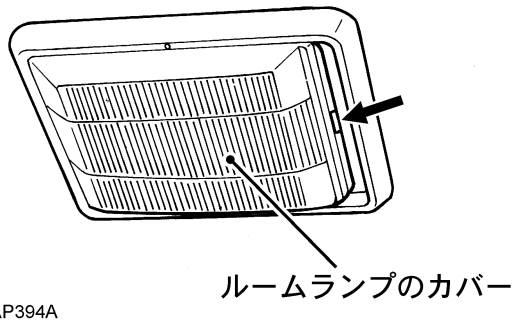


1ARADBEAP013P
※イラストはSD仕様

● ルームランプ

[Q仕様]

カバーを➡の凹部にマイナスドライバなどの先端部を差込み，下方向に押して取外して，電球を交換してください。

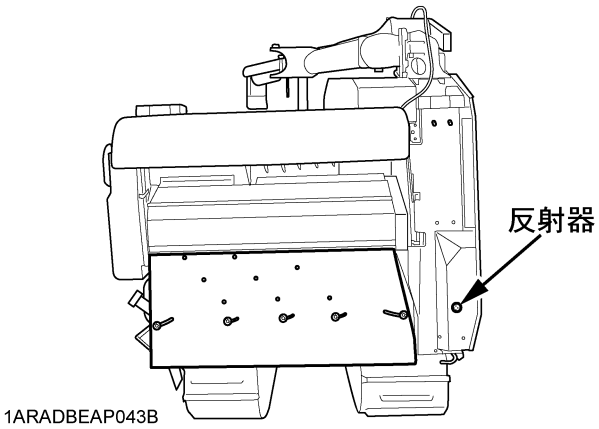


1ASADACAP394A

[Q仕様]

■反射器の点検・交換

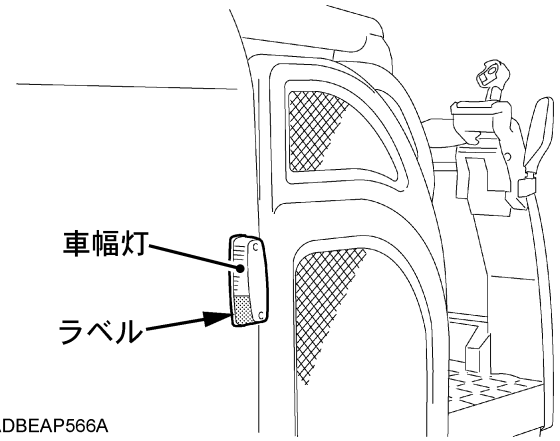
汚れや破損がないか点検し，掃除又は，交換を行なってください。



■車幅灯ラベルの点検･交換

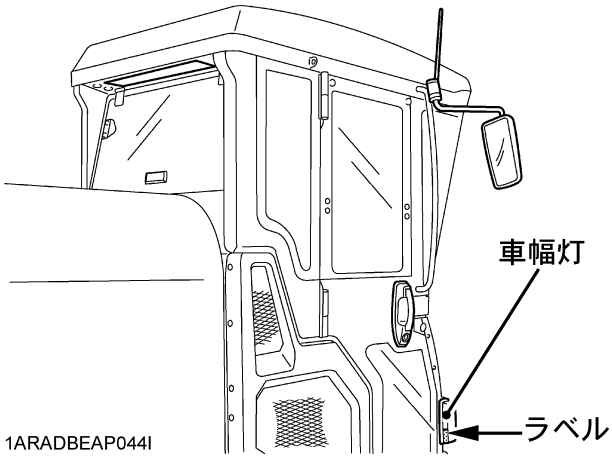
前側の車幅灯（２箇所）の後部に貼っている黒いラベルを点検し，破損しているときは，交換してください。

[Q 仕様除く]



[Q 仕様除く]

[Q 仕様]



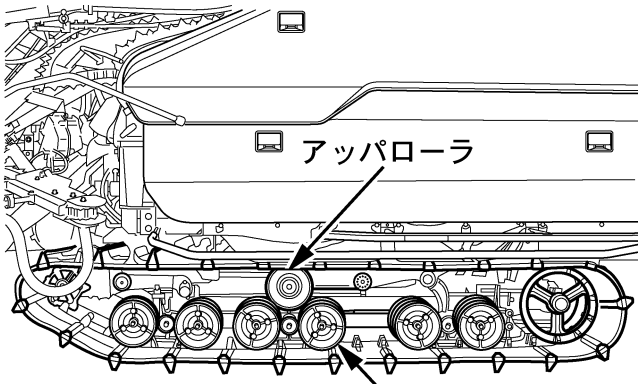
[Q 仕様]

■クローラの点検･調整

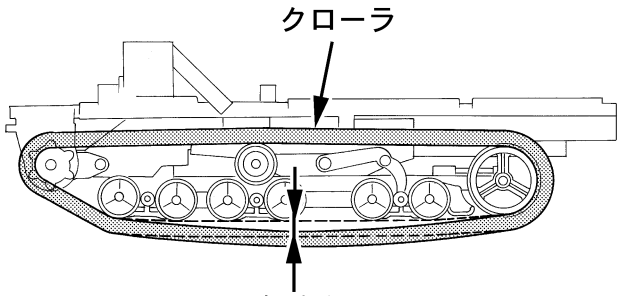
注 意

＊ 平たんな場所でエンジンを必ず止めて行なってください。
＊ ジャッキアップを行なうときは，所定の場所でバランスのとれた位置にして作業してください。
＊ 機体にセットする木材やブロックなどは，じゅうぶんな強度があるもので，セットするときは機体から外れないように注意しながら行なってください。

地面からクローラを約 10cm 浮かした状態で，揺動転輪を水平位置にし，クローラ下側のたるみを 10 ～ 20mm に調整してください。また，調整は片側ずつ行なってください。

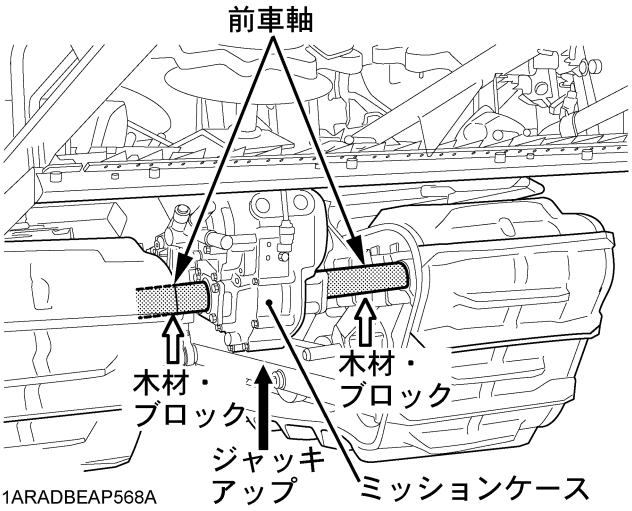


1ARADBEAP303B



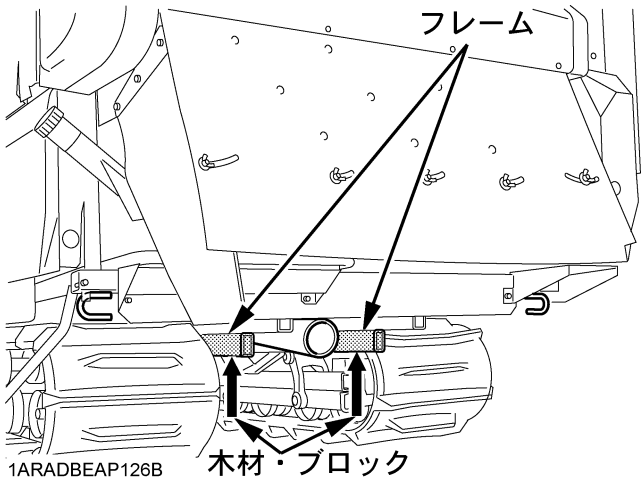
1ARADBEAP567A

1. 水平操作レバーで機体を上昇させて，クローラを地面から 10cm 程度浮かせます。
   (1) 前部はミッションケース部の，調整を行なう側の前車軸に木材やブロックをセットします。



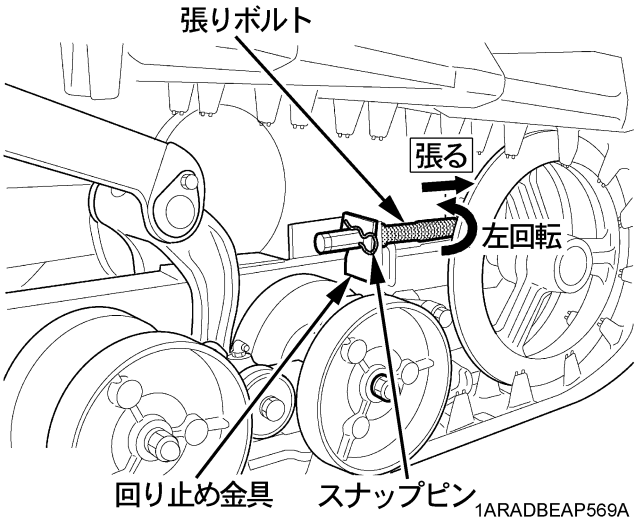
1ARADBEAP568A

   (2) 後部は機体フレームの下図位置に，調整を行なう側のフレームに木材やブロックをセットします。



1ARADBEAP126B

2. 水平操作レバーで機体を下降させたあとエンジンを停止します。
3. クローラ後部にある張りボルトの回り止め金具を，スナップピンを抜いて取外します。
4. 張りボルトを左に回してクローラを張りながら，すき間の調整を行ないます。



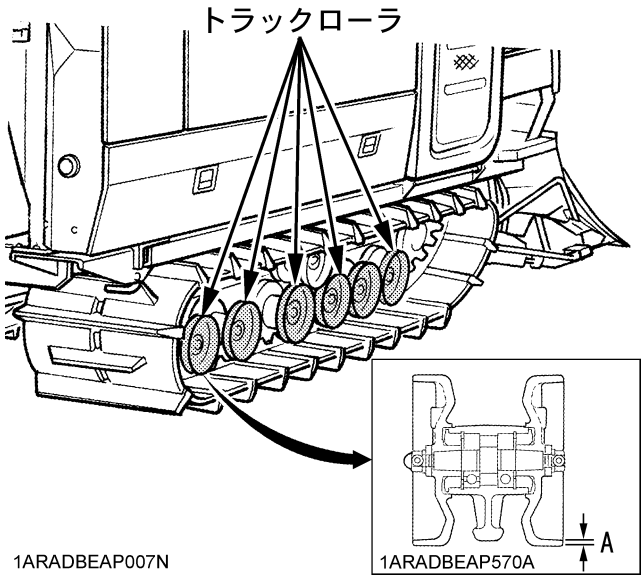
5. 左，右両方共に行ない調整後は，回り止め金具を取付けてスナップピンを差込みます。
6. 水平操作レバーで機体を上昇させます。
7. ブロックや木材を取外します。

重　要

＊ クローラを張り過ぎると車軸の折損の原因になります。
＊ クローラがゆるみ過ぎると脱輪したりスプロケット及び芯金が早期に摩耗することがあります。初期伸びがあるため初期 20 時間目に増し張りしてください。

■トラッククローラ（転輪）の点検

トラッククローラの下図A寸法が，2 ㎜以下になったとき又は，使用時間が 500 時間経過したときの早いほうで交換してください。



補　足

＊ 購入先に連絡して交換してください。

刈取作業後の手入れ

刈取作業が終わったあとは，機械の点検・整備を怠らず翌日又は，翌年の刈取作業に備えてください。

■毎日の作業後

注　意

＊ 機体に本機カバーをかけるときは，エンジン・マフラが冷えてからかけてください。停止直後にカバーをかけると火災のおそれがあります。

1. 平たんな場所にコンバインを停めます。
2. 機体各部のわらくずを取除いたあと，必要なときは各部に注油を行ないます。(156 ページ参照)
3. アンローダを収納します。
4. 刈取部を地面に接地させます。
5. メインスイッチのスイッチキーを抜取ります。
6. キャビン仕様はバックミラーを収納し，ドアをロックしたあとキーを抜取ります。
7. 本機カバーをかけます。

■長期格納時

刈取のシーズンが終了して翌年まで長期間使用しないとき，格納する前の各部の点検・整備を念入りに行なってください。

◆ 各部の掃除・注油と補修

機体を平たんな場所に停めて下記事項を行なってください。

- 各部に付着した泥などの汚れをきれいに水洗いし，乾いた布で水分をふき取ってください。
- 各回転部分や切刃部・ベルト・チェーンなどに巻付いた雑草やわらくずを，完全に取除いてください。

重　要

＊ 機体を洗う場合は，電装部品に水がかからないようにしてください。
＊ 作業シーズン終了後及び長期格納する前には，メンテナンスの**［給・注油（水）一覧表］**を参照して，各部の給・注油（水）を行なってください。

補　足

＊ 各部にもみやわらくずが残っていると，ネズミの巣になったり，配線部をかじられて，故障の原因となるのできれいに取除いてください。
＊ 各チェーン，各回転部分や摩擦しゅう動部分には，さびが発生しないようにじゅうぶん注油してください。
＊ 塗料のはがれた所には補修塗料を塗って，さびが発生しないようにしてください。

◆ ラジエータ冷却水

ラジエータ冷却水は冬期のエンジン凍結割れを防止するため，排水又は，不凍液（ロングライフクーラント）を清水に混ぜた冷却水を入れておいてください。

● 排水しておくとき

1. ラジエータ及びリザーブタンクの冷却水を排水します。(185 ページ参照)
2. ラジエータキャップに**水なし**と書いた札を掛けておいてください。

● 不凍液を入れておくとき

冷却水の補給・交換を行なって，ラジエータ及びリザーブタンクには，不凍液の混ざった適正な混合比の冷却水を規定量入れておきます。(185 ページ参照)

重　要

＊ 冷却水には，不凍液（ロングライフクーラント）を適正量入れ（混合比は最高でも 50% 以下），よく水と混ぜ合せてからお使いください。(ラジエータ容量……3.7L)
＊ 不凍液の混合比を誤まると，冬期には冷却水の凍結，夏期にはエンジンの故障やラジエータの破損の原因になります。
＊ 不凍液を使用する場合は，ラジエータ保浄剤を投入しないでください。不凍液には防錆剤が入っていますので，保浄剤を混入するとエンジン部品に悪影響を与えます。
＊ クボタ不凍液（ロングライフクーラント）の有効使用期間は２年間です。必ず２年で交換してください。

◆ バッテリ

危　険

＊ 保管や持運びの際にバッテリに火気を近付けたり，ショートさせると爆発の危険がありますので注意してください。

注　意

＊ バッテリを点検するときには，エンジンを停止し，メインスイッチを［切］にしてください。

長期間使用しない場合は，できるだけバッテリを機体から取外してください。また，以下の点に注意して保管してください。

- 保管前に点検し，必要に応じて補充電を行なってください。（バッテリ液補水タイプは，補水してから補充電を行なってください。）
- バッテリは保管中でも自己放電するので夏は１カ月，冬は２カ月に１回それぞれ点検し，必要に応じて補充電を行なってください。
- 次のような場所に保管してください。
  (1) 直射日光が当らない（温度が低く変化の少ない）乾燥している場所
  (2) 雨露が少なく，水没のおそれがない場所
  (3) バッテリの有害なガスや液，粉じんの発生が起こらない場所

機体に取付けている場合は，（－）側のケーブルを必ず取外してください。

◆ 各レバー・その他

点検・整備が終わったあと，納屋などに停めておくときは刈取部を地面に接地させて，下記事項を行なってください。

- デバイダカバーを取付けたあと，分草かんを収納します。
- アンローダ受けを下げてアンローダを折りたたみ収納します。
- アクセルレバーをいっぱい戻して（**【🚗】**位置）止めておきます。
- 駐車ブレーキを掛けます。
- 脱こく・刈取クラッチレバーは**【切】**位置にします。
- 車体水平制御は，機体いっぱいまで下げます。
- メインスイッチのスイッチキーは，必ず抜取って保管します。
- 本機カバーを掛けます。

コンバインの不調と処置

わらが詰まる

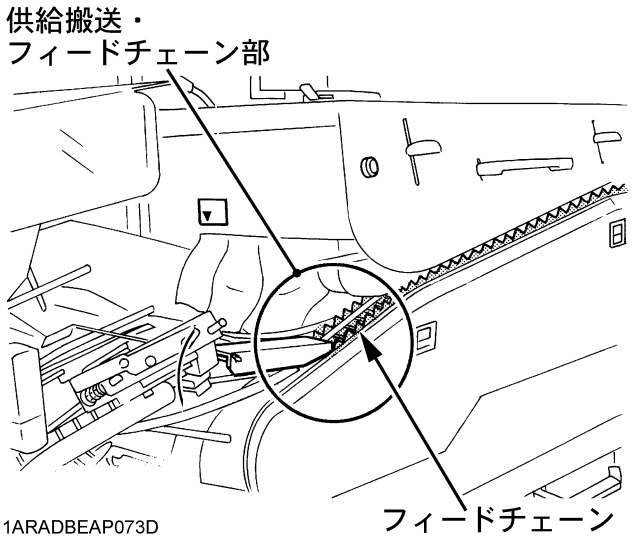
注 意

＊ 必ずエンジンを停止してから行なってください。

■自動エンジン停止装置がはたらいたとき

◆ 供給搬送・フィードチェーン部

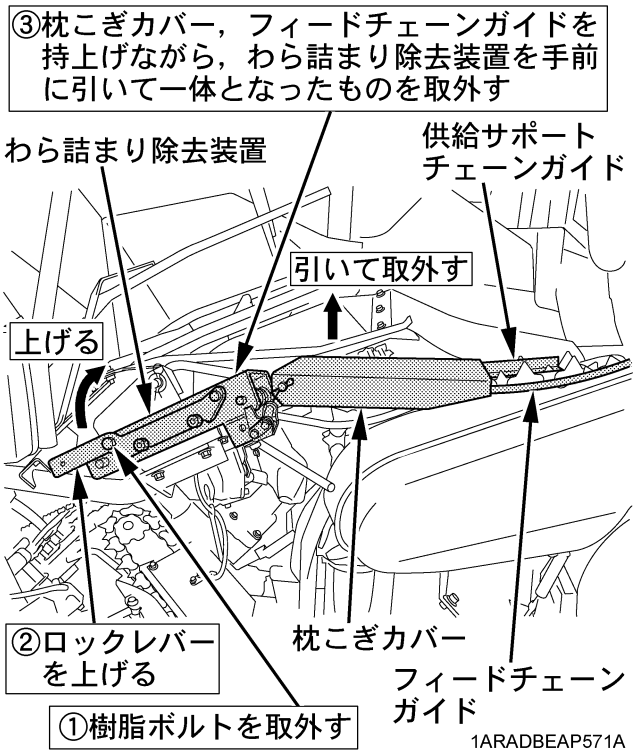
自動エンジン停止装置がはたらき，**[DX 仕様]** はメータユニットの刈取ランプが点灯，**[SD 仕様]** は液晶ディスプレイに **[刈取] ⟷ [詰まりを取り除く]** と表示したときには，掃除してください。



供給搬送部のチェーンにわらが詰まったときは，わら詰まりのロックレバーを解除して，わらを取除いてください

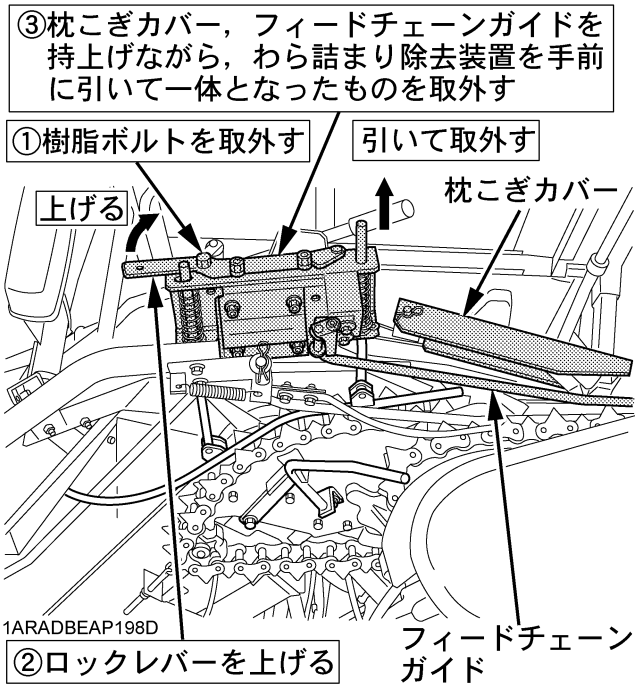
1. こぎ胴をオープンします。
2. わら詰まり除去装置を取外します。

[327・331・338]



[327・331・338]

[433・438・445]

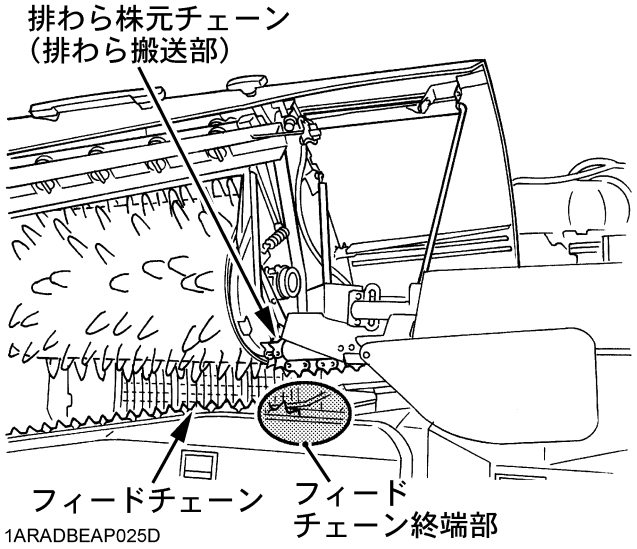


[433・438・445]

3. わらを取除きます。
4. わら詰まり除去装置を取付けたあと，こぎ胴を閉じます。

◆ フィードチェーン終端部・排わら搬送部

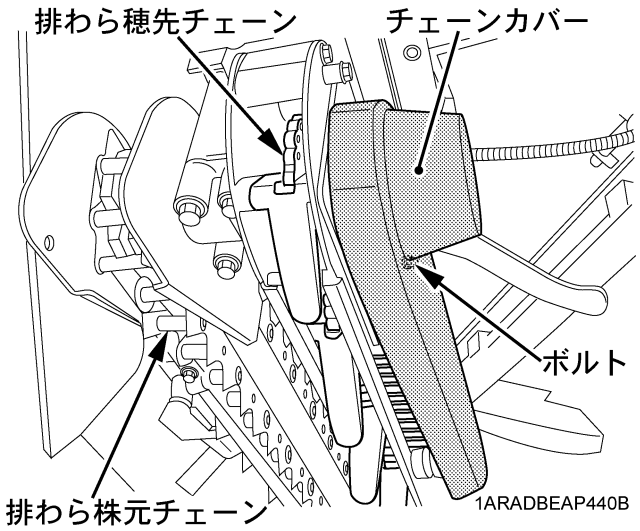
自動エンジン停止装置がはたらき，**[DX 仕様]** はメータユニットの排ワラランプが点灯，**[SD仕様]** は液晶ディスプレイに **[排ワラ] ⟷ [詰まりを取り除く]** と表示したときには，掃除してください。



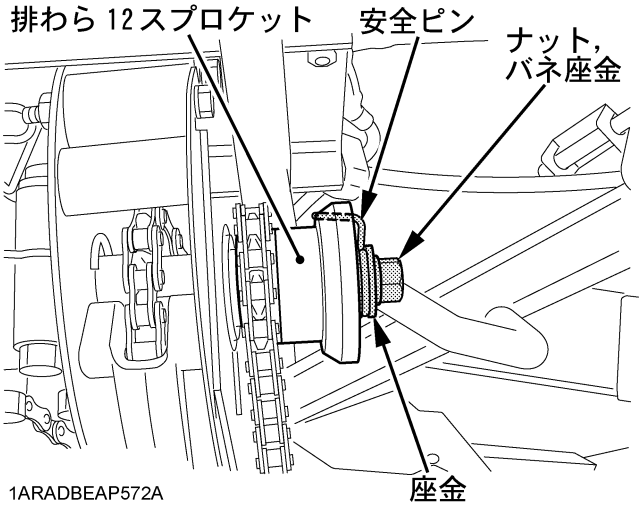
供給搬送部のチェーンにわらが詰まったときは，こぎ胴をオープンして，わらを取除いてください。また，排わら穂先・株元各チェーンに負荷が掛かり，チェーン終端部にある安全ピンが折れて排わら穂先・株元各チェーンの動きが止まるとフィードチェーン終端部にわら詰まりが発生しますので掃除が終わったあと，エンジンを始動して排わら穂先・株元各チェーンが動いていないときは，安全ピンの交換を行なってください。

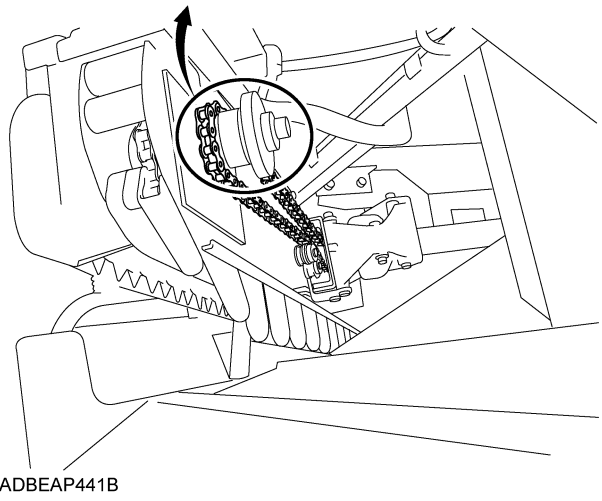
● 安全ピンの交換

1. ボルトを取外して排わら入力チェーンカバーを取外します。



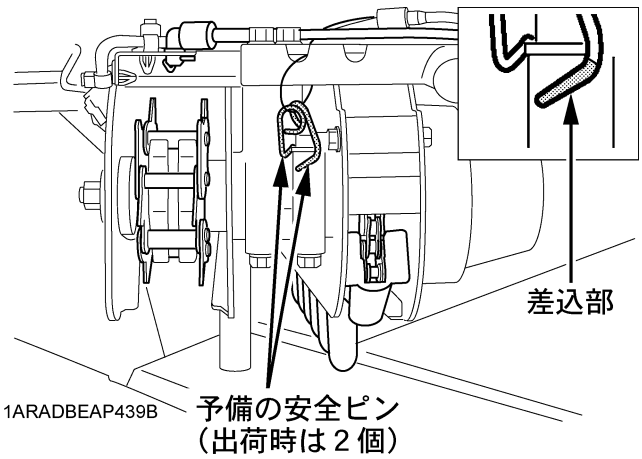
2. ナット，バネ座金と座金を取外したあと折れた安全ピンを外します。そのあと，排わら 12 スプロケット側の取付穴に残っている安全ピンの残りを取除きます。



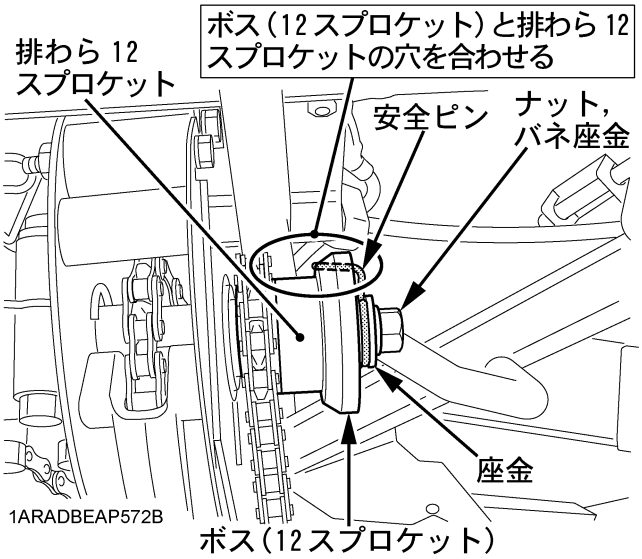


補　足

＊ 取除くときは，新しい予備の安全ピンを排わら穂先・株元各チェーン終端部のフレームから取外し，安全ピン L 字部の差込部を差込んで取除いてください。



3. 新しい安全ピンをボス（12 スプロケット）の取付穴に差込み，ボスを手で回しながら排わら 12 スプロケット側の穴に通します。
4. 座金とバネ座金，ナットを取付けます。



補　足

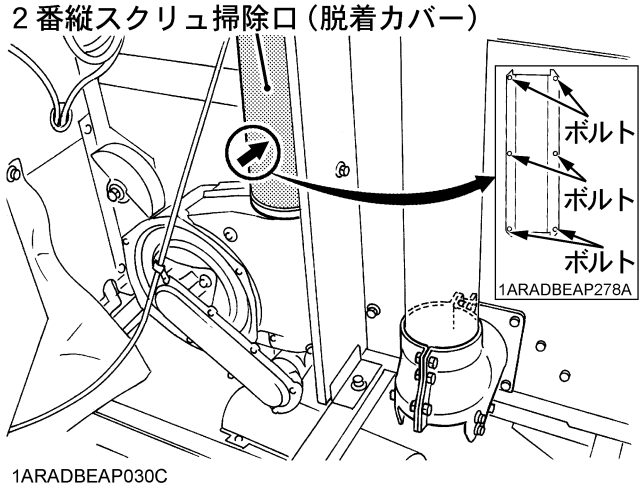
＊ 取付穴はボス（12 スプロケット），排わら 12 スプロケットそれぞれ３箇所あります。
＊ 予備の安全ピン（品番：5K210-4355-0）がなくなったときは補充しておいてください。

5. 排わら入力チェーンカバーを取付けます。

◆ ２番縦スクリュ掃除口

[DX 仕様]はメータユニットの２番ランプが点灯，**[SD 仕様]** は液晶ディスプレイに **［２番］⟷［詰まりを取り除く］** と表示したときには，次の手順で掃除してください。

1. グレンタンクをオープンします。
2. 縦スクリュ掃除口のボルト６本を取外して脱着カバーを外します。

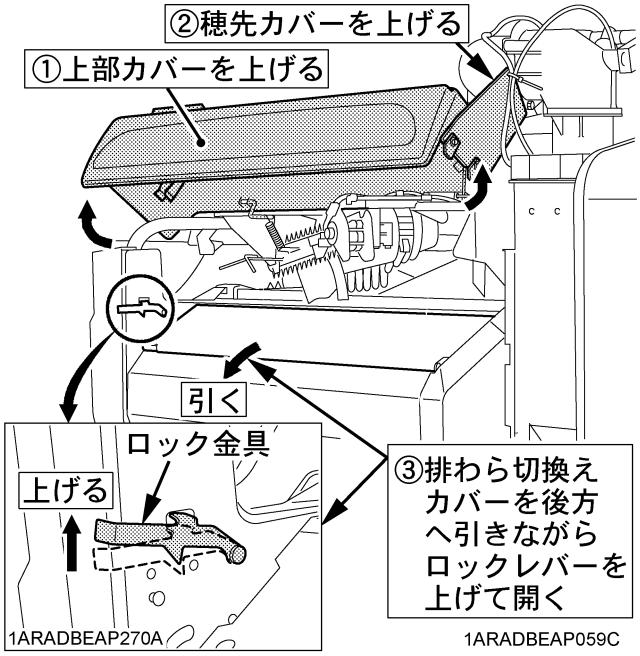


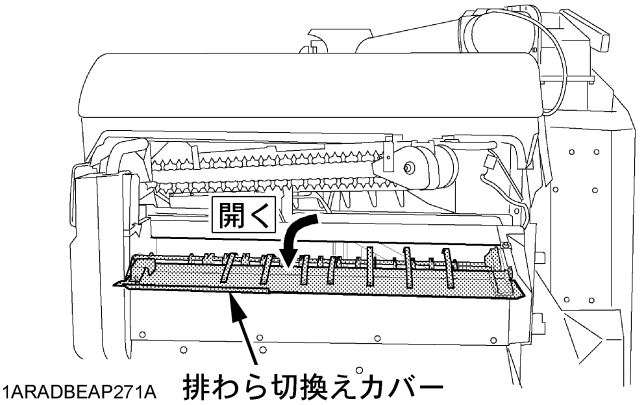
3. 縦スクリュ掃除口の脱着カバーを取付たあと，グレンタンクを閉じます。

◆ カッタ部・排わらチェーン部

自動エンジン停止装置がはたらき，**[DX 仕様]** はメータユニットの排ワラランプが点灯，**[SD 仕様]** は液晶ディスプレイに **［カッタ］⟷［詰まりを取り除く］** と表示したときには，次の手順で掃除してください。

1. 排わら切換えカバーを開きます。
2. 上部カバーを上げて，穂先カバーを上に開きます。
3. カバーロックレバーを引き，排わら切換えカバーを後方へ倒します。





補　足

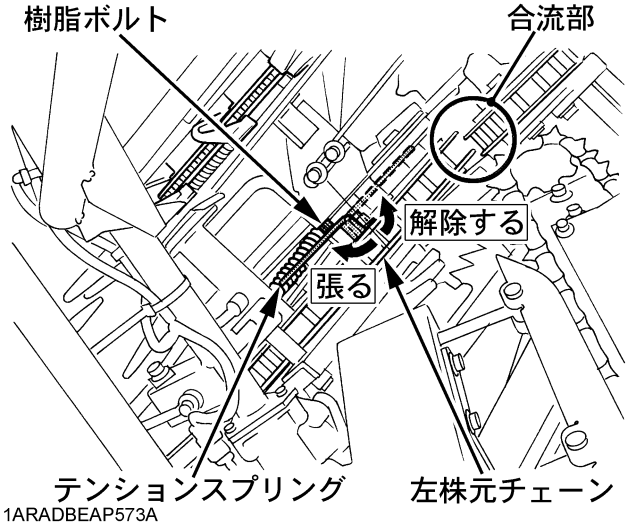
＊ 必要に応じて，このあとカッタオープンして掃除を行なってください。
＊ 排わら切換えカバーを開けたままでは，エンジンをかけても脱こく・刈取クラッチレバーを **[入]** 位置にするとエンジンが止まります。

4. カバーをロックレバーを引きながら排わら切換えカバーを閉め，カバーロックレバーを確実にロックします。

■わら詰まりの取除きかた（左，右株元チェーン合流部）

[433・438・445]

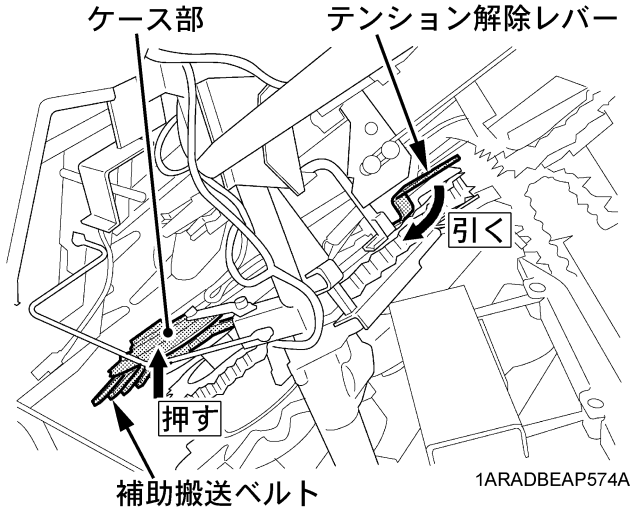
1. 樹脂ボルトを取外します。
2. テンション解除レバーを右側に押して，左株元チェーンのテンションをゆるめたあと，合流部のわらを取除きます。
3. テンション解除レバーを左側に押して，テンションを張ったあと，樹脂ボルトを締付けます。



1ARADBEAP573A

補　足

＊ チェーンが張りにくいときは，解除レバーを引きながら左側の補助搬送ベルトのケース部を右側へ押しながら解除レバーを引いてください。



1ARADBEAP574A

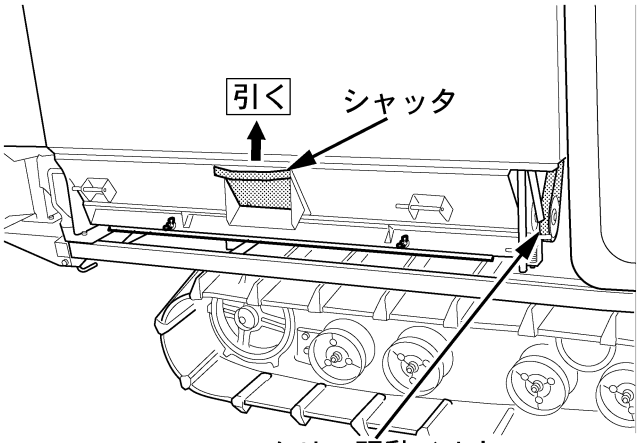
[433・438・445]

もみが詰まる

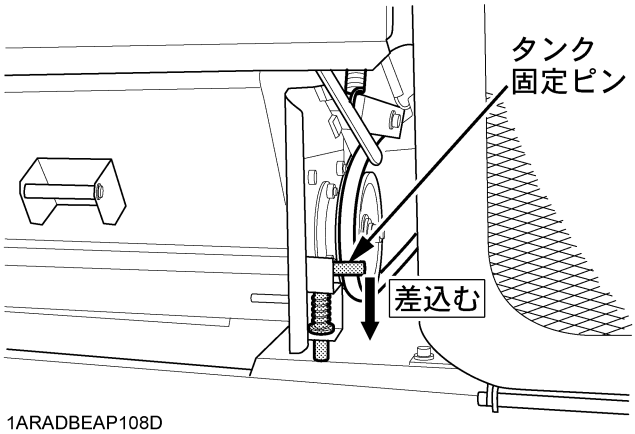
■アンローダからもみが排出されないとき

下記事項を点検し，もみ排出クラッチレバーを**[切]**位置にしたあと，エンジンを必ず止めてから処置してください。

1. 異物がかみ込んでいるときは，アンローダの各掃除口を点検（152 ページ参照）し，異物を取除きます。
2. タンク駆動ベルトがスリップしているときは，シャッタを引いてもみを排出したあと，グレンタンクをオープン（150 ページ参照）し，スクリュ駆動ベルトのテンションスプリングの調整（200 ページ参照）をします。調整を行なってもスリップが止まらないときは，ベルト交換を行なってください。



1ARADBEAP034C



1ARADBEAP108D

付表

主要諸元

農機型式名			クボタ　R0407				クボタ　R0406			
商品名			ARN327				ARN331			
区分			DXW	DXMW	SDW	SD4MW	DXW	DXMW	SDW	SD4MW
機体寸法	全長(mm)		3840							
	全幅(mm)		1845							
	全高(mm)		2050							
機体質量(kg)			1935	2085	1945	2115	1935	2085	1945	2115
エンジン	型式名		V1505-E2-C-13				V1505-E2-C-12			
	種類		水冷４サイクル４気筒立形ディーゼル							
	総排気量(L{cc})		1.498 {1498}							
	出力/回転速度(kW{PS}/rpm)		19.8 {27.0} /2800				22.8 {31.0} /2900			
	使用燃料		ディーゼル軽油							
	燃料タンク容量(L)		40							
	始動方式		セルモータ式							
	バッテリ(V・Ah)		12・55〔80D26L-MF〕							
走行部	クローラ	中心距離(mm)	920							
		幅×接地長(mm)	430×1405	430×1445	430×1405	430×1445	430×1405	430×1445	430×1405	430×1445
		平均接地圧(kPa{kgf/cm²})	15.7 {0.16}	16.4 {0.17}	15.8 {0.16}	16.7 {0.17}	15.7 {0.16}	16.4 {0.17}	15.8 {0.16}	16.7 {0.17}
	最低地上高(mm)		180	180～310	180	180～350	180	180～310	180	180～350
	変速方式		油圧モータ式〔HST〕							
	変速段数		前進無段・後進無段〔副変速各３段〕							
	走行速度(m/s)〔エンジン定格回転速度時〕	前進	〔副変速〕倒伏･濡れ：0～0.62 標準：0～1.0 高速：0～1.93				〔副変速〕倒伏･濡れ：0～0.75 標準：0～1.2 高速：0～2.31			
		後進								
	旋回方式		ブレーキ･ソフトターン，ソフトターン〔スイッチ切換え式〕							
刈取部	刈取り条数(条)		3							
	刈幅[デバイダ先端間隔](mm)		1180～1230							
	刈取装置形式		シングルアクション							
	刃幅(mm)		1180							
	変速段数(段)		走行副変速同調２段 ＋ 引起し２段							
	刈高さ範囲(mm)		35～150							
	こぎ深さ調節方式		電動モータ式(自動・手動併用)							
脱こく部	脱こく方式		下こぎ・単胴・軸流式							
	こぎ胴	径×幅(mm)	424×600							
		回転速度(rpm)	507							
	処理胴	径×幅(mm)	240×100							
		回転速度(rpm)	1073							
	２番還元方式		スクリュ式							
	揺動板	幅×長さ(mm)	600×1160							
	選別方式		揺動・圧風・全幅吸引							

＊この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

農機型式名			クボタ　R0407				クボタ　R0406			
商品名			ARN327				ARN331			
区分			DXW	DXMW	SDW	SD4MW	DXW	DXMW	SDW	SD4MW
こく粒処理部	処理方式		グレンタンク式							
	排出方式		スクリュコンベア式							
	タンク容量(L{袋})		850｛約17袋｝〔1袋約50L〕							
	旋回範囲(度)・旋回方式		320〔右，左〕・電動モータ							
	昇降範囲(度)・昇降方式		0〔水平〕～45･油圧式							
	排出高さ〔作業時〕(mm)		1760～4500							
	排出長さ〔作業時〕(mm)		2600～3580							
わら処理部	工場出荷仕様		●カッタ　又は，●カッタ後部標準結束機 カッタ切断長さ：50/150mm切換え式〔切断刃：標準切断刃／セラミック切断刃〕							
	オプション		●50/150mm切換え式カッタ〔切断刃：標準切断刃/セラミック切断刃〕 ●カッタ後部標準結束機　● カッタ後部ストンパ結束機 ●カッタ後部ドロッパ　●シュータ式拡散装置							
諸装置	自動化装置	自動車速制御	—	—	○	○	—	—	○	○
		自動こぎ深さ制御	○	○	○	○	○	○	○	○
		刈取オートクラッチ〔刈取部上昇時搬送駆動停止機能〕	—	—	○	○	—	—	○	○
		自動車体水平制御	—	○〔左右〕	—	○〔4PC〕	—	○〔左右〕	—	○〔4PC〕
		自動脱こく制御	—	—	○	○	—	—	○	○
		アンローダ自動旋回制御	○	○	○	○	○	○	○	○
	刈取オープン		○	○	○	○	○	○	○	○
	方向・刈高微調整スイッチ		—	—	○	○	—	—	○	○
	バイブロシャッタ		—	—	○〔手動〕	○〔手動〕	—	—	○〔手動〕	○〔手動〕
	パワークラッチ〔刈取〕		—	—	○	○	—	—	○	○
	集中注油装置〔電動〕		○〔刈取部のみ〕	○〔刈取部のみ〕	○	○	○〔刈取部のみ〕	○〔刈取部のみ〕	○	○
	刈取防じんカバー		△	△	○	○	△	△	○	○
	警報装置		燃料，充電，油圧，水温（オーバーヒート），もみ満杯， こぎ深さ**【SD仕様】**，負荷，２番詰まり，シーブ，排わら詰まり， カッタ詰まり〔結束機わら詰まり/ひも詰まり/ひも切れ**【結束機付き仕様】**〕							
適応作物範囲〔全長〕(mm)			500～1300							
倒伏適応性(度)			追刈り：85以下・向刈り：70以下							
作業能率〔計算値〕(a/hr{分/10a})			30～9｛20～67｝				35～9｛17～67｝			

※この主要諸元は，改良のため予告なく変更することがあります。
※諸装置について　○：標準装備　－：非装備（後付け不可）　△：オプション（後付け可）

付表

農機型式名			クボタ　RO404					
商品名			ARN338					
区分			DXW	DXMW	DXMWQ	SDW	SD4MW	SD4MWQ
機体寸法	全長(mm)		4040					
	全幅(mm)		1845		1910	1845		1910
	全高(mm)		2050		2525	2050		2525
機体質量(kg)			2035	2185	2330	2045	2215	2360
エンジン	型式名		D1803-M-C-E-1					
	種類		水冷４サイクル３気筒立形ディーゼル					
	総排気量		1.826｛1826｝					
	出力/回転速度(kW{PS}/rpm)		27.9｛38.0｝/2700					
	使用燃料		ディーゼル軽油					
	燃料タンク容量(L)		40					
	始動方式		セルモータ式					
	バッテリ(V・Ah)		12・55〔80D26L-MF〕					
走行部	クローラ 中心距離(mm)		920					
	クローラ 幅×接地長(mm)		430×1505	430×1525		430×1505	430×1525	
	クローラ 平均接地圧(kPa{kgf/cm²})		15.4｛0.16｝	16.3｛0.17｝	17.4｛0.18｝	15.5｛0.16｝	16.6｛0.17｝	17.6｛0.18｝
	最低地上高(mm)		180	180～310		180	180～350	
	変速方式		油圧モータ式〔HST〕					
	変速段数		前進無段・後進無段〔副変速各３段〕					
	走行速度(m/s)〔エンジン定格回転速度時〕	前進	〔副変速〕倒伏・濡れ：0～0.85 標準：0～1.40 高速：0～2.40					
		後進						
	旋回方式		ブレーキ・ソフトターン，ソフトターン〔スイッチ切換え式〕					
刈取部	刈取り条数(条)		3					
	刈幅[デバイダ先端間隔](mm)		1180～1230					
	刈取装置形式		シングルアクション					
	刃幅(mm)		1180					
	変速段数(段)		走行副変速同調２段 ＋ 引起し２段					
	刈高さ範囲(mm)		35～150					
	こぎ深さ調節方式		電動モータ式（自動・手動併用）					
脱こく部	脱こく方式		下こぎ・単胴・軸流式					
	こぎ胴	径×幅(mm)	424×800					
		回転速度(rpm)	504					
	処理胴	径×幅(mm)	240×100					
		回転速度(rpm)	1205					
	２番還元方式		スクリュ式					
	揺動板	幅×長さ(mm)	600×1360					
	選別方式		揺動・圧風・全幅吸引					

＊この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

農機型式名			クボタ　R0404					
商品名			ARN338					
区分			DXW	DXMW	DXMWQ	SDW	SD4MW	SD4MWQ
こく粒処理部	処理方式		グレンタンク式					
	排出方式		スクリュコンベア式					
	タンク容量（L{袋}）		1050｛約21袋｝〔1袋約50L〕					
	旋回範囲(度)・旋回方式		320〔右，左〕・電動モータ					
	昇降範囲(度)・昇降方式		0〔水平〕～45･油圧式					
	排出高さ〔作業時〕(mm)		1760～4500					
	排出長さ〔作業時〕(mm)		2600～3580					
わら処理部	工場出荷仕様		●カッタ　又は，●カッタ後部標準結束機 カッタ切断長さ：50/150mm切換え式〔切断刃：標準切断刃／セラミック切断刃〕					
	オプション		●50/150mm切換え式カッタ〔切断刃：標準切断刃/セラミック切断刃〕 ●カッタ後部標準結束機　● カッタ後部ストンパ結束機 ●カッタ後部ドロッパ　●シュータ式拡散装置					
諸装置	自動化装置	自動車速制御	—	—	—	○	○	○
		自動こぎ深さ制御	○	○	○	○	○	○
		刈取オートクラッチ〔刈取部上昇時搬送駆動停止機能〕	—	—	—	○	○	○
		自動車体水平制御	—	○〔左右〕	○〔左右〕	—	○〔4PC〕	○〔4PC〕
		自動脱こく制御	—	—	—	○	○	○
		アンローダ自動旋回制御	○	○	○	○	○	○
		エンジン正逆流ファン制御	○	○	○	○	○	○
	刈取オープン		○	○	○	○	○	○
	方向・刈高微調整スイッチ		—	—	—	○	○	○
	バイブロシャッタ		—	—	—	○〔手動〕	○〔手動〕	○〔手動〕
	パワークラッチ〔刈取〕		—	—	—	○	○	○
	集中注油装置〔電動〕		○〔刈取部のみ〕	○〔刈取部のみ〕	○〔刈取部のみ〕	○	○	○
	防じんカバー		△	△	—	○	○	—
	キャビン		—	—	○	—	—	○
	警報装置		燃料，充電，油圧，水温（オーバーヒート），もみ満杯， こぎ深さ**［SD仕様］**，負荷，２番詰まり，シーブ，排わら詰まり， カッタ詰まり〔結束機わら詰まり/ひも詰まり/ひも切れ**［結束機付き仕様］**〕					
適応作物範囲〔全長〕(mm)			550～1300					
倒伏適応性（度）			追刈り：85以下・向刈り：70以下					
作業能率〔計算値〕(a/hr{分/10a})			40～9｛15～67｝					

※この主要諸元は，改良のため予告なく変更することがあります。
※諸装置について　　○：標準装備　－：非装備（後付け不可）　△：オプション（後付け可）

付表

農機型式名			クボタ　R0405				クボタ　R0403					
商品名			ARN433				ARN438					
区分			DXW2	DXMW2	SDW2	SD4MW2	DXW2	DXMW2	DXMW2Q	SDW2	SD4MW2	SD4MW2Q
機体寸法	全長 (mm)		3840				4040					
	全幅 (mm)		1845						1910	1845		1910
	全高 (mm)		2050						2525	2050		2525
機体質量 (kg)			1985	2135	1995	2165	2075	2225	2370	2085	2255	2400
エンジン	型式名		V1505-E2-C-14				D1803-M-C-E-1					
	種類		水冷４サイクル４気筒立形ディーゼル				水冷４サイクル３気筒立形ディーゼル					
	総排気量 (L{cc})		1.498 {1498}				1.826 {1826}					
	出力/回転速度 (kW{PS}/rpm)		24.3 {33.0} /3000				27.9 {38.0} /2700					
	使用燃料		ディーゼル軽油									
	燃料タンク容量 (L)		40									
	始動方式		セルモータ式									
	バッテリ (V・Ah)		12・55〔80D26L-MF〕									
走行部	クローラ	中心距離 (mm)	960									
		幅×接地長 (mm)	470×1405	470×1445	470×1405	470×1445	470×1475	470×1525	470×1525	470×1475	470×1525	470×1525
		平均接地圧 (kPa{kgf/cm²})	14.7 {0.15}	15.4 {0.16}	14.8 {0.15}	15.6 {0.16}	14.7 {0.15}	15.2 {0.16}	16.2 {0.17}	14.7 {0.15}	15.4 {0.16}	15.6 {0.16}
	最低地上高 (mm)		180	180～310	180	180～350	180	180～310		180	180～350	180～350
	変速方式		油圧モータ式〔HST〕									
	変速段数		前進無段・後進無段〔副変速各３段〕									
	走行速度 (m/s) 〔エンジン定格回転速度時〕	前進	〔副変速〕 倒伏・濡れ：0～0.58 標準：0～0.95 高速：0～1.79				〔副変速〕 倒伏・濡れ：0～0.68 標準：0～1.15 高速：0～1.93					
		後進										
	旋回方式		ブレーキ・ソフトターン，ソフトターン〔スイッチ切換え式〕									
刈取部	刈取り条数 (条)		4									
	刈幅[デバイダ先端間隔] (mm)		1400～1500									
	刈取装置形式		シングルアクション									
	刃幅 (mm)		1450									
	変速段数 (段)		走行副変速同調２段 ＋ 引起し２段									
	刈高さ範囲 (mm)		35～150									
	こぎ深さ調節方式		電動モータ式(自動・手動併用)									
脱こく部	脱こく方式		下こぎ・単胴・軸流式									
	こぎ胴	径×幅 (mm)	424×600				424×800					
		回転速度 (rpm)	507				504					
	処理胴	径×幅 (mm)	240×100									
		回転速度 (rpm)	1073				1205					
	２番還元方式		スクリュ式									
	揺動板	幅×長さ (mm)	600×1160				600×1360					
	選別方式		揺動・圧風・全幅吸引									

＊この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

農機型式名			クボタ　R0405				クボタ　R0403					
商品名			ARN433				ARN438					
区分			DXW2	DXMW2	SDW2	SD4MW2	DXW2	DXMW2	DXMW2Q	SDW2	SD4MW2	SD4MW2Q
こく粒処理部	処理方式		グレンタンク式									
	排出方式		スクリュコンベア式									
	タンク容量(L{袋})		850｛約17袋｝〔1袋約50L〕				1050｛約21袋｝〔1袋約50L〕					
	旋回範囲(度)・旋回方式		320〔右，左〕・ 電動モータ									
	昇降範囲(度)・昇降方式		0〔水平〕～45･油圧式									
	排出高さ〔作業時〕(mm)		1760～4500									
	排出長さ〔作業時〕(mm)		2600～3580									
わら処理部	工場出荷仕様		●カッタ　又は，　●カッタ後部標準結束機　　●シュータ式拡散装置 カッタ切断長さ：50/150mm切換え式 〔切断刃：標準切断刃/セラミック切断刃〕									
	オプション		● 50/150mm切換え式カッタ 〔切断刃 ：標準切断刃/セラミック切断刃，簡易拡散装置付き〕 ●カッタ後部標準結束機　　●カッタ後部ストンパ結束機　●カッタ後部ドロッパ									
諸装置	自動化装置	自動車速制御	—	—	○	○	—	—	—	○	○	○
		自動こぎ深さ制御	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		刈取オートクラッチ〔刈取部上昇時搬送駆動停止機能〕	—	—	○	○	—	—	—	○	○	○
		自動車体水平制御	—	○〔左右〕	—	○〔4PC〕	—	○〔左右〕	○〔左右〕	—	○〔4PC〕	○〔4PC〕
		自動脱こく制御	—	—	○	○	—	—	—	○	○	○
		アンローダ自動旋回制御	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		エンジン正逆流ファン制御	—	—	—	—	○	○	○	○	○	○
	刈取オープン		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	方向・刈高微調整スイッチ		—	—	○	○	—	—	—	○	○	○
	バイブロシャッタ		—	—	○〔手動〕	○〔手動〕	—	—	—	○〔手動〕	○〔手動〕	○〔手動〕
	パワークラッチ〔刈取〕		—	—	○	○	—	—	—	○	○	○
	集中注油装置〔電動〕		○〔刈取部のみ〕	○〔刈取部のみ〕	○	○	○〔刈取部のみ〕	○〔刈取部のみ〕	○〔刈取部のみ〕	○	○	○
	刈取防じんカバー		△	△	○	○	△	△	—	○	○	—
	キャビン		—	—	—	—	—	—	○	—	—	○
	警報装置		燃料，充電，油圧，水温（オーバーヒート），もみ満杯， こぎ深さ**［SD仕様］**，負荷，２番詰まり，シーブ，排わら詰まり， カッタ詰まり〔結束機わら詰まり/ひも詰まり/ひも切れ**［結束機付き仕様］**〕									
適応作物範囲〔全長〕(mm)			500～1300									
倒伏適応性(度)			追刈り：85以下・向刈り：70以下									
作業能率〔計算値〕(a/hr{分/10a})			38～11 {16～53}				43～11 {14～53}					

※この主要諸元は，改良のため予告なく変更することがあります。
※諸装置について　　○：標準装備　－：非装備（後付け不可）　△：オプション（後付け可）

付表

農機型式名			クボタ　RO402					
商品名			ARN445					
区分			DXW2	DXMW2	DXMW2Q	SDW2	SD4MW2	SD4MW2Q
機体寸法	全長(mm)		4040					
	全幅(mm)		1845		1910	1845		1910
	全高(mm)		2050		2525	2050		2525
機体質量(kg)			2085	2235	2380	2095	2265	2410
エンジン	型式名		D1803-M-T-C-E-1					
	種類		水冷４サイクル３気筒立形ディーゼル（ターボ）					
	総排気量(L{cc})		1.826｛1826｝					
	出力/回転速度(kW{PS}/rpm)		33.1｛45.0｝/2700					
	使用燃料		ディーゼル軽油					
	燃料タンク容量(L)		40					
	始動方式		セルモータ式					
	バッテリ(V・Ah)		12・55〔80D26L-MF〕					
走行部	クローラ	中心距離(mm)	960					
		幅×接地長(mm)	470×1475	470×1525		470×1475	470×1525	
		平均接地圧(kPa{kgf/cm²})	14.7｛0.15｝	15.3｛0.16｝	16.3｛0.17｝	14.8｛0.15｝	15.5｛0.16｝	16.5｛0.17｝
	最低地上高(mm)		180	180～310		180	180～350	
	変速方式		油圧モータ式〔HST〕					
	変速段数		前進無段・後進無段〔副変速各３段〕					
	走行速度(m/s)〔エンジン定格回転速度時〕	前進	〔副変速〕 倒伏･濡れ：0～0.81 標準　：0～1.35 高速　：0～2.28					
		後進						
	旋回方式		ブレーキ･ソフトターン，ソフトターン〔スイッチ切換え式〕					
刈取部	刈取り条数(条)		4					
	刈幅[デバイダ先端間隔](mm)		1400～1500					
	刈取装置形式		シングルアクション					
	刃幅(mm)		1450					
	変速段数(段)		走行副変速同調２段 ＋ 引起し２段					
	刈高さ範囲(mm)		35～150					
	こぎ深さ調節方式		電動モータ式（自動・手動併用）					
脱こく部	脱こく方式		下こぎ・単胴・軸流式					
	こぎ胴	径×幅(mm)	424×800					
		回転速度(rpm)	504					
	処理胴	径×幅(mm)	240×100					
		回転速度(rpm)	1205					
	２番還元方式		スクリュ式					
	揺動板	幅×長さ(mm)	600×1360					
	選別方式		揺動・圧風・全幅吸引					

＊この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

農機型式名			クボタ　R0402					
商品名			ARN445					
区分			DXW2	DXMW2	DXMW2Q	SDW2	SD4MW2	SD4MW2Q
こく粒処理部	処理方式		グレンタンク式					
	排出方式		スクリュコンベア式					
	タンク容量		1050｛約21袋｝〔1袋約50L〕					
	旋回範囲(度)・旋回方式		320〔右，左〕・電動モータ					
	昇降範囲(度)・昇降方式		0〔水平〕～45･油圧式					
	排出高さ〔作業時〕(mm)		1760～4500					
	排出長さ〔作業時〕(mm)		2600～3580					
わら処理部	工場出荷仕様		●カッタ　又は，　●カッタ後部標準結束機　　●シュータ式拡散装置 カッタ切断長さ：50/150mm切換え式　〔切断刃：セラミック切断刃〕					
	オプション		● 50/150mm切換え式カッタ　〔切断刃　：標準切断刃/セラミック切断刃，簡易拡散装置付き〕 ●カッタ後部標準結束機　　●カッタ後部ストンパ結束機　　●カッタ後部ドロッパ					
諸装置	自動化装置	自動車速制御	―	―	―	○	○	○
		自動こぎ深さ制御	○	○	○	○	○	○
		刈取オートクラッチ 〔刈取部上昇時搬送駆動停止機能〕	―	―	―	○	○	○
		自動車体水平制御	―	○ 〔左右〕	○ 〔左右〕	―	○ 〔4PC〕	○ 〔4PC〕
		自動脱こく制御	―	―	―	○	○	○
		アンローダ 自動旋回制御	○	○	○	○	○	○
		エンジン正逆流 ファン制御	○	○	○	○	○	○
	刈取オープン		○	○	○	○	○	○
	方向・刈高微調整スイッチ		―	―	―	○	○	○
	バイブロシャッタ		―	―	―	○〔手動〕	○〔手動〕	○〔手動〕
	パワークラッチ〔刈取〕		―	―	―	○	○	○
	集中注油装置〔電動〕		○〔刈取部のみ〕	○〔刈取部のみ〕	○〔刈取部のみ〕	○	○	○
	防じんカバー		△	△	―	○	○	―
	キャビン		―	―	○	―	―	○
	警報装置		燃料，充電，油圧，水温（オーバーヒート），もみ満杯， こぎ深さ**［SD仕様］**，負荷，２番詰まり，シーブ，排わら詰まり， カッタ詰まり〔結束機わら詰まり/ひも詰まり/ひも切れ**［結束機付き仕様］**〕					
適応作物範囲〔全長〕(mm)			500～1300					
倒伏適応性(度)			追刈り：85以下・向刈り：70以下					
作業能率〔計算値〕(a/hr{分/10a})			50～11｛12～53｝					

※この主要諸元は，改良のため予告なく変更することがあります。
※諸装置について　　○：標準装備　－：非装備（後付け不可）　△：オプション（後付け可）

付属部品

次の部品が付属していますのでお調べください。

＊保証書	1
＊メンテナンスブック	1
＊取扱説明書確認カード	1
＊取扱説明書	1
＊本機カバー	1
＊バックミラー（左）	1
＊デバイダ	1 式
＊デバイダカバー	1
＊カラー（刈高さ調整カラー）	3 **[327・331・338]**
（109 ページ参照）	4 **[433・438・445]**
＊ボルト（低刈用）	3 **[327・331・338]**
（109 ページ参照）	4 **[433・438・445]**
＊シム	1

オプション（別売品）（純正品を使いましょう）

■自動集中注油装置

左，右株元チェーン，株元供給チェーン，こぎ深さチェーン，フィードチェーン，排わら穂先・株元チェーンに自動注油が行なえます。

品番	品　名	対象型式
5H732-99800	オプション （3，チュウユ，DX）	327・331・338 各 DX 仕様
5H730-99800	オプション （4，チュウユ，DX）	433・438・445 各 DX 仕様

◆ 走行部

■湿田用泥玉防止スクレーパ

湿田走行時，大きな泥玉の発生が少なくなります。

品番	品　名	対象型式
5H700-99400	オプション (泥玉スクレーパ)	揺動転輪
5H705-99500	オプション (A，ドロタマ)	固定転輪

◆ 刈取部

■自動方向制御装置

刈取作業中に自動的に方向を修正する装置です。

品番	品　名	対象型式
5H700-9910-0	オプション（ADC）	SD 仕様

■自動刈高さ制御装置

刈取作業中に自動的に刈高さを修正する装置です。

品番	品　名	対象型式
5H700-9920-0	オプション（AHC）	SD 仕様

■前分草ガイド

刈取前部に取付ける前分草かんです。

品番	品　名	対象型式
5H702-9960-0	オプション （3，マエブンソウガイド）	327・331・338
5H730-99600	オプション （4，マエブンソウガイド）	433・438・445

■刈取スタンド
刈取部を安定した状態で取外すためのスタンドです。

品番	品　名	対象型式
5H700-87100	スタンド，アッシ (カリトリ)	全型式

■刈取り防じんカバー
運転席側へ飛散してくるごみやちりを防ぐカバーです。

品番	品　名	対象型式
5H702-9970-0	オプション (3，ボウジンカバー)	327・331・338 各 DX 仕様
5H700-9970-0	オプション (4，ボウジンカバー)	433・438・445 各 DX 仕様

■スイスイデバイダ
倒伏した作物を効率よく刈取りできます。

品番	品　名	対象型式
5H712-00000	ARM43-R	全型式 (右 1 連)
5H711-00000	ARM43	433・438・445 (2 連)
5H713-00000	ARM335	327・331・338 (2 連)

◆ こく粒処理部

■アンローダリモコン
アンローダの昇降，旋回やもみの排出の操作がアンローダの先端で行なえます。

品番	品　名	対象型式
5H700-99070	オプション (GPK，Q リモコン)	DXQ 仕様
5H706-99850	オプション (リモコン，SDQ)	SDQ 仕様

■作業灯ランプ
アンローダ先端に取付けます。

品番	品　名	対象型式
5H700-99550	オプション (サギョウトウ，DX)	DX 仕様

■アンローダリモコン・パワークラッチ
もみの排出がスイッチ操作で行なえます。また，アンローダの昇降，旋回やもみの排出操作がアンローダの先端で行なえます。

品番	品　名	対象型式
5H730-99050	オプション (GPK，2)	SD 仕様 (Q 仕様除く)
5H730-99060	オプション (GPK，DX)	DX 仕様 (Q 仕様除く)

■グレンタンク中間モミセンサ
グレンタンク内のもみの量が約2／3ぐらいになるとブザーが知らせてくれます

品番	品　名	対象型式
5H700-99080	オプション (GT，モミセンサ)	DX 仕様 (Q 仕様除く)

■延長アンローダ

品番	品　名	対象型式
5G046-99010	オプション (エンチョウアンローダ)	全型式

◆ 運転席部

■キャノピ
コンバインの日除け装置です。

品番	品　名	対象型式
5H722-0000-0	CP-445　キャノピ	全型式

◆ 脱こく部

■種子用交換部品

品番	品　名	対象型式
5K205-9330-0	交換部品，アッシ (シュシヨウ)	327・331・433
5K212-9330-0	交換部品，アッシ (シュシヨウ)	338・438
5K210-9330-0	交換部品，アッシ (シュシヨウ)	445

◆ 排わら処理部

■カッタ後部標準結束機

品番	品　名	対象型式
57950-00000	K-A445SY	全型式

■カッタ後部ストンパ結束機

品番	品　名	対象型式
57951-00000	K-A445SR	全型式

■カッタ後部ドロッパ

品番	品　名	対象型式
5F905-00000	DARN445	全型式

■シュータ式拡散装置

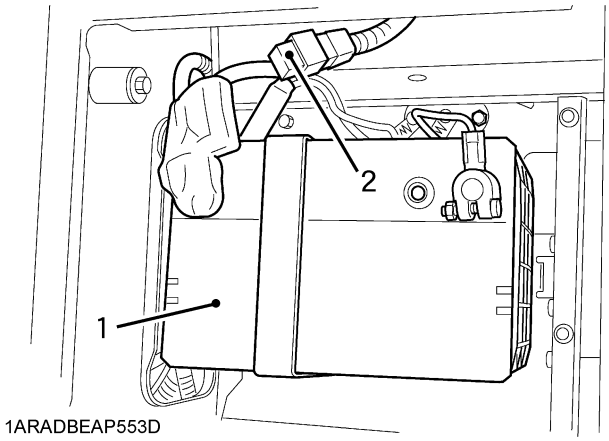
品番	品　名	対象型式
5F611-91200	カクサン，アッシ （３条，簡易）	327・331・338

■ 50/150mm 切断長切換えカッタ

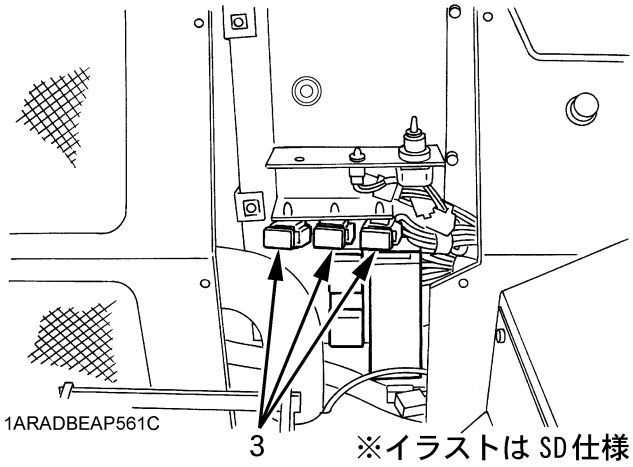
品番	品　名	対象型式
5F611-00000	S-ARN331 C 標準切断刃	327・331
5F612-00000	S-ARN331 CH セラミック切断刃	327・331
5F615-00000	S-ARN433 CW 標準切断刃， 簡易拡散付き	433
5F616-00000	S-ARN433 CHW セラミック切断刃， 簡易拡散付き	433
5F618-00000	S-ARN338 C 標準切断刃	338
5F617-00000	S-ARN338 CH セラミック切断刃	338
5F619-00000	S-ARN445 CHW セラミック切断刃， 簡易拡散付き	438・445

消耗部品(純正部品を使いましょう)

◆ バッテリ・スローブローヒューズ



1ARADBEAP553D



1ARADBEAP561C

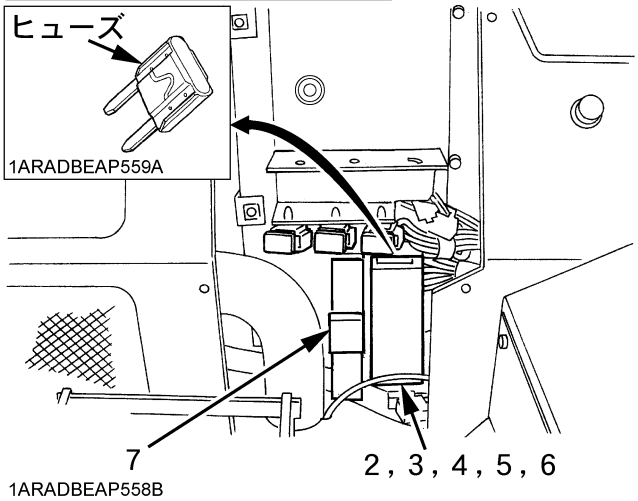
※イラストは SD 仕様

図番	品　　名	品　　番	対象型式
1	バッテリ	07908-2531-0	全型式
2	スローブローヒューズ (65A)	33780-7555-0	
3	スローブローヒューズ (45A)	5H601-4166-0	

◆ ヒューズ

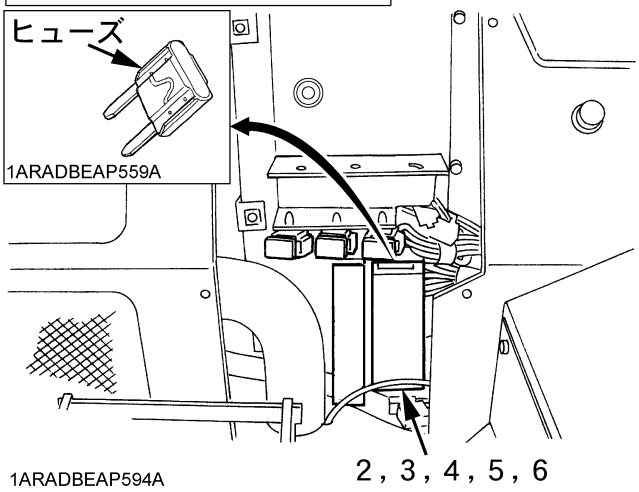
[DX 仕様]

[327・331・433各 DX・DXM仕様]



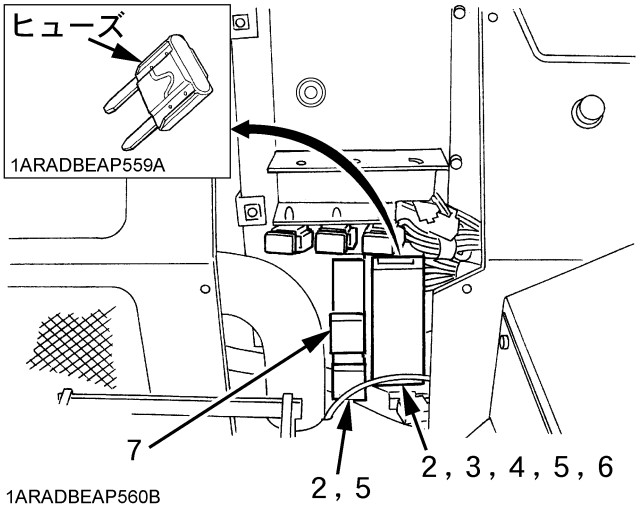
1ARADBEAP558B

[338・433・445各 DX・DXM仕様]



1ARADBEAP594A

[338・433・445各 DXMQ仕様]

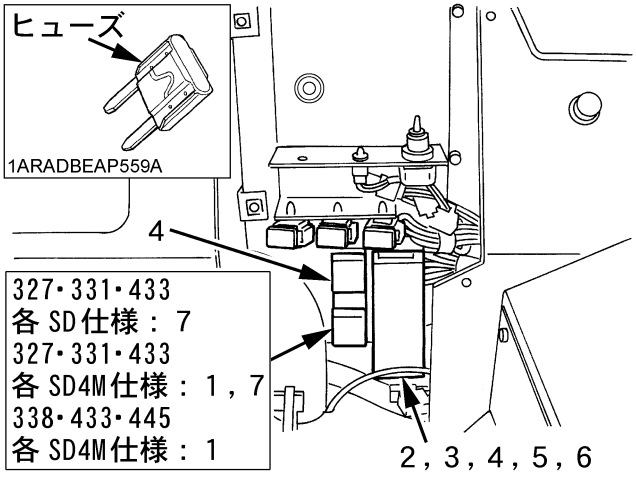


1ARADBEAP560B

[DX 仕様]

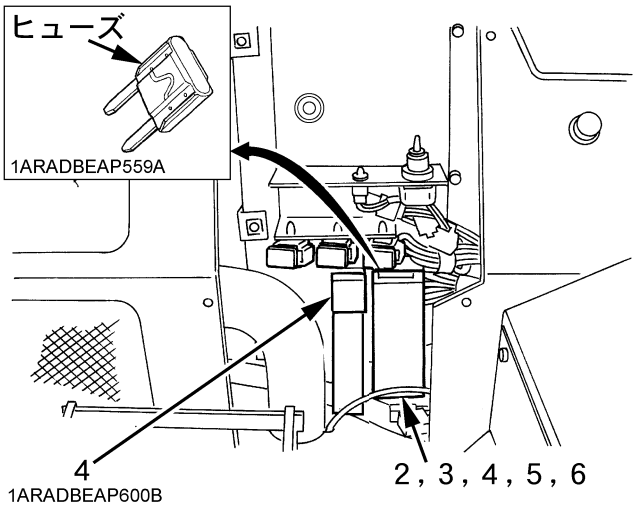
[SD 仕様]

[327・331・433各 SD仕様][SD4M仕様]



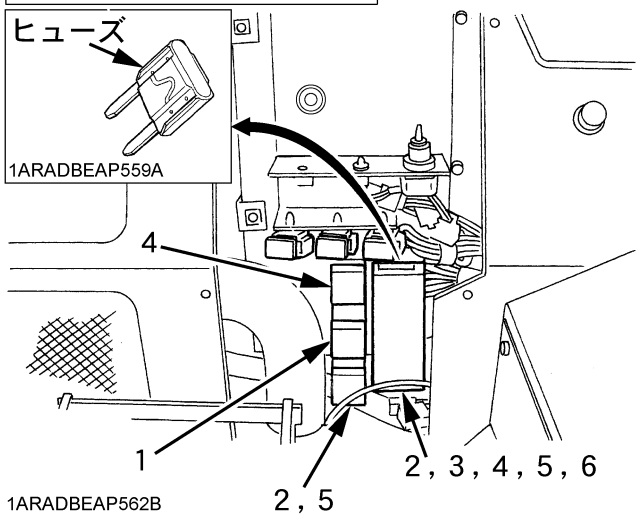
1ARADBEAP561D

[338・433・445各 SD・SD4M仕様]



1ARADBEAP600B

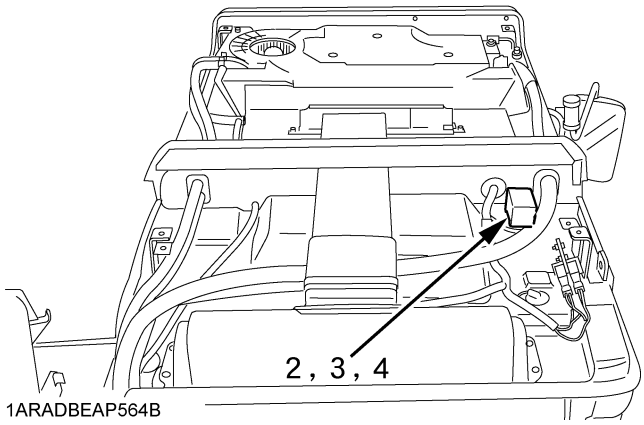
[338・433・445各 SD4MQ仕様]



1ARADBEAP562B

[SD 仕様]

[Q 仕様]

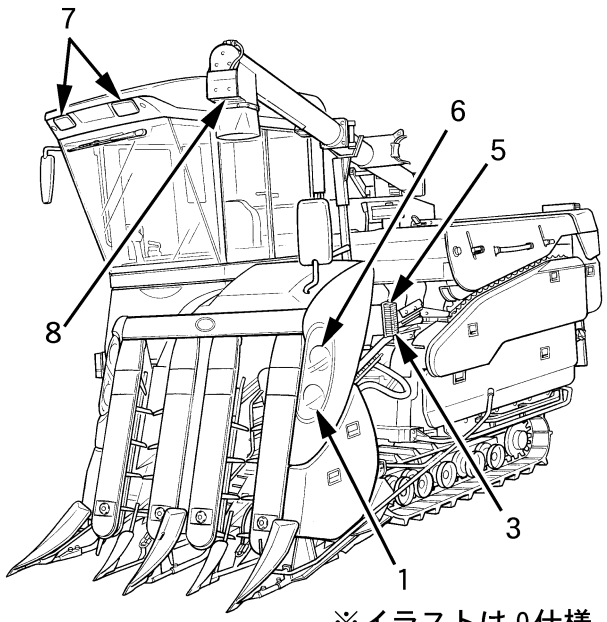


1ARADBEAP564B

[Q 仕様]

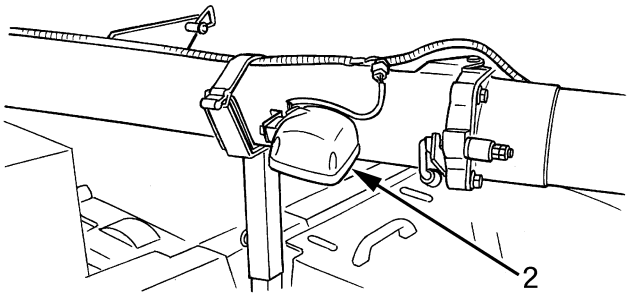
図番	品　　名	品　　番	対象型式
1	ヒューズ（オート，3A）	48200-5587-0	SD4M
2	ヒューズ 5A	37410-5552-0	全型式
3	ヒューズ 7.5A	58622-4148-0	
4	ヒューズ 15A	35820-7556-0	
5	ヒューズ 20A	36919-5665-0	
6	ヒューズ 25A	56605-4215-0	
7	ヒューズ 30A	52241-1162-0	327・331・433

◆ ランプ（電球）

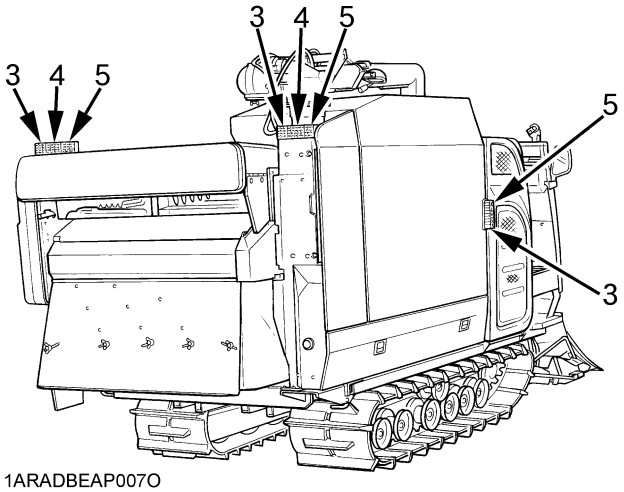


※イラストはQ仕様

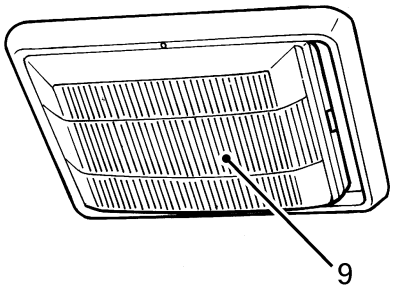
1ARADBEAP008B



1ARADBEAP109E



1ARADBEAP007O

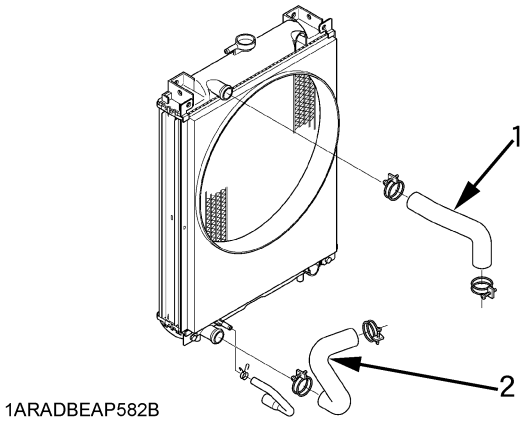


1ASADACAP394B

図番	品　　名	品　　番	対象型式
1	バルブ (12V35W，ハロゲン)	T1275-9106-0	SD4M
2	ランプバルブ（12V55W）	3G710-7590-0	全型式
3	デンキュウ	38450-3421-0	
4	バルブ（12V23/8W）	31301-3437-0	
5	バルブ（12V10W）	5H601-4184-0	
6	バルブ (12V35W，ハロゲン)	T1275-9106-0	
7	バルブ (12V35W，ハロゲン)	T1275-9106-0	Q仕様
8	デンキュウ	35450-3421-0	SD仕様
9	ルームランプ，タマ	T0180-7422-0	Q仕様

◆ ラジエータホース

[327・331・433]

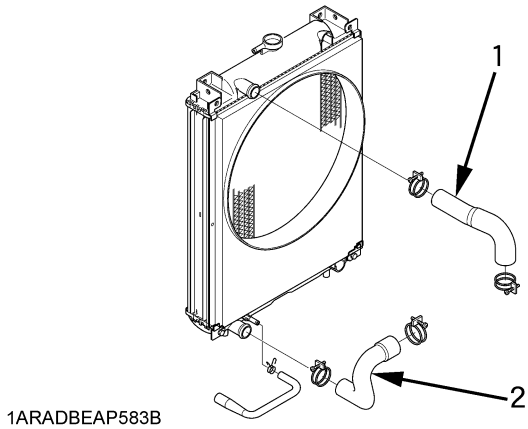


1ARADBEAP582B

図番	品　　名	品　　番	対象型式
1	ホース（1，ウォータ）	5H700-2571-0	327・331・433
2	ホース（2，ウォータ）	5H702-2572-0	

[327・331・433]

[338・438・445]

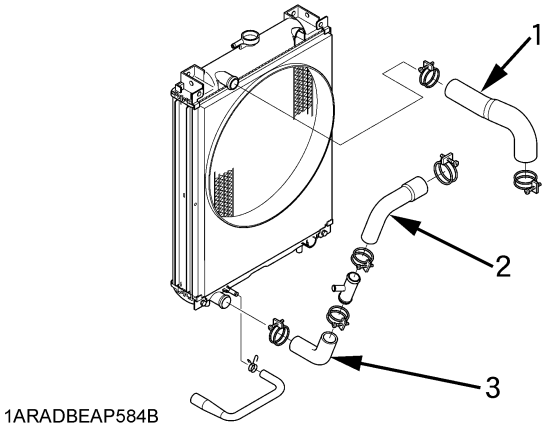


1ARADBEAP583B

図番	品　　名	品　　番	対象型式
1	ホース（1，ウォータ）	5H730-2571-0	338・438・445
2	ホース（2，ウォータ）	5H730-2572-0	

[338・438・445]

[Q 仕様]

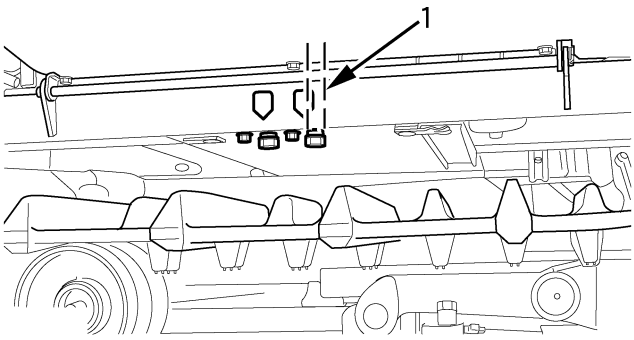


1ARADBEAP584B

図番	品　　名	品　　番	対象型式
1	ホース（1，ウォータ）	5H730-2571-0	Q 仕様
2	ホース（2，ウォータ）	5H736-2572-0	
3	ホース（3，ウォータ）	5H736-2573-0	

[Q 仕様]

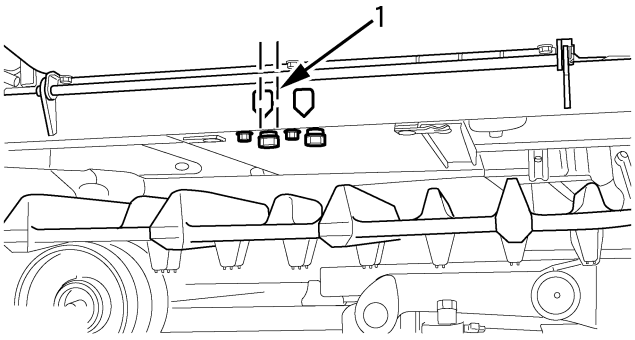
◆ 排水ホース



1ARADBEAP295C

図番	品　　名	品　　番	対象型式
1	チューブ（ハイスイ）	5H700-2574-0	327・331・433
		5H730-2574-0	338・438・445

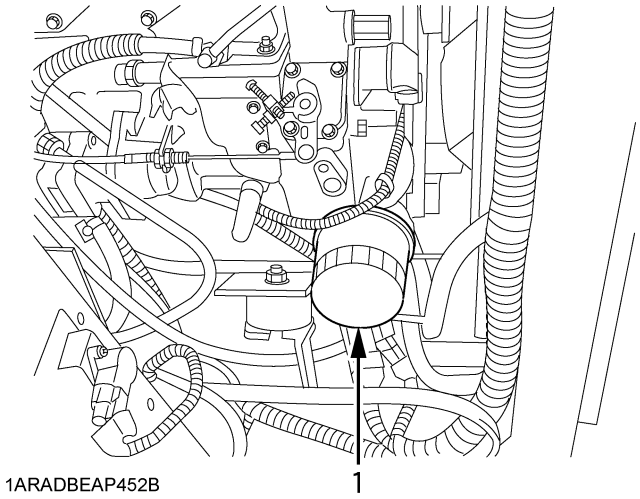
◆ オイルドレーンゴムホース



1ARADBEAP295D

図番	品　　名	品　　番	対象型式
1	チューブ（ハイユ）	52450-2591-0	327・331・433
	オイルドレーンホース	52600-2531-2	338・438・445

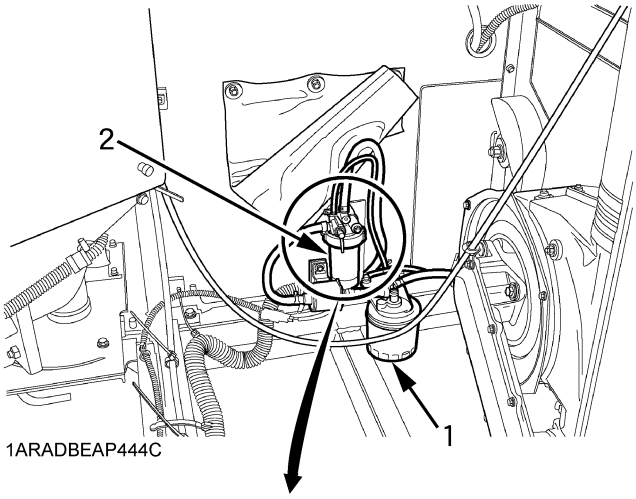
◆ オイルフィルタカートリッジ



1ARADBEAP452B

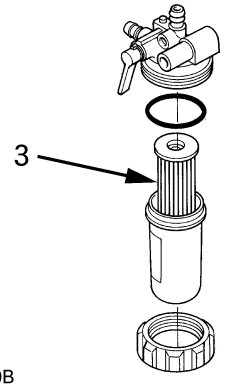
図番	品　　名	品　　番	対象型式
1	オイルフィルタ カートリッジ	16271-3209-2	327・331・433
		16414-3243-2	338・438・445

◆ フューエルパイプ
◆ フューエルフィルタカートリッジ
◆ フューエルフィルタアッシ，フィルタエレメント

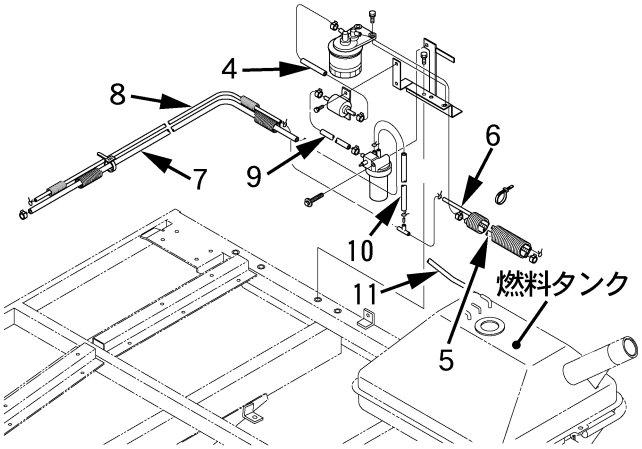


1ARADBEAP444C

[フューエルフィルタアッシ]



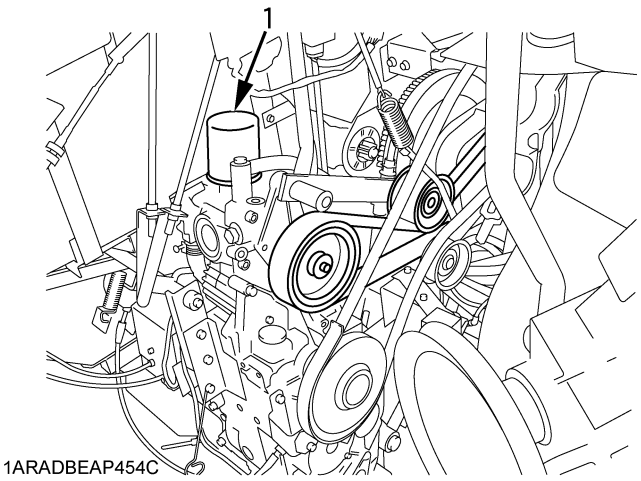
1ARADBEAP450B



1ARADBEAP585B

図番	品　　名	品　　番	対象型式
1	フィルタエレメント	15221-4317-0	全型式
2	フューエルフィルタアッシ	16271-4301-0	
3	エレメントアッシ	16271-4356-0	
4	フューエルチューブ	09661-70200	
5	フューエルチューブ	09661-72800	
6	フューエルチューブ	09661-42400	
7	フューエルチューブ	09661-70625	
8	フューエルチューブ	09661-40575	
9	フューエルチューブ	09661-70070	
10	フューエルチューブ	09661-40350	
11	フューエルチューブ	09661-70900	

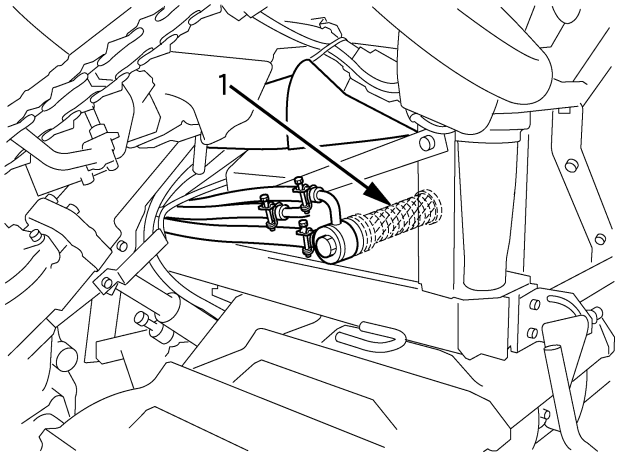
◆ HST オイルフィルタカートリッジ



1ARADBEAP454C

図番	品　　名	品　　番	対象型式
1	フィルタ（オイル）	K7561-1407-0	全型式

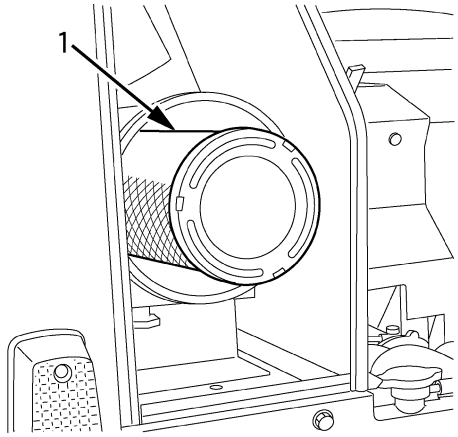
◆ 油圧オイルフィルタカートリッジ



1ARADBEAP453B

図番	品　　名	品　　番	対象型式
1	油圧オイルフィルタ	52600-2765-0	全型式

◆ エアクリーナ

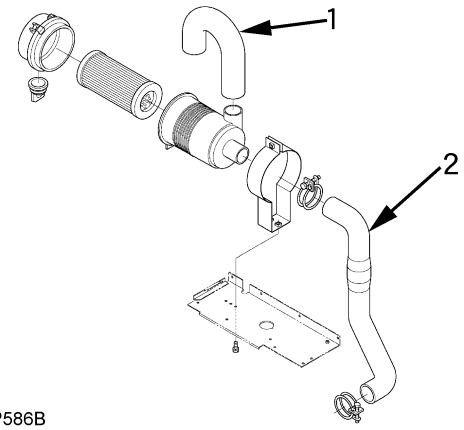


1ARADBEAP316B

図番	品　　名	品　　番	対象型式
1	エアクリーナエレメントアッシ	TO270-1632-0	327・331・433
		RD401-4227-0	338・438・445

◆ インレットパイプ

[327・331・433]

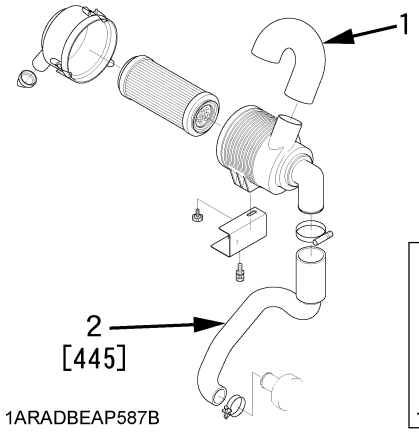


1ARADBEAP586B

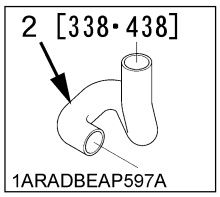
図番	品　　名	品　　番	対象型式
1	ホース（2，インレット）	5H702-2632-0	327・331・433
2	ホース（1，インレット）	5H735-2631-0	

[327・331・433]

[338・438・445]



1ARADBEAP587B

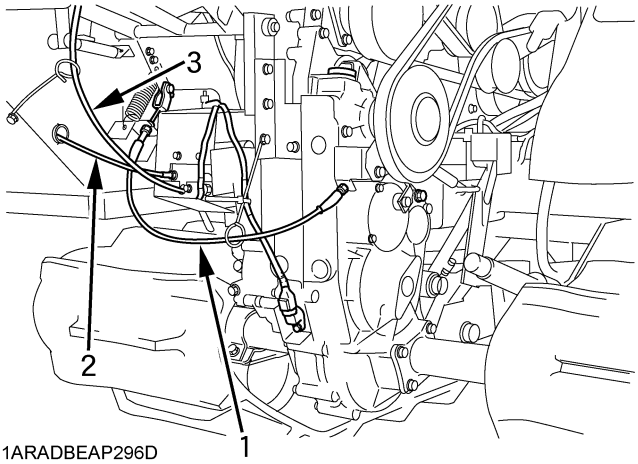


1ARADBEAP597A

図番	品　　名	品　　番	対象型式
1	ホース（2，インレット）	5H730-2632-0	338・438・445
2	ホース（1，インレット）	5H732-2631-0	338・438
		5H730-2631-0	445

[338・438・445]

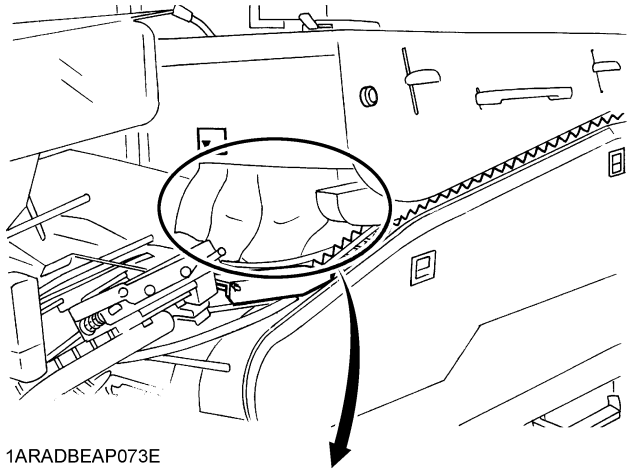
◆ 各ワイヤ



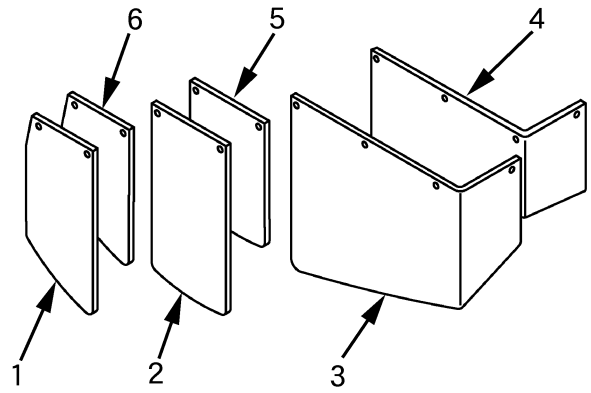
1ARADBEAP296D

図番	品　　名	品　　番	対象型式
1	ワイヤブレーキ	5H700-3218-0	全型式
2	ワイヤ（カキコミ）	5H730-3419-4	
3	ワイヤ（カキコミキセイ）	5H730-3421-2	

◆ フロントハンプ



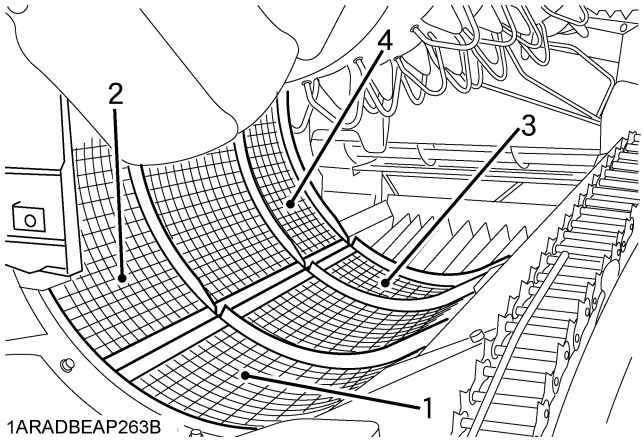
1ARADBEAP073E



1ARADBEAP595A

図番	品　　名	品　　番	対象型式
1	シール （1，入口飛散防止）（上側）	5K200-6115-0	全型式
2	シール （2，入口飛散防止）（上側）	5K200-6116-0	
3	シール （3，入口飛散防止）（上側）	5K200-6117-2	
4	シール （4，入口飛散防止）（下側）	5K210-6115-0	
5	シール （5，入口飛散防止）（下側）	5K210-6116-0	
6	シール （6，入口飛散防止）（下側）	5K210-6117-0	

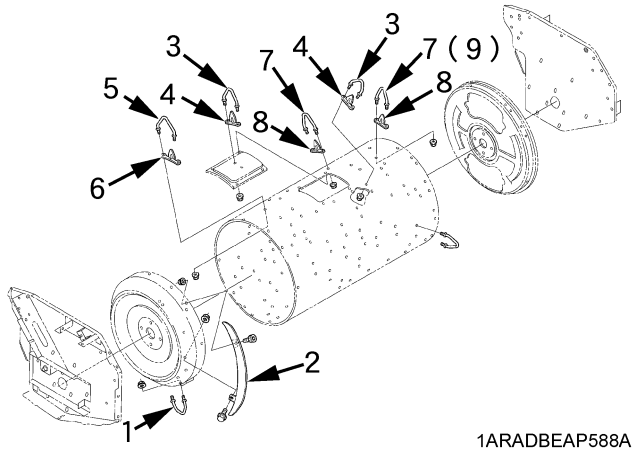
◆ 受あみ



1ARADBEAP263B

図番	品　　名	品　　番	対象型式
1	コンケーブ （1，13 ウチヌキ）	5K215-2111-0	327・ 331・433
	コンケーブ （1，15 ウチヌキ）	5K210-2111-0	338・ 438・445
2	コンケーブ （2，13 ウチヌキ）	5K215-2112-0	327・ 331・433
	コンケーブ （2，15 ウチヌキ）	5K210-2112-2	338・ 438・445
3	コンケーブ （1，17 × 19）	5K200-2113-0	327・ 331・433
4	コンケーブ （2，17 × 19）	5K200-2115-0	

◆ こぎ歯



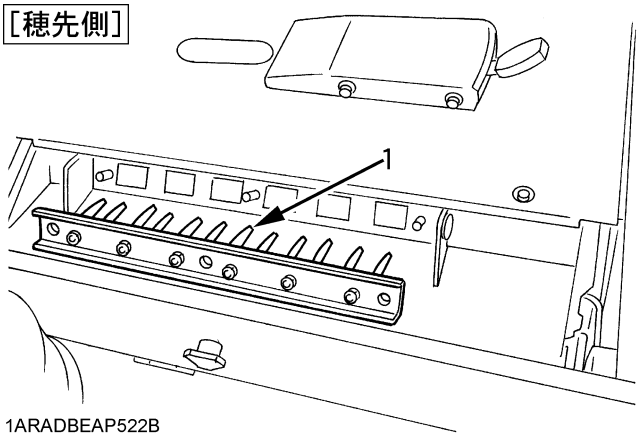
1ARADBEAP588A

図番	品　　名	品　　番	対象型式
1	ダイ１セイソシ	53582-7212-0	全型式
2	イタセイソシ	53961-2257-3	
3	ナミハ	53582-7219-0	
4	イタコキハ	53567-2147-0	
5	ダイ２ホキョウシ	53821-2247-0	
6	イタホキョウシ	53821-2246-0	
7	ナミハ	53821-2248-3	
8	イタコキハ	53821-2249-0	
9	コキハ（ヘンケイ）	5K200-2251-0	445

◆ わら切刃

[327・331・433]

[穂先側]

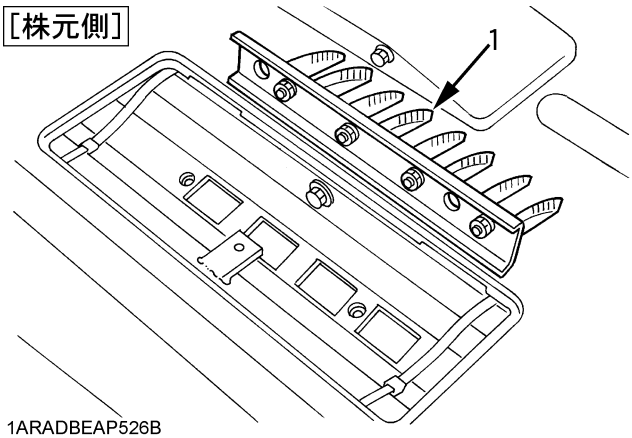


1ARADBEAP522B

[327・331・433]

[331・433]

[株元側]

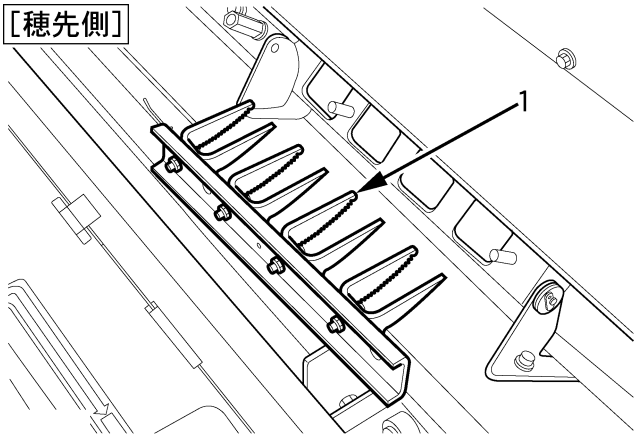


1ARADBEAP526B

[331・433]

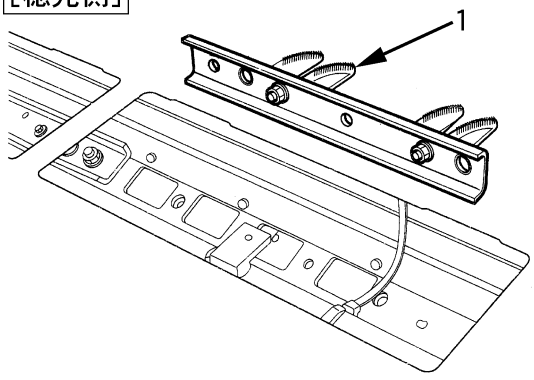
[338・438・445]

[穂先側]



1ARADBEAP523B

[穂先側]



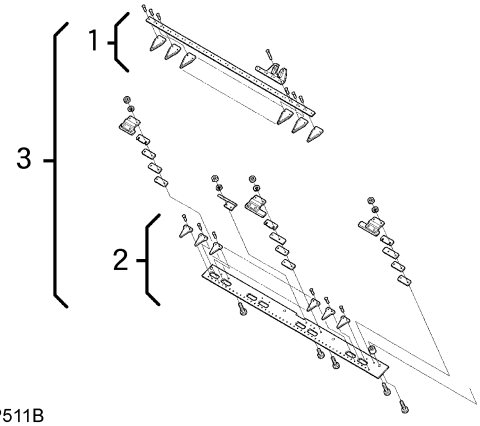
1ARADBEAP528B

[338・438・445]

図番	品　　名	品　　番	対象型式
1	ワラキリハ	5K250-2142-0	全型式

◆ 刈刃

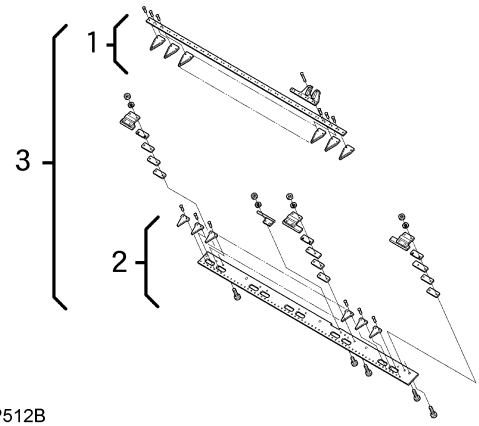
[327・331・433]



1ARADBEAP511B

[327・331・433]

[338・438・445]

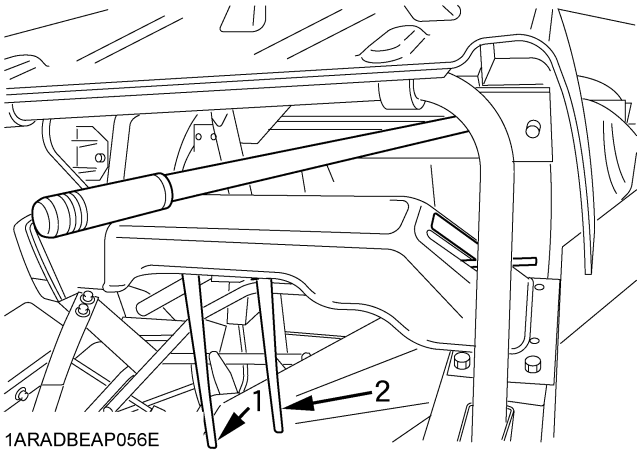


1ARADBEAP512B

[338・438・445]

図番	品　　名	品　　番	対象型式
1	刈刃コンプ	5H702-5920-0	327・331・433
		5H700-5920-0	338・433・445
2	受刃コンプ	5H702-5910-0	327・331・433
		5H700-5910-0	338・433・445
3	刈刃アッシ	5H702-5901-0	327・331・433
		5H700-5901-0	338・433・445

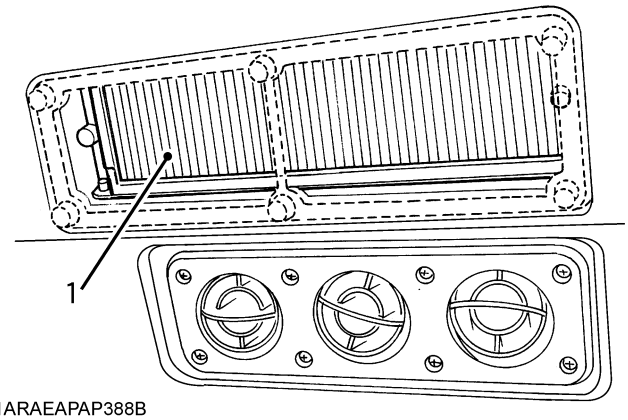
◆ 穂先センサ



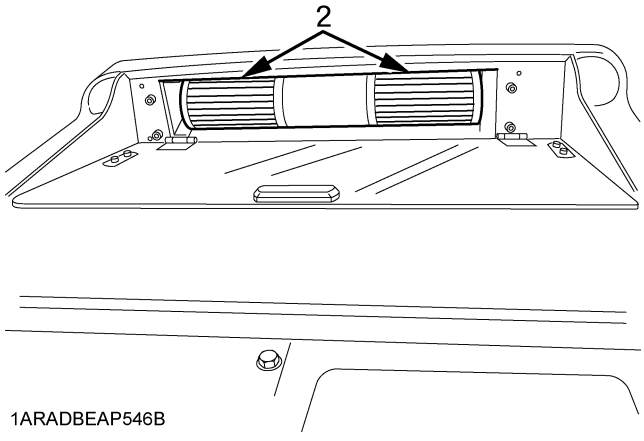
1ARADBEAP056E

図番	品　　名	品　　番	対象型式
1	スイッチ，アッシ（ホサキ，225）	5H700-7560-0	全型式
2	スイッチ，アッシ（ホサキ，190）	5H700-7570-0	

◆ エアコンフィルタ



1ARAEAPAP388B

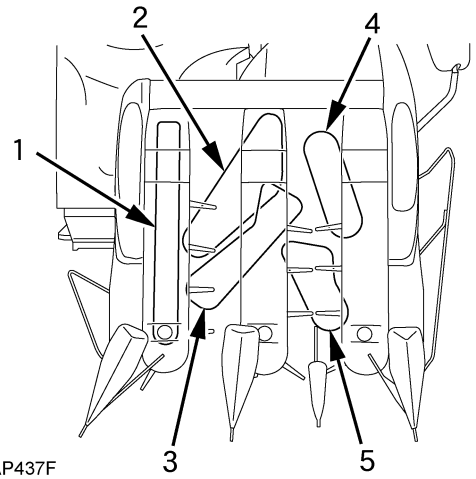


1ARADBEAP546B

図番	品　　名	品　　番	対象型式
1	フィルタ（ウチ，ナイキ）	5H736-3844-0	全型式
2	フィルタ（ガイキ）	5H690-3745-0	

◆ 各チェーン
- **引起しチェーン**
- **右穂先・株元チェーン**
- **左穂先・株元チェーン**

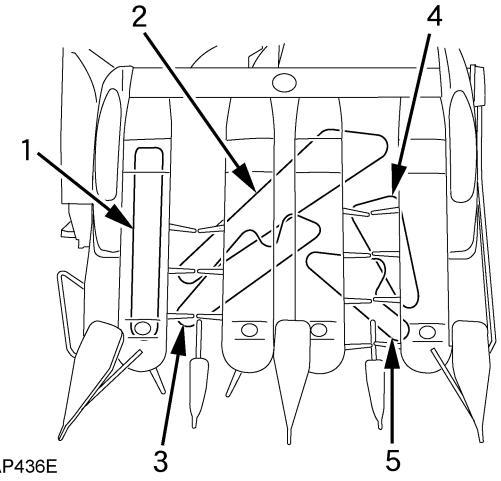
[327・331・338]



1ARADBEAP437F

[327・331・338]

[433・438・445]

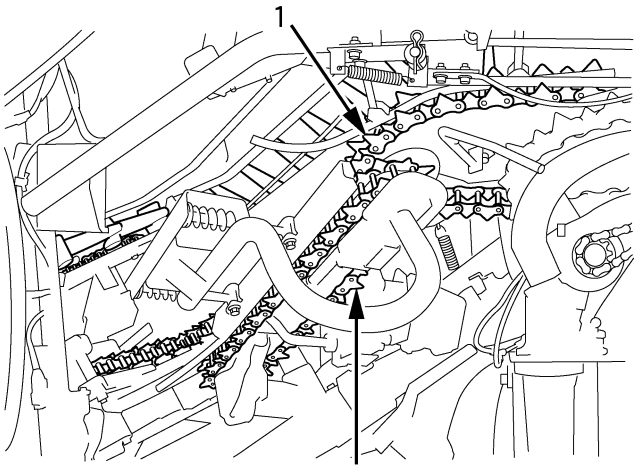


1ARADBEAP436E

[433・438・445]

図番	品　　名	品　　番	対象型式
1	チェーン，爪アッシ (ヒキオコシ)	5H700-5401-0	全型式
2	チェーン，爪アッシ (ホサキ，R)	5H700-6703-0	全型式
3	チェーン，アッシ (57，ミギ)	59900-6360-0	327・ 331・338
	チェーン，アッシ (63，ミギ)	5H700-6360-0	433・ 438・445
4	チェーン，爪アッシ (ホサキ，L)	5H702-6501-0	327・ 331・338
		5H700-6501-0	433・ 438・445
5	チェーン，アッシ (35，ヒダリ)	5H702-6320-0	327・ 331・338
	チェーン，アッシ (42，ヒダリ)	5H700-6320-0	433・ 438・445

● 株元供給チェーン
● こぎ深さチェーン

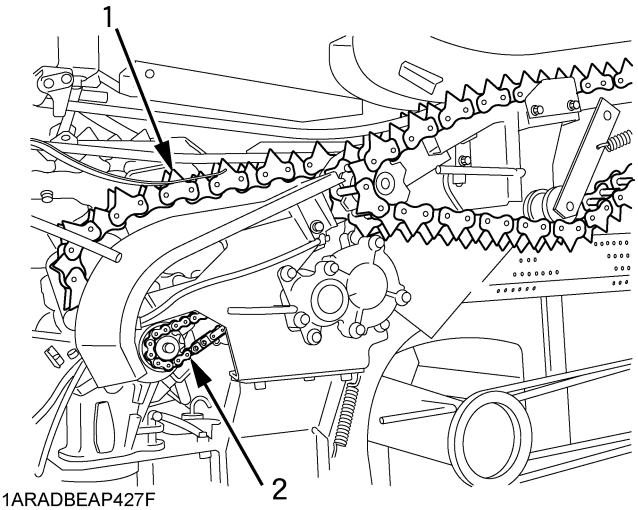


1ARADBEAP419E

※イラストは 445

図番	品　　名	品　　番	対象型式
1	チェーン，アッシ (37，キョウキュウ)	5H702-6610-0	327・ 331・338
	チェーン，アッシ (36，キョウキュウ)	5H700-6610-0	433・ 438・445
2	チェーン，アッシ (44，フカサ)	5H700-7130-0	全型式

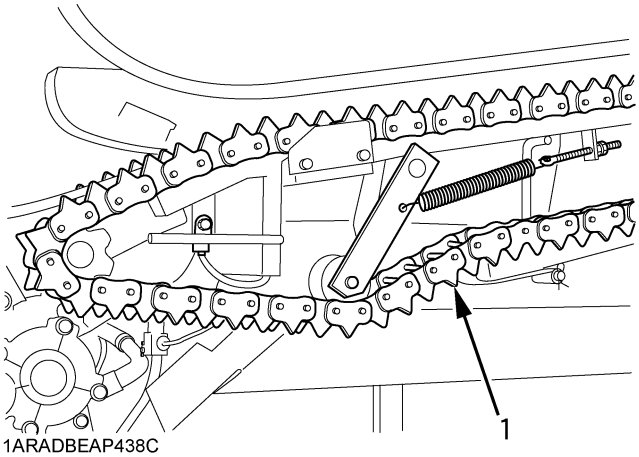
● 供給サポートチェーン
● 供給サポートチェーン駆動チェーン



1ARADBEAP427F

図番	品　　名	品　　番	対象型式
1	チェーン，アッシ (31，サポート)	5H658-6680-0	全型式
2	チェーン，アッシ (サポートクドウ)	5H658-6660-0	

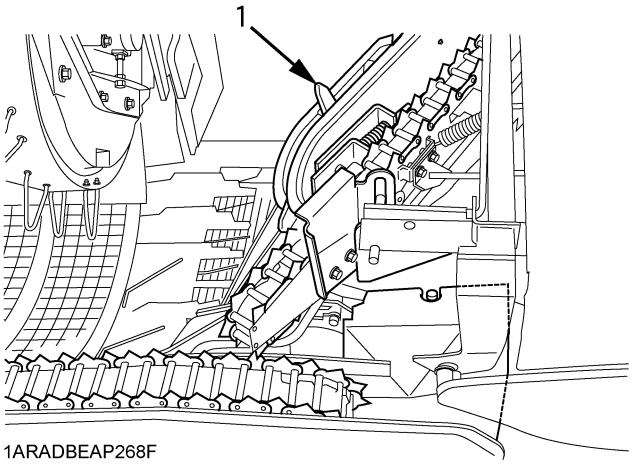
● フィードチェーン



1ARADBEAP438C

図番	品　　名	品　　番	対象型式
1	チェーン (フィード，77L)	5K215-4212-0	327・ 331・433
	チェーン (フィード，89L)	5K210-4212-0	338・ 438・445

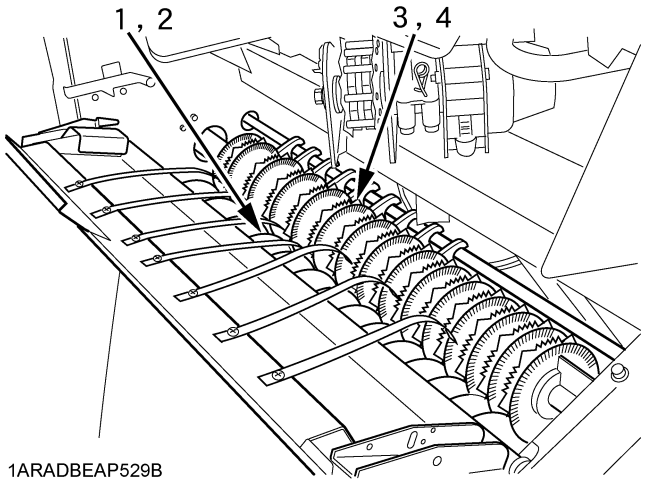
● 排わら穂先・株元チェーン



1ARADBEAP268F

図番	品　　名	品　　番	対象型式
1	チェーン，アッシ (ハイワラホサキ)	5K200-4340-0	全型式
2	チェーン（ハイワラ）	5K200-4311-0	

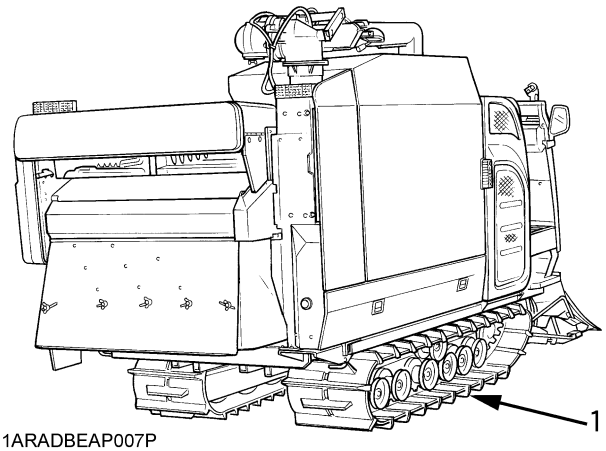
◆ カッタ刃・供給刃



1ARADBEAP529B

図番	品　　名	品　　番	対象型式
1	セツダンバ (170 × 21 セラミック)	57745-5246-0	S-ARN445CH S-ARN338CH
	セツダンバ 170	57781-5261-4	S-ARN338C
	セツダンバ (170 × 21 セラミック)	57748-2121-0	S-ARN433CH S-ARN331CH
	150 セツダンバ	57783-2121-2	S-ARN433CH S-ARN331CH
2	セツダンバ (150 × 21 セラミック)	5F519-2123-0	S-ARN445CH S-ARN338CH
	セツダンバ 150	57782-5244-3	S-ARN338C
	セツダンバ (130 × 17 セラミック)	57748-2122-0	S-ARN433CH S-ARN331CH
	セツダンバ 130	57775-2223-2	S-ARN433C S-ARN331C
3	ロータ(130 × 21, ギヤ)	5F519-2161-0	S-ARN445CH S-ARN338CH S-ARN338C
	130 ギヤロータ	57783-2138-0	全型式
	ロータ (130, ギヤ)	5F517-2139-0	S-ARN433CH S-ARN331CH S-ARN433C S-ARN331C
4	セツダンバ (130, キョウキュウ)	5F519-2171-0	S-ARN445CH S-ARN338CH S-ARN338C
	130 キョウキュウバ	57783-2139-2	S-ARN445CH S-ARN338CH S-ARN338C

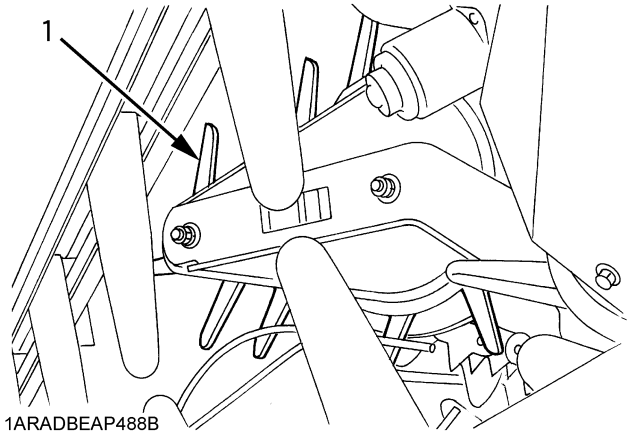
◆ クローラ



1ARADBEAP007P

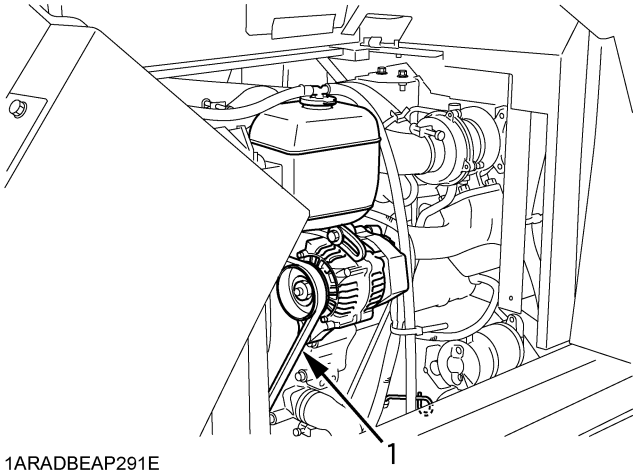
図番	品　　名	品　　番	対象型式
1	クローラ (430 × 44)	5H705-2253-0	327・331 (M 仕様除く)
	クローラ (430 × 46)	5H705-2254-0	327・331 (M, 4M 仕様)
	クローラ (430 × 47)	5H702-2253-0	338 (M 仕様除く)
	クローラ (430 × 48)	5H702-2254-0	338 (M, 4M 仕様)
	クローラ (470 × 44)	5H703-2252-0	433 (M 仕様除く)
	クローラ (470 × 46)	5H703-2251-0	433 (M, 4M 仕様)
	クローラ (470 × 47)	5H700-2251-0	438・445 (M 仕様除く)
	クローラ (470 × 48)	5H700-2252-0	438・445 (M, 4M 仕様)

◆ 突起付ベルト



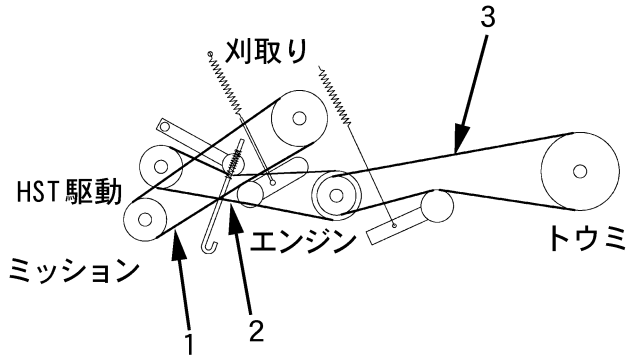
図番	品　　名	品　　番	対象型式
1	ベルト（突起付）	56718-6212-2	全型式

◆ ファン駆動ベルト

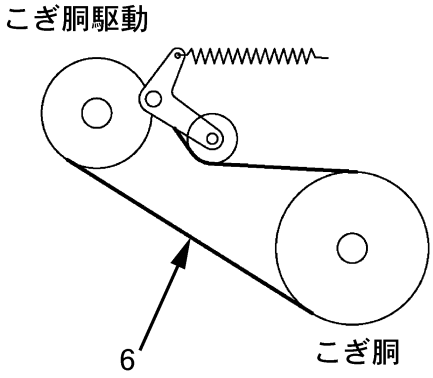


図番	品　　名	品　　番	対象型式
1	コグベルト（38）	16206-9701-2	327・331・433
	ファンベルト（39.5）	1G848-9701-0	338・438・445

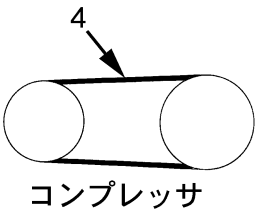
◆ 各ベルト



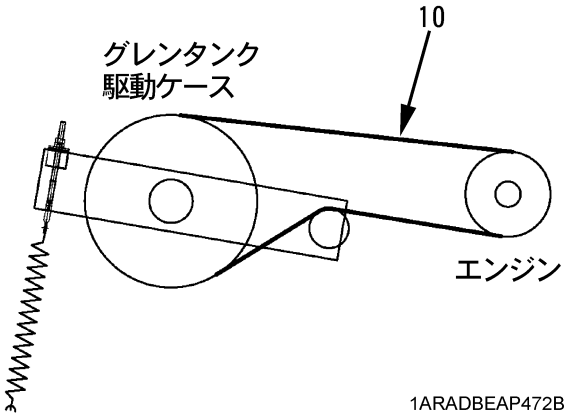
1ARADBEAP466B



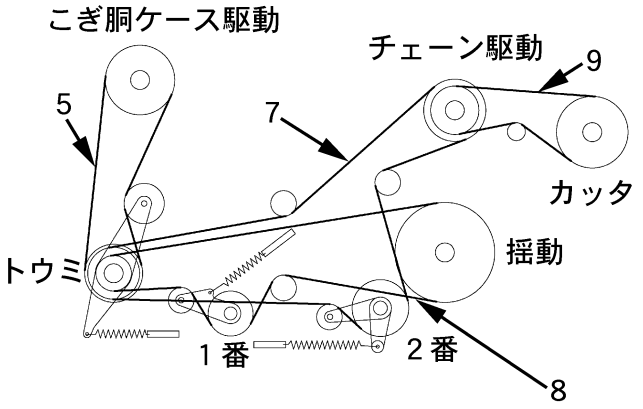
1ARADBEAP471B



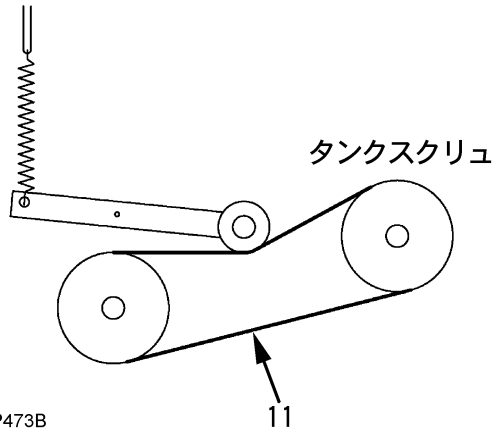
1ARADBEAP469B



1ARADBEAP472B



1ARADBEAP470B



1ARADBEAP473B

付表

品番	名称	品名	品番	対象型式
1	刈取駆動ベルト	Ｖベルト（B61）	5H700-1165-0	327・331・433
		Ｖベルト（B62）	5H730-1165-0	338・438・445
2	ミッション駆動ベルト	Ｖベルト（B53）	5H735-1161-0	327
		Ｖベルト（B54）	5H700-1161-0	331・338・445
		Ｖベルト（B52）	5H731-1161-0	433・438
3	脱こく駆動ベルト	Ｖベルト（C60）	5H733-1164-0	327・331・433
		Ｖベルト（B61）	5H730-1164-0	338・438・445
4	コンプレッサ駆動ベルト	Ｖベルト（A39）	59819-3627-0	338・438・445　Ｑ仕様
5	こぎ胴ケース駆動ベルト	Ｖベルト（C87）	5K200-9332-0	327・331・433
		Ｖベルト（C88）	5K200-1581-0	338・438
		Ｖベルト（B88）	5K210-1581-0	445
6	こぎ胴駆動ベルト	Ｖベルト（B55）	53681-1588-0	327・331・433
		Ｖベルト（C55）	5K200-1588-0	338・438・445
7	２番・チェーン駆動ベルト	Ｖベルト（B125）	5K200-2592-0	327・331・433
		Ｖベルト（B141）	5K200-2591-0	338・438・445
8	揺動・１番駆動ベルト	Ｖベルト（B109）	5K205-2592-0	327・331・433
		Ｖベルト（B125）	5K200-2592-0	338・438・445
9	カッタ駆動ベルト	Ｖベルト（B54）	5F619-3131-0	全型式
10	タンク駆動ケース駆動ベルト	Ｖベルト（B64）	5H700-1211-0	全型式
11	スクリュ駆動ベルト	Ｖベルト（B47）	5H700-1213-0	全型式

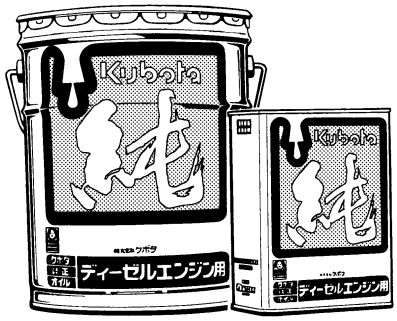
クボタ純オイル

■オイルはクボタ純オイルをお使いください。

オイルは，コンバインの開発研究から生まれたクボタ純オイルを，必ずお使いください。
市販のオイルをご使用になりますと，あなたの大切なコンバインの寿命を縮めることがあります。

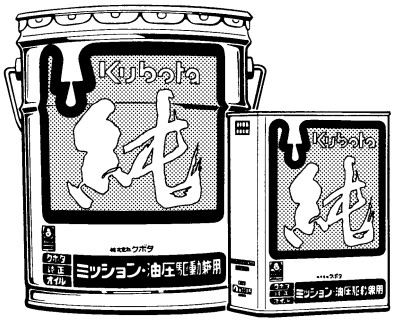
お買求めは，購入先へご用命ください。

- **D30 又は D10W30（ディーゼルエンジン用）**
  D10W30 スーパー CD 又は D30 スーパー CD
  （ターボ付きエンジン）



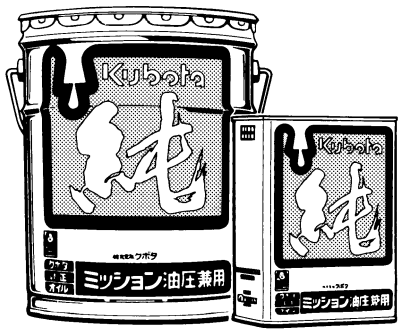
1ARADAFAP393A

- **NEW，UDT 又はスーパー UDT**
  （油圧駆動・ミッション油圧・各ギヤ兼用）



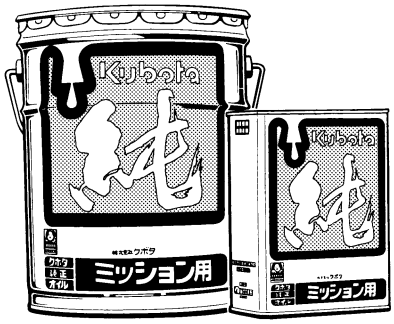
1ARADAFAP394A

- **M80B（ミッション油圧兼用）**



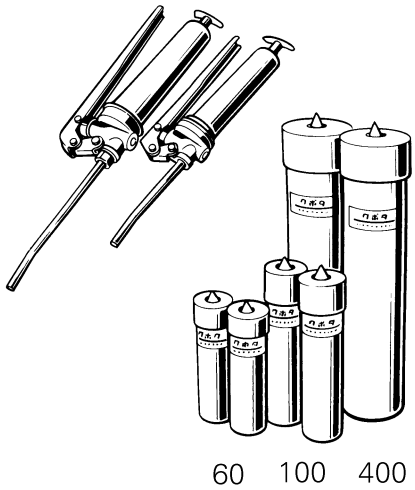
1ARADAFAP395A

- **M90（一般ミッション・各ギヤ用）**



1ARADAFAP396A

■クボタスペアグリース



1ARADAFAP397A

修理・取扱い・手入れなどでご不明の点は まず，購入先へ ご相談ください

おぼえのため，記入されると便利です

購入先名 **担当**		**電話（ ） ー**
ご購入日	**型式名**	**区分**
車台番号（製造番号）	**エンジン型式**	**エンジン番号**

万一ご購入先でご不明の点がございましたら，下記にお問合わせください。

クボタ機械サービス株式会社

北海道営業技術推進部：電(011)662-2121	〒063-0061	札幌市西区西町北16丁目１番１号
秋田営業技術推進部：電(018)845-1644	〒011-0901	秋田市寺内字大小路207-54
仙台営業技術推進部：電(022)384-5162	〒981-1221	名取市田高字原182番地の１
東京営業技術推進部：電(048)862-1588	〒338-0832	さいたま市桜区西堀５丁目２番36号
新潟営業技術推進部：電(025)285-1263	〒950-0992	新潟市上所上１丁目14番15号
金沢営業技術推進部：電(076)275-1121	〒924-0038	松任市下柏野町956-１
名古屋営業技術推進部：電(0586)24-5111	〒491-0031	一宮市観音町１番地の１
大阪営業技術推進部：電(06)6470-5860	〒661-8567	尼崎市浜１丁目１番１号
岡山営業技術推進部：電(086)279-4511	〒703-8216	岡山市宍甘275番地
米子営業技術推進部：電(0859)33-5011	〒683-0804	米子市米原７丁目１番１号
株式会社四国クボタ 営業技術課：電(087)874-8500	〒769-0102	香川県綾歌郡国分寺町国分字向647-３
福岡営業技術推進部：電(092)606-3725	〒811-0213	福岡市東区和白丘１丁目７番３号
熊本営業技術推進部：電(096)357-6181	〒861-4147	熊本県下益城郡富合町大字廻江846-１
本社営業技術部：電(072)241-8092	〒590-0823	堺市石津北町64番地

株式会社クボタ

機械札幌事務所：電(011)662-2121	〒063-0061	札幌市西区西町北16丁目１番１号
機械東日本事務所：電(048)862-1121	〒338-0832	さいたま市桜区西堀５丁目２番36号
機械西日本事務所：電(06)6470-5970	〒661-8567	尼崎市浜１丁目１番１号
機械福岡事務所：電(092)606-3161	〒811-0213	福岡市東区和白丘１丁目７番３号

ARN327/331/338/433/438/445
AI. K. 1-1. 0. K

Kubota

安全宣言

安全はクボタの願い

このマークは「お客様」「ディーラ」「クボタ」の三者が
一体となって安全宣言を行うための統一マークです。

株式会社クボタ
〒556-8601
大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号
TEL.06-6648-2111
FAX.06-6648-3862

品番　5H730-8511-1